

千葉市平和公園遺跡群Ⅱ

うならすず遺跡

2004

千葉市教育委員会
財団法人 千葉市教育振興財団

例　　言

- 1、本書は千葉市若葉区多部田町地内に所在する、うならすず遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査は平和公園整備事業に伴うもので、平成13年度までは（財）千葉市文化財調査協会が実施し、平成14年度以降は（財）千葉市教育振興財団埋蔵文化財調査センターが継続実施している。多部田貝塚・貝殻塚遺跡・ムグリ遺跡については、『千葉市平和公園遺跡群Ⅰ』として平成14年度に刊行している。
- 2、発掘調査の期間・面積・担当者は次の通りである。

平成2年1月8日～平成2年3月27日	確認調査	対象	395m ² /8,800m ²	村田六郎太
平成2年5月1日～平成3年3月30日	本調査	対象	25,000m ²	飛田正美
平成3年11月8日～平成3年3月31日	本調査	対象	4,550m ²	飛田正美
平成5年4月1日～平成6年3月31日	本調査	対象	600m ²	白根義久・鶴岡英一
平成7年4月1日～平成8年3月29日	本調査	対象	2,000m ²	山下亮介
- 3、整理作業は、平成14年4月1日～平成15年3月31日に、多部田貝塚・貝殻塚遺跡・ムグリ遺跡の整理と並行して図面整理、遺構出土遺物の接合・実測等を、田中英世・中山貴正が担当して行い、平成15年4月1日～平成16年3月31日に、グリッド遺物の接合・実測、遺構・遺物のトレース、図版作成、原稿執筆等を、田中・古谷涉が担当して行った。なお、本書の第1章、第2章第2節・第5節～第8節を田中が、第2章第1節・第3節・第4節を古谷が執筆した。
- 4、遺跡出土の炭化材等は（株）パレオ・ラボに、人骨は松村博文氏（札幌医科大学）に、動物遺存体は植月学氏（東京芸術大学）に分析委託し、玉稿を頂いた。なお、動物遺存体の分類等については高橋明子氏（明治大学OG）の補助があった。
- 5、遺構の写真撮影は発掘調査担当者が行い、航空写真撮影は沢本吉則写真事務所に委託した。
- 6、遺物の写真撮影は青柳すみ江が行った。
- 7、石器の石材鑑定は、旧石器時代・古代・中近世及び縄文時代遺構出土石器と剥片石器については築瀬裕一氏（千葉市立加曾利貝塚博物館）より指導・助言を頂き、縄文時代調査区出土石器については中村理科工業会社製「岩石標本」により田中が行った。
- 8、古代銅鏡については岡田茂弘氏（元国立歴史民俗博物館・現東北歴史博物館館長）にご教授頂いた。
- 9、出土資料及び調査記録等は千葉市埋蔵文化財調査センターで保管・管理している。
- 10、発掘調査から報告書刊行に至るまで下記の諸機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。記して謝意を表する。

千葉県教育庁文化財課 千葉市教育委員会文化課 千葉市保健福祉局斎園建設室・平和公園管理事務所 千葉市立加曾利貝塚博物館 （財）市原市文化財センター （株）パレオ・ラボ 植月学 太田文雄 岡田茂弘 高橋明子 松村博文 阿部芳郎 加納実 小林信一 佐原眞 庄司克 建石徹 鶴岡英一 樋泉岳二 西野雅人 新田浩三 春成秀爾 築瀬裕一 山路直充 渡辺修一

凡　　例

- 1、本書で掲載した遺構図等の方位は座標北である。公共座標の基準は、日本旧測地系に基づいている。標高については、海拔高で表示した。
- 2、本書での遺構表示は、基本的に発掘調査時の番号を踏襲し、竪穴住居跡「A」、掘立柱建物跡「B」、

方形周溝「H」、土壤「C」、道路跡「D」、溝跡「M」で表示した。

3、各遺構の調査区内における位置は、小グリッドを基本として表示している。複数グリッドにかかる場合は、面積を最も多く占めているグリッドを表示している。

4、遺構・遺物実測図の縮尺は基本的に下記の通りとし、図中にスケールで表示した。

竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土壤 1/60 炉・竈 1/30 方形周溝 1/40 古墳 1/100 主体部 1/40
溝跡 1/80 復元土器・大形土器片 1/4 土器片・土製品 1/3 剥片石器 2/3 石斧 1/3 石皿・石棒 1/4 磨石・敲石 1/3 or 1/4 瓦 1/4 鉄器・銭 1/2 粘土片 1/2

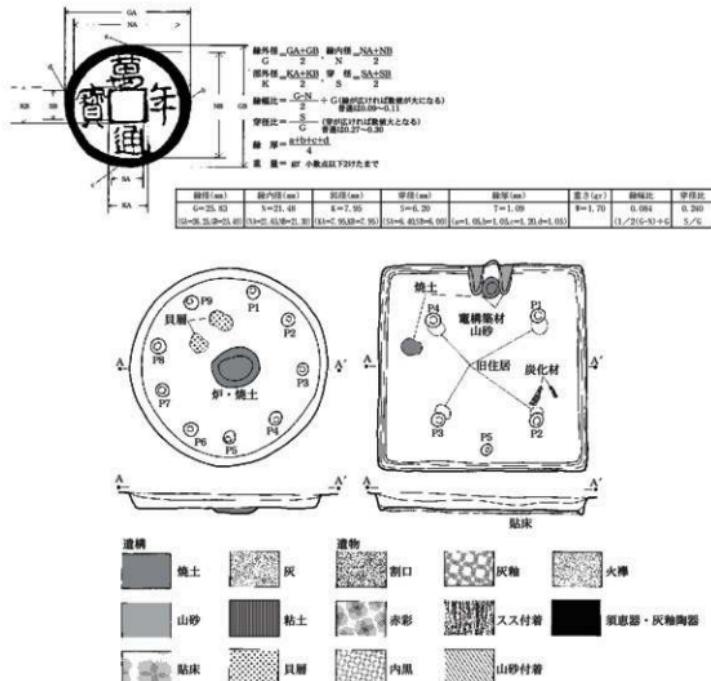
5、各遺構の土層は記号化しており、「R」はローム粒、「RB」はロームブロック、「T」は炭化物、「S」は焼土、「N」は粘土、「Y」は山砂を表し、含有量は「◎」は多い、「○」は普通、「△」は少ない、空欄は含まないことを意味する。なお、その他の含有物や、各層の特性（例えば炉・焼土や竪構築材など）は備考に表示した。

6、遺物観察表の数値で、()は復元推定値を、数字の後に続く+は残存する長さを表示している。

7、遺物実測図中の口縁部を結ぶ線が一部空白になっているものは、復元実測を行っているもので、遺物観察表の法量の口径が()復元推定値になっているものと一致する。

8、写真図版の遺物スケールは縮尺不同である。

9、古代錢貨の法量及び、遺構・遺物実測図におけるスクリーントーンの表示内容は下記の通りである。



目 次

例 言

凡 例

第1章 平和公園遺跡群の概要

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の立地と周辺の遺跡	1
第3節 調査の方法	4

第2章 遺構と遺物

第1節 旧石器時代	5
第2節 繩文時代の遺構と遺物	27
第3節 古代の遺構と遺物	105
第4節 中近世溝跡・道路跡	185
第5節 土壌	189
第6節 調査区遺物集中区と調査区出土の繩文時代の遺物	242
第7節 平和公園遺跡群の過去の調査成果	265
第8節 まとめ	281

第3章 自然科学分析

第1節 土器胎土の材料分析	284
第2節 炭化種実	292
第3節 放射性炭素年代測定	294
第4節 A-061号住居跡出土炭化材の樹種同定	296
第5節 埋甕・土壤内土壤のP・Ca分析	299
第6節 貝層サンプルの分析	300
第7節 人骨について	312

図 版 目 次

第1図 周辺遺跡分布図.....	1	第49図 A-083～085.....	63
第2図 碓群位置図.....	7	第50図 A-002・007①出土遺物.....	64
第3図 1号礎群器種別分布図.....	10	第51図 A-007②・010①出土遺物.....	65
第4図 1号礎群石材別分布図.....	11	第52図 A-010②出土遺物.....	66
第5図 2号礎群器種別分布図.....	12	第53図 A-010③・014①出土遺物.....	67
第6図 2号礎群石材別分布図.....	13	第54図 A-014②・015①出土遺物.....	68
第7図 3号礎群器種別分布図.....	14	第55図 A-015②・016①出土遺物.....	69
第8図 3号礎群石材別分布図.....	15	第56図 A-017・019①出土遺物.....	70
第9図 碓群出土石器①1号.....	16	第57図 A-019②・020①出土遺物.....	71
第10図 碓群出土石器②1・2号.....	17	第58図 A-020②・021出土遺物.....	72
第11図 碓群出土石器③2・3号.....	18	第59図 A-023①出土遺物.....	73
第12図 碓群出土石器④3号.....	19	第60図 A-023②出土遺物.....	74
第13図 調査区出土石器.....	26	第61図 A-023③・024・025出土遺物.....	75
第14図 貝層住居跡・貝層土壙構造配置図.....	28	第62図 A-026・027①出土遺物.....	76
第15図 繩文時代住居跡構造配置図.....	29	第63図 A-027②・028出土遺物.....	77
第16図 A-002.....	32	第64図 A-029・030①出土遺物.....	78
第17図 A-007.....	33	第65図 A-030②・031出土遺物.....	79
第18図 A-010.....	34	第66図 A-033・034①出土遺物.....	80
第19図 A-014・015.....	35	第67図 A-034②・035出土遺物.....	81
第20図 A-016・017.....	36	第68図 A-037①出土遺物.....	82
第21図 A-019.....	37	第69図 A-037②出土遺物.....	83
第22図 A-020・021.....	38	第70図 A-037③・038出土遺物.....	84
第23図 A-023.....	39	第71図 A-038・040出土遺物.....	85
第24図 A-024・025.....	40	第72図 A-043・044・045・046・049①出土遺物.....	86
第25図 A-026・027.....	41	第73図 A-049②・054①出土遺物.....	87
第26図 A-028・029.....	42	第74図 A-054②・055・057①出土遺物.....	88
第27図 A-030・031.....	43	第75図 A-057②・058①出土遺物.....	89
第28図 A-033.....	44	第76図 A-058②・059・060①出土遺物.....	90
第29図 A-034・035.....	45	第77図 A-060②・062・063①出土遺物.....	91
第30図 A-037・038.....	46	第78図 A-063②・064①出土遺物.....	92
第31図 A-039・040.....	47	第79図 A-064②・065①出土遺物.....	93
第32図 A-043・044.....	48	第80図 A-065②出土遺物.....	94
第33図 A-045・046.....	49	第81図 A-065③・066出土遺物.....	95
第34図 A-049・054.....	50	第82図 A-067・068・069・070出土遺物.....	96
第35図 A-055・057・058.....	51	第83図 A-071・074・075・076・078①出土遺物.....	97
第36図 A-059・060.....	52	第84図 A-078②出土遺物.....	98
第37図 A-062・070～072.....	53	第85図 A-079出土遺物.....	99
第38図 A-063・067・074.....	54	第86図 A-080・081①出土遺物.....	100
第39図 A-064～066・068・069・073①.....	55	第87図 A-081②・082出土遺物.....	101
第40図 A-064～066・068・069・073②.....	56	第88図 A-083①出土遺物.....	102
第41図 A-064～066・068・069・073柱穴配置図.....	57	第89図 A-083②・084・085①出土遺物.....	103
第42図 A-075.....	57	第90図 A-085②出土遺物.....	104
第43図 A-076.....	58	第91図 古代遺構配置図.....	107
第44図 A-078.....	59	第92図 A-001.....	109
第45図 A-079・080a,b.....	60	第93図 A-003.....	110
第46図 A-081.....	61	第94図 A-004①.....	111
第47図 A-078・081柱穴配置図.....	62	第95図 A-004②.....	112
第48図 A-082.....	62	第96図 A-005.....	113

第97図	A-008・009	114	第148図	調査区出土遺物①	166
第98図	A-011	115	第149図	調査区出土遺物②	167
第99図	A-012	116	第150図	中近世溝跡・道路跡遺構配置図	186
第100図	A-018	117	第151図	中近世溝跡・道路跡遺構配置図	187
第101図	A-032	118	第152図	土壤・葛塗遺構配置図	193
第102図	A-041①	119	第153図	C-002~008・010~012	195
第103図	A-041②	120	第154図	C-009・013~019・021・022	196
第104図	A-042	121	第155図	C-023・024・026~035	197
第105図	A-047	122	第156図	C-036~038・040~043・045~048	198
第106図	A-048①	123	第157図	C-049~051・053~061	199
第107図	A-048②	124	第158図	C-062~074	200
第108図	A-050	125	第159図	C-076~088	201
第109図	A-051	126	第160図	C-089~102・107	202
第110図	A-053	127	第161図	C-103~106・108~121	203
第111図	A-061①	128	第162図	C-122~138	204
第112図	A-061②	129	第163図	C-139~146	205
第113図	A-077	130	第164図	C-147~159	206
第114図	A-086	131	第165図	C-160~171	207
第115図	B-001・002及び出土遺物	133	第166図	C-172~185	208
第116図	B-003・004及び出土遺物	134	第167図	C-186~196・198	209
第117図	B-005・006・ビット群	135	第168図	C-197・199~206	210
第118図	M-001部分鉢大図	136	第169図	C-207~215	211
第119図	H-001及び出土遺物	137	第170図	C-216~221・223~229	212
第120図	H-002及び出土遺物	138	第171図	C-230~238a・b	213
第121図	A-001出土遺物	140	第172図	C-239~249・251~254・290	214
第122図	A-003出土遺物	141	第173図	C-255~264	215
第123図	A-004出土遺物①	142	第174図	C-265・266・268~270・280~286	216
第124図	A-004出土遺物②	143	第175図	C-287~289・291~299	217
第125図	A-004出土遺物③	144	第176図	C-300~314	218
第126図	A-004出土遺物④	145	第177図	C-315・316・401~412	219
第127図	A-005・008・009出土遺物	146	第178図	土壤群(C-414~418)	220
第128図	A-011出土遺物	147	第179図	土壤類型図	220
第129図	A-012出土遺物	148	第180図	土壤出土遺物①	221
第130図	A-018・032出土遺物	149	第181図	土壤出土遺物②	222
第131図	A-041出土遺物①	150	第182図	土壤出土遺物③	223
第132図	A-041出土遺物②	151	第183図	土壤出土遺物④	224
第133図	A-042出土遺物	152	第184図	土壤出土遺物⑤	225
第134図	A-047出土遺物	153	第185図	土壤出土遺物⑥	226
第135図	A-048出土遺物①	154	第186図	土壤出土遺物⑦	227
第136図	A-048出土遺物②	155	第187図	土壤出土遺物⑧	228
第137図	A-048③・050出土遺物	156	第188図	土壤出土遺物⑨	229
第138図	A-051・053①出土遺物	157	第189図	土壤出土遺物⑩	230
第139図	A-053②・061出土遺物	158	第190図	土壤出土遺物⑪	231
第140図	A-077出土遺物	159	第191図	土壤出土遺物⑫	232
第141図	A-086出土遺物	160	第192図	土壤出土遺物⑬	233
第142図	M-001出土遺物①	161	第193図	土壤出土遺物⑭	234
第143図	M-001出土遺物②	162	第194図	土壤出土遺物⑮	235
第144図	M-001出土遺物③	163	第195図	土壤出土遺物⑯	236
第145図	M-001出土遺物④	164	第196図	土壤出土遺物⑰	237
第146図	M-001出土遺物⑤	165	第197図	土壤出土遺物⑱	238
第147図	M-001出土遺物⑥	166	第198図	土壤出土遺物⑲	239

第199図	土壤出土遺物⑨	240
第200図	土壤出土遺物⑩	241
第201図	第1遺物集中区出土遺物	243
第202図	第1遺物集中区出土遺物①	243
第203図	第1遺物集中区出土遺物②	244
第204図	第1遺物集中区出土遺物③	245
第205図	第1遺物集中区出土遺物④	246
第206図	第2遺物集中区出土遺物①	247
第207図	第2遺物集中区出土遺物②	248
第208図	第2遺物集中区出土遺物③	249
第209図	第3遺物集中区出土遺物①	251
第210図	第3遺物集中区出土遺物②	252
第211図	調査区出土遺物①	253
第212図	調査区出土遺物②	254
第213図	調査区出土遺物③	255
第214図	調査区出土遺物④	256
第215図	調査区出土遺物⑤	257
第216図	調査区出土遺物⑥	258
第217図	調査区出土遺物⑦	259
第218図	調査区出土遺物⑧	260
第219図	調査区出土遺物⑨	261
第220図	過去の調査区構配図	266
第221図	C地点調査区及び出土遺物	267
第222図	D・E地点調査区及び出土遺物	268
第223図	F地点調査区及び出土遺物	269
第224図	G・H地点調査区及びG地点出土遺物	270
第225図	H地点出土遺物	271
第226図	I地点調査区及び出土遺物	272
第227図	J地点調査区	273
第228図	内野9号墳墳丘	274
第229図	内野9号墳主体部	275
第230図	内野9号墳主体部出土遺物及び A-001出土遺物	276
第231図	A-002出土遺物	277
第232図	A-003出土遺物	278
第233図	C-001・002・003	279
第234図	表採遺物実測図(加曾利貝塚博物館蔵)	280
第235図	粒子組成図	290
第236図	同定資料出土状況	298
第237図	貝類組成	305
第238図	ハマグリ殻長分布①	306
第239図	ハマグリ殻長分布②	307

附図 1 調査区と周辺地形図

附図 2 うならすず遺跡構配図

表 目 次

第1表 うならすず遺跡周辺遺跡	2	第50表 中近世溝跡・道路跡出土遺物計測表	186
第2表 石器組成表	6	第51表 土壌計測表①	190
第3表 瓦群出土石器群計測表	9	第52表 土壌計測表②	191
第4表 1号瓦群完形度別組成表	10	第53表 土壌計測表③	192
第5表 1号瓦群種別組成表	11	第54表 土壤出土土製品計測表	237
第6表 2号瓦群完形度別組成表	12	第55表 土壤出土石器計測表	240
第7表 2号瓦群種別組成表	13	第56表 古代・中近世土壤出土遺物計測表	240
第8表 3号瓦群完形度別組成表	14	第57表 第1遺物集中区石器・土製品計測表	242
第9表 完形度別組成表(合計)	14	第58表 第2遺物集中区石器・土製品計測表	246
第10表 3号瓦群種別組成表	15	第59表 第3遺物集中区石器・土製品計測表	250
第11表 瓦種別組成表(合計)	15	第60表 調査区出土土製品計測表	261
第12表 瓦群構成様の赤化・黒色付着物状況	19	第61表 調査区出土石器計測表①	262
第13表 瓦群構成確定形別重量表	19	第62表 調査区出土石器計測表②	263
第14表 瓦群構成確率計測表①	20	第63表 調査区出土石器計測表③	264
第15表 瓦群構成確率計測表②	21	第64表 調査区出土石器計測表④	264
第16表 瓦群構成確率計測表③	22	第65表 過去の調査区出土遺物計測表	271
第17表 瓦群構成確率計測表④	23	第66表 過去の調査区検出遭跡計測表	279
第18表 瓦群構成確率接合個体一覧表	25	第67表 石器計測表	
第19表 調査区出土石器群計測表	25	(加曾利貝塚博物館収蔵資料・その他)	280
第20表 縄文時代住居一覧表	31	千葉県内における大型石棒出土遺跡	
第21表 縄文時代住居跡出土土器計測表	104	(縄文中期・後期前半)	283
第22表 縄文時代住居跡出土土製品計測表	104	出土土器の詳細とその特徴	290
第23表 古代住居跡計測表	106	土器胎土中の粒子組成一覧	291
第24表 挖立柱建物跡・ピット群計測表	129	出土土器の結土および砂粒の特徴	291
第25表 溝跡計測表	132	岩石とその組み合わせ	291
第26表 方形周溝計測表	137	出土炭化種実一覧表	294
第27表 住居跡出土遺物計測表①	168	第73表 放射性炭素年代測定および	
第28表 住居跡出土遺物計測表②	169	層年代較正の結果	295
第29表 住居跡出土遺物計測表③	170	第74表 A-061号住居跡出土炭化材の樹種	296
第30表 住居跡出土遺物計測表④	171	第75表 埋甕・土壤内土壌の化学組成	299
第31表 住居跡出土遺物計測表⑤	172	うならすず遺跡出土貝類一覧表	301
第32表 住居跡出土遺物計測表⑥	173	第76表 Aサンプルの貝類遺体(4・2・1mm)	308
第33表 住居跡出土遺物計測表⑦	174	第77表 A・Bサンプルの貝類遺体(4mm)	309
第34表 住居跡出土遺物計測表⑧	175	第78表 A・Bサンプルの重量組成(4mm)	310
第35表 住居跡出土遺物計測表⑨	176	第79表 ハマグリ殻長・殻高計測結果	311
第36表 住居跡出土遺物計測表⑩	177		
第37表 住居跡出土遺物計測表⑪	178		
第38表 挖立柱建物跡出土遺物計測表	178		
第39表 1号溝跡出土遺物計測表①	179		
第40表 1号溝跡出土遺物計測表②	180		
第41表 1号溝跡出土遺物計測表③	181		
第42表 方形周溝出土遺物計測表	181		
第43表 調査区出土遺物計測表①	181		
第44表 調査区出土遺物計測表②	182		
第45表 出土文字一覧表	183		
第46表 千葉市周辺出土文字一覧表	184		
第47表 中近世ウマ同定結果	185		
第48表 中近世溝跡・道路跡計測表	186		
第49表 中近世溝跡・道路跡遭跡番号対照表	186		

写 真 図 版 目 次

- 写真図版1 平和公園遺跡群・うならすず遺跡
写真図版2 うならすず遺跡・多部田貝塚
写真図版3 貝殻塚遺跡・ムグリ遺跡
写真図版4 平成2・3年度調査前状況・1号礫群
写真図版5 1号・2号・3号礫群・A-002・007
写真図版6 A-007・010・014
写真図版7 A-014・015・016・017・019
写真図版8 A-019・020・021・023
写真図版9 A-023・024・025・026
写真図版10 A-027・028・029
写真図版11 A-030・031・033
写真図版12 A-034・035・037
写真図版13 A-037・038・039・040
写真図版14 A-040・043・044・045
写真図版15 A-046・049・054・055・057・058
写真図版16 A-058・059・060
写真図版17 A-063・064・065・066・067・069・073・074
写真図版18 A-064・065・066
写真図版19 A-062・066・068・069・070・071・072・073
写真図版20 A-062・063・070・071・072・075・076・078
写真図版21 A-078・079・080a・080b・081・082・083・084
写真図版22 A-084・085・001・003
写真図版23 A-004
写真図版24 A-004・005・008
写真図版25 A-009・011・012
写真図版26 A-012・018・032・041
写真図版27 A-041
写真図版28 A-041・042・047
写真図版29 A-047・048
写真図版30 A-050・051・053
写真図版31 A-053・061・077
写真図版32 A-077・086
写真図版33 A-086・B-001・002・003・004・005
写真図版34 B-006・ピット群・H-001・002・C-005・008
写真図版35 C-009・015・020・021・024
写真図版36 C-024・041・043・045・049・054
写真図版37 C-055・057・060・062・065・066
写真図版38 C-066・072・073・076・077
写真図版39 C-088・095・098
写真図版40 C-102・115・127・130・135
写真図版41 C-135・139・140・142・144・145・146
写真図版42 C-147・150・151・152・155・159・160・161
写真図版43 C-163・164・172・182・190・194・195・196
写真図版44 C-198・199・200・202・203・204・206・208
写真図版45 C-209・211・212・234
写真図版46 C-234・246・255・259・260・266
写真図版47 C-266・289・293・296・308・401
写真図版48 C-409・M-001
写真図版49 M-002・003・004
写真図版50 M-005・D-001・002
写真図版51 旧石器時代出土遺物
写真図版52 繩文時代住居跡出土遺物①
写真図版53 繩文時代住居跡出土遺物②
写真図版54 繩文時代住居跡出土遺物③
写真図版55 繩文時代住居跡出土遺物④
写真図版56 繩文時代住居跡出土遺物⑤
写真図版57 繩文時代住居跡出土遺物⑥
写真図版58 繩文時代住居跡出土遺物⑦
写真図版59 繩文時代住居跡出土遺物⑧
写真図版60 繩文時代住居跡出土遺物⑨
写真図版61 繩文時代住居跡出土遺物⑩
写真図版62 繩文時代住居跡出土遺物⑪
写真図版63 繩文時代住居跡出土遺物⑫
写真図版64 繩文時代住居跡出土遺物⑬
写真図版65 繩文時代住居跡出土遺物⑭
写真図版66 繩文時代住居跡出土遺物⑮
写真図版67 繩文時代住居跡出土遺物⑯
写真図版68 繩文時代住居跡出土遺物⑰
写真図版69 繩文時代住居跡出土遺物⑱
写真図版70 繩文時代住居跡出土遺物⑲
写真図版71 繩文時代住居跡出土遺物⑳
写真図版72 繩文時代住居跡出土遺物㉑
写真図版73 繩文時代住居跡出土遺物㉒
写真図版74 古代住居跡出土遺物①
写真図版75 古代住居跡出土遺物②
写真図版76 古代住居跡出土遺物③
写真図版77 古代住居跡出土遺物④
写真図版78 古代住居跡出土遺物⑤
写真図版79 M-001出土遺物①
写真図版80 M-001出土遺物②
写真図版81 古代調査区出土遺物 古代石器・石製品・土製品
写真図版82 古代中世鉄製品・青銅製品
写真図版83 土壌出土遺物
写真図版84 繩文時代調査区出土遺物①
写真図版85 繩文時代調査区出土遺物②
写真図版86 繩文時代住居跡出土石器①
写真図版87 繩文時代住居跡出土石器②
写真図版88 繩文時代住居跡出土石器③ 土壌・調査区出土石器
写真図版89 土器胎土中の粒子顕微鏡写真
写真図版90 出土した炭化穀実
写真図版91 A-061出土炭化材樹種①
写真図版92 A-061出土炭化材樹種②
写真図版93 貝類遺体
写真図版94 出土人骨

第1章 平和公園遺跡群の概要

第1節 調査に至る経緯

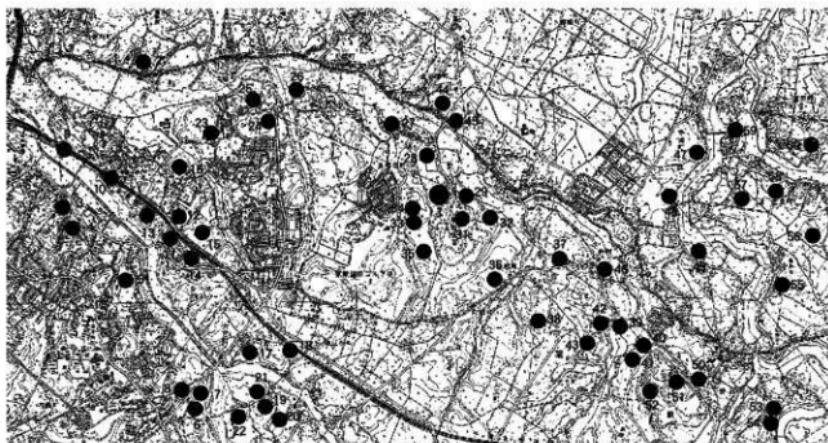
千葉市平和公園は若葉区多部田町に所在し、昭和43年に建設が始まり、現在も拡張計画が進められている。昭和47年の造成工事で円墳1基が削平されたのを契機に、園内の多部田貝塚・内野古墳群等の保存を前提とした公園拡充計画がなされ、計画策定段階で千葉市と千葉市教育委員会が協議を行い、確認調査を行ってきた。うならず遺跡は、昭和48・49年に市内全域にわたって行われた分布調査により発見された遺跡であり、昭和45年刊行の『千葉県記念物所在地図』では「多部田遺跡」として記載されている。昭和34年刊行の『千葉県石器時代地名表』で阿玉台式期・加曾利E式期の遺跡とされた「多部田貝塚東方遺跡」に該当する。昭和63年に公園西側の拡充計画が提出され、試掘を行った結果、計画範囲内に多部田貝塚・多部田遺跡・貝殻塚遺跡・うならず遺跡が該当することが分かった。協議の結果、平成元年から平成8年かけて、新たに発見されたムグリ遺跡を加えた5遺跡の発掘調査を、千葉市の委託を受けた(財)千葉市文化財調査協会が行った。

第2節 遺跡の立地と周辺の遺跡

うならず遺跡は、都川中流域で南側に入り込む多部田支谷の東岸、標高30m~35mの千葉第2段丘上に立地する。都川は千葉市誉田町付近に源を発して北流し、川井町付近で西に方向を変え東京湾に注ぎ込む。中流域の南側は千葉段丘が発達し3面の段丘面が認められるのに対して、北側は急激な崖線を形成する。遺跡の北側に台の坊遺跡が、南側の洪積台地上に多部田貝塚が存在する。

旧石器時代の遺跡は乏しく、芳賀輪遺跡からナイフ形石器と有舌尖頭器が出土しているのみである。

縄文時代早期前半の撚糸文土器は、オフウデン遺跡で井草式~夏島式土器がまとまって出土している。前期の遺跡は、網田遺跡で閑山式期の住居跡1軒が検出されているのみである。中期になると都川流域



第三回

財團法人集団文化財センター 1999 「工業都市文化財分布地図(3)」に基づいて作成

- 遺跡地名表文獻
- 加藤敏夫 1881 「古器物見聞の記」「好古雜誌」第1巻第6号
 - 杉原莊介 1943 「下総新田山遺跡調査概報」「人類學雜誌」第58卷第2号
 - 武田宗久 1953 「千葉市誌 原始社會」
 - 久保常男 1954 「千葉県千葉郡鶴居村貝塚」「日本考古學年報」2
 - 久保常男 1955 「千葉県千葉郡鶴居村貝塚」「日本考古學年報」3
 - 武田宗久 1955 「千葉県千葉市月ノ井貝塚」「日本考古學年報」4
 - 千葉縣教育委員會 1959 「千葉縣石器時代地名表」
 - 千葉縣教育委員會 1961 「印摩・手賀沼周辺地城埋蔵文化財調査(本編)」
 - 前田 謙 1964 「千葉縣多部田貝塚出土の動物遺体」「大原考古」5
 - 米田謙之助 1968 「千葉縣野呂奥新田出土の土偶・土瓶」「立正考古」26号
 - 後藤和民・庄司 克 1969 「千葉市平野町能名貝塚調査概報」「貝塚博物館紀要」第2号
 - 仲尾明義 1973 「「光寺遺跡」「日本考古學報」J24
 - 千葉市史稿委員會 1974 「千葉市 史稿、原始・古代・中世編」
 - 千葉市史稿委員會 1974 「千葉市 史稿、資料編、原始・古代・中世編」
 - 千葉市教育委員會 1976 「千葉市川崎町千葉市平和の国内遺跡確認予備調査報告」「千葉市文化財調査報告」第1集
 - 千葉市教育委員會 1976 「千葉市川崎町千葉市平和の国内遺跡確認予備調査報告」「千葉市文化財調査報告」第1集
 - 千葉市教育委員會 1976 「千葉市芳賀輪遺跡-第1次発掘調査概報」「千葉市文化財調査報告」第1集
 - 東・鹿島・南・鶴見・東郷高等学校考古研究会 1982 「本校蔵の考古遺物-その2-」「東邦考古」第5号
 - 千葉市教育委員會 1980 「千葉市大門町東五郎遺跡発掘調査報告書」
 - 千葉市文化財調査会 1984 「駒込遺跡発掘調査概要報告」
 - 千葉市文化財調査会 1984 「千葉市芳賀輪遺跡-第3次発掘調査概報-」「千葉市文化財調査報告」第2集
 - (財)千葉県文化センター 1978 「千葉市鶴居地台貝塚・平山古墳」
 - (財)千葉県文化センター 1979 「千葉市西屋敷・城の經遺跡」
 - 大木 順・山本 勇也 1980 「日本城郭体系6 千葉・神奈川」
 - 東邦大学附属東郷高等学校考古研究会 1982 「本校蔵の考古遺物-その2-」「東邦考古」第5号
 - 千葉市教育委員會 1980 「千葉市芳賀輪遺跡-第7次発掘調査報告書」
 - 千葉市文化財調査会 1984 「千葉市平和の国内遺跡調査概要報告」
 - 青沼道雄 1984 「千葉市内出土の古墳三彩小塚」「千葉史学」第2号
 - 千葉市教育委員會 1984 「千葉市芳賀輪遺跡-第2・7・次発掘調査概報-」
 - 田中英輔 1984 「龍島川流域の繩文時代遺跡-千葉市に反目台遺跡-」「貝塚博物館紀要」第11号
 - 田中英輔 1985 「千葉市野呂山貝塚出土の舟形土器」「貝塚博物館紀要」第12号
 - 田中英輔 1986 「千葉市芳賀輪遺跡出土の沈線文土器めぐって」「貝塚博物館紀要」第13号
 - (財)千葉県文化財調査会 1987 「芳賀輪遺跡・太アラク遺跡」
 - (財)千葉県文化財調査会 1988 「千葉市芳賀輪遺跡」
 - 田中英輔 1989 「人口施設を有する堅穴(芳賀輪遺跡第12号土壤)について」「貝塚博物館紀要」第16号
 - (財)千葉県文化財調査会 1990 「千葉台遺跡」
 - (財)千葉市文化財調査会 1990 「千葉市への台貝塚」
 - (財)千葉市文化財調査会 1992 「千葉市芳賀輪遺跡-平成2年度調査報告書-」
 - (財)千葉市文化財調査会 1993 「千葉市芳賀輪遺跡-平成3年度調査報告書-」
 - (財)千葉市文化財調査会 1994 「千葉市芳賀輪遺跡-平成4年度調査報告書-」
 - (財)千葉市文化財調査会 1996 「千葉市芳賀輪遺跡-平成6年度調査報告書-」
 - 千葉県教育委員會 1995 「千葉県北西部中近世城館跡の分布調査報告書-即下範団地域-」
 - (財)千葉県文化財調査会 1998 「千葉市芳賀輪遺跡-平成8年度調査報告書-」
 - 千葉県 1998 「千葉県の歴史・歴朝」「考古3(奈良・平安時代)」
 - 千葉県 1998 「千葉県の歴史・資料編 中世(考古資料)」
 - 吉田格 1998 「新田山遺跡」「吉田格考古コレクション考古回顧」
 - (財)千葉県文化財調査会 1999 「操作遺跡・網田遺跡・宇津志野遺跡群・海老遺跡・荒星敷貝塚」
 - 千葉県 2000 「千葉県の歴史・資料編 考古(旧石器時代・縄文時代)」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2000 「千葉市鶴居地台貝塚」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2000 「千葉市坊屋敷遺跡」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2000 「千葉市鶴居地台貝塚」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2000 「千葉市遠坪遺跡」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2000 「千葉市多部田貝塚」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2001 「千葉うならぐ遺跡」
 - (財)千葉市櫻木作遺跡・種ヶ谷津遺跡・立堀城跡・高有遺跡・宮ノ後遺跡・谷当上ノ台遺跡」
 - (財)千葉市文化財調査協会 2003 「千葉市平と公園群葬I・多部田貝塚・貝塚遺跡・ムグリ遺跡」
 - 宮内慶介・吉岡卓真 2003 「内能地域における貝塚の形成と海産資源の流通-鹿島川流域の縄文中、後期の主貝塚の成り立ち-」「貝塚博物館紀要」第30号
 - (財)千葉県文化財調査会 1993 「財團法人千葉市文化財調査協会年報-平成3年度-」
 - (財)千葉県文化財調査会 1995 「財團法人千葉市文化財調査協会年報-平成5年度-」
 - (財)千葉県文化財調査会 1997 「財團法人千葉市文化財調査協会年報-平成7年度-」
 - (財)千葉県文化財調査会 1998 「財團法人千葉市文化財調査協会年報-平成8年度-」
 - (財)千葉県文化財調査会 1999 「財團法人千葉市文化財調査協会年報1-平成9年度-」
 - 千葉市教育委員會 1989 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-昭和63年度-」
 - 千葉市教育委員會 1990 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成元年度-」
 - 千葉市教育委員會 1991 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成2年度-」
 - 千葉市教育委員會 1992 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成3年度-」
 - 千葉市教育委員會 1993 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成4年度-」
 - 千葉市教育委員會 1994 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成5年度-」
 - 千葉市教育委員會 1995 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成7年度-」
 - 千葉市教育委員會 1996 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成9年度-」
 - 千葉市教育委員會 1999 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成10年度-」
 - 千葉市教育委員會 2000 「埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書-平成11年度-」
 - 千葉県教育厅 文化課 1983 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-昭和57年度-」
 - 千葉県教育厅 文化課 1984 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-昭和57年度-」
 - 千葉県教育厅 文化課 1985 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-昭和58年度-」
 - 千葉県教育厅 文化課 1987 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-昭和60年度-」
 - 千葉県教育厅 文化課 1995 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-平成7年度-」
 - 千葉県教育厅 文化課 1996 「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報-平成8年度-」

は大型貝塚に特徴付けられる。遺跡は都川下流域と中流域と上流域、およびその東側の鹿島川流域に分けられる。下流域の仁戸名支谷西岸では、月ノ木貝塚・へたの台貝塚・菱名貝塚等が、東岸では押元貝塚・坊屋敷遺跡・吾妻遺跡等が近接して立地する。月ノ木貝塚では加曾利EⅡ式期の住居1軒、菱名貝塚では加曾利E式期前半の住居7軒、人骨1体、家犬1体が検出されている。坊屋敷遺跡では阿玉台式期の住居2軒、加曾利E式期後半の住居3軒が検出され、内1軒から石棒と埋甕が出土している。台畠貝塚・築地台貝塚は後期が興隆期で、築地台貝塚からは昭和52年の調査で中期の加曾利E式期後半の住居2軒、晚期の安行3a式期の住居1軒が検出された他、平成12年の調査で後期後半～晚期前半の住居17軒が複雑に重複して検出された。また昭和24・25年の立正大学の調査では後期の堀之内式の大型甕形土器中から屈葬の幼児骨が検出されている。多部田貝塚を中心とする中流域では、中期後半から後期前半のうならず遺跡・後期前半の龍ノ谷遺跡(堀之内式期の住居2軒)・駒込遺跡(堀之内式期の住居4軒)・後期前半から後半の野呂宮ノ台遺跡(堀之内式期～加曾利B式期の住居4軒)・川井貝塚等の遺跡が存在する。貝層の形成時期は、うならず遺跡が加曾利E式期後半～称名寺式期、多部田貝塚が称名寺式期～安行式期、野呂宮ノ台遺跡が堀之内式期～加曾利B式期(堀之内式期の住居内に加曾利B式期のハマグリ・アカニシ主体の投棄貝層を検出、同住居下の堀之内式期の土壌内に貝ブロック有)と形成時期に若干のずれが認められる。都川最上流に位置する善田高田貝塚は後期から晚期にかけての馬蹄形貝塚で、過去3回の調査により住居7軒以上、合葬人骨等を検出している。鹿島川流域の芳賀輪遺跡は中期の加曾利E式期中葉を中心とする住居38軒が検出されており、うならず遺跡より一段階早い時期に集落を形成する。堀之内式土器の出土も多く、当該期の遺構の存在が予想される。鹿島川流域では、芋ノ谷遺跡・僧御堂遺跡等の拠点的な遺跡が認められ、周辺に加曾利E式期後葉の小規模な遺跡が点在する。後期には野呂山田貝塚や八反目貝塚のように加曾利B式期を中心とする点在貝塚が新たに認められる。加曾利B式期の拠点的遺跡が増加する現象は鹿島川下流域の印旛沼周辺の遺跡の在り方と共通する。

弥生時代の遺跡は、新田山遺跡から弥生時代中期初頭の土器が出土している他、城の腰遺跡で後期の集落が検出されている。うならず遺跡に隣接した木戸作遺跡でも確認調査で遺構が検出されている。

古墳時代前期の遺跡は駒込遺跡のみである。後期は古墳群が各地にみられ、北谷津上ノ台遺跡に前方後円墳がある他、菱名台古墳、内野古墳から横穴式石室が検出されている。また、越川戸遺跡からは古墳時代後期から平安時代の住居20軒、掘立柱建物跡20棟が検出されたほか瓦塔が出土している。鹿島川流域の芳賀輪遺跡では古墳時代後期から平安時代の住居105軒、掘立柱建物跡142棟が検出されており、隣接した太田アラク古墳からも横穴式石室が検出されている。

中世の遺跡は城ノ腰遺跡・西屋敷遺跡・城山遺跡・永福寺・立堀遺跡・多部田城・遠坪遺跡等の戦国期前後の遺跡が都川中流域の南岸及び鹿島川流域に認められる。

第3節 調査の方法

調査区は公共座標をもとに100m単位の方眼を設定し、大グリッドとした。東西方向をアルファベットの大文字で、南北方向を算用数字で表記した。大グリッドをさらに10m単位で1～100の中グリッドに分割し、中グリッドをさらに5m単位で分割し a～d の小グリッドとし、北西部の杭を基準とした。遺物については、遺構内遺物及び遺物集中区について、原則出土位置を平面図とレベルで記録した。

第2章 遺構と遺物

第1節 旧石器時代

1. 概要

今回報告分では3つの礫群が検出され、石器71点、礫528点が出土した。礫群が検出された調査区南側は、標高34~35mの台地上であり、東西両側には都川支流の支谷が迫ってきている。

1号と2号は近接して形成されているが、3号は南東方向に50m程離れている。1号と2号、1号と3号の間でそれぞれ礫の接合関係が認められる。3つの礫群はソフトローム層中からハードローム層上面(波状帶)にかけて検出されたが、接合関係が認められることから同時期の所産と考えられる。なお、漸移層及びソフトローム層上部は耕作などの影響で失われている。礫群周辺出土石器群は小型のナイフ形石器を伴う石器組成から、立川ロームIV層上部に位置付けられる。石器群の石材組成は、頁岩36点・珪質頁岩11点を中心としたチャート・メノウ・黒曜石などの搬入石材と、凝灰岩・流紋岩・凝灰質細粒砂岩・安山岩・砂岩・粘板岩・(チャート)などの在地産石材で構成されている。珪質頁岩は自然面が残るものが多く、比較的原石に近い段階で運び込まれたものと考えられる。礫群の石材組成は、砂岩・石英斑岩で半数以上を占め、凝灰岩・流紋岩・花崗岩・チャート・安山岩などの在地産石材で構成されている。

2. 磕群

① 1号礫群(第3・4図、第4・5表)

6E-55c・d、56a・bグリッドに位置し、径約4mの範囲に広がっている。礫の総点数は235点で、1号は2号の約2倍、3号の約1.3倍の点数となる。総重量は2,597.3gで、1号は2号の約1.6倍、3号の約1.3倍の重量となる。完形度1(完形礫)が2点、完形度2が1点、完形度4が3点、完形度5が6点、完形度6が223点である。部分的に接合するものが17個体ある。そのほとんどが赤化しており、一部に黒色の付着物が認められる。礫種の構成は、砂岩70点、石英斑岩52点、凝灰岩7点、流紋岩34点、花崗岩5点、チャート56点、安山岩11点である。また、この礫群の分布範囲とその周辺からは、18点の石器が出土している(第9・10図)。その内訳は石核2点、両極剥片1点、剥片15点で、製品は出土していない。これらの石器は礫群の最も集中している部分の周囲に散漫に分布している。出土層位は礫群と同じであるが、礫群の上半部に重なる位置から出土している。

第9図-1は円筒状の石核である。自然面が二面あり、上下左右に打面が残っている。打面は複剥離打面と単剥離打面、原石打面があり、打面縁調整をしている部分もある。縞模様のある灰白色の頁岩製で、同じ石材の剥片が1号(第10図-2他)・2号(第11図-2他)から出土している。第9図-2は円錐状の石核である。自然面が二面あり、左右に打面が残っている。打面は単剥離打面、原石打面である。透明度の高い青灰色の珪質頁岩製で、同じ石材の石核(第10図-7)が2号から、剥片が1号(第10図-4他)・2号から出土している。第10図-1はチャート製の両極剥片で、自然面が二面ある。主剥離面には180°対向する方向から細かい剥離が行われているが、背面は主剥離面と同一方向の剥離面で構成されて

第2表 石器組成表

1号縦群

器種	頁岩	珪質頁岩	チャート	凝灰岩	流紋岩	凝灰質 細粒砂岩	安山岩	砂岩	粘板岩	メノウ	黒曜石	合計
石核	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
剥片	7	2	0	0	2	2	1	1	0	0	0	15
砂片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両極剥片	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ナイフ形石器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポイント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	3	1	0	2	2	1	1	0	0	0	18
重量(g)	69.5	32.4	2.9	0	2.8	2	14.8	3.7	0	0	0	128.1

2号縦群

器種	頁岩	珪質頁岩	チャート	凝灰岩	流紋岩	凝灰質 細粒砂岩	安山岩	砂岩	粘板岩	メノウ	黒曜石	合計
石核	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
剥片	13	6	0	0	0	1	6	1	0	0	0	27
砂片	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
両極剥片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ナイフ形石器	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
ポイント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	15	7	0	0	0	2	6	1	0	0	0	31
重量(g)	95.3	17.5	0	0	0	8.3	163.5	1.1	0	0	0	285.7

3号縦群

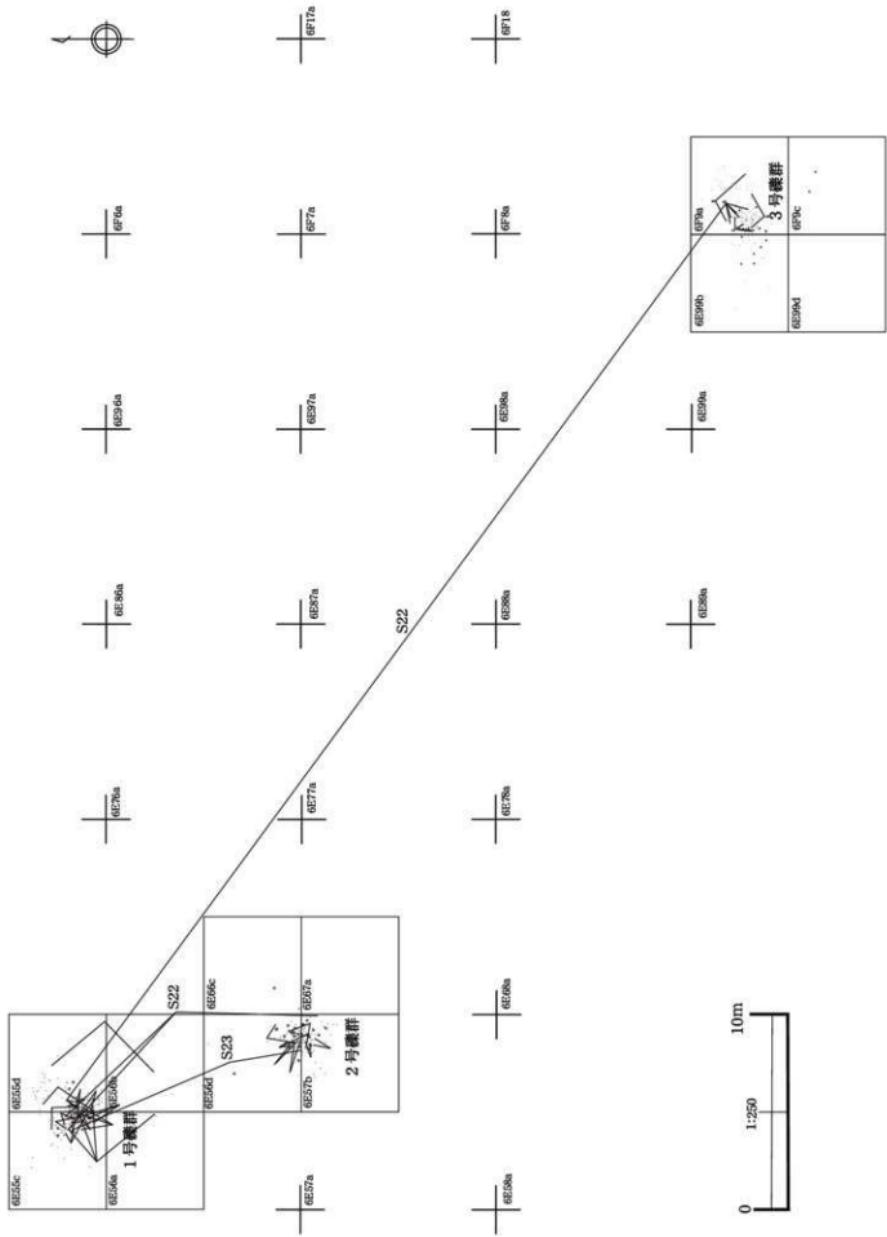
器種	頁岩	珪質頁岩	チャート	凝灰岩	流紋岩	凝灰質 細粒砂岩	安山岩	砂岩	粘板岩	メノウ	黒曜石	合計
石核	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
剥片	3	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	6
砂片	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	5
両極剥片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ナイフ形石器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ポイント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	7	1	1	2	0	0	1	0	0	1	0	13
重量(g)	23.2	0.4	0.4	0.8	0	0	6.8	0	0	12	0	43.6

調査区

器種	頁岩	珪質頁岩	チャート	凝灰岩	流紋岩	凝灰質 細粒砂岩	安山岩	砂岩	粘板岩	メノウ	黒曜石	合計
石核	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
剥片	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
砂片	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
両極剥片	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ナイフ形石器	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
ポイント	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
合計	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	9
重量(g)	26.8	0	0	0	0	0	0	0	3.2	0	5.5	35.5

合計

器種	頁岩	珪質頁岩	チャート	凝灰岩	流紋岩	凝灰質 細粒砂岩	安山岩	砂岩	粘板岩	メノウ	黒曜石	合計
石核	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
剥片	24	9	0	0	2	3	8	2	0	1	0	49
砂片	3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	6
両極剥片	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
ナイフ形石器	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5
ポイント	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4
合計	36	11	2	2	2	4	8	2	1	1	2	71
合計	214.8	50.3	3.3	0.8	2.8	10.3	185.1	4.8	3.2	12	5.5	492.9



第2図 磯群位置図

いる。

② 2号礫群(第5・6図、第6・7表)

6 E-56d、57b、66c、67aグリッドに位置し、径約3.5mの範囲に広がっている。礫の総点数は118点で、総重量は1,594.8gである。全て礫片で、完形度5が8点、完形度6が110点である。部分的に接合するものが9個体ある。そのほとんどが赤化しており、一部に黒色の付着物が認められる。礫種の構成は、砂岩63点、石英班岩30点、凝灰岩1点、流紋岩8点、チャート14点、安山岩2点である。また、この礫群の分布範囲とその周辺からは、31点の石器が出土している(第10・11図)。出土点数は比較的多く、1号の1.7倍、3号の2.4倍の点数である。その内訳は、凝灰質細粒砂岩製のナイフ形石器1点、石核2点、剥片27点、碎片1点である。これらの石器は礫群の最も集中している部分の周囲に散漫に分布している。

第10図-6は厚手の剥片を打面上位に用いた二側縁加工のナイフ形石器である。凝灰質細粒砂岩製で、同じ石材の剥片が1号・2号から出土している。第10図-7は円筒状の石核である。自然面が一面あり、上下両端に打面が残っている。打面は单剥離打面、原石打面である。第9図-2と同じく、透明度の高い青灰色の珪質頁岩製である。第11図-1は円錐状の石核である。自然面が一面あり、左右両端に打面が残っている。打面は单剥離打面、原石打面である。第12図-1のナイフ形石器と同じく、濃いチョコレート色(褐色)をした頁岩製である。

③ 3号礫群(第7・8図、第8・10表)

6 E-99b・d、6 F-9 a・cグリッドに位置し、径約4mの範囲に広がっている。礫の総点数は175点で、総重量は1,940.5gである。全て礫片で、完形度5が19点、完形度6が156点である。部分的に接合するものが5個体ある。そのほとんどが赤化しており、一部に黒色の付着物が認められる。礫種の構成は、砂岩126点、石英班岩12点、凝灰岩9点、流紋岩6点、チャート16点、安山岩6点である。また、この礫群の分布範囲とその周辺からは、13点の石器が出土している(第11・12図)。その内訳は、頁岩製のナイフ形石器1点、石核1点、剥片6点、碎片5点である。これらの石器は礫群の最も集中している部分からやや南により外れて、散漫に分布している。

第11図-4は円錐状の石核である。自然面が一面あり、上下両端に打面が残っている。打面は单剥離打面、原石打面がある。薄いチョコレート色(外側が褐色、内側が灰色)をした頁岩製で、同じ石材の剥片が1号・2号(第11図-3他)・3号(第11図-5他)から出土している。第12図-1はやや厚手の剥片を打面上位に用いた二側縁加工のナイフ形石器である。濃いチョコレート色(褐色)をした頁岩製で、同じ石材の石核(第11図-1)が2号から、剥片が1号(第10図-3他)・2号・3号から出土している。第12図-2はメノウ製の剥片で、自然面が一面ある。背面は主剥離面と同一方向の剥離面で構成されている。

1号は礫の接合個体が多く(17個体)、完形の礫(完形度1)や大きな礫片(完形度2・4)も存在する。礫の石材は砂岩・石英班岩を主体とするものの、礫種が豊富で、全体のバランスがとれている。また、石器群は石核と剥片類だけで製品を含まない。一方、2・3号は礫の接合個体が少なく(2号は9個体、3号は5個体)、小さく割れた礫片(完形度5・6)のみで構成される。礫種は1号より砂岩の割合が高く、1号からは砂岩の礫を中心に持ち込まれているものと考えられる。石器群は石核・剥片類の他、ナイフ

第3表 繩群出土石器群計測表

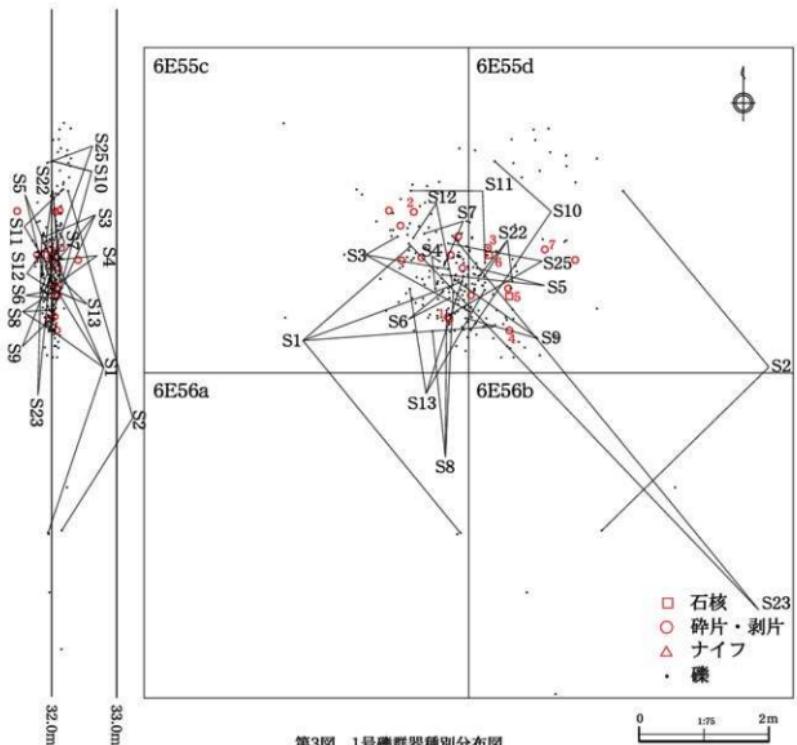
グリッド	No.	器種	石材	出土地点	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	自然面	図版番号	分布図番号
6E-55c	12	剥片	流紋岩	1号繩群	30.9	11.4	6.8	2.1	1	-	
6E-55c	15	剥片	頁岩	1号繩群	24.3	8.3	3.4	0.6	0	-	
6E-55c	32	剥片	頁岩	1号繩群	37.7	45.3	10.5	12.5	1	第10図-3	1
6E-55c	43	剥片	頁岩	1号繩群	21.1	14.2	2.7	1.1	0	-	
6E-55c	44	剥片	凝灰質細粒砂岩	1号繩群	19.5	12.0	6.6	1.2	1	-	
6E-55c	81	剥片	頁岩	1号繩群	13.9	16.8	4.5	0.5	0	-	
6E-55c	87	剥片	流紋岩	1号繩群	13.9	11.9	6.8	0.7	0	-	
6E-55c	91	剥片	頁岩	1号繩群	34.4	50.1	14.5	17.0	1	第10図-5	2
6E-55c	104	剥片	頁岩	1号繩群	13.1	23.6	5.7	1.2	1	-	
6E-55c	175	剥片	凝灰質細粒砂岩	1号繩群	17.3	14.3	4.2	0.8	0	-	
6E-55d	6	剥片	珪質頁岩	1号繩群	14.1	12.0	5.5	1.0	0	第10図-2	3
6E-55d	14	剥片	砂岩	1号繩群	18.9	49.8	5.1	3.7	1	-	
6E-55d	19	開削剥片	チャート	1号繩群	28.5	12.1	9.5	2.9	1	第10図-1	4
6E-55d	53	剥片	安山岩	1号繩群	41.3	42.9	7.7	14.8	0	-	
6E-55d	69	石核	頁岩	1号繩群	39.6	35.3	23.4	36.2	1	第9図-1	5
6E-55d	97	石核	珪質頁岩	1号繩群	34.3	34.4	21.8	26.9	2	第9図-2	6
6E-55d	99	剥片	珪質頁岩	1号繩群	27.9	30.2	8.4	4.5	1	第10図-4	7
6E-55d	141	剥片	頁岩	1号繩群	14.7	12.4	1.6	0.4	0	-	
6E-56d	1	石核	珪質頁岩	2号繩群	20.8	17.6	15.2	5.7	1	第10図-7	1
6E-56d	2	剥片	頁岩	2号繩群	20.7	27.6	9.8	5.1	1	-	
6E-56d	3	剥片	安山岩	2号繩群	37.5	53.3	14.9	35.0	0	-	
6E-56d	10	剥片	安山岩	2号繩群	59.2	49.3	16.6	33.6	1	-	
6E-56d	11	剥片	安山岩	2号繩群	24.9	45.3	23.2	19.6	1	-	
6E-56d	14	剥片	安山岩	2号繩群	30.0	27.7	11.9	12.0	1	-	
6E-56d	21	剥片	珪質頁岩	2号繩群	13.1	32.3	12.3	4.2	1	-	
6E-56d	29	石核	頁岩	2号繩群	39.0	30.8	20.1+	15.9	1	第11図-1	2
6E-56d	40	剥片	珪質頁岩	2号繩群	17.2	8.9	2.2	0.3	0	-	
6E-56d	45	剥片	安山岩	2号繩群	24.5	41.7	12.2	19.1	1	-	
6E-56d	46	剥片	頁岩	2号繩群	34.7	43.5	14.5	20.1	0	-	
6E-56d	58	剥片	頁岩	2号繩群	25.1	8.9	6.2	1.3	0	-	
6E-56d	59	剥片	頁岩	2号繩群	15.5	17.3	4.2	1.0	0	-	
6E-56d	62	剥片	頁岩	2号繩群	23.9	17.4	7.1	4.7	0	第10図-8	3
6E-56d	64	剥片	頁岩	2号繩群	31.5	38.7	12.9	16.8	1	-	
6E-56d	71	ナイフ	凝灰質細粒砂岩	2号繩群	38.2	15.2	9.9	4.0	1	第10図-6	4
6E-56d	72	剥片	頁岩	2号繩群	35.0	19.7	9.9	4.7	0	第11図-2	5
6E-57d	1	砂片	頁岩	2号繩群	17.8	13.2	3.2	0.6	0	-	
6E-57d	22	剥片	頁岩	2号繩群	24.5	31.2	8.8	4.8	0	第11図-3	6
6E-57d	24	剥片	安山岩	2号繩群	45.2	57.1	14.5	44.2	1	-	
6E-57d	26	剥片	頁岩	2号繩群	27.3	29.2	12.9	5.7	1	-	
6E-57d	30	剥片	珪質頁岩	2号繩群	23.2	14.5	5.6	2.9	1	-	
6E-57d	31	剥片	頁岩	2号繩群	28.8	20.6	6.9	3.4	1	-	
6E-57d	33	剥片	砂岩	2号繩群	22.1	18.6	2.7	1.1	0	-	
6E-57d	35	剥片	頁岩	2号繩群	22.2	13.6	4.2	1.2	0	-	
6E-57d	36	剥片	珪質頁岩	2号繩群	20.7	9.9	4.3	0.7	0	-	
6E-57d	38	剥片	珪質頁岩	2号繩群	13.2	15.3	6.1	1.1	1	-	
6E-57d	49	剥片	頁岩	2号繩群	9.2	27.6	6.6	1.6	0	-	
6E-57d	56	剥片	珪質頁岩	2号繩群	27.0	12.1	10.0	2.6	0	-	
6E-57d	73	剥片	凝灰質細粒砂岩	2号繩群	27.5	24.1	7.5	4.3	1	-	
6E-66c	1	剥片	頁岩	2号繩群	30.7	23.3	10.5	8.4	0	-	
6E-99b	2	剥片	珪質頁岩	3号繩群	12.8	13.0	2.8	0.4	0	-	
6E-99b	9	砂片	頁岩	3号繩群	15.5	6.1	4.4	0.2	0	-	
6E-99b	16	砂片	凝灰岩	3号繩群	16.2	8.0	2.9	0.4	0	-	
6E-99b	18	ナイフ	頁岩	3号繩群	41.3	16.7	4.9	4.4	0	第12図-1	1
6E-99b	25	砂片	凝灰岩	3号繩群	14.6	8.5	3.0	0.4	0	-	
6F-9a	33	石核	頁岩	3号繩群	27.8	30.8	18.3	14.2	1	第11図-4	2
6F-9a	41	剥片	安山岩	3号繩群	33.1	26.6	7.6	6.8	0	-	
6F-9a	90	砂片	チャート	3号繩群	10.3	8.8	2.5	0.4	0	-	
6F-9a	93	剥片	頁岩	3号繩群	10.2	11.7	2.4	0.4	1	-	
6F-9a	95	剥片	頁岩	3号繩群	21.6	10.3	5.5	1.0	1	-	
6F-9a	106	砂片	頁岩	3号繩群	7.9	8.1	2.3	0.1	0	-	
6F-9c	2	剥片	メノウ	3号繩群	38.4	34.5	8.1	12.0	1	第12図-2	3
6F-9c	3	剥片	頁岩	3号繩群	18.6	25.7	5.7	2.9	1	第11図-5	4

凡例

<計測値> 最大長・最大幅・最大厚 単位(mm) / ギズを使用0.01mm単位で計測 四捨五入 右端の+は折れを示す

<重量> 単位(g) エー・アンド・ディ社製 FX-6000を使用 0.1g単位で計測

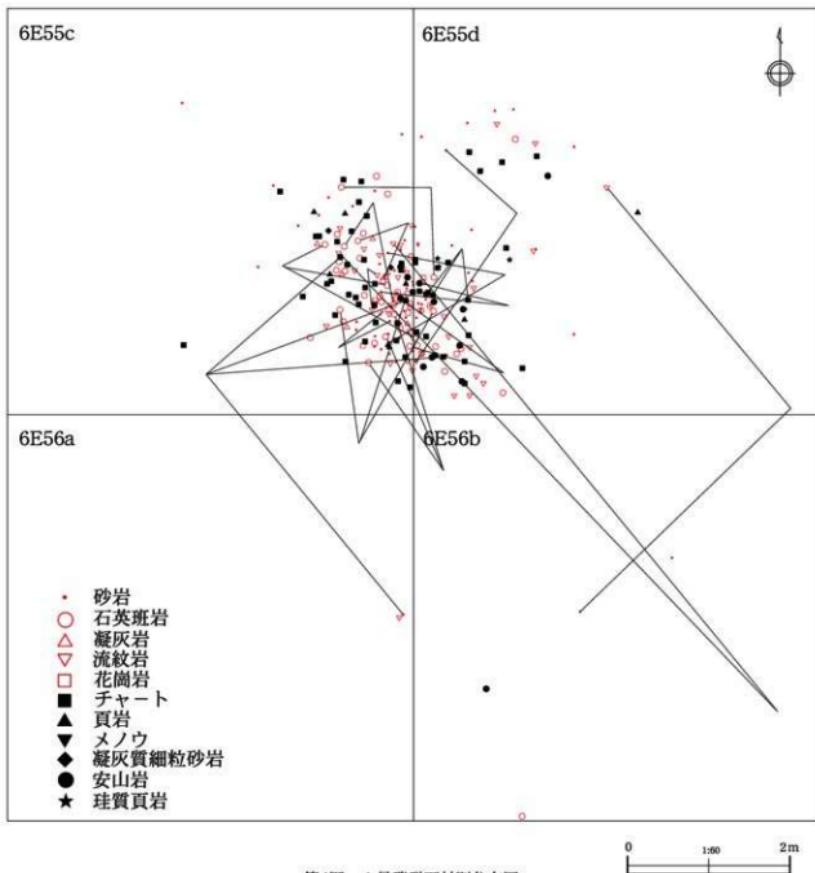
<自然面> 背面に残る自然面の量を3段階に区分 0:なし 1:一部 2:全面



第3図 1号石器群種別分布図

第4表 1号石器群完形度別組成表

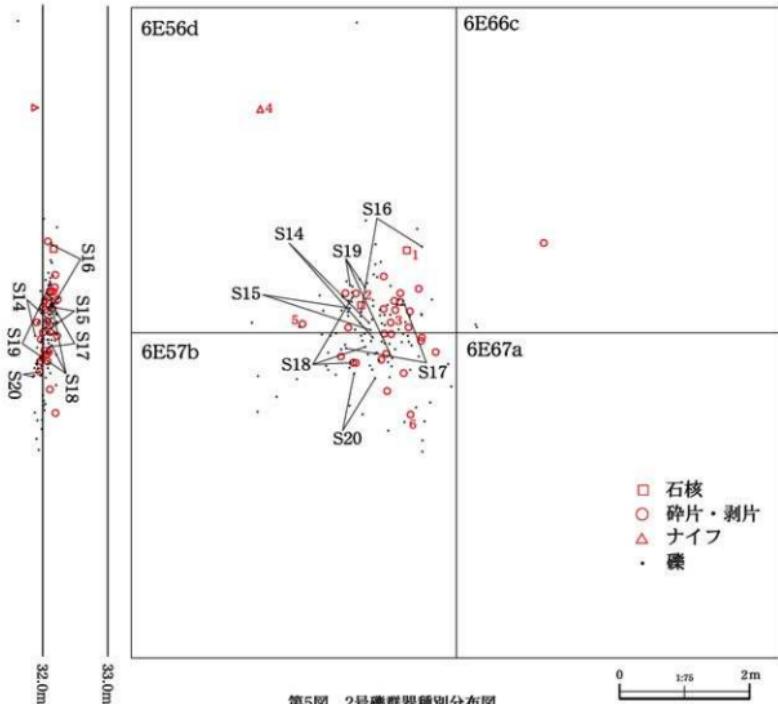
1号石器群			
完形度	点数 (%)	重量(g) (%)	
1	2 0.9	270.1 10.4	
2	1 0.4	101.9 3.9	
3	— —	— —	
4	3 1.3	152.2 5.9	
5	6 2.5	246.9 9.5	
6	223 94.9	1826.2 70.3	
合計	235 100	2597.3 100	



第4図 1号礫群石材別分布図

第5表 1号礫群礫種別組成表

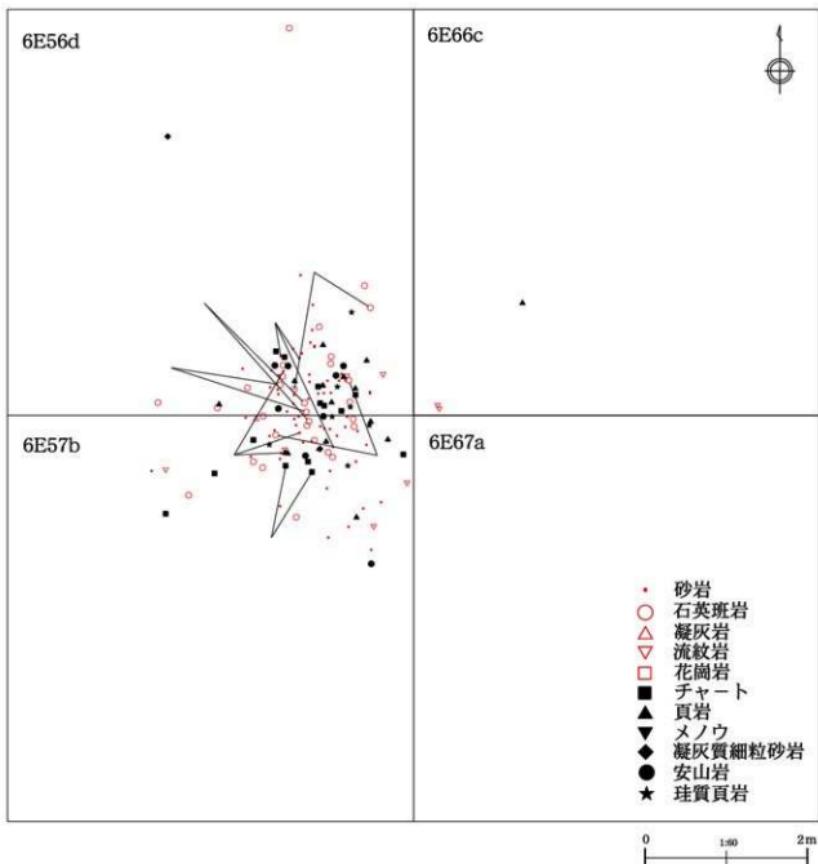
1号礫群				
礫種	点数 (%)	重量(g) (%)		
砂岩	70	29.8	703.2	27.1
石英班岩	52	22.1	716.2	27.6
凝灰岩	7	3	39.8	1.5
流紋岩	34	14.5	432	16.6
花崗岩	5	2.1	16.4	0.6
チャート	56	23.8	362.1	14
安山岩	11	4.7	327.6	12.6
合計	235	100	2597.3	100



第5図 2号器群器種別分布図

第6表 2号器群完形度別組成表

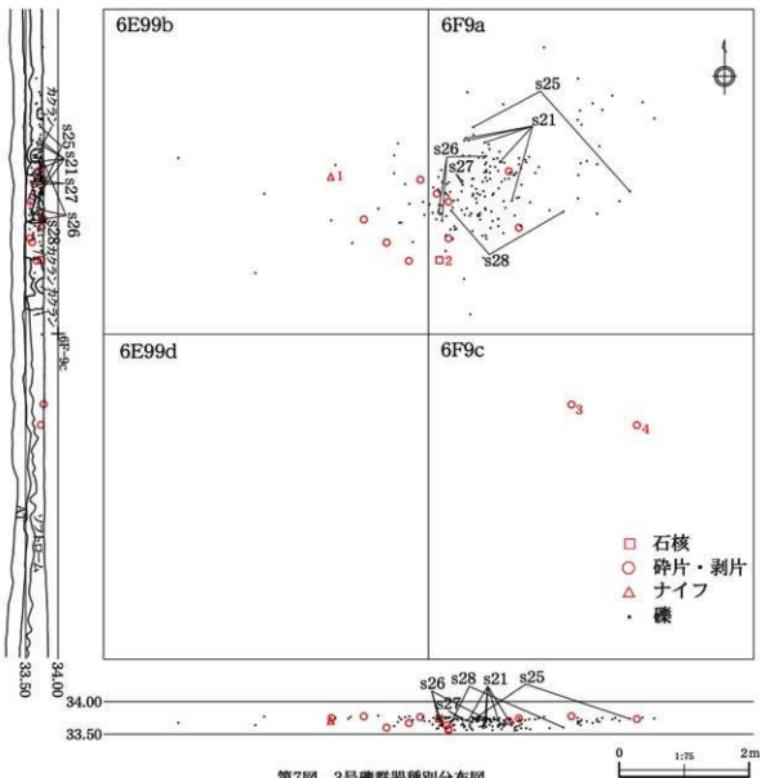
2号器群				
完形度	点数 (%)	重量(g) (%)		
1	-	-	-	-
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	8	6.8	311.6	19.5
6	110	93.2	1283.2	80.5
合計	118	100	1594.8	100



第6図 2号礫群石材別分布図

第7表 2号礫群礫種別組成表

2号礫群				
礫種	点数 (%)	重量(g) (%)		
砂岩	63	53.4	763	47.9
石英班岩	30	25.4	569.8	35.7
凝灰岩	1	0.8	1.6	0.1
流紋岩	8	6.8	56.1	3.5
花崗岩	—	—	—	—
チャート	14	11.9	151.8	9.5
安山岩	2	1.7	52.5	3.3
合計	118	100	1594.8	100



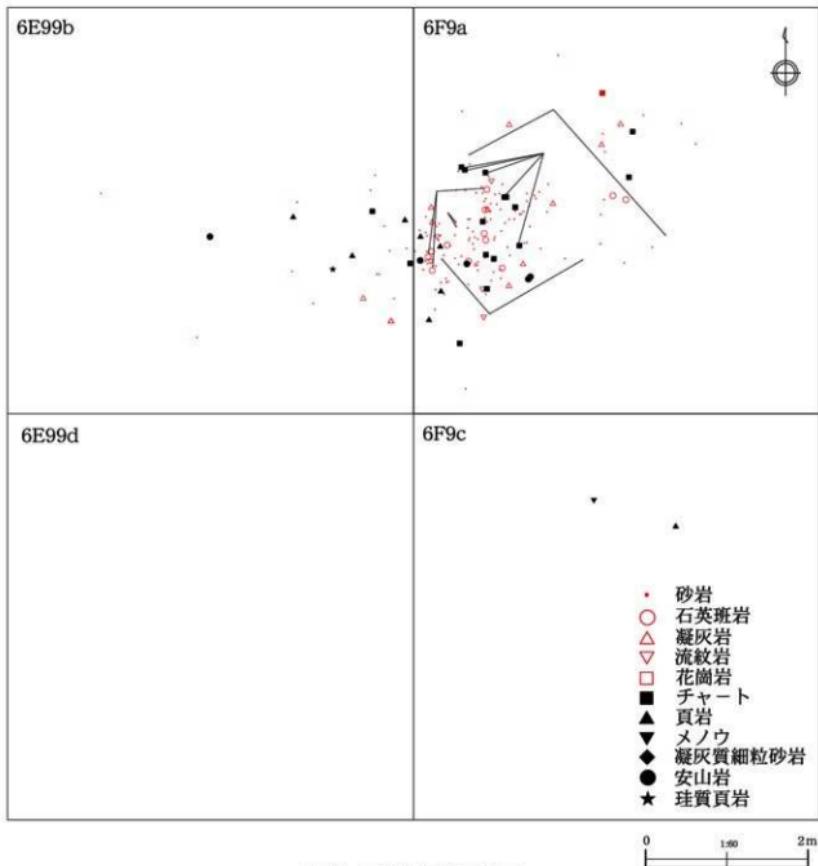
第7図 3号磨群器種別分布図

第8表 3号磨群完形度別組成表

3号磨群			
完形度	点数 (%)	重量(g)	(%)
1	—	—	—
2	—	—	—
3	—	—	—
4	—	—	—
5	19	10.9	758.2
6	156	89.1	1182.3
合計	175	100	1940.5

第9表 完形度別組成表(合計)

合計			
完形度	点数 (%)	重量(g)	(%)
1	2	0.4	270.1
2	1	0.2	101.9
3	—	—	—
4	3	0.6	152.2
5	33	6.2	1316.7
6	489	92.6	4291.7
合計	528	100	6132.6



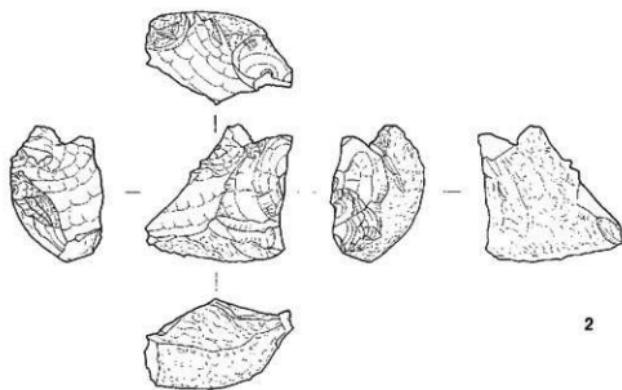
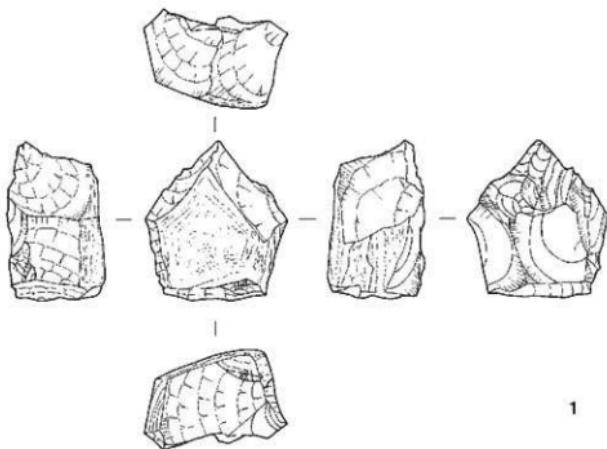
第8図 3号礫群石材別分布図

第10表 3号礫群種別組成表

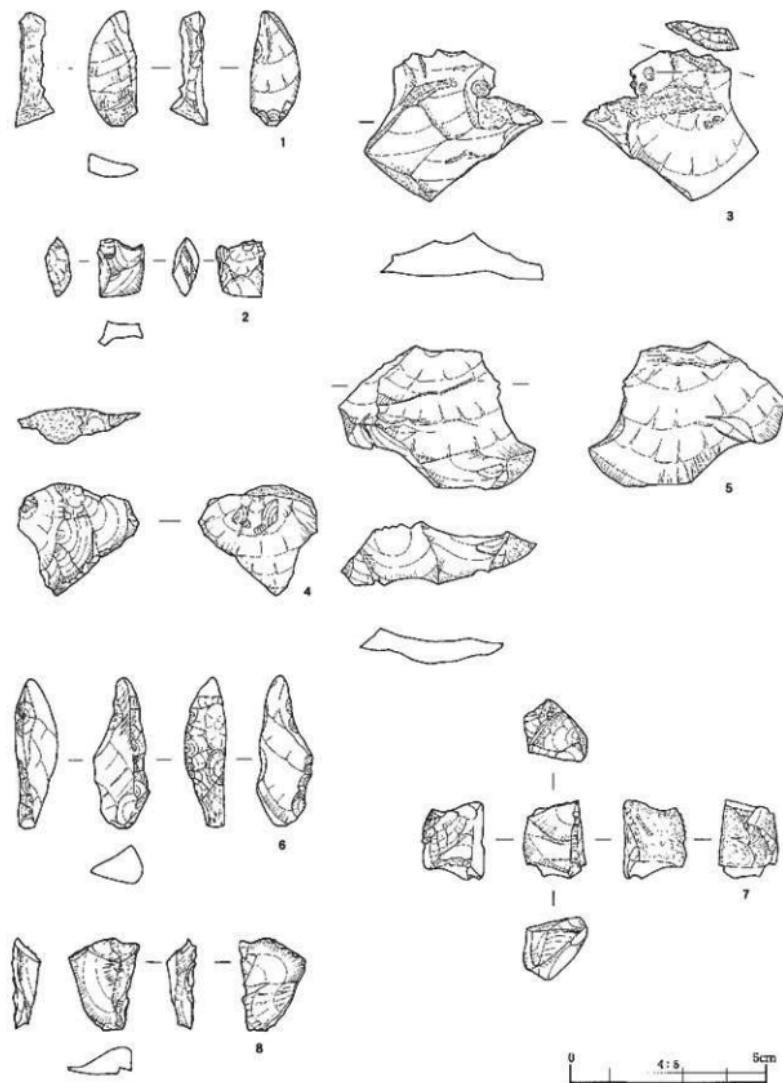
3号礫群				
種類	点数	(%)	重量(g)	(%)
砂岩	126	72	1411.6	72.8
石英斑岩	12	6.9	188.7	9.7
凝灰岩	9	5.1	114.3	5.9
流紋岩	6	3.4	32.8	1.7
花崗岩	—	—	—	—
チャート	16	9.2	123	6.3
安山岩	6	3.4	70.1	3.6
合計	175	100	1940.5	100

第11表 種別組成表(合計)

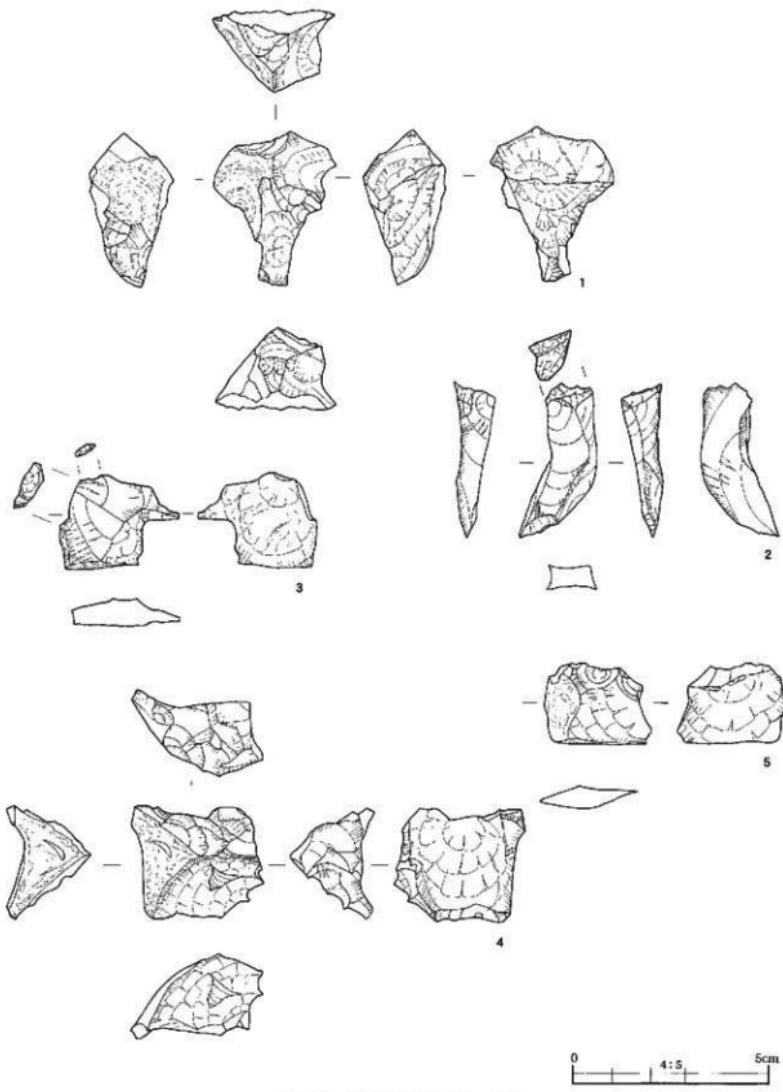
合計				
種類	点数	(%)	重量(g)	(%)
砂岩	259	49.1	2877.8	46.9
石英斑岩	94	17.8	1474.7	24.1
凝灰岩	17	3.2	155.7	2.5
流紋岩	48	9.1	520.9	8.5
花崗岩	5	0.9	16.4	0.3
チャート	86	16.3	636.9	10.4
安山岩	19	3.6	450.2	7.3
合計	528	100	6132.6	100



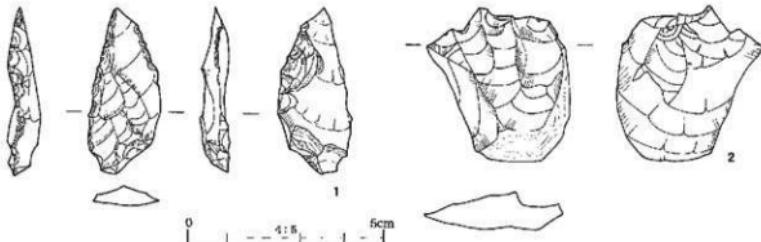
第9図 磨群出土石器①1号



第10図 磐群出土石器② 1・2号



第11図 磨群出土石器③2・3号



第12図 碓群出土石器④ 3号

第12表 碓群構成礫の赤化・黒色付着物状況

礫群	完形度	実数	赤化		黒色	
			表(%)	割(%)	表(%)	割(%)
1号	1	2	100	-	1	50
	2	1	100	1	100	0
	3	-	-	-	-	-
	4	3	100	3	100	1
	5	6	100	6	100	1
	6	223	190	85.2	222	99.6
計			235	202	86	232
赤化			98.7	9	3.8	22
黒色			9.4			
2号						
5	5	8	100	8	100	0
	6	110	101	91.8	110	100
	計	118	109	92.4	118	100
6	5	19	100	18	94.7	8
	6	156	133	85.3	136	87.2
	計	175	152	86.9	154	88
赤化			27	15.4	20	11.4
黒色			22	12.5	20	11.4
3号						
5	1~4	6	6	100	4	66.7
	5	33	33	100	32	97
	6	489	424	86.7	468	95.7
合計			528	463	87.7	504
赤化			95.5	51	9.7	60
黒色			11.4			

第13表 碓群構成礫完形度別重量表

重量	1号礫群						2号礫群		3号礫群	
	1	2	3	4	5	6	5	6	5	6
0~5.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	36	-
5.1~10.0g	-	-	-	-	-	-	54	-	25	-
10.1~15.0g	-	-	-	-	-	-	22	-	19	-
15.1~20.0g	-	-	-	-	-	-	14	-	12	-
20.1~25.0g	-	-	-	-	-	-	1	10	1	5
25.1~30.0g	-	-	-	-	-	-	9	1	5	1
30.1~35.0g	-	-	-	-	-	-	2	3	4	3
35.1~40.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
40.1~45.0g	-	-	-	-	-	-	1	1	3	3
45.1~50.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
50.1~55.0g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
55.1~60.0g	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
60.1~65.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
65.1~70.0g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
70.1~75.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
75.1~80.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
80.1~85.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
85.1~90.0g	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
90.1~95.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
95.1~100.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
100.1~105.0g	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
105.1~110.0g	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
110.1~115.0g	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
155.1~160.0g	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2	1	0	3	6	223	8	110	19	156

形石器を含む。1号の石器群は石器製作に伴う残滓の可能性が考えられるが、2・3号ではそれに加えて、不用になった石器を遺棄・廃棄した場所の可能性が考えられる。

④ 碓群構成礫の大きさ

礫群構成礫については、計測可能な全点について、重量を計測、完形度(1: 完形、2: 一部欠損、3: 75%以上残、4: 50~75%残、5: 20~50%残、6: 小破片(25%未満残))、赤化・黒色付着物の有無について観察し、また個体分類と接合作業を行った。個別データの表については、第14表～第17表に提示したとおりである。

大きさについては破片が多く割れ方が一定しないので、重量を中心みるとこととする(第13表)。完形度別にみると、割れていないもの(完形度1)は2点で、160.0 gと110.1 g。一部欠損(完形度2)は1点

第14表 繩群構成種別測定表①

1号繩群

グリッド	No.	繩種	完形度	赤化		黒		重量(g)	接合状況
				表	割	表	割		
GE-55c	1	チャート	6	1	0	0	0	3.0	
GE-55c	2	石英班岩	6	1	1	0	0	2.8	s11
GE-55c	3	砂岩	6	1	1	0	0	1.5	
GE-55c	4	チャート	6	1	1	0	0	0.7	
GE-55c	7	石英班岩	5	1	1	0	0	30.2	s7
GE-55c	8	チャート	6	1	1	0	0	11.5	
GE-55c	9	流紋岩	6	1	1	0	0	0.9	
GE-55c	10	チャート	6	-	1	-	0	3.6	
GE-55c	11	石英班岩	6	-	1	-	0	0.2	
GE-55c	13	凝灰岩	6	1	1	0	0	3.5	
GE-55c	14	砂岩	6	1	1	0	1	0.8	
GE-55c	16	石英班岩	6	1	1	0	0	16.4	s13
GE-55c	17	安山岩	6	1	1	0	0	6.9	
GE-55c	18	砂岩	6	1	1	0	0	7.9	
GE-55c	19	石英班岩	6	1	1	0	0	6.5	s8
GE-55c	20	砂岩	6	1	1	0	0	3.5	
GE-55c	21	チャート	6	1	1	0	0	7.6	
GE-55c	22	流紋岩	6	1	1	0	0	16.8	
GE-55c	24	チャート	6	-	1	-	0	0.1	
GE-55c	25	チャート	6	1	1	0	1	6.5	
GE-55c	26	チャート	6	1	1	0	0	4.3	
GE-55c	27	砂岩	6	1	1	0	0	22.1	
GE-55c	28	凝灰岩	6	1	0	0	0	3.5	
GE-55c	29	砂岩	6	1	1	0	0	2.3	
GE-55c	30	チャート	6	1	1	0	0	9.6	
GE-55c	31	石英班岩	6	1	1	0	0	1.8	
GE-55c	33	砂岩	6	1	1	0	0	4.3	
GE-55c	34	砂岩	6	1	1	0	0	28.2	
GE-55c	35	砂岩	6	1	1	0	0	2.4	
GE-55c	37	チャート	6	1	1	0	0	1.5	
GE-55c	38	チャート	6	-	1	-	0	2.3	
GE-55c	39	石英班岩	6	1	1	0	0	28.6	s8
GE-55c	40	チャート	6	-	1	-	0	0.5	
GE-55c	42	砂岩	6	1	1	0	0	2.3	
GE-55c	45	チャート	6	1	1	0	-	0.9	
GE-55c	46	砂岩	6	1	1	0	0	0.5	
GE-55c	47	チャート	6	1	1	0	0	5.0	
GE-55c	48	砂岩	6	1	1	0	0	8.0	
GE-55c	49	チャート	6	1	1	0	0	2.4	
GE-55c	50	流紋岩	6	1	1	0	1	2.8	
GE-55c	51	石英班岩	6	1	1	0	0	11.4	
GE-55c	52	砂岩	6	1	1	0	0	10.4	
GE-55c	53	チャート	6	1	1	0	0	2.7	
GE-55c	54	流紋岩	6	1	1	0	0	2.1	
GE-55c	55	流紋岩	6	1	1	0	0	3.7	
GE-55c	56	チャート	6	1	1	0	0	7.3	
GE-55c	57	石英班岩	6	1	1	0	0	13.4	s9
GE-55c	58	砂岩	6	1	1	0	0	10.5	
GE-55c	60	砂岩	6	1	1	0	0	4.0	
GE-55c	61	砂岩	6	1	1	0	0	9.9	
GE-55c	63	花崗岩	6	-	1	-	0	0.4	
GE-55c	64a	石英班岩	6	1	1	0	0	6.2	
GE-55c	64b	砂岩	6	1	1	0	0	2.8	
GE-55c	65	石英班岩	6	1	1	0	1	16.4	
GE-55c	66	チャート	6	1	1	0	0	4.0	s1
GE-55c	67	砂岩	6	1	1	0	0	27.1	s6
GE-55c	68	凝灰岩	6	1	1	0	0	5.3	
GE-55c	69	石英班岩	6	1	1	0	0	15.2	
GE-55c	70	チャート	6	1	1	1	0	6.2	
GE-55c	71	流紋岩	6	1	1	0	0	9.9	s4
GE-55c	73	砂岩	6	1	1	0	0	6.8	
GE-55c	74	石英班岩	6	1	1	0	1	23.7	
GE-55c	75	石英班岩	6	1	1	0	0	4.5	s13
GE-55c	76	石英班岩	5	1	1	0	1	6.5	
GE-55c	77	チャート	6	1	1	0	0	1.9	
GE-55c	78	凝灰岩	6	1	1	0	0	4.0	
GE-55c	79	石英班岩	6	1	1	1	1	7.3	
GE-55c	80	石英班岩	6	1	1	0	0	4.2	
グリッド	No.	繩種	完形度	赤化		黒		重量(g)	接合状況
				表	割	表	割		
GE-55c	82	チャート	6	1	1	0	0	12.2	
GE-55c	83	流紋岩	6	1	1	0	1	14.8	s22
GE-55c	84	石英班岩	6	1	1	0	0	17.1	s12
GE-55c	85	チャート	6	-	1	-	0	1.3	
GE-55c	86	石英班岩	6	1	1	0	1	10.8	
GE-55c	88	流紋岩	6	-	1	-	0	1.9	
GE-55c	89	凝灰岩	6	1	1	0	0	9.3	
GE-55c	92	砂岩	6	-	1	-	0	3.5	
GE-55c	93	石英班岩	6	1	1	0	0	4.4	
GE-55c	94	砂岩	6	1	1	0	0	11.2	
GE-55c	95	石英班岩	6	-	1	-	0	0.3	
GE-55c	96	チャート	6	1	1	0	0	6.1	
GE-55c	97	チャート	6	1	1	0	0	18.5	
GE-55c	100	砂岩	6	1	1	0	0	0.7	
GE-55c	101	流紋岩	6	1	1	0	0	8.2	
GE-55c	105	砂岩	6	1	1	0	0	6.8	s24
GE-55c	106	砂岩	6	1	1	0	0	2.6	
GE-55c	107	石英班岩	6	1	1	0	0	7.4	s8
GE-55c	108	砂岩	6	1	1	0	0	8.3	
GE-55c	109	石英班岩	4	1	1	0	1	89.2	
GE-55c	110	凝灰岩	6	-	1	-	0	4.4	
GE-55c	111	砂岩	6	1	1	0	0	18.4	
GE-55c	112	砂岩	6	1	1	0	0	7.9	
GE-55c	113	流紋岩	6	1	1	0	0	3.6	
GE-55c	114	石英班岩	6	1	1	0	0	4.7	
GE-55c	115	石英班岩	6	1	1	0	0	10.8	
GE-55c	116	石英班岩	6	1	1	0	0	3.5	
GE-55c	117	砂岩	6	1	1	0	0	9.3	
GE-55c	118	石英班岩	6	1	1	0	0	8.2	
GE-55c	119	花崗岩	6	1	1	0	0	2.1	
GE-55c	120	チャート	6	1	1	0	0	3.3	
GE-55c	121	石英班岩	6	1	1	1	0	33.1	s3
GE-55c	125	チャート	6	1	1	0	0	1.8	
GE-55c	127	流紋岩	6	1	1	0	1	5.9	
GE-55c	128	石英班岩	6	-	1	-	0	1.6	
GE-55c	129	安山岩	6	1	1	0	0	23.8	
GE-55c	131	チャート	6	1	1	0	0	5.1	
GE-55c	132	石英班岩	6	1	1	0	0	8.4	s23
GE-55c	133	チャート	6	1	1	0	0	14.3	s1
GE-55c	135	石英班岩	6	1	1	0	0	8.2	
GE-55c	136	チャート	6	-	1	-	0	2.1	
GE-55c	137	チャート	6	-	1	-	0	5.9	
GE-55c	138	石英班岩	5	1	1	1	0	44.6	s3
GE-55c	141	チャート	6	1	1	0	0	21.1	
GE-55c	142	チャート	6	-	1	-	0	3.3	
GE-55c	144	石英班岩	6	1	1	0	0	3.4	
GE-55c	147	砂岩	6	1	1	0	1	8.0	
GE-55c	148	石英班岩	6	1	1	0	1	8.8	
GE-55c	149	石英班岩	6	1	1	0	0	9.2	s9
GE-55c	150	砂岩	6	-	1	-	0	6.9	
GE-55c	151	砂岩	6	-	1	-	0	3.2	
GE-55c	152	砂岩	6	1	1	0	0	25.7	s5
GE-55c	153	石英班岩	6	1	1	0	0	13.1	s7
GE-55c	154	流紋岩	6	1	1	0	0	18.2	s4
GE-55c	155	砂岩	6	1	1	0	0	7.0	
GE-55c	156	チャート	6	-	1	-	0	1.6	
GE-55c	157	砂岩	6	1	1	0	0	2.2	
GE-55c	159	流紋岩	6	1	1	0	1	11.1	s22
GE-55c	160	砂岩	6	1	1	0	0	3.7	
GE-55c	161	砂岩	6	1	1	0	0	19.2	
GE-55c	164	砂岩	6	1	1	0	0	24.0	s6
GE-55c	165	花崗岩	6	1	1	0	0	3.3	
GE-55c	167	石英班岩	6	1	1	0	0	5.0	s12
GE-55c	168	砂岩	6	1	1	0	0	25.5	
GE-55c	169	砂岩	6	1	1	0	0	10.7	
GE-55c	170	流紋岩	6	1	1	0	0	31.7	
GE-55c	171	チャート	6	1	1	0	0	20.8	
GE-55c	173	チャート	6	1	1	0	0	2.2	

第15表 繩群構成種別測定表②

1号繩群

グリッド	No.	繩種	完形度	泰化		黒		重量(g)	接合状況
				表	割	表	割		
6E-55c	176	砂岩	6	1	0	0	0	2.7	
6E-55c	177	流紋岩	1	1	-	0	-	110.1	
6E-55c	180	流紋岩	5	-	1	-	0	0.1	
6E-55c	182	砂岩	6	1	1	0	0	3.8	
6E-55c	183	凝灰岩	6	1	1	0	0	9.8	
6E-55c	184	砂岩	6	1	1	0	0	0.8	
6E-55c	185	安山岩	6	-	1	-	0	0.4	
6E-55c	187	石英斑岩	6	1	1	0	0	1.4	
6E-55c	188	砂岩	6	-	1	-	0	0.1	
6E-55c	189	砂岩	6	1	1	0	0	8.9	
6E-55d	1	砂岩	6	1	0	0	0	6.6	
6E-55d	2	チャート	6	1	1	0	0	1.9	
6E-55d	3a	チャート	6	-	1	-	0	2.0	
6E-55d	3b	砂岩	6	1	1	0	0	1.8	
6E-55d	4a	砂岩	6	1	1	0	0	4.1	
6E-55d	4b	砂岩	6	1	1	0	0	12.2	
6E-55d	7	砂岩	6	1	1	0	0	1.4	
6E-55d	9	砂岩	6	1	1	0	0	12.8	
6E-55d	12	チャート	6	1	1	0	0	12.7	s21
6E-55d	13	砂岩	6	-	1	-	0	2.4	
6E-55d	15	チャート	6	-	1	-	0	2.3	
6E-55d	16	流紋岩	6	1	1	0	0	16.1	
6E-55d	17	安山岩	6	1	1	0	0	53.9	
6E-55d	20	流紋岩	6	1	1	0	0	1.3	
6E-55d	21	チャート	6	1	1	0	0	6.7	
6E-55d	24	流紋岩	6	1	1	1	1	1.7	
6E-55d	26	チャート	6	1	1	0	0	2.3	
6E-55d	27	砂岩	2	1	1	0	0	101.9	
6E-55d	29	安山岩	6	1	1	0	1	17.9	
6E-55d	30	石英斑岩	6	1	1	0	0	4.4	
6E-55d	31	石英斑岩	6	1	1	0	0	2.0	
6E-55d	32	安山岩	6	1	1	0	0	26.2	
6E-55d	33	安山岩	6	1	1	0	0	2.3	
6E-55d	34	流紋岩	6	1	1	0	0	23.2	s3
6E-55d	35	石英斑岩	6	1	1	0	0	29.9	
6E-55d	38	流紋岩	6	1	1	0	0	1.8	
6E-55d	40	流紋岩	6	1	1	0	1	8.3	
6E-55d	41	チャート	6	1	1	0	0	1.0	
6E-55d	43	砂岩	6	1	1	0	0	4.7	
6E-55d	44	砂岩	6	1	1	0	0	7.2	
6E-55d	45	砂岩	6	-	1	-	0	7.7	
6E-55d	46	砂岩	6	1	1	0	0	23.5	s5
6E-55d	48	チャート	6	1	1	0	0	2.2	
6E-55d	50	砂岩	6	1	1	0	0	0.8	
6E-55d	52	チャート	6	1	1	0	0	14.0	s21
6E-55d	55	流紋岩	6	1	1	0	0	2.4	
6E-55d	57	石英斑岩	6	-	1	-	0	7.8	
6E-55d	58	砂岩	6	1	1	0	0	22.8	s10
6E-55d	59	石英斑岩	6	1	1	0	0	1.4	
6E-55d	60	砂岩	5	1	1	0	0	24.6	
6E-55d	61	石英斑岩	5	1	1	0	0	48.3	
6E-55d	62	石英斑岩	6	1	1	0	0	33.4	
6E-55d	63	花崗岩	6	1	1	0	0	2.6	
6E-55d	64	流紋岩	6	1	1	0	0	0.3	
6E-55d	66	チャート	5	1	1	0	0	34.0	
6E-55d	70	石英斑岩	6	1	1	0	0	3.4	
6E-55d	73	石英斑岩	6	1	1	0	0	11.7	s13
6E-55d	74	砂岩	6	1	1	0	0	7.3	
6E-55d	75	安山岩	6	-	1	-	0	19.2	
6E-55d	76	砂岩	6	-	1	-	1	17.8	
6E-55d	77	チャート	6	1	1	0	0	7.2	
6E-55d	79	流紋岩	6	-	1	-	0	1.3	
6E-55d	87	流紋岩	6	1	1	0	0	1.8	
6E-55d	88	チャート	6	1	1	0	0	29.6	s1
6E-55d	92	石英斑岩	6	1	1	0	0	2.4	
6E-55d	93	砂岩	6	1	1	0	0	3.0	
6E-55d	94	砂岩	6	1	1	0	0	4.0	
6E-55d	96	石英斑岩	6	1	1	0	0	8.3	s11

1号繩群

グリッド	No.	繩種	完形度	泰化		黒		重量(g)	接合状況	
				表	割	表	割			
6E-55d	100	チャート	6	-	1	-	0	4.2		
6E-55d	105	石英斑岩	6	1	1	0	0	6.6		
6E-55d	107	チャート	6	1	1	0	0	9.9	s21	
6E-55d	108	チャート	6	1	1	0	0	7.8		
6E-55d	109	安山岩	6	1	1	0	0	7.5		
6E-55d	111	チャート	6	1	1	0	0	1.2		
6E-55d	112	チャート	6	-	1	-	0	4.5		
6E-55d	113	砂岩	6	1	1	1	0	12.1		
6E-55d	117	安山岩	6	1	1	1	0	8.7		
6E-55d	120	砂岩	6	1	1	0	0	2.5		
6E-55d	121	チャート	6	1	1	0	0	2		
6E-55d	122	流紋岩	6	1	1	0	0	5.6		
6E-55d	124	砂岩	6	1	1	0	0	1.4		
6E-55d	125	花崗岩	6	1	1	1	0	1.7		
6E-55d	128	チャート	6	1	1	1	0	11.1		
6E-55d	130	流紋岩	6	1	1	1	0	1.2		
6E-55d	132	チャート	6	1	1	1	0	0.8		
6E-55d	137	石英斑岩	6	1	1	1	0	3.8		
6E-55d	138	砂岩	6	1	1	1	0	4		
6E-55d	140	流紋岩	6	1	1	1	0	15.1	s2	
6E-55d	142	砂岩	6	1	1	1	0	6.8		
6E-55d	143	砂岩	6	1	1	1	0	10.8	s10	
6E-55d	157	流紋岩	6	-	1	-	0	4.9		
6E-56a	1	流紋岩	6	1	1	1	0	12.9	s2	
6E-56a	2	砂岩	6	1	1	1	0	22.4	s5	
6E-56b	1	流紋岩	6	1	1	1	0	28.5	s2	
6E-56b	2	流紋岩	4	1	1	1	0	40.7		
6E-56b	3	流紋岩	4	1	1	1	0	22.1		
6E-56b	4	安山岩	1	1	1	-	1	160.0		
6E-56b	5	石英斑岩	6	1	1	1	0	4.5		
6E-56d	4	砂岩	6	1	1	0	0	18.3		
6E-56d	5	砂岩	6	1	1	1	0	3.3		
6E-56d	6	砂岩	6	-	1	-	1	15.8		
6E-56d	7a	砂岩	6	1	1	1	0	11.1		
6E-56d	7b	砂岩	6	1	1	1	0	2		
6E-56d	8	砂岩	6	1	1	1	0	17		
6E-56d	9	砂岩	6	1	1	1	0	19.3	s19	
6E-56d	12	砂岩	6	1	1	1	0	18.9		
6E-56d	13	砂岩	6	-	1	-	1	3.5		
6E-56d	15	砂岩	5	1	1	1	0	37.1		
6E-56d	16	石英斑岩	6	1	1	1	0	15.4		
6E-56d	17	石英斑岩	6	1	1	1	0	18.3	s16	
6E-56d	18	石英斑岩	6	1	1	1	0	41.4	s17	
6E-56d	19	砂岩	5	1	1	1	0	43.6		
6E-56d	20	石英斑岩	6	1	1	1	0	8.5		
6E-56d	22	砂岩	6	1	1	1	0	0	11	
6E-56d	23	砂岩	6	1	1	1	0	0	10.2	
6E-56d	24	石英斑岩	6	1	1	1	0	0	30.4	s15
6E-56d	25	石英斑岩	6	1	1	1	0	0	33.5	s14
6E-56d	26	石英斑岩	6	1	1	1	0	0	4.6	s16
6E-56d	27	砂岩	6	1	1	1	0	0	7.8	
6E-56d	28	砂岩	6	1	1	1	0	0	8.5	
6E-56d	30	石英斑岩	6	1	1	1	0	0	4.9	s15
6E-56d	31	砂岩	6	1	1	1	0	0	11.6	
6E-56d	32	砂岩	6	1	1	1	1	1	25.9	s18
6E-56d	33	砂岩	6	1	1	1	1	0	16.4	
6E-56d	34	チャート	6	1	1	1	0	0	5.8	
6E-56d	35	砂岩	6	1	1	1	0	0	20.8	s19
6E-56d	36	砂岩	6	1	1	1	0	0	8.9	
6E-56d	37	砂岩	6	1	1	1	0	0	34.2	
6E-56d	38	石英斑岩	6	1	1	1	0	0	4.7	
6E-56d	39	石英斑岩	6	1	1	1	0	0	42.6	
6E-56d	41	流紋岩	5	1	1	0	1	0	20.6	

第16表 繩群構成種別測定表③

2号繩群

グリッド	No.	繩種	完形度	泰化		黒 重量(g)	接合状況
				表	割		
6E-56d	42	チャート	6	1	1	0	5.0
6E-56d	43	流紋岩	6	1	1	0	4.0
6E-56d	44	砂岩	6	1	1	0	24.6
6E-56d	47	石英班岩	6	1	1	0	12.9
6E-56d	48	チャート	6	1	1	0	4.6
6E-56d	49	チャート	6	1	1	0	32.5
6E-56d	50	砂岩	6	1	1	0	14.5
6E-56d	51	チャート	6	1	1	1	19.6
6E-56d	52	砂岩	6	1	1	0	9.3
6E-56d	53	砂岩	6	1	1	0	22.0
6E-56d	54	チャート	6	1	1	0	5.8
6E-56d	55	石英班岩	6	1	1	0	26.1
6E-56d	56	石英班岩	6	-	1	-	7.7
6E-56d	57a	砂岩	6	1	1	0	1.5
6E-56d	57b	砂岩	6	1	1	0	1.6
6E-56d	60	石英班岩	6	1	1	0	5.5
6E-56d	61	チャート	6	1	1	0	7.1
6E-56d	63	砂岩	6	1	1	0	6.3
6E-56d	65	石英班岩	6	1	1	0	2.3
6E-56d	66	石英班岩	6	1	1	0	14.9
6E-56d	67	砂岩	6	1	1	0	14.5
6E-56d	68	砂岩	6	1	1	0	4.4
6E-56d	69	砂岩	6	1	1	0	3.4
6E-56d	73	砂岩	6	1	1	0	0.4
6E-56d	76	石英班岩	6	-	1	-	39.3
6E-57b	2	石英班岩	6	1	1	0	12.7
6E-57b	3	砂岩	6	1	1	0	3.6
6E-57b	4	砂岩	6	1	1	0	16.7
6E-57b	5	石英班岩	6	1	1	0	27.2
6E-57b	6	石英班岩	6	1	1	0	28.7
6E-57b	7	石英班岩	5	1	1	0	41.3
6E-57b	8	石英班岩	5	1	1	0	56.3
6E-57b	9	砂岩	6	1	1	0	9.2
6E-57b	10	砂岩	5	1	1	0	29.9
6E-57b	11	チャート	6	1	1	0	10.6
6E-57b	12	チャート	6	1	1	0	28.0
6E-57b	13	流紋岩	6	1	1	0	8.4
6E-57b	14	砂岩	6	1	1	0	6.1
6E-57b	15	砂岩	6	1	1	0	8.9
6E-57b	16	砂岩	6	1	1	0	3.2
6E-57b	18	砂岩	6	1	1	0	13.6
6E-57b	19	砂岩	6	1	1	0	41.3
6E-57b	20	凝灰岩	6	1	1	0	1.6
6E-57b	21	チャート	6	1	1	0	6.9
6E-57b	23	石英班岩	6	1	1	0	13.7
6E-57b	25	砂岩	5	1	1	0	39.9
6E-57b	27	砂岩	6	1	1	0	1.8
6E-57b	28	石英班岩	6	1	1	0	24.9
6E-57b	29	砂岩	6	1	1	0	13.8
6E-57b	32	砂岩	6	1	1	1	16.6
6E-57b	34	砂岩	6	1	1	0	12.7
6E-57b	37	砂岩	6	1	1	0	4.7
6E-57b	39	砂岩	6	1	1	0	17.3
6E-57b	40	砂岩	6	1	1	0	0.8
6E-57b	41	石英班岩	6	1	1	0	20.4
6E-57b	42	砂岩	6	1	1	0	12.5
6E-57b	43	砂岩	6	1	1	0	14.4
6E-57b	44	砂岩	6	-	1	-	14.7
6E-57b	45	砂岩	6	-	1	-	6.0
6E-57b	46	流紋岩	6	1	1	0	1.8
6E-57b	47	砂岩	6	1	1	0	18.4
6E-57b	48	チャート	6	1	1	0	5.7
6E-57b	50	石英班岩	6	1	1	0	8.6
6E-57b	51	流紋岩	6	1	1	1	4.0
6E-57b	52	砂岩	6	1	1	0	4.8
6E-57b	53	砂岩	6	1	1	0	1.2
6E-57b	54	砂岩	6	1	1	0	0.6
6E-57b	55	砂岩	6	1	1	0	3.2

2号繩群

グリッド	No.	繩種	完形度	泰化		黒 重量(g)	接合状況
				表	割		
6E-57b	57	砂岩	6	-	1	-	1
6E-57b	58	安山岩	6	1	1	0	10.3
6E-57b	59	砂岩	6	1	1	0	1.7
6E-57b	60	石英班岩	6	-	1	-	1
6E-57b	61	石英班岩	6	1	1	0	5.9
6E-57b	62	砂岩	6	1	1	1	1.6
6E-57b	63	砂岩	6	1	1	1	0.8
6E-57b	64	安山岩	5	1	1	0	42.2
6E-57b	65	石英班岩	6	1	1	0	3.4
6E-57b	66	砂岩	6	-	1	-	0.3
6E-57b	67	流紋岩	6	1	1	1	0.9
6E-57b	68	チャート	6	1	1	0	2.7
6E-57b	70	チャート	6	1	1	0	9.6
6E-57b	71	チャート	6	1	1	0	7.7
6E-57b	72	石英班岩	6	1	1	1	4.7
6E-66c	3	流紋岩	6	1	1	1	6.7
6E-66c	4	流紋岩	6	1	1	0	0.5
6E-9a	1	砂岩	5	1	1	0	38.2
6E-9a	2	砂岩	6	1	1	0	5.6
6E-9a	3	石英班岩	5	1	1	1	64.1
6E-9a	4	砂岩	5	1	1	0	47.3
6E-9a	5	砂岩	6	1	1	0	34.1
6E-9a	6	安山岩	6	1	1	0	17.5
6E-9a	7	凝灰岩	6	1	1	1	6.1
6E-9a	8	石英班岩	6	1	1	0	12.7
6E-9a	9	砂岩	5	1	1	0	26.1
6E-9a	10	砂岩	6	1	0	0	3.0
6E-9a	11	砂岩	6	1	1	1	4.3
6E-9a	12	砂岩	6	1	1	0	13.8
6E-9a	13	砂岩	5	1	1	0	20.9
6E-9a	14	砂岩	6	1	1	0	7.7
6E-9a	15	砂岩	6	1	1	1	0.5
6E-9a	16	砂岩	6	1	1	0	12.6
6E-9a	17	砂岩	6	1	1	1	11.0
6E-9a	18	砂岩	6	1	1	1	11.2
6E-9a	19	砂岩	6	1	1	1	9.3
6E-9a	20	砂岩	5	1	1	1	0.5
6E-9a	21	流紋岩	6	1	1	1	0.8
6E-9a	22	砂岩	6	1	1	1	23.8
6E-9a	23	安山岩	6	-	0	-	10.0
6E-9a	24	砂岩	6	1	1	1	0.3
6E-9a	25	砂岩	6	1	1	1	9.4
6E-9a	26	砂岩	6	1	1	1	4.9
6E-9a	27	砂岩	6	1	1	0	18.5
6E-9a	30	砂岩	6	1	1	0	3.7
6E-9a	31	砂岩	6	1	1	1	2.8
6E-9a	32	砂岩	6	1	1	0	20.7
6E-9a	35	砂岩	6	1	1	1	6.2
6E-9a	36	砂岩	6	1	1	0	30.0
6E-9a	37	砂岩	5	1	1	1	47.3
6E-9a	38	砂岩	6	1	1	1	11.6
6E-9a	39	凝灰岩	5	1	1	1	34.6
6E-9a	43	砂岩	6	1	1	0	26.3
6E-9a	44	砂岩	6	1	1	0	16.1
6E-9a	45	砂岩	6	1	1	1	2.9
6E-9a	46	砂岩	6	1	1	0	3.0
6E-9a	47	砂岩	6	1	1	1	11.8
6E-9a	48	砂岩	6	1	1	1	9.0
6E-9a	49	砂岩	6	1	1	1	0
6E-9a	50	石英班岩	6	1	1	0	4.1
6E-9a	51	砂岩	6	1	1	1	11.8
6E-9a	52	砂岩	6	1	1	1	0.6
6E-9a	53	石英班岩	6	1	1	1	30.4
6E-9a	54	砂岩	6	1	1	0	1.1

第17表 繊群構成種計測表④

3号繊群

グリッド	No.	繊種	完形度	化成		重量(g)	接合状況
				表	裏		
6F-9a	55	砂岩	6	1	0	0	16.4
6F-9a	56	砂岩	6	-	1	0	27.0
6F-9a	57	砂岩	6	1	0	0	29.6
6F-9a	58	チャート	6	1	1	0	1.4
6F-9a	59	砂岩	5	1	1	0	46.8
6F-9a	60	砂岩	6	1	1	0	5.6
6F-9a	61	砂岩	5	1	1	0	36.9
6F-9a	62	砂岩	6	1	1	0	0.3
6F-9a	63	砂岩	6	1	1	0	20.5
6F-9a	64	砂岩	5	1	1	0	35.6
6F-9a	65	砂岩	6	1	1	0	12.5
6F-9a	66	砂岩	5	1	1	0	31.4
6F-9a	67	砂岩	6	1	1	0	2.3
6F-9a	68	安山岩	6	1	1	0	29.3
6F-9a	69	砂岩	6	1	1	0	5.8
6F-9a	70	砂岩	6	-	0	0	2.6
6F-9a	71	チャート	6	1	1	0	27.7
6F-9a	72	チャート	6	1	1	0	4.5
6F-9a	73	砂岩	6	1	1	0	4.0
6F-9a	74	砂岩	6	1	1	0	3.6
6F-9a	75	砂岩	6	-	1	0	0.8
6F-9a	76	チャート	6	1	1	0	1.5
6F-9a	77	砂岩	6	1	1	0	14.6
6F-9a	78	砂岩	6	1	1	0	19.1
6F-9a	79	砂岩	6	-	1	0	2.1
6F-9a	80	砂岩	6	1	1	0	0.9
6F-9a	81	砂岩	6	1	1	0	23.0
6F-9a	82	石英斑岩	6	1	1	0	1.1
6F-9a	83	砂岩	5	1	1	0	44.5
6F-9a	84	砂岩	6	1	1	1	3.3
6F-9a	85	チャート	6	-	0	0	1.2
6F-9a	86	砂岩	6	1	1	0	1.4
6F-9a	87	砂岩	6	1	1	1	3.7
6F-9a	88	チャート	6	1	1	0	12.5
6F-9a	89	砂岩	6	1	1	0	11.7
6F-9a	91	砂岩	6	1	1	0	9.2
6F-9a	92	砂岩	6	1	1	0	3.8
6F-9a	94	流紋岩	6	1	1	0	13.4
6F-9a	96	砂岩	6	1	1	0	15.2
6F-9a	97	石英斑岩	6	1	1	0	10.0
6F-9a	98	砂岩	6	1	1	0	1.0
6F-9a	99	砂岩	6	-	1	-	1.9
6F-9a	100	砂岩	6	1	0	0	1.9
6F-9a	101	砂岩	6	-	1	-	2.7
6F-9a	102	砂岩	6	1	0	0	20.8
6F-9a	103	砂岩	5	1	1	0	24.9
6F-9a	104	石英斑岩	6	1	0	0	3.9
6F-9a	105	砂岩	6	1	1	0	29.7
6F-9a	107	砂岩	6	1	1	0	10.9
6F-9a	108	凝灰岩	6	1	1	0	20.2
6F-9a	109	流紋岩	6	1	1	0	4.6
6F-9a	110	砂岩	6	-	1	-	3.9
6F-9a	111	砂岩	6	1	1	0	12.3
6F-9a	112	チャート	6	1	1	0	1.8
6F-9a	113	砂岩	6	1	1	1	8.1
6F-9a	114	砂岩	6	-	1	-	0.4
6F-9a	115	石英斑岩	6	-	1	-	0.1
6F-9a	116	砂岩	6	1	1	0	2.6
6F-9a	117	凝灰岩	6	0	0	0	0.5
6F-9a	118	安山岩	6	1	0	0	7.3
6F-9a	119	石英斑岩	6	1	1	0	8.7
6F-9a	120	砂岩	6	-	1	-	0.2
6F-9a	121	砂岩	6	1	1	0	9.5
6F-9a	122	砂岩	5	1	1	0	14.3

3号繊群

グリッド	No.	繊種	完形度	化成		重量(g)	接合状況
				表	裏		
6F-9a	123	チャート	6	-	1	-	0
6F-9a	124	砂岩	6	-	1	-	0
6F-9a	125	チャート	6	0	1	0	0
6F-9a	127	砂岩	5	1	1	0	0
6F-9a	128	凝灰岩	5	1	0	1	0
6F-9a	129	砂岩	6	-	1	-	0
6F-9a	130	チャート	6	0	0	0	0
6F-9a	131	石英斑岩	5	1	1	1	1
6F-9a	132	石英斑岩	6	1	0	0	2.8
6F-9a	133	砂岩	5	1	1	1	0
6F-9a	134	砂岩	6	1	0	0	13.1
6F-9a	136	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9a	137	砂岩	6	1	1	0	1.8
6F-9a	138	凝灰岩	6	1	1	1	0
6F-9a	139	砂岩	6	1	1	0	0.1
6F-9a	140	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9a	141	砂岩	6	1	1	0	0.9
6F-9a	142	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9a	143	砂岩	6	-	1	-	0
6F-9a	144	砂岩	6	1	1	0	1.3
6F-9a	145	チャート	6	1	0	0	4.6
6F-9a	146	砂岩	6	1	0	0	2.2
6F-9a	147	砂岩	6	1	1	0	0.6
6F-9a	148	砂岩	6	1	1	0	0.5
6F-9a	149	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9a	150	安山岩	6	1	0	0	0.23
6F-9a	151	砂岩	6	1	0	0	0.12
6F-9a	152	砂岩	6	1	1	0	0.24
6F-9a	153	流紋岩	6	-	1	-	0
6F-9a	154	流紋岩	6	1	1	0	0.41
6F-9a	155	チャート	6	1	1	0	0
6F-9a	158	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9a	159	流紋岩	6	1	1	0	0
6F-9a	160	チャート	6	1	1	0	0
6F-9a	161	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9a	162	砂岩	5	1	1	1	0
6F-9a	163	砂岩	6	1	1	0	0.1
6F-9a	164	石英斑岩	6	1	1	0	0
6F-9a	165	凝灰岩	6	-	1	-	0
6F-9a	166	砂岩	6	1	1	0	0.9
6F-9a	167	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9a	168	凝灰岩	6	1	1	0	0.14
6F-9a	169	チャート	6	1	1	1	0
6F-9a	170	凝灰岩	6	1	1	0	0.87
6F-9a	171	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9a	172	砂岩	6	-	1	-	0
6F-9a	173	砂岩	6	1	1	0	0.21
6F-9b	3	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	4	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	5	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	7	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	9	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	10	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	11	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	12	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	13	チャート	6	1	1	0	0
6F-9b	14	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	15	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	17	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	19	砂岩	6	1	1	1	0
6F-9b	20	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	22	安山岩	6	1	1	0	0
6F-9b	23	チャート	6	-	1	-	0
6F-9b	26	砂岩	6	1	1	0	0
6F-9b	27	砂岩	6	1	1	0	0

凡例

<完形度> 繊片の進存度を6段階に区分 1:定形 2:一部欠損 3:75%以上残 4:50~75%残 5:25~50%残 6:小破片(25%未満残)

<赤化・黒色炭化物> 各項の左は表面 右は割れ面 0:なし 1:あり <計測値> 重量 石器群計測表に同じ

で、101.9 g。接合個体には、s 21の109.7 g 及び s 03の107.6 g (完形度4)、s 26の103.2 g (完形度3)を計るものがあり、遺跡に持ち込まれた礫の重量はほぼ100~200 g の範囲に収まるものと考えられる。遺跡に残されている礫の大きさは、小さく割れているもの(完形度5・6)がほとんどで、完形度6が92.6%、完形度5が6.3%を占める。重量でみてみると、完形度6が20 g 以下を中心55 g 以下、完形度5は20~70 g で、完形度に関わらず50 g 以下のものが大半を占めている。

⑤ 赤化・黒色付着物

礫群構成礫は、その大半(95.5%)に赤化が観察された。一方、黒色付着物が観察されたのは全体の1割強(11.4%)である。これらについては、基本的には火を受けた痕跡であると考えられ、ほとんどの割れも被熱によるものと考えられる。大半の礫に赤化が認められたのに対し、黒色付着物が認められたのが一割強に留まった理由は、分析対象のほとんどが焼け弾けた小破片(完形度6)だったからであると考えられる。というのも完形度1・2・4は3分の1(33.3%)、完形度5は3割弱(27.3%)に黒色付着物が認められるのに対し、完形度6は1割強(10.6%)に留まっているからである。なお、赤化については、土壌埋没中に析出した鉄分が酸化したものである可能性もあるが、今回は被熱によるものとは分別できただと考えている。黒色付着物についてはマンガンと思われるものはなかった。

3. 調査区出土遺物(第13図)

3つの礫群周辺の他に、台地縁辺部に位置する調査区北西側の4 C グリッド、台地平坦部に位置する調査区北側の5 E・5 F グリッドから遺物が出土している。内訳はナイフ形石器3点、尖頭器4点、両極剥片1点、剥片1点である。石材は頁岩・黒曜石・粘板岩である。礫群周辺出土石器群とほぼ同一の層位から出土しているが、尖頭器は時期が異なる可能性がある。

第13図-1は厚手の剥片を打面下位に用いた二側縁加工のナイフ形石器である。濃いチョコレート色(褐色)の頁岩製である。刃部の形態的特徴が東内野型尖頭器の樋状剥離に類似しており、IV層上部に位置付けられる。2はやや厚手の剥片を打面横位に用いた基部加工のナイフ形石器である。薄いチョコレート色(外側が褐色、内側が灰色)をした頁岩製である。3は薄手の剥片を打面下位に用いた部分加工の黒曜石製ナイフ形石器である。黒曜石は透明度が高く良質である。4は厚手の剥片を用いた両面加工の尖頭器(木葉形)で、灰色頁岩製である。5は厚手の剥片を用いた両面加工の黒曜石製尖頭器(木葉形)である。黒曜石は不純物が多く質が悪い。6は厚手の剥片を用いた両面加工の尖頭器(木葉形)で、黒色頁岩製である。7は厚手の剥片を用いた両面加工の尖頭器(木葉形)で、粘板岩製である。9は両極剥片で、自然面が二面あり、上下両端から剥離が行われている。薄いチョコレート色(外側が褐色、内側が灰色)をした頁岩製である。

<参考文献>

- 安藤政雄・野口淳他 2000 『野行南遺跡』東村山市教育委員会
島田和高他 1996 『土気南遺跡群V 南河原坂第3遺跡』(財)千葉市文化財調査協会
篠瀬裕一 2003 『千葉市猪鼻城跡・皿池東遺跡-平成13年度調査-』(財)千葉市教育振興財团
田村隆・加納実 1996 『市原市武士遺跡1』第1分冊(財)千葉県文化財センター
青木幸一・吉田直哉他 1994 『大網山田台遺跡群! -旧石器時代篇-』(財)山武都市文化財センター

第18表 織群構成礫接合個体一覧表

出土地点	接合番号	接合数	完形度	石材	純重量 (g)	赤化		黒	
						表 表	割 割	表 表	割 割
1号織群	s01	3	5	チャート	47.9	3	3	0	0
1号織群	s02	3	4	流紋岩	56.5	3	3	0	2
1号織群	s03	3	4	石英斑岩	107.6	3	3	0	1
1号織群	s04	2	5	流紋岩	28.1	2	2	0	0
1号織群	s05	3	5	砂岩	71.6	3	3	0	0
1号織群	s06	2	5	砂岩	51.1	2	2	0	0
1号織群	s07	2	5	石英斑岩	42.8	2	2	0	0
1号織群	s08	3	5	石英斑岩	42.5	3	3	0	0
1号織群	s09	2	6	石英斑岩	22.6	2	2	0	0
1号織群	s10	2	5	砂岩	33.6	2	2	0	0
1号織群	s11	2	6	石英斑岩	11.1	2	2	0	0
1号織群	s12	2	6	石英斑岩	22.1	2	2	0	0
1号織群	s13	3	6	石英斑岩	32.6	3	3	0	0
2号織群	s14	2	5	石英斑岩	36.9	2	2	0	0
2号織群	s15	2	6	石英斑岩	35.3	2	2	0	0
2号織群	s16	2	6	石英斑岩	22.9	2	2	0	0
2号織群	s17	2	5	石英斑岩	70.1	2	2	0	0
2号織群	s18	3	5	砂岩	53.2	3	3	3	3
2号織群	s19	3	5	砂岩	54.5	3	3	0	0
2号織群	s20	2	6	チャート	13.4	2	2	0	0
1号・3号織群	s21	9	4	チャート	109.7	8	9	0	0
1号・2号織群	s22	3	5	流紋岩	34.3	3	3	0	3
1号・2号織群	s23	2	5	石英斑岩	35.6	2	2	0	0
1号織群	s24	2	6	砂岩	13.8	2	2	0	0
3号織群	s25	2	5	砂岩	50.9	2	2	2	0
3号織群	s26	3	5	石英斑岩	103.2	3	3	3	1
3号織群	s27	2	6	砂岩	25.6	2	2	0	2
3号織群	s28	2	5	砂岩	56.8	2	2	2	0
合計	-	73	146	-	1286.3	72	73	10	12

第19表 調査区出土石器群計測表

グリッド	No.	解説 調査区	器種	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	自然面	図版番号	備考
SE-2c	2	-	ナイフ	頁岩	38.7	20.2	8.8	6.1	0	第13図-1	
SE-56b	-	Ⅲ層	ナイフ	頁岩	35.3	23.5	6.2	3.2	0	第13図-2	刃部使用痕
SE-2b (A-039)	5	-	ナイフ	墨曜石	21.3	12.1	3.3	0.8	0	第13図-3	
4c-90a (A-081)	-	4区	尖頭器	頁岩	51.0	18.2	7.6	7.1	0	第13図-4	ファシット有り
SE-42b	6	-	尖頭器	墨曜石	41.7+	17.7	6.2	4.7	0	第13図-5	ファシット有り
SE-8c	-	-	尖頭器	頁岩	38.5	18.0	7.0	4.6	0	第13図-6	
SE-31a	9	-	尖頭器	粘板岩	28.2+	22.0	6.1	3.2	1	第13図-7	
4C-68d	-	IV層	剥片	頁岩	26.5	21.6	6.4	3.3	1	第13図-8	
SE-3a	7	-	両側剥片	頁岩	26.0+	23.0+	6.1	2.5	1	第13図-9	

(財)千葉県史料研究財团 2000 「千葉県の歴史 資料編 考古1(旧石器・縄文時代)」

(財)千葉県文化財センター 1987 「千葉県文化財センター研究紀要11 自然科学の手法による遺跡、遺物の研究5—先土器時代の石器石材の研究ー」

岩宿フォーラム実行委員会 1995 「石器石材～北関東の原石とその流通を中心として～予稿集」

岩宿フォーラム実行委員会 1997 「石器石材Ⅱ～北関東の原石とその流通を中心として～予稿集」

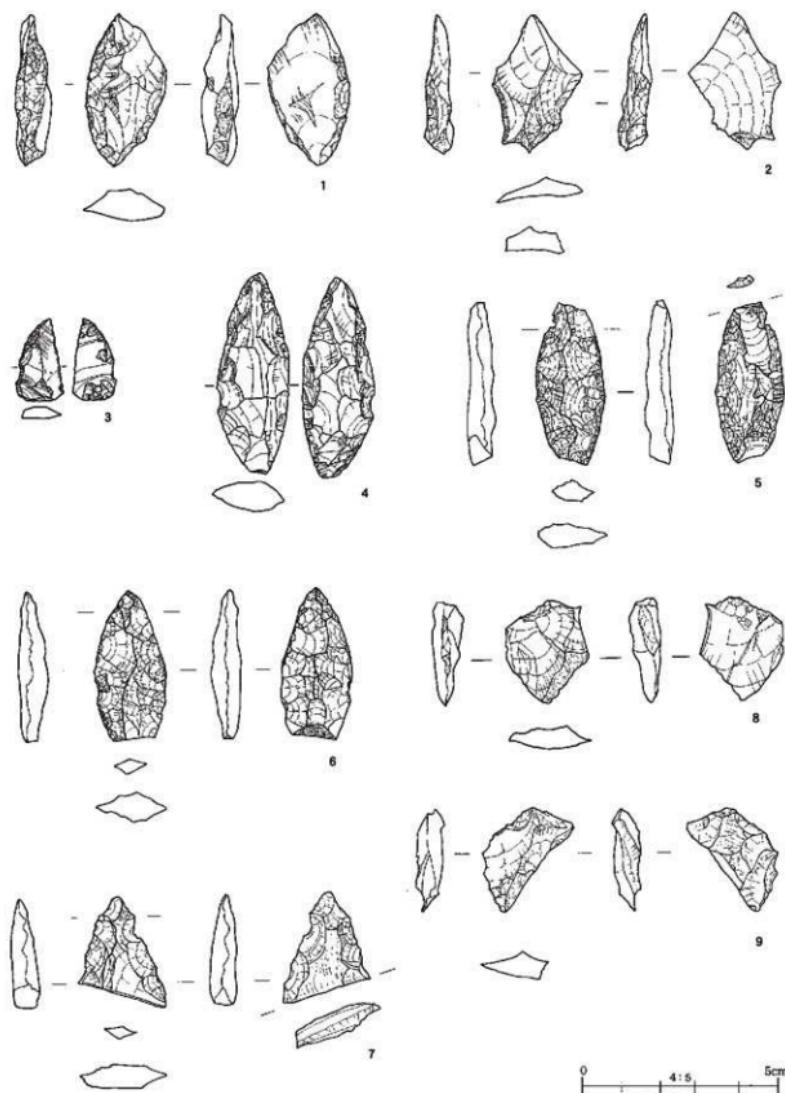
加藤晋平・鶴丸俊明著 1991 「図録・石器入門事典・先土器」柏書房

旧石器文化談話会 2000 「旧石器考古学事典」学生社

辻本崇夫 1987 「織群の形成過程復原とその意味」『古代文化』第39巻7号

富樫孝志 1997 「磐田原台地における旧石器時代の石材採取活動」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第5号

鈴木道之助 1983 「千葉県の遺跡」『日本の旧石器文化2 遺跡と遺物(上)』



第13図 調査区出土石器

第2節 縄文時代の遺構と遺物

今回の調査で計65軒の住居跡を検出。中期後半の加曾利E III式期から後期前半の堀之内2式期に属し、加曾利E III式期12軒、E IV式期22軒、称名寺1式期13軒、2式期1軒、堀之内1式期6軒、加曾利E IV～称名寺1式期2軒、称名寺2～堀之内1式期1軒、堀之内1～2式期2軒、加曾利E III～堀之内1式期2軒、称名寺1～堀之内1式期1軒である。覆土内に貝ブロックを伴う住居跡はA-002・A-026・A-028・A-029・A-037・A-038・A-040・A-043・A-067・A-064の9軒、覆土中に貝破片等を含むのはA-043・A-057・A-058・A-063・A-064の4軒の計13軒で、うち10軒の貝組成等の分析を行った（第14図）。

A-002（第16図・第50図）は円形で、微隆起線文の加曾利E IV式土器（1）が床面上から出土。

A-007（第17図・第50・51図）は円形で、東側から口縁部に微隆起線文を施した埋甕（1）が出土している他、磨製石斧（6）、砥石（7）、石棒（8）が各1点ずつ出土。

A-010（第18図・第51～53図）は円形で、北側の一部が風倒木痕で壊されている。微隆起線文で渦巻文を施した土器（1・3・5）、匂状沈線の土器（9～11）、両耳壺（12）が出土。

A-014（第19図・第53・54図）は円形で、埋甕炉に微隆起で渦巻文を施した土器（1）を用いている。出土遺物は他に微隆起線文で匂状に施した土器（2）が出土。1・3・4の他は覆土上層からの出土。

A-015（第19図・第54・55図）は円形で、埋甕炉に微隆起線文の両耳壺（1）を用いている。2は刺突と4個の橋状把手で構成される土器。1・3・5は炉から出土、2は炉の南側床面からの出土。

A-016（第20図・第55図）は円形で、炉が西側に寄る。炉の上面から2・6の土器が出土。出土遺物は微隆起線文の土器（1～4）を主体に、土錐3点（7～9）、石鐵2点（10・11）が出土。

A-017（第20図・第56図）は円形で、炉の北側はC-023により壊されている。出土遺物は称名寺1式土器（1～4）を主体に、石鐵1点（6）が出土している。5は弥生式土器の口縁部である。

A-019（第21図・第56・57図）は円形で、埋甕炉に微隆起線文で渦巻文を施した土器（1）を用いている。微隆起線文で渦巻文を施した土器（1～4）や匂状沈線の土器（5～7）が出土している他、土錐1点（12）、磨石1点（15）が出土。11は縄文前期の浮島式土器である。

A-020（第22図・第57・58図）は円形で、炉が西側に寄る。微隆起線文の土器（12・13）、匂状沈線の土器（8）、及び称名寺1式土器（12～13）が出土している他、土錐1点（14）、石鐵1点（15）、石皿1点（16）、磨石2点（17・18）が出土している。8は中央部床面から、12は北側床面から出土。

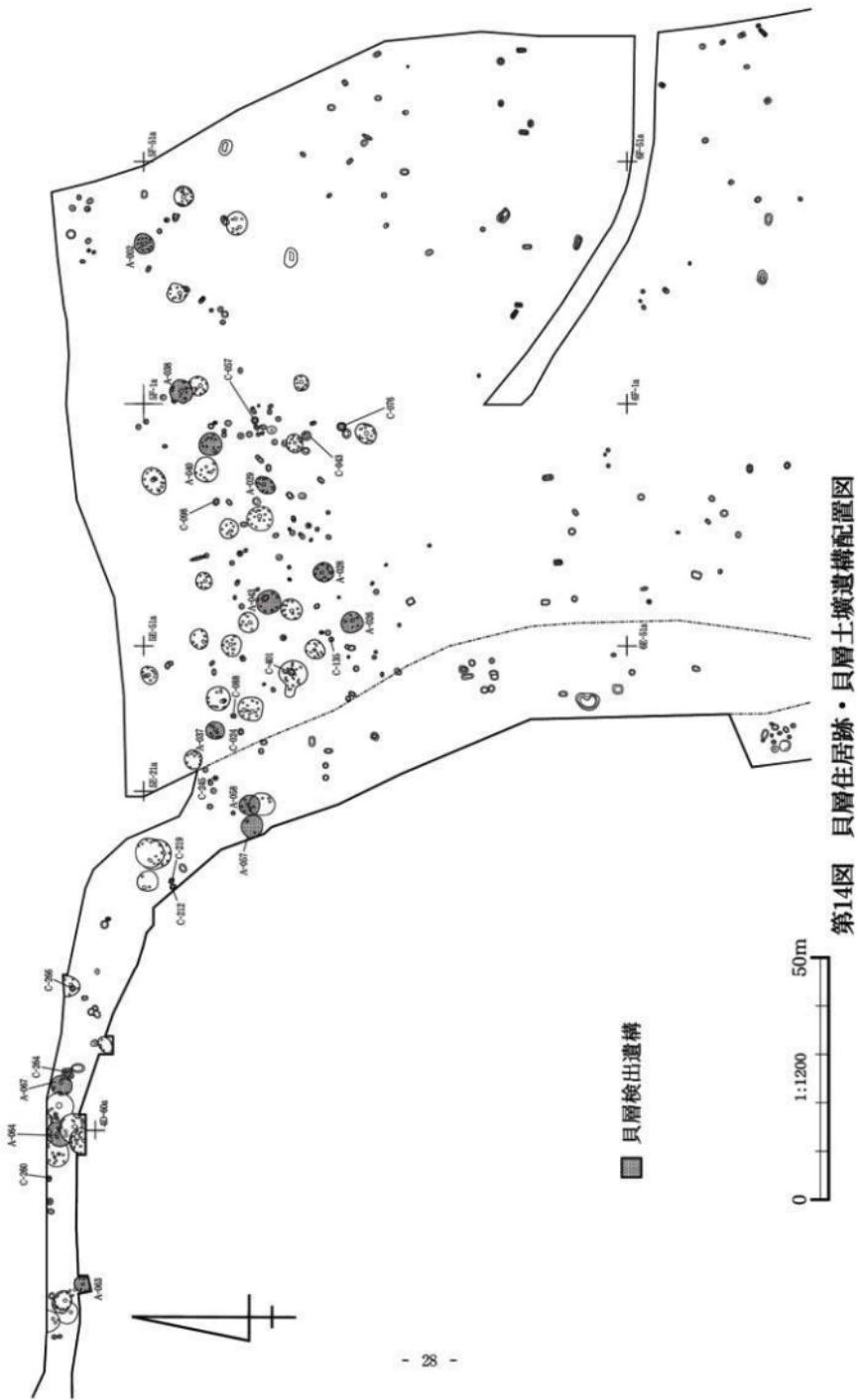
A-021（第22図・第58図）は円形で、微隆起線文の土器（4）、匂状沈線の土器（3）が出土。

A-023（第23図・第59～61図）は炉をC-401により壊され、西側に張り出しがある。微隆起線文の土器（1）が中央床面から出土し、埋甕の残欠と思われる。東側から石棒（31～36）と磨石（28～30）がセットで出土。同一個体が被熱・破碎したもので、磨石は中部地方で丸石とされているものと思われる。称名寺1式土器（2～10）と縄文施文の土器（14～17）が覆土から出土。11は関沢類型の土器。

A-024（第24図・第61図）は円形で、床面から無筋縄文の土器（1）と条線文の土器（3）が出土。

A-025（第24図・第61図）は円形で、覆土内から微隆起線文の土器（1～3）が出土。

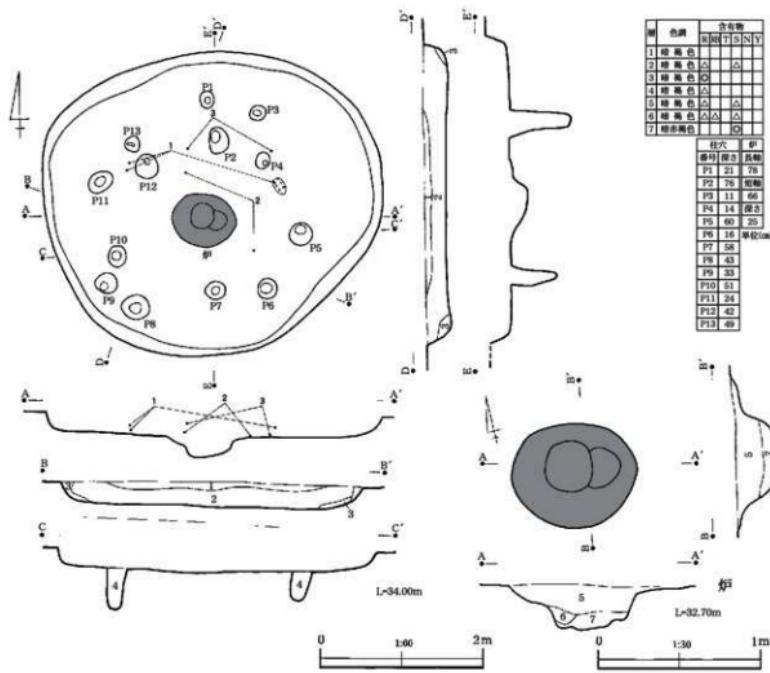
A-026（第25図・第62図）は円形で、覆土内に貝ブロックがある。覆土内から称名寺1式（1～3）2式土器（4）と磨製石斧（5）が出土。



第14図 貝層住居跡・貝層土壤遺構配置図

第20表 極文時代住居計測表

造構番号	位置	時期	平面形態	規模(m)		部	柱穴	埋甕	重複造構	備考
				長軸×短軸-壁厚	高					
A-002	5F-31 a	加曾利E IV	円形	4.18 × 3.70 - 0.28	地床炉	13				貝層 石神1
A-007	5F-32 d	加曾利E IV	円形	4.70 × 4.22 - 0.20	地床炉	8	1	C-006・007		
A-010	5F-41 a	加曾利E III	円形	4.30 × 4.10 - 0.26	地床炉	27				
A-014	5E-72 a	加曾利E III	円形	4.08 × 3.62 - 0.12	埋甕	7				
A-015	5F-4 c	加曾利E III	円形	3.28 × 3.06 - 0.24	埋甕	10				
A-016	5E-22 b	加曾利E IV	円形	4.10 × 3.54 - 0.28	地床炉	12				
A-017	5E-41 a	称名寺1	円形	3.58 × 3.06 - 0.20	地床炉	7		C-023		
A-019	5E-33 b	加曾利E III	円形	5.04 × 4.80 - 0.18	埋甕	14				
A-020	5E-52 c	称名寺1	円形	4.34 × 4.04 - 0.20	地床炉	9				
A-021	5E-52 a	加曾利E III	円形	4.36 × 3.60 - 0.12	地床炉	8				
A-023	5E-44 a	加曾利E IV～ 称名寺1	柄鏡形	7.44 × 5.18 - 0.50	-	24	1	C-401		石神6、入口施設西
A-024	5E-54 b	加曾利E IV	円形	4.32 × 4.00 - 0.10	地床炉	11				
A-025	5E-44 d	加曾利E IV	円形	4.16 × 3.60 - 0.12	地床炉	11				
A-026	5E-55 c	称名寺1	円形	4.48 × 4.02 - 0.22	地床炉	5				貝ブロック
A-027	5F-21 c	加曾利E IV	円形	3.96 × 3.48 - 0.32	地床炉	10	1			
A-028	5E-64 c	加曾利E IV	円形	4.14 × 3.76 - 0.10	地床炉	12				貝ブロック
A-029	5E-83 c	加曾利E III	円形	3.96 × 3.26 - 0.26	地床炉	9				貝ブロック
A-030	5E-95 c	加曾利E IV	円形	4.70 × 3.78 - 0.16	地床炉	17				
A-031	5E-82 b	称名寺1	円形	5.18 × 4.62 - 0.20	地床炉	9				石碑2
A-033	5E-32 d	称名寺1	円形	5.32 × 5.06 - 0.32	地床炉	10	M-001, C-402			石碑4
A-034	5E-81 a	加曾利E IV ～称名寺1	柄鏡形	5.82 × 4.70 - 0.20	地床炉	14	1?	C-403		入口施設南西
A-035	5E-53 b	加曾利E IV	円形	4.12 × 3.66 - 0.16	埋甕	6				
A-037	5F-32 a	加曾利E III	不明	3.60 × (2.42) - 0.50	地床炉	11		M-001, C-404		貝ブロック
A-038	5F-1 c	加曾利E III	柄鏡形	5.15 × 4.68 - 0.14	地床炉	12	A-012・032・039			入口施設北西、貝ブロック
A-039	5F-2 a	加曾利E IV	円形	4.12 × 3.80 - 0.10	地床炉	13	A-038			石神1
A-040	5E-92 a	加曾利E IV	不明	(4.50) × (4.50) -	地床炉	9	1			田C-044、貝ブロック
A-043	5E-53 d	加曾利E I	不明	(4.50) × (4.50) -	-	9				田C-025、昆貝土層
A-044	5E-94 a	加曾利E IV	円形	3.90 × 3.70 - 0.10	地床炉	10				
A-045	5E-73 b	加曾利E III	不明	(5.00) × (5.00) -	地床炉	16				
A-046	5E-62 a	加曾利E IV	円形	3.60 × 3.14 - 0.14	地床炉	9				
A-049	5E-1 b	称名寺1	不明	5.48 × (5.08) - 0.22	地床炉	13	A-054, M-004			石神1
A-051	5E-1 b	加曾利E IV	不明	5.70 × - 0.20	地床炉	5	A-049, M-004			石神1
A-055	5E-1 a	称名寺1	不明	3.90 × - 0.10	地床炉	2	M-004			
A-057	5E-13 a	加曾利E III	不明	4.46 × - 0.22	-	3		A-058, M-001, D-002		貝ブロック
A-058	5E-13 b	加曾利E IV	不明	(4.32) × (2.60) - 0.20	地床炉3基	3	A-057, M-001			石碑2、昆貝土層
A-059	5E-13 d	加曾利E III	不明	- 0.18	-	3		M-001, D-002		
A-060	4D-79 a	加曾利E IV	不明	4.06 × (3.36) - 0.14	地床炉	5	C-266			
A-062	4D-19 a	称名寺2 ～堀之内1	柄鏡形	4.20 × 3.18 - 0.18	地床炉	17	A-070・071			入口施設南東
A-063	4D-19 d	加曾利E IV	不明	3.20 × (2.08) - 0.36	地床炉	5				昆貝土層
A-064	4D-49 b	堀之内1 ～堀之内2	不明	4.80 × (4.10) - 0.32	地床炉2基			A-065・066・068・069, D-002		昆貝土層
A-065	4D-49 d	堀之内1 ～堀之内2	不明	4.90 × - 0.26	地床炉			A-064・066, D-002		
A-066	4D-59 c	堀之内1	不明	5.80 × (4.90) - 0.26	地床炉			A-064・065・069 D-002		
A-067	4D-49 d	称名寺1	不明	×	-	地床炉	12	D-002		貝ブロック
A-068	4D-49 b	称名寺1 ～堀之内1	不明	×	-	-		A-064, C-407・408 D-002		
A-069	4D-59 a	加曾利E IV	不明	(4.70) × (4.70) -	地床炉			A-073, D-002		
A-070	4D-19 a	称名寺1	不明	×	- 0.10	地床炉		A-062・071		
A-071	4D-19 a	加曾利E IV	不明	×	-	土器調査		A-062・070		
A-072	4D-19 a	不明	不明	×	-	地床炉	4	C-269・270		
A-073	4D-59 a	不明	不明	×	-	-		A-069, D-002		
A-074	4D-70 b	加曾利E III	扇丸形	2.98 × 2.80 - 0.30	-	6				田C-222
A-075	3C-40 d	称名寺1	円形	5.10 × 4.90 - 0.20	地床炉	26				
A-076	4C-41 d	堀之内1	円形	4.80 × (4.10) - 0.14	地床炉	15				
A-078 a	4C-55 d	加曾利E III ～堀之内1	柄鏡形	6.22 × 5.30 - 0.34	地床炉	22	A-078 a			入口施設南西
A-078 b	4C-55 d	加曾利E III ～堀之内1	柄鏡形	5.35 × 4.35 - 0.34	地床炉	13	1?	A-078 a		入口施設南西
A-079	4C-76 c	加曾利E IV	円形	4.50 × (4.00) - 0.10	地床炉	10				石神2
A-080 a	4C-66 a	称名寺1	柄鏡形	3.50 × 3.30 -	地床炉	1	A-077・080 b			入口施設南
A-080 b	4C-66 c	称名寺1?	柄鏡形	(3.50) × (3.50) - 0.26	-	4	A-080 a			入口施設南
A-081 a	4C-90 a	堀之内1	柄鏡形	7.46 × 6.00 - 0.45	地床炉	26	A-081 b・c・d			入口施設南
A-081 b	4C-90 a	堀之内1	柄鏡形	6.50 × 5.00 - 0.45	地床炉	25	A-081 a・c・d			入口施設南
A-081 c	4C-90 a	堀之内1	柄鏡形	5.90 × 4.85 - 0.45	地床炉	12	A-081 a・b・d			入口施設南
A-081 d	4C-90 a	堀之内1	柄鏡形	5.85 × 4.45 - 0.45	地床炉	9	A-081 a・b・c			入口施設南
A-082	4C-56 b	称名寺1	不明	5.00 × 5.00 - 0.30	地床炉	12				
A-083	4C-67 d	加曾利E IV	不明	×	-	地床炉	7	1		
A-084	4C-57 b	加曾利E IV	精円形	2.90 × 0.68 -	埋甕					
A-085	4C-80 b	称名寺2	不明	5.70 × (3.00) - 0.34	-	12				



第16図 A-002

A-027 (第25図・第62・63図)は円形で、西側に埋甕(6)があり、5が床面から出土。1の土器は4ヶ所に把手を持つ土器で、南側覆土内から出土。

A-028 (第26図・第63図)は円形で、炉上面に貝ブロックがある。微隆起線文による渦巻文の土器(1・2)の他、有孔土製円板1点(7)が出土。

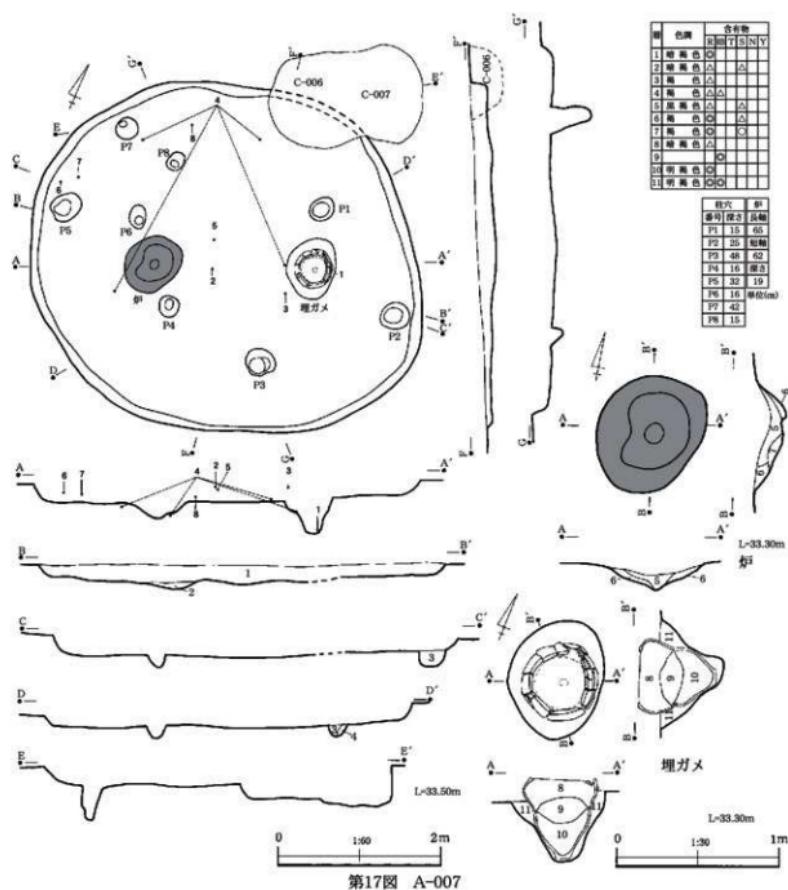
A-029 (第26図・第64図)は円形で、覆土内に貝層がある。微隆起線による渦巻文の土器(1~4)、匂状沈線の土器(7)、沈線と縄文のみの土器(8)が出土している他、石錐1点(11)が出土。

A-030 (第27図・第64・65図)は円形。微隆起線(1・2)と沈線と縄文の土器(3・4)が出土。

A-031 (第27図・第65図)は円形で、北側を擾乱により壊されている。1の称名寺1式土器が南側床面から、11・12の安山岩製で被熱・破損している石棒が床面から出土している。2のJ字文の称名寺1式土器が覆土内から出土している他、土錐1点(7)が出土。

A-033 (第28図・第66図)は北側を溝1に切られる。第2遺物集中区と重なり、住居外からも石棒の破片が多く出土。覆土から完形の称名寺1式土器(第206図19)が出土。被熱・破損した石棒4点(12~17)が石皿(10)と共に出土し、土錐1点(6)、石錐1点(7)、打製石斧2点(8・9)も出土。

A-034 (第29図・第66・67図)は円形。炉南側をC-403により壊され、覆土内から微隆起線の土器(1~



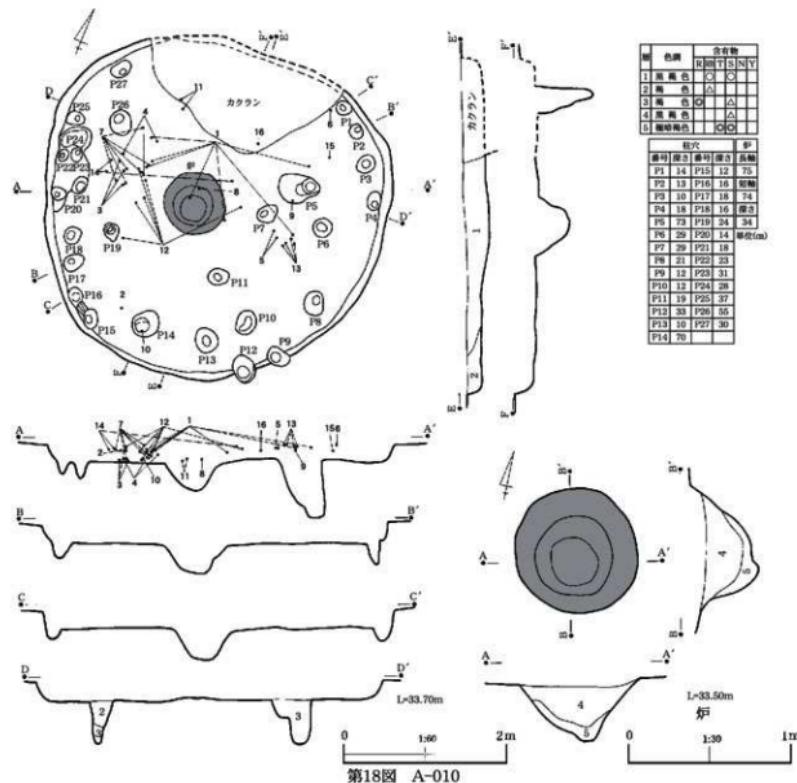
3)、充填縄文の土器（4～8）、縄文の土器（9・10）の他に、打製石斧2点（14・15）が出土。

A-035（第29図・第67図）は円形。埋甕炉に縄文の土器（1）を使用。他に石鏃1点（6）が出土。

A-037（第30図・第68～70図）は南側を溝1に切られ、覆土内に貝層がある。微隆起線文の土器（1～3・6）、△状沈線の土器（7～10）、口縁部に円形刺突文の土器（11～14）の他、石鏃1点（28）、石錐1点（29）が出土。

A-038（第30図・第70図）は円形で、西側に張り出しを持つ。A-012とA-032により一部切られており、小型土器（1）と石錐1点（2）が出土。

A-039（第31図・第71図）は円形で、北側をA-038に切られている。微隆起線文の土器（1）、沈線による土器（2）の他に、北側床面上から石皿（5）と石棒（6）がセットで出土。



A-040(第31図・第71図)は炉とその北側に埋甕(1)を検出。柱穴状のピットを検出したが、プランは不明。炉上面に貝プロックがある。周辺からは縄文のみの土器(1)と条線の土器(6~7)と称名寺1式土器(8)出土。

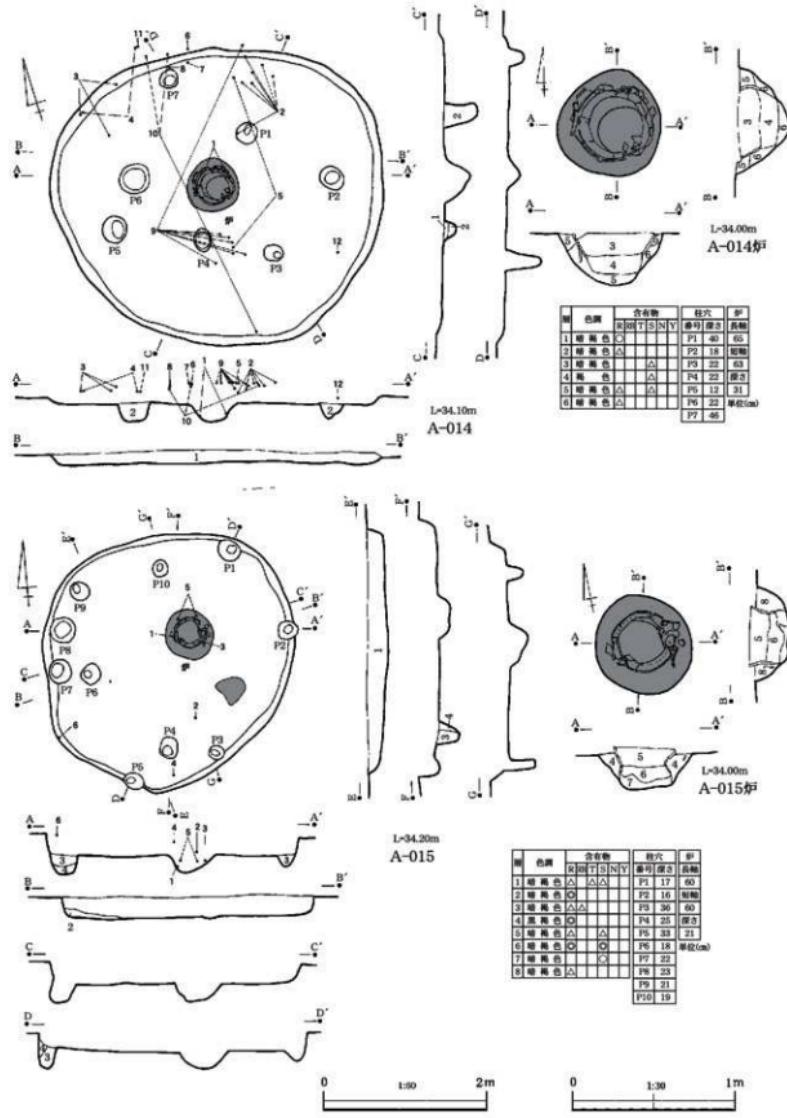
A-043(第32図・第72図)は円形に並ぶピットを検出。中央にC-025があり、炉が壊されている。

A-044(第32図・第72図)は円形で、微隆起線文の土器(1)、沈線と縄文の土器(2~4)が出土。

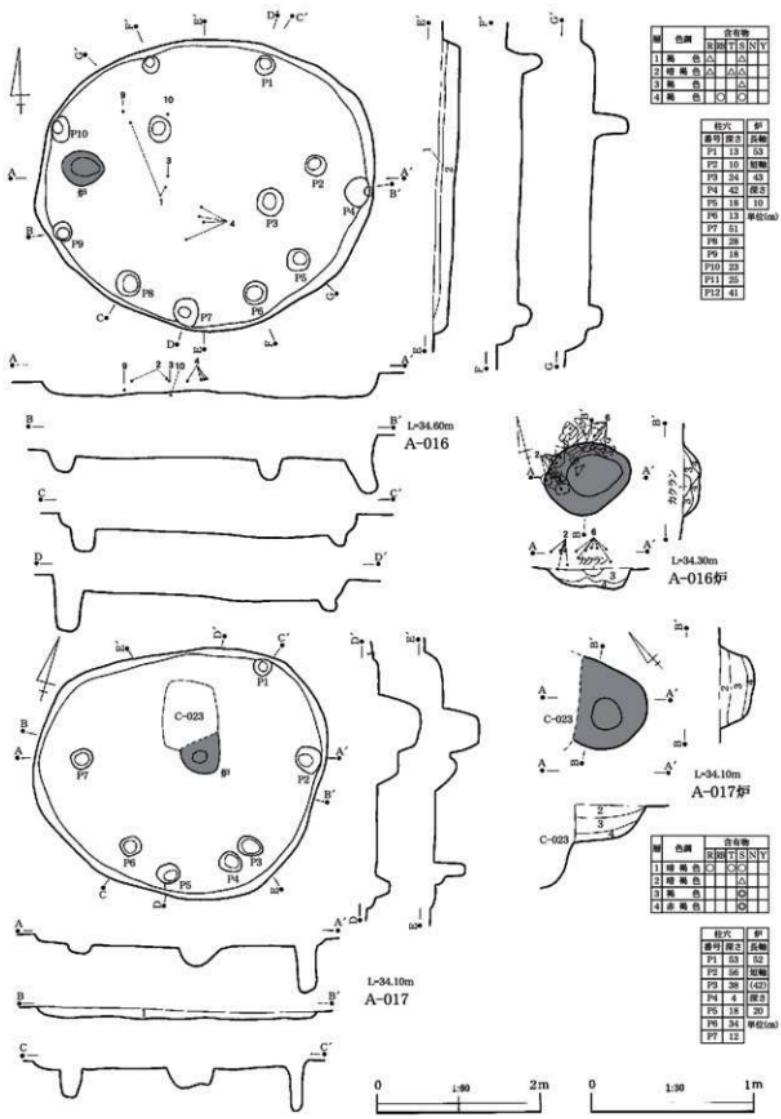
A-045(第32図・第72図)は中央に炉と周辺にピットを検出。条線文の土器(1~3)が出土。

A-046(第33図・第76図)は円形で、微隆起線文の土器(1~6)、沈線により円形の磨消縄文を施す土器(7)の他に、石皿(8)が出土。

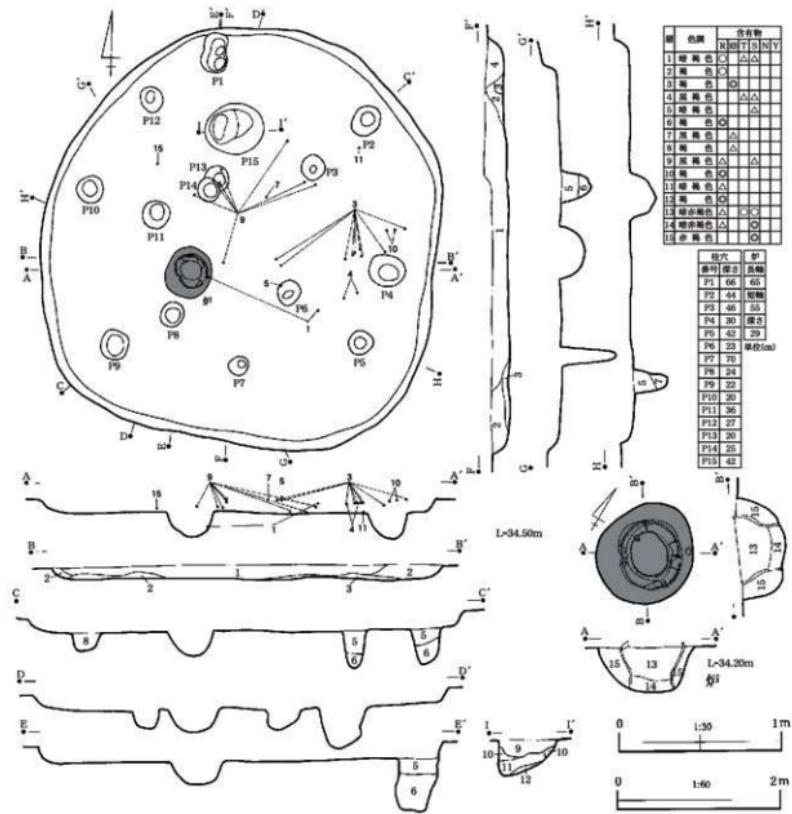
A-049・A-054(第34図・第72~74図)A-049が新しい。炉1がA-049に伴い称名寺1式土器(3~7)が主体に出土している。炉2がA-054に伴い加曾利E式土器(1~5)が出土し、西側床面から石皿(6)と石棒(7)がセットで出土。



第19図 A-014・015



第20図 A-016・017



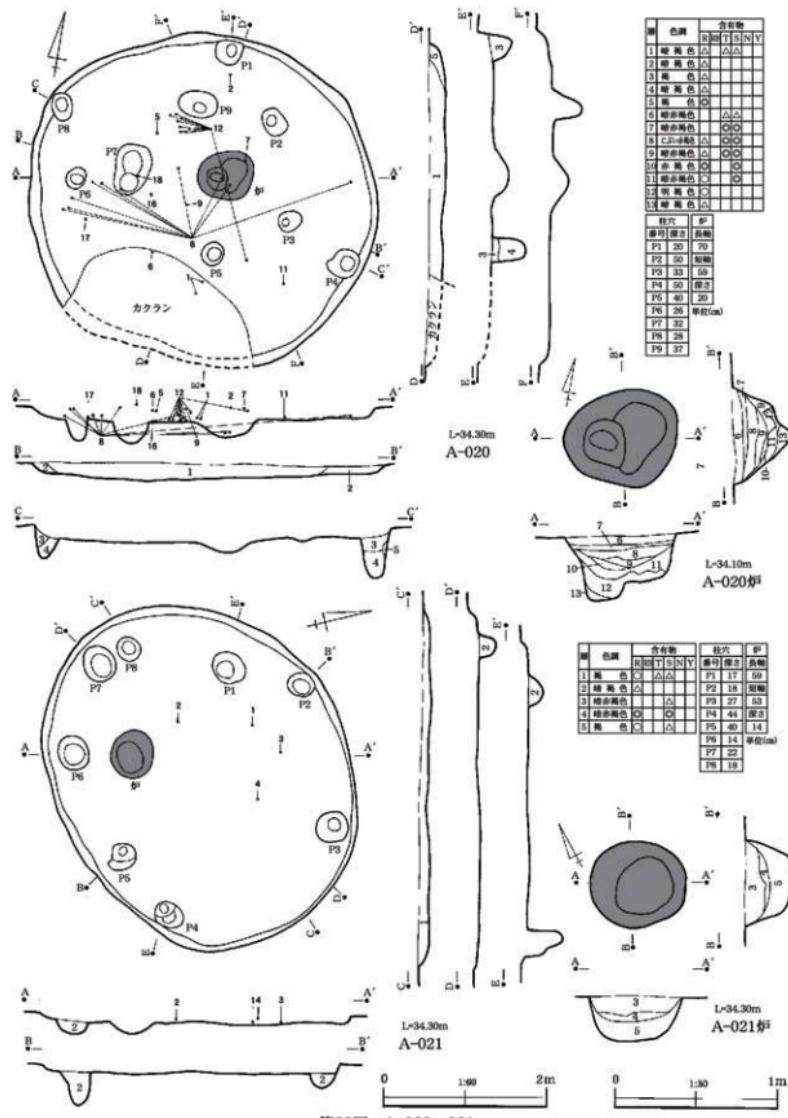
第21図 A-019

A-055（第35図・第74図）は南側を溝4に切られ、炉は北側に寄る。称名寺1式土器（2～5）を主体とし、石皿（7）が床面から出土。

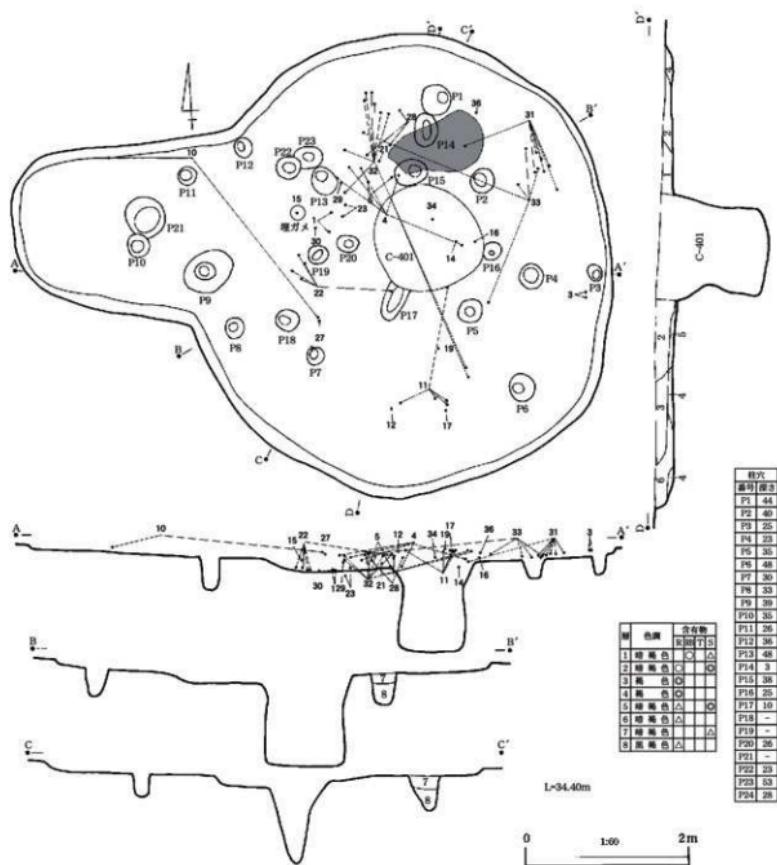
A-057（第35図・第74・75図）は中央と南側を溝1と2号道状遺構に接され、炉を消失。覆土内に貝層がある。微隆起線文による渦巻文の土器（1）、石鏃1点（6）、石錐1点（7）、磨製石斧1点（9）が出土。

A-058（第35図・第75・76図）は南側を溝1に切られているが、3基の炉を検出。覆土内に貝層がある。床面から石皿1点（10）と被熱した安山岩製の石棒2点（11・12）がセットで出土している他、磨製石斧2点（8・9）が出土。石棒2点は同一個体の可能性がある。

A-059（第36図・第76図）は東側1/4のみで、炉はない。加曾利E式土器（1～4）が出土。



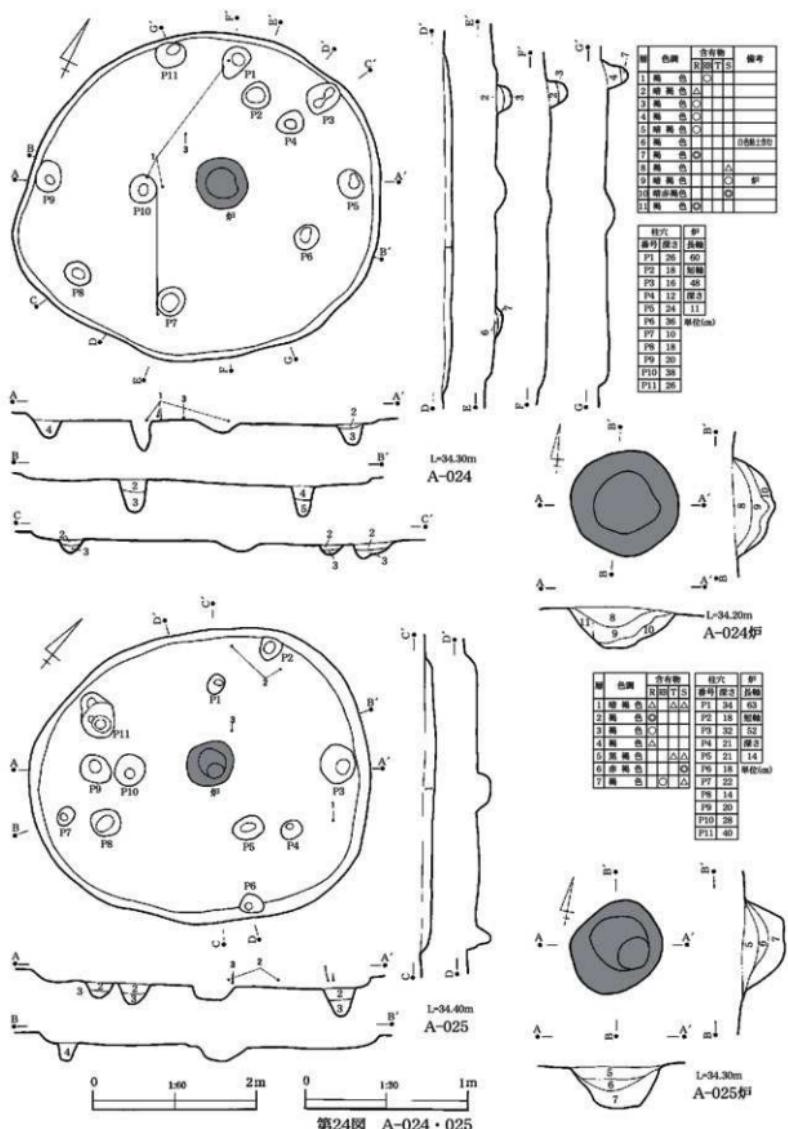
第22図 A-020・021



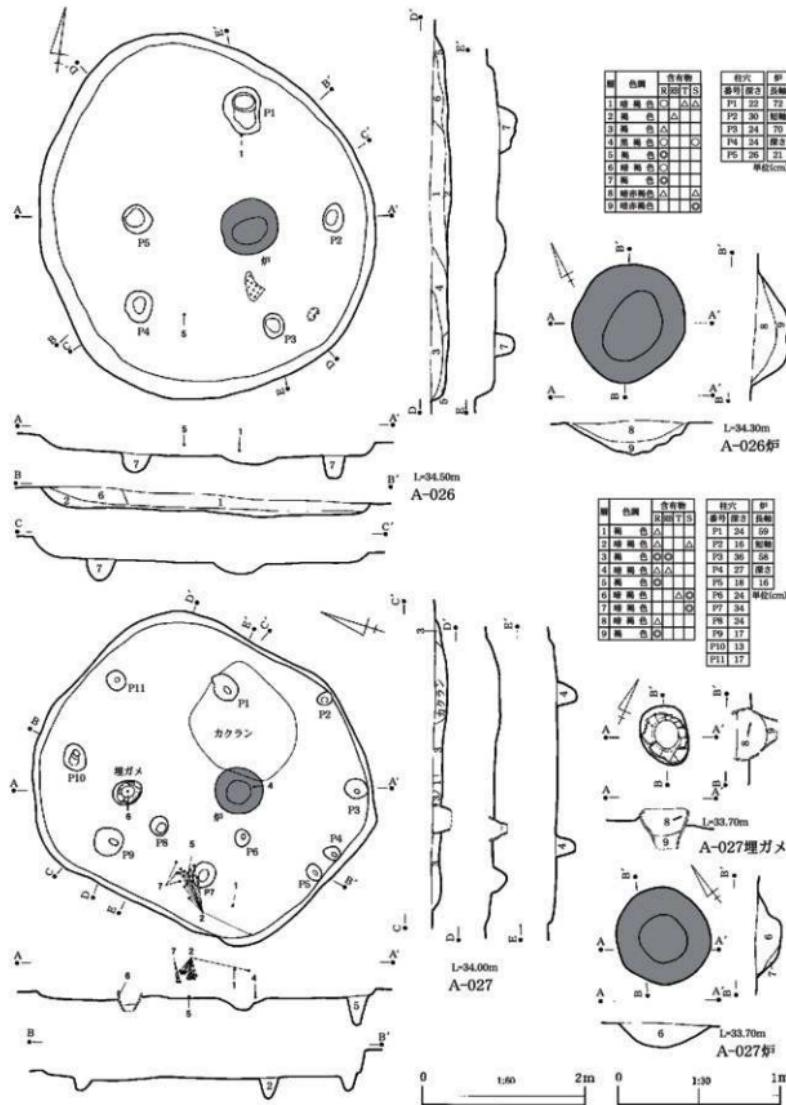
第23図 A-023

A-060（第36図・第76・77図）は南側1/2を検出。炉は西側半分をC-266により壊されている。微隆起線文の土器（1・2）と石皿2点（5・6）が出土。

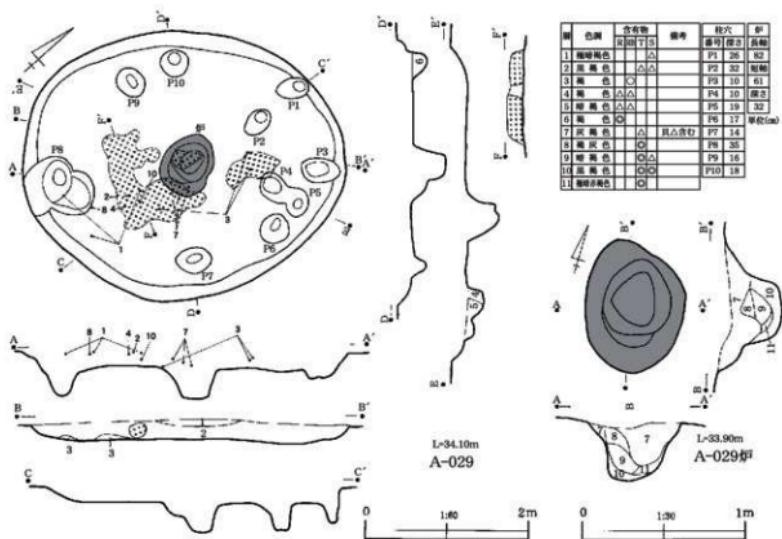
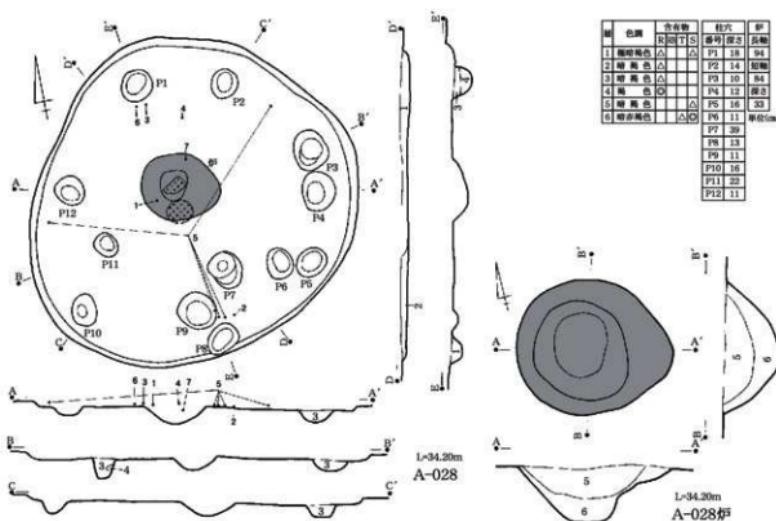
A-062・A-070・A-071・A-072（第37図・第78・82・83図）は斜面部に重複して検出。A-062の炉1がA-062の炉に、A-062の炉2がA-070の炉に該当。A-070の貝層を伴うピットから出土している堀之内1式土器（4）は住居跡より新しい。A-071の炉からは4個体の加曾利E IV式土器（1～4）が出土しており、土器片圓炉と思われる。出土遺物はA-062は称名寺1式（1）、2式（2・3）と堀之内1式土器（4）及び石錠1点（5）が、A-070は称名寺1式土器（2～4）が、A-071は加曾利E IV式土器（1～4）が出土。A-062（新）→A-070→A-071→A-072（旧）の新旧関係が考えられる。



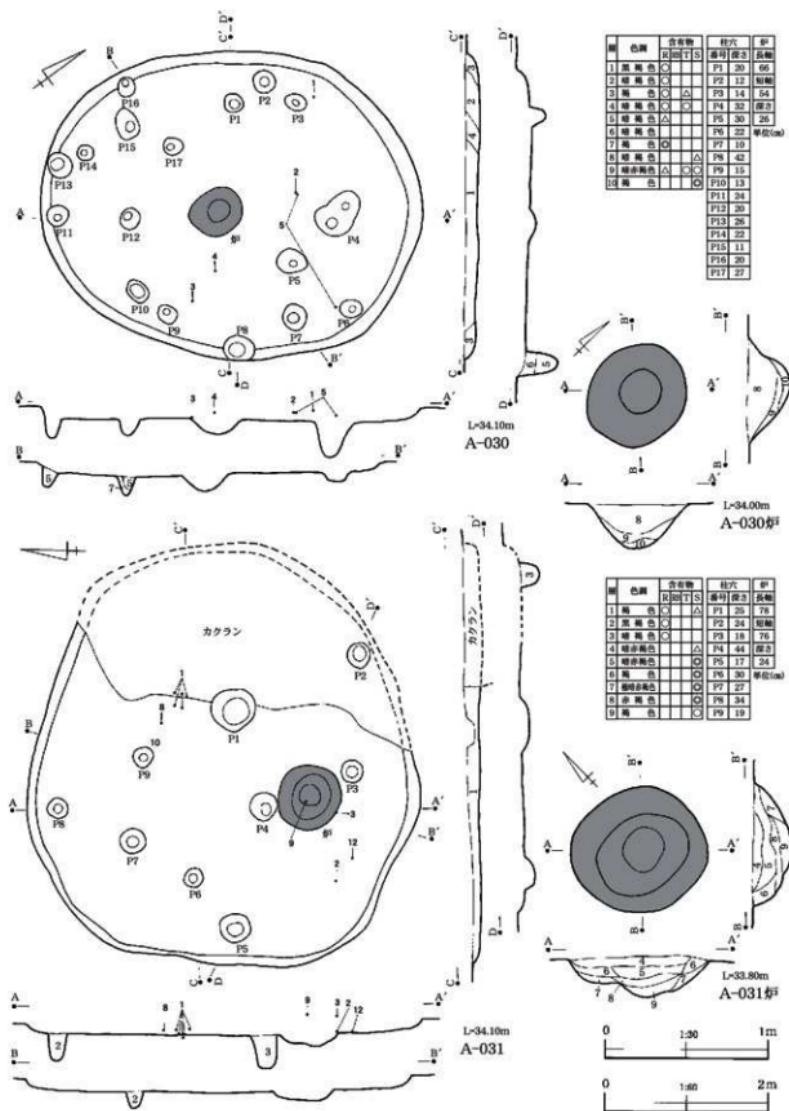
第24図 A-024・025



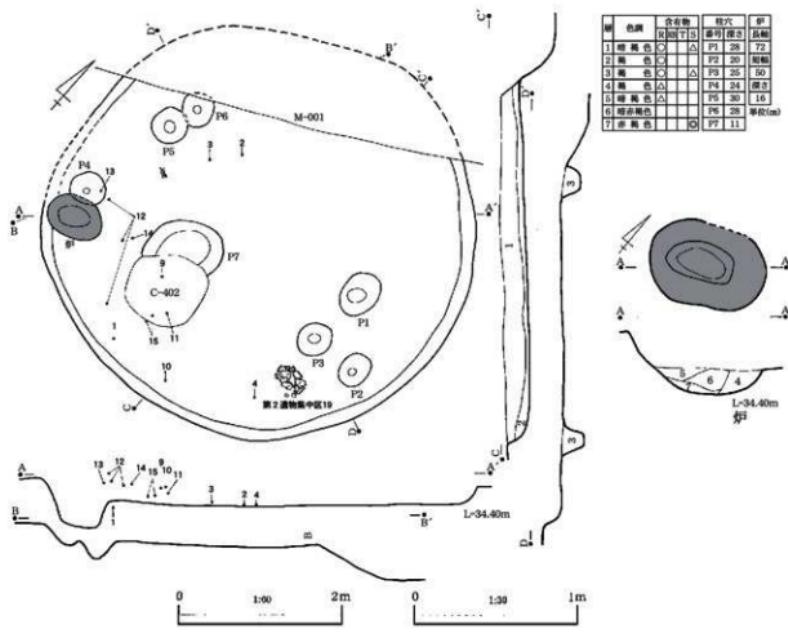
第25図 A-026・027



第26図 A-028・029



第27図 A-030・031



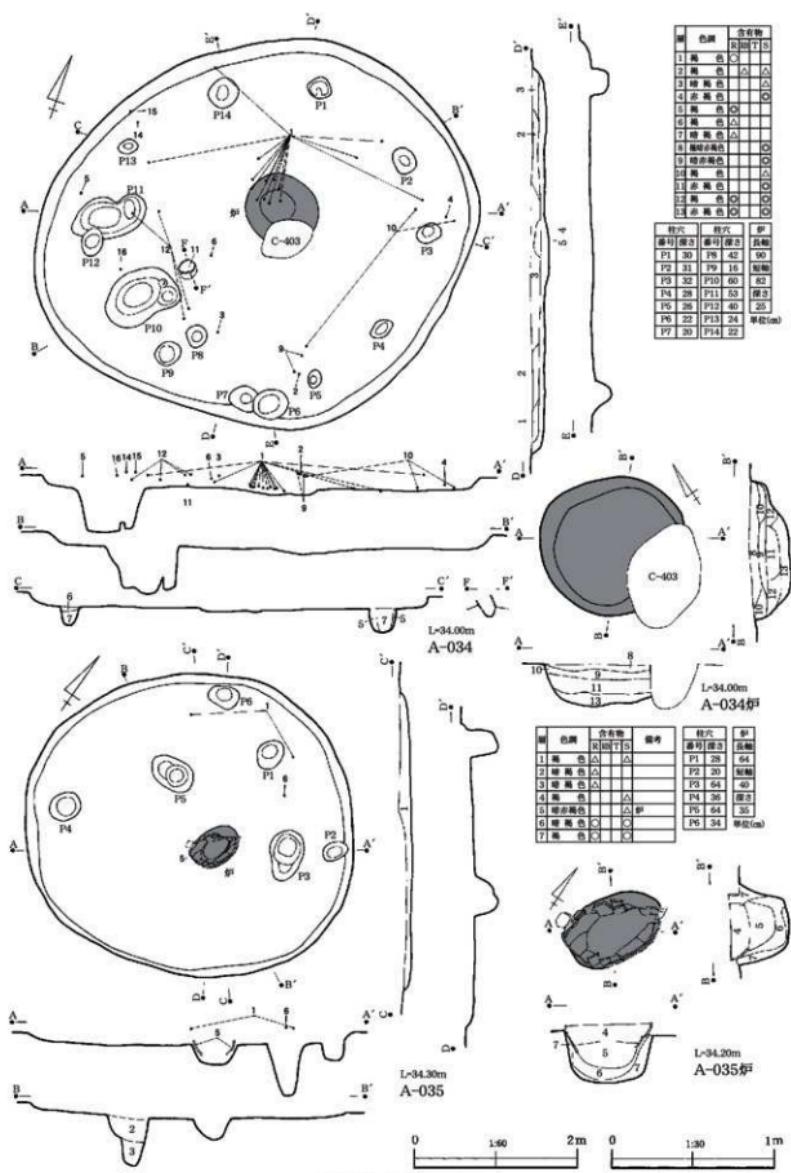
第28図 A-033

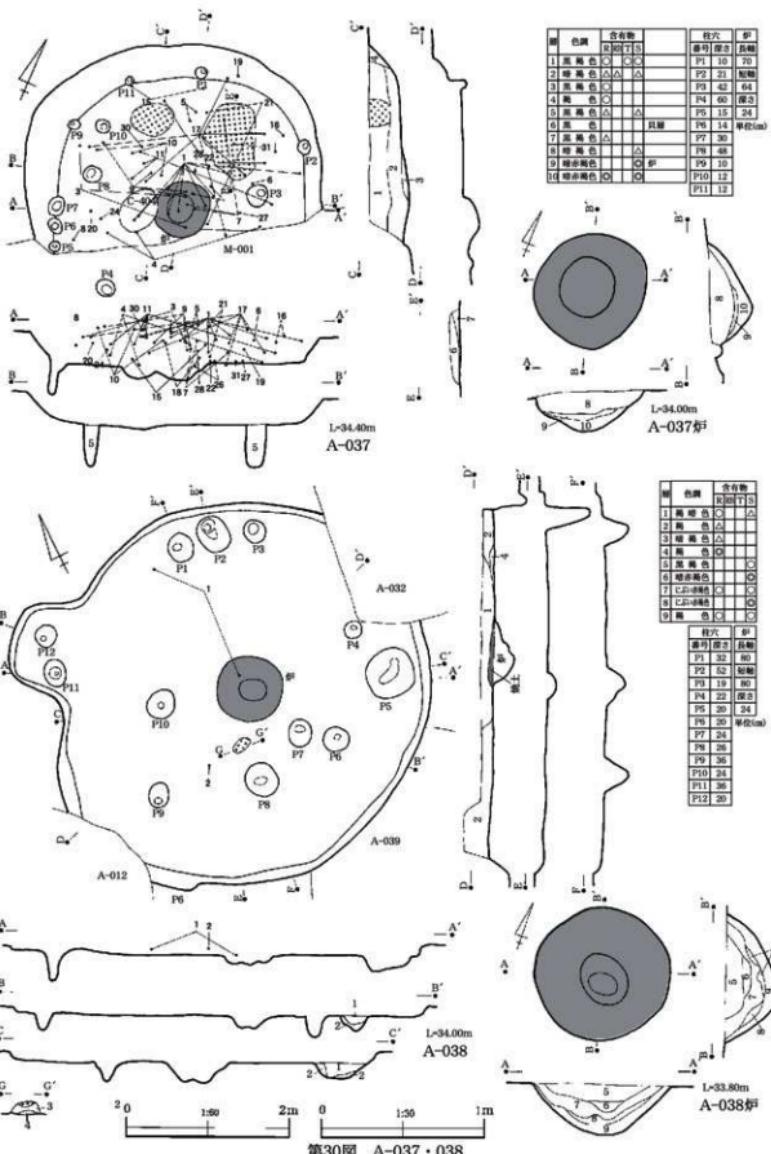
A-063（第38図・第77・78図）は南側が未調査区域で、覆土内に貝層がある。出土遺物は加曾利E式（1～10）と堀之内1式土器（11・12）がある。13は蓋形土製品。

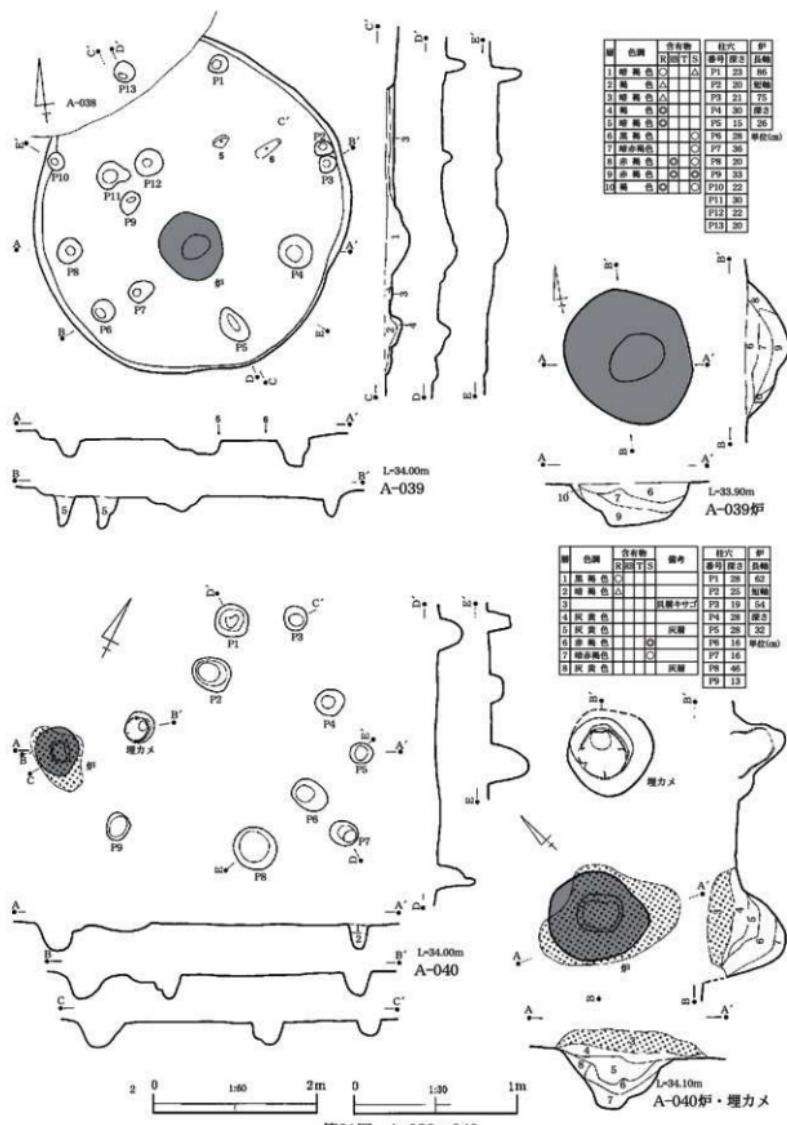
A-064・A-065・A-066・A-068・A-069・A-073（第39～41図・第78～82図）は斜面部に重複して検出。A-065（新）→A-066→A-064→A-068（旧）の新旧関係が考えられる。A-065からは堀之内1式（1～12）、2式土器（13～23）が出土。12は小型の注口土器。A-066内には地床炉が3基検出されており、炉1がA-066の炉で、炉2と炉3がA-064の炉となる。A-066からは称名寺1式（1）、2式（2～5）と堀之内1式土器（7～11）が出土。A-064は南側に入口施設を持つ2軒の可能性があり、西側に貝ブロックがある。称名寺2式（1～3）、堀之内1式（4～18）、2式土器（19・20・23～36）が出土。A-068は柱穴状のビットのみで、炉は重複する土壤等に壊された可能性がある。遺物は称名寺1式（1～4）、2式（5・6）、堀之内1式土器（7～11）が出土。A-069は炉と円形に回る柱穴状のビットにより構成され、南側に入口施設を持つ。加曾利E IV式土器の小片（1）が出土。炉の形状から2軒以上の重複の可能性がある。A-073はA-064の北側に位置し、南側に入口施設を持つ。出土遺物はない。

A-074（第37図・第83図）は梢円形で炉はない。覆土内から微隆起線文の土器（1～3）が出土。

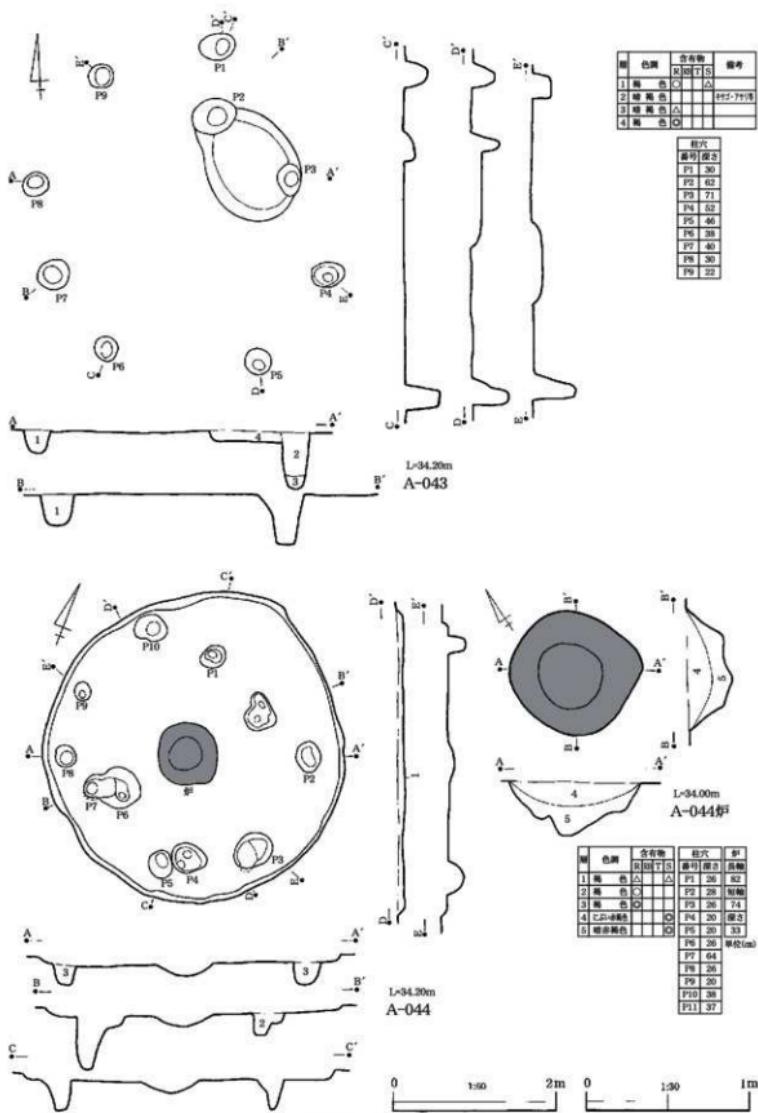
A-075（第42図・第83図）は西側の壁が斜面部で消失。東壁際に2ヶ所の焼土の堆積が、南側に入口施設のビットが認められる。出土遺物は称名寺1式（1・2）、2式土器（3・4）の小片が出土。



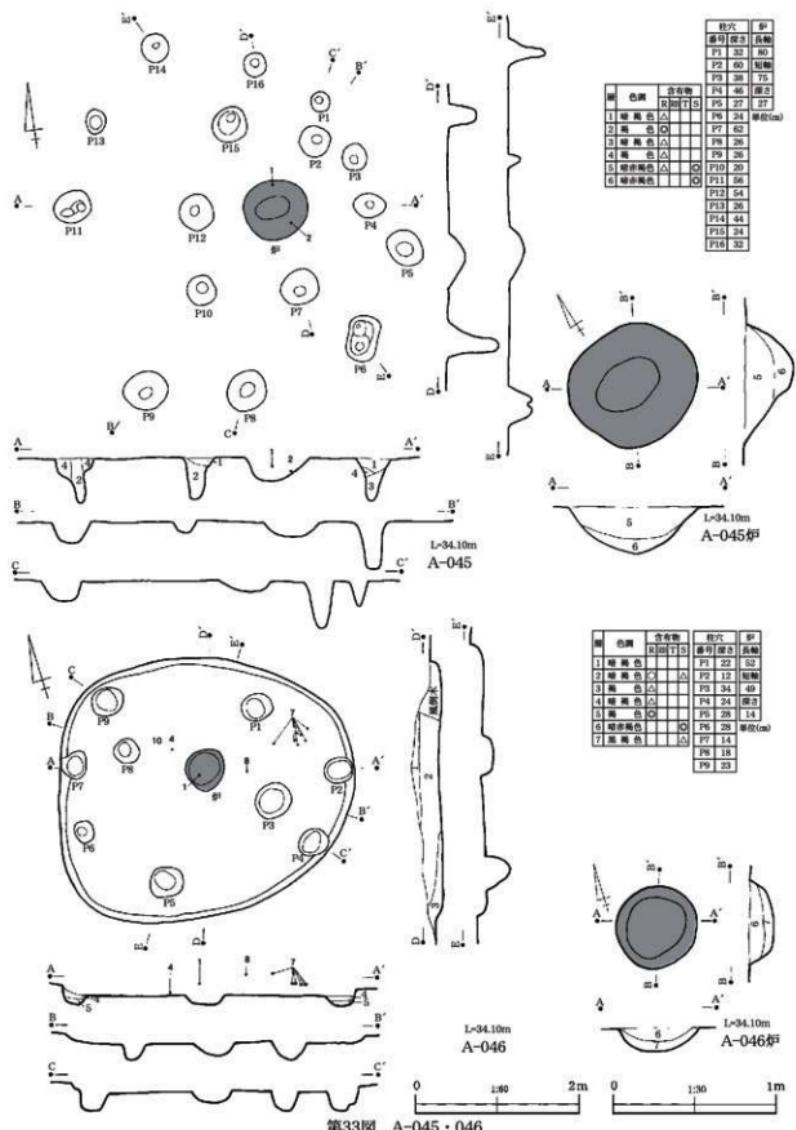


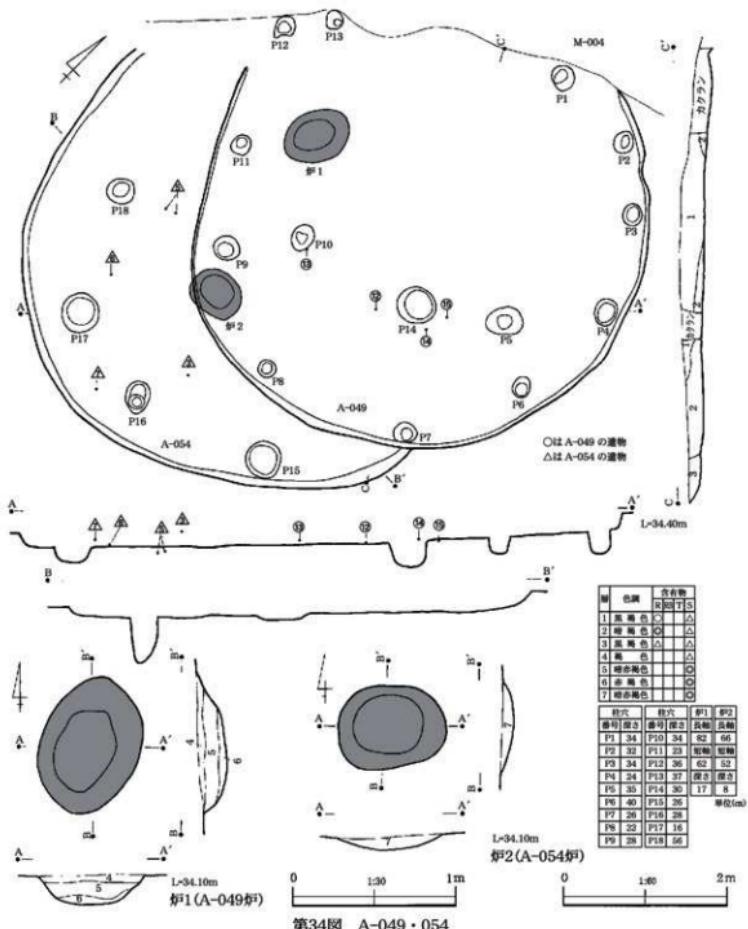


第31図 A-039・040



第32図 A-043・044



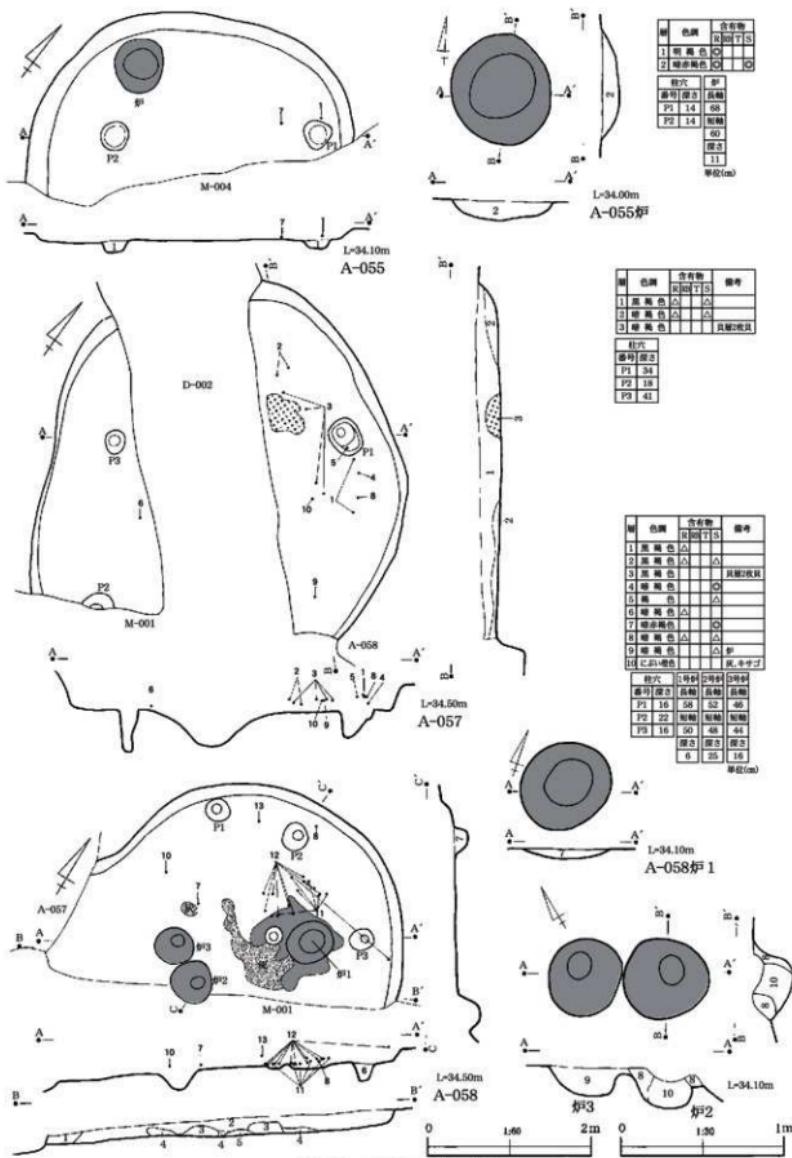


第34図 A-049・054

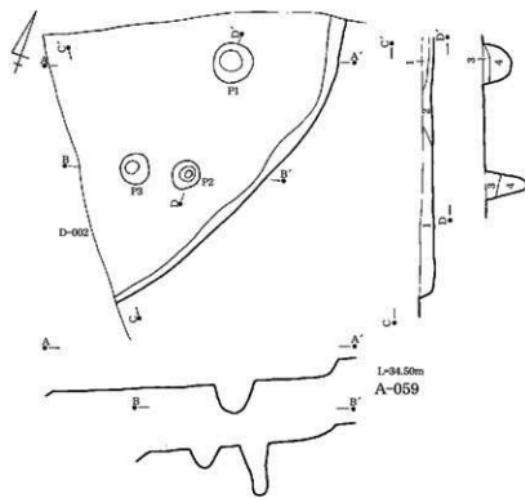
A-076 (第43図・第83図)は西と北の壁を消失。加曾利E IV式 (1)、壺之内1式土器 (2・3)が出土。

A-078 (第44・47図・第83・84図)は南西側の一部が斜面部で壁が消失。炉形態と柱穴配置から、南東部に入口を有する2軒の重複が考えられる。出土遺物は加曾利E II式 (1)、E III～IV式 (2～5)、称名寺式 (6～10)、壺之内1式土器 (11～22) の他に、土錐1点 (24)、石錐1点 (25) が出土。

A-079 (第45図・第85図)は北側の壁が消失。出土遺物は加曾利E IV式土器 (1～9) の他に、石皿

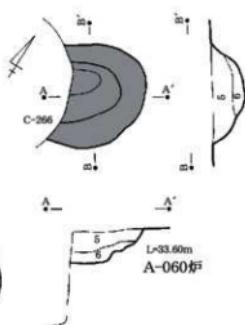
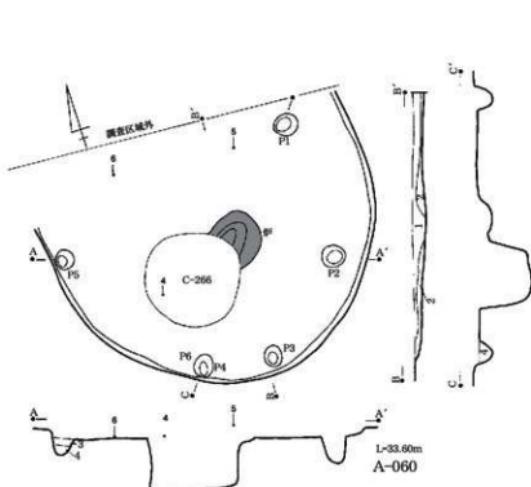


第35図 A-055・057・058



層	色調	含有物
1	緑色	△△△
2	緑色	△△△
3	緑色	△△△
4	緑色	△△△

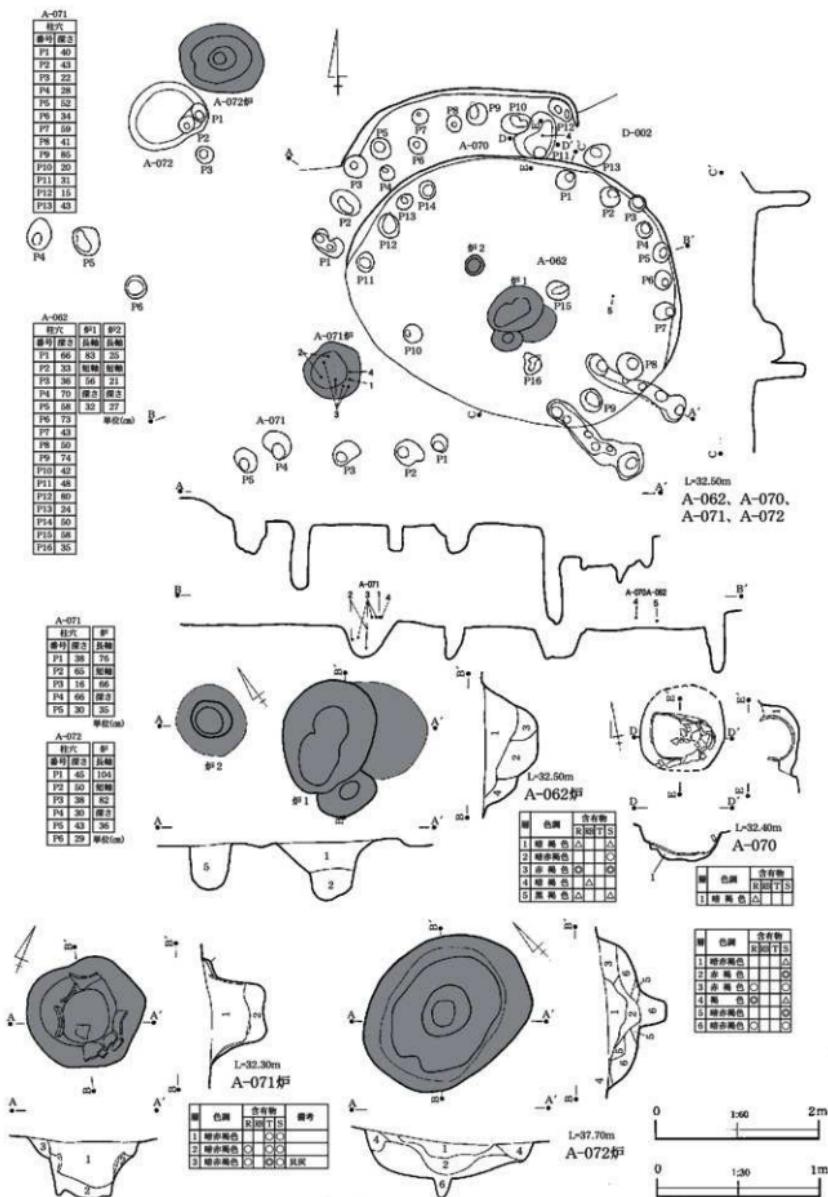
柱穴	標示
P1	36
P2	32
P3	30



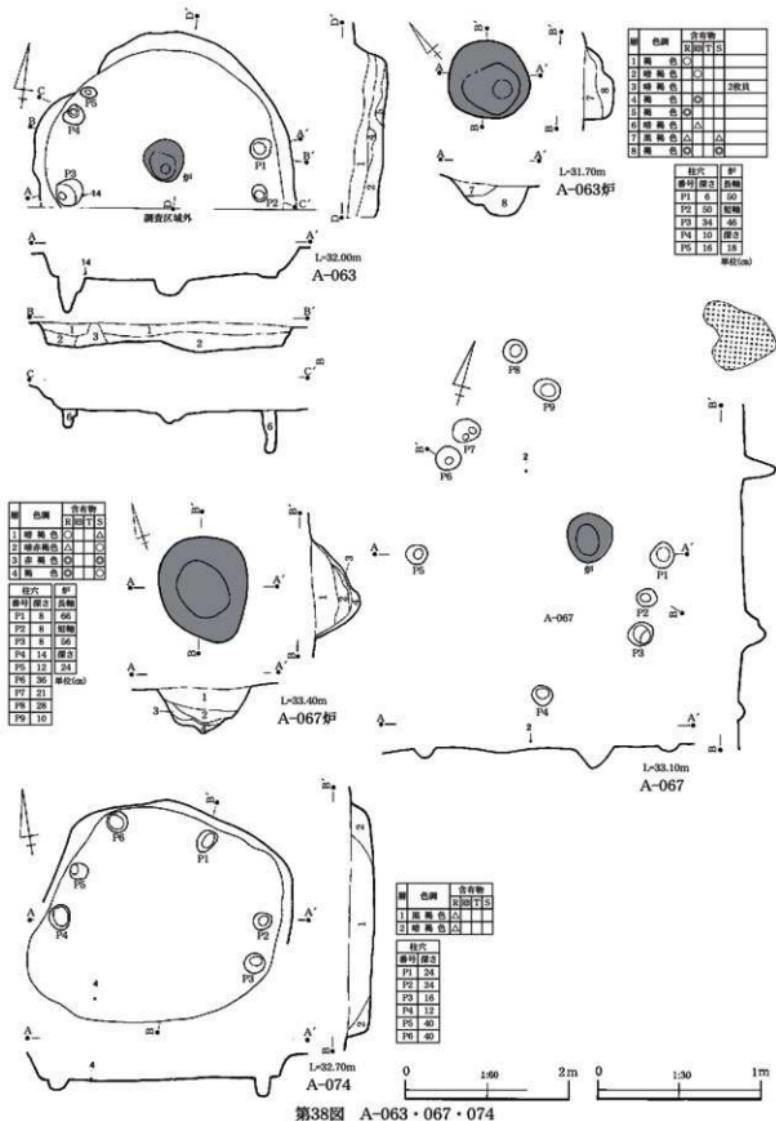
層	色調	含有物	柱穴	標示
1	緑色	△△△	P1	14
2	緑色	△△△	P2	12
3	緑色	△△△	P3	16
4	緑色	△△△	P4	18
5	緑色	△△△	P5	18
6	緑色	△△△	P6	19

単位(m)

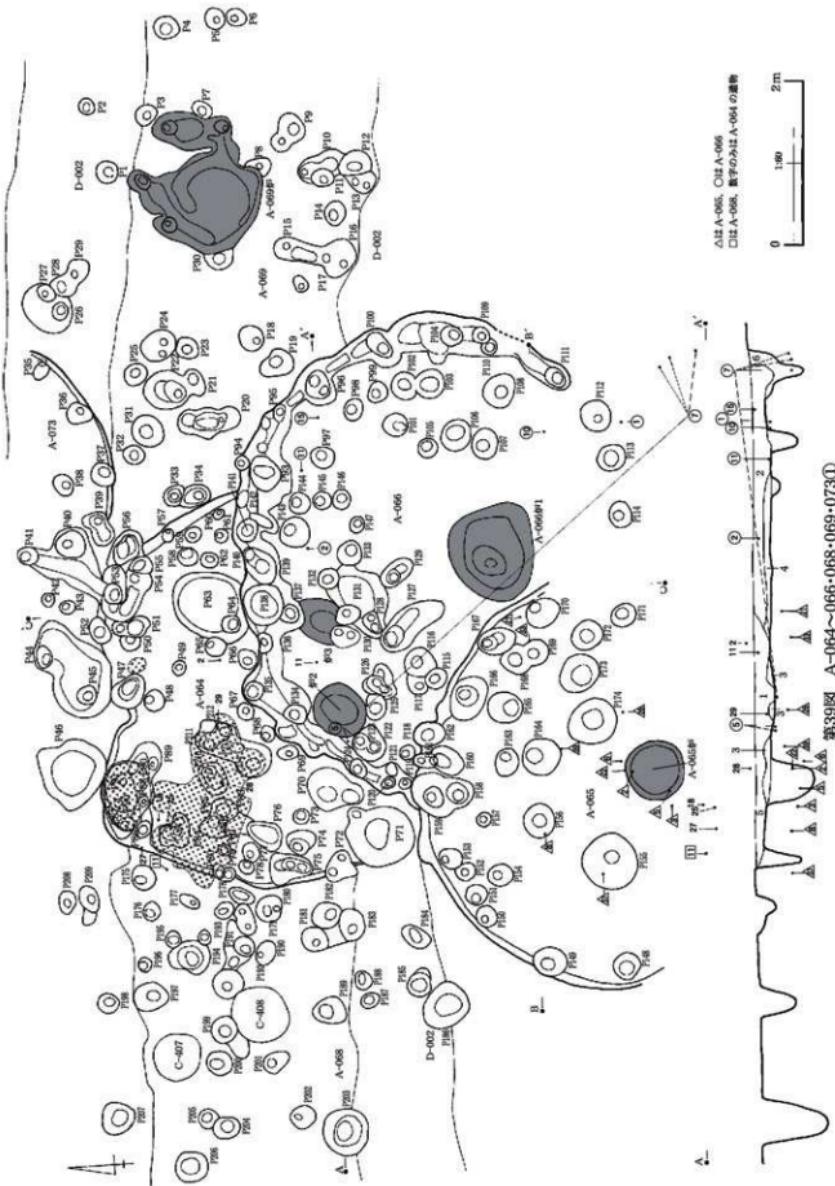
0 1.60 2m 0 1.30 1m
第36図 A-059・060

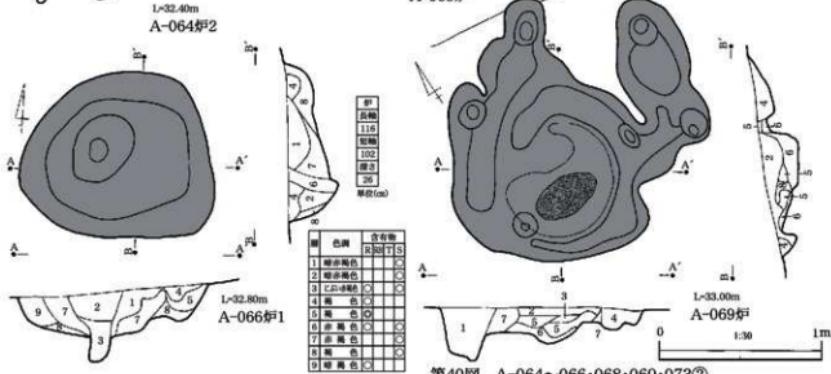
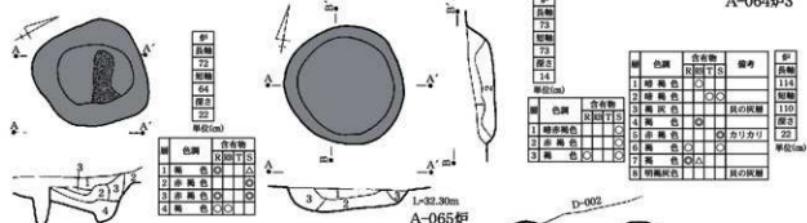
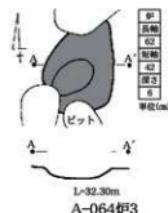
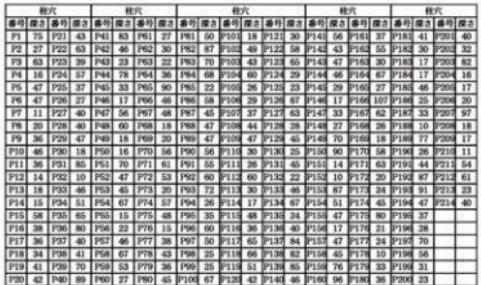
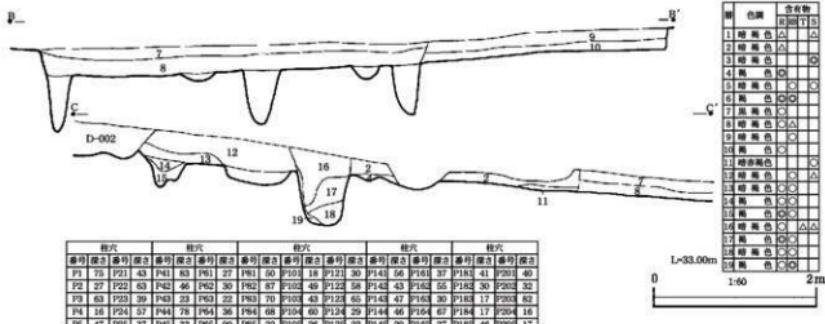


第37図 A-062・070~072

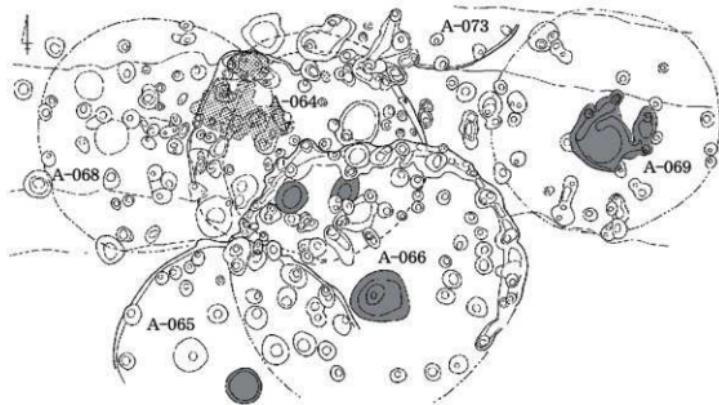


第38图 A-063·067·074



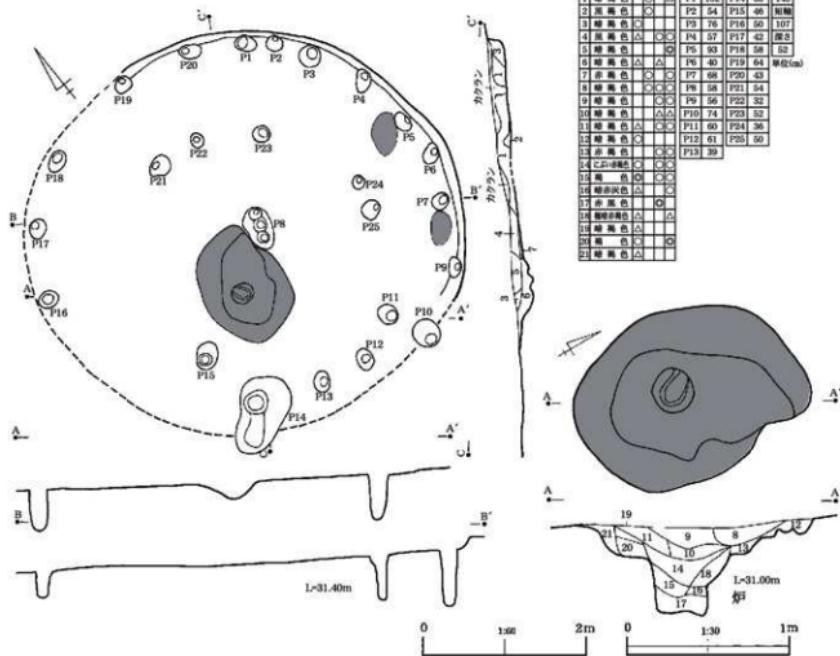


第40回 A=064~066:068:069:073(2)

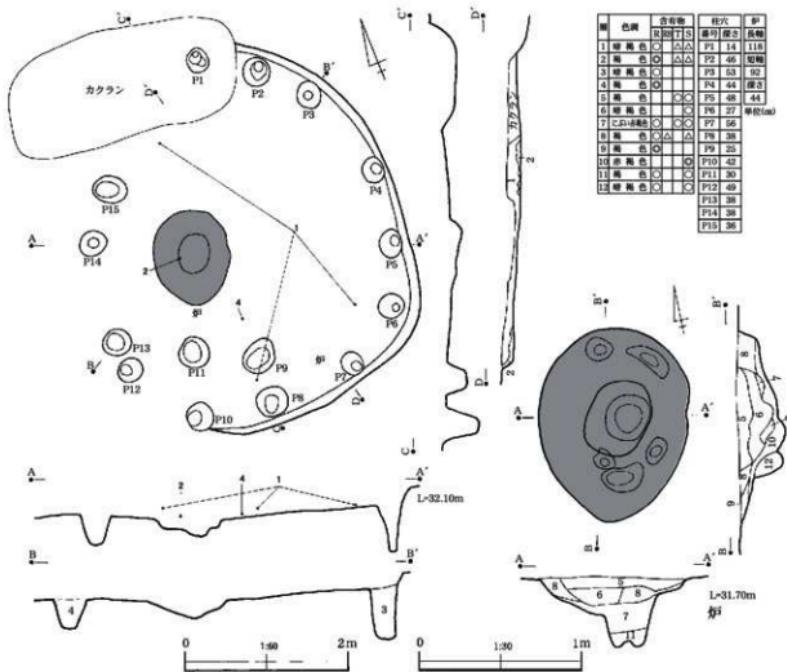


第41図 A-064~066・068・069・073柱穴配置図

番	色調	含む物	柱穴		柱穴 延長(m)
			番号	位置	
1	暗褐色	○ □ △	P1	102	P14 68 145
2	褐褐色	○	P2	54	P15 66 106
3	暗褐色	□	P3	71	P16 71 107
4	暗褐色	△	P4	57	P17 42 107
5	暗褐色	○	P5	63	P18 58 112
6	暗褐色△	△	P6	40	P19 64 112
7	暗褐色	○ □	P7	68	P20 43
8	暗褐色	○ ○	P8	58	P21 54
9	暗褐色	△△	P9	56	P22 32
10	暗褐色	△○	P10	74	P23 52
11	暗褐色△	○	P11	60	P24 36
12	暗褐色○	○	P12	61	P25 50
13	暗褐色	○	P13	39	
14	二岩塊地	○ ○			
15	暗褐色	○ ○			
16	暗褐色	○			
17	暗褐色△	△			
18	暗褐色○	○			
19	暗褐色△	○ □			
20	暗褐色○	○			
21	暗褐色○	○			
22	暗褐色○	○			
23	暗褐色○	○			
24	暗褐色○	○			
25	暗褐色○	○			



第42図 A-075



第43図 A-076

1点(14)と被熱破損した石棒2点(15・16)が出土。10は獸面把手。

A-080(第45図・第86図)は古代のA-077により壊されており、南側に入口施設を持つ2軒が重複。A-080aは周溝を有し、炉の残欠を検出。覆土内からは称名寺2式土器(3)が出土。A-080bは周溝を持たず、東壁の一部と壁柱穴を検出。称名寺1式土器(2)が出土。

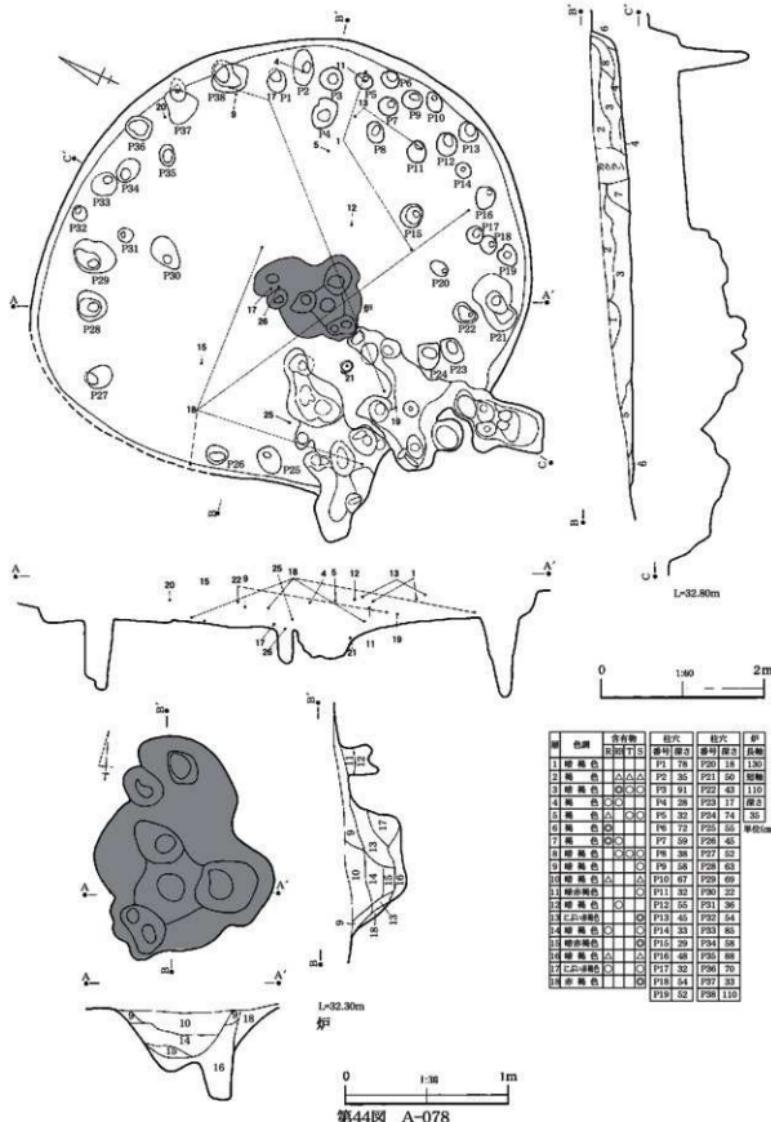
A-081(第46・47図・第86・87図)は、炉形態と柱穴配置から南側に入口施設を有する、a～dの4軒の重複が考えられる。出土遺物は称名寺1式土器(1)と堀之内1式土器(2～21)が出土。主体は堀之内1式土器であり、他に打製石斧3点(22～24)が出土。

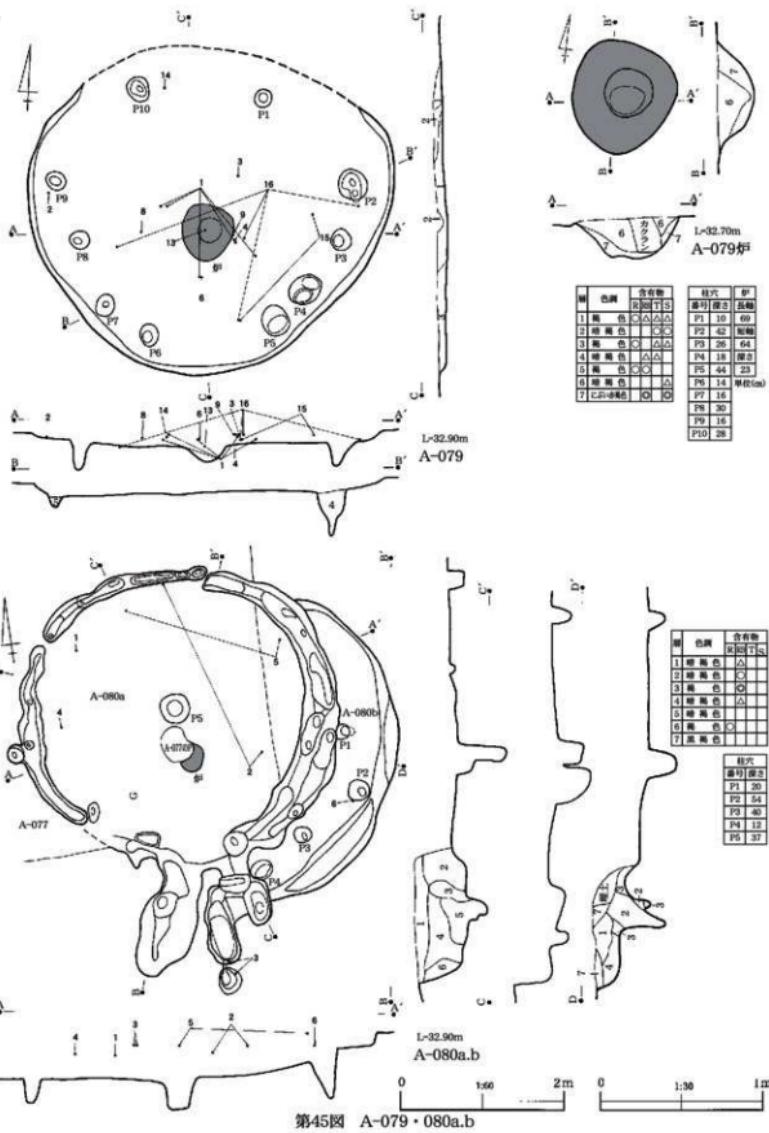
A-082(第48図・第87図)は南側を擾乱で壊され、東壁に炉と壁が残存。加曾利E IV式(4)、称名寺式(3~5)、堀之内1式土器(6~9)の他に、打製石斧1点(11)と磨石1点(12)が出土。

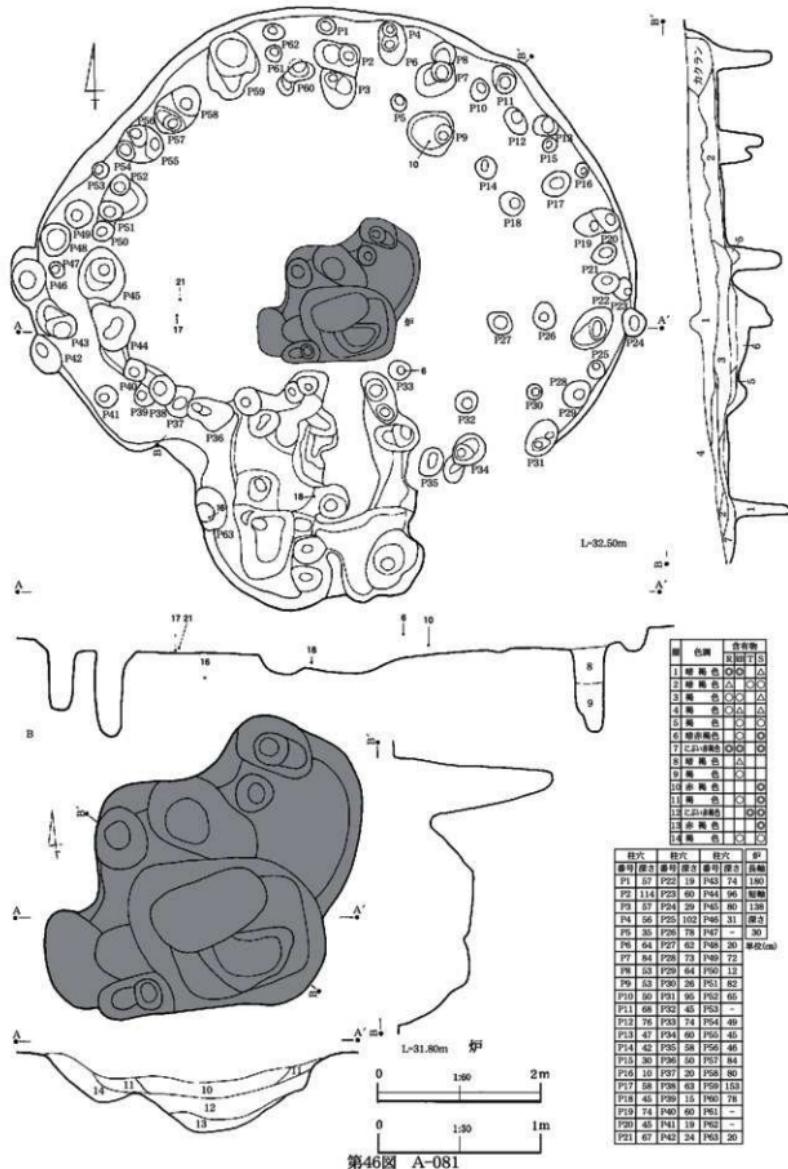
A-083(第49図・第88・89図)は炉とピットを検出。プランは不明。北側から埋甕(7)が検出されているが、屋外埋設土器である。土壠と思われるピットから加曾利EIV式～堀之内I式土器が出土。

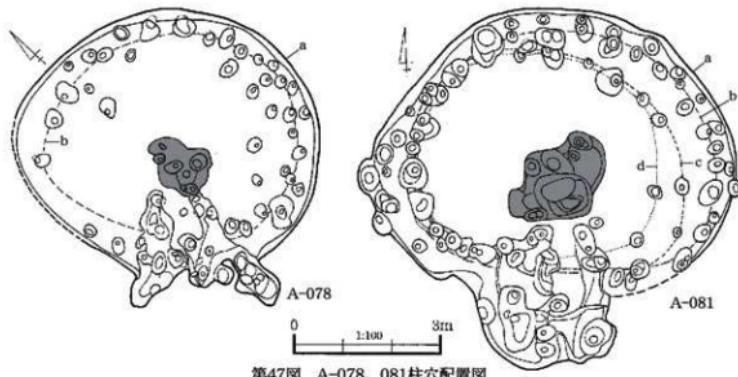
A-084 (第49図・第89図) は斜面部で南側の床と壁を消失。微隆起線文の埋葬炉(1)を検出。

A-085 (第49図・第89、90図) は不整形を呈し、南側は調査区域外。称名寺1式土器（1～10）が出土。1～5は同一個体の土器で3本1組の櫛の先端部の刺突により、疑繙文を作出。

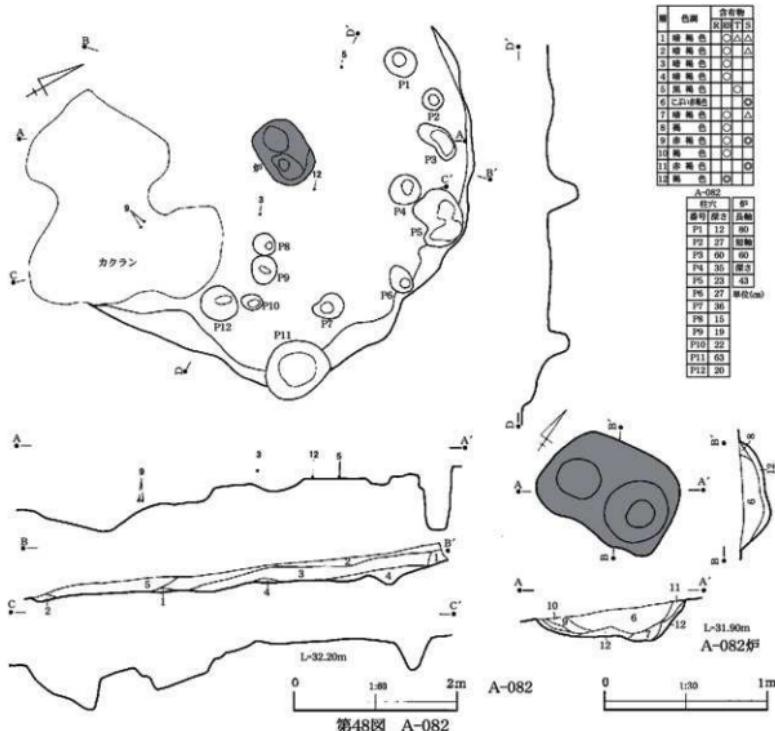




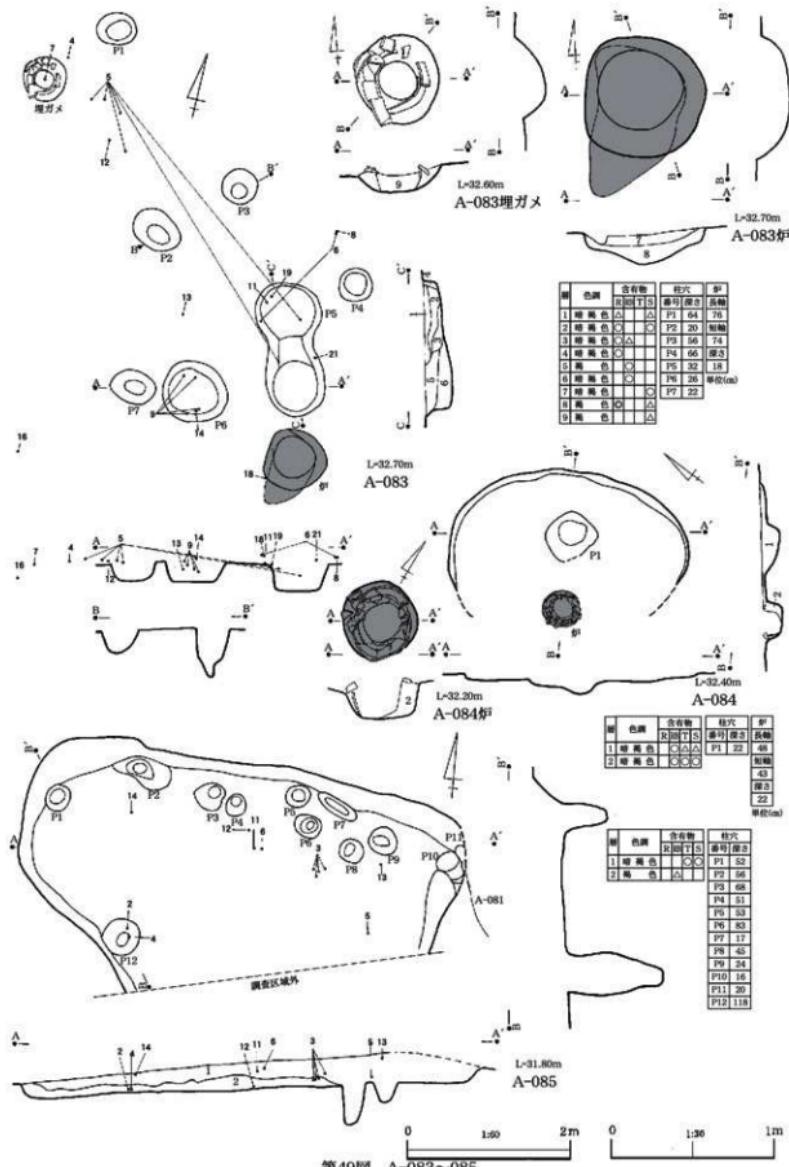




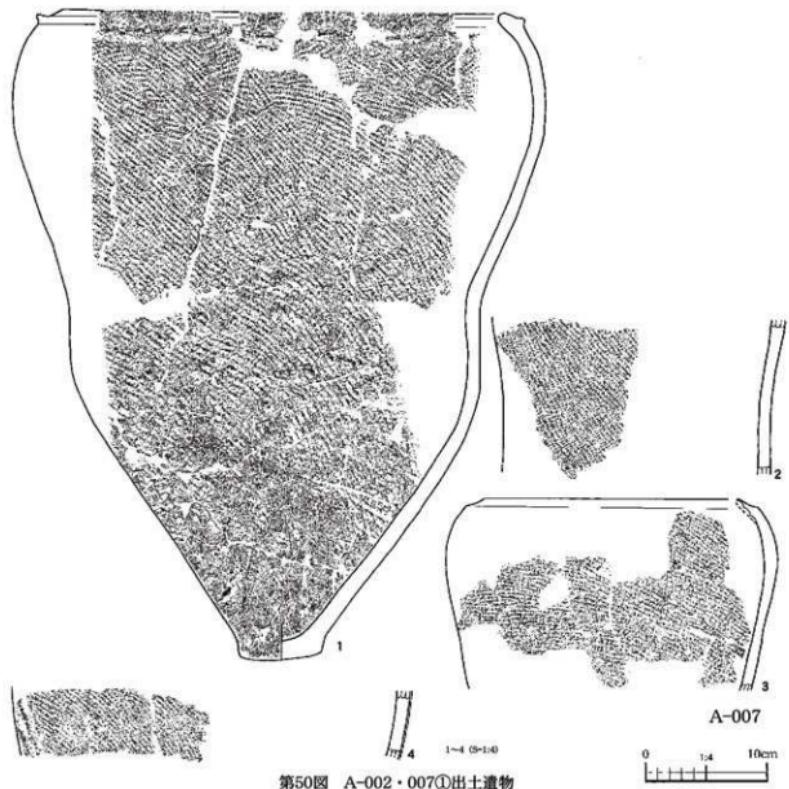
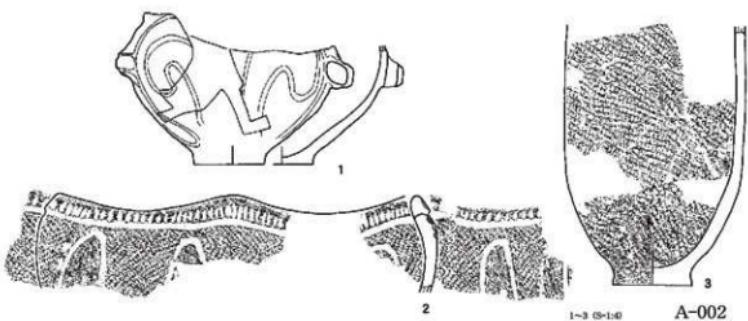
第47図 A-078、081柱穴配置図



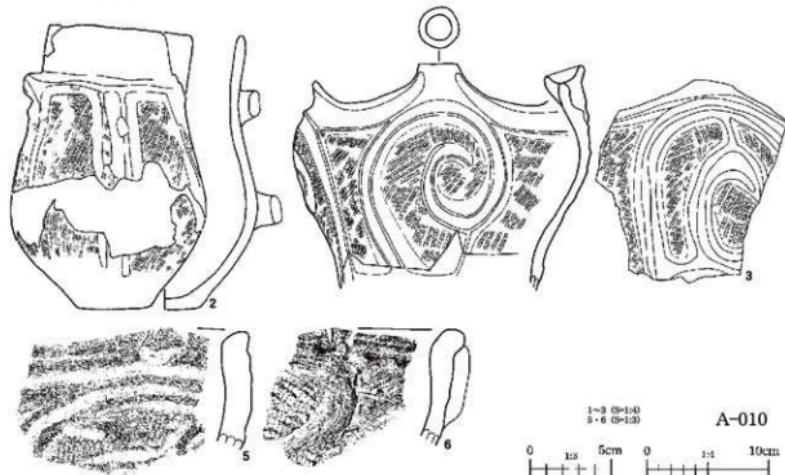
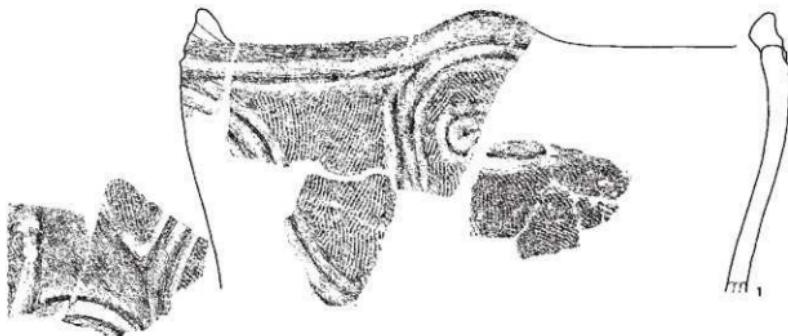
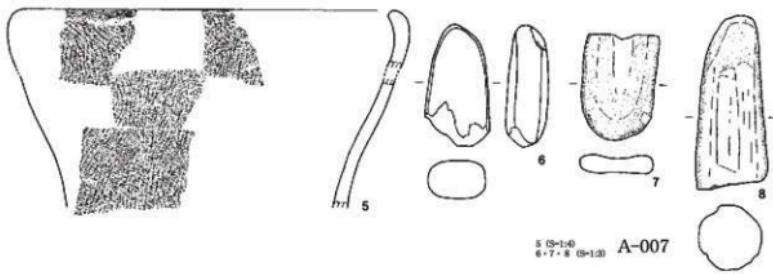
第48回 A-082



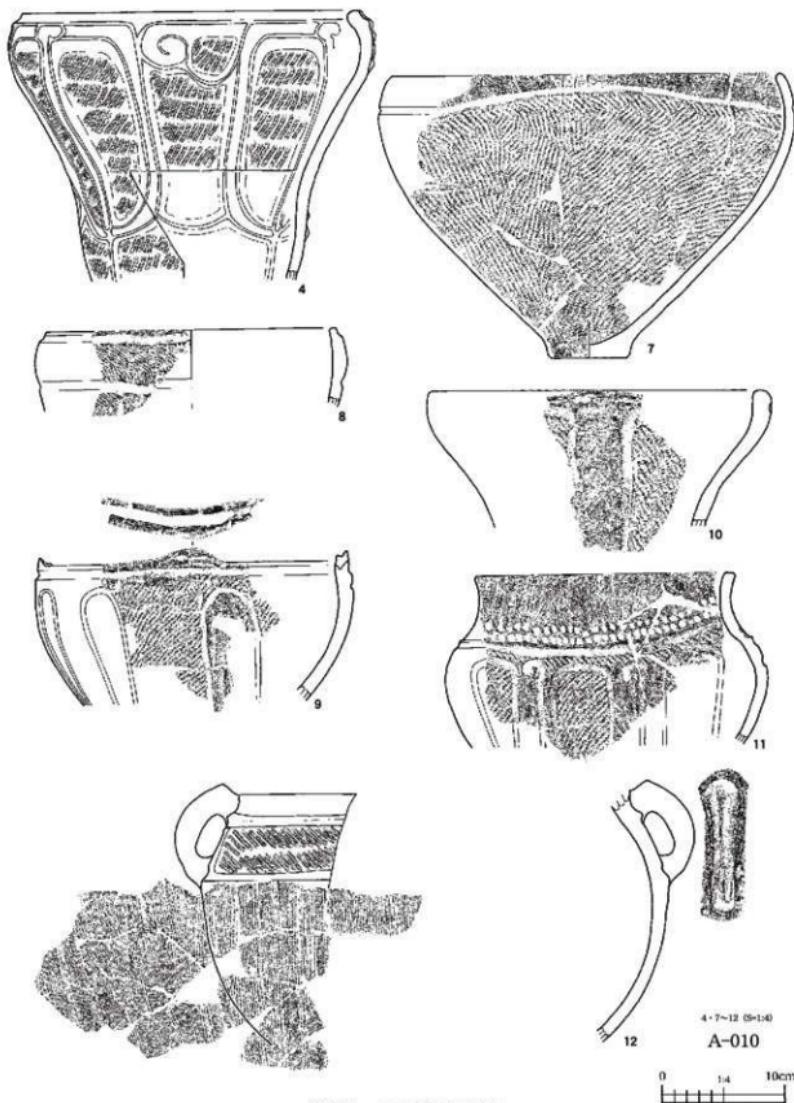
第49図 A-083～085



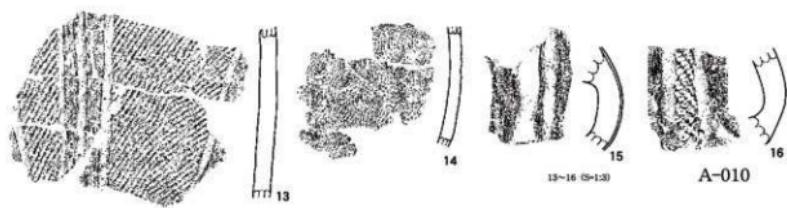
第50図 A-002・007①出土遺物



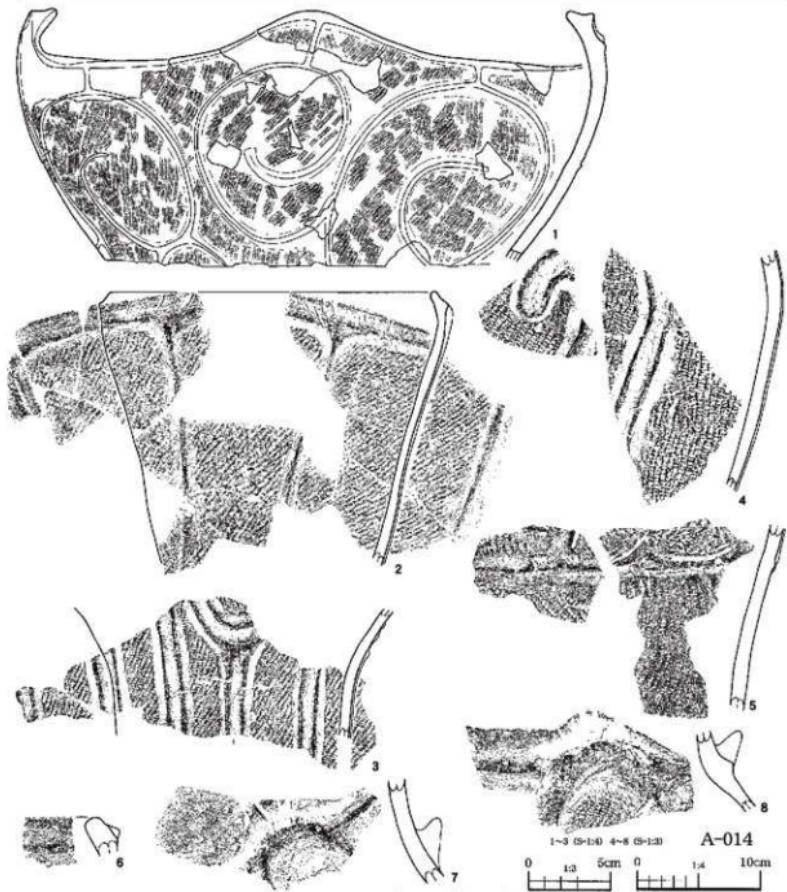
第51図 A-007②・010①出土遺物



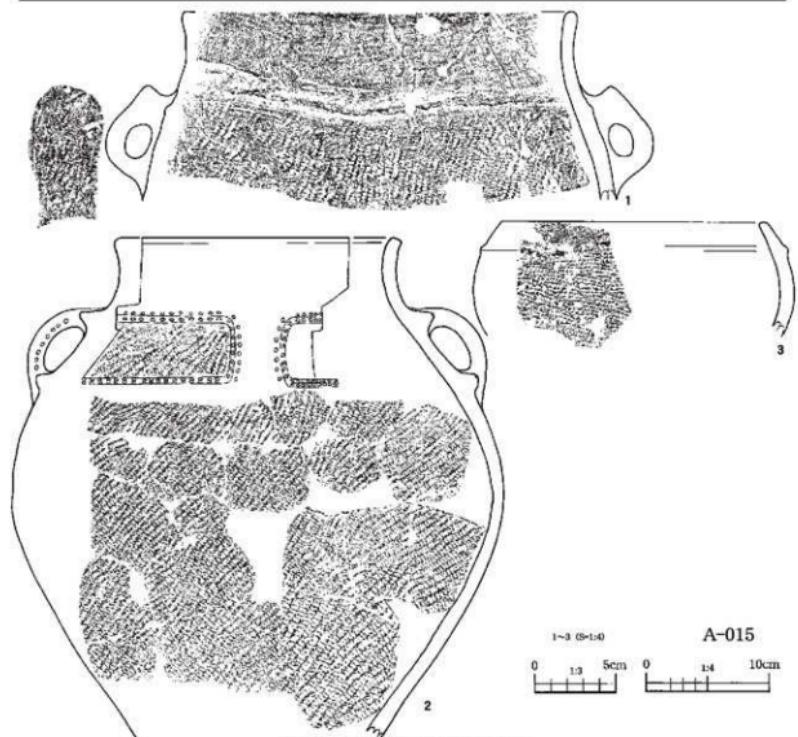
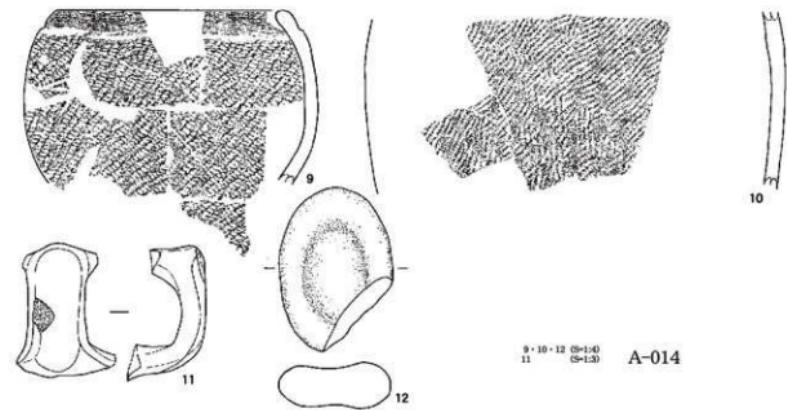
第52図 A-010②出土遺物



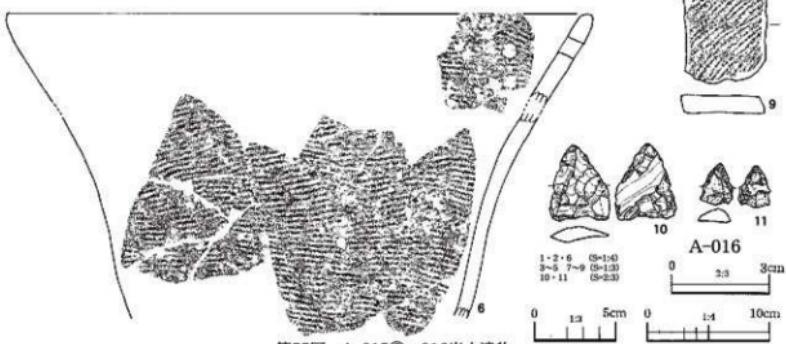
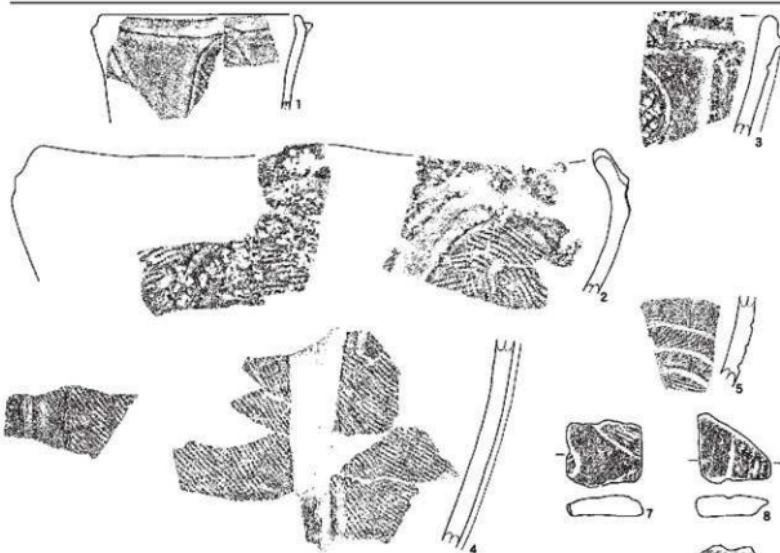
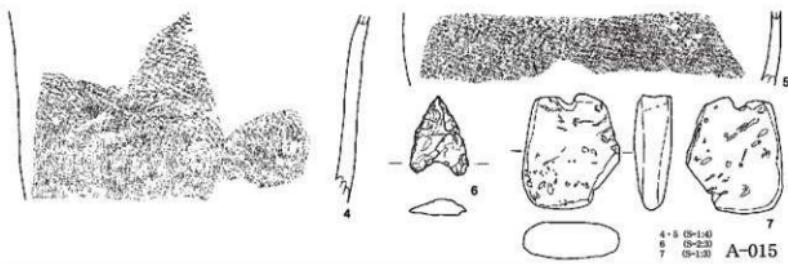
A-010



第53図 A-010③・014①出土遺物



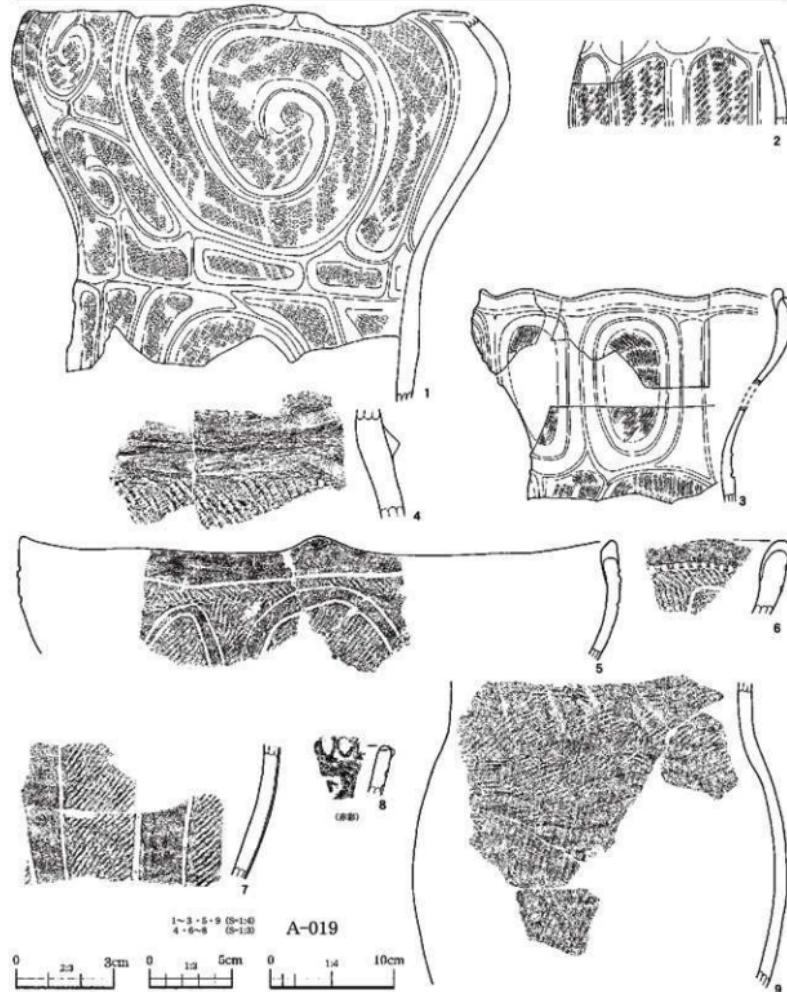
第54図 A-014②・015①出土遺物



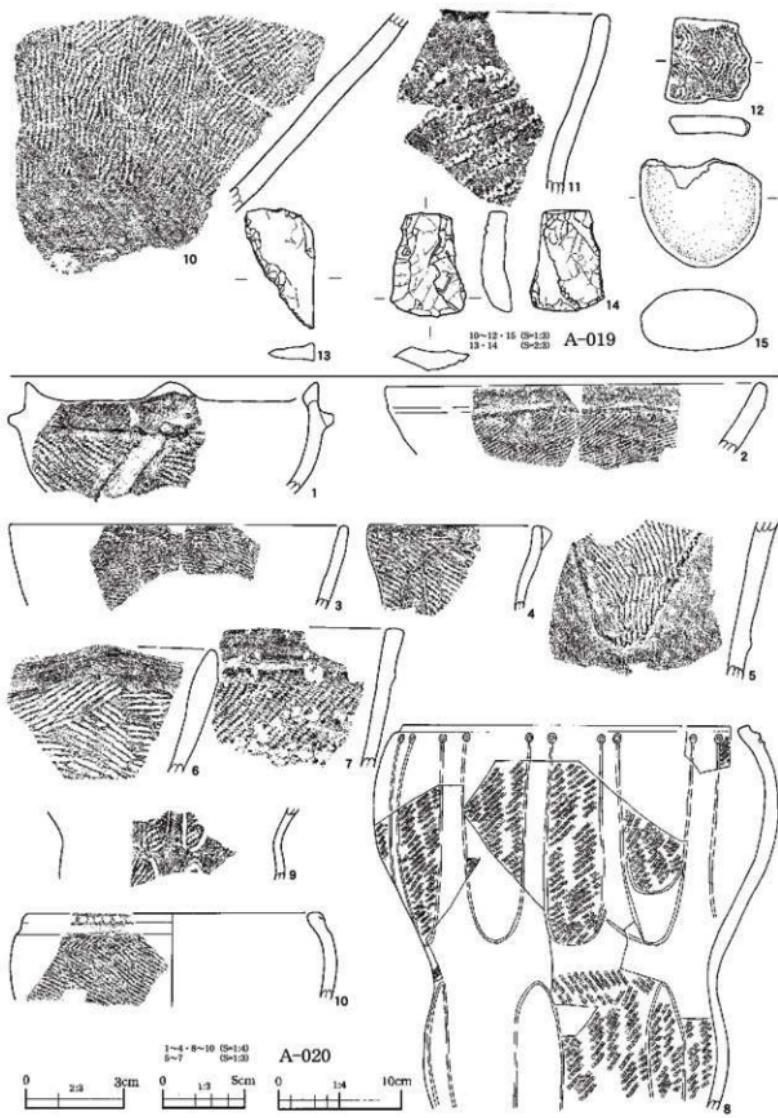
第55図 A-015②・016出土遺物



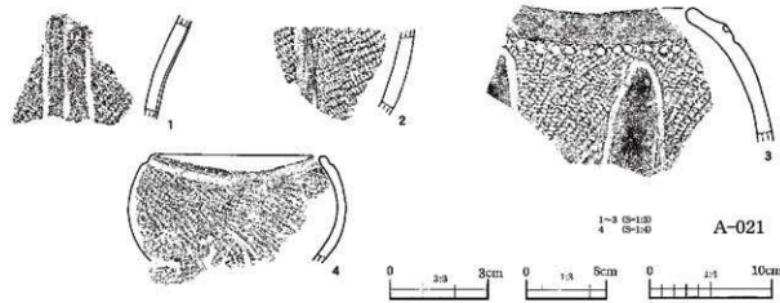
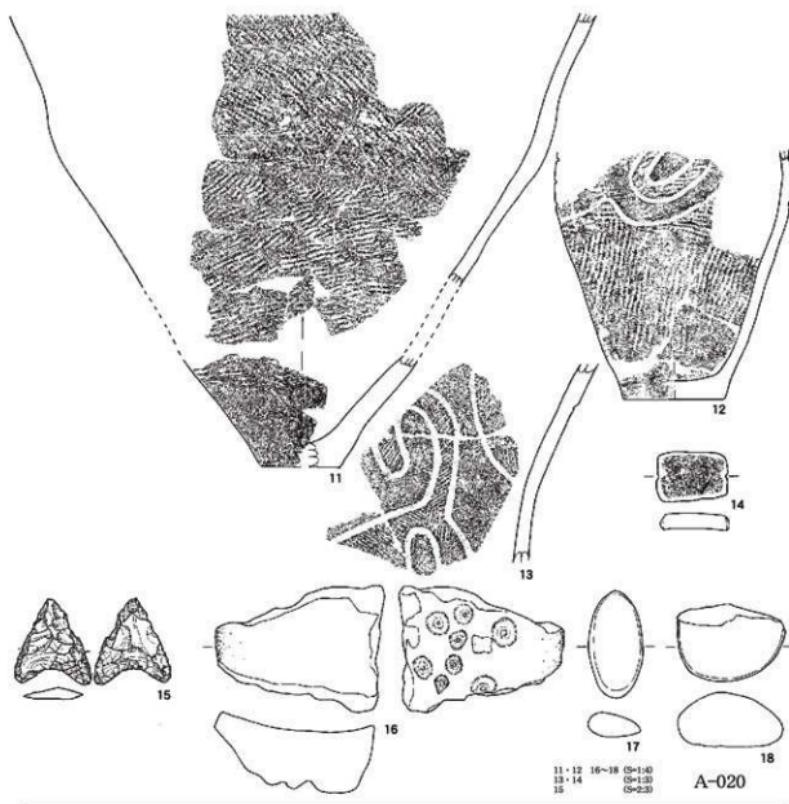
A-017



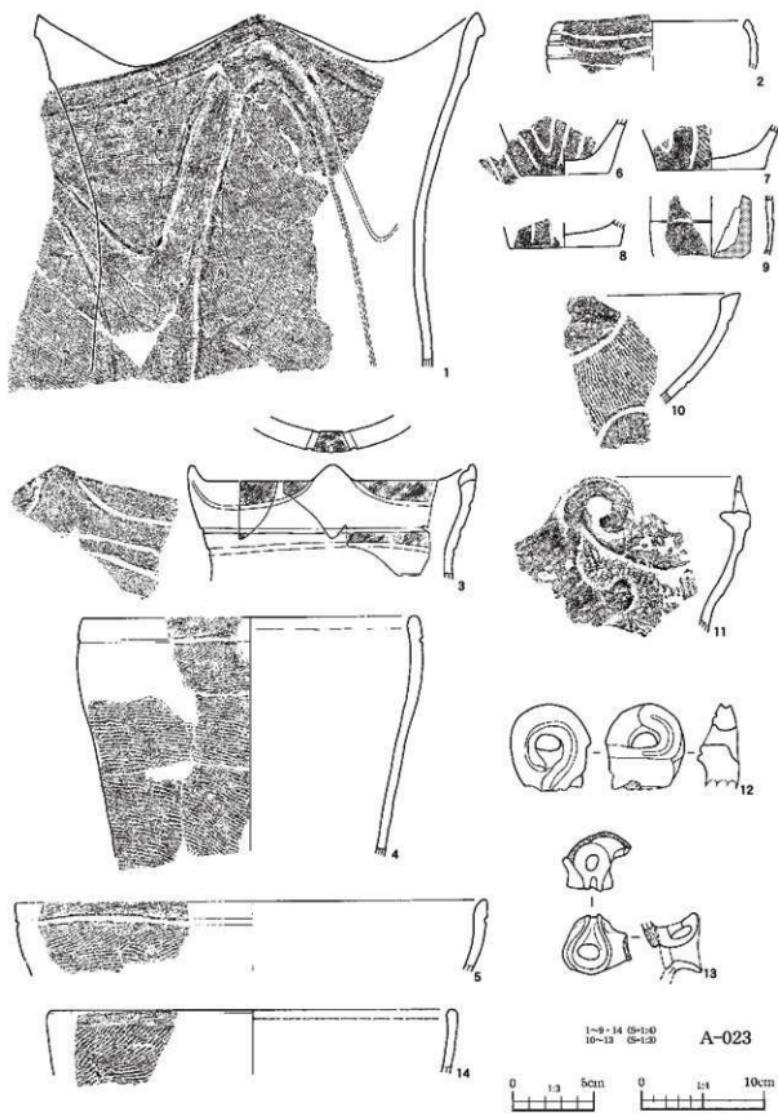
第56図 A-017・019①出土遺物



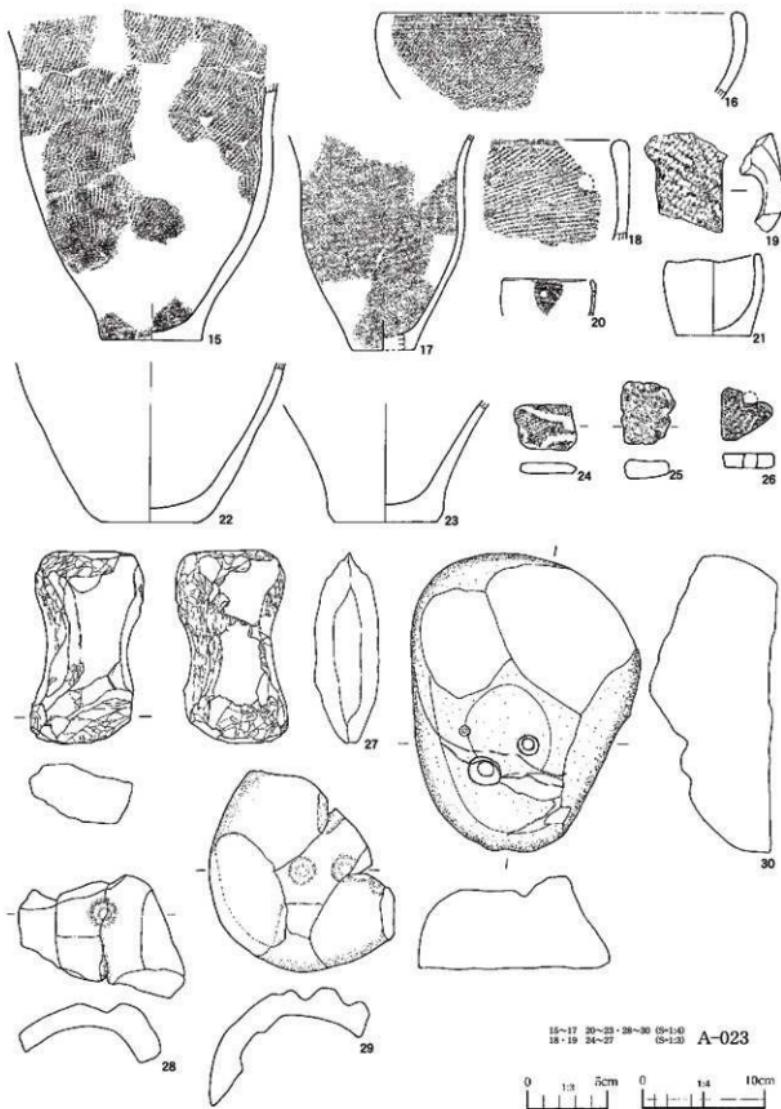
第57図 A-019②・020①出土遺物



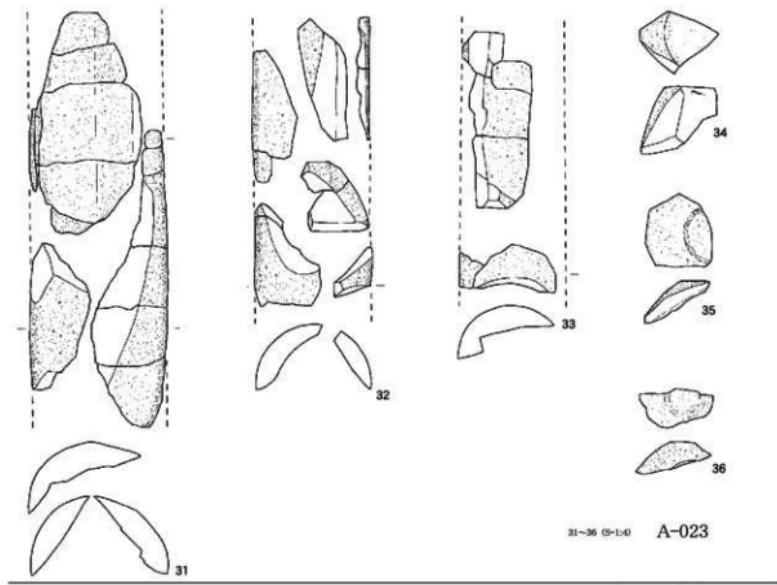
第58図 A-020②・021出土遺物



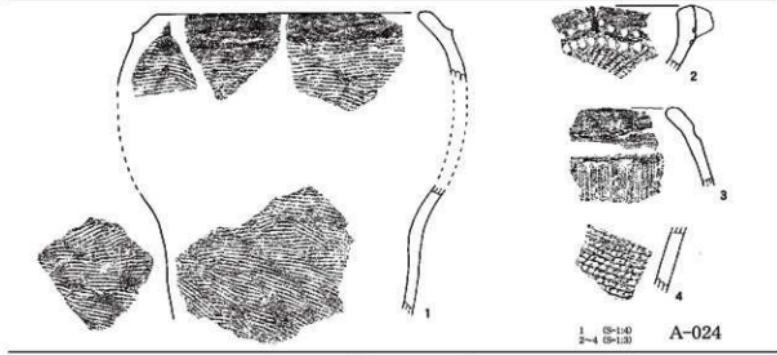
第59図 A-023①出土遺物



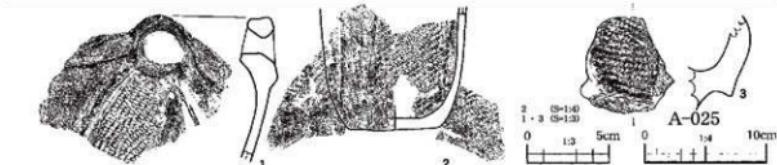
第60図 A-023②出土遺物



31~36 (S=1:4) A-023

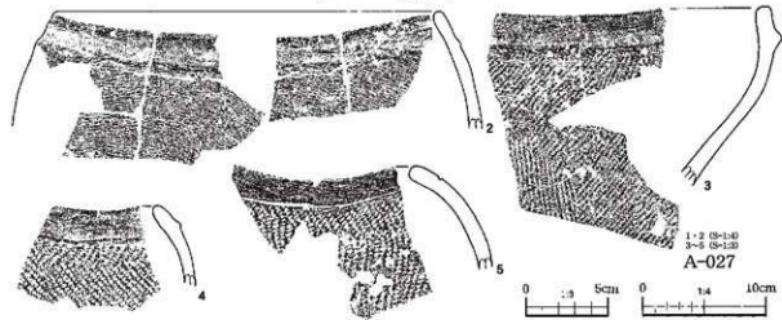
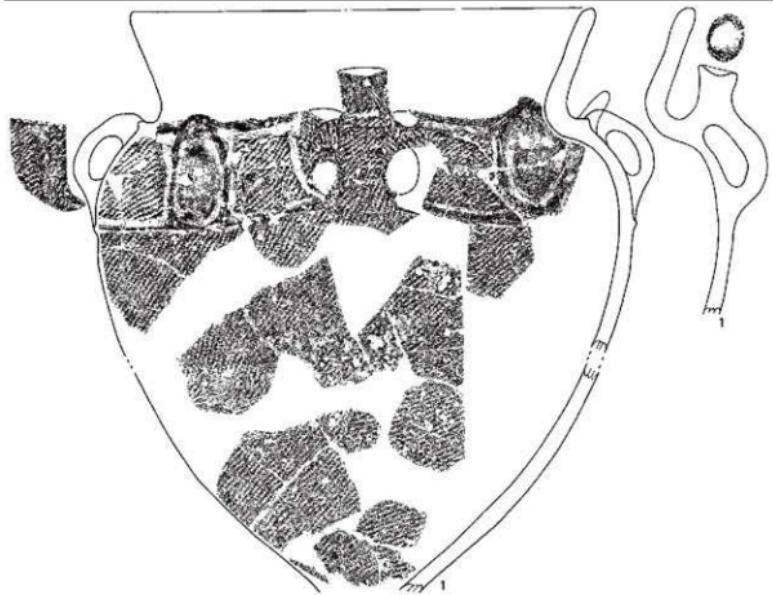
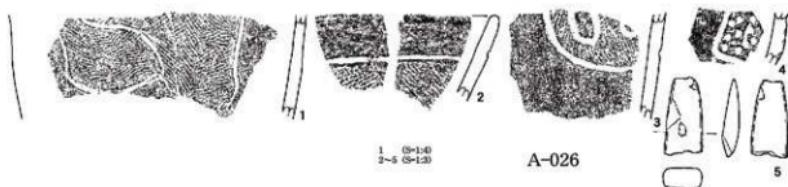


1~4 (S=1:4) A-024

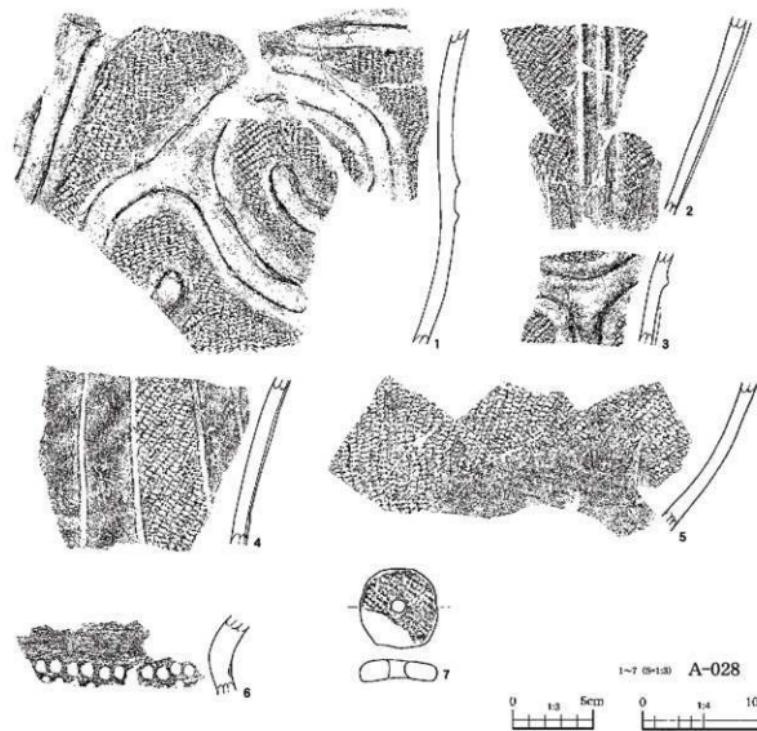
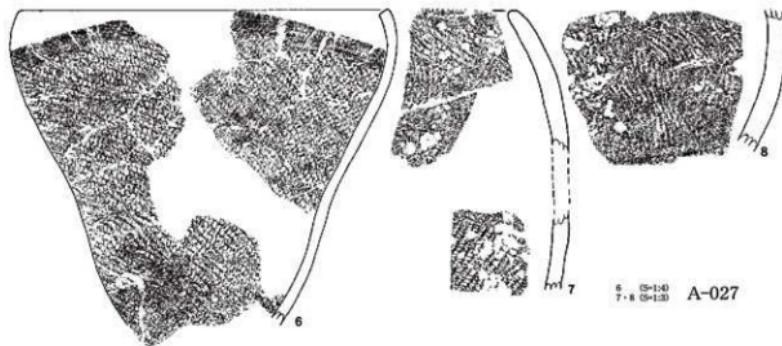


1~3 (S=1:4)
0 1:3 5cm 1 0 1:4 10cm
A-025

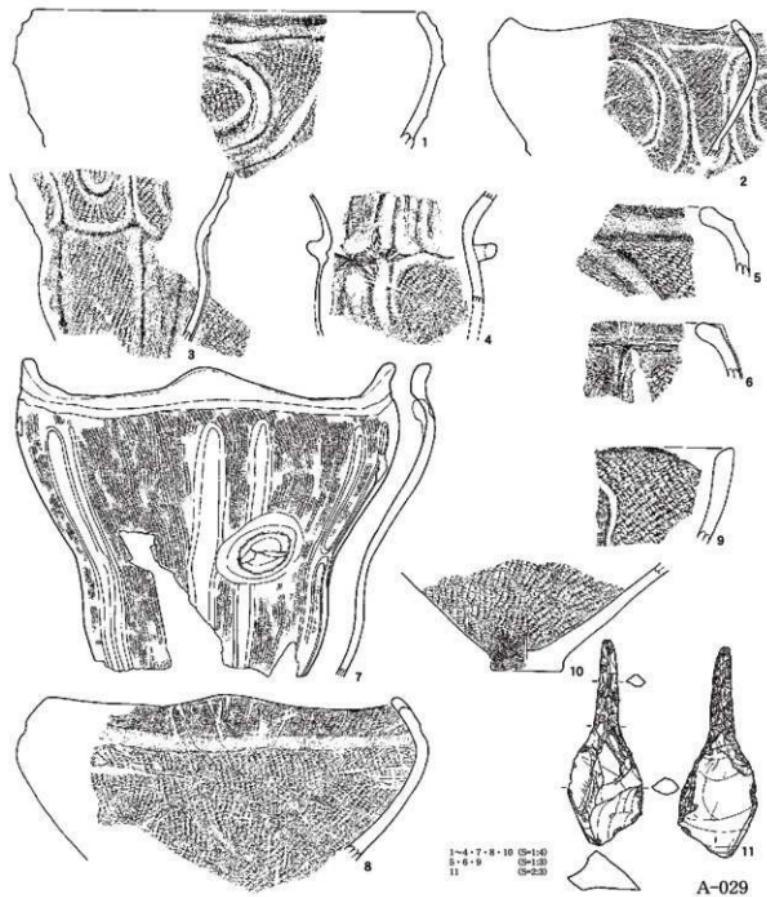
第61図 A-023③・024・025出土遺物



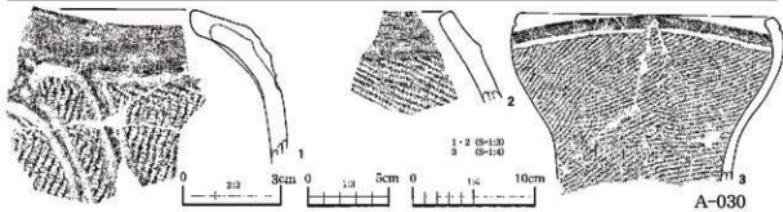
第62図 A-026・027①出土遺物



第63図 A-027②・028出土遺物

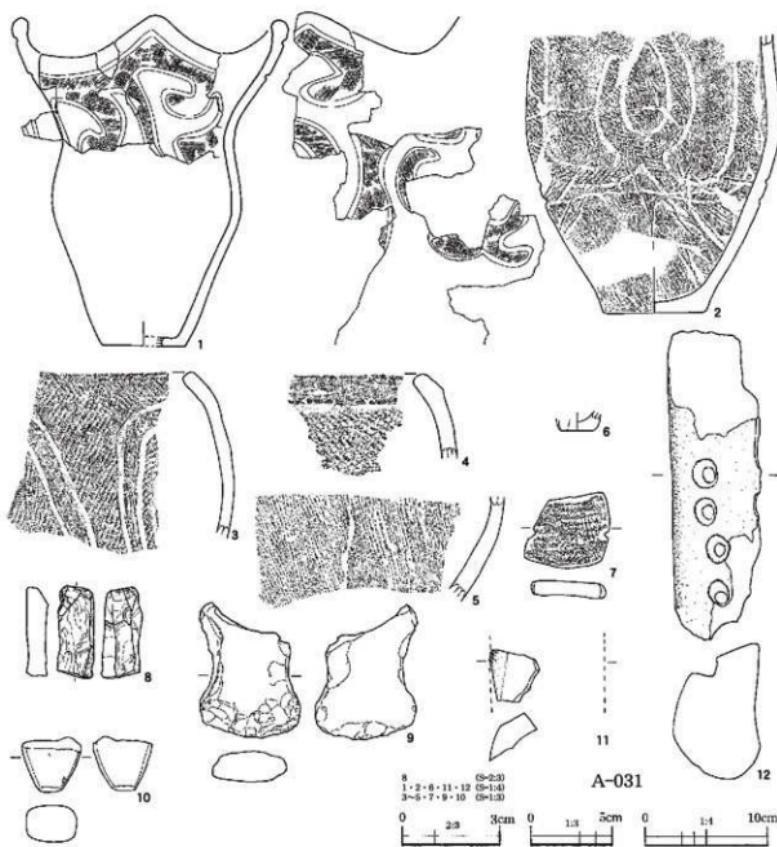
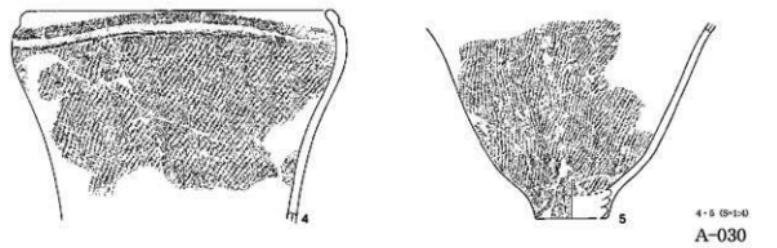


A-029

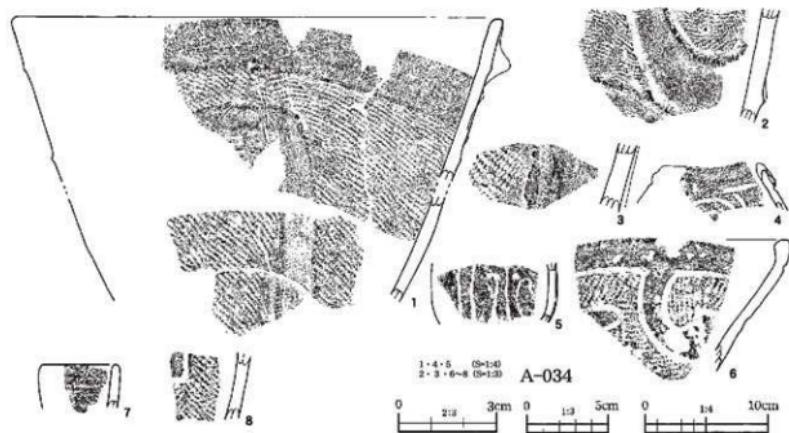
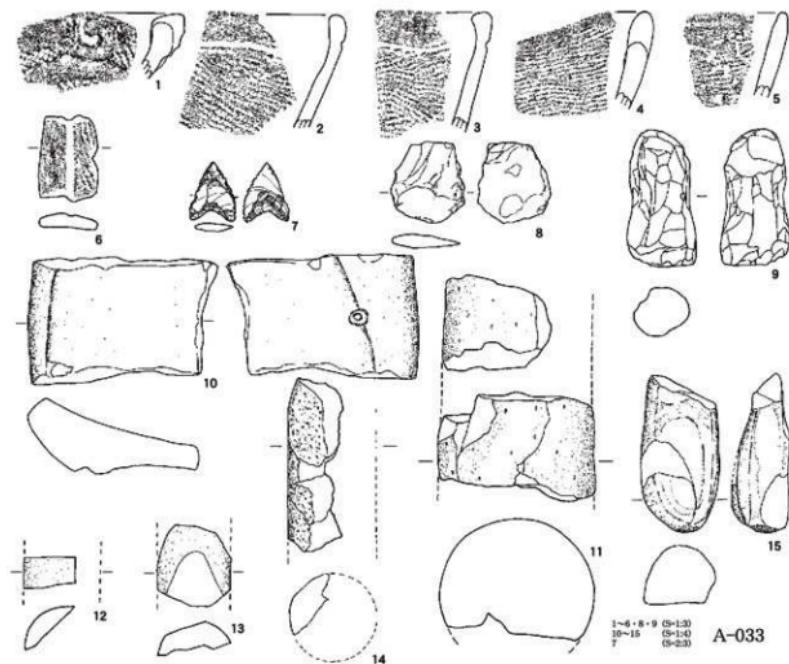


A-030

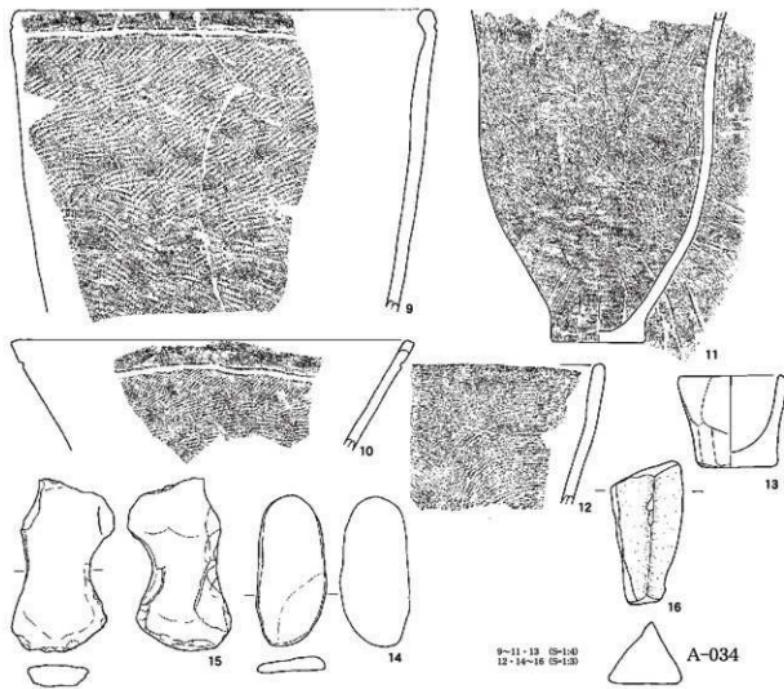
第64図 A-029・030①出土遺物



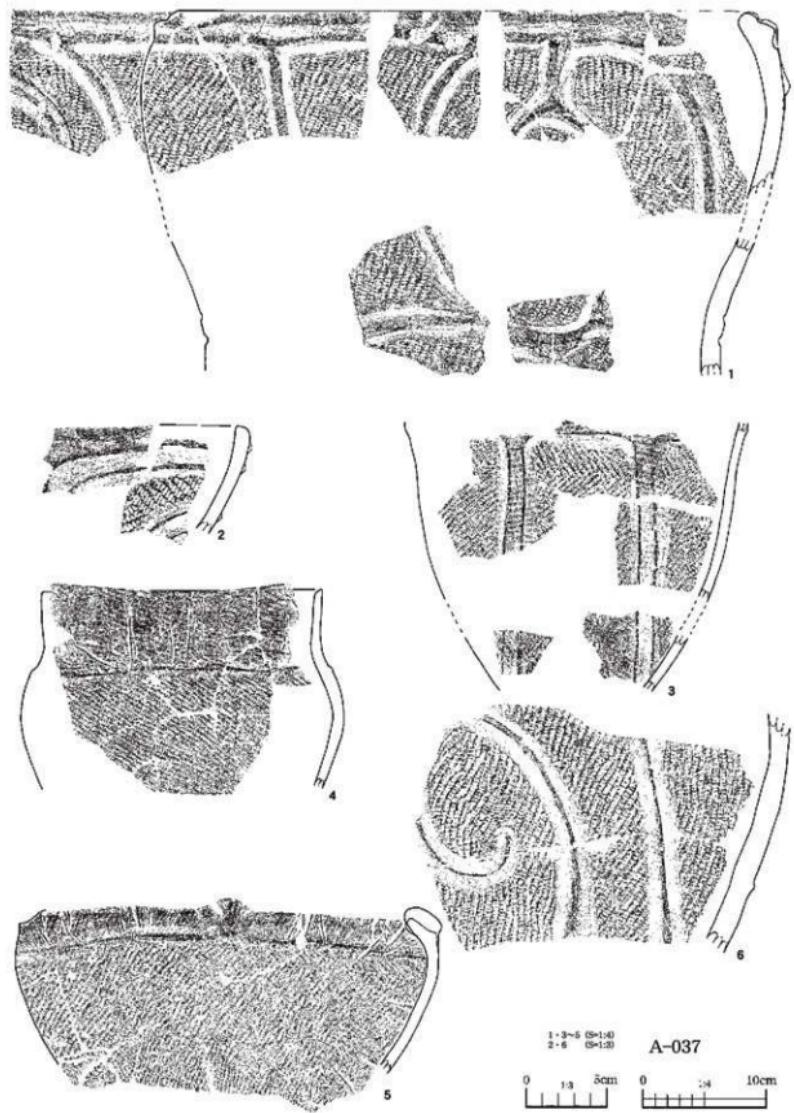
第65図 A-030②・031出土遺物



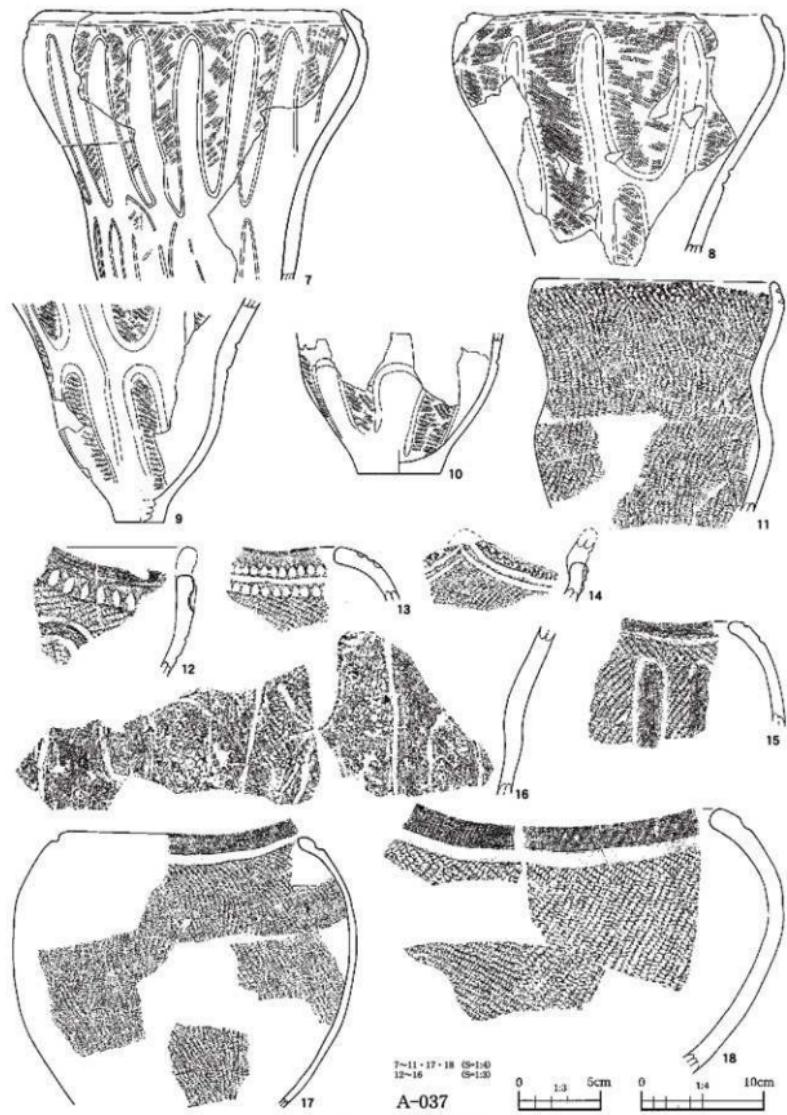
第66図 A-033・034①出土遺物



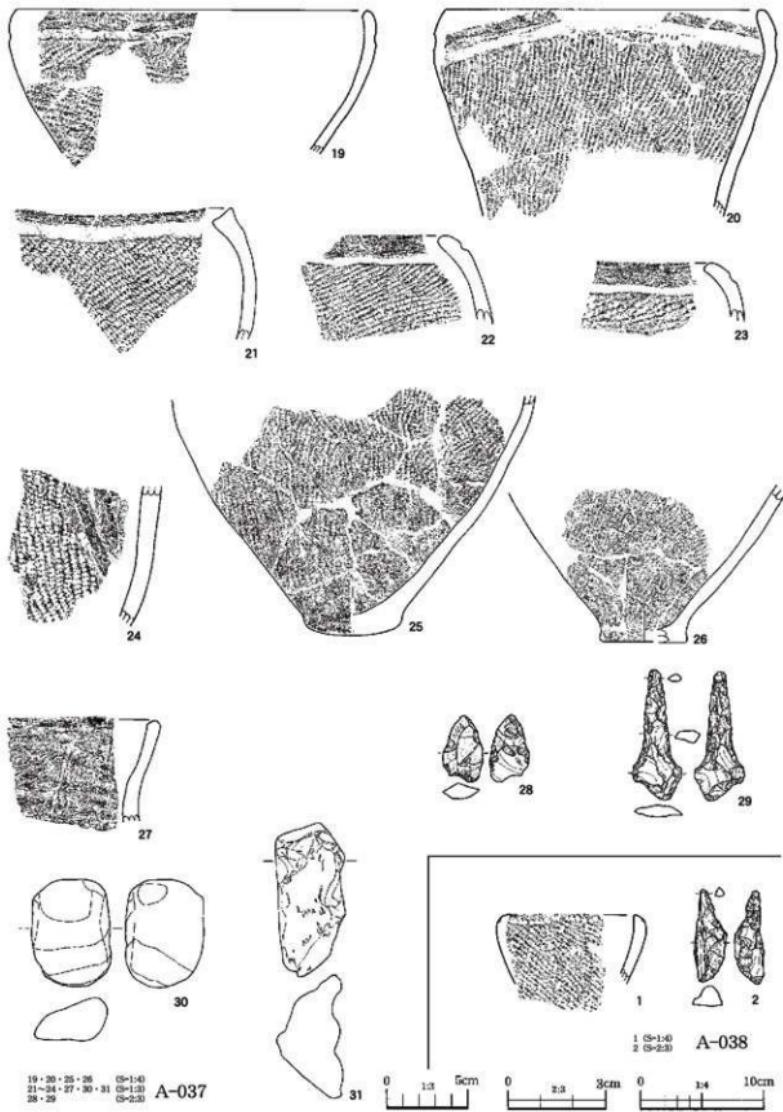
第67図 A-034②・035出土遺物

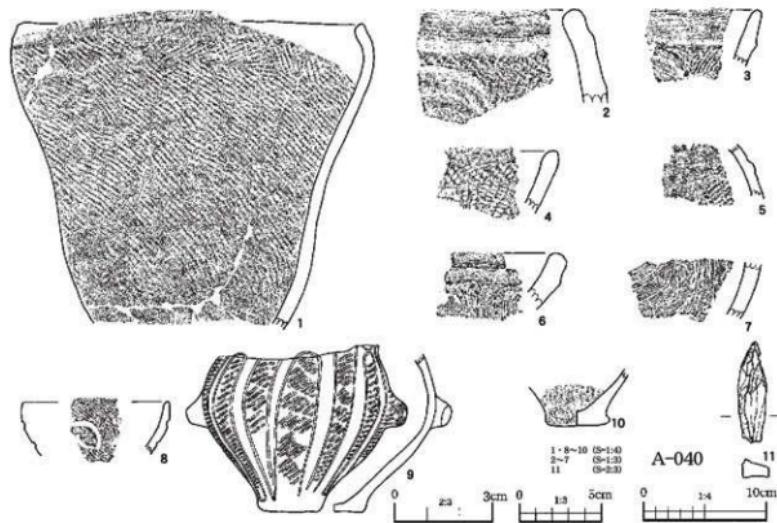
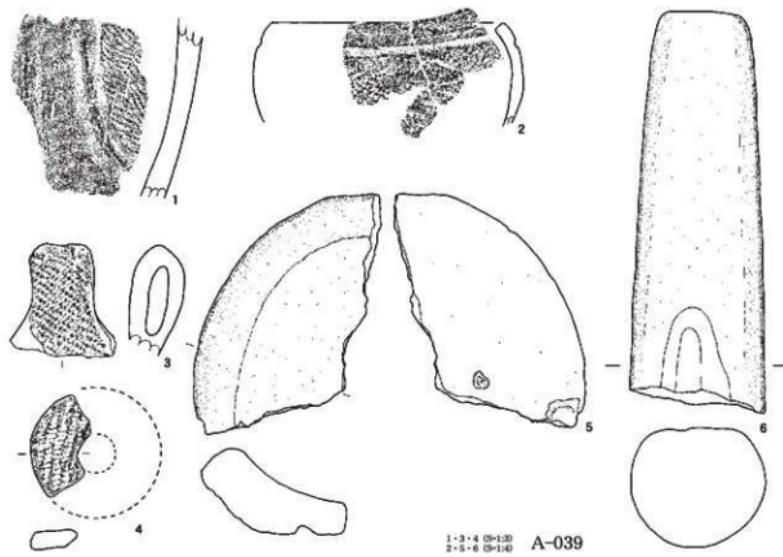


第68図 A-037①出土遺物

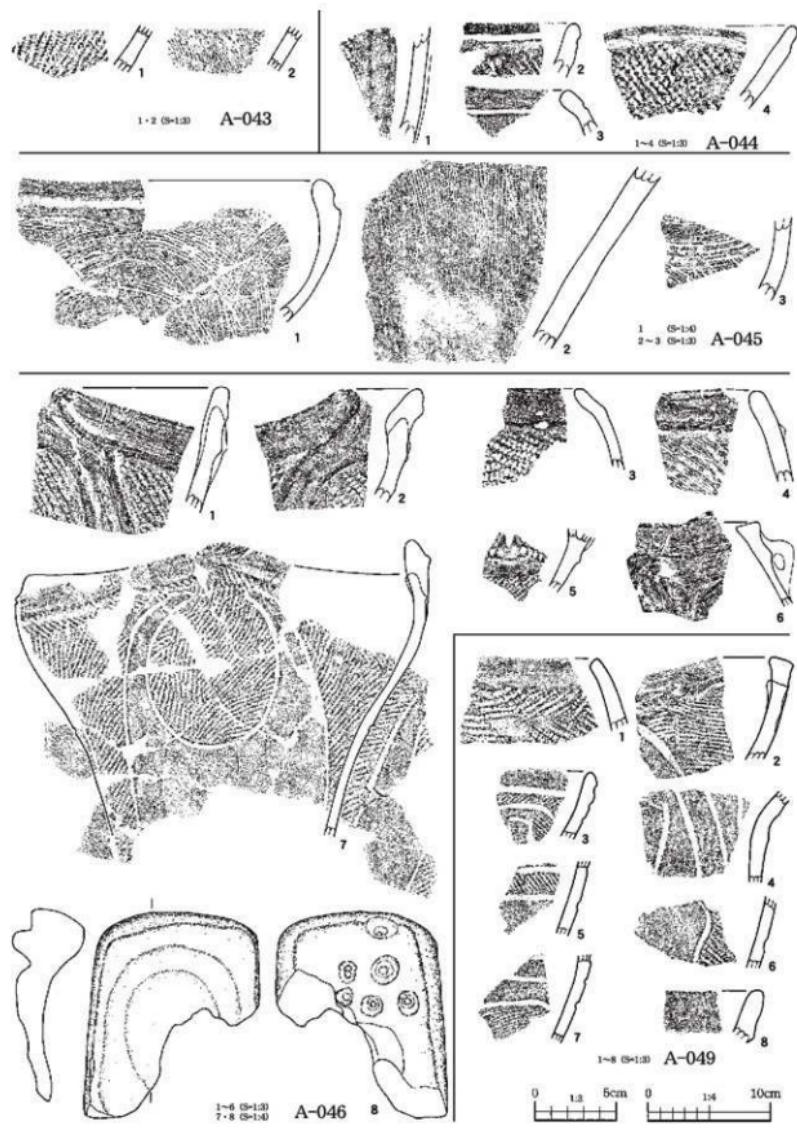


第69図 A-037②出土遺物

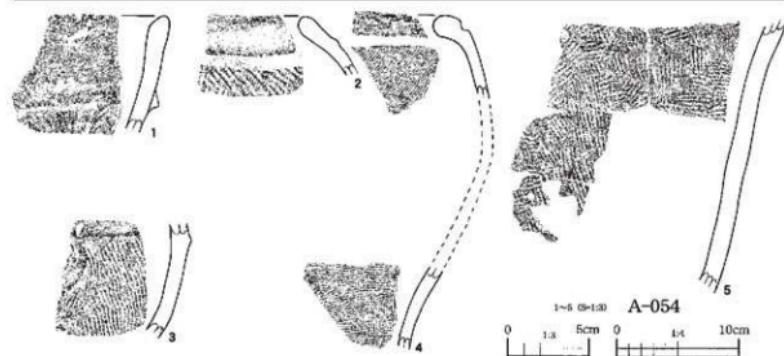
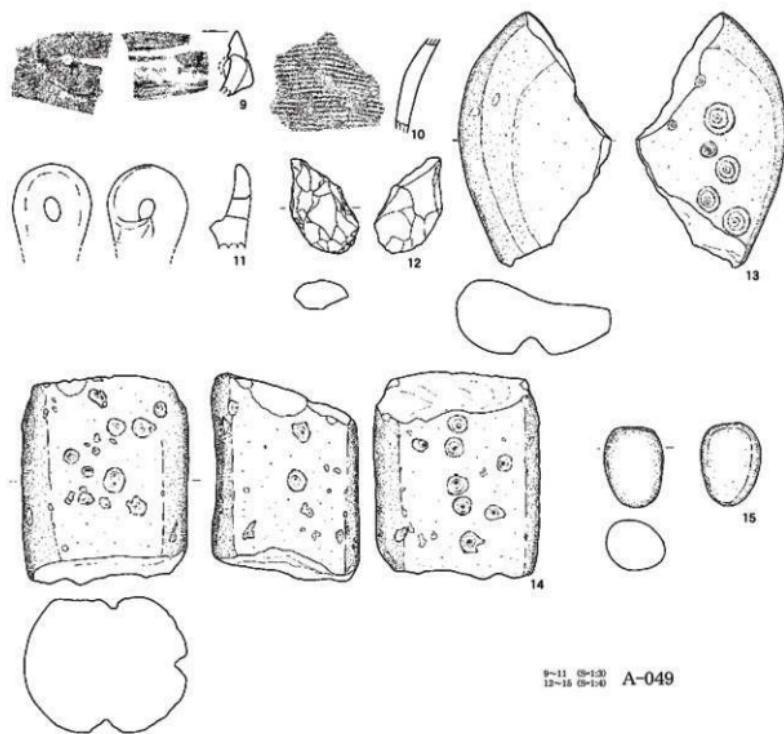




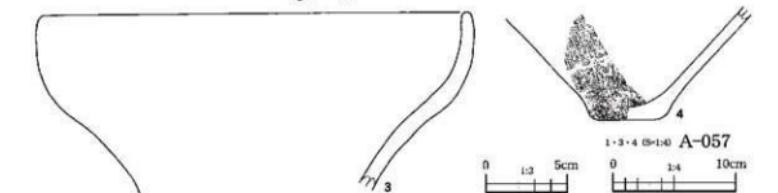
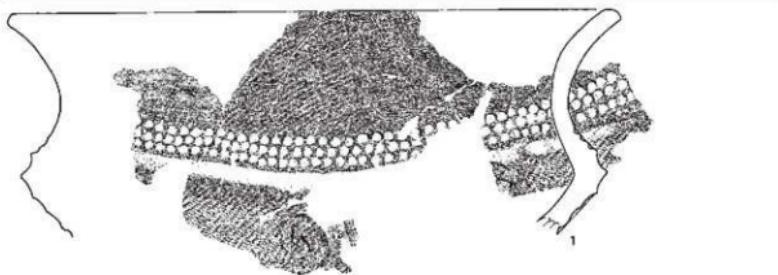
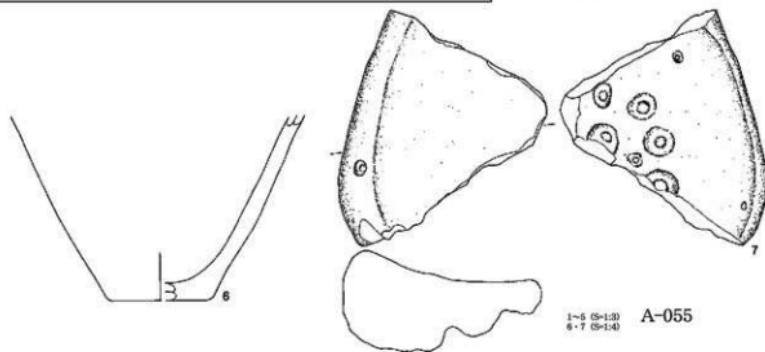
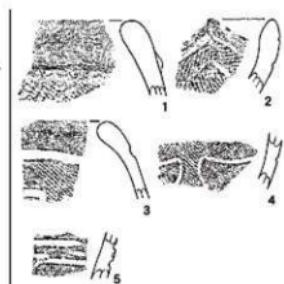
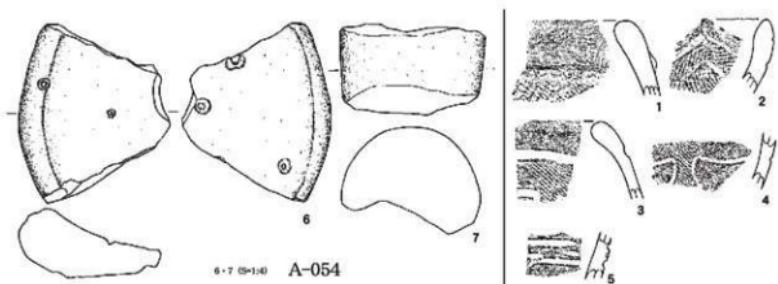
第71図 A-039・040出土遺物



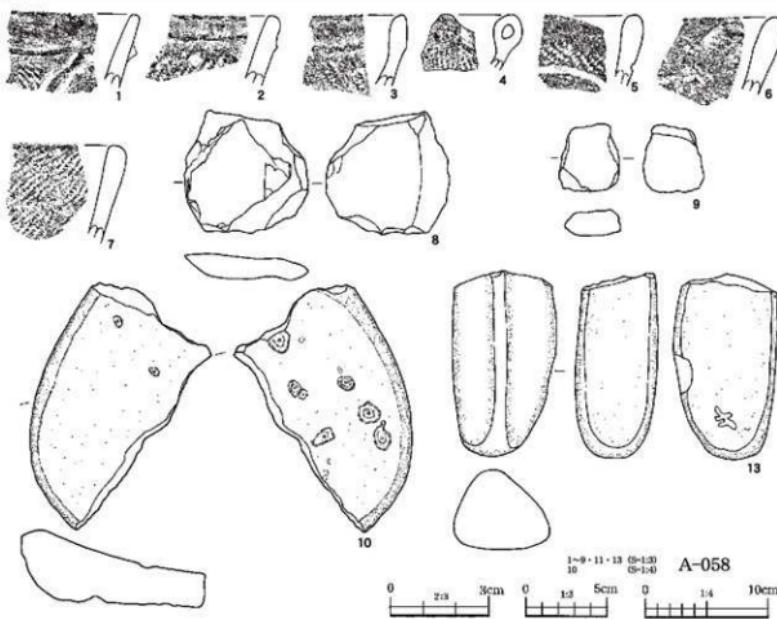
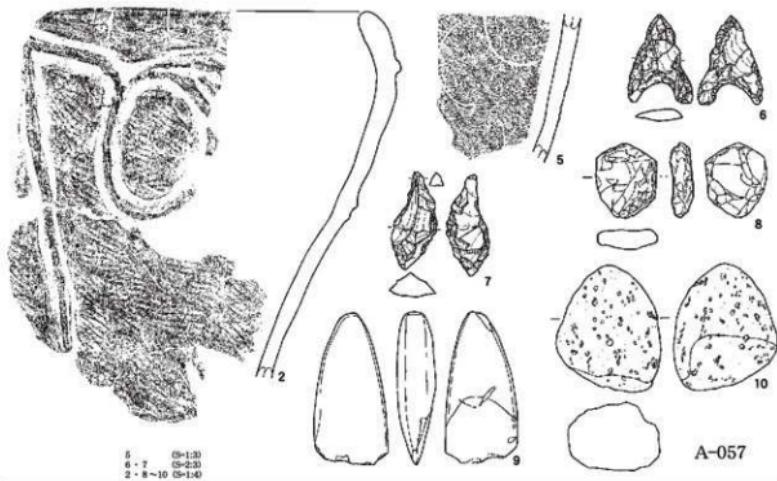
第72图 A-043·044·045·046·049①出土遗物



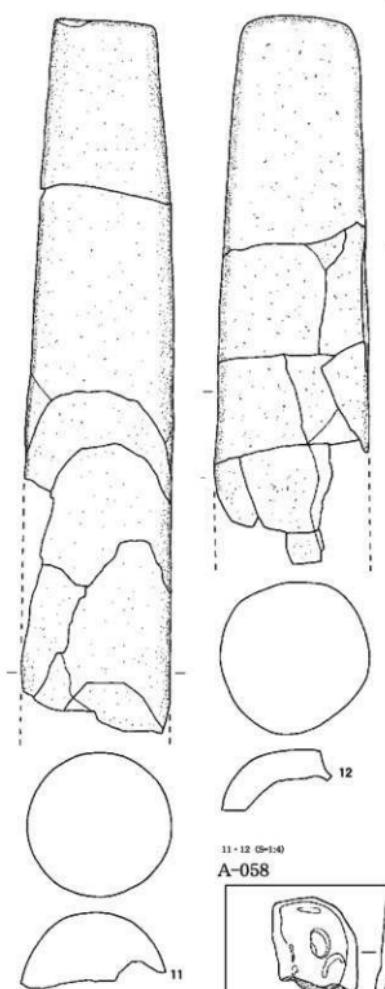
第73图 A-049②·054①出土遗物



第74図 A-054②・055・057①出土遺物

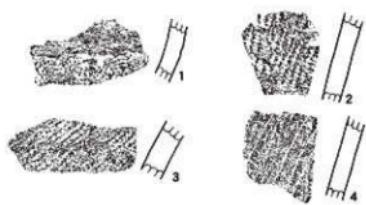


第75圖 A-057②・058①出土遺物

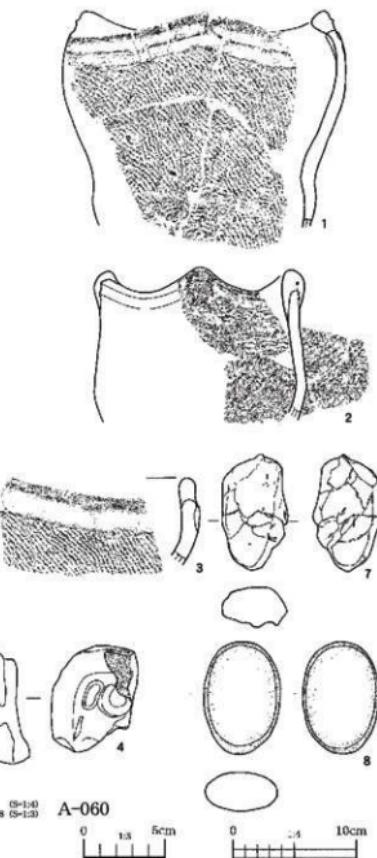


11 - 12 (S=1/4)

A-058



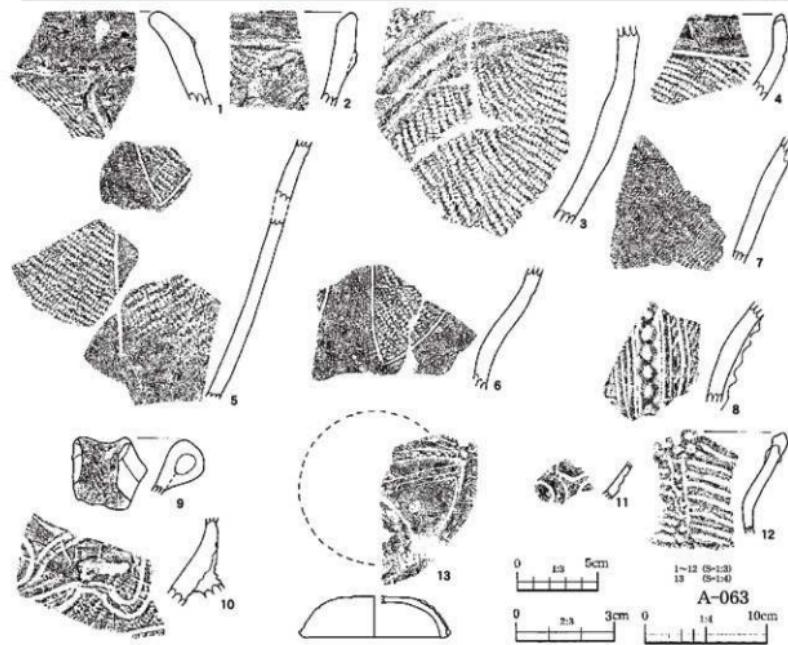
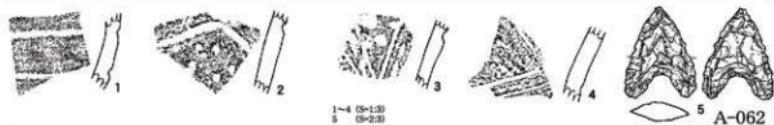
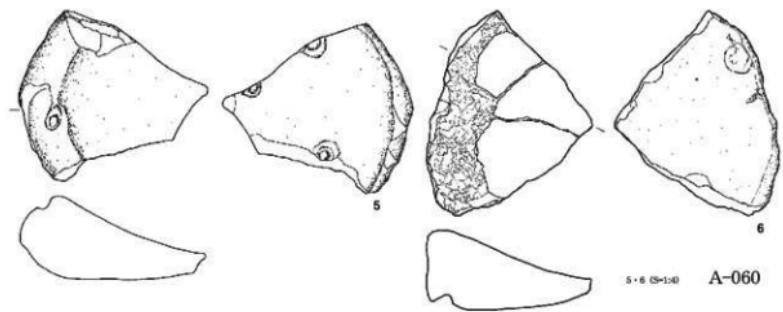
1~4 (S=1/3) A-059



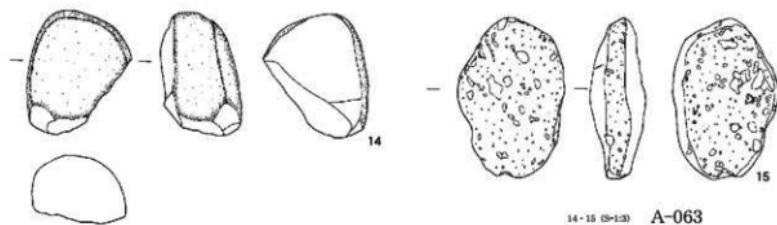
1~2 (S=1/4)
3~4~7~8 (S=1/2)

A-060

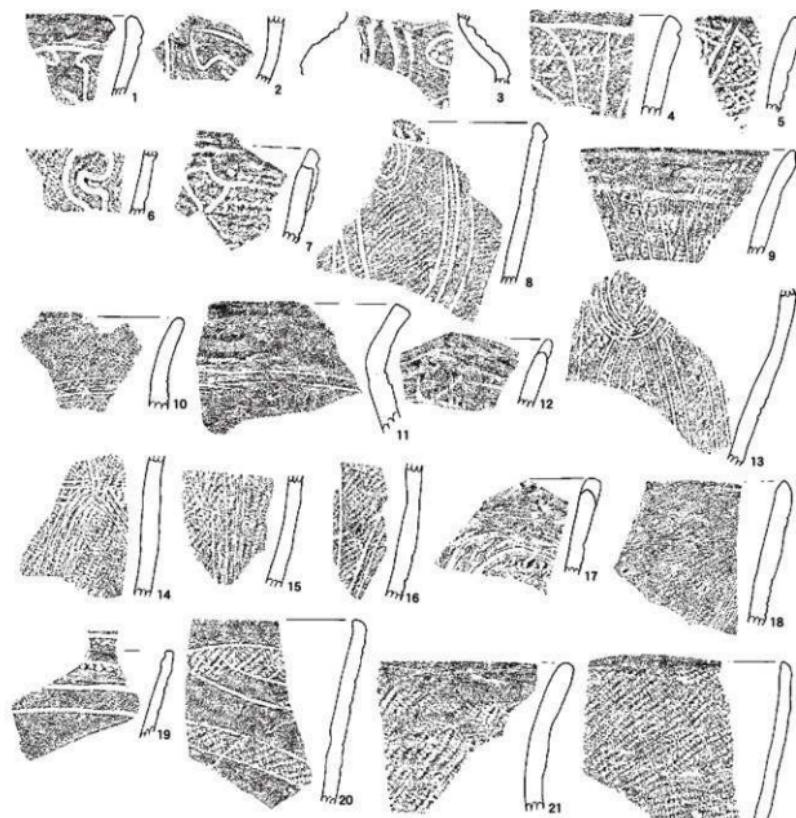
第76図 A-058②・059・060①出土遺物



第77図 A-060②・062・063①出土遺物

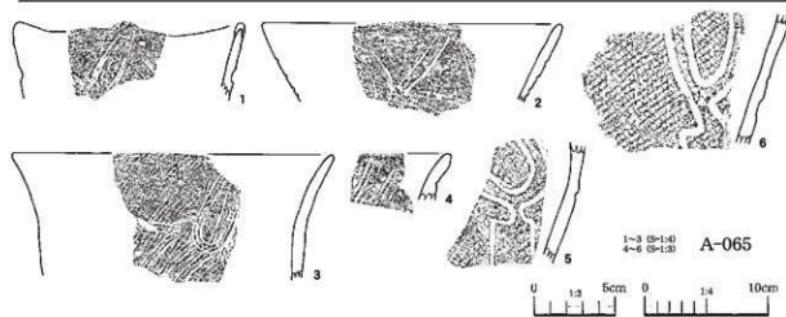
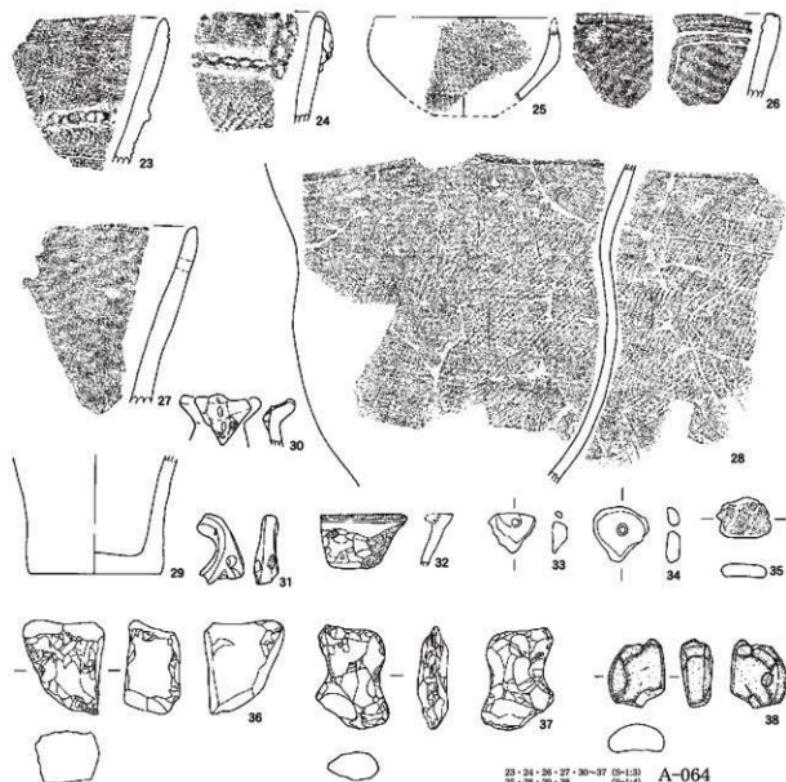


14・15 (S=1:30)
16 (S=1:40) A-063

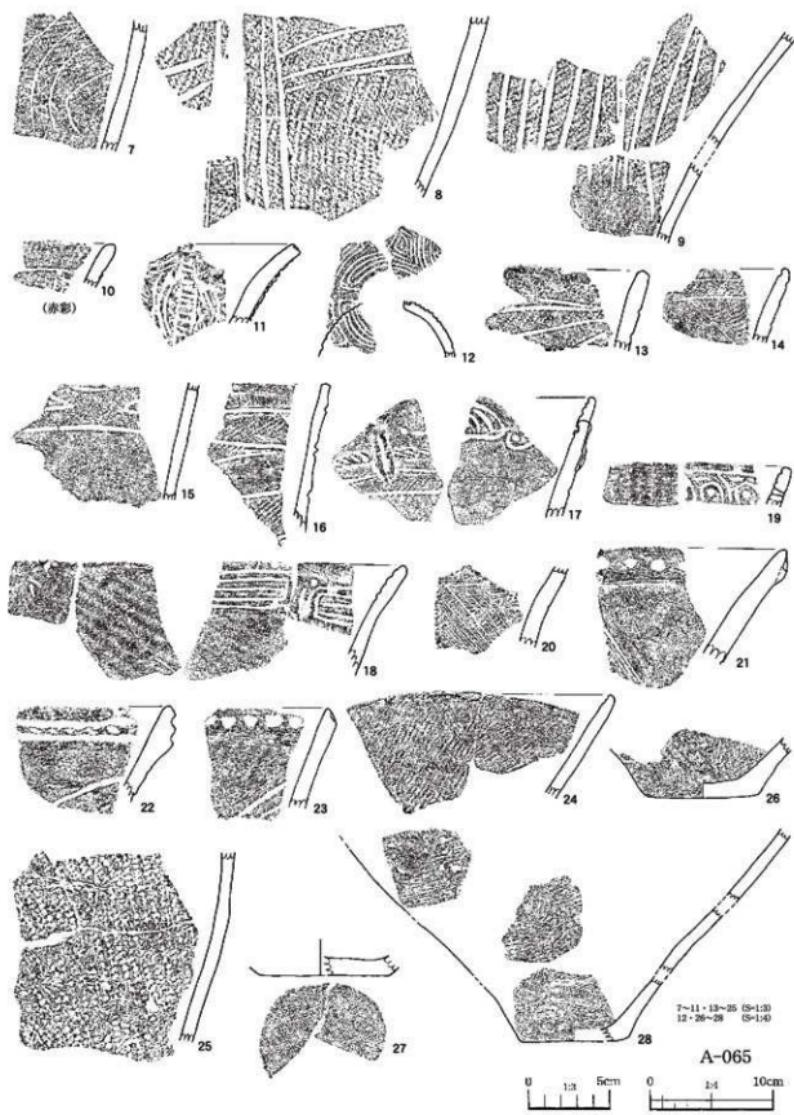


1・2 (S=1:30)
3-26 (S=1:40) A-064

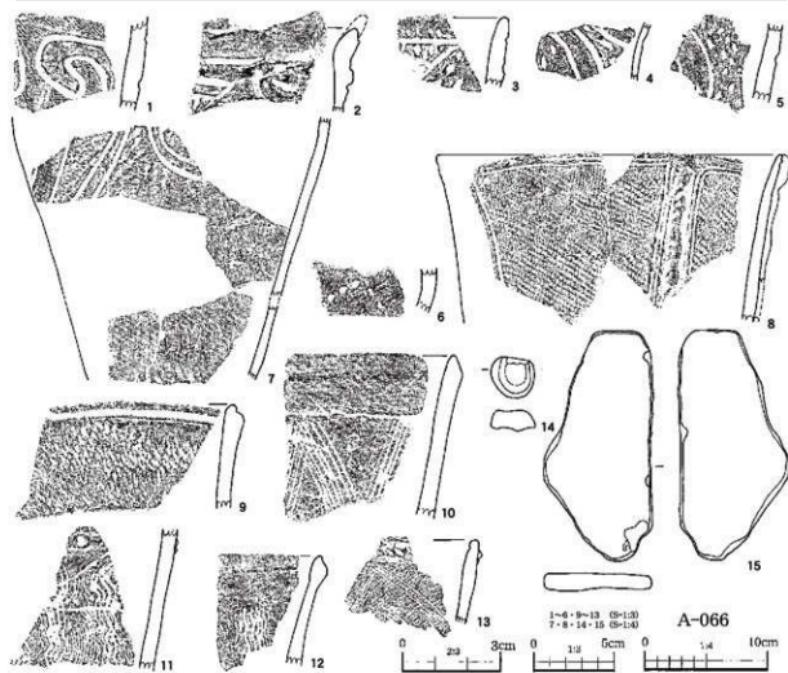
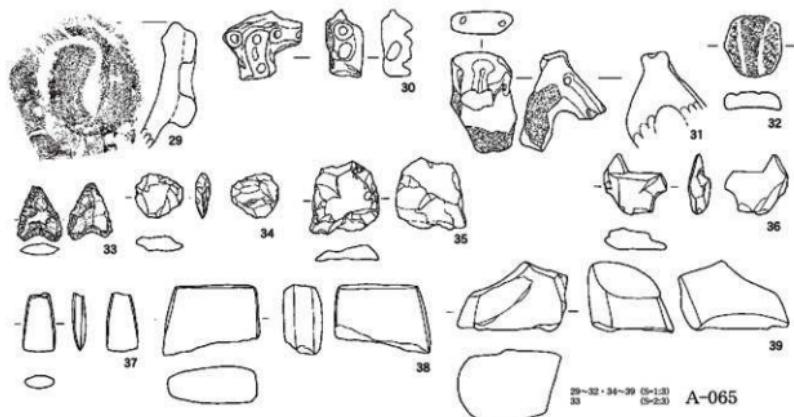
第78図 A-063②・064①出土遺物



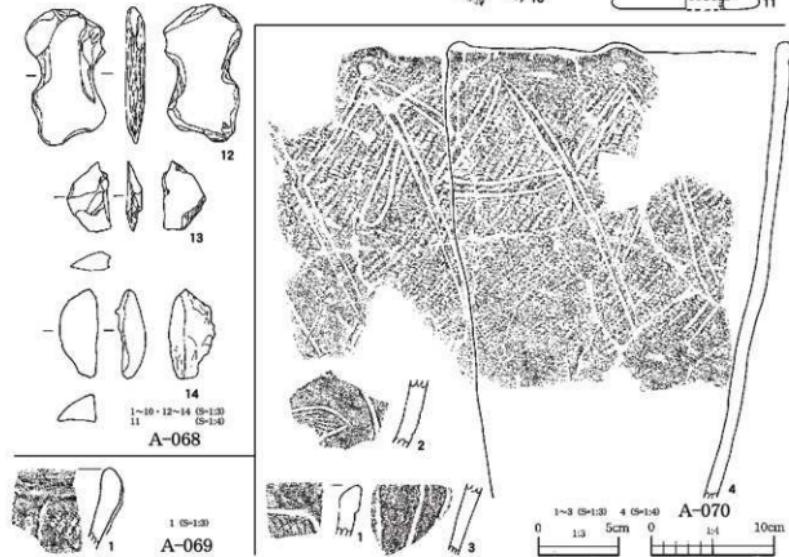
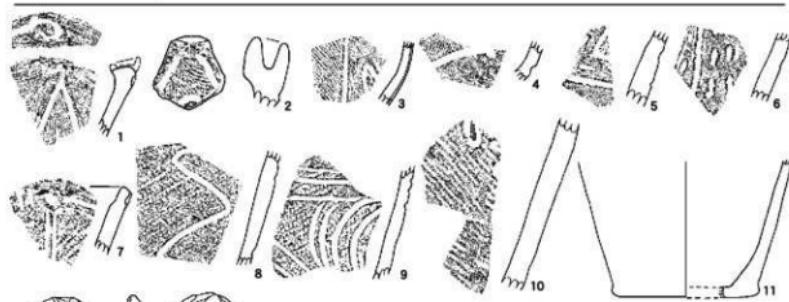
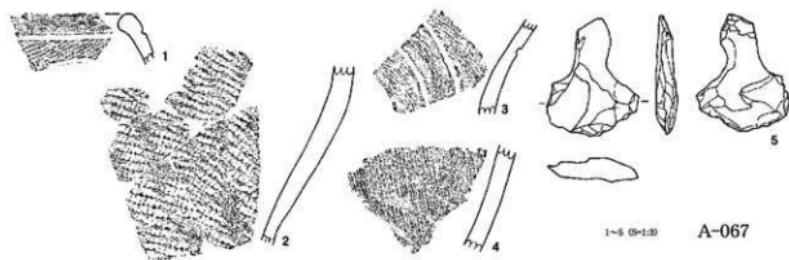
第79図 A-064②・065①出土遺物



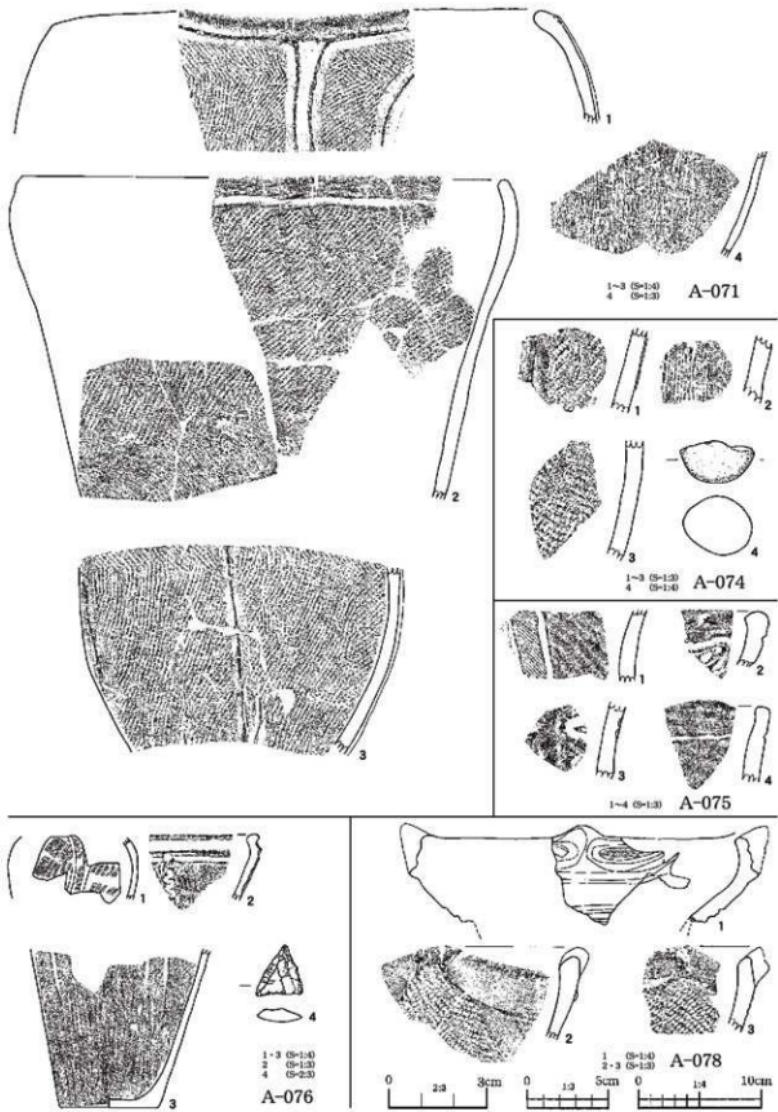
第80図 A-065②出土遺物



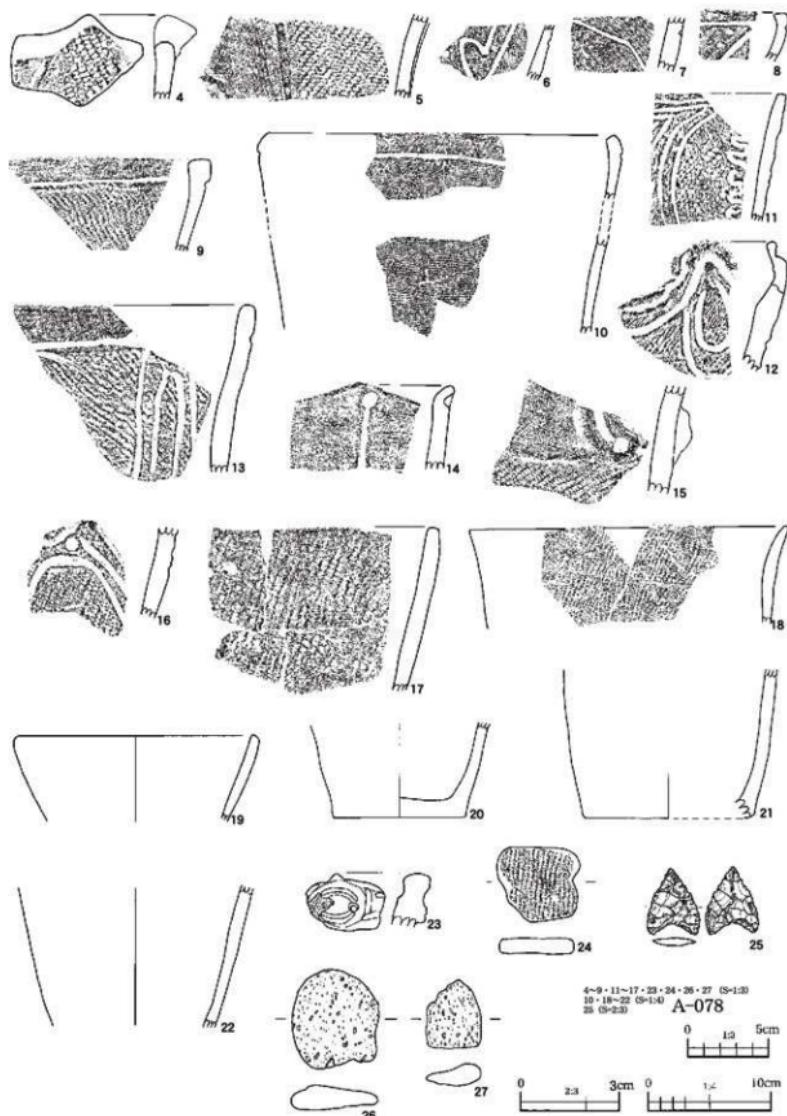
第81図 A-065③・066出土遺物



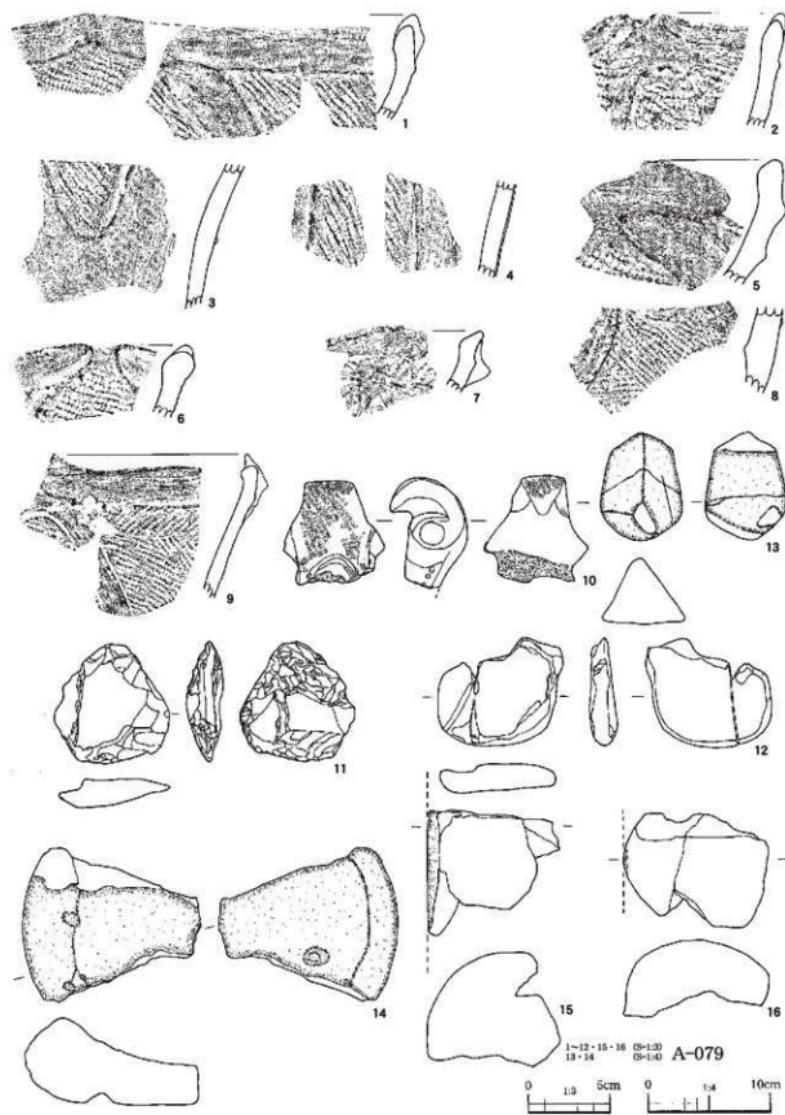
第82図 A-067・068・069・070出土遺物



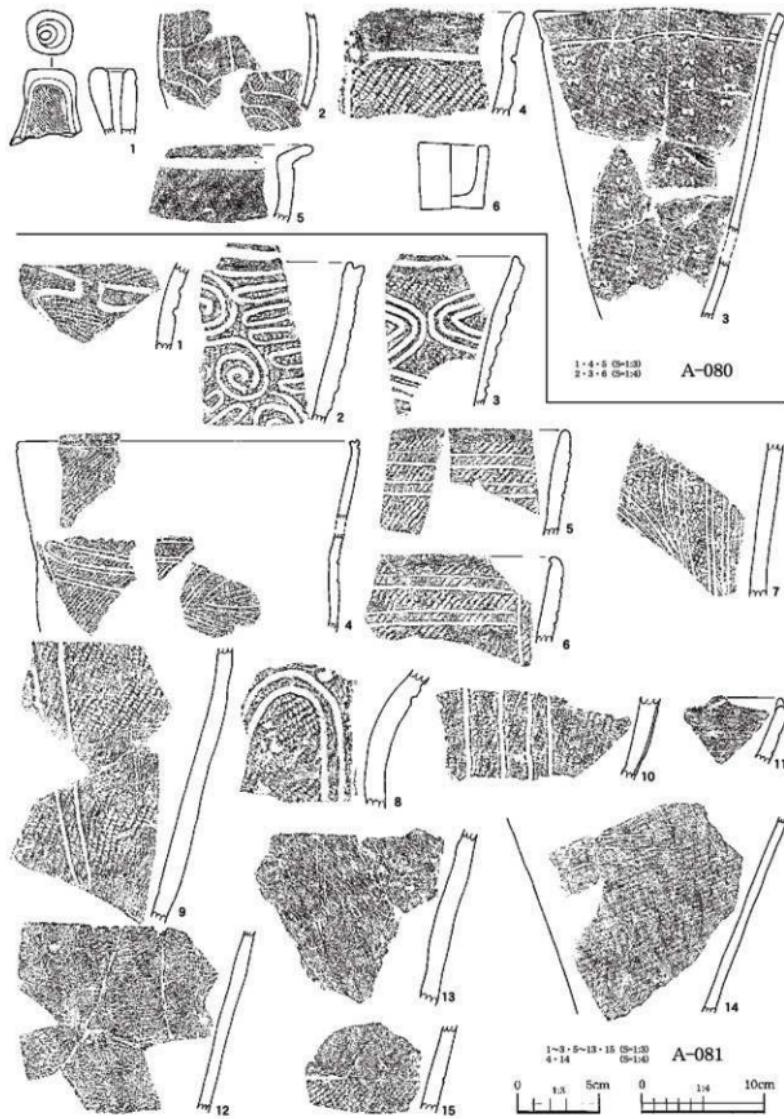
第83図 A-071・074・075・076・078①出土遺物



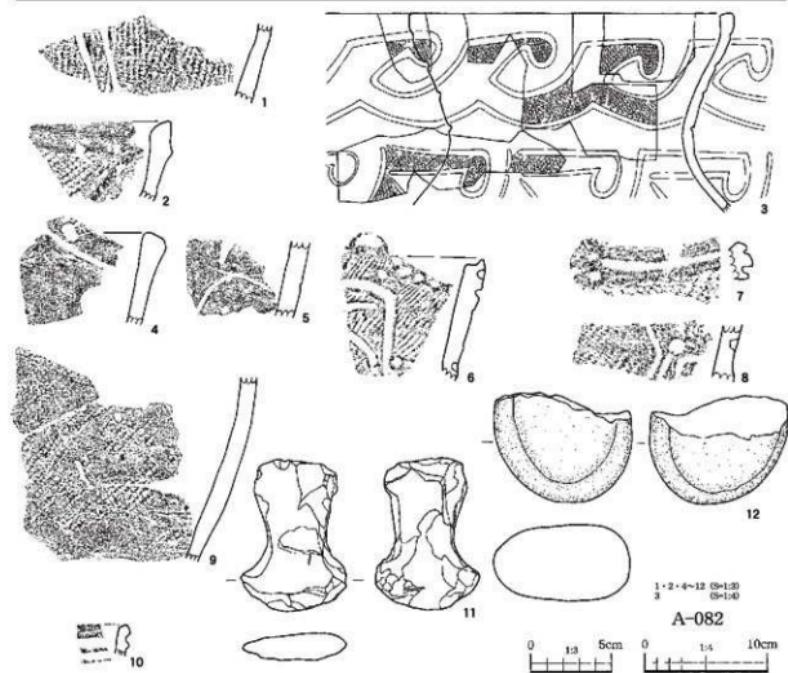
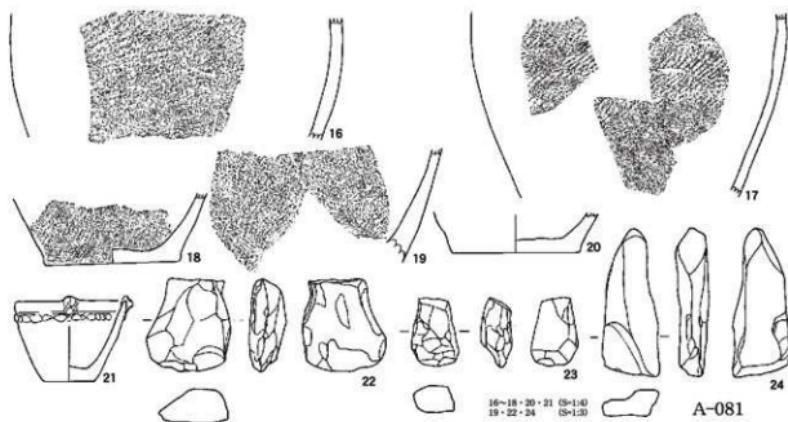
第84図 A-078②出土遺物



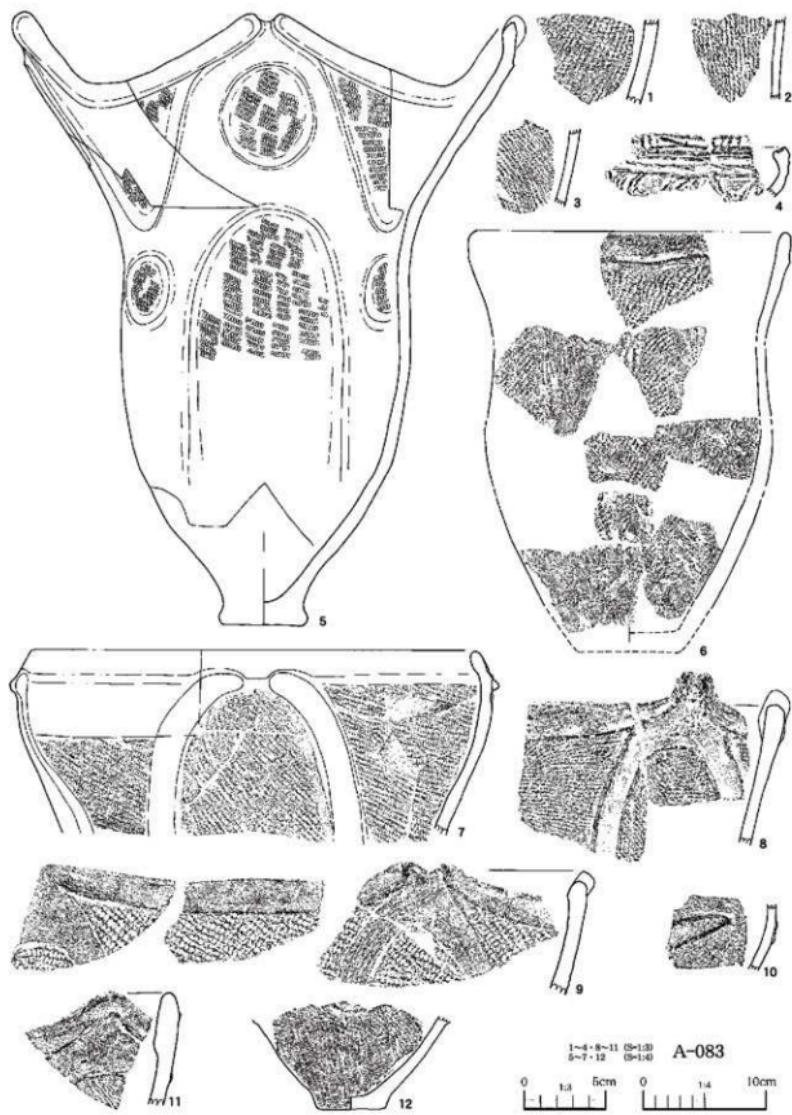
第85図 A-079出土遺物



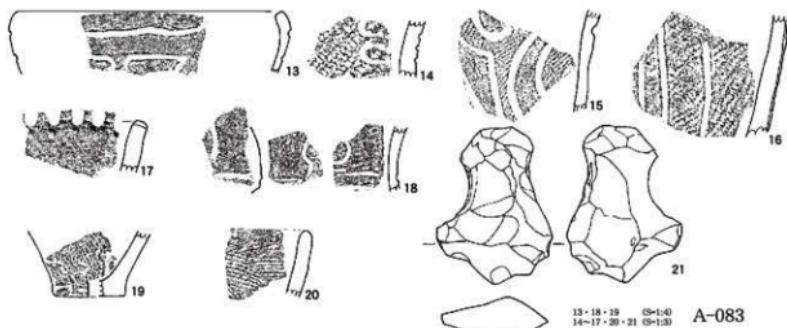
第86図 A-080・081①出土遺物



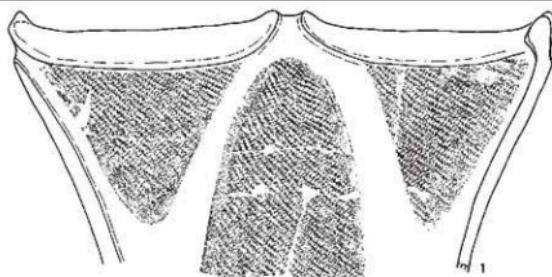
第87図 A-081②・082出土遺物



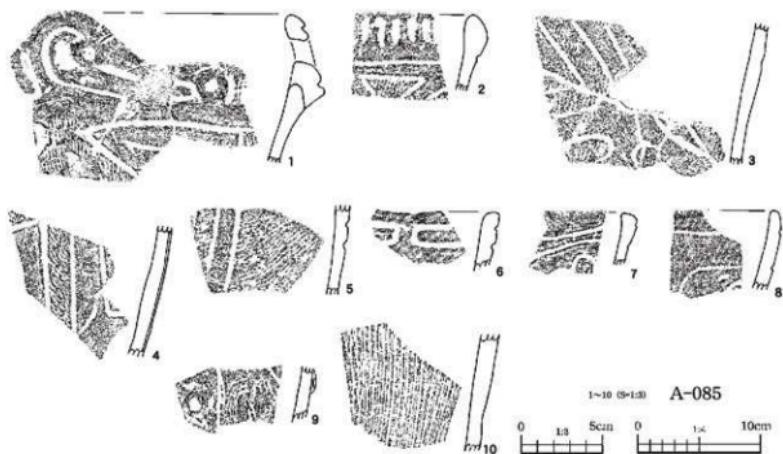
第88図 A-083①出土遺物



13~18・19 (S=1:4)
14~17・20・21 (S=1:3) A-083

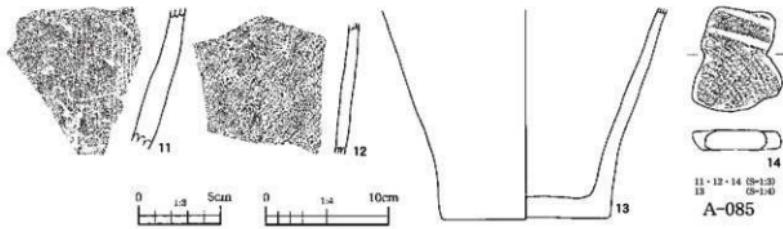


1 (S=1:6) A-084



1~10 (S=1:3) A-085

第89図 A-083②・084・085①出土遺物



第90図 A-085②出土遺物

第21表 索文時代住居跡出土石器計測表

調査番号	種別	重量	長さ	幅	厚さ	石材	現存	周辺IND
A-007-30	石椎	580.0	14.4	5.8	5.0	砂岩	7/3	51-8
A-007-55	石椎	55.0	6.4	4.8	1.2	砂岩(片貝)	2/3	51-7
A-007-58	磨製石斧	138.0	7.4	3.6	2.3	磨製石	1/2	51-6
A-014-114	圓石	744.6	13.2	9.2	3.8	安山岩	3/4	54-12
A-015-5	石椎	1.5	2.5	1.9	1.4	チャート	死形	55-6
A-015-15	浮子	30.0	7.0	5.8	2.1	石椎	3/4	55-7
A-016-51	石椎	0.4	1.3	1.1	0.4	黒曜石	死形	55-11
A-016-66	石椎	1.8	2.4	1.9	0.5	チャート	死形	55-10
A-017	石椎	0.4	1.0	0.7	0.3	黒曜石	死形	56-6
A-019-26	両側刃石器	3.3	3.8	1.9	0.4	砂岩	死形	57-7
A-020-1	石椎	4.5	3.3	2.0	0.6	チャート	死形	57-1
A-020-11	石椎	25.0	6.6	7.8	2.0	安山岩	1/2	57-15
A-020-19	石椎	721.2	11.0	3.2	5.5	220片貝	1/4	58-16
A-020-17	石椎	124.0	8.6	4.4	2.0	92片貝	死形	58-17
A-020-25	石椎	333.4	6.2	8.4	4.3	安山岩	1/2	58-18
A-020	石椎	2.1	2.6	2.3	0.4	安山岩	死形	58-18
A-023	浮子	21.4	5.0	6.2	2.3	輪石	1/2	59-1
A-023-123	打製石斧	397.0	11.6	6.1	3.9	砂岩	死形	60-27
A-023-19	石椎	70.6	8.5	4.2	2.3	砂岩	1/10	71-1
A-023-1	石椎	869.3	36.7	11.2	5.4	安山岩	1/4	61-31
A-023-5	石椎	248.7	23.5	8.7	4.4	安山岩	1/4	61-33
A-023-62	石椎	362.5	25.0	9.4	4.8	砂岩	1/4	61-33
A-023-12	石椎	118.2	5.3	9.0	4.2	安山岩	1/4	61-36
A-023-22	石椎	2.4	2.0	1.8	0.5	安山岩	1/10	61-36
A-023-11	石椎	55.8	5.5	5.2	2.0	安山岩	1/10	61-35
A-023-33	圓石	3900.0	12.0	11.3	3.5	砂岩	1/5	65-28
A-023-187	両側刃石器	1250.0	14.0	16.0	2.5	砂岩	1/5	65-29
A-023-225	石椎	4518.0	24.4	18.6	9.8	安山岩	1/4	65-30
A-026-10	磨製石斧	21.0	4.8	2.1	0.9	砂岩	1/2	65-25
A-029	石椎	9.3	6.3	2.3	1.1	チャート	死形	66-11
A-031-22	打製石斧	122.0	8.3	6.1	1.9	安山岩	1/2	65-9
A-031-18	磨製石斧	40.0	3.3	3.0	2.1	砂岩	1/3	65-10
A-031-18	両側刃石器	2.6	2.9	1.2	0.6	黒曜石	1/2	65-8
A-031	石椎	38.7	4.3	4.2	1.6	安山岩	1/10	65-11
A-031-27	石椎	2422.0	25.4	7.1	10.7	砂岩	1/5	65-12
A-033-25	石椎	10.0	1.1	0.7	0.5	安山岩	1/10	66-10
A-033-25	石椎	926.0	8.1	10.7	10.7	砂岩	1/10	66-11
A-033-33	石椎	747.0	7.2	10.8	8.8	安山岩	1/10	66-11
A-033-29	石椎	245.0	10.5	6.3	3.4	安山岩	1/10	66-13
A-033-27	石椎	464.0	13.0	6.2	4.8	砂岩	1/2	66-15
A-033-IV	打製石斧	17.0	4.9	4.4	0.8	砂岩	1/2	66-18
A-033	石椎	0.5	1.8	1.4	0.3	黒曜石	死形	66-7
A-034-24	打製石斧	122.8	8.3	4.2	2.9	砂岩	死形	66-9
A-034-45	打製石斧	113.0	10.5	3.7	1.2	砂岩	3/4	67-15
A-034-44	石椎	50.0	9.0	4.0	0.9	砂岩	死形	67-14
A-034-8	石椎	274.2	11.6	5.9	5.0	砂岩	死形	67-16
A-035-3	石椎	2.0	2.7	0.2	0.4	チャート	死形	67-24
A-037-112	石椎	4.0	2.0	2.2	0.5	有孔円盤	1/10	67-26
A-037-114	石椎	4.0	1.0	1.0	0.5	有孔円盤	1/10	67-27
A-037-12	浮子	125.0	9.3	4.0	3.2	チャート	1/2	67-21
A-037-14	石椎	112.0	6.5	4.7	2.6	砂岩	4/5	67-20
A-038-85	石椎	2.0	2.9	1.1	0.7	黒曜石	1/2	67-22
A-039-33	石椎	1917.0	14.3	12.0	4.5	安山岩	1/4	71-3
A-039-12	石椎	5300.0	23.0	11.0	9.7	安山岩	1/2	71-6
A-040	石椎	1.7	3.2	0.9	0.5	黒曜石	死形	71-11
A-040-11	石椎	1578.0	16.7	13.5	5.8	安山岩	1/4	72-8
A-049-4	石椎	4230.0	17.0	13.7	11.0	安山岩	1/4	73-14

第22表 索文時代住居跡出土土器品計測表

調査番号	NO.	種別	重量	長さ	幅	厚さ	孔	現存	時期	細目	
A-016-1区	土器	154.0	7.1	5.1	1.2	-	死形	中後期	55-9		
A-016-2区	土器	32.0	5.2	4.5	1.2	-	死形	中後期	55-9		
A-016-3区	土器	103.0	11.0	7.5	1.2	-	死形	中後期	55-9		
A-019-1区	土器	157.0	5.0	4.9	1.0	-	死形	中後期	55-12		
A-020	土器	181.0	3.0	4.0	1.0	-	死形	中後期	58-14		
A-021	土器	9.0	2.8	3.4	0.6	-	死形	晚形	59-1		
A-023-14	土器	17.0	3.2	3.4	1.1	-	死形	中後期	60-26		
A-023-44	有孔円盤	10.0	3.1	3.2	0.9	0.9	1.2	中後期	63-7		
A-028	有孔円盤	34.0	4.7	4.7	1.3	0.8	死形	中後期	63-7		
A-031	土器	25.0	4.7	5.3	0.8	-	死形	中後期	65-1		
A-032	土器	25.0	5.2	5.2	0.7	-	死形	中後期	65-2		
A-034-4	打製石斧	93.0	6.0	7.3	1.2	-	死形	中後期	65-3		
A-034-5	打製石斧	25.0	6.5	4.8	4.0	-	死形	中後期	65-15		
A-034-6	打製石斧	106.0	7.8	5.4	2.3	1.2	死形	中後期	65-12		
A-034-7	打製石斧	106.0	7.8	5.4	2.3	1.2	死形	中後期	65-14		
A-034-8	打製石斧	25.0	6.5	4.8	4.0	-	死形	中後期	65-15		
A-034-9	打製石斧	93.0	6.0	7.3	1.2	-	死形	中後期	65-16		
A-034-10	打製石斧	92.0	6.0	7.3	1.2	-	死形	中後期	65-17		
A-034-11	打製石斧	140.0	26.1	14.0	5.0	0.9	1.2	死形	中後期	65-18	
A-034-12	打製石斧	111.0	7.0	7.4	1.3	0.2	死形	中後期	65-2		
A-034-13	打製石斧	28.0	4.1	3.5	1.3	0.2	死形	中後期	65-9		
A-034-14	打製石斧	55.0	11.2	6.2	4.2	0.8	死形	中後期	65-13		
A-035	石器	1327.0	13.2	15.8	5.8	0.9	1.2	死形	中後期	66-1	
A-036-4	石器	1204.0	15.3	13.8	5.7	0.9	1.1	死形	中後期	71-5	
A-036	磨石	120.0	6.0	6.9	4.7	2.4	1.1	チャート	死形	76-8	
A-037	磨石	45.0	6.0	6.8	4.0	2.3	0.9	チャート	死形	76-7	
A-038-1	石器	3.0	2.8	2.2	0.6	1.1	0.2	チャート	死形	77-1	
A-038-2	石器	281.0	7.5	6.5	4.1	0.9	1.1	チャート	死形	77-15	
A-038-3	打製石斧	51.0	6.3	4.2	1.8	0.9	1.1	死形	死形	79-37	
A-038-4	石器	115.0	5.8	4.6	3.0	1.0	0.2	チャート	死形	79-36	
A-038-5	石器	79.0	5.5	4.6	2.1	0.9	0.2	チャート	死形	80-31	
A-038-6	石器	6.0	1.7	1.4	0.3	0.1	0.1	黒曜石	死形	83-33	
A-038	磨石	9.6	3.6	1.8	0.8	0.1	0.1	黒曜石	死形	83-37	
A-039-p-31	打製石斧	10.6	4.2	5.6	2.2	0.2	0.1	チャート	死形	83-38	
A-039-22	磨石	178.0	4.1	6.2	4.2	2.1	0.1	砂岩	死形	83-39	
A-039-IV	打製石斧	17.0	4.2	4.0	0.9	0.1	0.1	黒曜石	死形	83-35	
A-039-22	打製石斧	16.0	3.7	3.8	1.1	0.1	0.1	安山岩	死形	83-36	
A-039-23	打製石斧	7.0	2.6	2.7	0.7	0.1	0.1	黒曜石	死形	83-34	
A-039-24	打製石斧	306.0	18.6	5.8	1.2	0.1	0.1	砂岩	死形	83-35	
A-039-25	打製石斧	46.0	9.2	5.3	1.3	0.1	0.1	砂岩	死形	83-36	
A-039-27	打製石斧	46.0	9.2	5.3	1.3	0.1	0.1	砂岩	死形	83-37	
A-039-28	磨石	16.0	4.2	2.5	2.5	0.1	0.1	砂岩	死形	83-38	
A-039-29	磨石	16.0	4.2	2.5	2.5	0.1	0.1	砂岩	死形	83-39	
A-039-30	磨石	19.0	5.4	2.6	1.6	0.1	0.1	砂岩	死形	83-14	
A-039-31	打製石斧	61.0	8.0	8.3	4.6	1.1	0.1	砂岩	死形	83-12	
A-039-32	打製石斧	102.0	3.4	6.0	0.6	0.1	0.1	砂岩	死形	83-13	
A-039-33	打製石斧	10.0	1.5	1.3	0.3	0.1	0.1	チャート	死形	83-14	
A-039-34	打製石斧	28.0	4.1	2.6	1.1	0.1	0.1	砂岩	死形	82-21	
A-039-35	打製石斧	314.0	6.7	8.9	3.9	0.1	0.1	砂岩	死形	82-16	
A-039-36	打製石斧	312.0	7.5	8.0	6.1	0.1	0.1	砂岩	死形	82-15	
A-039-37	打製石斧	77.0	5.6	5.0	2.1	0.1	0.1	砂岩	死形	82-22	
A-039-38	打製石斧	73.0	9.0	3.3	1.6	0.1	0.1	砂岩	死形	87-24	
A-039-39	打製石斧	28.0	4.1	2.6	1.1	0.1	0.1	砂岩	死形	87-25	
A-039-40	打製石斧	121.0	9.2	6.3	1.6	0.1	0.1	砂岩	死形	87-21	
A-039-41	打製石斧	121.0	9.2	6.3	1.6	0.1	0.1	砂岩	死形	87-23	
A-039-42	打製石斧	382.0	6.4	8.3	4.6	0.1	0.1	安山岩	死形	87-12	
A-039-43	打製石斧	121.0	9.2	6.3	1.6	0.1	0.1	砂岩	死形	87-11	
A-039-44	打製石斧	154.0	9.5	4.0	1.3	0.1	0.1	砂岩	死形	87-11	

第3節 古代の遺構と遺物

うならず遺跡で検出された古代の遺構は、竪穴住居跡、竪穴住居兼工房跡、掘立柱建物跡、溝跡、土壌などがあり、その時代幅は古代時代前期から平安時代に及んでいる。

遺構の立地を説明するために、調査区と地形との関係を再述すると、北西側調査区は後述する公園区画への道路予定地部分であり、西側から進入して南へと向かう小支谷を、西ないし南に見下ろす台地縁辺にあたっている。次に南東側調査区は、公園（墓地）用地である。南北方向に長い矩形を呈する比較的まとまった範囲であり、先にふれた小支谷によって西側を限られ、東側もやや大きな谷津によって画された鞍部状の台地平坦面に占地している。

遺構の展開からみると、道路部分では住居跡の他に北西端近くで方形周溝が検出されている。さらに北側には古墳群が所在することから墓域となっていた可能性がある。公園用地では、北辺と東辺に偏って遺構が検出されているが、中央付近から西側及び南側にかけてはほとんど無い。したがって古代集落としてのうならず遺跡は、今回の調査範囲の北側及び東側へと広がっていたことになる。

遺跡の性格としては、本遺跡では、竪穴住居床面に「ロクロビット」を持ち土器製作工房の機能を併せ持つ住居（住居兼工房）の存在が特色の一端を表している。これらの住居はいずれも平安時代の所産と考えるが、出土遺物に占める須恵器の比率が圧倒的に多いことから、これの住人が須恵器の生産に関わっていたことは間違いない。ちなみに「千葉市平和公園遺跡群Ⅰ」として前年度に報告したムグリ遺跡は、本遺跡から南西に300mほど離れた台地西側斜面に立地するが、斜面を切り落として等高線に沿って平行して窯体を設け、その窯体側面に數カ所の小口を開けた平地式の「横口式窯」（横口式木炭窯を転用したと思われる）1基、地下を割り抜いて築造した平窯2基他が調査されている。出土遺物には須恵器ならびに瓦、炭があり、さらに地点を変えた場所から鉄滓が出土することから、これらの生産遺跡として捉えられている。

ムグリ遺跡の窯の時期は奈良時代に遡るものであり、うならず遺跡の工房の時期よりは先行するものの、住居群中には同時期のものもあることから、うならず遺跡は、ムグリ遺跡ならびに本遺跡周辺で行われていた須恵器等の生産を行っていた集団の居住地であり、かつ土器製作の場であったと考えるのが妥当であろう。

1. 竪穴住居跡

本遺跡で検出された古代（古墳時代から平安時代）の竪穴住居は合計20軒である。なお、竪穴床面に、ロクロビットと呼ばれる小ビットを持ち、周囲から白色粘土の散布や粘土溜状の窪みもみられることから「土器製作工房」とすべき遺構も存在するが、竪穴住居に通有なカマドも付設されていることから、住居の範疇として報告する。

竪穴住居は、古い方から順に古墳時代前期の五領期に比定されるものがA-018・050の2軒、中期の和泉期に比定できるものがA-053の1軒、後期の鬼高期とすべきものがA-061・077・086の3軒、奈良時代に比定できるのはA-001・005の2軒、残り12軒は平安時代の所産と考えている。

各遺構の計測値は別表（第23表）のとおりである。

第23表 古代住居跡計測表

遺構番号	時期	位置	主軸方位	規模(㎡)		壁高(cm)	貯蔵柱穴	田柱穴	第5ビット	周溝柱穴	間仕切り溝	周溝
				主軸長×横軸長	最大～最小							
A-001	奈良	4F-40d	N-11° -W	3.10×3.50	62～46	- 4 1 1 - -	-	-	-	-	-	全周
A-003	平安	5F-41b	N-20° -E	3.00×3.30	40～36	- - - 1 - -	-	-	-	-	-	ほぼ全周
A-004	平安	5F-42b	N-11° -W	4.15×4.50	68～50	- 4 4 1 1 -	-	-	-	-	-	全周
A-005	奈良	4F-51c, 52a	N-4° -E	4.00×4.62	60～35	- 3 - 1 1 -	-	-	-	-	-	全周
A-008	平安	4F-30c, 5F-21a	N-4° -E	3.00×3.08	40～35	- - - 1 - -	-	-	-	-	-	全周
A-009	平安	5F-12b・d・22a・c	N-59° -W	3.35×3.45	40～36	- - - - - -	-	-	-	-	-	ほぼ全周
A-011	平安	4E-100a	N-71° -W	2.65×2.47	31～28	- - - - - -	-	-	-	-	-	全周
A-012	平安	5E-91d, 92b	N-39° -E	3.85×3.60	50～44	- - - 1 - -	-	-	-	-	-	全周
A-018	古墳・前期	SE-31a	不明	6.04×5.70	20～14	- 6 - - - -	-	-	-	-	-	無
A-032	平安	5F-1d	N-5° -E	2.87×2.93	65～51	- - - 1 - -	-	-	-	-	-	全周
A-041	平安	5F-26	N-14° -W	3.91×3.83	62～50	- 8 - - - -	-	-	-	-	-	全周
A-042	平安	5F-56b・d	N-29° -E	2.37×2.58	54～40	- - - - - -	-	-	-	-	-	無
A-047	平安	5F-58a・b	N-11° -E	2.65×2.68	35～22	- 4 - - - -	-	-	-	-	-	全周
A-048	平安	5F-67b・d	N-2° -E	4.55×4.67	62～51	- 4 - - - -	-	-	-	-	-	全周
A-050	古墳・前期	4D-100c・d	N-68° -E	6.08×4.25	40～36	- 6 - 1 - -	-	-	-	-	-	無
A-051	平安	4D-90d	N-52° -W	2.90×2.00(+)	30～20	- - - - - -	-	-	-	-	-	全周
A-053	古墳・中期	4D-89c・d・90a・b	N-50° -W	4.80×4.10(+)	45～40	- 7 - 1 - -	-	-	-	-	-	無
A-061	古墳・後期	4C-89b, 98a	N-60° -E	6.20×6.35	46～28	2 12 - - -	-	-	-	-	2	全周
A-077	古墳・後期	4C-65a・c	N-1° -E	4.85×4.80	48～25	1 8 4 - - -	-	-	-	-	7	全周
A-086	古墳・後期	4C-77c	N-28° -W	3.60×2.65	15～6	- 4 - - - -	-	-	-	-	-	無

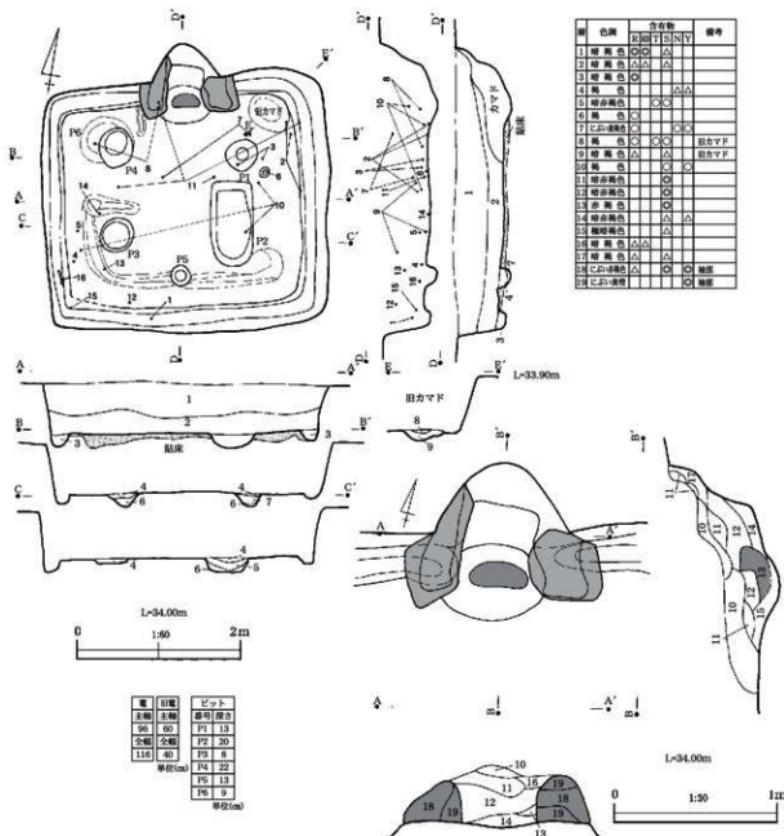
A-001は4F-40dグリッドから検出された。公園用地北東隅の台地平坦面に位置する。主軸方位はN-11° -Wで、規模は主軸長3.1×横軸長3.5mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は62～46cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴は3本（P1・3・4）で、第5ピット（P5）が認められる。P2は白色粘土が検出されなかつたが、粘土溜や捏ね場であった可能性がある。北東角に旧カマドが、北西側に旧柱穴（P6）がある。北西側から南側にかけての貼床下には旧周溝と旧間仕切り2条があり、西と南の2方向に拡張が行われた形跡が認められる。

遺物量は豊富で須恵器の甕・壺、鉄製の刀子・紡錘車、砥石が出土している。壺の口径/底径比率の平均値は1.54である。底面並びに体部下端に残る切り離し痕は、回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り調整するもの（No.1・2）、残り4点は、切り離しは不明で手持ちヘラ削り調整するもの（3・4）と回転ヘラ削りするもの（5・6）とがある。

A-003は5F-41bグリッドから検出された。公園用地北東隅の台地平坦面に位置する。主軸方位はN-20° -Eで、規模は主軸長3.0×横軸長3.3mである。周溝はカマド部分を除いてほぼ全周している。残存壁高は40～36cmで垂直気味に立ち上がる。第5ピット（P1）はあるものの柱穴はなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。

遺物量は豊富で須恵器の甕、土師器の壺・高台付杯・甕、灰釉陶器の高台付椀（東海産）、土師器の墨書き土器（「巾」・「匁」）や紡錘車（土師質）が出土している。壺はいずれも土師器で口径/底径比率の平均値は2.15である。壺底部切り離し等が分かるものでは、回転糸切り後無調整（No.5・6・7）、静止糸切り後無調整（No.3・9）、切り離し不明で手持ちヘラ削り調整（No.1・2）と回転ヘラ削り調整（No.8）である。No.10の灰釉椀は明確な漬け掛け痕跡は無く見込み部分まで釉が及ぶが、底面に回転糸切り痕を残すことから折戸53号窯式と考えた。

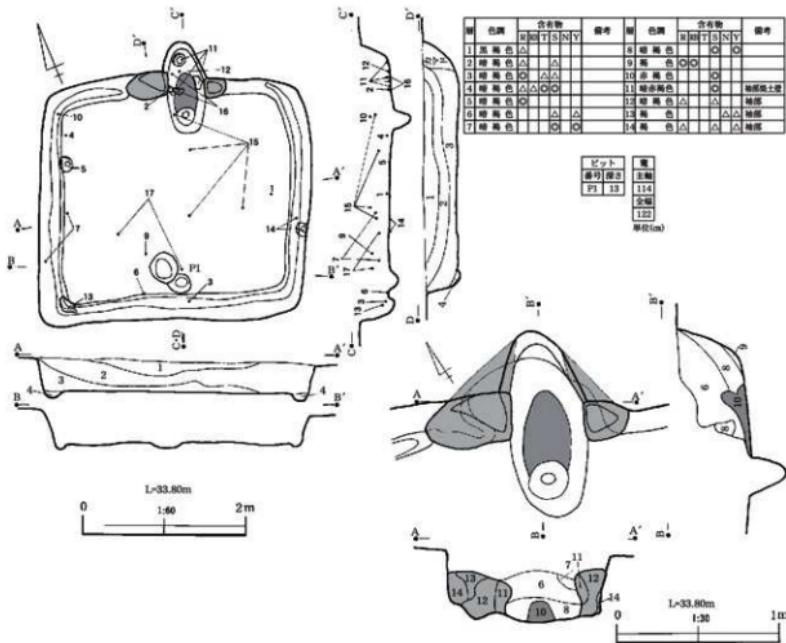
A-004は5F-42bグリッドから検出された。先のA-003の直近の南側に位置する。主軸方向はN-11° -



第92図 A-001

Wで、規模は主軸長4.15×横軸長4.5mである。周溝はカマド部分と粘土溜を除いて全周している。残存壁高は68~50cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴4本(P1~4)、第5ピット(P5)、ロクロピット2基(RP1・2)、粘土溜1個所、捏ね場1箇所(2)が検出された。柱穴は旧柱穴を再利用しているようである。住居跡中央から粘土溜のある東南角にかけて白色粘土の分布が認められた。貼床下からは旧カマド、旧第5ピット1箇所(P6)、ロクロピット6基(RP3~8)、捏ね場1箇所(1)が検出された。貼床があることから建て替えが行われた形跡が認められる。カマド周辺と南東角の粘土溜周辺から集中的に遺物が出土している。

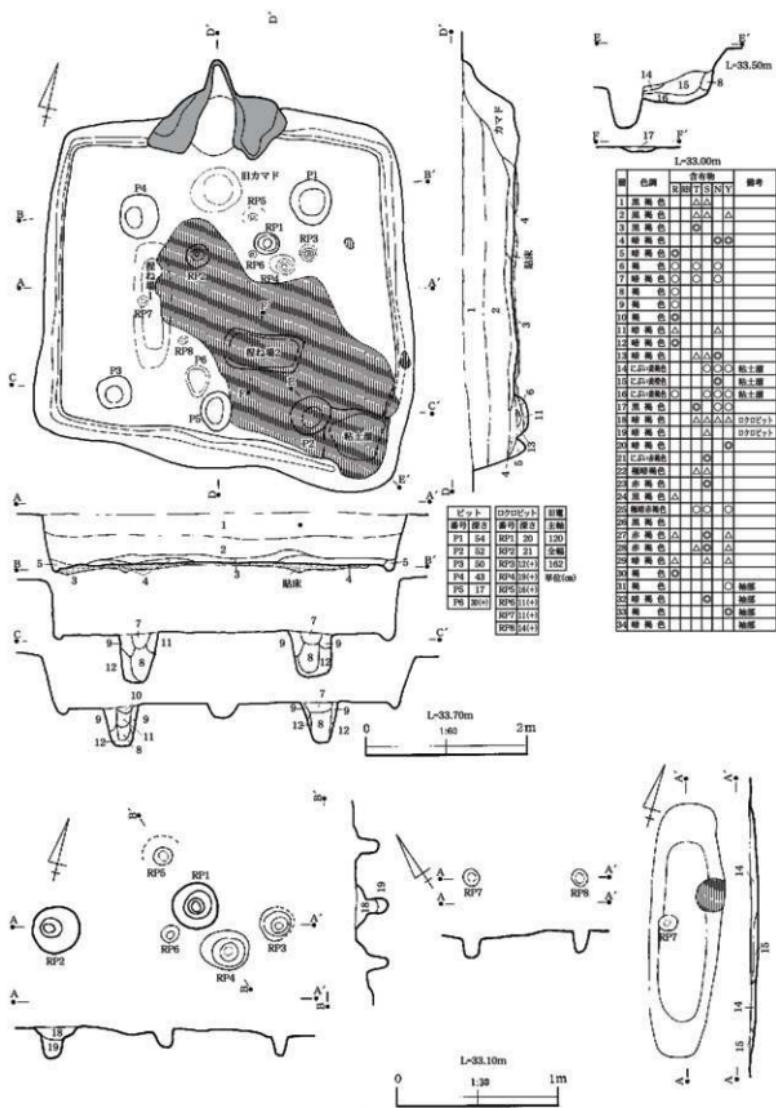
遺物量は豊富で須恵器の甕・瓶・壺・蓋、土師器の壺・皿・甕、内墨の須恵器高台付杯、刻畫土器



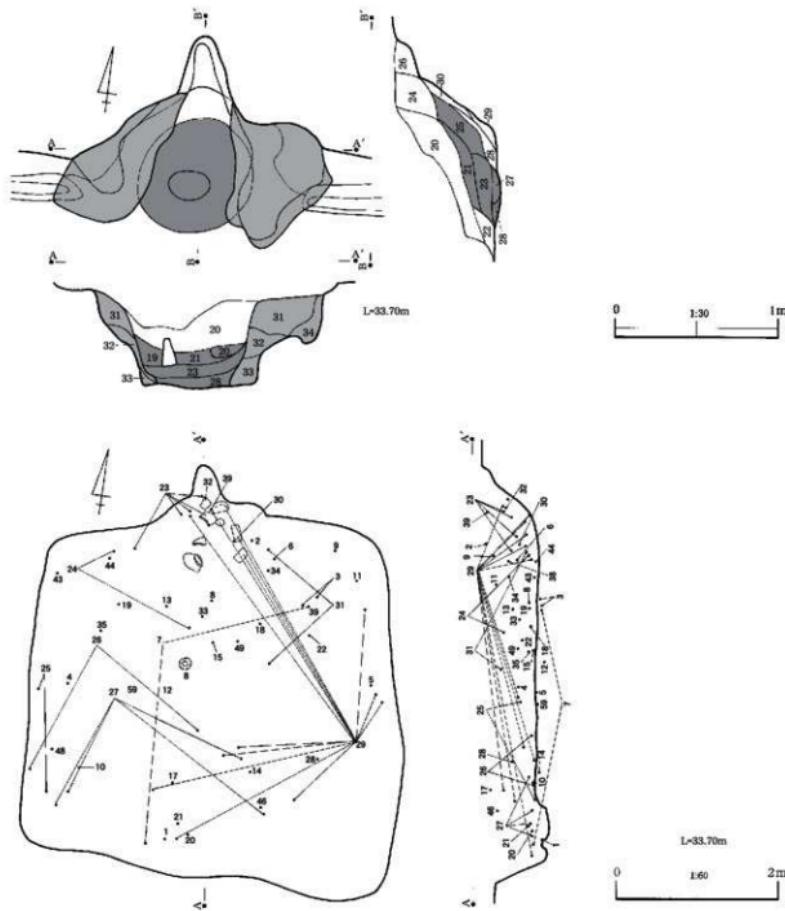
第93図 A-003

(「大」)、鉄製の鎌・刀子・手斧、紡錘車(須恵質)、支脚、焼成粘土片、銅錢が出土している。焼成粘土片は多量に出土した。壺の口径/底径比率の平均値は1.89である。壺18点の内訳は須恵器11点(No. 1~11)、土師器7点(No. 12~18)である。底面の切り離し等は、回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り調整(No. 1・5・7・8・9・10)、切り離しは不明で手持ちヘラ削り調整(No. 2・3・6・11~17)と回転ヘラ切り調整(No. 4)、回転糸切り後無調整(No. 18)である。須恵器壺は広口壺形壺5点(No. 23~26, 29)、底部が窄まる砲弾形1点(No. 28)、底部が広い鉢形4点(No. 27・30~32)、土師器壺2点(No. 33・34)、底部に五孔を配した須恵器壺3点(No. 36~38)他がある。銅錢は、全体に鏽化が著しく薄く脆弱である。外縁の端の3ヶ所、すなわち「萬」字右上方、「寶」字左上方、「通」字下方に欠失がある。形状は全体の大きさ、縁の幅、穿の広さ、背面の郭の形状とともに普通の「萬年通寶」錢と変わらないが、厚さだけは通常のものに比して薄いという特徴がある。錢文は「年」字の第4画が縦になり、「通」の字の「甬」の頭は広くなく、奈良国立文化財研究所が『平城宮発掘調査報告IV』で「萬年通寶A」と分類したものに相当するとの指摘を得ている。(注)

A-005は4F-51c、52a グリッドから検出された。A-004の直近の東側に位置する。住居のカマド右袖から東辺にかけての北東コーナーの大半は調査区外にかかるため完掘は出来なかった。主軸方位



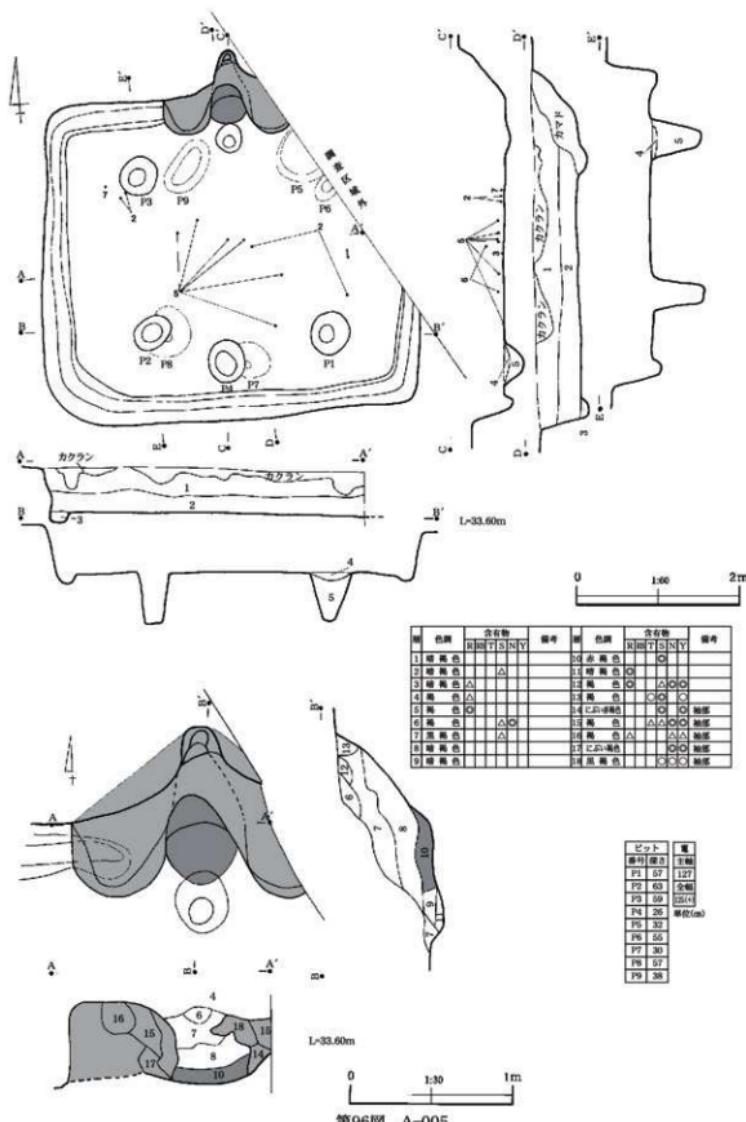
第94図 A-004①

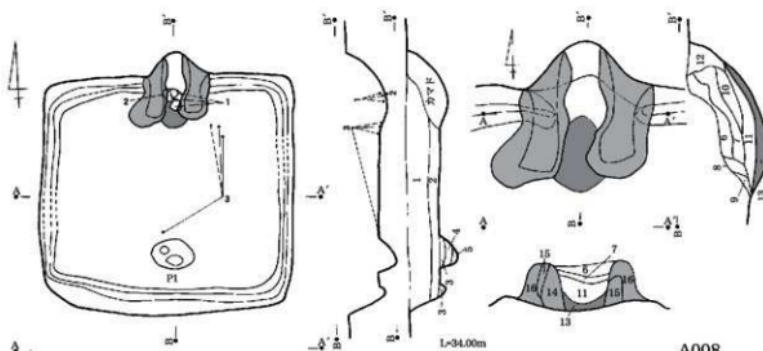


第95図 A-004②

はN-4°-Eで、規模は主軸長4.0×横軸長4.62mである。北東角は調査区外だが、周溝はカマド部分を除いて全周していると想定される。残存壁高は60~35cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴は3本(P1~3)で、第5ピット(P4)が認められる。貼床下から旧柱穴(P6・8)、旧第5ピット(P7)が検出され、建て替えが行われた形跡が認められる。

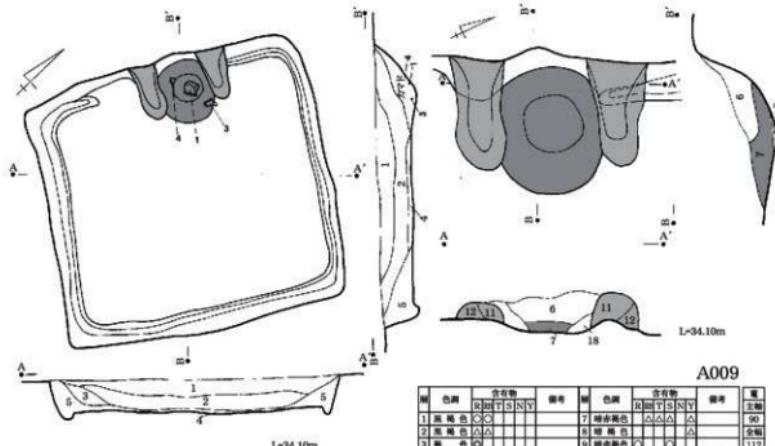
遺物量は少なく、須恵器の甕・壺、土師器の甕、鉄製の刀子が出土している。壺3点の口径/底径比率の平均値は1.44(復元個体)である。底部調整はいずれも切り離し不明でその後の調整が手持ちへ





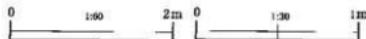
A-008

部位	色調	含有物	備考	部位	色調	含有物	備考
	BRTTSNY				GTSNY		
1 黄褐色	△	○		9 暗褐色	△	○	
2 暗褐色	△	○		10 暗褐色	○	○	
3 暗褐色	△			11 暗赤褐色	○	○	
4 黑色	○			12 暗褐色	△	△△	
5 黑色	○			13 暗赤褐色	○	○	
6 暗褐色	△	△		14 暗褐色	○	○	油膜
7 C-1088色	○	○	天津部	15 暗赤褐色	○	○	油膜
8 黑色	○			16 暗褐色	△	△	

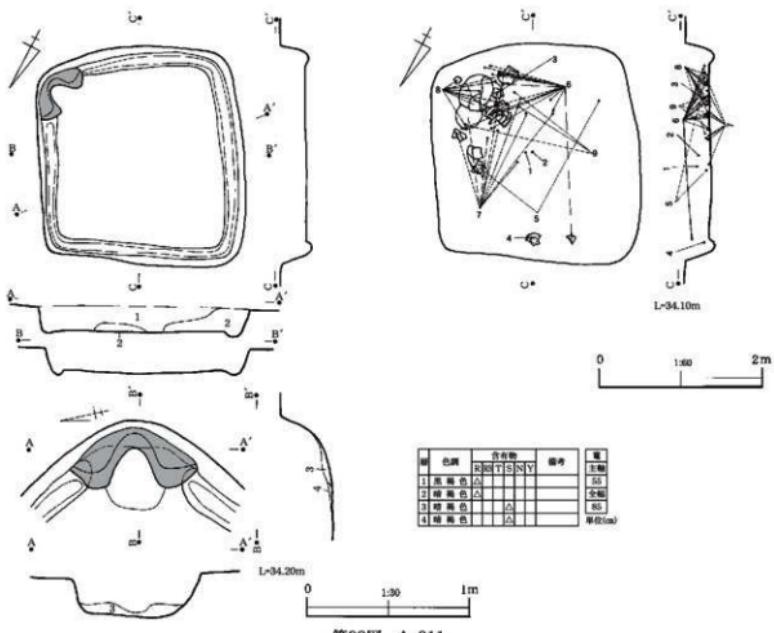
ピット
高さ(底面-上端)
P1 24
78
単位(cm)

A-009

部位	色調	含有物	備考	部位	色調	含有物	備考	単位
	BRTTSNY				GTSNY			
1 黄褐色	○	○		7 暗赤褐色	△△△△△	△△		90
2 黑色	○			8 暗褐色	○	○		空洞
3 黑色	○			9 暗赤褐色	○	○		112
4 黑色	○			10 暗褐色	○	○	油膜	単位(cm)
5 暗褐色	○	○		11 暗褐色	○	○		
6 暗赤褐色	○	○		12 暗褐色	○	○		



第97図 A-008・009



第98図 A-011

ラ削り (No. 1)、回転ヘラ切り (No. 2・3) である。甕2点 (No. 5・6) はいずれも土師器である。

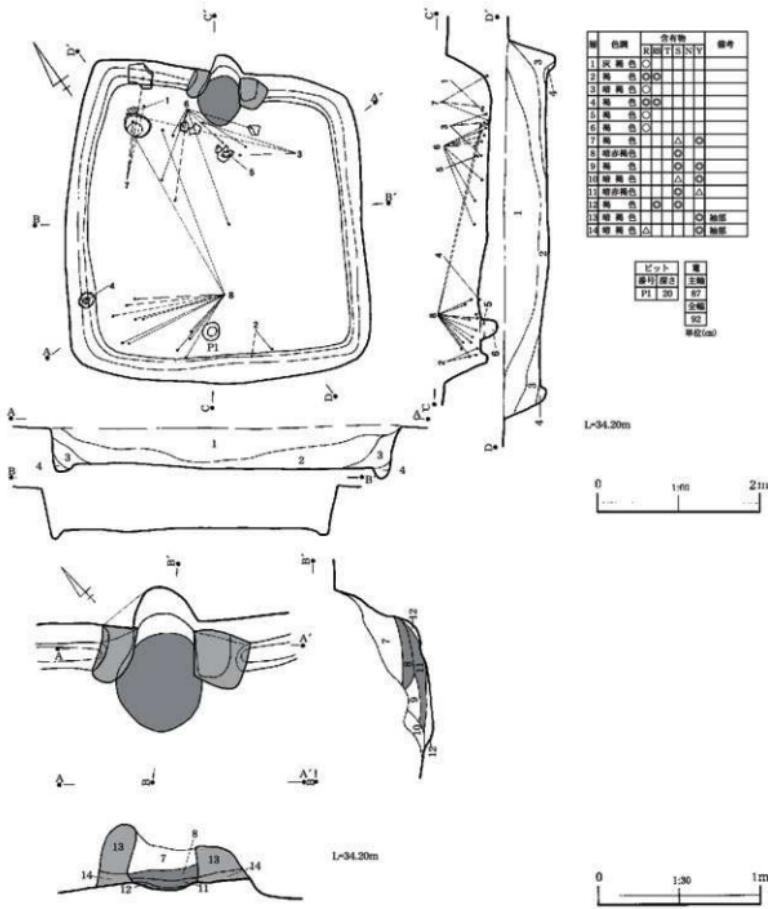
A-008は4F-30c、5F-21a グリッドから検出された。公園用地北辺のやや東寄りに位置する。主軸方位はN-4° -Eで、規模は主軸長3.0×横軸長3.08mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は40~35cmで垂直気味に立ち上がる。第5ピット (P1) はあるものの柱穴ではなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。遺物はカマド周辺から集中して出土している。

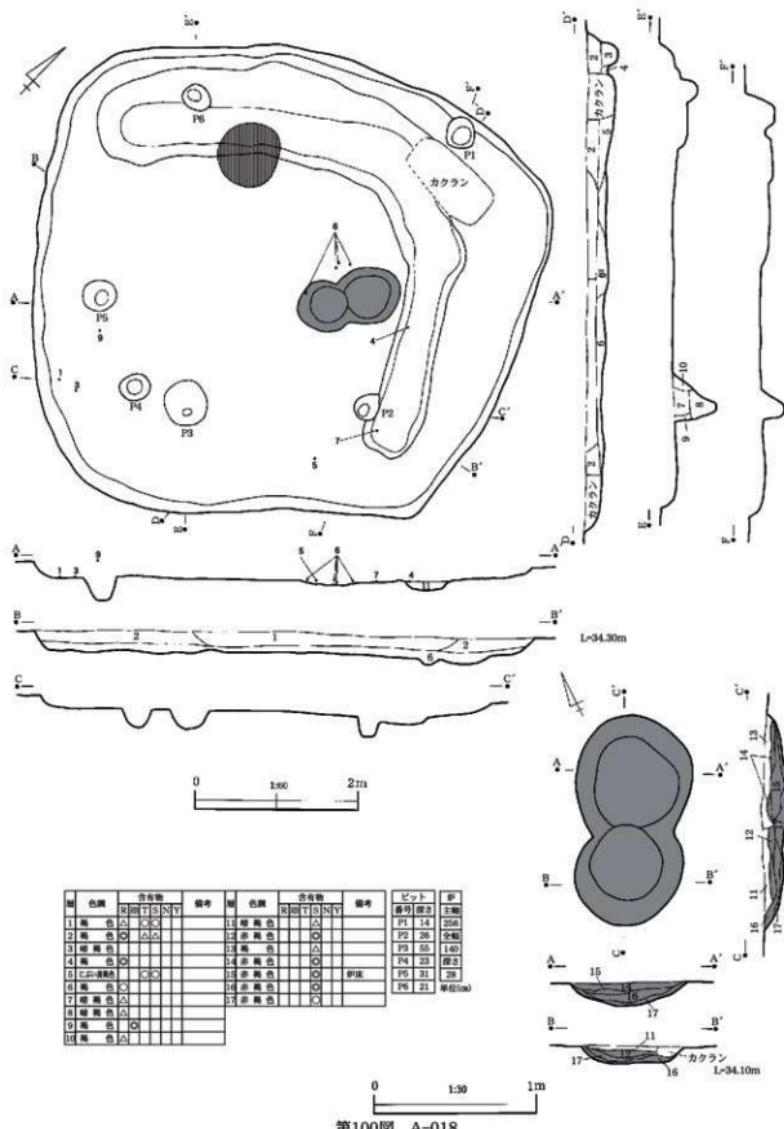
遺物量は少なく、須恵器の甕3点が出土している。

A-009は5F-12b・d、22a・c グリッド、A-008の真南に位置する。主軸方位はN-59° -Wで、規模は主軸長3.35×横軸長3.45mである。周溝はカマド部分を除いてほぼ全周している。残存壁高は40~36cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴がなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。遺物はカマド周辺から集中して出土している。

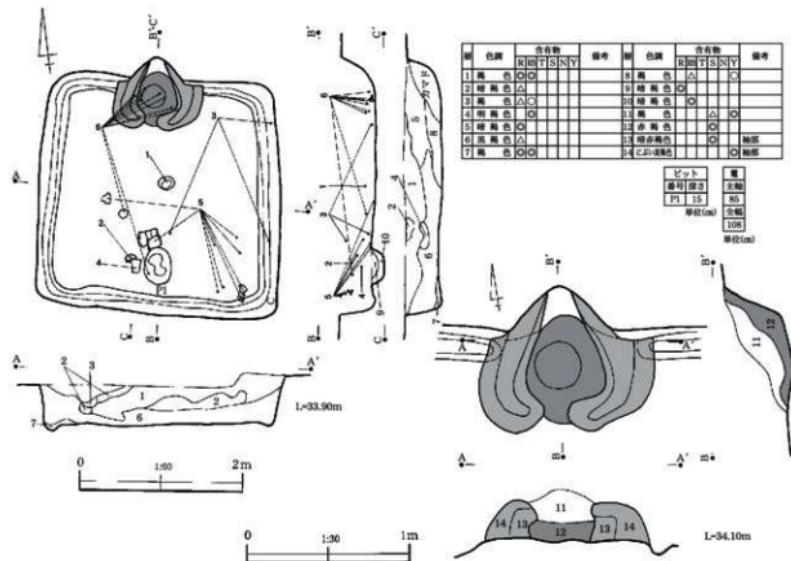
遺物量は少なく、須恵器の甕、土師器の甕2点 (No. 1・3)、支脚が出土している。

A-011は4E-100a グリッドから検出された。公園用地北辺沿いの中程の台地平坦面に位置する。主軸方位はN-71° -Wで、規模は主軸長2.65×横軸長2.47mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は31~28cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴がなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。南東角 (N-109° -E) にカマドがある。





第100図 A-018



第101図 A-032

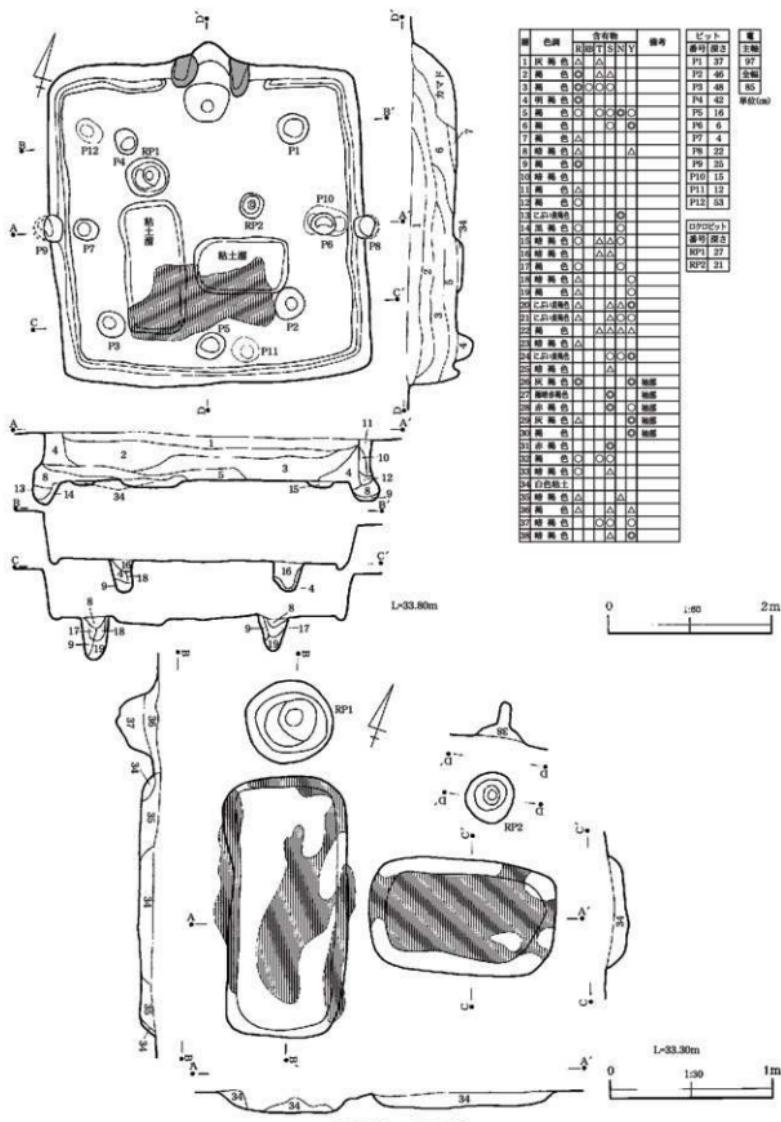
主軸方位はN-39°-Eで、規模は主軸長3.85×横軸長3.6mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は50~44cmで垂直気味に立ち上がる。第5ピット(P1)はあるものの柱穴ではなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。遺物はカマド周辺と南西角から集中して出土している。

遺物量は少なく、須恵器の壺・壺・皿・蓋がある。土師器皿(No.3)は底面に「(大)」刻書されており、蓋(No.4)も含めて須恵器とすべきかもしれない。壺(No.1・2)の口径/底部比率の平均値は1.72で、底面調整は回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り調整である。須恵器(No.7)は丸底の大壺である。

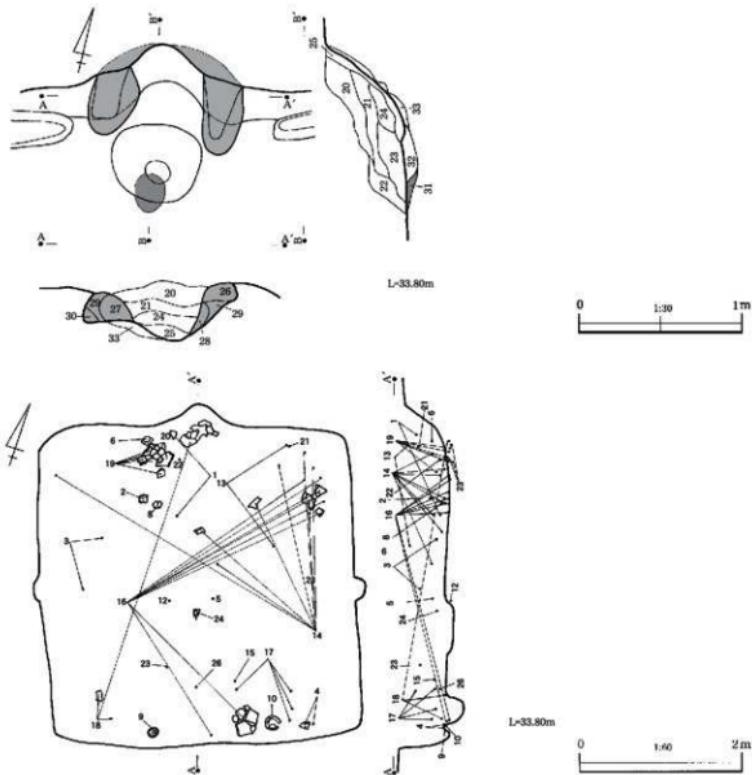
A-018は5E-31aグリッドから検出された。公園用地の北西隅に位置する。主軸方位は不明で、規模は主軸長6.04×横軸長5.7mである。周溝はない。残存壁高は20~14cmでなだらかに立ち上がる。柱穴は6本(P1~6)である。炉が2基存在し、炉の作り替えが行われた形跡が認められるが、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。L字型に浅い落ち込みが認められ、その脇から白色粘土ブロックが検出された。

遺物量は少なく、土師器の壺・台付壺・壺・高杯・器台が出土しているがいずれも小破片である。

A-032は5F-1dグリッドから検出された。調査区北側の台地平坦面に位置する。主軸方位はN-5°-Eで、規模は主軸長2.87×横軸長2.93mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は65~51cmで垂直気味に立ち上がる。第5ピット(P1)はあるものの柱穴ではなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。



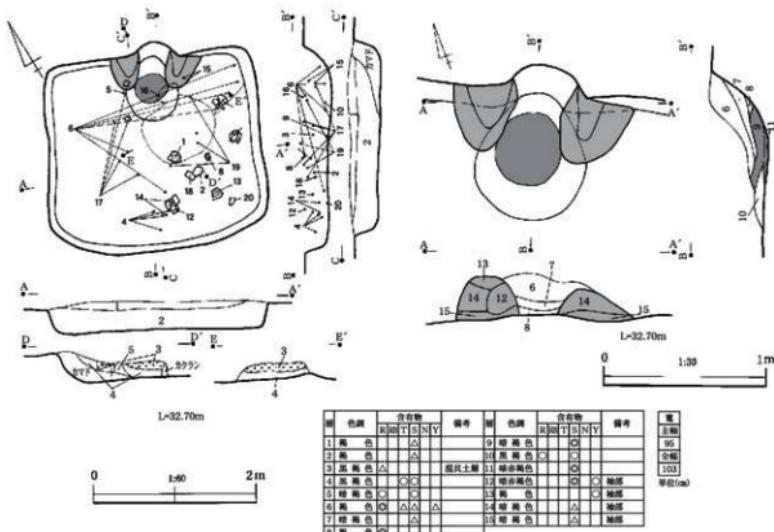
第102図 A-041①



第103図 A-041②

遺物量は少なく、須恵器の甕・瓶・壺が出土している。須恵器杯（No. 1・2）の口径/底径比率の平均値は1.74で、底部調整は回転ヘラ切り後手持ちヘラ削りするもの（No. 1）と切り離し不明後手持ちヘラ削りするもの（No. 2）である。須恵器瓶（No. 6）は口縁部下に、頂部ならびに四側面を面取りした把手を張り付け、外面には横叩きが施される。

A-041は5F-26c グリッドから検出された。公園用地の中央寄りに位置する。主軸方位はN-14° - Wで、規模は主軸長3.91×横軸長3.83mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は62~50cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴6本（P1~4・6・7）、第5ピット（P5）、ロクロピット2基（R P1・2）、粘土溜2個所が検出された。住居跡南側の粘土溜周辺から白色粘土の分布が認められた。貼床下からは旧柱穴2本（P10・12）、旧第5ピット（11）が検出され、建て替えが行われた形跡が認められる。他に周溝を切る形でピットが2基（P8・9）検出されたが、性格は不明である。



第104図 A-042

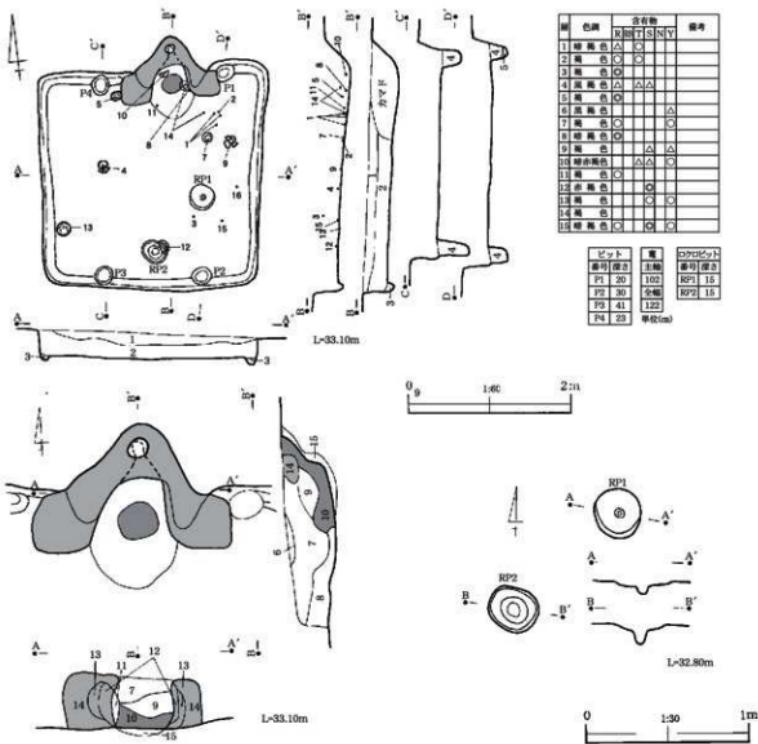
遺物量は豊富で、須恵器の甕・瓶・壺・高台付杯・高台・蓋、土師器の壺、刻書土器や紡錘車（土製・鉄製）、帶金具（青銅製）が出土している。須恵器杯の口径/底径比率の平均値は1.73で、底部調整では、回転ヘラ切り後回転ヘラ削りするもの（No. 4）と手持ちヘラ削りするもの（No. 1・5・6）、切り離し不明後回転ヘラ削りするもの（No. 7）と手持ちヘラ削りするもの（No. 2・3）がある。No. 8の壺は色調等から土師器とした。No. 10は須恵器鉄鉢である。

A-042は5F-56 b・d グリッドから検出された。公園用地東辺沿いの中程からやや北に位置する。主軸方位はN-29°-Eで、規模は主軸長2.37×横軸長2.58mである。周溝はない。残存壁高は54~40cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴はなく建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。覆土中からハマグリ主体の貝層が検出された。

遺物量は豊富で、須恵器の甕・瓶・壺や短頸壺、土師器の高台付碗・高台付皿・甕、灰釉陶器の長頸瓶（東海産）、磨石（輝緑岩製）等が出土している。壺はいずれも須恵器で口径/底径比率の平均値は1.68で、底部調整は回転ヘラ切り後回転ヘラ削りするもの（No. 1~3・5・6）、切り離し不明後手持ちヘラ削りするもの（No. 4・7・8）がある。

A-047は5F-58 a・b グリッドから検出された。公園用地東辺近くの中程に位置する。主軸方位はN-11°-Eで、規模は主軸長2.65×横軸長2.68mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は35~22cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴4本（P1~4）、ロクロピット2基（RP1・2）が検出された。建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。遺物はカマド周辺から集中して出土している。

遺物量は豊富で、須恵器の甕・壺（No. 1~9）・皿、土師器の壺（No. 10・11）、刻書土器（「神」・「千」）

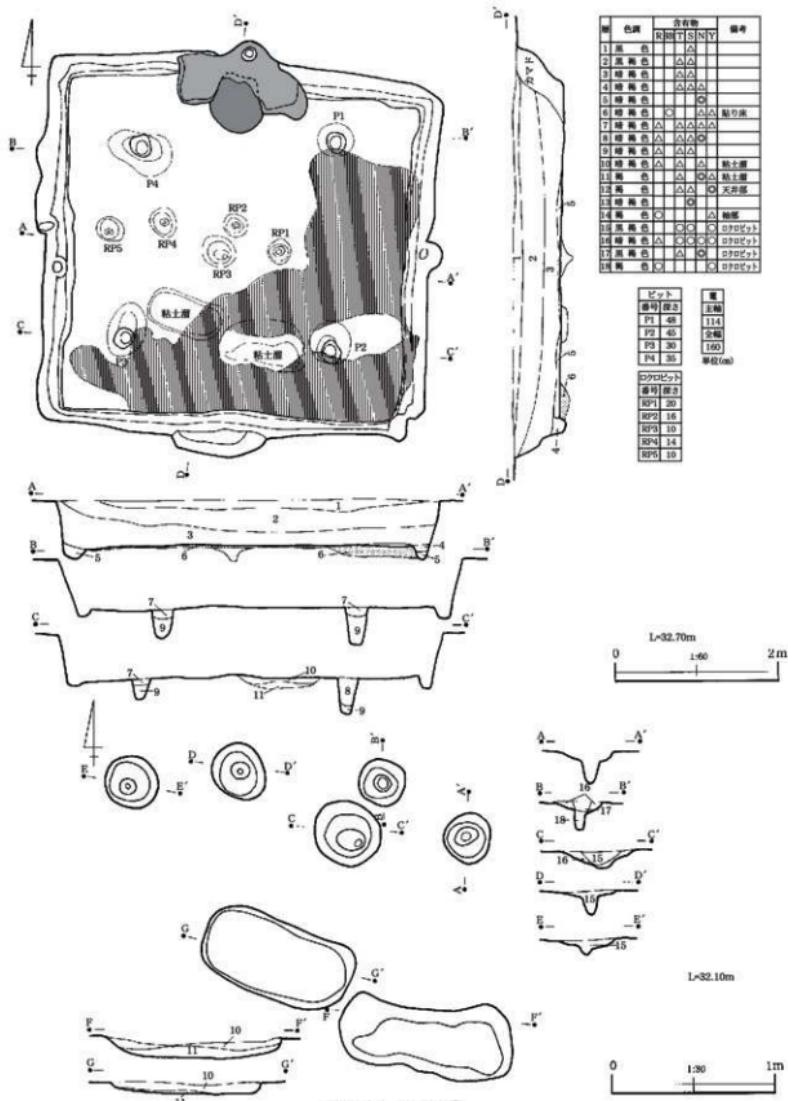


第105図 A-047

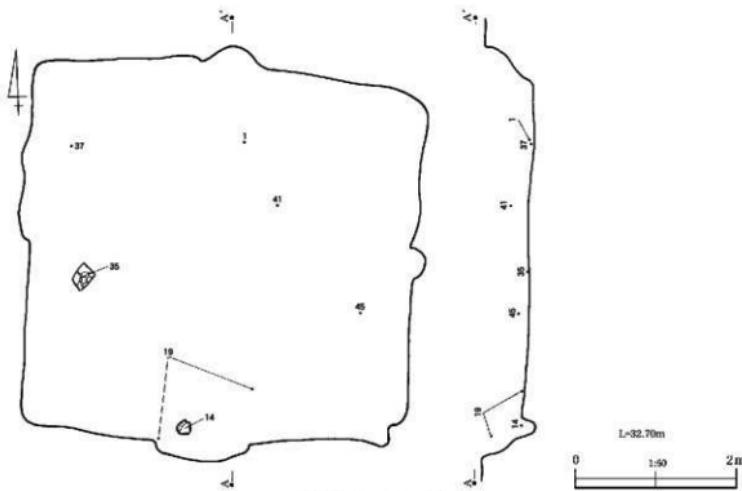
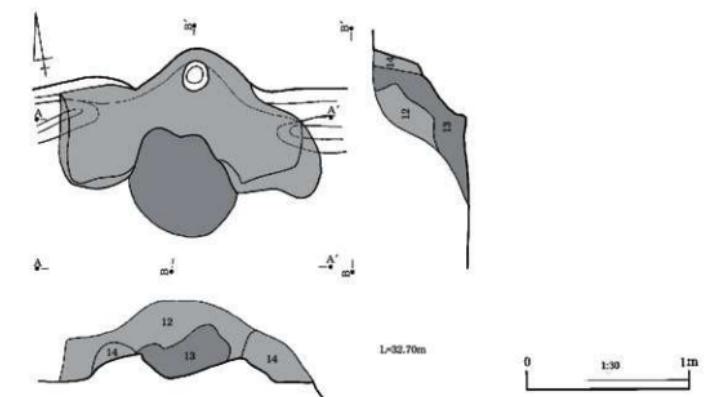
や鎌（鉄製）・紡錘車（須恵質）、支脚が出土している。須恵器杯の口径/底径比率の平均値は1.97で、底部調整は回転ヘラ切り後手持ちヘラ削りするもの（No. 1～7）、切り離し不明後手持ちヘラ削りするもの（No. 8・9）、ちなみに土師器とした壺は口径/底径比率1.82、底部調整は切り離し不明後手持ちヘラ削りする。

A-048は5E-67 b・d グリッドから検出された。公園用地東辺沿いの中程に位置する。主軸方位はN-2°-Eで、規模は主軸長4.55×横軸長4.67mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は62～51cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴4本（P1～4）、ロクロビット5基（RP1～5）、粘土溜2個所が検出され、住居跡の東側から南側の粘土溜周辺にかけて白色粘土の分布が認められた。建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。

遺物量は豊富で、須恵器の壺・甕・壺（No. 1～13）・高台付杯・皿、土師器の壺（No. 14・16）・椀（No. 15）・蓋、刻書土器（「真」・「真口」・「千」・「保口」）や羽口、平瓦、紡錘車（土製）、刀子（鉄製）、焼成粘土片、砥石（凝灰岩製）が出土している。須恵器杯の口径/底径比率の平均値は1.89、底部調整は回転



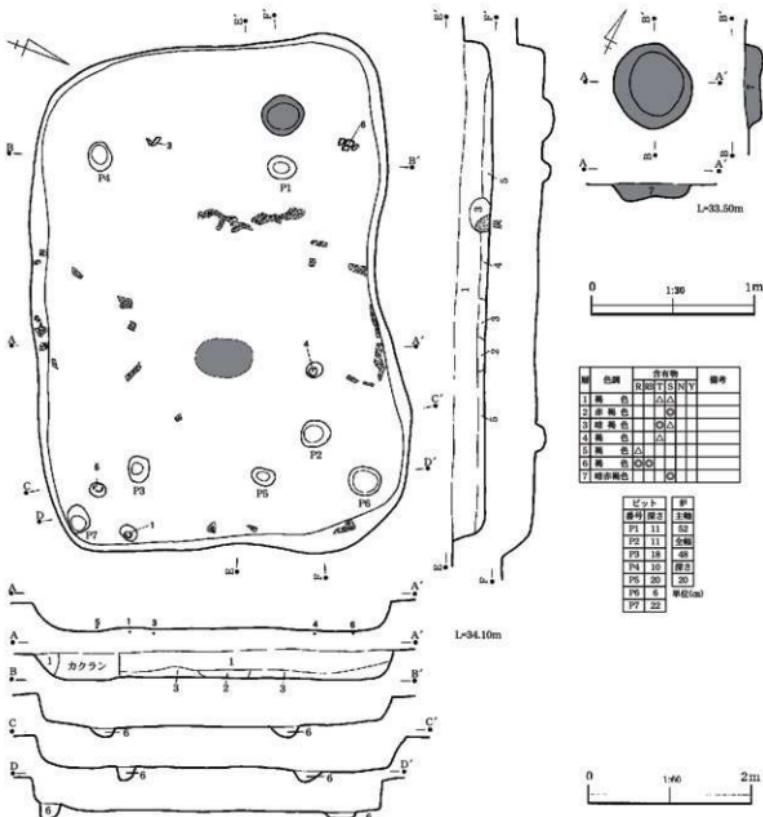
第106図 A-048①



第107図 A-048②

ヘラ切り後手持ちヘラ削りするもの（No. 1・2・4・5・7・9・10・12・13）、切り離し不明後手持ちヘラ削りするもの（No. 3・6・8・11）である。

A-050は4D-100 c・d グリッドから検出された。道路範囲東端の台地縁辺部に位置する。主軸方位はN-68° -Eで、規模は主軸長6.08×横軸長4.25mである。周溝はない。残存壁高は40~36cmでなだらかに立ち上がる。柱穴は6本（P1~6）で、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。炉が1基存在する。床面に焼土と炭化材が検出され、火災住居と考えられる。



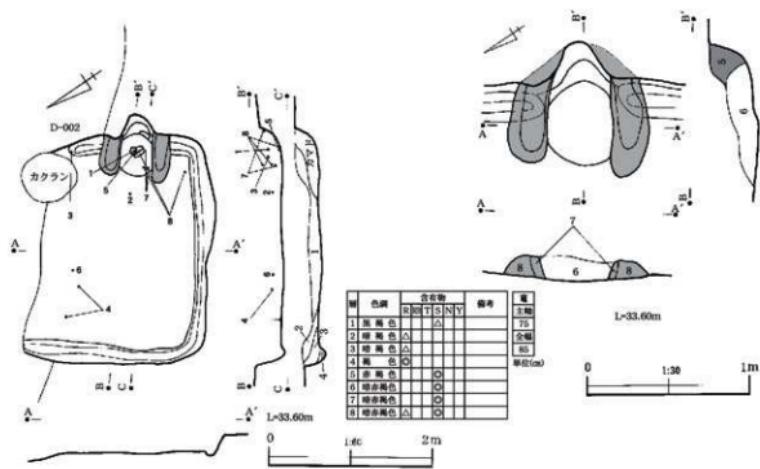
第108図 A-050

遺物量は少なく、土師器の壺・壺・高杯・器台が出土している。

A-051は4D-90dグリッドから検出された。道路範囲東端の台地縁辺部に位置する。主軸方位はN-52°-Wで、規模は主軸長2.9×横軸長（残存部分）2.0mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は30~20cmで垂直気味に立ち上がる。柱穴はなく、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。南東角（N-128°-E）にカマドがある。カマド周辺から集中して遺物が出土している。

遺物量は少なく、土師器の壺・壺・灰釉陶器の高台付杯が出土している。土師器杯の口径/底径比率の平均値は2.24である。底部調整はいずれも切り離し不明後手持ちヘラ削りするもの（No. 1・5）と回転糸切り後手持ちヘラ削りするもの（No. 2）、回転ヘラ削りするもの（No. 3・4）がある。

A-053は4D-89c・d、90a・bグリッドから検出された。A-051直近の北側に位置する。主軸方



第109図 A-002

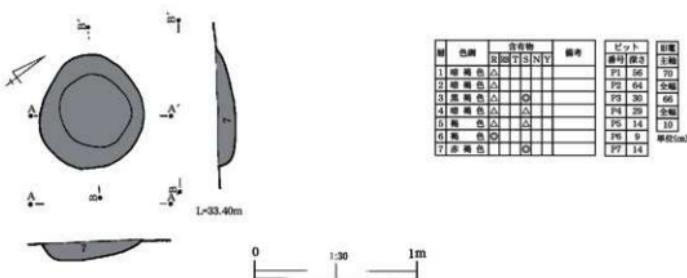
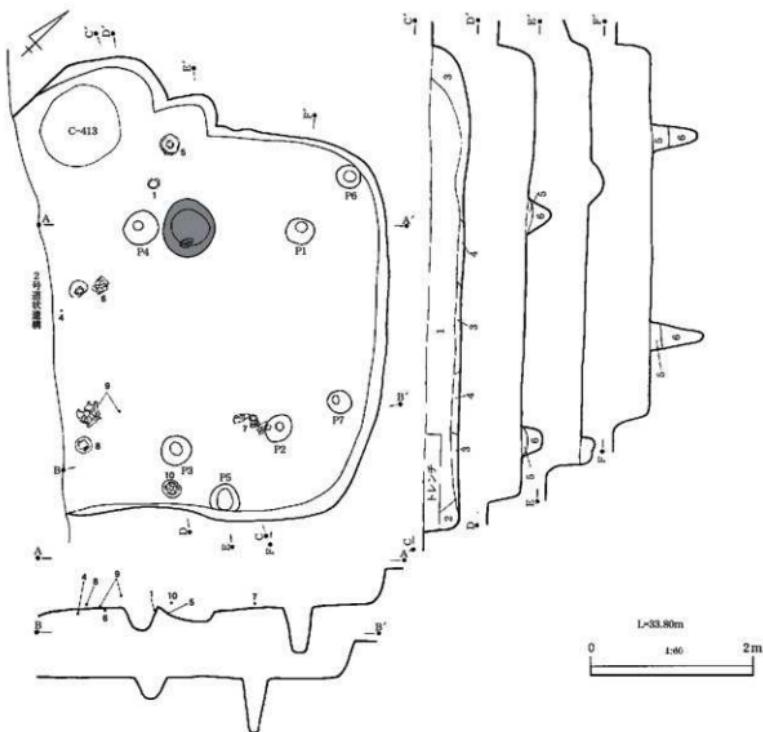
位はN-50°-Wで、規模は主軸長4.8×横軸長（残存部分）4.1mである。周溝はない。残存壁高は45～40cmでなだらかに立ち上がる。柱穴は7本で、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。炉が1基存在する。

遺物量は少なく、土師器の壺・甕・台付甕・壺、磨石（砂岩製）が出土している。No.4の壺は胸部全体に格子状の火縛が残されている。

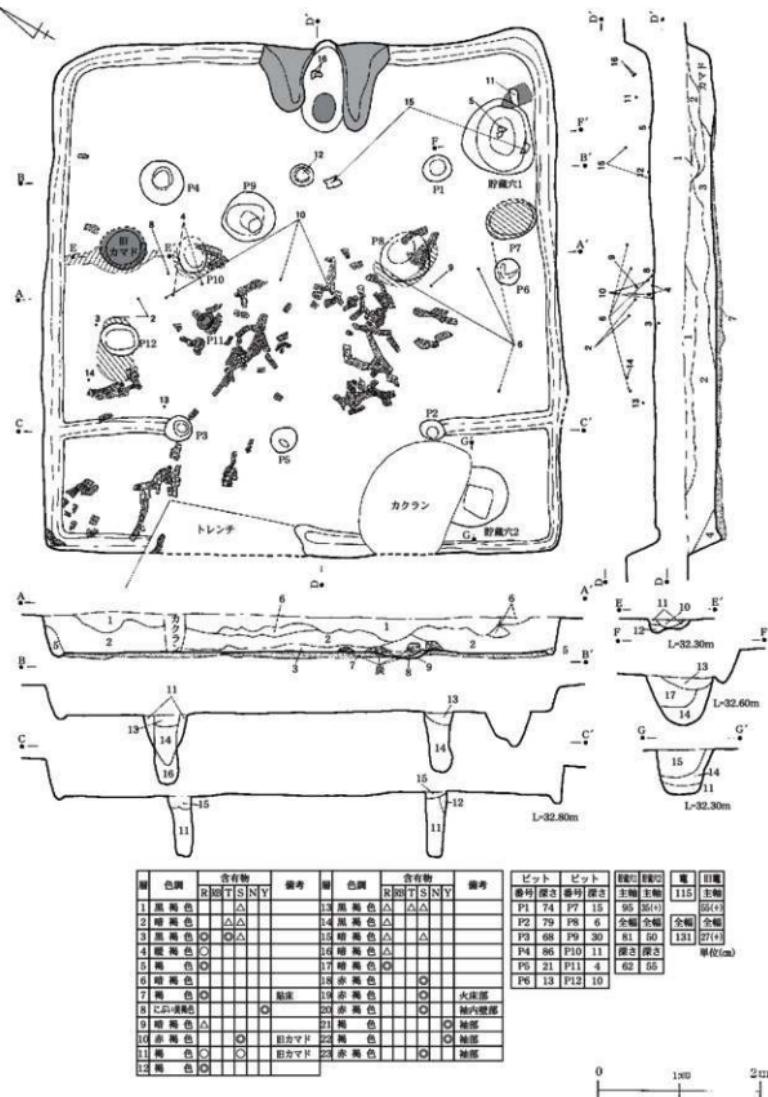
A-061は4C-89b、98aグリッドから検出された。「く」の字に折れ曲がった道路範囲の屈曲部分、台地縁辺部に位置する。主軸方位はN-60°-Eで、規模は主軸長6.2×横軸長6.35mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は46～28cmでなだらかに立ち上がる。主柱穴4本（P1～4）、第5ピット（P5）、柱穴7本（P6～12）、貯蔵穴2基、間仕切溝2条が検出された。住居跡の西側に旧カマド（北西方向）があり、建て替えが行われた形跡が認められる。旧カマド、柱穴（P7・8・10・12）の付近に山砂が検出された。2基ある貯蔵穴のうち1基（貯蔵穴1）は旧住居のものである可能性が高い。床面に焼土と多量の炭化材が検出され、火災住居と考えられる。

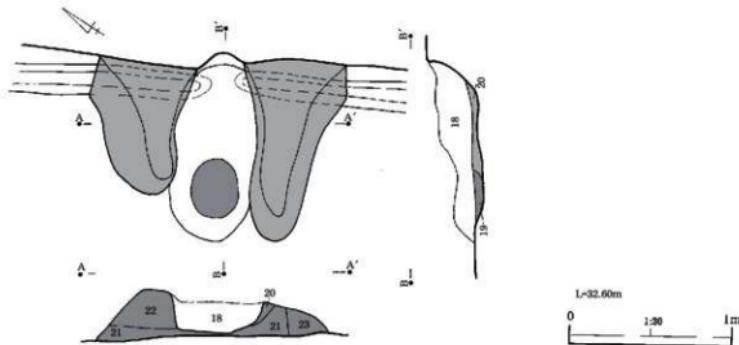
遺物量は少なく、刻書土器（「X」）、玉（滑石製）、土師器の壺・甕・瓶・壺・高杯、須恵器の波状文が施された高杯片が出土している。壺（No.2～11）はいずれも内外面に赤彩が施され、壺（No.11・13・16）も外側が赤彩される。

A-077は4C-65a・cグリッドから検出された。道路範囲の北西側の台地縁辺部に位置する。主軸方位はN-1°-Eで、規模は主軸長4.85×横軸長4.8mである。周溝はカマド部分を除いて全周している。残存壁高は48～25cmでなだらかに立ち上がる。主柱穴4本（P1～4）、柱穴4本、貯蔵穴1基、間仕切溝7条が検出された。建て替えが行われた形跡が認められる。遺物はカマド周辺と貯蔵穴から集中して出土している。



第110図 A-053





第112図 A-061②

遺物量は少なく、土師器の壺、鉢、甌、鐵滓、焼成粘土片（1片）、支脚が出土している。壺（No. 1～4）と鉢（No. 6）は内外面に赤彩を施す。

A-086は4C-77cグリッドから検出された。道路範囲北西側の屈曲部近くに位置する。主軸方位はN-28°-Wで、規模は主軸長3.6×横軸長2.65mである。周溝はない。残存壁高は15～6cmでなだらかに立ち上がる。柱穴は4本（P1～4）で、建て替えや拡張が行われた形跡は認められない。炉が1基存在する。

遺物量は少なく、土師器の壺・甌、磨石（砂岩製）が出土している。壺（No. 1～4）はいずれも内外面赤彩である。

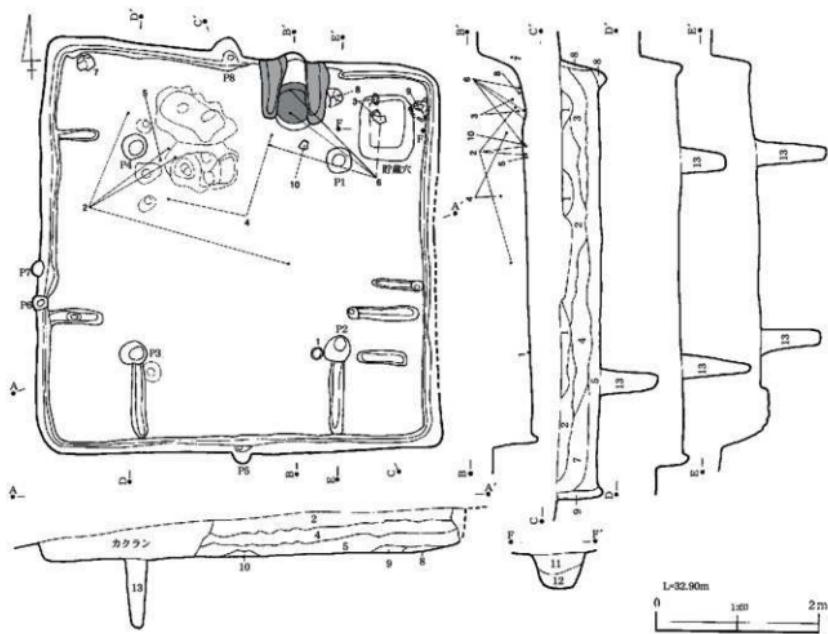
2. 挖立柱建物跡及びピット群

掘立柱建物跡は6棟、ピット群1基が検出された。建物構造は桁行3間×梁行2間（以後3間×2間と略す）の側柱建物が2棟、2間×2間の側柱建物が4棟（なおB-004については総柱の可能性もある。）、他に削平等の理由で全体の規模が不明瞭なピット群である。いずれも公園用地の東辺沿いから南側に偏って分布し、重複こそないものの近接した配置をとる例が多い。長軸方向から見ると、ほぼ真北を向く一群（B-003・004・006）とやや北東に向く一群（B-001・002・005）に分けられる。

第24表 掘立柱建物跡・ピット群計測表

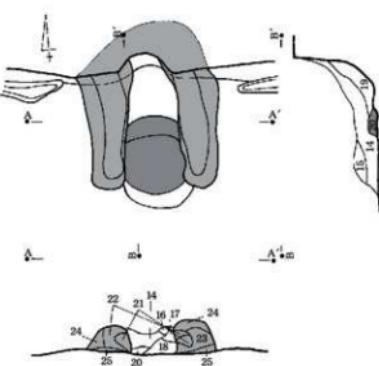
建造名	時期	位置	規模(m)	形状	長軸方位	構造	重複造構
B-001	奈良・平安	5F-79 a	3.90×3.70	2間×2間	N-20°-E	側柱	
B-002	奈良・平安	5F-69 b・d	3.10×3.14	2間×2間	N-25°-E	側柱	D-001
B-003	奈良・平安	5F-68 d, 69 b	3.52×3.30	2間×2間	N-5°-E	側柱	
B-004	奈良・平安	5F-68 c, 69 a	3.74×3.62	2間×2間	N-4°-W	側柱か？	
B-005	奈良・平安	6F-62 b・d, 72 a・c	4.00×3.95	3間×2間	N-22°-E	側柱	C-405
B-006	奈良・平安	5F-58 b・d	3.68×3.80	3間×2間	N-2°-W	側柱	A-047
ピット群	奈良・平安	6F-74 d, 75 d	8.30×-	3間×不明	N-1°-E	不明	

B-001は5F-79 aグリッドから検出された。公園用地の東辺沿いの中央付近に位置する。長軸方位はN-20°-Eで、規模・形状は2間×2間（3.90×3.70m）の側柱建物である。南北の柱間寸法は約1.1～1.9m、東西の柱間寸法は約1.1～1.4mで、各柱穴は径約30～60cm、深さ約20～70cmを測る。P



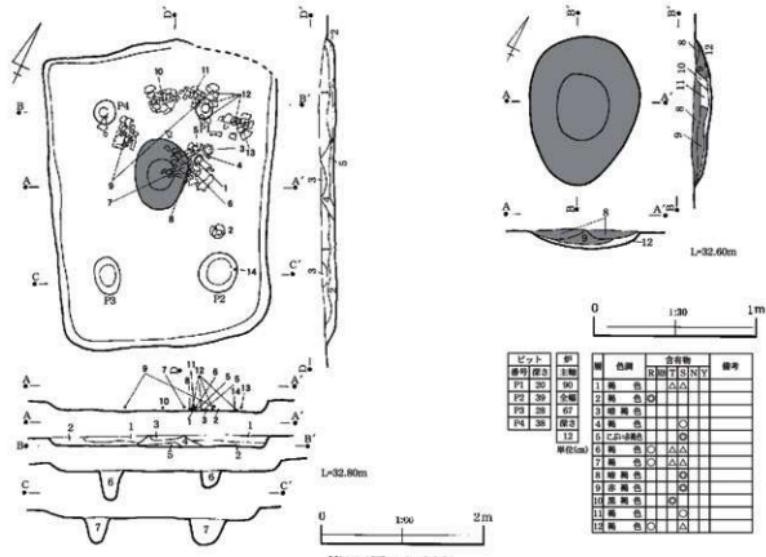
番	色調	含有物	参考	番	色調	含有物	参考
		鉄酸化物	T S N Y				
1	赤褐色	○	○	13	赤褐色	○	○
2	暗褐色	△	○	14	暗褐色	○	○
3	暗褐色	△	△	15	暗褐色	○	○
4	暗褐色	△	○	16	暗褐色	○	○
5	暗赤褐色	△	△	17	暗褐色	○	○
6	暗褐色	○	○	18	暗褐色	○	△
7	暗褐色	△	△	19	赤褐色	○	○
8	暗褐色	○	△	20	赤褐色	○	●
9	暗褐色	○	○	21	暗褐色	○	●
10	暗褐色	○	○	22	暗褐色	○	○
11	暗褐色	○	○	23	暗褐色	○	○
12	暗褐色	○	○	24	暗褐色	○	○
13	暗褐色	△	△	25	暗褐色	○	○

ビット 番号	深度 m	時間 分	重 量
P1	99	60	3.50
P2	73	60	5.40
P3	68	65	7.9
P4	58	40	單位(m)
P5	3	40	
P6	14		
P7	3		
P8	8		



L-32.80m
0 1:30 1m

第113図 A-077



第114図 A-086

1の柱穴が特に深く、P5の柱穴が特に浅い。

遺物は柱穴から須恵器の壺と土師器の壺が出土している。

B-002は5F-69b・dグリッドから検出された。B-001の直近の南側に、長軸方位を揃えるかのように位置する。主軸方位はN-25°-Eで、規模・形状は2間×2間(3.10×3.14m)の側柱建物である。南北の柱間寸法は約0.6~1.6m、東西の柱間寸法は約1.1~1.15mで、各柱穴は径約30~50cm、深さ約20~40cmを測る。

遺物は柱穴から土師器の壺が出土している。

B-003は5F-86d、69bグリッドから検出された。B-001の西隣に長軸方位を違えて位置する。主軸方位はN-5°-Eで、規模・形状は2間×2間(3.52×3.30m)の側柱建物である。南北の柱間寸法は約1.35~1.45m、東西の柱間寸法は約1.25~1.45mで、各柱穴は径約30~40cm、深さ約10~50cmを測る。

B-004は5F-68c、69aグリッドから検出された。B-003の西隣に接しながら棟筋をほぼ揃えて立地する。長軸方位はN-4°-Eで、規模・形状は2間×2間(3.74×3.62m)の側柱建物である。南北の柱間寸法は約1.3~1.6m、東西の柱間寸法は約1.4~1.6mで、各柱穴は径約20~60cm、深さ約10~60cmを測る。P1の柱穴が特に深い。

遺物は柱穴から土師器の壺が出土している。

B-005はF-62b・d、72a・cグリッドから検出された。公園用地の東辺沿いではあるが、北側掘立柱建物跡群とはやや距離を置いて南に離れて所在する。長軸方位はN-22°-Eで、規模・形状は3

間×2間(4.00×3.95m)の側柱建物である。南北の柱間寸法は約0.55~1.2m、東西の柱間寸法は約1.15~1.7mで、各柱穴は径約30~50cm、深さ約10~40cmを測る。

B-006は5F-58b・dグリッドから検出された。調査区東側の台地平坦面に位置する。長軸方位はN-2°-Wで、規模・形状は3間×2間(3.68×3.80m)の側柱建物である。南北の柱間寸法は約0.2~1.4m、東西の柱間寸法は約1.5mで、各柱穴は径約30~50cm、深さ約20~60cmを測る。P6の柱穴が特に深い。

遺物は柱穴から鉄製の刀子が出土している。

ピット群は6F-74d, 75dグリッドから検出された。公園用地の東南端に位置する。長軸方位はN-1°-Eで、規模・形状は3間×不明(8.30m×不明)である。南北の柱間寸法は約1.1~2.0m、各柱穴は径約50~80cm、深さ約20~30cmを測る。

3. 溝跡(M-001)

4E、4F、5Eグリッド、公園用地の北辺に沿って東西に横切る。総延長約139m、最大深度0.75mである。本遺跡で展開する遺構群のある時期の北側を画す区画溝であった可能性も考えられる。

溝の遺物出土状況としては、2箇所の集中出土地点があったため、これをA地点、B地点として図示した。A地点にはハマグリ・イボキサゴを主体とする貝層とともに多量の遺物が廃棄されており、須恵器の壺・高台付壺・甕・甑・台付椀・高壺・皿・蓋等の他、土師器の壺、波状文の須恵器甕(常陸産)、刻書土器(「真」)、朱書き土器、丸瓦と平瓦、支脚が出土した。B地点からは須恵器の壺・甕の他、土師器の小型甕が出土した。しかし、基本的には同一溝内での遺物集中の多寡に過ぎないため地点毎に時間差、性格差があるものではない。壺は須恵器が21点(Na.1~21)、それらの口径/底径比率の平均値は1.69である。底部調整は回転ヘラ切り後手持ちヘラ削りするもの(Na.2~5・7・11~13・16)、回転ヘラ削りするもの(Na.14・17・18)、切り離し不明後手持ちヘラ削りするもの(Na.1・6・8・9・10・15・19・20)、回転糸切り後回転ヘラ削りするもの(Na.21)がある。丸瓦は凸面をヘラ削りがなされ凹面には布目が残されている。Na.63・64は粘土の接合部分を指したるものである。平瓦は凹面に布目、凸面に縄叩き痕が残る。

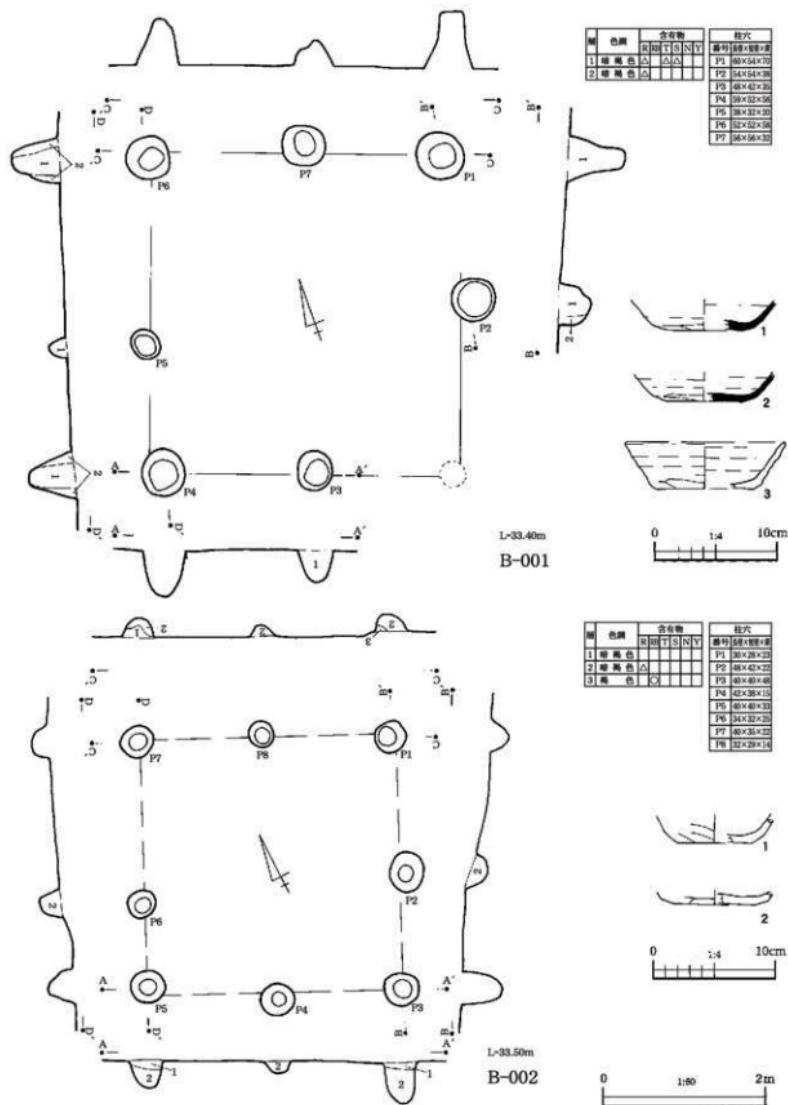
第25表 溝跡計測表

遺構名	位 置	総延長(m)	最大深度(m)
M-001	5E-13a b, 22d, 23a, 32b c d, 42a b, 51b c d, 52a, 61a b, 71a 4E-90c d, 100a b c d 4F-10a b, 19c d, 20a b, 29c d, 39a b c d, 49a	約139	0.75

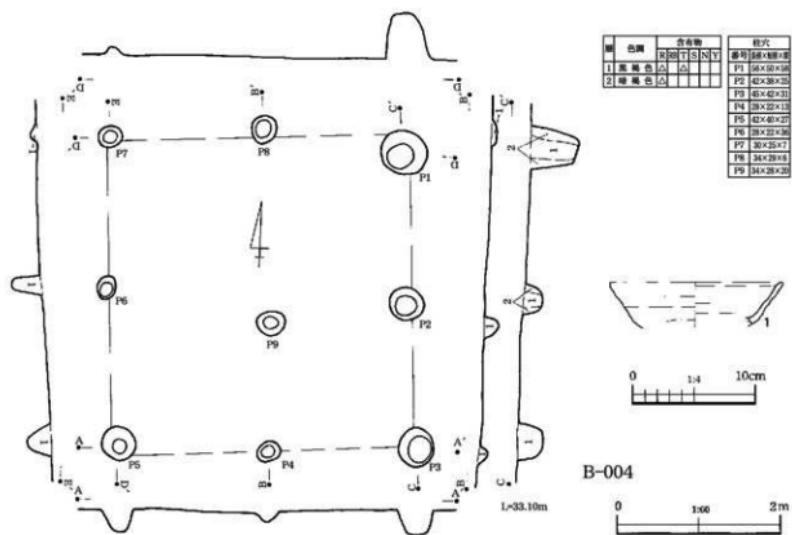
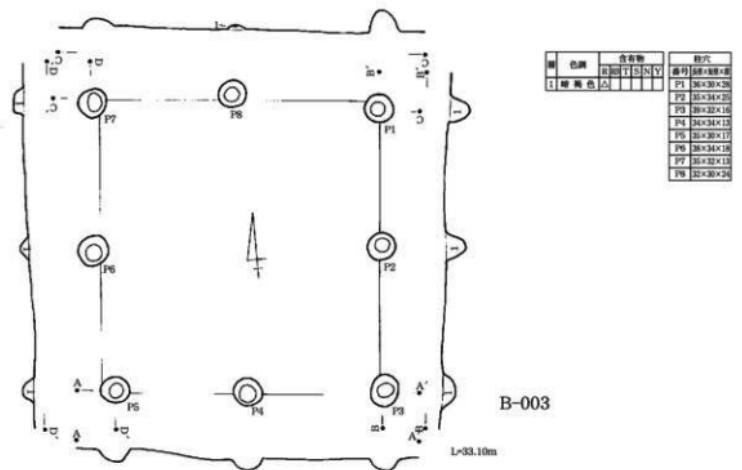
4. 方形周溝

H-001は4C-65a・b・c・dグリッドから検出された。道路用地北西側の台地縁辺部に位置する。南北方向を基準にすると軸方位はN-6°-Wである。規模は9.02×8.9mで、周溝の幅は上面で0.8~1.0m、深さは0.3~0.5mであり、平面形状も断面形状においても比較的明瞭な掘り込みがなされている。主体部は検出されなかった。

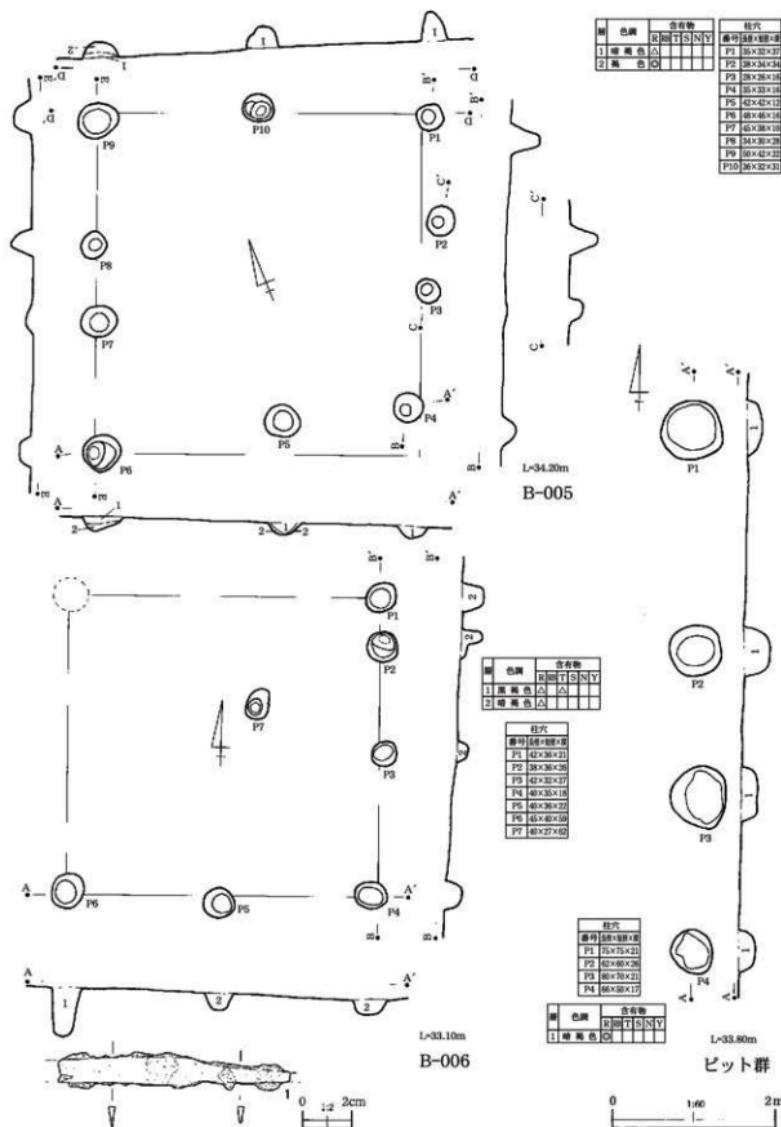
遺物は周溝内から土師器の内外面赤彩の壺細片が出土したが、遺構の時期を決める資料にとは考え



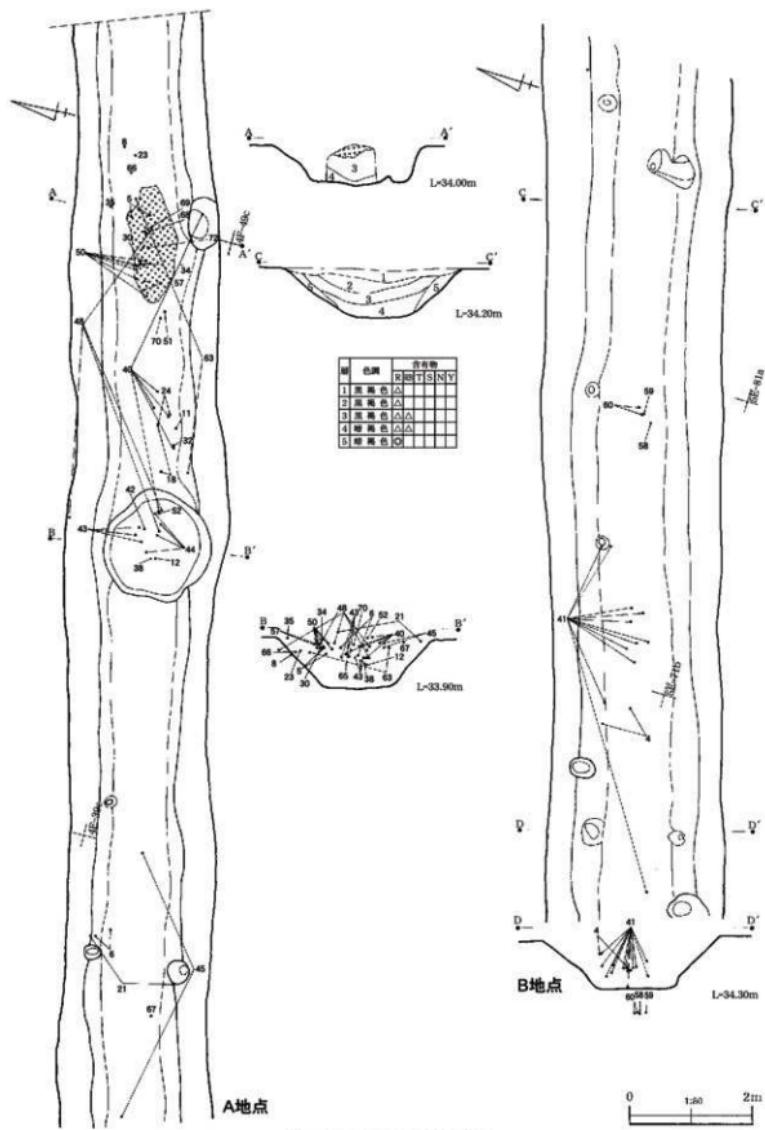
第115図 B-001・002及び出土遺物



第116図 B-003・004及び出土遺物



第117図 B-005・006・ピット群



第118図 M-001部分拡大図

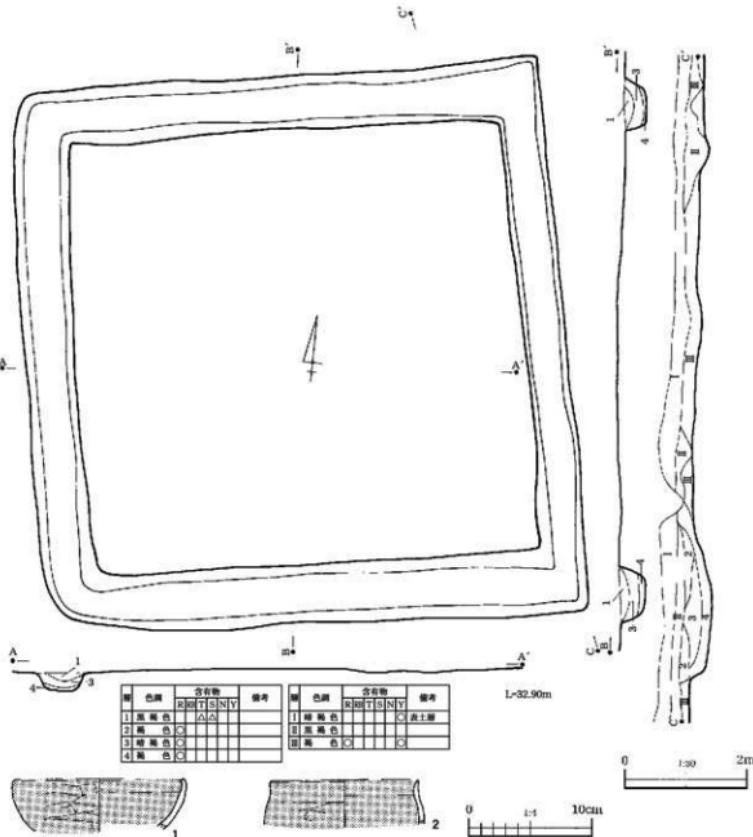
にくい。

H-002は4C-76c、77a・bグリッドから検出された。道路用地北西側の台地縁辺部、H-001の南に位置する。遺構の東側1/5程は擾乱により壊されている。軸方位はN-23°-Wで、規模は7.25×(5.2) mである。周溝の幅0.3~0.5m、深さは0.22~0.06mで、平面的には東辺に向かってやや広がり気味となり、断面形状も不明瞭な掘り込みしか持たない。主体部は検出されなかった。

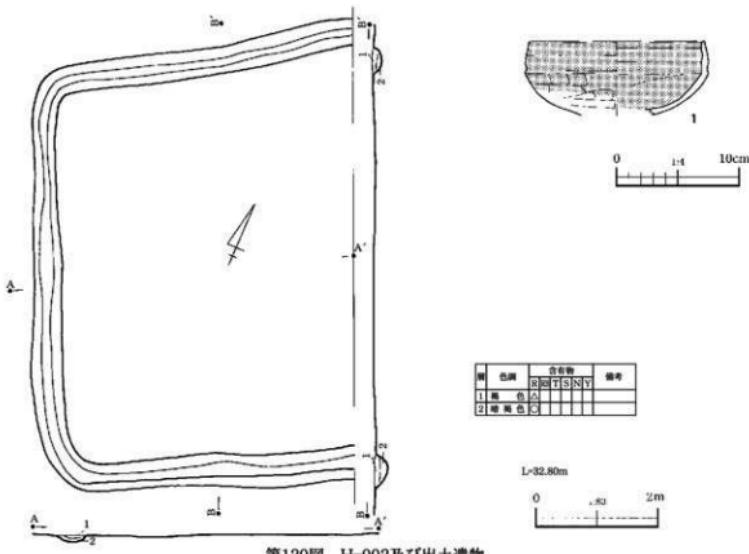
遺物は周溝内から土師器の内外面赤彩の坏（No.1）が出土した。

第26表 方形周溝計測表

遺構名	時期	位 置	規模(m)	周溝の深さ(m)	主軸方位	重複遺構
H-001	奈良・平安	4C-65a, b, c, d	9.02×8.90	0.40~0.26	N-6°-W	C-302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 299
H-002	奈良・平安	4C-76c, 77a, b	7.25×(5.20)	0.22~0.06	N-23°-W	C-312



第119図 H-001及び出土遺物



第120図 H-002及び出土遺物

5. 遺構外出土遺物ならびに特殊遺物について

遺構外出土遺物

4C、4D、4F、5Fグリッドを中心に土師器の壺・甕・瓶、須恵器の壺・甕、支脚、平瓦、鉄滓、炉壁、紡錘車（土製）、管状土錐、砥石、鐵鎌、銅錢（中近世）が出土している。灰釉陶器の高台付壺（№9）は静止糸切り後付け高台をしたものである。

五

うならず遺跡から出土したのは丸瓦4点、平瓦7点で、総重量5,377gである。時期は9世紀代を中心であると考えられる。M-001（A地点）やA-048、D-003（中近世道路跡）、5F-59cグリッドから出土している。出土した遺構及び地点は公園用地北西端付近に集中している。瓦の種類は丸瓦と平瓦のみで軒瓦は出土していない。調査区内には瓦に関連する遺構が検出されておらず、北側もしくは北東側の調査区外に瓦葺き建物跡などの遺構が存在している可能性と、瓦生産との両面で今後の検討が必要である。

墨書・刻書資料

奈良・平安時代の文字資料としては、墨書が2点、朱書が1点、刻書が33点出土している。刻書は全て焼成前に描かれたもの(ヘラ)である。時期は墨書2点が9世紀後半~10世紀初頭の他は、刻書・朱書とも全て9世紀前半であると考えられる。種別はほとんどが須恵器であるが、墨書2点と「大」の字が刻まれた刻書は土師器である。文字として認識できる墨書は「巾」である。

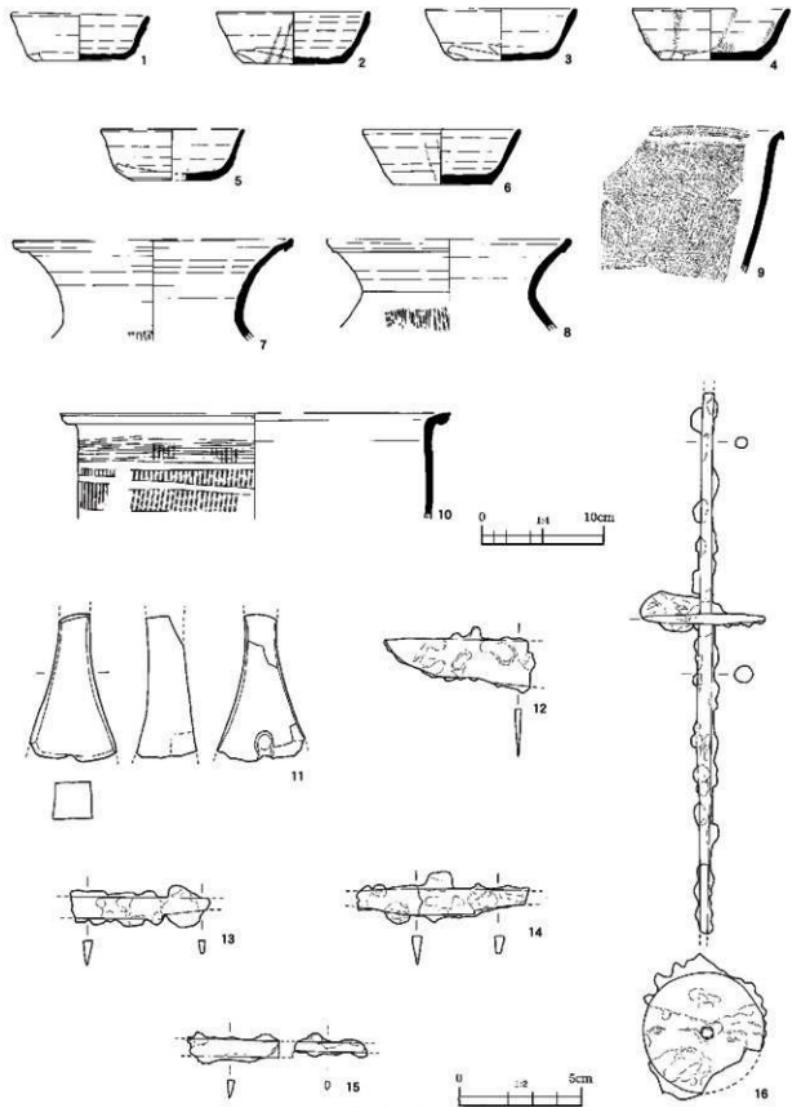
刻書のうち大半は記号と解すべきもので「×」や「乙」・「=」があり窯印の可能性が高い。大部分が甕・瓶に刻まれているが、「=」は壺・蓋に、「×」は壺にも刻まれている。ちなみに千葉市中原窯跡においては、須恵器の甕の底部外面に「×」や「+」(「×」と同じものか?)、「≠」(「乙」は「≠」の省略体か?)の記号が刻まれており、これらの甕や瓶が中原窯跡の製品である可能性もある。

文字として認識できる刻書は「神」・「真」・「由真利」・「真口」・「保口」・「千」・「大」などがある。大部分が壺・高台付壺・皿に刻まれているが、「千」は甕にも刻まれている。「神」は長野県諏訪市大安寺遺跡の高台付壺の底部内面に刻まれたものが知られているが、千葉県内の報告例は初めてである。

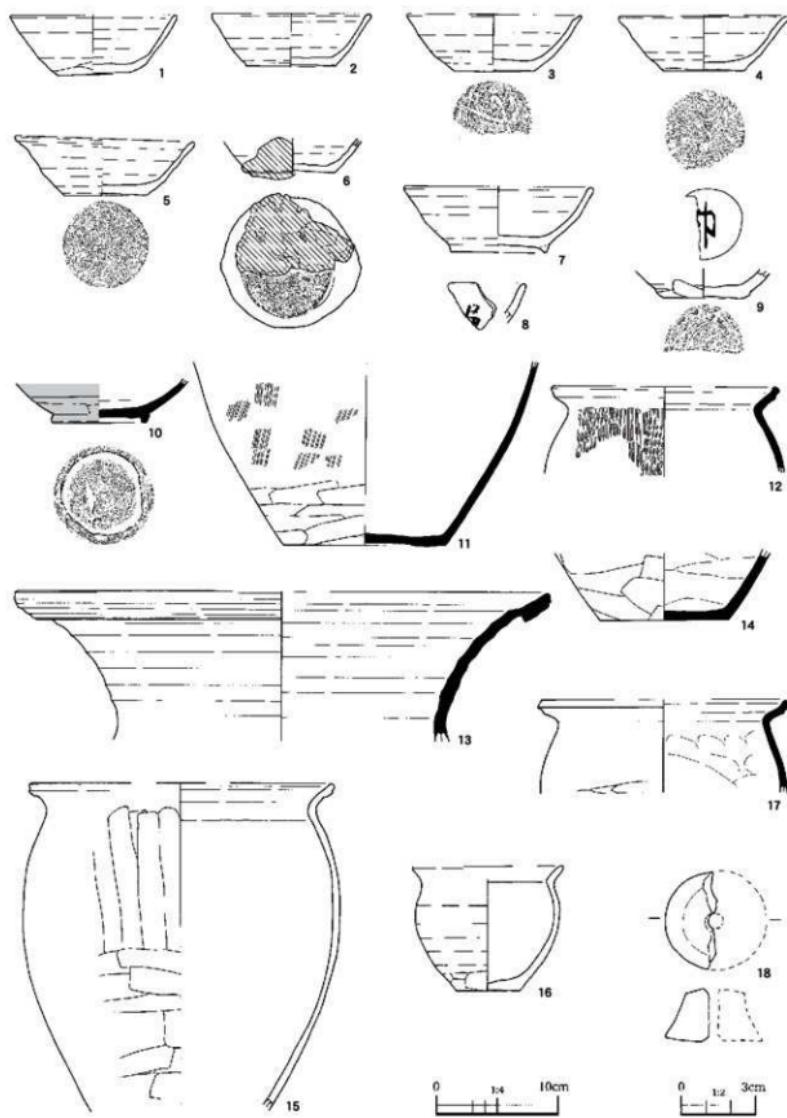
注 古代銅鏡については岡田茂弘氏(元国立歴史民俗博物館・現東北歴史博物館館長)にご教授頂いた。

＜参考文献＞

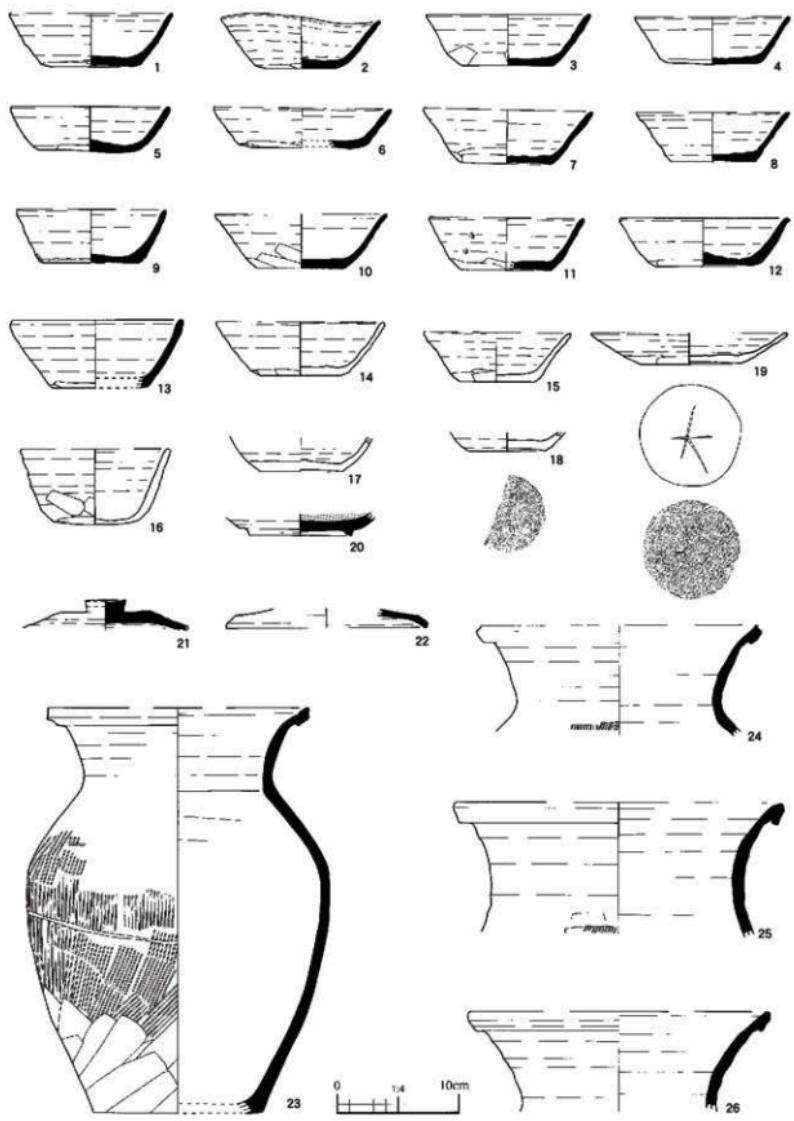
- 田中英世・中山貴正 2003 「千葉市平和公園遺跡群Ⅰ 多部田貝塚・貝殻塚遺跡・ムグリ遺跡」(財)千葉市教育振興財團
築瀬裕一・森本 刚 2002 「千葉市土気東遺跡群Ⅰ-奥房台遺跡・五十石西遺跡-」(財)千葉市文化財調査協会
倉田義広 1998 「千葉市下田遺跡」(財)千葉市文化財調査協会
小澤清男 1995 「千葉市仁戸名遺跡-平成4・5年度調査報告書-」千葉県文化財調査協会
寺村光晴・須田 勉他 1986 「千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書」千葉県文化財保護協会
閑口達彦 1989 「千葉県中原窯跡確認調査報告書」千葉県文化財保護協会
(財)千葉県史料研究財団 1996 「出土文字資料集成」(『千葉県の歴史 資料編 古代』別冊)
房總歴史考古学研究会 1991 「房總における奈良・平安時代の出土文字資料!」
(財)千葉県史料研究財団 『千葉県の歴史 資料編 考古3(奈良・平安時代)』
(財)千葉県文化財センター 1990 「千葉県文化財センター研究紀要12 生産遺跡の研究1-瓦-」
(財)千葉県文化財センター 1993 「千葉県文化財センター研究紀要14 生産遺跡の研究3-須恵器-」
古代生産史研究会 1997 「東国の大須恵器-関東地方における歴史時代須器の系譜-」
考古学資料から古代を考える会 2000 「古代仏教系遺物集成・関東」
山梨県考古学協会 1996 「すまいの考古学-住居の歴史をめぐって-」
帝京大学山梨文化財研究所 1999 「遺跡・遺物から何を読みとるか(Ⅲ)-住まいと住まい方-」
(財)千葉県文化財センター 1993 「房總考古学ライブラリー7 歴史時代(1)」
中村 浩監修 齋藤孝正・後藤建一 1998 「須恵器集成図録第3巻 東日本編」雄山閣出版
玉口時雄・小金井 純著 1984 「土師器・須恵器の知識 考古学シリーズ17」東京美術
今泉 澤 1995 「瓦と建物、そのイメージと原風景に関する観察-千葉県内の寺院遺跡の調査例を中心として-」『千葉県史研究』第3号
平川 南・天野 努・黒田正典 1989 「古代集落と墨書き土器-千葉県八千代市村上込の内遺跡の場合-」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集
小笠原好彦 1989 「古墳時代の堅穴住居集落にみる単位集団の移動」『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集



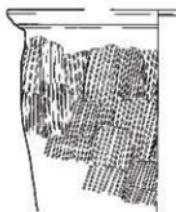
第121図 A-001出土遺物



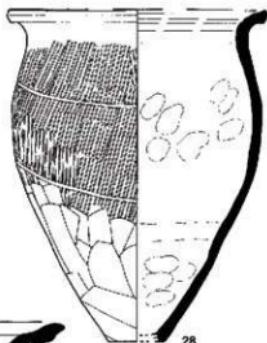
第122図 A-003出土遺物



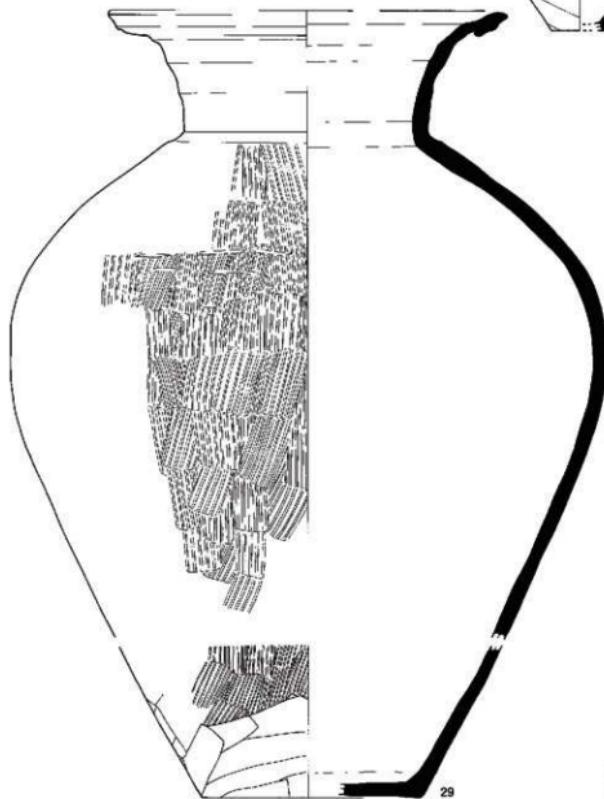
第123図 A-004出土遺物①



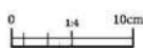
27



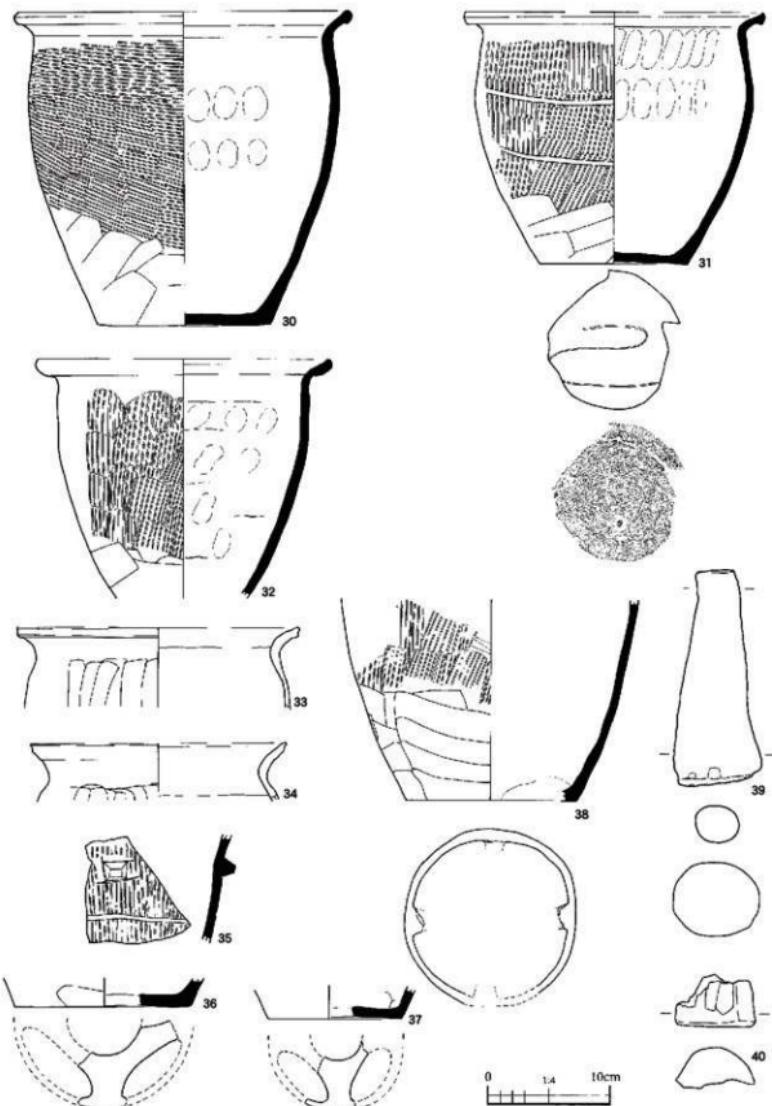
28



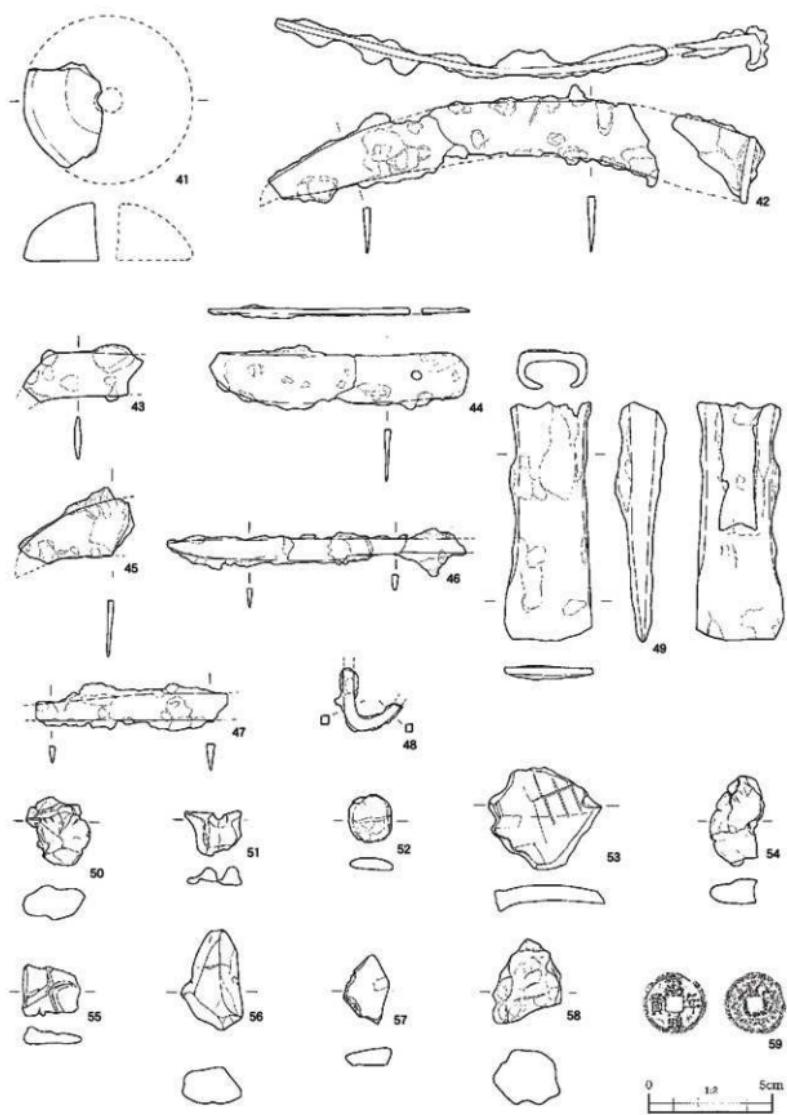
29



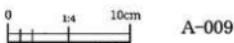
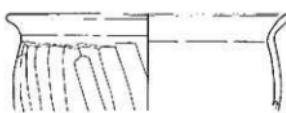
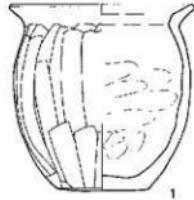
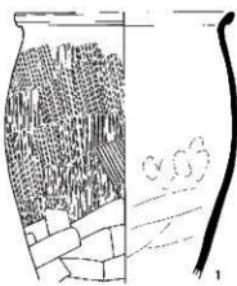
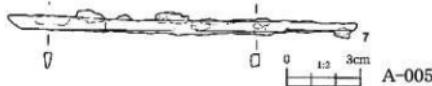
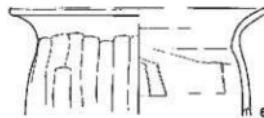
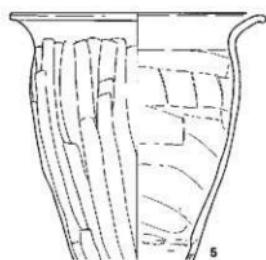
第124図 A-004出土遺物②



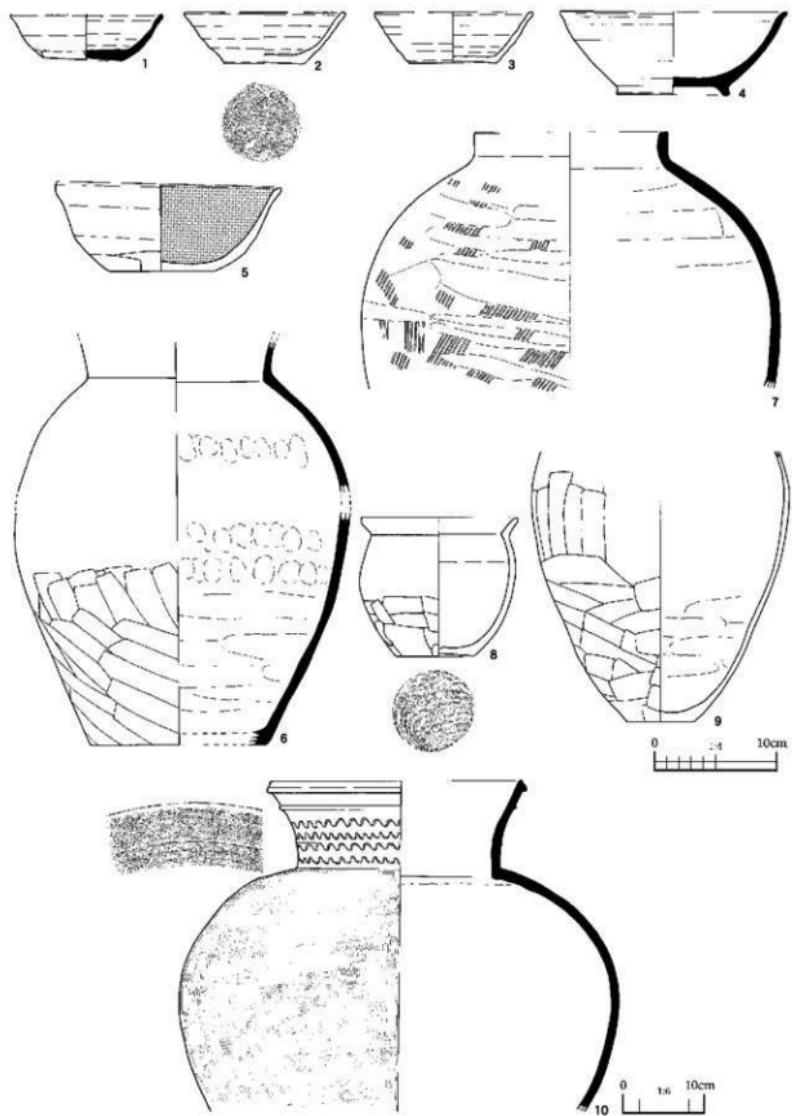
第125図 A-004出土遺物③



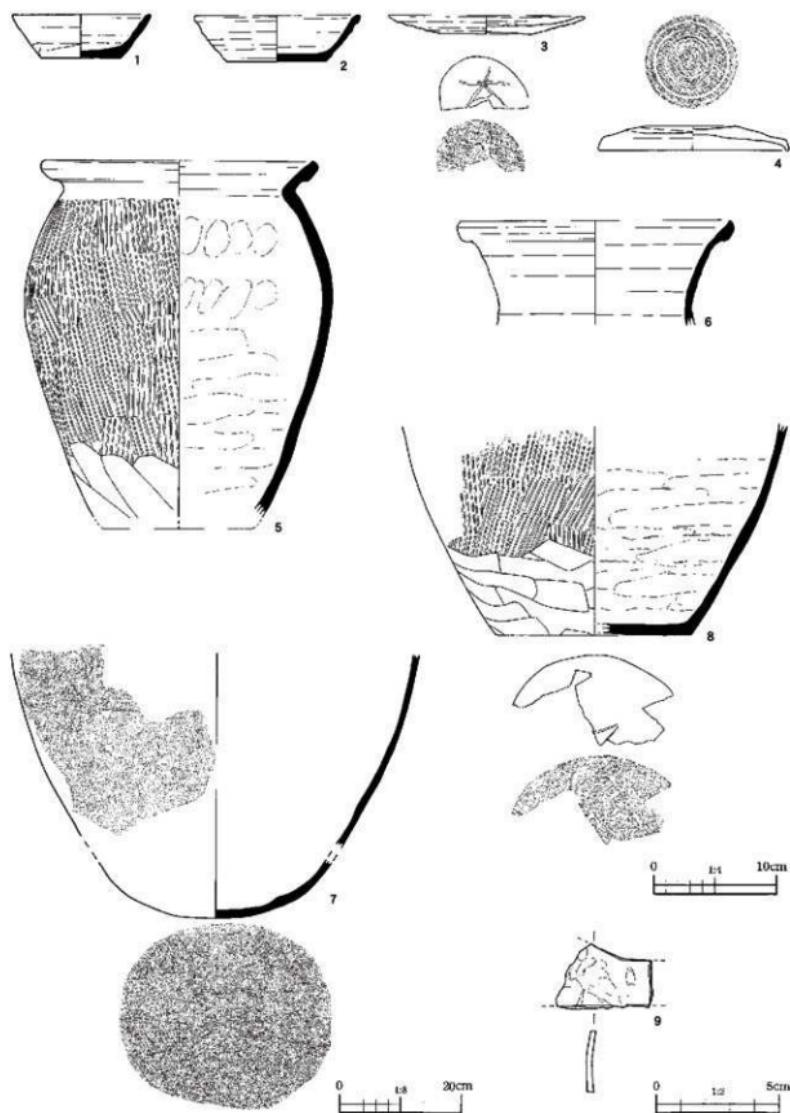
第126図 A-004出土遺物④



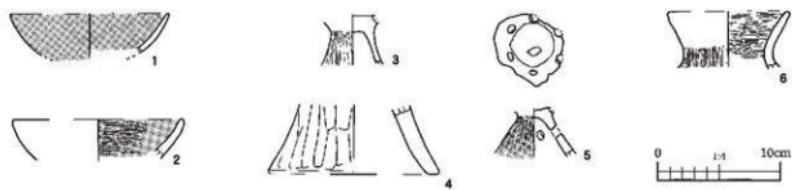
第127図 A-005・008・009出土遺物



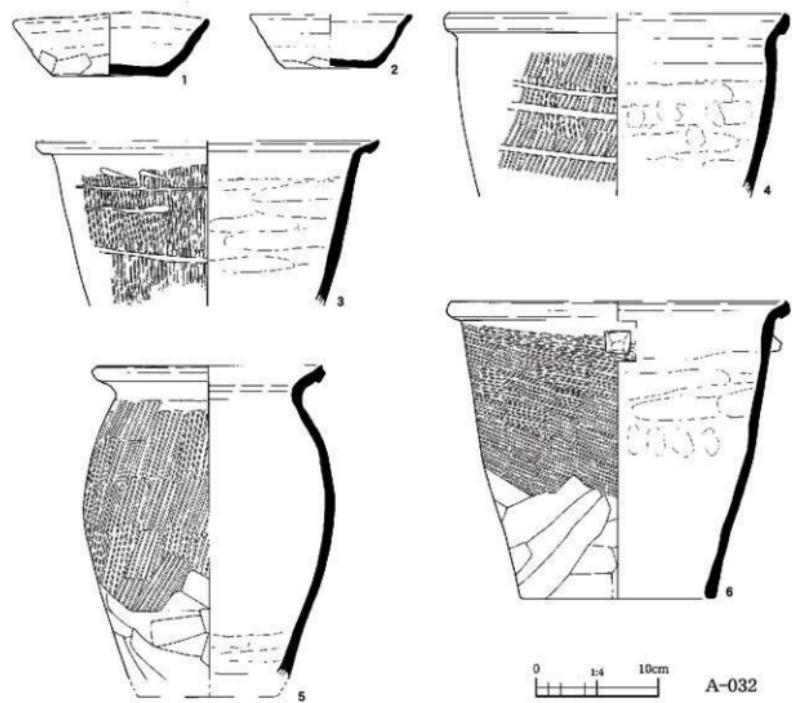
第128図 A-011出土遺物



第129図 A-012出土遺物

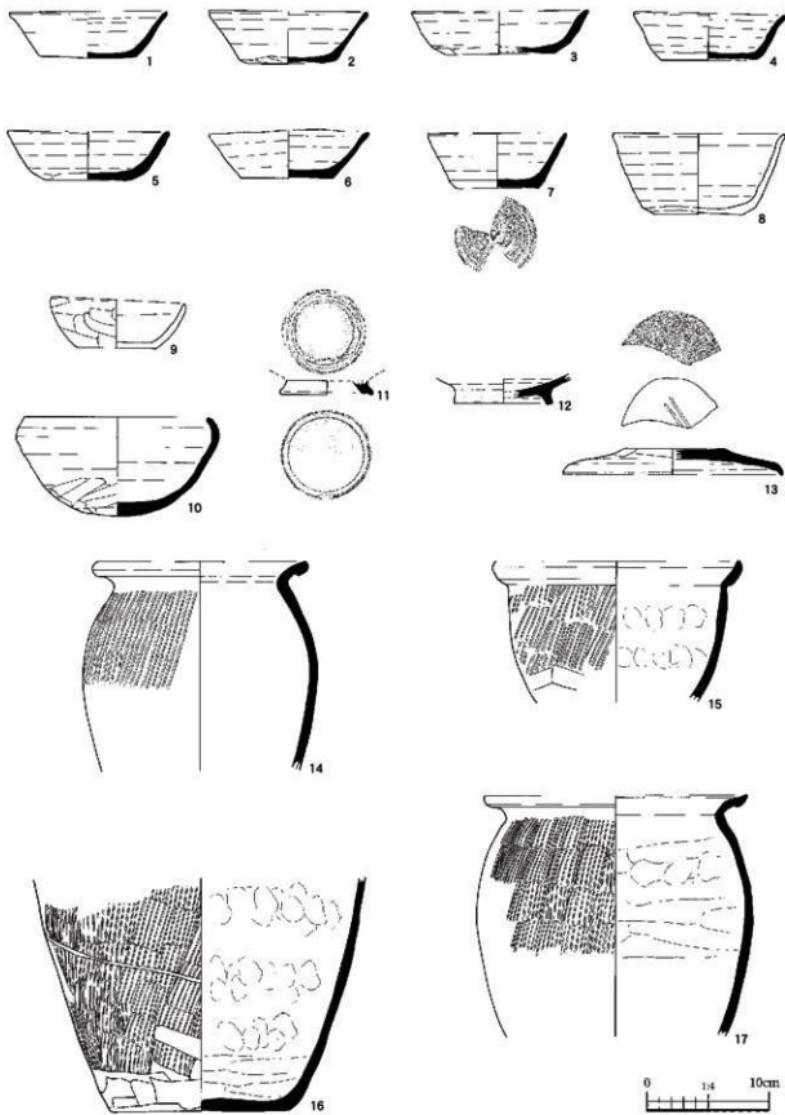


A-018

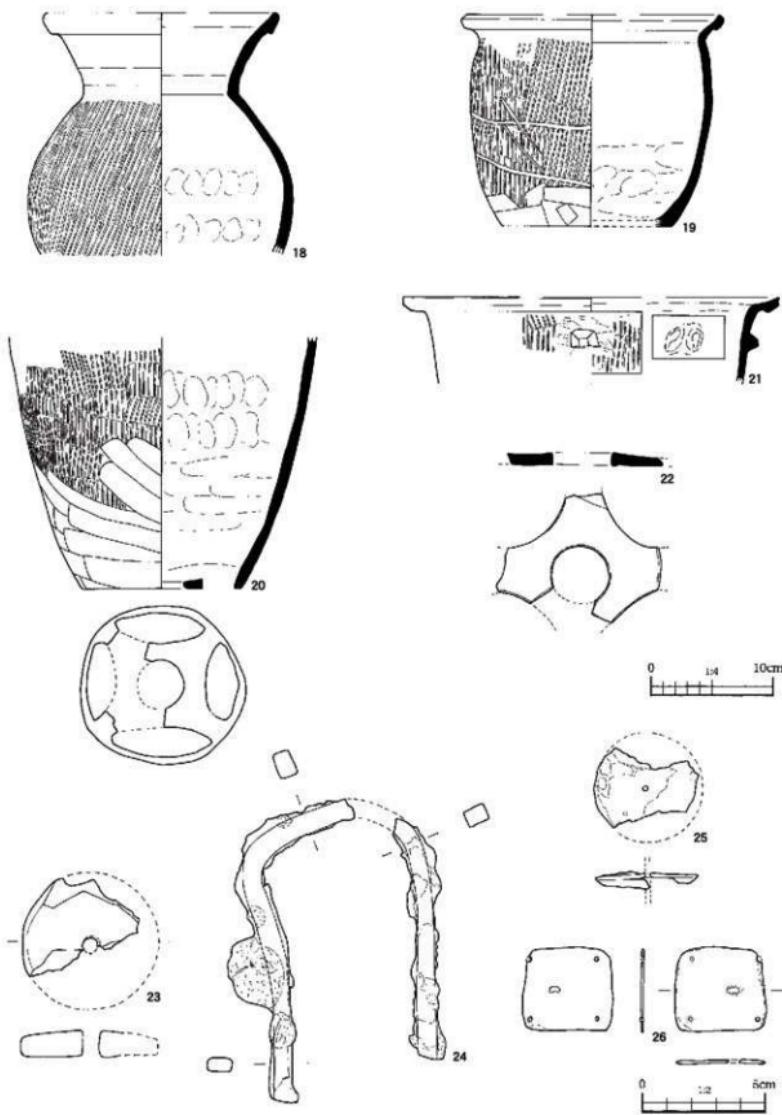


A-032

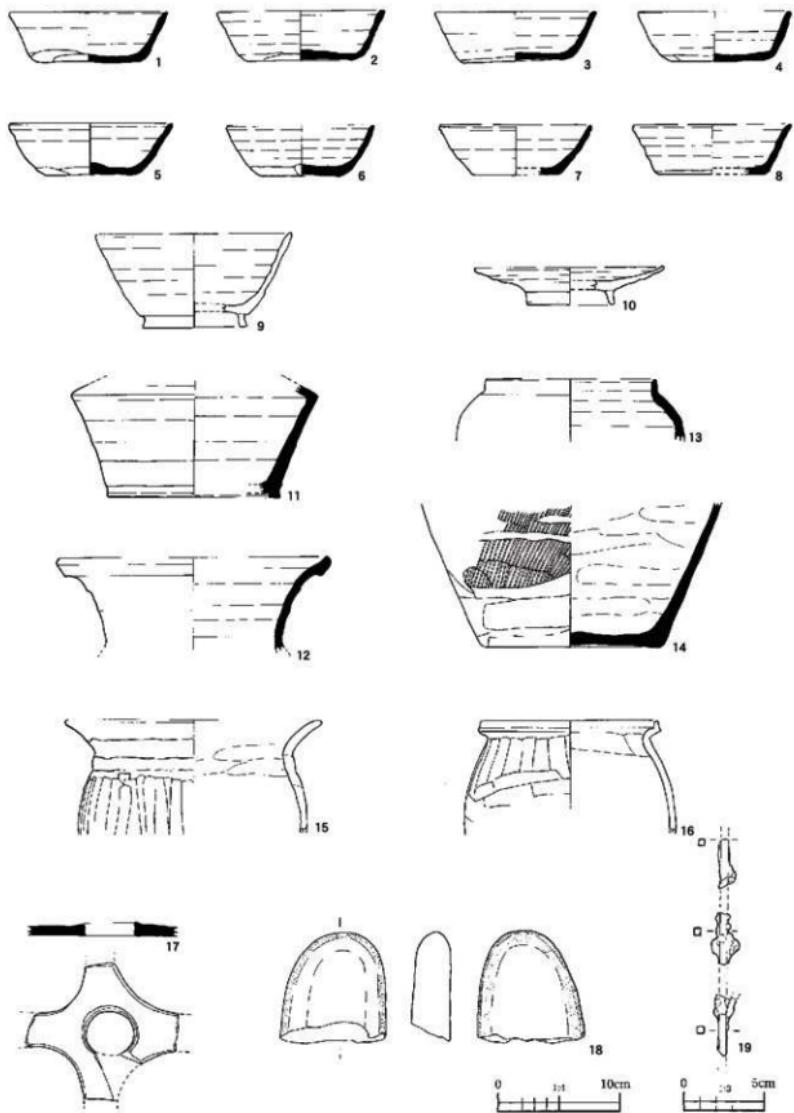
第130図 A-018・032出土遺物



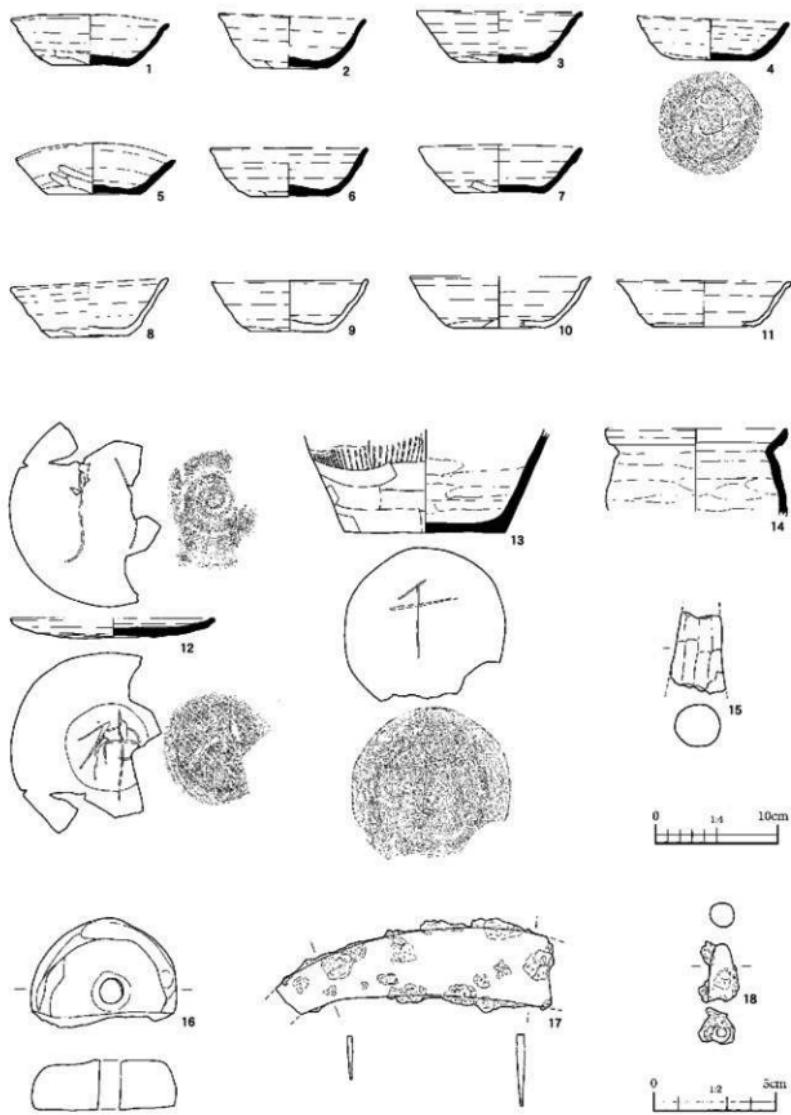
第131図 A-041出土遺物①



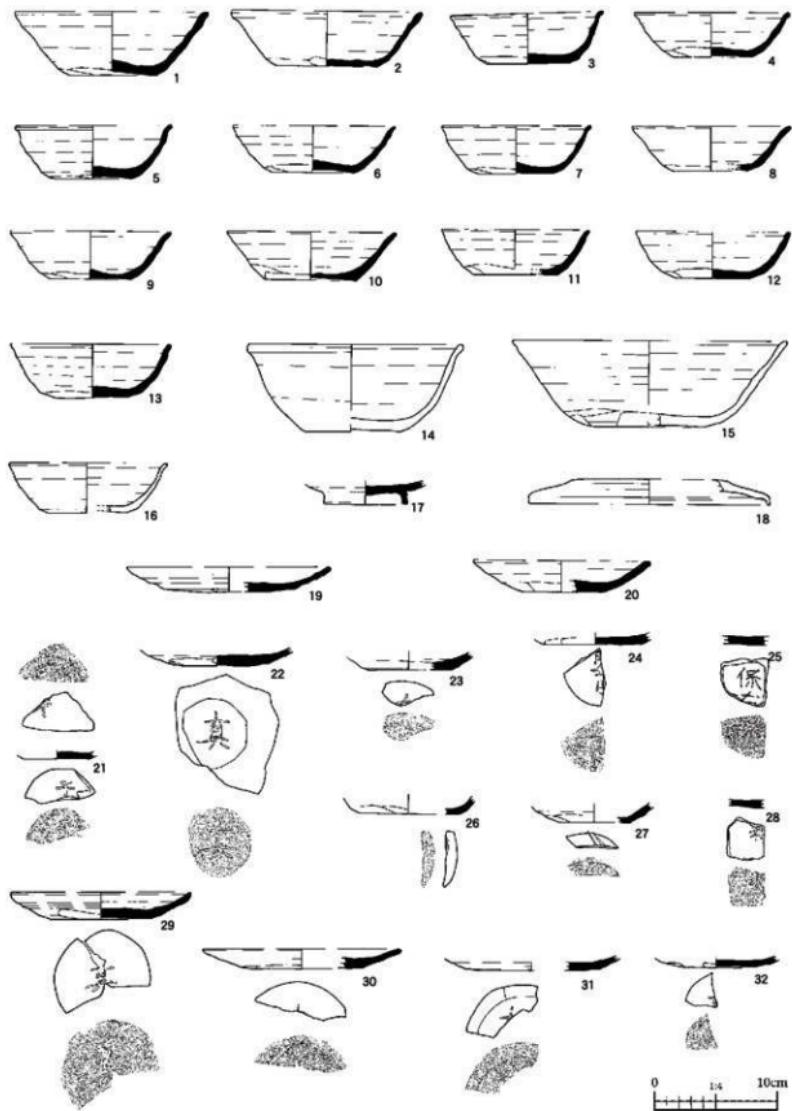
第132図 A-041出土遺物②



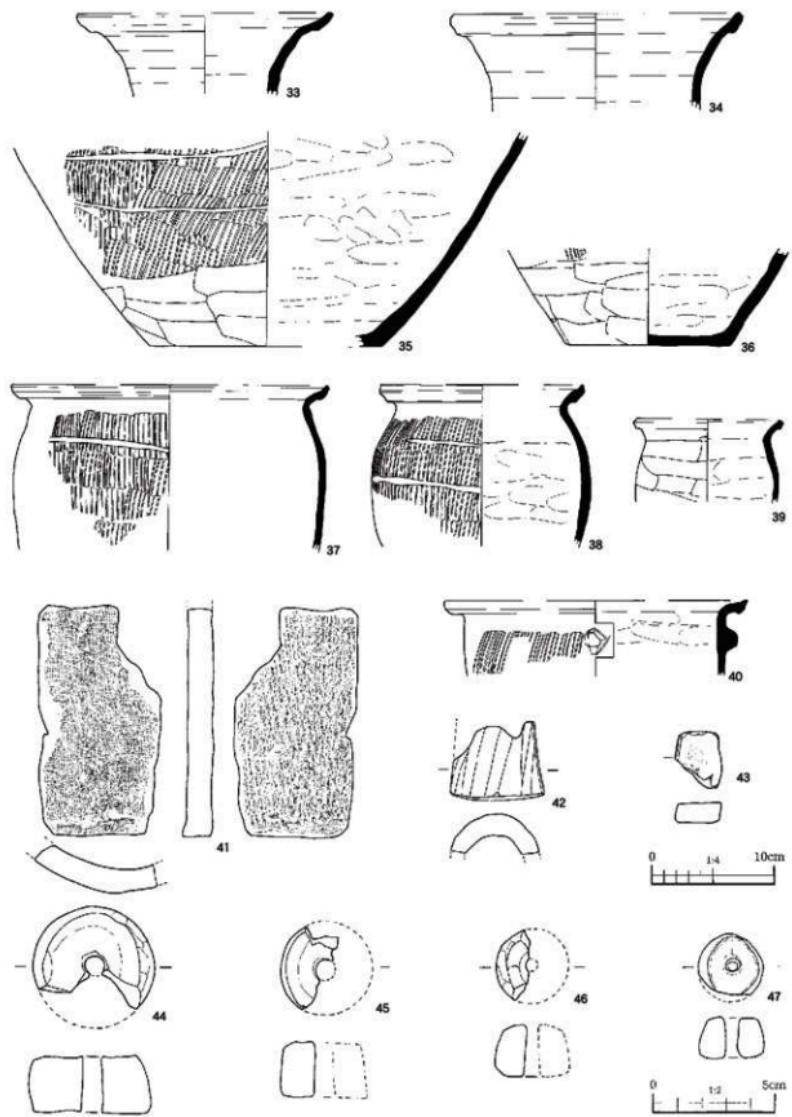
第133図 A-042出土遺物



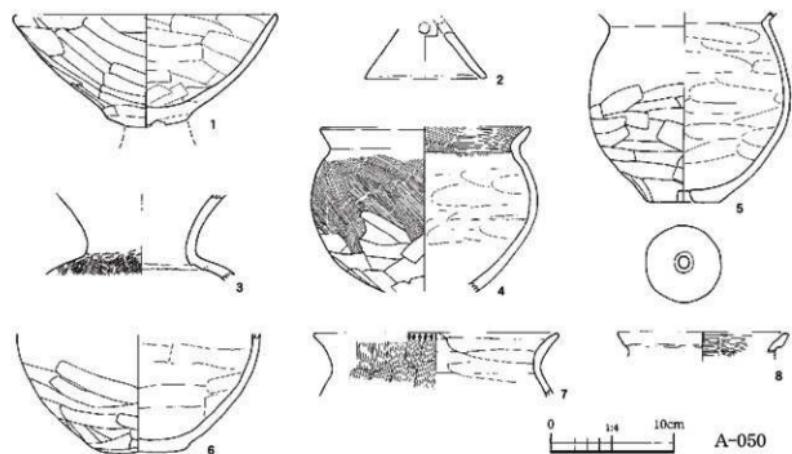
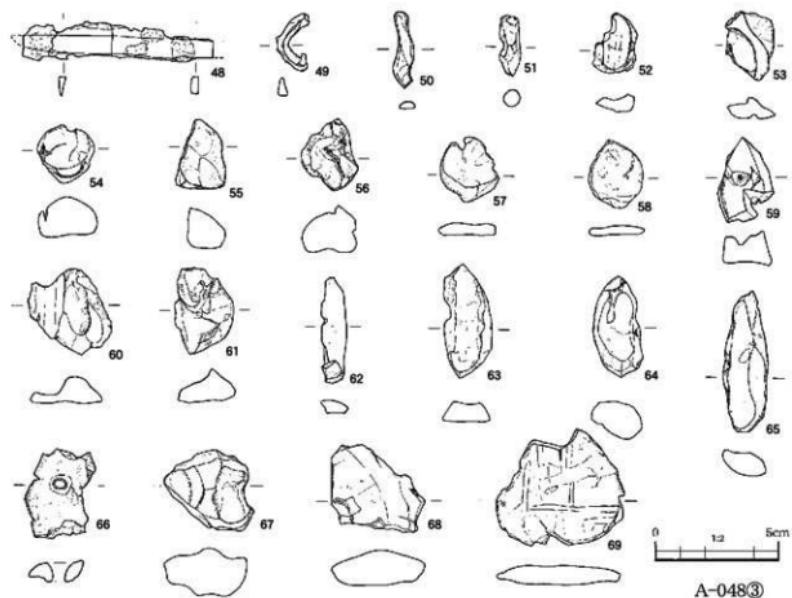
第134図 A-047出土遺物



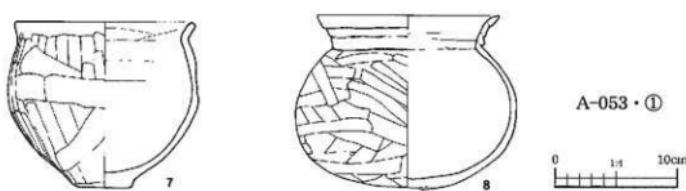
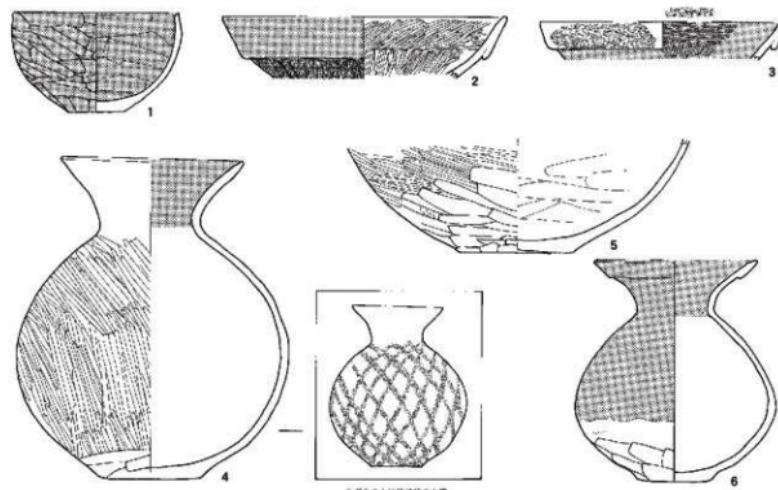
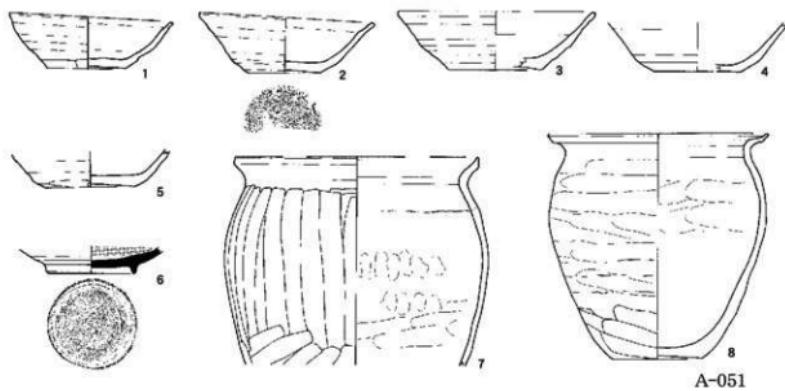
第135図 A-048出土遺物①



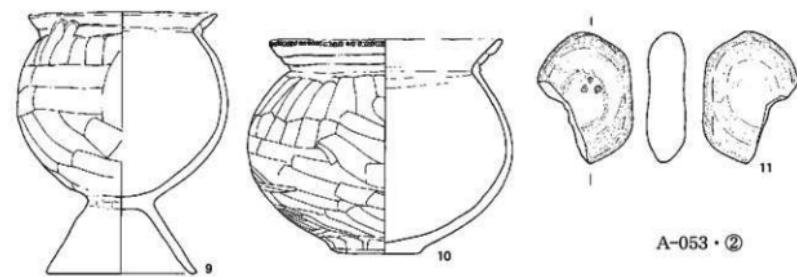
第136図 A-048出土遺物②



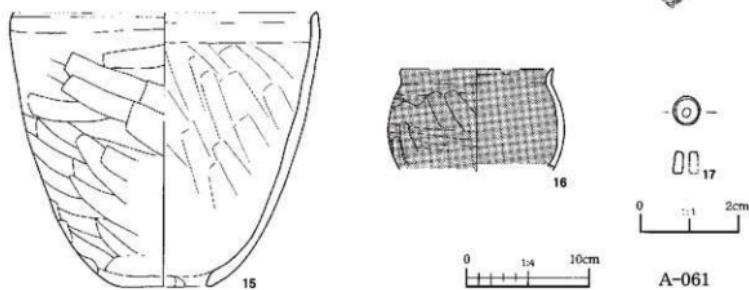
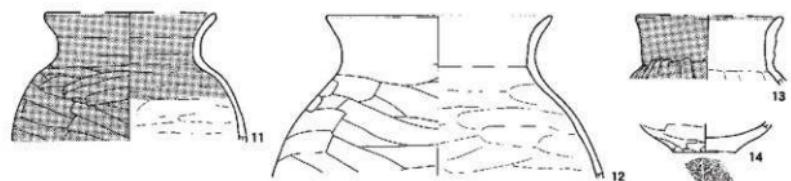
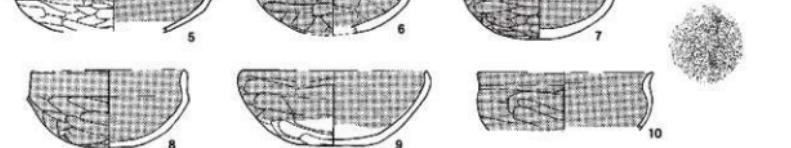
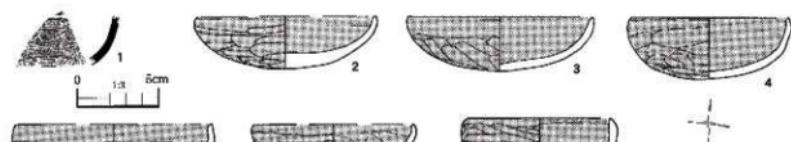
第137図 A-048③・050出土遺物



第138図 A-051・053①出土遺物

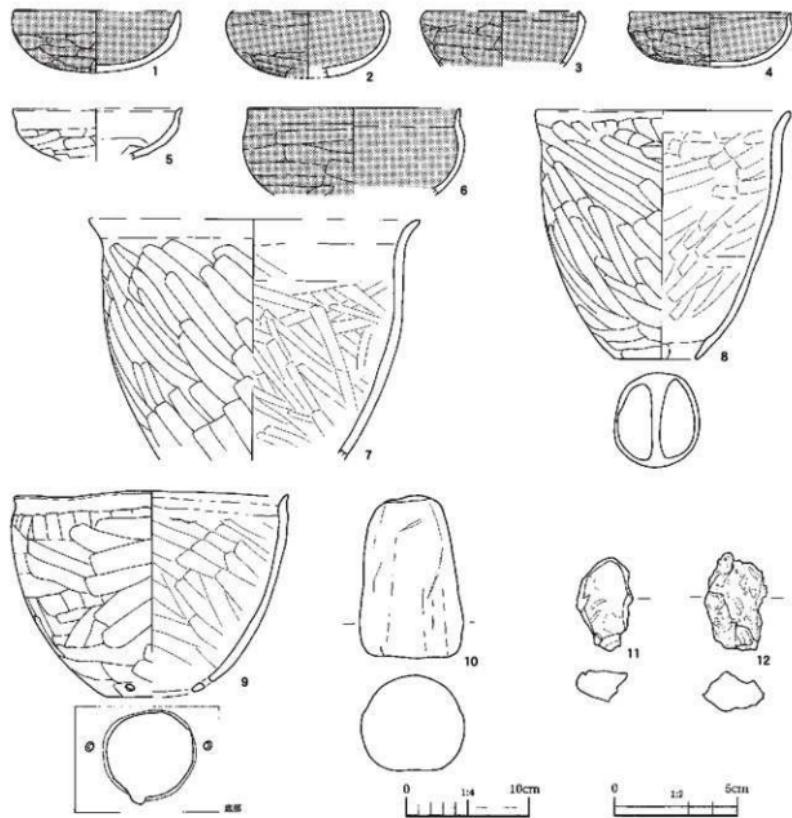


A-053 ②

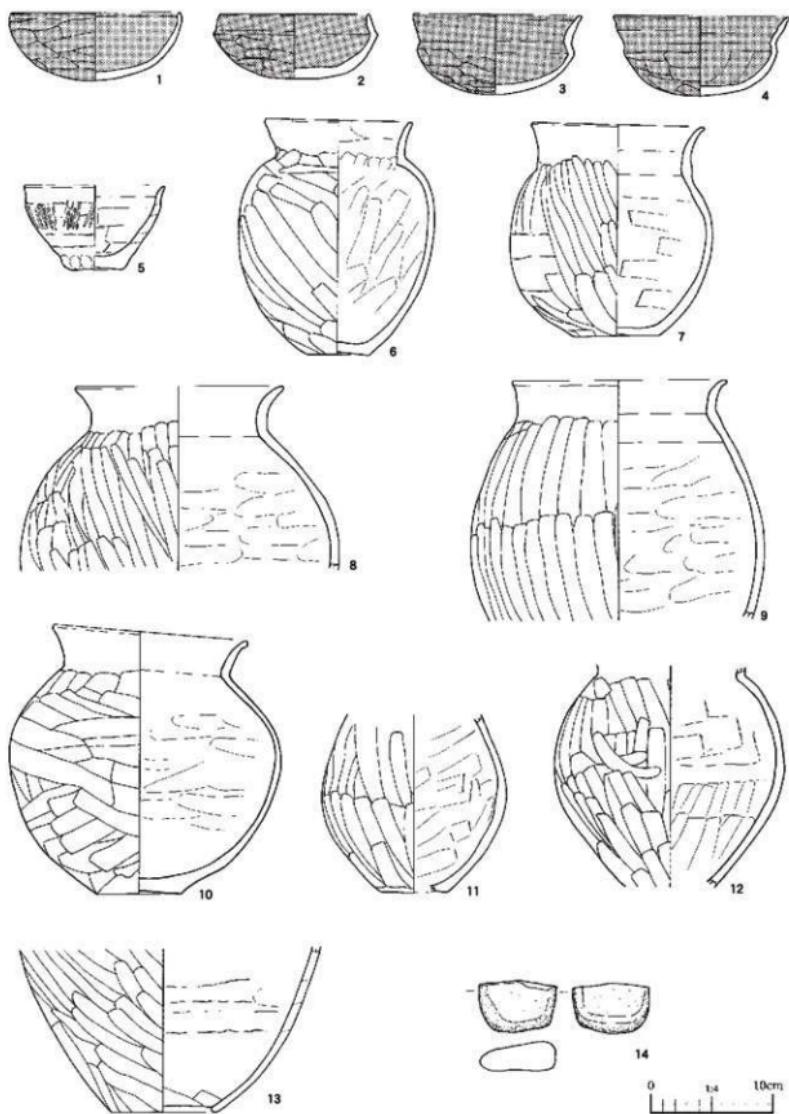


A-061

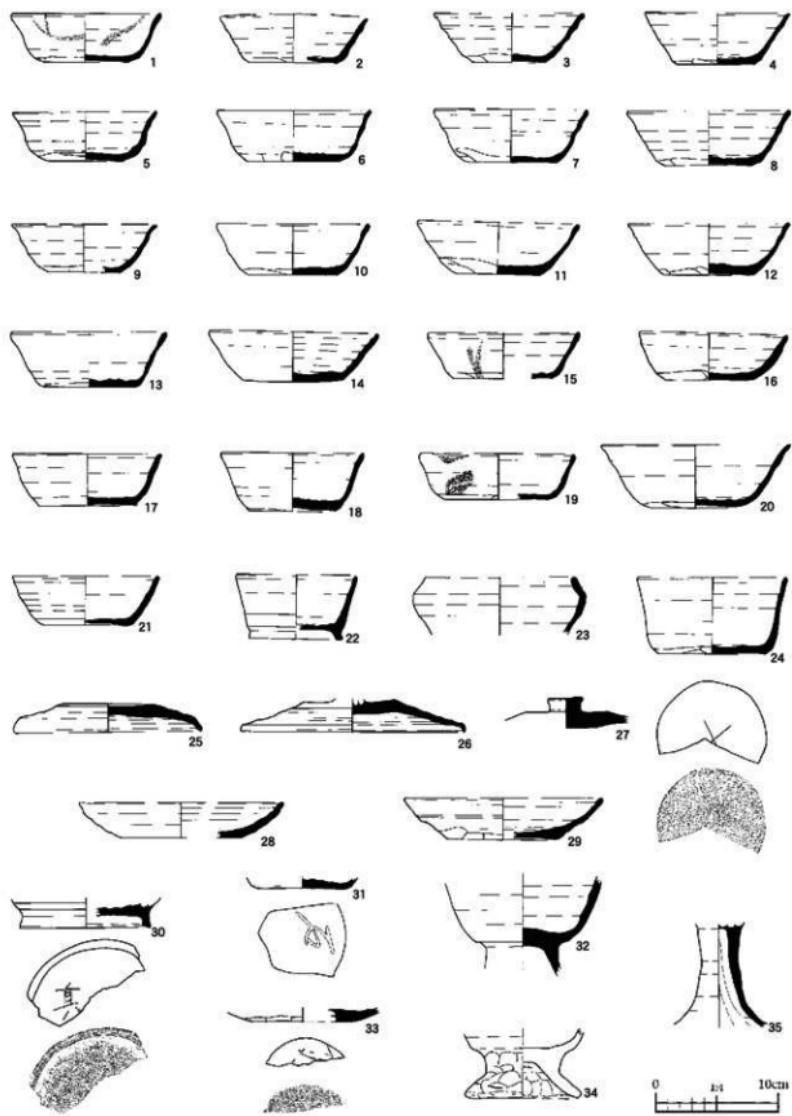
第139図 A-053②・061出土遺物



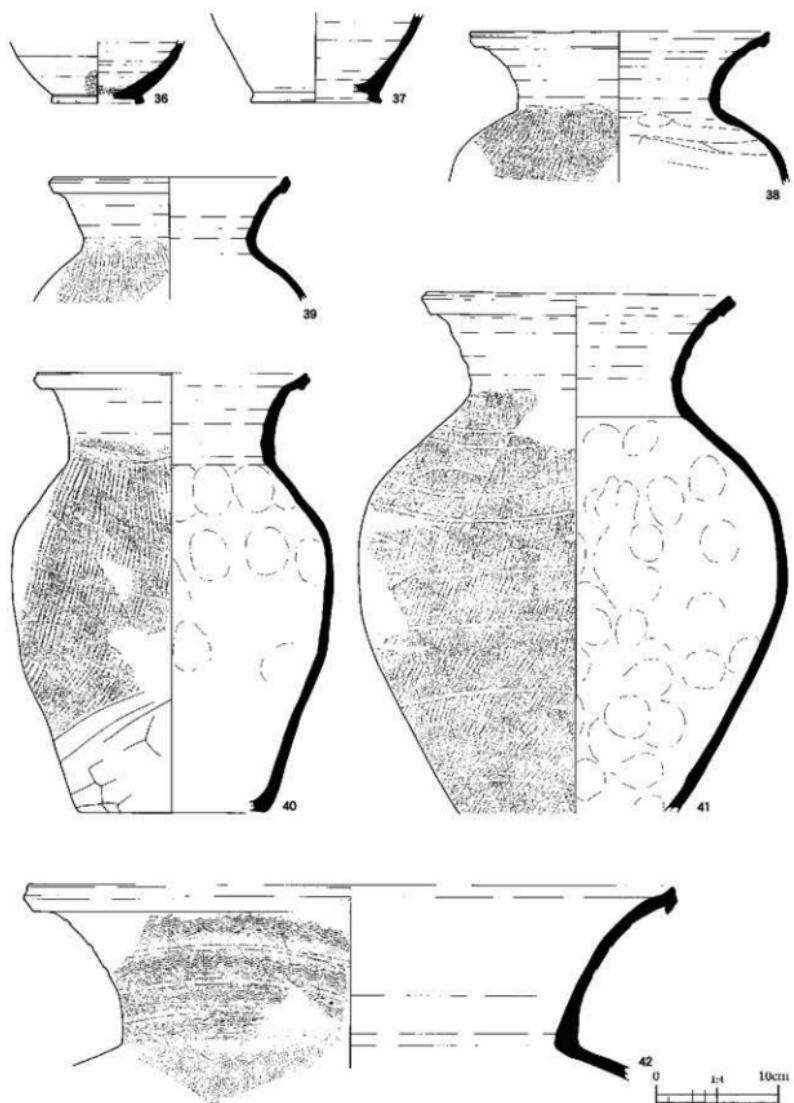
第140図 A-077出土遺物



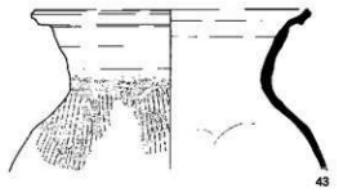
第141図 A-086出土遺物



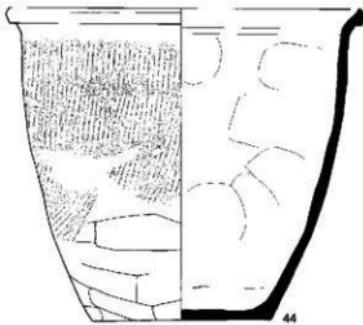
第142図 M-001出土遺物①



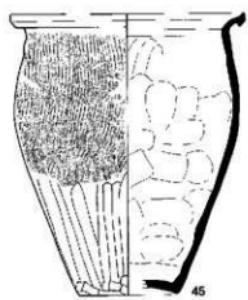
第143図 M-001出土遺物②



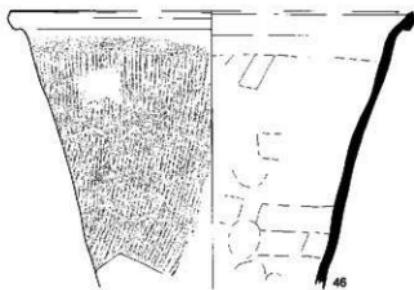
43



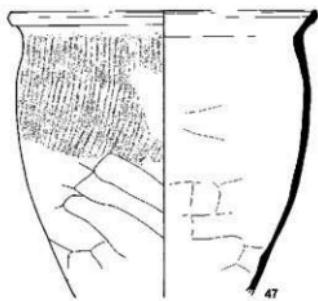
44



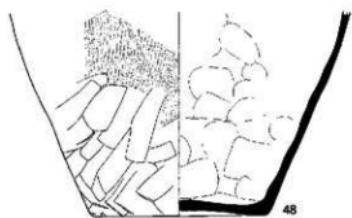
45



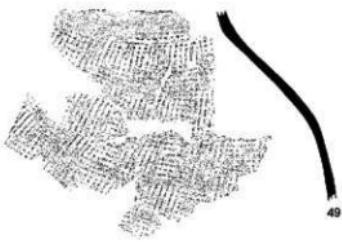
46



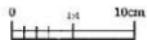
47



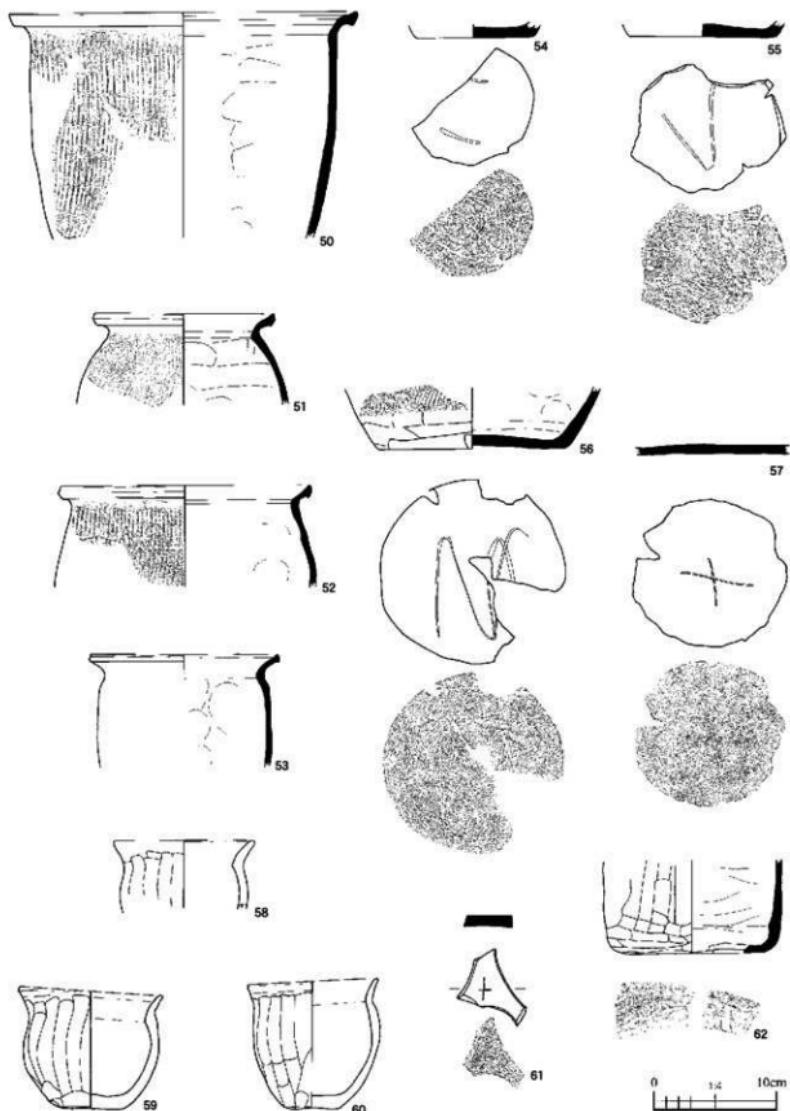
48



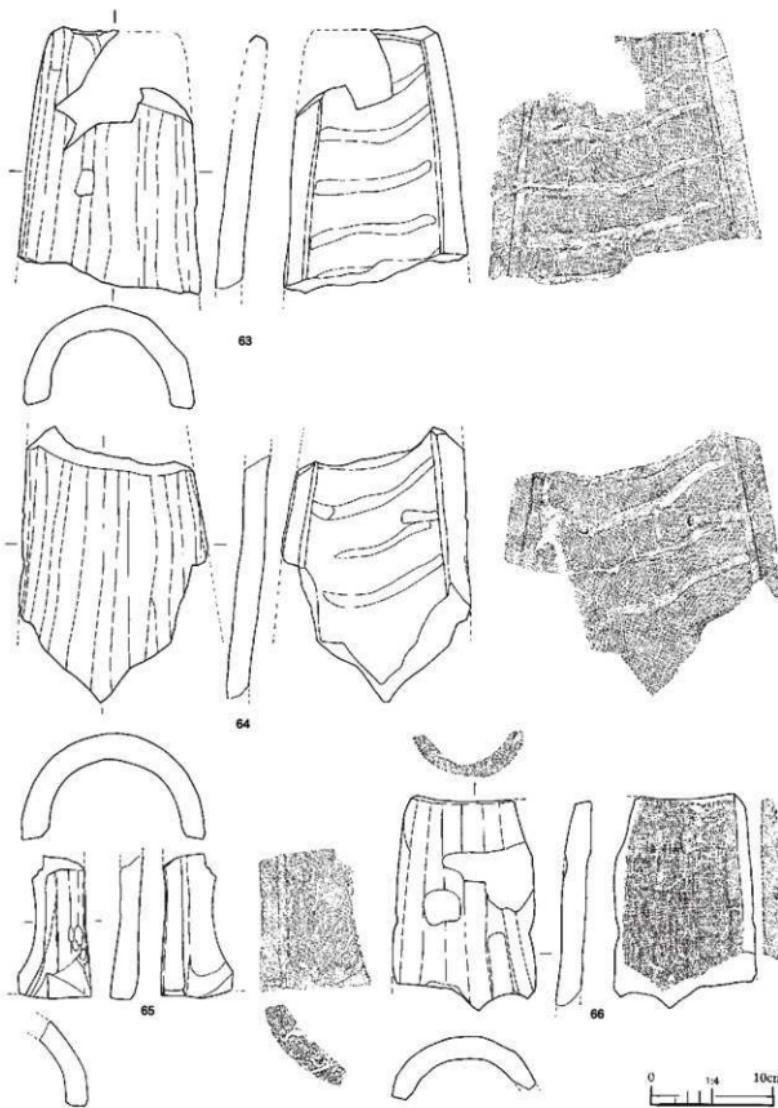
49



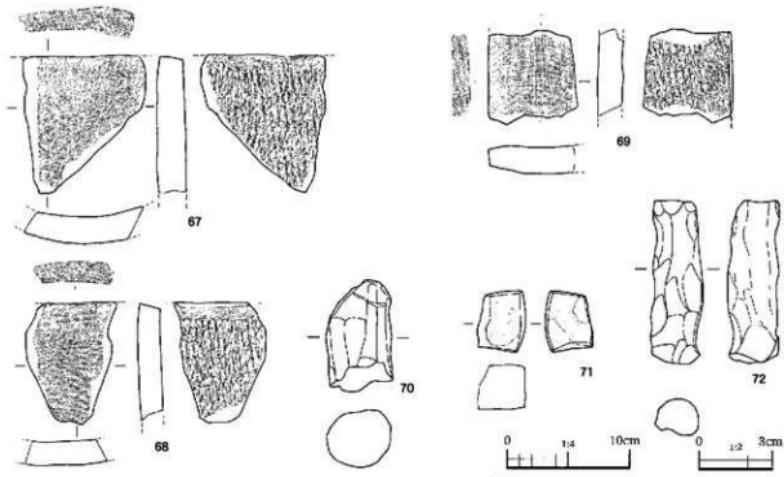
第144図 M-001出土遺物③



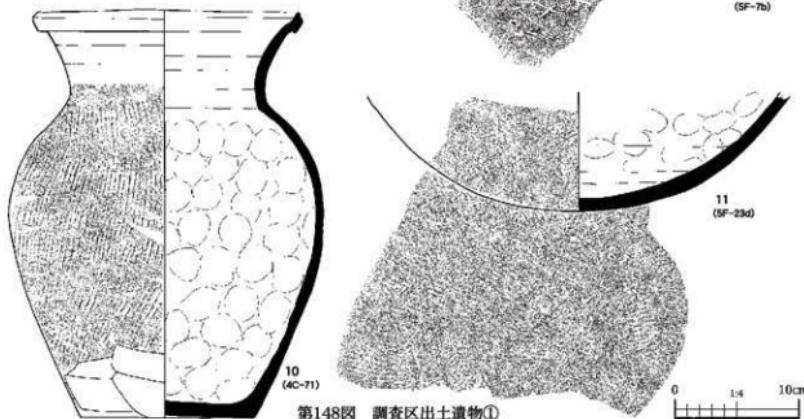
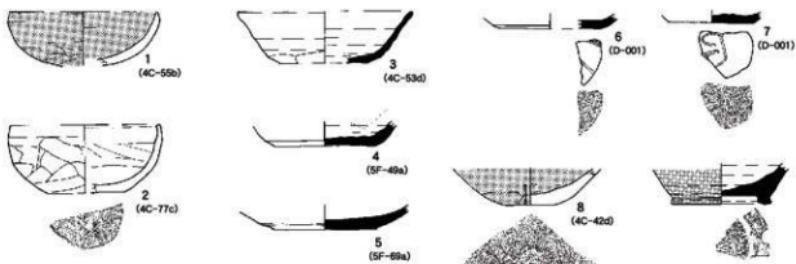
第145図 M-001出土遺物④



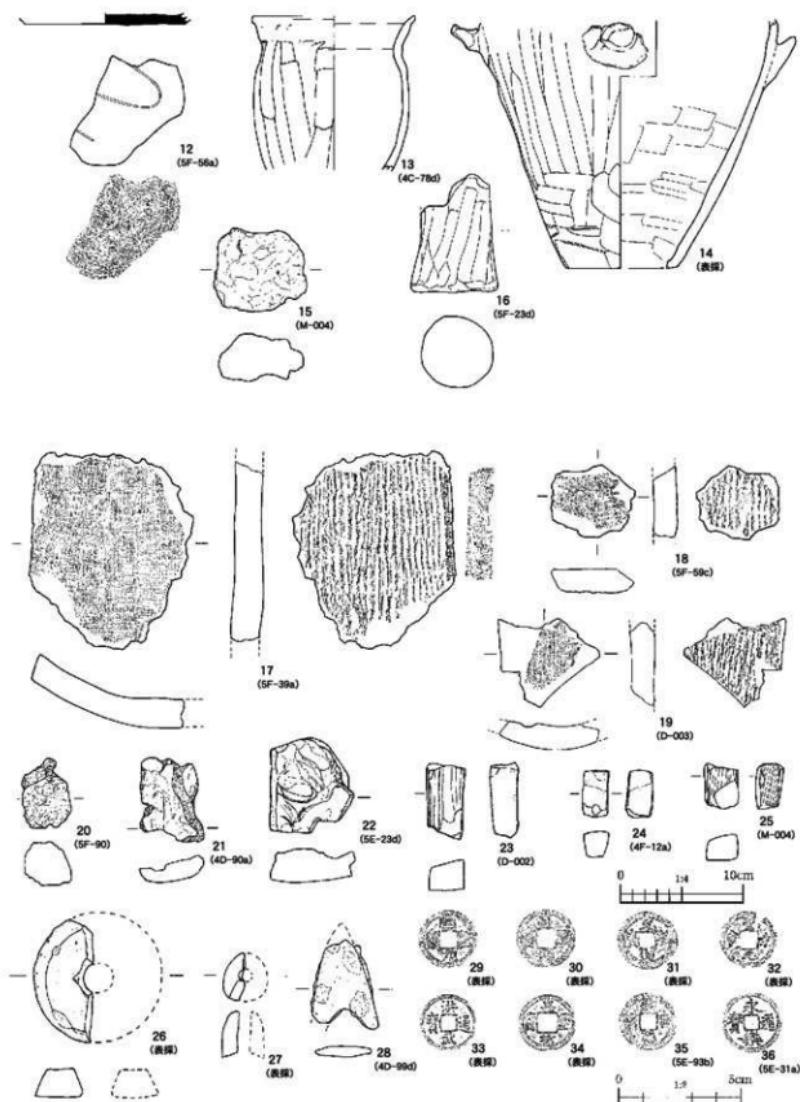
第146図 M-001出土遺物⑤



第147図 M-001出土遺物⑥



第148図 調査区出土遺物①



第149図 調査区出土遺物②

第27表 住居跡出土遺物計測表①

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 接 度
A-001	1	壺	須恵	口径 底径 高さ 11.2 7.3 3.8	1.53	SY5/1 灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-001	2	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.3 8.4 4.3	1.46	SYT/2 灰白色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	火摩	B
A-001	3	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.2 7.8 4.3	1.56	7.SY5/4 にぶい黄褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	重ね焼きの痕跡か?	C
A-001	4	壺	須恵	口径 底径 高さ (12.3) (8.0) 4.2	(1.77)	7.SYR4/6 褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	火摩	D
A-001	5	壺	須恵	口径 底径 高さ (11.6) (6.0) 4.2	(1.93)	10YR5/3 にぶい黄褐色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		E
A-001	6	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.8 8.0 4.5	1.60	10YR6/3 にぶい黄褐色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	火摩 重ね焼きの痕跡	A
A-001	7	甕	須恵	口径 底径 高さ (22.6) 13.0+ 4.0+		2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 タタキ		E
A-001	8	甕	須恵	口径 底径 高さ (19.8) 7.5+ 4.0+		10YR6/2 灰黃褐色	クロ整形 タタキ		E
A-001	9	甕	須恵	口径 底径 高さ — — 11.6+		10YR6/4 にぶい黄褐色	クロ整形 タタキ		E
A-001	10	甕	須恵	口径 底径 高さ (32.0) — 8.7+		2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 タタキ		D
A-001	11	砾石	凝灰岩	長 幅 厚 5.9 1.4 1.7				40.0g	
A-001	12	刀子	鉄製	長 幅 厚 6.1 2.0 0.2				8.1g	
A-001	13	刀子	鉄製	長 幅 厚 5.7 1.0 0.3				5.7g	
A-001	14	刀子	鉄製	長 幅 厚 7.1 1.2 0.5				7.2g	
A-001	15	刀子	鉄製	長 幅 厚 (7.4) 1.0 0.3				3.4g	
A-001	16	紡錘車	鉄製	長 幅 厚 22.0 0.7 5.0				57.9g	
A-003	1	壺	土師	口径 底径 高さ 13.8 5.8 4.9		2.SYR4/3 にぶい赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
A-003	2	壺	土師	口径 底径 高さ (12.8) 5.2 4.2	(1.78)	2.SYR5/2 明赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-003	3	壺	土師	口径 底径 高さ (14.0) 6.4 4.7	(2.19)	2.SYR4/6 赤褐色	クロ整形 静止糸切り後無調整		B
A-003	4	壺	土師	口径 底径 高さ (13.7) 6.4 4.5	(2.14)	SYR4/6 赤褐色	クロ整形 回転糸切り後無調整		B
A-003	5	壺	土師	口径 底径 高さ 14.6 6.8 4.8	2.15	SYR4/4 にぶい赤褐色	クロ整形 回転糸切り後無調整 付け高台		B
A-003	6	壺	土師	口径 底径 高さ — 7.0 2.8+	—	SYR4/4 にぶい赤褐色	クロ整形 回転糸切り後無調整	内面くすべ焼成 底部外山砂付着	E
A-003	7	高台付坪	土師	口径 底径 高さ 15.3 7.7 5.4	1.99	2.SYR4/4 にぶい赤褐色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		C
A-003	8	壺	土師	口径 底径 高さ — — —	—	SYR5/6 明赤褐色	クロ整形 墨書「口」	E	
A-003	9	壺	土師	口径 底径 高さ — 6.4 2.4+	—	SYR5/6 明赤褐色	クロ整形 静止糸切り後無調整	墨書「巾」	E
A-003	10	高台付碗	灰釉	口径 底径 高さ — 7.7 3.5+	—	2.SYR7/1 灰白色	クロ整形 回転糸切り後無調整	重ね焼きの痕跡 O-53 東海産	E
A-003	11	甕	須恵	口径 底径 高さ — 13.2 15.0+	—	2.SYR4/3 にぶい赤褐色	クロ整形 タタキヘラ削り	幅2.5~3.0cmのドーナツ 状高台風底部	E
A-003	12	甕	須恵	口径 底径 高さ (18.4) — 7.0+		2.SYR4/3 にぶい赤褐色	クロ整形 タタキ		E
A-003	13	甕	須恵	口径 底径 高さ (43.4) — 11.0+		2.SY4/1 黄灰色	クロ整形		E
A-003	14	甕	須恵	口径 底径 高さ — 10.6 6.8+		2.SYR4/4 にぶい赤褐色	クロ整形 ヘラ削り		E
A-003	15	甕	土師	口径 底径 高さ (24.4) — 26.7+		2.SYR4/6 赤褐色	クロ整形 ヘラ削り		E
A-003	16	甕	土師	口径 底径 高さ (12.0) 5.0 10.1		2.SYR4/3 にぶい赤褐色	クロ整形 ヘラ削り		E

第28表 住居跡出土遺物計測表②

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 接 度
A-003	17	甕	須恵	口径 底径 高 (19.7) — 7.6+	—	SY4/6 赤褐色	クロ整形 ヘラ削り		E
A-003	18	効鍊車	土師質	口径 底径 高 (12.8) — 4.0	—	SY5/6 明赤褐色		13.6g	D
A-004	1	壺	須恵	口径 底径 高 (12.8) 6.7 4.4	(1.91)	SY7/1 灰白色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		D
A-004	2	壺	須恵	口径 底径 高 (12.8) 5.5 4.2	2.33	SY5/1 灰白色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
A-004	3	壺	須恵	口径 底径 高 (13.2) 7.4 4.3	1.78	SY3/2 オリーブ黒色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	B
A-004	4	壺	須恵	口径 底径 高 (12.8) (7.4) 3.9	(1.68)	7.SY5/4 にぶい褐色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		D
A-004	5	壺	須恵	口径 底径 高 (12.8) 7.8 5.8	1.71	SY6/1 灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	B
A-004	6	壺	須恵	口径 底径 高 (14.4) 8.2 4.3	(1.76)	SY3/1 オリーブ黒色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	B
A-004	7	壺	須恵	口径 底径 高 (13.7) 7.5 4.4	1.91	10SY7/6 黄褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	C
A-004	8	壺	須恵	口径 底径 高 (12.4) 7.2 4.0	(1.72)	7.SY5/4 にぶい褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-004	9	壺	須恵	口径 底径 高 (12.0) 7.5 4.3	(1.56)	7.SY5/4 にぶい褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	底部附近の切り込み明瞭	E
A-004	10	壺	須恵	口径 底径 高 (13.8) 7.0 4.5	1.97	7.SY5/6 明赤褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	重ね焼きの痕跡	B
A-004	11	壺	須恵	口径 底径 高 (13.4) 7.4 4.2	(1.68)	2.SY6/6 明黃褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	貫通しない孔2ヶ有り	B
A-004	12	壺	須恵	口径 底径 高 (13.4) 7.9 5.2	1.70	SY7/1 灰白色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-004	13	壺	須恵	口径 底径 高 (13.7) 7.6 5.5	1.80	SY6/1 灰色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
A-004	14	壺	土師	口径 底径 高 (13.6) 6.5 4.4	(2.09)	7.SY5/6 明赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-004	15	壺	土師	口径 底径 高 (12.8) (8.0) 4.1	(1.60)	SY5/6 明赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-004	16	壺	土師	口径 底径 高 (12.0) 6.0 6.2	(1.71)	SY7/1 灰白色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-004	17	壺	土師	口径 底径 高 — 6.6 2.9+	—	SY4/6 赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-004	18	壺	土師	口径 底径 高 — 6.5 1.5+	—	10SY7/6 黄褐色	クロ整形 回転系切り	外面くすべ焼成	E
A-004	19	皿	土師	口径 底径 高 — 15.8 8.0 2.6	—	SY4/3 にぶい赤褐色		底部外面刻書「大」	C
A-004	20	高台付壺	須恵	口径 底径 高 — 8.4 1.8+	—	SY5/6 明赤褐色	クロ整形 内面ミガキ		C
A-004	21	蓋	須恵	口径 底径 高 — — 2.6+	—	SY7/1 灰白色	クロ整形 回転ヘラ削り		C
A-004	22	蓋	須恵	口径 底径 高 — 16.2 1.6+	—	SY3/1 オリーブ黒色		外面くすべ焼成	B
A-004	23	甕	須恵	口径 底径 高 (21.2) (14.0) 33.0	—	SY7/1 灰白色	クロ整形 タタキ ヘラ削り		C
A-004	24	甕	須恵	口径 底径 高 (23.4) — 9.0+	—	SY4/3 にぶい赤褐色	クロ整形 タタキ		E
A-004	25	甕	須恵	口径 底径 高 (26.4) — 10.8+	—	SY3/1 オリーブ黒色	クロ整形		E
A-004	26	甕	須恵	口径 底径 高 (24.2) 8.2+ —	—	7.SY5/4 にぶい褐色	クロ整形		E
A-004	27	甕	須恵	口径 底径 高 (24.2) — 16.3+	—	SY5/1 灰色	クロ整形 タタキ		B
A-004	28	甕	須恵	口径 底径 高 (20.8) (4.5) 27.0	—	SY7/1 灰白色	クロ整形 タタキ ヘラ削り		E
A-004	29	甕	須恵	口径 底径 高 (32.0) 14.0 65.8+	—	SY3/1 オリーブ黒色	クロ整形 タタキ ヘラ削り	在地座大甕	B
A-004	30	甕	須恵	口径 底径 高 — 26.8 14.0 25.6	—	SY4/3 にぶい赤褐色	クロ整形 ヨコタタキ ヘラ削り		C

第29表 住居跡出土遺物計測表③

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 高 度
A-004	31	甕	須恵	口径 (21.3) 底径 (12.0) 高さ 20.6	2. SYR5/6 明赤褐色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り	底部外面刻書 「乙」(記号力)	D	
A-004	32	甕	須恵	口径 (23.8) 底径 19.5+	SYR4/3 にぶい赤褐色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		E	
A-004	33	甕	土師	口径 (22.8) 底径 6.8+	SYR5/6 明赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		E	
A-004	34	甕	土師	口径 (20.6) 底径 4.7+	SYR5/6 明赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		E	
A-004	35	瓶	須恵	口径 — 底径 8.5+	SY3/2 オリーブ黒色	ロクロ整形 タタキ		E	
A-004	36	瓶	須恵	口径 (14.6) 底径 2.5+	SY5/1 灰色	ロクロ整形		E	
A-004	37	瓶	須恵	口径 (12.0) 底径 2.7+	7. SYR5/4 にぶい褐色	ロクロ整形		E	
A-004	38	瓶	須恵	口径 14.2 底径 12.4+	ST7/1 灰白色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		E	
A-004	39	支脚	土製	径厚 (3.6) — 17.3	2. SYR4/6 にぶい橙色		626.7g	B	
A-004	40	支脚	土製	径厚 (6.5) — 4.3+	2. SYR4/6 にぶい橙色		85.1g	E	
A-004	41	幼體車	須恵質 厚	径厚 (6.0) — 2.3	SY5/1 灰色		29.6g	B	
A-004	42	鍔	鉄製	長幅厚 18.9 2.5 0.4			76.8g		
A-004	43	鍔	鉄製	長幅厚 5.0 1.9 0.2			7.5g		
A-004	44	鍔	鉄製	長幅厚 10.6 2.0 0.2			13.5g		
A-004	45	鍔	鉄製	長幅厚 4.6 2.3 0.2			8.7g		
A-004	46	刀子	鉄製	長幅厚 12.2 0.9 0.3			12.0g		
A-004	47	刀子	鉄製	長幅厚 7.0 1.3 0.7			12.5g		
A-004	48	不明鉄製品	鉄製	長幅厚 2.6 0.4 0.4			2.3g		
A-004	49	手斧	鉄製	長幅厚 9.8 3.5 —			166.0g		
A-004	50	粘土片	土製	長幅厚 2.8 2.5 1.2	7. SYR4/4 褐色		1.7g		
A-004	51	粘土片	土製	長幅厚 2.0 2.2 0.8	7. SYR4/4 褐色		2.0g		
A-004	52	粘土片	土製	長幅厚 2.2 1.8 0.5	7. SYR4/4 褐色		2.0g		
A-004	53	粘土片	土製	長幅厚 4.5 4.7 0.7	7. SYR4/4 褐色		14.0g		
A-004	54	粘土片	土製	長幅厚 4.8 2.0 1.1	7. SYR4/4 褐色		8.0g		
A-004	55	粘土片	土製	長幅厚 2.1 2.4 0.7	7. SYR4/4 褐色		3.0g		
A-004	56	粘土片	土製	長幅厚 4.1 2.5 1.5	7. SYR4/4 褐色		11.0g		
A-004	57	粘土片	土製	長幅厚 3.0 2.0 0.7	7. SYR4/4 褐色		3.0g		
A-004	58	粘土片	土製	長幅厚 3.5 2.8 2.2	7. SYR4/4 褐色		12.0g		
A-004	59	鍔	青銅製	鍔径厚 2.6 0.6 0.1			萬年通寶1.7g		
A-005	1	环	須恵	口径 (12.0) 底径 (8.2) 高さ 3.5	2. SYR5/2 暗灰褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ヘラ削り	火葬	D	
A-005	2	环	須恵	口径 (12.6) 底径 (8.0) 高さ 3.7+	SY5/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	火葬	C	
A-005	3	环	須恵	口径 (13.4) 底径 (9.8) 高さ 4.1	2. SYT7/3 浅黄色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		D	

第30表 住居跡出土遺物計測表④

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 接 度
A-005	4	甕	須恵	口径 底径 高さ 5.6+	(21.6) — —	SY5/1 灰色	ロクロ整形	雲母 常陸産	E
A-005	5	甕	土師	口径 底径 高さ 20.3+	21.1 — —	SYR5/6 暗赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		D
A-005	6	甕	土師	口径 底径 高さ 8.7+	(20.8) — —	SYR5/6 暗赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		E
A-005	7	刀子	鉄製	長 幅 厚 0.7 0.4	14.0 — —			7.9g	
A-008	1	甕	須恵	口径 底径 高さ 22.2+	(18.0) — —	7.SYR5/6 橙色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		D
A-008	2	甕	須恵	口径 底径 高さ 3.3+	(21.8) — —	SYR4/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 タタキ		E
A-008	3	甕	須恵	口径 底径 高さ 17.8+	— — —	SYR4/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		E
A-009	1	甕	土師	口径 底径 高さ 15.1	14.8 — —	SYR4/6 赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		D
A-009	2	甕	須恵	口径 底径 高さ 7.8+	(21.6) — —	SYR4/6 赤褐色	ロクロ整形		E
A-009	3	甕	土師	口径 底径 高さ 7.9+	(22.4) — —	SYR4/6 赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		E
A-009	4	支脚	土製	径 高さ 9.8+	5.6 —	7.SYR6/4 にぶい橙色		290.0g	D
A-011	1	壺	須恵	口径 底径 高さ 3.7	12.3 6.5 —	SY6/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
A-011	2	壺	土師	口径 底径 高さ 4.2	(12.0) 6.0 —	(2.17) SYR5/6 明赤褐色	ロクロ整形 回転系切り後無調整		D
A-011	3	壺	土師	口径 底径 高さ 4.2	(12.8) 7.0 —	SYR5/6 明赤褐色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		D
A-011	4	高台付壺	須恵	口径 底径 高さ 6.8	(18.2) 8.8 —	SYR4/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り後付け高台		B
A-011	5	壺	須恵	口径 底径 高さ 7.4	18.0 8.4 —	2.14 SYR5/6 明赤褐色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	内墨	B
A-011	6	甕	須恵	口径 底径 高さ 32.0+	— — —	SYR5/6 明赤褐色	非ロクロ整形		C
A-011	7	短頸甕	須恵	口径 底径 高さ 21.0+	(15.6) — —	SYR5/6 明赤褐色	ロクロ整形 タタキ		E
A-011	8	甕	土師	口径 底径 高さ 11.4	12.6 6.3 —	SYR4/4 にぶい赤褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り 底部静止系切り		B
A-011	9	甕	土師	口径 底径 高さ 22.0+	— — —	SYR5/6 明赤褐色	非ロクロ整形		E
A-011	10	甕	須恵	口径 底径 高さ 40.0+	31.0 — —	SY6/1 灰白色	ロクロ整形 タタキ	波状文 自然輪 東海産	C
A-012	1	壺	須恵	口径 底径 高さ 3.5	11.2 6.5 —	1.72 SY6/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り		B
A-012	2	壺	須恵	口径 底径 高さ 3.8	(13.3) 8.0 —	(1.66) SY6/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り		D
A-012	3	皿	土師	口径 底径 高さ 1.5	(15.3) 7.0 —	(2.26) SYR5/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「大」	B
A-012	4	蓋	土師	口径 底径 高さ 3.0	15.4 7.5 —	SYR6/8 橙色	ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り		A
A-012	5	甕	須恵	口径 底径 高さ 29.1+	21.8 — —	SYR5/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 タタキ		B
A-012	6	甕	須恵	口径 底径 高さ 8.6+	(22.0) — —	SY6/1 灰色	ロクロ整形		E
A-012	7	甕	須恵	口径 底径 高さ 45.5+	— — —	10YR4/3 にぶい黄褐色	ロクロ整形 タタキ	丸底	E
A-012	8	甕	須恵	口径 底径 高さ 17.5+	(8.0) — —	SYR5/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 タタキ	底部外面刻書「口」 (記号力)	E
A-012	9	盤鉢	鉄製	長 幅 厚 0.3	3.7 2.6 —			7.8g	
A-018	1	高壺	土師	口径 底径 高さ 3.3+	(12.6) — —	7.SYR6/4 にぶい橙色	ナデ	内外面赤彩	E
A-018	2	高壺	土師	口径 底径 高さ —	— — —	10YR6/4 にぶい黄褐色	ナデ 内面ミガキ	内外面赤彩	E

第31表 住居跡出土遺物計測表⑤

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 接 度
A-018	3	器台	土師	口径 底径 高さ — — 4.1+	—	10YR6/4 にぶい黄褐色	外面ミガキ		E
A-018	4	台付甕	土師	口径 底径 高さ — (5.7) 13.5+	— — 4.1+	7.SYR6/4 にぶい黄褐色	外面ヘラ削り		E
A-018	5	器台	土師	口径 底径 高さ — — 4.1+	—	7.SYR6/4 にぶい黄褐色	外面ミガキ	外面赤影	E
A-018	6	甕	土師	口径 底径 高さ — — 4.7+	—	10YR5/4 にぶい黄褐色	内外面ミガキ		E
A-018	7	甕	土師	口径 底径 高さ — — —	—	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗いヘラナダ 口縁刻み目		E
A-018	8	甕	土師	口径 底径 高さ — — —	—	7.SYR6/4 にぶい橙色			E
A-018	9	甕	土師	口径 底径 高さ — — —	—	7.SYR6/4 にぶい橙色		外面赤影	E
A-032	1	壺	須恵	口径 底径 高さ 15.7 9.0 5.2	1.74	SY5/1 灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-032	2	壺	須恵	口径 底径 高さ (13.0) 7.0 4.3	(1.86)	SY5/1 灰色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-032	3	甕か瓶	須恵	口径 底径 高さ (27.8) — 14.5+	—	2.SYR6/3 にぶい黄色	クロ整形 タタキ		E
A-032	4	甕か瓶	須恵	口径 底径 高さ (26.6) — 15.0+	—	SYR5/3 にぶい赤褐色	クロ整形 タタキ		E
A-032	5	甕	須恵	口径 底径 高さ 16.4 — 25.5+	—	SYR5/3 にぶい赤褐色	クロ整形 タタキ ヘラ削り		C
A-032	6	甕	須恵	口径 底径 高さ (27.0) (15.7) 24.2	—	SY7/1 灰白色	クロ整形 ヨコタタキ ヘラ削り		E
A-041	1	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.6 8.0 3.8	1.58	2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	B
A-041	2	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.8 6.5 4.3	2.06	2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
A-041	3	壺	須恵	口径 底径 高さ (14.2) (8.0) 3.5	(1.61)	2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-041	4	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.0 7.7 3.9	1.56	SYR6/8 褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後回転ヘラ削り		B
A-041	5	壺	須恵	口径 底径 高さ (12.9) (8.0) 3.9	(1.90)	2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	E
A-041	6	壺	須恵	口径 底径 高さ 12.8 7.4 4.1	1.73	2.SY3/1 黒褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成	A
A-041	7	壺	須恵	口径 底径 高さ (11.1) 7.3 4.5	(1.67)	2.SYR5/6 明赤褐色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		E
A-041	8	壺	土師	口径 底径 高さ (14.0) (7.0) 6.6	(2.00)	10YR6/3 にぶい黄褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-041	9	壺	土師	口径 底径 高さ — 6.4 4.2	1.83	2.SYR5/6 明赤褐色	非クロ整形 手持ちヘラ削り	煤付着	B
A-041	10	鉢	須恵	口径 底径 高さ 15.0 — 5.8	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	非クロ整形 手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成 鉄錆型	B
A-041	11	高台	須恵	口径 底径 高さ — 7.4 1.2+	—	2.SY3/1 黒褐色	底部接合板	外面くすべ焼成	E
A-041	12	高台付壺	須恵	口径 底径 高さ — (7.8) 2.5+	—	2.SY5/1 黄灰色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	外面くすべ焼成	E
A-041	13	甕	須恵	口径 底径 高さ (17.8) (8.2) 3.1	—	2.SY6/1 黄灰色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	外面くすべ焼成 天井部外側削り〔記号カ〕	E
A-041	14	甕	須恵	口径 底径 高さ 17.0 — 17.0+	—	10YR7/1 灰白色	クロ整形 タタキ		E
A-041	15	甕	須恵	口径 底径 高さ (20.0) — 11.5+	—	2.SYR5/6 明赤褐色	クロ整形 タタキ ヘラ削り		E
A-041	16	甕	須恵	口径 底径 高さ — 14.8 20.8	—	10YR6/3 にぶい黄褐色	クロ整形 タタキ ヘラ削り		E
A-041	17	甕	須恵	口径 底径 高さ (21.5) — 19.3+	—	2.SYR5/6 明赤褐色	クロ整形 タタキ		E
A-041	18	甕	須恵	口径 底径 高さ — (18.8) 19.8+	—	10YR7/1 灰白色	クロ整形 タタキ		E
A-041	19	甕	須恵	口径 底径 高さ (21.4) — 17.3+	—	2.SYR5/6 明赤褐色	クロ整形 タタキ ヘラ削り		D

第32表 住居跡出土遺物計測表④

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 接 度
A-041	20	瓶	須恵	口径 底径 高 20.5+	13.0 20.5+	10YR6/3 にぶい黄褐色	クロ彫形 タタキ ヘラ削り		E
A-041	21	瓶	須恵	口径 底径 高 —	(30.6) 7.0+	2.5Y6/4 にぶい黄色	クロ彫形 タタキ	内面につまみ痕	E
A-041	22	瓶	須恵	口径 底径 高 —	— —	10YR6/3 にぶい黄褐色			E
A-041	23	紡錘車	土製	口径 底径 厚 (5.6) 0.7 1.1	— — —	2.5YR5/6 明赤褐色		17.3g	
A-041	24	鉄製品	鉄製	長 幅 厚 12.0 1.0 0.7				83.0g	
A-041	25	紡錘車	鉄製	口径 底径 厚 3.5 4.1 0.2				7.2g	
A-041	26	帶金具	青銅製	口径 底径 厚 3.4 3.4 0.1				7.7g	
A-042	1	坏	須恵	口径 底径 高 12.6 8.4 4.1	1.50	10YR5/3 にぶい黄褐色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		E
A-042	2	坏	須恵	口径 底径 高 13.4 8.4 4.0	1.60	5Y6/2 灰オリーブ色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		E
A-042	3	坏	須恵	口径 底径 高 12.8 8.1 4.1	1.58	5Y6/1 灰色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		E
A-042	4	坏	須恵	口径 底径 高 12.2 7.6 4.0	1.58	5Y6/2 灰オリーブ色	クロ彫形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-042	5	坏	須恵	口径 底径 高 13.6 8.4 4.1	1.92	10YR5/3 にぶい黄褐色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		E
A-042	6	坏	須恵	口径 底径 高 11.8 6.9 4.1	1.87	5Y6/2 灰オリーブ色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		C
A-042	7	坏	須恵	口径 底径 高 (12.1) (7.2) 4.0	(1.68)	10YR5/3 にぶい黄褐色	クロ彫形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-042	8	坏	須恵	口径 底径 高 (13.1) (8.4) 4.0	(1.50)	5Y6/1 灰色	クロ彫形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-042	9	高台付坏	土師	口径 底径 高 (15.6) (10.2) 7.5	(1.90)	7.5YR6/8 橙色	クロ彫形		E
A-042	10	高台付皿	土師	口径 底径 高 (15.2) (6.8) 3.0	(2.24)	7.5YR6/8 橙色	クロ彫形 切り離し不明回転ヘラ削り		E
A-042	11	長頸瓶	灰釉	口径 底径 高 (14.0) (9.2) —		5Y7/1 灰白色	クロ彫形	東海産	E
A-042	12	甕	須恵	口径 底径 高 (21.0) — 7.7+		7.5YR6/4 にぶい褐色	クロ彫形		E
A-042	13	短頸甕	須恵	口径 底径 高 (14.7) — 5.0+		5Y6/1 灰色		雲母 常陸産	E
A-042	14	甕	須恵	口径 底径 高 — 11.7+	10YR5/3 11.7+	にぶい黄褐色	クロ彫形 タタキ ヘラ削り		E
A-042	15	甕	土師	口径 底径 高 (20.6) — 9.2+		10YR5/4 にぶい褐色	非クロ彫形 ヘラ削り	輪積み痕	E
A-042	16	甕	土師	口径 底径 高 14.3 — 9.2+		10YR5/3 にぶい黄褐色	非クロ彫形 ヘラ削り	雲母を含む 常陸型(常陸産)	E
A-042	17	瓶	須恵	口径 底径 高 — — —		10YR5/3 にぶい黄褐色			E
A-042	18	磨石	輝緑岩	— — —				405.0g	
A-042	19	鉄製品	鉄製	口径 底径 厚 6.4+ 0.3 0.3				棒状2.4g	
A-047	1	坏	須恵	口径 底径 高 12.8 6.3 4.1	2.03	5Y5/1 灰色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		E
A-047	2	坏	須恵	口径 底径 高 11.9 5.8 4.3	2.05	5YR6/2 灰褐色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		E
A-047	3	坏	須恵	口径 底径 高 (13.3) (6.5) 4.1	(2.05)	5Y3/1 オリーブ黒色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	内外面くすべ焼成	E
A-047	4	坏	須恵	口径 底径 高 12.3 6.2 3.4	1.98	10YR6/2 灰黃褐色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		A
A-047	5	坏	須恵	口径 底径 高 13.0 7.7 3.2	1.81	5Y4/1 灰色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	歪み激しい	A
A-047	6	坏	須恵	口径 底径 高 (12.7) (6.4) 3.9	(1.98)	5Y3/1 オリーブ黒色	クロ彫形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	内外面くすべ焼成	E

第33表 住居跡出土遺物計測表⑦

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 接 度
A-047	7	壺	須恵	口径 底径 高 13.3 7.3 4.9	1.82	10YR6/2 灰黃褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		A
A-047	8	壺	土師	口径 底径 高 12.7 6.3 4.5	2.02	SYR6/2 灰褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
A-047	9	壺	土師	口径 底径 高 12.8 6.4 4.2	2.00	SYR6/2 灰褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-047	10	壺	土師	口径 底径 高 (13.0) (7.5) 4.1	(1.93)	SYR4/6 赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-047	11	壺	土師	口径 底径 高 (14.1) (8.2) 3.8	(1.72)	SYR4/6 赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-047	12	皿	須恵	口径 底径 高 (16.3) (6.9) 2.6		SYR4/6 赤褐色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「神」 底部内面刻印「記号カ」	D
A-047	13	甕	須恵	口径 底径 高 13.8 8.45 3.8		10YR6/2 灰黃褐色	クロ整形 タキヘラ削り	底部外面刻書「千」	E
A-047	14	甕	須恵	口径 底径 高 (14.6) (7.5) 7.1+		SYR4/6 赤褐色	クロ整形 ナゲのみ		E
A-047	15	支脚	土製	径 高 5.3+		SYR4/6 赤褐色		99.0g	E
A-047	16	劫鍊車	須恵 孔様 厚	6.0 0.8 2.0		10YR6/2 灰黃褐色		60.0g	C
A-047	17	鍊	鉄製	11.4 2.8 0.3				34.5g	
A-047	18	鉄製品	鉄製	2.2 1.2 1.2				4.8g	
A-048	1	壺	須恵	口径 底径 高 (13.0) (6.9) 5.1	(2.25)	10YR4/2 灰黃褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	2	壺	須恵	口径 底径 高 15.3 8.0 4.5	1.91	10YR4/2 灰黃褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	3	壺	須恵	口径 底径 高 (12.9) (6.2) 4.2	1.82	SY3/1 オリーブ黒色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	内外くすべ焼成	B
A-048	4	壺	須恵	口径 底径 高 (12.5) (6.0) 3.7	(1.98)	SY6/1 灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	5	壺	須恵	口径 底径 高 (12.6) (6.0) 4.3	2.10	10YR4/2 灰黃褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	6	壺	須恵	口径 底径 高 (13.2) (6.6) 3.8	(2.00)	SY3/1 オリーブ黒色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	内外くすべ焼成	E
A-048	7	壺	須恵	口径 底径 高 (12.0) (6.0) 3.9	2.00	SY4/1 灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	8	壺	須恵	口径 底径 高 (12.3) (6.3) 3.7	(1.98)	SY4/1 灰色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-048	9	壺	須恵	口径 底径 高 (12.9) (6.6) 3.9	(1.95)	SY4/1 灰色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	10	壺	須恵	口径 底径 高 (13.6) (6.5) 3.9	1.81	SY7/1 灰白色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	11	壺	須恵	口径 底径 高 (11.8) (6.7) 3.6	(1.76)	SY3/1 オリーブ黒色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	内外くすべ焼成	E
A-048	12	壺	須恵	口径 底径 高 (12.3) (6.0) 3.8	(2.07)	2.5SY5/2 暗灰黄色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	13	壺	須恵	口径 底径 高 12.8 6.0 4.5	2.13	SYR4/4 にふい赤褐色	クロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B
A-048	14	壺	土師	口径 底径 高 17.3 7.8 7.2	2.22	SYR4/4 にふい赤褐色	クロ整形		B
A-048	15	壺	土師	口径 底径 高 (22.4) (9.2) 7.0	(2.36)	7.5SY6/6 燈色	クロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り		E
A-048	16	壺	土師	口径 底径 高 (12.8) (6.3) 4.0	(2.03)	SY7/1 灰白色	クロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-048	17	高台付壺	須恵	口径 底径 高 — 1.94 —		SY3/1 オリーブ黒色		外面くすべ焼成	E
A-048	18	皿	土師	口径 底径 高 (19.6) — 2.0		7.5SY6/6 燈色			E
A-048	19	皿	須恵	口径 底径 高 (16.4) (6.0) 2.0		SY4/1 灰色	クロ整形		B
A-048	20	皿	須恵	口径 底径 高 (14.6) (6.6) 2.5		SY4/1 灰色			E

第34表 住居跡出土遺物計測表⑧

造形名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	渡 存度
A-048	21	坪	須恵	口徑 底径 高さ (6.0) 0.6+ -0.4	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形	底部内外面刻書「千」 外面くすべ焼成	E	
A-048	22	坪	須恵	口徑 底径 高さ 5.6 1.5+ -0.5	7.5YR6/6 橙色	ロクロ整形 手持ちヘラ削り	底部外面刻書「真」	E	
A-048	23	坪	須恵	口徑 底径 高さ (7.4) 1.4+ -0.4	7.5YR6/6 橙色	ロクロ整形	底部外面刻書「口」(真力)	E	
A-048	24	坪	須恵	口徑 底径 高さ (8.0) 1.0+ -0.4	5Y4/1 灰色	ロクロ整形	底部外面刻書「真口」	E	
A-048	25	坪	須恵	口徑 底径 高さ — — —	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形	底部外面刻書「保口」	E	
A-048	26	坪	須恵	口徑 底径 高さ (6.0) 1.7+ -0.4	5Y7/1 灰白色		底部外面刻書「口」(記号力) 外面くすべ焼成	E	
A-048	27	坪	須恵	口徑 底径 高さ (8.0) 1.6+ -0.4	10YR4/2 灰黄褐色		底部外面刻書「=」(記号力)	E	
A-048	28	坪	須恵	口徑 底径 高さ — — —	5Y3/1 オリーブ黒色		外面くすべ焼成 底部外面刻書「口」(真力)	E	
A-048	29	皿	須恵	口徑 底径 高さ (14.5) 8.0 3.2	5Y3/1 オリーブ黒色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「真」 外面くすべ焼成	E	
A-048	30	皿	須恵	口徑 底径 高さ (16.0) 11.4 2.6	5Y3/1 オリーブ黒色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「口」(真力) 外面くすべ焼成	E	
A-048	31	皿	須恵	口徑 底径 高さ — — —	7.5YR6/6 橙色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「口」(真力)	E	
A-048	32	坪	須恵	口徑 底径 高さ (5.0) 0.9+ -0.4	5Y3/1 オリーブ黒色		底部外面刻書「口」(真力) 内部くすべ焼成	E	
A-048	33	甕	須恵	口徑 底径 高さ (20.8) 16.0 6.7+	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形		E	
A-048	34	甕	須恵	口徑 底径 高さ (23.3) 19.4 7.9+	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形		E	
A-048	35	甕	須恵	口徑 底径 高さ (19.0) 17.6+ -0.4	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形		E	
A-048	36	甕	須恵	口徑 底径 高さ — — (7.8)	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形		E	
A-048	37	甕	須恵	口徑 底径 高さ (25.7) 22.0 13.5+	5Y4/1 灰色	ロクロ整形		E	
A-048	38	甕	須恵	口徑 底径 高さ (16.5) 13.2+ -0.4	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形		E	
A-048	39	甕	須恵	口徑 底径 高さ (12.8) 8.8+ -0.4	5Y6/1 灰色	非ロクロ整形		E	
A-048	40	瓶	須恵	口徑 底径 高さ (24.6) 20.0 6.1+	10YR4/2 灰黄褐色	ロクロ整形		E	
A-048	41	平瓦	瓦質	長 幅 厚 (8.5+ (10.0) 2.0	10YR6/3 にふい黄橙色	凹面布目 凸面綱目	598.0g		
A-048	42	羽口	土製	蓋 大柄 厚 6.5+ 4.0 1.7	10YR4/2 灰黄褐色	ヘラ削り	104.0g		
A-048	43	砥石	凝灰岩	4.6 3.8 1.7			41.2g		
A-048	44	紡錘車	土製	径 孔径 厚 5.0 0.7 2.3	SYR5/6 明赤褐色		51.0g		
A-048	45	紡錘車	土製	径 孔径 厚 (3.8) 2.2	SYR5/6 明赤褐色		19.0g		
A-048	46	紡錘車	土製	径 孔径 厚 (3.0) 2.2	SYR5/6 明赤褐色		9.0g		
A-048	47	紡錘車	土製	径 孔径 厚 2.7 — 1.6	SYR5/6 明赤褐色		14.0g		
A-048	48	刀子	鉄製	長 幅 厚 8.0 1.0 0.4			9.2g		
A-048	49	粘土片	土製	長 幅 厚 2.3 0.4 0.7	SYR5/6 明赤褐色		1.3g		
A-048	50	粘土片	土製	長 幅 厚 3.1 0.7 0.5	SYR5/6 明赤褐色		0.7g		
A-048	51	粘土片	土製	長 幅 厚 2.5 1.0 0.7	SYR5/6 明赤褐色		1.3g		
A-048	52	粘土片	土製	長 幅 厚 2.6 1.4 0.5	SYR5/6 明赤褐色		2.2g		

第35表 住居跡出土遺物計測表⑨

遺構名	No.	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 高 度
A-048	53	粘土片	土製	共 底 厚 2.9 2.0 0.8	SYR5/6 明赤褐色			3.6g	
A-048	54	粘土片	土製	共 底 厚 2.5 2.4 1.6	SYR5/6 明赤褐色			7.5g	
A-048	55	粘土片	土製	共 底 厚 3.0 1.9 1.7	SYR5/6 明赤褐色			8.5g	
A-048	56	粘土片	土製	共 底 厚 3.0 2.2 1.9	SYR5/6 明赤褐色			9.7g	
A-048	57	粘土片	土製	共 底 厚 2.7 2.6 0.5	SYR5/6 明赤褐色			2.9g	
A-048	58	粘土片	土製	共 底 厚 2.9 2.3 0.4	SYR5/6 明赤褐色			2.4g	
A-048	59	粘土片	土製	共 底 厚 3.5 2.1 1.3	SYR5/6 明赤褐色			9.2g	
A-048	60	粘土片	土製	共 底 厚 3.6 3.4 1.1	SYR5/6 明赤褐色			7.6g	
A-048	61	粘土片	土製	共 底 厚 3.6 2.8 1.5	SYR5/6 明赤褐色			7.2g	
A-048	62	粘土片	土製	共 底 厚 4.3 1.0 0.5	SYR5/6 明赤褐色			2.7g	
A-048	63	粘土片	土製	共 底 厚 4.7 2.4 0.8	SYR5/6 明赤褐色			9.3g	
A-048	64	粘土片	土製	共 底 厚 4.2 1.9 1.5	SYR5/6 明赤褐色			12.5g	
A-048	65	粘土片	土製	共 底 厚 5.8 1.8 0.9	SYR5/6 明赤褐色			10.1g	
A-048	66	粘土片	土製	共 底 厚 3.7 2.6 1.0	SYR5/6 明赤褐色			6.7g	
A-048	67	粘土片	土製	共 底 厚 3.2 3.6 2.0	SYR5/6 明赤褐色			21.5g	
A-048	68	粘土片	土製	共 底 厚 3.5 3.7 1.6	SYR5/6 明赤褐色			15.6g	
A-048	69	粘土片	土製	共 底 厚 5.0 5.4 0.8	SYR5/6 明赤褐色			24.1g	
A-050	1	高坪	土師	口径 底径 高 21.2 9.3+ 9.3+	SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り			B
A-050	2	器台	土師	口径 底径 高 — (9.7) 4.0+	SYR5/4 にぶい赤褐色	ナデ			E
A-050	3	壺	土師	口径 底径 高 — — 6.3+	SYR5/4 にぶい赤褐色	沈線+繩文			E
A-050	4	甕	土師	口径 底径 高 17.0 — 13.4+	10YR5/3 にぶい黄橙色	ヘラ削り ハケ目			B
A-050	5	甕	土師	口径 底径 高 — 6.0 15.5+	SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り	底部に穿孔 一回開け損じ有り		B
A-050	6	甕	土師	口径 底径 高 — 5.0 9.7+	SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り			E
A-050	7	甕	土師	口径 底径 高 (10.0) — 5.2+	SYR5/4 にぶい赤褐色	ハケ目 ナデ 口唇部に刻み目			E
A-050	8	甕	土師	口径 底径 高 (13.7) — 1.6+	10YR5/3 にぶい黄橙色	ハケ目 ナデ			E
A-051	1	坪	土師	口径 底径 高 13.1 6.4 4.3	2.05	SYR5/6 明赤褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-051	2	坪	土師	口径 底径 高 14.1 5.8 4.9	2.43	SYR5/6 明赤褐色	クロロ整形 回転糸切り手持ちヘラ削り		C
A-051	3	坪	土師	口径 底径 高 (16.0) (7.6) 4.7	(2.29)	SYR4/6 赤褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-051	4	坪	土師	口径 底径 高 — 7.0 4.0+		SYR4/6 赤褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		B
A-051	5	坪	土師	口径 底径 高 — 7.2 2.9+		SYR4/6 赤褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
A-051	6	高台村坪	灰釉	口径 底径 高 — 7.0 2.2+	SYR6/1 灰色	底部回転糸切り後付け高台	O-53 東南座		E
A-051	7	甕	土師	口径 底径 高 (19.7) — 17.0+	10YR5/2 灰黃褐色	非クロロ整形 ヘラ削り			E

第36表 住居跡出土遺物計測表

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	直 徑
A-051	8	甕	土師	口径 底径 高 17.8 (7.2) 18.4	SYR5/6 明赤褐色	非クロ整形 ～ラ削り		D	
A-053	1	壺	土師	口径 底径 高 13.3 4.6 8.1	2.89	SYR5/4 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B
A-053	2	壺	土師	口径 底径 高 22.8 — 4.9+	SYR5/4 にぶい赤褐色			E	
A-053	3	壺	土師	口径 底径 高 (20.0) — 3.0+	SYR5/4 にぶい赤褐色	ミガキ	外面赤彩	E	
A-053	4	壺	土師	口径 底径 高 14.4 8.4 26.2	10YR5/4 にぶい黄褐色	ミガキ	格子状の火拂痕 内面赤彩	B	
A-053	5	壺	土師	口径 底径 高 — 9.0 9.3+	10YR5/4 にぶい黄褐色	～ラ削り ミガキ		E	
A-053	6	壺	土師	口径 底径 高 (12.9) 17.2 11.7	SYR5/4 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	C	
A-053	7	甕	土師	口径 底径 高 14.2 4.2 13.4	10YR5/4 にぶい黄褐色	～ラ削り後ナデ		E	
A-053	8	甕	土師	口径 底径 高 14.7 5.0 13.9	10YR5/4 にぶい黄褐色	～ラ削り後ナデ	口縁部輪積み痕	B	
A-053	9	台付甕	土師	口径 底径 高 — 11.8 6.8+	10YR5/4 にぶい黄褐色	～ラ削り後ナデ		B	
A-053	10	甕	土師	口径 底径 高 18.7 9.7 17.3	SYR5/4 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ 口部に刻目		B	
A-053	11	磨石	砂岩	厚 10.7 7.7 3.2				343.2g	
A-061	1	高环片	須恵	口径 底径 高 — — —	SY4/1 灰色		波状文 幾内座か?	E	
A-061	2	壺	土師	口径 底径 高 (14.5) — 5.2	10R4/8 赤色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	D	
A-061	3	壺	土師	口径 底径 高 15.0 — 4.4	2.5YR4/6 赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-061	4	壺	土師	口径 底径 高 12.9 — 6.9	2.5YR5/8 明赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩 底部外面削痕「X」(記号カ)	B	
A-061	5	壺	土師	口径 底径 高 (16.0) — 4.8+	2.5YR3/3 暗赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	E	
A-061	6	壺	土師	口径 底径 高 (13.2) — 5.0+	2.5YR4/6 赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	C	
A-061	7	壺	土師	口径 底径 高 11.7 — 5.9	SYR4/3 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-061	8	壺	土師	口径 底径 高 (12.3) — 6.3	10R4/8 赤色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-061	9	壺	土師	口径 底径 高 (14.9) — (6.0 6.1 2.48)	SYR4/6 赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-061	10	壺	土師	口径 底径 高 — 4.8+	10R4/8 赤色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-061	11	壺	土師	口径 底径 高 (13.8) — 10.8+	2.5YR4/8 赤褐色	～ラ削り	内外面赤彩	D	
A-061	12	甕	土師	口径 底径 高 17.8 — 13.2+	10YR4/4 褐色	～ラ削り		C	
A-061	13	壺	土師	口径 底径 高 (11.4) — 6.5+	2.5YR3/3 暗赤褐色	～ラ削り	内外面赤彩	B	
A-061	14	甕	土師	口径 底径 高 — 5.0 2.5+	2.5YR3/3 暗赤褐色	～ラ削り	底部木葉痕	E	
A-061	15	瓶	土師	口径 底径 高 (24.8) 7.5 22.3	7.5YR4/4 褐色	～ラ削り		B	
A-061	16	壺	土師	口径 底径 高 (12.2) — 8.2+	2.5YR4/8 赤褐色	～ラ削り	内外面赤彩	B	
A-061	17	玉	滑石	長 0.5 0.5				0.2g	
A-077	1	壺	土師	口径 底径 高 13.5 — 5.1	SYR4/3 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-077	2	壺	土師	口径 底径 高 (12.0) — 5.3+	SYR4/3 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	B	
A-077	3	壺	土師	口径 底径 高 (12.6) — 4.5+	SYR4/3 にぶい赤褐色	～ラ削り後ナデ	内外面赤彩	E	

第37表 住居跡出土遺物計測表

遺構名	No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	遺存度
A-077	4	壺	土師	口径 底径 高さ	13.0 — 4.4	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り後ナデ	内外面赤影	B
A-077	5	壺	土師	口径 底径 高さ	(13.6) — 4.1+	7.SYR6/6 橙色	ヘラ削り後ナデ		E
A-077	6	鉢	土師	口径 底径 高さ	17.0 — 4.0+	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り後ナデ	内外面赤影	D
A-077	7	瓶	土師	口径 底径 高さ	26.8 — 19.5+	7.SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り		E
A-077	8	瓶	土師	口径 底径 高さ	20.2 6.7 22.3	7.SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り		B
A-077	9	瓶	土師	口径 底径 高さ	22.1 7.5 16.7	7.SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り	底部附近に穿孔	B
A-077	10	支脚	土製	径 高さ	7.2 13.2+	10YR6/6 明黃褐色		787.0g	B
A-077	11	鉄滓		外 輪 厚	4.1 2.5 1.5			14.2g	
A-077	12	粘土片	土製	基 厚	3.8 2.3 1.3	10YR6/6 明黃褐色		6.6g	
A-086	1	壺	土師	口径 底径 高さ	13.6 — 5.5	7.SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り後ナデ	内外面赤影	B
A-086	2	壺	土師	口径 底径 高さ	12.2 — 5.1	7.SYR7/4 にぶい橙色	ヘラ削り後ナデ	内外面赤影	B
A-086	3	壺	土師	口径 底径 高さ	13.4 — 6.5	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り後ナデ	内外面赤影	B
A-086	4	壺	土師	口径 底径 高さ	14.2 — 6.5	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り後ナデ	内外面赤影	B
A-086	5	壺	土師	口径 底径 高さ	11.1 4.7 6.8	7.SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り後ナデ 輪積み痕 ヘラによる刻み		B
A-086	6	甕	土師	口径 底径 高さ	13.7 7.0 17.3	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		C
A-086	7	甕	土師	口径 底径 高さ	11.7 5.6 19.2	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		C
A-086	8	甕	土師	口径 底径 高さ	16.7 — 15.5+	7.SYR5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り		B
A-086	9	甕	土師	口径 底径 高さ	(17.0) — 20.3+	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		B
A-086	10	甕	土師	口径 底径 高さ	15.6 6.8 22.0	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		B
A-086	11	甕	土師	口径 底径 高さ	(6.7) 14.5+	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		E
A-086	12	甕	土師	口径 底径 高さ	— — 18.0+	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		E
A-086	13	瓶	土師	口径 底径 高さ	— 8.8 13.5+	SYR4/3 にぶい赤褐色	ヘラ削り		E
A-086	14	磨石	砂岩	輪 幅 厚	6.4 4.2 2.4			96.2g	

第38表 挖立柱建物跡出土遺物計測表

報告No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色 調	整形・調整技法	備 考	遺存度
B-001-1	壺	須恵	口径 底径 高さ	(6.0) 2.5+	SY5/1 灰色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
B-001-2	壺	須恵	口径 底径 高さ	(6.0) 2.5+	SY6/1 灰色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
B-001-3	壺	土師	口径 底径 高さ	(12.9) (8.0) 3.8	(1.61) 2.5YR3/1 黒褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
B-002-1	壺	土師	口径 底径 高さ	(6.6) 1.3+	2.5Y3/1 黒褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
B-002-2	壺	土師	口径 底径 高さ	— 2.4+	2.5Y3/1 黒褐色	クロロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E
B-004-1	壺	土師	口径 底径 高さ	(14.0) 3.5+	10YR4/3 にぶい黄褐色	クロロ整形		E
B-006-1	刀子	鉄製	長 幅 厚	9.5 1.1 0.2			10.0g	

第39表 1号講跡出土遺物計測表①

報告No	器種	材質	出土地点	法量(cm)	口径/底径 比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度	
1	壺	須恵	口径 底径 腰高	12.2 6.9 3.9	1.77	SI4/2 灰オリーブ色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	内外面火漆	B	
2	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.1) (7.0) (3.9)	(1.71)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	歪み激しい	D	
3	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.1) (6.1) (4.1)	(1.98)	2.5Y4/1 黄灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		D	
4	壺	須恵	B	口径 底径 腰高	11.8 6.2 4.2	1.90	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	外面に火漆	B
5	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(11.8) (6.0) (4.1)	(1.97)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		C
6	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	12.5 7.6 4.1	1.64	2.5Y6/3 にふく黄色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部火漆	B
7	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.4) (7.4) (4.1)	(1.68)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		D	
8	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(13.0) (7.1) (4.4)	(1.83)	2.5Y3/1 黒褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		C
9	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.0) (6.0) (3.9)	(2.00)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	歪み有り	C	
10	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.4) (7.4) (4.2)	(1.68)	2.5Y4/2 暗灰黄色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		D	
11	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(13.2) (7.2) (4.2)	(1.83)	2.5Y3/1 黒褐色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		C
12	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(13.0) (7.5) (4.2)	(1.73)	2.5Y3/1 黒褐色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		D
13	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.4) (7.6) (4.5)	(1.64)	10YR5/4 にふく黄色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		C	
14	壺	須恵	口径 底径 腰高	13.6 8.1 4.1	1.68	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後回転ヘラ削り		B	
15	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.4) (8.0) (3.7)	(1.55)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	内外面火漆	D	
16	壺	須恵	口径 底径 腰高	12.1 7.2 3.8	1.68	7.5YR6/2 灰オリーブ色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		B	
17	壺	須恵	口径 底径 腰高	12.1 8.1 4.2	1.49	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後回転ヘラ削り		B	
18	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(12.0) (7.2) (4.0)	(1.67)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後回転ヘラ削り		D
19	壺	須恵	口径 底径 腰高	(12.5) (8.5) (3.7)	(1.47)	2.5Y5/2 暗灰黄色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	外面煤付着	D	
20	壺	須恵	口径 底径 腰高	(13.2) (7.5) (5.2)	(2.11)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	歪み有り	C	
21	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(12.0) (7.3) (4.0)	(1.64)	10YR5/4 にふく黄色	ロクロ整形 回転削り後回転ヘラ削り	内面剥離	D
22	高台付 壺	須恵	口径 底径 腰高	(9.8) (7.0) (5.2)	(1.29)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り後付け高台	内外面くすぐ焼成	D	
23	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(12.0) — 4.7±		SI3/1 オリーブ黒色	ロクロ整形	鉄鉢型	E
24	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(12.0) — 6.2	(1.94)	SI4/1 灰色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	底部外面刻書「×」〔記 号力〕	D
25	蓋	須恵	口径 底径 腰高	— 15.4 2.2		7.5YR5/6 明褐色	ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り		B	
26	蓋	須恵	口径 底径 腰高	(18.4) — 2.7+		SI6/2 灰オリーブ色	ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り	円錐を欠く	C	
27	蓋	須恵	口径 底径 腰高	— 2.4± 16.8		7.5YR5/6 明褐色	ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り		E	
28	皿	須恵	口径 底径 腰高	(9.7) — 2.9		7.5YR5/4 にふく褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		E	
29	皿	須恵	口径 底径 腰高	(16.2) — 8.9		7.5YR5/6 明褐色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り		C	
30	高台付 壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(10.6) — 2.5+		7.5YR4/4 褐色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り後付け高台	底部外面刻書「真」	E
31	壺	須恵	A	口径 底径 腰高	(7.2) — 0.9		2.5Y6/2 灰黄色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	底部外表面朱書き 「口」〔石力〕	E
32	台付碗	須恵	A	口径 底径 腰高	— — 8.3+		2.5Y4/3 オリーブ褐色	ロクロ整形		D

第40表 1号講跡出土遺物計測表②

報告No	器種	材質	出土地点	法量(cm)	口径/底径比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度
33	皿	須恵		口径 底径 厚さ 1.2+ 4.0	—	2.5Y4/2 暗灰黄色	ロクロ整形 回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	底部外面刻書「口」〔記号力〕	E
34	高台付 环	土師	A	口径 底径 厚さ 5.6+ 9.0	10Y5/4 にふい黄褐色	非ロクロ整形		坏部内面くすべ焼成	D
35	脚部	須恵	A	口径 底径 厚さ 8.5+	—	2.5Y5/4 黄褐色	ロクロ整形 指ナデ	坏底部に当たる部分に接合痕	E
36	長頸壺	須恵		口径 底径 厚さ 5.1+ (7.6)	—	2.5Y6/2 灰黄色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り後付け高台	自然釉 東海産	E
37	長頸壺	須恵		口径 底径 厚さ 7.4+ (10.6)	—	2.5Y6/2 灰黄色	ロクロ整形 切り離し不明回転ヘラ削り	在地産	E
38	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 12.4+ (24.2)	—	SI3/1 オーブ黒色	ロクロ整形 タタキ		E
39	甕	須恵		口径 底径 厚さ 10.2+ (19.2)	—	2.5I3/5 黄褐色	ロクロ整形 タタキ		E
40	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 35.4 (15.6) 22.0	—	10I3/1 黒褐色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		C
41	甕	須恵	B	口径 底径 厚さ 42.5+ (24.5)	—	SI4/2 灰オリーブ色	ロクロ整形 タタキ		C
42	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 15.9+ (53.4)	—	SI4/2 灰オリーブ色	ロクロ整形 タタキ	雲母 波状文 常陸産	E
43	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 12.2+ (13.1)	—	SI3/1 オーブ黒色	ロクロ整形 タタキ		E
44	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 25.2 (14.6) 28.6	—	SI5/1 灰色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		C
45	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 8.1+ (18.0) (9.4)	—	SI5/1 灰色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		D
46	甕	須恵		口径 底径 厚さ 22.6 (32.6)	—	2.5I5/2 暗灰黄色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		E
47	甕	須恵		口径 底径 厚さ 23.2+ (25.0)	—	2.5I4/2 暗灰黄色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		E
48	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 16.5+ (14.0)	—	SI5/2 灰オリーブ色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り		E
49	甕	須恵		口径 底径 厚さ — —	—	SI4/1 灰色	ロクロ整形 格子状タタキ		E
50	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 18.2+ (30.2)	—	SI3/1 オーブ黒色	ロクロ整形 タタキ		E
51	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 7.5+ (14.5)	—	SI4/1 灰色	ロクロ整形 タタキ		E
52	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ 8.2+ (22.4)	—	SI3/1 オーブ黒色	ロクロ整形 タタキ		E
53	甕	須恵		口径 底径 厚さ 9.2+ (15.2)	—	10Y3/3 暗褐色	ロクロ整形 ナデ		E
54	甕	須恵		口径 底径 厚さ 1.2+ (9.6)	—	10I3/2 黒褐色		底部外面刻書「=」〔記号力〕	E
55	甕	須恵		口径 底径 厚さ 1.2+ (12.0)	—	10Y4/4 褐色		底部外面刻書「乙」〔記号力〕	E
56	甕	須恵		口径 底径 厚さ 5.0+ (15.1)	—	2.5I3/2 黒褐色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り	底部外面刻書「乙」〔記号力〕	E
57	甕	須恵	A	口径 底径 厚さ — (11.4)	—	SI4/2 灰オリーブ色		底部外面刻書「×」〔記号力〕	E
58	甕	土師	B	口径 底径 厚さ 5.6+ (11.4)	—	7.5IR4/6 褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		E
59	甕	土師	B	口径 底径 厚さ 10.5 5.5 9.8	—	7.5IR4/6 褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り		B
60	甕	土師	B	口径 底径 厚さ 10.5 11.6 4.3 10.5	—	7.5YR4/6 褐色	非ロクロ整形		B
61	甕	須恵		口径 底径 厚さ — (12.0)	—	2.5I4/2 暗灰黄色		底部外面刻書「×」〔記号力〕	E
62	甕	須恵		口径 底径 厚さ 7.5+ (12.0)	—	7.5YR4/4 褐色	非ロクロ整形 ヘラ削り	底部外面刻書「×」〔記号力〕	E
63	丸瓦	瓦質	A	長 幅 厚さ (21.7) 15.2 2.1	—	問衝布目・凸面	問衝布目・凸面ヘラ削り	指ナデによる輪積みを消した痕	D
64	丸瓦	瓦質		長 幅 厚さ (22.5) 15.2 2.1	—	問衝布目・凸面	問衝布目・凸面ヘラ削り	指ナデによる輪積みを消した板	D

第41表 1号講跡出土遺物計測表③

報告No	器種	材質	出土 地点	法量(cm)	口径/底径 比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度
65	丸瓦	瓦質		長 幅 厚 さ (11.5) (7.5) 1.8			凹面布目・凸面ヘラ削り		E
66	丸瓦	瓦質	A	長 幅 厚 さ (11.7) (7.9) 1.9			凹面布目・凸面ヘラ削り		E
67	平瓦	瓦質	A	長 幅 厚 さ (11.1) (9.6) 2.2			凹面布目・凸面網目		E
68	平瓦	瓦質	A	長 幅 厚 さ (11.0) (7.1) 2.1			凹面布目・凸面網目		E
69	平瓦	瓦質	A	長 幅 厚 さ (9.7) (6.9) 1.9			凹面布目・凸面網目		E
70	支脚	土製	A	径 高 5.5×4.5 (9.2)	7.5R4/6 褐色				E
71	砥石	研磨岩		長 幅 厚 さ 5.1 4.0 3.8				全面使用 106.9g	
72	不明 土製品	土製	A	長 幅 厚 さ (6.8) 2.1 1.5	2.5I3/1 黒褐色				

第42表 方形周溝出土遺物計測表

報告No	器種	材質	法量(cm)	口径/底径 比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度
H-001-1	壺	土師	口径 底径 高 (13.6) — 4.2+	7.5R4/6 赤色	ヘラ削り ナデ		内外面赤彩	E
H-001-2	壺	土師	口径 底径 高 (12.0) — 3.6+	5Y R5/4 にぶい赤褐色	ヘラ削り ナデ		内外面赤彩	E
H-002-1	壺	土師	口径 底径 高 (14.0) — 6.1+	10R4/4 赤褐色	ヘラ削り ナデ		内外面赤彩	E

第43表 調査区出土遺物計測表①

報告No	器種	材質	グリッド	法量(cm)	口径/底径 比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度
1	壺	土師	4C-55 b	口径 底径 高 (12.0) — 4.3+	10R4/6 赤色	手持ちヘラ削り後ナデ		内外面赤彩	E
2	壺	土師	4C-77 c	口径 底径 高 (12.0) (6.0) 5.5	10YR5/6 にぶい黄褐色	ナデ 手持ちヘラ削り		底部木葉痕	D
3	壺	須恵	4C-53 d	口径 底径 高 (14.3) — (7.0)	10YR2/2 黒褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り		内外面くすべ施成	D
4	壺	須恵	5F-49 a	口径 底径 高 (8.0) — 2.0+	7.5R4/4 褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り			E
5	壺	須恵	5F-60 a	口径 底径 高 (8.0) — 1.5+	5YR5/4 にぶい赤褐色	ロクロ整形 ヘラ切り			E
6	壺	須恵	D-001	口径 底径 高 (8.0) — 1.5+	10YR3/1 黒褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「口」 〔記号カ〕	E	
7	壺	須恵	D-001	口径 底径 高 (7.0) — 1.0+	10YR3/1 黒褐色	ロクロ整形 切り離し不明手持ちヘラ削り	底部外面刻書「口」 〔記号カ〕	E	
8	甕?	土師	4C-42 d	口径 底径 高 — 4.2 3.0+	2.5IR4/6 赤褐色	ナデ 手持ちヘラ削り	内外面赤彩 底部外面刻書「口」 〔記号カ〕	D	
9	高台付 甕	灰釉	5F-7 b	口径 底径 高 (6.6) — 3.3+	10YR4/1 褐灰色	ロクロ整形 静止系切り後付け高台	東海産	E	
10	甕	須恵	4C-71	口径 底径 高 21.0 — 13.5 33.0	N3/0 暗灰色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り	亞み有り	A	
11	甕	須恵	5F-23 d	口径 底径 高 — — —	2.5I5/2 暗黄色	ロクロ整形	丸底	E	
12	甕	須恵	5F-56 a	口径 底径 高 (13.0) — 9.6+	10YR4/2 灰黃褐色		底部外面刻書「乙」 〔記号カ〕	E	
13	甕	土師	4C-78 d	口径 底径 高 13.5 — 9.6+	10YR5/4 にぶい黃褐色	非ロクロ整形 手持ちヘラ 削りナデ		D	
14	甕	土師	表採	口径 底径 高 6.4 — 9.0+ 20.0	7.5R5/4 にぶい褐色	ヘラ削り		C	
15	粘土		M-004	長 幅 厚 6.4 — 7.0 3.9	5YR5/6 明赤褐色				

第44表 調査区出土遺物計測表②

報告No	器種	材質	グリッド	法量(cm)	口径/底径 比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度
16	支脚	土製	5F-23 d	縦 高 5.8 輪厚 9.5+	2.5W4/6 赤褐色				D
17	平瓦	瓦質	5F-39 a	縦 高 15.7 輪厚 2.2			凹面布目、凸面繩目	615.0 g	
18	平瓦	瓦質	5F-59 c	長 幅 6.0+ 6.7 輪厚 1.0			凹面布目、凸面繩目	89.0 g	
19	平瓦	瓦質	D-003	長 幅 7.1+ 8.3 輪厚 1.7			凹面布目、凸面繩目	1003.0 g	
20	鉄滓		5F-90	長 幅 5.7 輪厚 3.8 3.5					
21	炉盤		4D-90 a	長 幅 5.1 輪厚 6.3 1.5					
22	炉盤		5E-23 d	長 幅 6.9 輪厚 7.8 2.7					
23	砥石	凝灰岩	D-002	長 幅 6.2 輪厚 3.0 2.4				69.9 g	
24	砥石	凝灰岩	4F-12 a	長 幅 3.8 輪厚 2.1 2.1				29.1 g	
25	砥石	凝灰岩	M-004	長 幅 3.7 輪厚 2.7 2.0				28.4 g	
26	筋鍊車	土製	表採	縦 幅 (5.4) 1.1 1.2	2.5W5/3 黄褐色			16.6 g	D
27	管状土錐	土製	表採	縦 孔径 (1.8) (0.5) 1.8+	7.5W5/4 にふり褐色			3.6 g	E
28	鉄瓶	鉄製	4D-99 d	縦 幅 3.7 輪厚 2.3 0.4				5.2 g	
29	銭	青銅製	表採	縦径 孔径 0.66 0.55 0.77 0.33		開元通宝 唐621模鉄錢か?		2.4 g	
30	銭	青銅製	表採	縦径 孔径 0.73 0.64 0.09		嘉祐通宝 宋1065初		2.2 g	
31	銭	青銅製	表採	縦径 孔径 0.57 0.57 0.77		元祐通宝 宋1086初		3.2 g	
32	銭	青銅製	表採	縦径 孔径 0.64 0.12		聖宋元宝 宋1101		2.2 g	
33	銭	青銅製	表採	縦径 孔径 0.62 0.52 0.72		治武通宝 明1368		2.3 g	
34	銭	青銅製	表採	縦径 孔径 0.69 0.09		嘉祐通宝		2.3 g	
35	銭	青銅製	5E-93 b	縦径 孔径 0.59 0.10		口口口宝		2.0 g	
36	銭	青銅製	5E-31 a	縦径 孔径 0.56 0.13		永祐通宝 明		2.4 g	

第45表 出土文字一覧表

番号	枳 文	造 構	種 別	器 種	部 位・方 向	時 期
1		A-003-8	墨書	土師・坏	体部外面	9C後半～10C
2	巾	A-003-9	墨書	土筋・坏	底部外面	9C後半～10C
3	大	A-004-19	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
4	乙(記号カ)	A-004-31	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
5	大	A-012-3	刻書(へラ)	土師・皿	底部外面	9C前半
6	口(記号カ)	A-012-8	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
7	= (記号カ)	A-011-13	刻書(へラ)	須恵・甕	天井部外面	9C前半
8	□(記号カ) 神	A-047-12	刻書(へラ)	須恵・皿	底部外面 底部外面	9C前半
9	千	A-047-13	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
10	千 千	A-048-21	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面 底部外面	9C前半
11	真	A-048-22	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
12	口(真カ)	A-048-23	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
13	真口	A-048-24	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
14	保口	A-048-25	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
15	□(記号カ)	A-048-26	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
16	= (記号カ)	A-048-27	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
17	口(真カ)	A-048-28	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
18	真	A-048-29	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
19	口(真カ)	A-048-30	刻書(へラ)	須恵・皿	底部外面	9C前半
20	□(真カ)	A-048-31	刻書(へラ)	須恵・皿	底部外面	9C前半
21	口(真カ)	A-048-32	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
22	×(記号カ)	A-061-4	刻書(へラ)	土師・坏	底部外面	古墳後期
23	×(記号カ)	M-001-24	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
24	真	M-001-30	刻書(へラ)	須恵・高台付坏	底部外面	9C前半
25	□(石カ)	M-001-31	朱書	須恵・坏	底部外面	9C前半
26	□(大カ)	M-001-33	刻書(へラ)	土師・坏	底部外面	9C前半
27	= (記号カ)	M-001-54	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
28	乙(記号カ)	M-001-55	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
29	乙(記号カ)	M-001-56	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
30	×(記号カ)	M-001-57	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
31	×(記号カ)	M-001-61	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
32	[] (記号カ)	M-001-62	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
33	レ(記号カ) 由真利	C-045-1	刻書(へラ)	須恵・坏	底部里面 底部外面	9C前半
34	乙(記号カ)	C-045-6	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
35	□(記号カ)	調査区-6	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
36	□(記号カ)	調査区-7	刻書(へラ)	須恵・坏	底部外面	9C前半
37	□(記号カ)	調査区-8	刻書(へラ)	土師・甕?	底部外面	古墳後期
38	乙(記号カ)	調査区-12	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半
参考資料	田部、大	ムダリ通跡 1号墓跡灰原	刻書(へラ)	須恵・甕	底部外面	9C前半

凡例

千葉県内における出土文字資料を集めた『千葉県の歴史 資料編 古代 別冊』を参考とした。

枳文・・・・文字が判読できない場合はその字数を推定して□で示し、字数が推定できない場合は[]で示した。

推定文字は口(カ)または(ー)とした。[]は記号等の枳文の性格を表している。

種別・・・・墨で書かれたものを墨書、朱墨で書かれたものを朱書、土器等の製作後刻まれたものを線刻、土器の焼成前に刻まれたものをヘラとした。

部位・方向・・・・部位は、文字が記されている場所・方向は、土器を正位においている場合の文字の向きを示している。

第46表 千葉市周辺出土文字一覧表(関連性のあるもの)

遺跡名	釋文	種別	器種	部位・方向	時期	遺構	出土状況	
砂子遺跡A・B区	真	墨書	土師・环	底部外面	5期	立		
大推第2遺跡	真	ヘラ	土師・蓋	天井部外面	8C後	6堅住	覆土	
八千代市 名主山遺跡	加真	墨書	土師・环	全体外面・正		2堅住		
鎌ヶ谷市 双賀辻田No1遺跡	□(真カ)	墨書	土師・环	底部外面	9C中	2堅住	覆土	
我孫子市 佐佐余間戸遺跡	真	墨書	須恵・环	底部外面・傾	9C中	10堅住	覆土	
	真	墨書	須恵・环	底部外面	9C中	10堅住	覆土	
山田水谷遺跡	真	ヘラ	土師・蓋	天井部外面	8C	重構外		
東金市 作畑遺跡	□(真カ)	墨書	土師・环・赤彩	底部外面	64堅住		覆土	
	□(真カ)	墨書	土師・环	底部外面	10C前	124堅住	覆土	
	□(真カ)	墨書	土師・环	底部外面	9C後	147堅住	覆土	
芝山町 小池地廬遺跡	真	墨書	土師・环	底部外面	8C後	20堅住	覆土	
千葉市 砂子遺跡A・B区	千	墨書	土師・高环	底部外面・正	8C	3堅住	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C前	12・2堅住	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C前	12・2堅住	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C前	12・2堅住	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C前	12・2堅住	覆土	
八千代市 村上込の内遺跡C地区	千	墨書	土師・环	底部外面・正	8C中	187堅住	覆土	
佐倉市 タルカ作塗跡	千	墨書	土師・环	底部外面・横	9C前	45堅住	前	
酒々井町 尾上出戸遺跡	千	墨書	土師・环	底部外面・正	9C中	10堅住	カマド前	
印旛村 油作第2遺跡	千	墨書	須恵・环	底部外面	8C中	9堅住	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C後	60堅住	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C後	2・2堆	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面・正	9C後	2・2堆	覆土	
	千	墨書	土師・环	底部外面	9C後	2・2堆	覆土	
東金市 作畑遺跡	千	ヘラ	須恵・瓶	底部外面	9C後	77堅住	覆土	
統子市 吹入台遺跡	千	墨書	土師・环	底部外面	9C前	9堅住	覆土	
宮崎第1遺跡	大	墨書	土師・环	底部外面	9C前	12堅住	壁下	
	大方	墨書	土師・环	底部外面	8C後	10堅住		
	大方	墨書	土師・环	底部外面	9C前	139堅住	床面	
	大方	墨書	土師・环	底部外面	9C	139土壇	覆土	
	大方	墨書	土師・环	底部外面	9C	139土壇	覆土	
芳賀輪遺跡	大口	墨書	土師・环	底部外面	9C	139堅住	床面	
	大	墨書	土師・环	底部外面	9C	139堅住	床面	
	大	墨書	土師・环	底部外面	9C	139堅住	床面	
	大	墨書	土師・环	底部外面	9C	139堅住	床面	
	大	墨書	土師・环	底部外面	9C	139堅住	床面	
	櫻作遺跡	大	墨書	須恵・燒	底部外面	9C前	446堅住	下層
	大	墨書	須恵・燒	底部外面	9C前	178堅住	壁下	
	大	墨書	須恵・燒	底部外面	8C前	10堅住	覆土	
	大	墨書	須恵・燒	底部外面	8C前	27堅住	覆土	
千葉市 大森第2遺跡	大	墨書	須恵・环	底部外面	8C後	62堅住	覆土	
中野子南2遺跡	大口	墨書	土師・皿	底部外面・横	9C中	14堅住	床面	
大推第2遺跡	大口	墨書	須恵・瓶	底部外面	9C前	14堅住	床面	
奥房台遺跡	大	墨書	須恵・环	底部外面	9C前	SI-35		
下田遺跡	大	墨書	土師・环	底部外面	9C前	7堅住	カマド	
宁津志野窯跡	方	墨書	須恵・燒	底部外面	9C中	2・2堆	覆土	
	方	墨書	須恵・燒	底部外面	9C前	灰原A		
中原鬼跡	×(記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C前	灰原B		
	+ (記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C前	須構外		
	+(記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C前	須構外		
	右	墨書	須恵・燒	底部外面	9C前	須構外		
仁戸名遺跡	×(記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C前	14堅住	カマド	
	×(記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C前	14堅住	覆土	
	×(記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C中	38堅住	カマド	
	II(記号)	ヘラ	須恵・燒	底部外面	9C中	38堅住	覆土	
船橋市 印内遺跡	×(記号)	ヘラ	須恵・环	底部外面	9C前	1-6堅住	覆土	
東中山遺跡群	×(記号)	ヘラ	須恵・环	底部外面				
八千代市 村上込の内遺跡A地区	大	墨書	須恵・瓶	底部外面	9C中	6堅住	覆土	
	大	墨書	須恵・瓶	底部外面	9C中	29堅住	床面	
白幡前遺跡群B	×(記号)	ヘラ	須恵・环	底部外面		149堅住	覆土	
白幡前遺跡群F	大	墨書	須恵・环	底部外面		111堅住	カマド	
柏市 花前1遺跡	+(記号)	ヘラ	須恵・环	底部外面		1堅住	中層	
	+(記号)	ヘラ	須恵・环	底部外面	9C中	13-31-32堅住	覆土	
	+	墨書	須恵・环	底部外面	9C前	100堅住	カマド	
江原台遺跡	+	墨書	須恵・环	底部外面	9C前	152堅住	覆土	
	+	墨書	須恵・环	底部外面	9C	177堅住	覆土	
	十	墨書	須恵・环	底部外面	9C前	H12堅住	柱穴	
	大	墨書	須恵・环	底部外面	9C前	H104堅住		
佐倉市 高岡大山遺跡	乙(記号)	ヘラ	須恵・瓶	底部外面	9C後	61堅住	覆土	
	×(記号)	ヘラ	須恵・环	底部外面	9C前	233堅住	床面	
	×(記号)	ヘラ	須恵・瓶	底部外面	9C中	451堅住	覆土	
	大	墨書	須恵・环	底部外面	9C前	670堅住	覆土	
印西市 大森天神台遺跡	十	墨書	須恵・瓶	底部外面	9C前	13堅住		
東金市 作畑遺跡	大	墨書	須恵・瓶	底部外面	9C前	41堅住	覆土	
	大	墨書	須恵・瓶	底部外面	9C前	154堅住	覆土	
	南外輪戸遺跡	×(記号)	ヘラ	須恵・瓶	天井部外面	F1堅住	床面	

第4節 中近世溝跡・道路跡

溝跡が5条、道路跡が3条検出されている。遺物はD-001とD-002からとっくり・擂鉢・鉄鍋が出土しており、近世に構築されたものであると考えられる。その他の遺構は時期決定となる遺物が出土していないが、おそらく中近世に構築されたものであると考えられる。これらの遺構の性格は基本的に地境の溝であると考えられるが、中には硬化面が存在するものや底面ピット（波板状凹凸）が存在するものもあり、道路跡としても使われていた可能性が高い。

他に中近世の遺構としては、墓壙2基（C-021・C-100）、火葬墓1基（C-409）、土壙2基（C-234・C-281）が検出されている。C-021からは人骨と銅錢が出土している。C-100からは銅錢が出土している。また、底面にPitが存在する。C-409からは成人女性の人骨が出土している（松村氏の原稿参照）。また、焼土と炭化材も検出されたことから、火葬墓であると考えられる。C-281からは近世の焙烙が出土している。

調査区から銅錢が8枚出土しているが、このうち6枚（調査区29～34）は同位置で出土しており、墓壙に伴う六道錢である可能性が高い。6枚のうち最も新しいものは洪武通宝であり、墓壙の時期は14世紀後半以降と考えられる。

C-234及びD-002からウマの歯が出土している。ウマについては貝層出土の動物遺存体同様、植月学氏（東京芸術大学助手）に同定して頂いた。C-234から出土したものは上下顎歯、左右、1頭分である。歯の萌出状況から3～4歳と考えられる。D-002から出土したものは上顎歯、左右、ほぼ1頭分である。遺存は不良である。

第47表 中近世ウマ同定結果

遺構番号	部位	左右	位置	数	備考	歯冠長(mm)	歯冠幅(mm)
C-234	上顎	左	P2	1			
			P3	1			
			P4	1	未萌出？		
		右	M1	1			
			M2	1			
			M3	1	未萌出？		
	下顎	左	P2	1		23.01	
			P3	1		23.59	
			P4	1	未萌出？	29.99	22.71
		右	M1	1		26.95	24.91
			M2	1		27.69	20.86
			M3	1	未萌出？		
			?	2			
			切齒	2			
			破片	2			
			切齒破片	2			

遺構番号	部位	左右	位置	数	備考
D-002	上顎歯	右	P/M	1	No. 1
			P/M	1	No. 2
			P/M	1	No. 3
			P/M	1	No. 5
			P/M	1	No. 4
		左	P/M	1	No. 6
			P/M	1	No. 7
			P/M	1	No. 8
			P/M	1	No. 9
4D-39b					

第48表 中近世溝跡・道路跡計測表

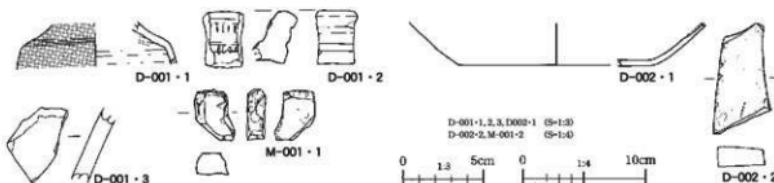
遺構名	位置	総延長(m)	最大深度(m)
M-002	4F-9d, 10b d, 19a c, 20a c 3F-1 b d, 2b d, 3b d, 4b d, 5b d, 6b d, 7b d, 8b d, 11a c	約90	0.56
M-003	5E-39d, 49c, 50a b, 60a b, 70c 6E-61b, 71a b, 81a c d, 91c d	約128	0.35
M-004	6F-11a d, 11c d, 22a b, 32a b, 42a b, 51c d, 61c	約14	0.75
M-005	5E-47c, 48a c, 49a c, 50a c 6E-31b d, 32b d, 33b d, 41a b	約98	0.33
M-006	6E-37c d, 38a b c, 48c, 49a c d, 50b d, 60a	約92	0.3
D-001	5E-26d, 27b, 36c d, 37a b, 46c, 47a b, 57a b c d, 67a b c d, 68b 5E-77a c d, 69a b, 87c d, 88a b, 97c, 98a b d	約150	0.55
D-002	5F-8d, 18c d, 19a b, 28c d, 29a b, 38c, 39a b d, 49a b c d, 59a b c d, 69c d, 70a b	約170	0.55
D-003	4D-3a, 12b, 13d, 14d, 16a d, 21a c, 26b d, 36a c 4D-9a b, 19a b, 29a b, 39a b, 49a b, 59a b, 69a b c d, 79a c d, 80a b, 90b c d, 100c	約35+38	0.15

第49表 中近世溝跡・道路跡構造番号対照表

調査年次	調査時	報告時	調査年次	調査時	報告時	報告時	調査時
平成2年度	M-001	M-001	平成2年度	D-001	D-003	M-001	M-001
平成2年度	M-002	M-002	平成2年度	D-002	D-003	M-002	M-002
平成2年度	M-003	D-001	平成2年度	D-003	D-001	M-003	M-005
	M-004	欠番		D-004	D-001	M-014	
平成2年度	M-005	M-003				M-009	
	M-006	欠番				M-013	
	M-007	欠番				M-006	平成2年度番号なし廃止
	M-008	欠番				D-003	
平成3年度	M-009	M-004				D-004	
平成3年度	M-010	D-002				M-003	
平成3年度	M-011	D-002				M-012	
平成3年度	M-012	D-001				D-002	M-010
平成3年度	M-013	M-005				M-011	
平成3年度	M-014	M-003				D-001	D-002
平成3年度	M-015	H-001					

第50表 中近世溝跡・道路跡出土遺物計測表

報告No	出土地点	器種	材質	法量(c m)			色調	重量	遺存度
				口径	底径	器高			
D-001-1	D-00	とっくり		—	—	3.5+	10Y5/2オリーブ灰色		E
D-001-2	5F-39 b	縦鉢		—	—	—	2.5YR4/3にぶい赤褐色		E
D-001-3	5F-80 a	横鉢		—	—	—	5YK3/3暗赤褐色		E
D-002-1	4D-59	鉄鍋		—	16.0	3.5			E
D-002-2	4D-69 c	砾石	安山岩	長9.0	幅2.7	厚1.6		97.7 g	
M-001-1	5E-23 b	火打ち石	石英	長4.2	幅2.6	厚1.7		34.1 g	



第150図 中近世溝跡・道路跡出土遺物

第5節 土壙

調査で計318基の土壙が検出されたが、遺物が出土したのは151基である。

土壙から縄文土器が出土したのは137基で、C-305から前期後半の諸磯式土器が、C-175から前期末葉の栗島台式土器が出土している他、早期前半の撚糸文土器が5基から出土しているが、いずれも混入である。主体は加曾利E式期後半87基、称名寺式期35基、堀之内1式期6基、加曾利B式期1基である。C-115からは外面に赤彩を施した完形の浅鉢が、C-266からは称名寺1式土器が、C-297からは関沢類型の3単位の把手を有する土器が出土している。C-401はA-023の炉を壊して構築しており、覆土内に貝層を伴う。称名寺1式土器と共に加曾利E式期後半の両耳壺の胴部上半部が出土している。縄文時代の土壙で、貝ブロックを検出した土壙はC-024・C-043・C-057・C-076・C-098・C-135・C-212・C-245・C-260・C-264・C-266・C-308・C-401の14基である。

縄文時代の土壙は調査区北側に集中している。千葉市文六第1遺跡の分類から、I類を楕円形を呈する陥穴、II類を円形及び楕円形の貯蔵穴、III類を中近世の墓壙に分け、I類を平面形態と底面ピットの数から24類型、II類を平面形態と深度により3類型に分類した(第180図)。I類の陥穴は加曾利E III～E IV式期のものが14基で、類型による集中は認められない。II類の貯蔵穴は、平面の直径と深さが同比率のII-1類と、深さが平面の直径より大きいII-2類、平面が大型の楕円形を呈し深いII-3類に分けた。その結果、II-1類は加曾利E III～E IV式期のものが34基、称名寺式期のものが22基、II-2類は加曾利E III～E IV式期のものが6基、称名寺式期のものが4基、堀之内1式期2基であり、II-3類は加曾利E IV式期のものが3基、堀之内1式期1基である。II-1類は縄文時代のものであるが、多部田貝塚C-028と貝殻塚遺跡C-031から鬼高式土器が出土している点から、一部は古墳時代以降に下る可能性があり、II-3類についても貝殻塚遺跡のC-028の状況から同様に考えられる。貯蔵穴内から貝が検出されたのは13基で、加曾利E式期後半6基、称名寺式期7基である。多部田貝塚の貝層形成が称名寺式期であるのに対し、うならず遺跡の貝ブロックは一時期早い段階で形成されている。II類の貯蔵穴は、都川および鹿島川流域の遺跡では、城の腰遺跡(加曾利E I式期)のフ拉斯コ型貯蔵穴→芳賀輪遺跡(加曾利E II～E III式期前半)の子ピットを有する円筒形の小堅穴→僧御堂遺跡(加曾利E IV～称名寺式期)の円筒形(II-1類)→野呂宮ノ台遺跡(堀之内1式期)の口径が小さく深度が大きい円筒形(II-2類)と変遷が辿れるが、本貝塚では堀之内式期の貯蔵穴が少なく、II-1類が主体を占める僧御堂遺跡と同様の傾向となる。子ピットを有する円筒形の小堅穴は、蕨立貝塚の昭和54年調査時に阿玉台式土器と加曾利E I式土器が出土しており、若干遡る可能性がある。

弥生時代の須和田式土器と思われる破片がC-175から出土している。弥生土器は遺構外からも若干出土している他、東側の木戸作遺跡の確認調査でも住居跡が検出されている。

古代の土壙は、C-015・C-045・C-066・C-142・C-207・C-284・C-292の7基で、柱穴状や楕円形のもので、類型化は困難である。C-045とC-066で貝層が検出されている。C-045出土の壺底部に「由真利」の刻書(第200図-1)と、甕底部に簽記号(第200図-6)が記されている。中近世の土壙は5基で、C-021で人骨と古銭が、C-100で古銭が、C-409で人骨が出土している。

C-130からは長さ60cm、幅18cmの石柱が樹立の状態で出土している。平面形は隅丸方形を呈し、加

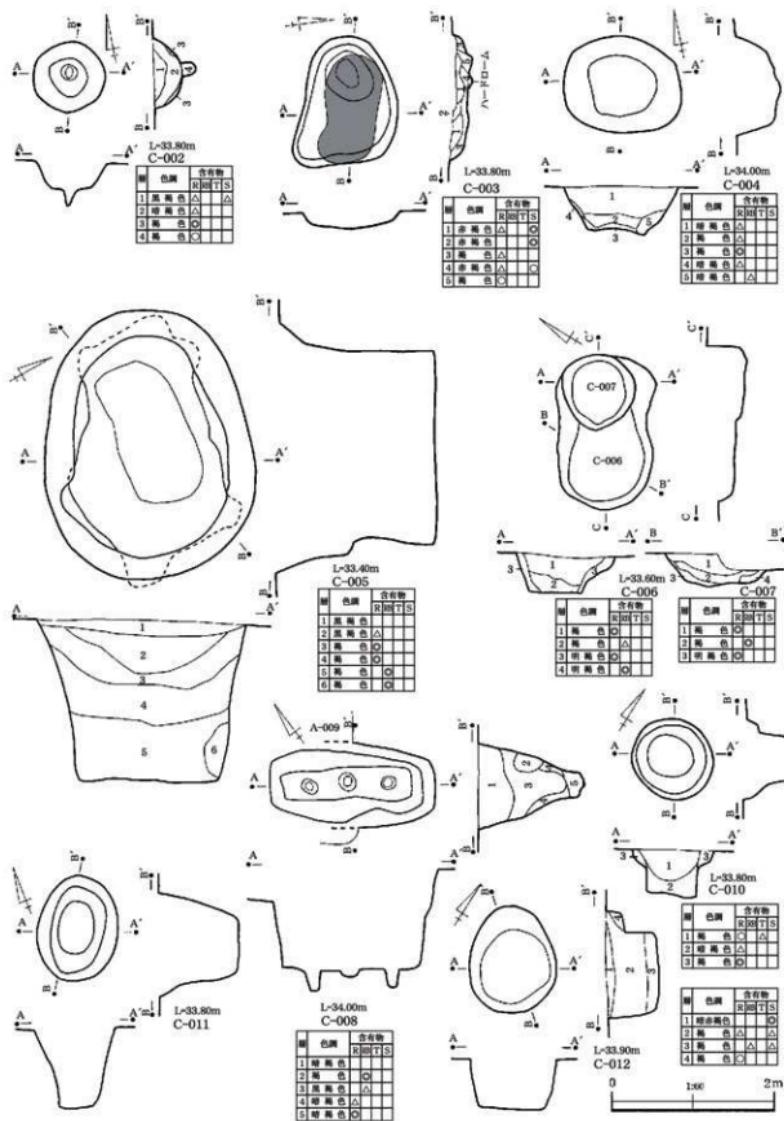
第51表 土墳計測表①

遺跡番号	地圖	グリッド	面積(㎠)	周長(㍍)	深さ(㍍)	時代	出土遺物	直視通過	備考
C-0001	円形	57-31 b	91×87	27×45	34	1-3-1	陶文 加賀利石式土器	直1	
C-0001	円形	57-31 d	157×155	52×57	22		陶文 加賀利石式土器		
C-0001	円形	57-31 e	157×155	52×57	22		陶文 加賀利石式土器		
C-0005	圓形	57-32 c	300×200	102×96	100	2-3	陶文 加賀利石式土器		
C-0006	圓形	57-32 d	150×137	57×50	40		陶文 加賀利石式~加賀利E式土器	A-007・C-005	
C-007	円形	57-32 d	90×90	32×60	45	8-1	陶文 加賀利石式~加賀利E式土器	A-007・C-006	
C-008	圓形	57-32 a	(215)×104	86×35	130	1-3		A-008	直3
C-009	圓形	57-32 a	100×90	35×54	254	8-3	陶文 加賀利石式土器・上削円鉗		
C-010	円形	47-39 c	101×94	35×54	25				
C-011	圓形	47-39 c	129×96	62×43	38	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-012	圓形	47-39 c	131×106	60×45	45	8-1	陶文 加賀利石式土器		
C-013	圓形	47-39 c	105×90	55×35	28				
C-014	圓形	47-39 c	113×103	55×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器		
C-015	圓形	47-39 c	101×92	45×41	45	8-1	陶文・平安 人骨・半瓦	M-001	直1
C-016	円形	47-39 c	70×66	35×55	28				
C-017	円形	47-39 c	68×65	28×27	300				C-017
C-018	圓形	51-31 b	31×38	300×20	85	1-1			
C-019	圓形	51-31 b	31×38	300×100	85	1-1			
C-020	圓形	51-31 b	31×38	300×100	85	1-1			
C-021	圓形	51-31 d	125×100	60×50	127	1-3-1	陶文 加賀利石式土器	C-021	直1
C-022	圓形	51-31 d	134×97	60×50	122	1-3-1	陶文 加賀利石式土器	C-022	直1
C-023	圓形	51-31 a	173×133	85×73	25				C-018
C-024	圓形	51-31 a	173×133	85×73	50				C-017
C-025	圓形	51-31 a	173×133	85×73	50				A-017
C-026	圓形	51-31 a	173×133	85×73	50				
C-027	円形	57-34 d	130×133	67×52	43	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢		直属(牛子ノ谷)
C-028	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-028	直1
C-029	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-029	直1
C-030	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-030	直1
C-031	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-031	直1
C-032	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-032	直1
C-033	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-033	直1
C-034	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-034	直1
C-035	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-035	直1
C-036	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-036	直1
C-037	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-037	直1
C-038	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-038	直1
C-039	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-039	直1
C-040	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-040	直1
C-041	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-041	直1
C-042	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-042	直1
C-043	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-043	直1
C-044	円形	57-34 d	119×108	56×49	45	8-1	陶文 加賀利石式土器・鉢	C-044	直1
C-045	圓形	57-35 a	109×73	64×59	30		直角・平安 土器部		直属(牛子ノ谷)
C-046	圓形	57-35 c	222×70	103×26	30				直属(牛子ノ谷)
C-047	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-048	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-049	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-050	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-051	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-052	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-053	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-054	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-055	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-056	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-057	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-058	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-059	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-060	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-061	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-062	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-063	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-064	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-065	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-066	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-067	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-068	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-069	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-070	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-071	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-072	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-073	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-074	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-075	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-076	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-077	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-078	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-079	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-080	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-081	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-082	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-083	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-084	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-085	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-086	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-087	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-088	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-089	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-090	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-091	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-092	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-093	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-094	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-095	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-096	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-097	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-098	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-099	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-100	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-101	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-102	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-103	圓形	57-35 c	154×19	97×19	30				
C-104	圓形	57-35 c	141×113	108×66	74	1-2	陶文 加賀利石式土器	C-104	直1
C-105	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-106	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-107	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-108	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-109	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-110	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-111	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-112	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-113	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-114	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-115	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-116	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-117	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-118	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-119	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-120	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-121	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-122	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-123	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-124	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-125	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-126	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-127	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-128	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-129	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-130	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-131	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-132	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-133	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-134	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-135	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-136	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器		
C-137	圓形	57-35 c	112×110	50×55	45	1-2	陶文 加賀利石式土器</		

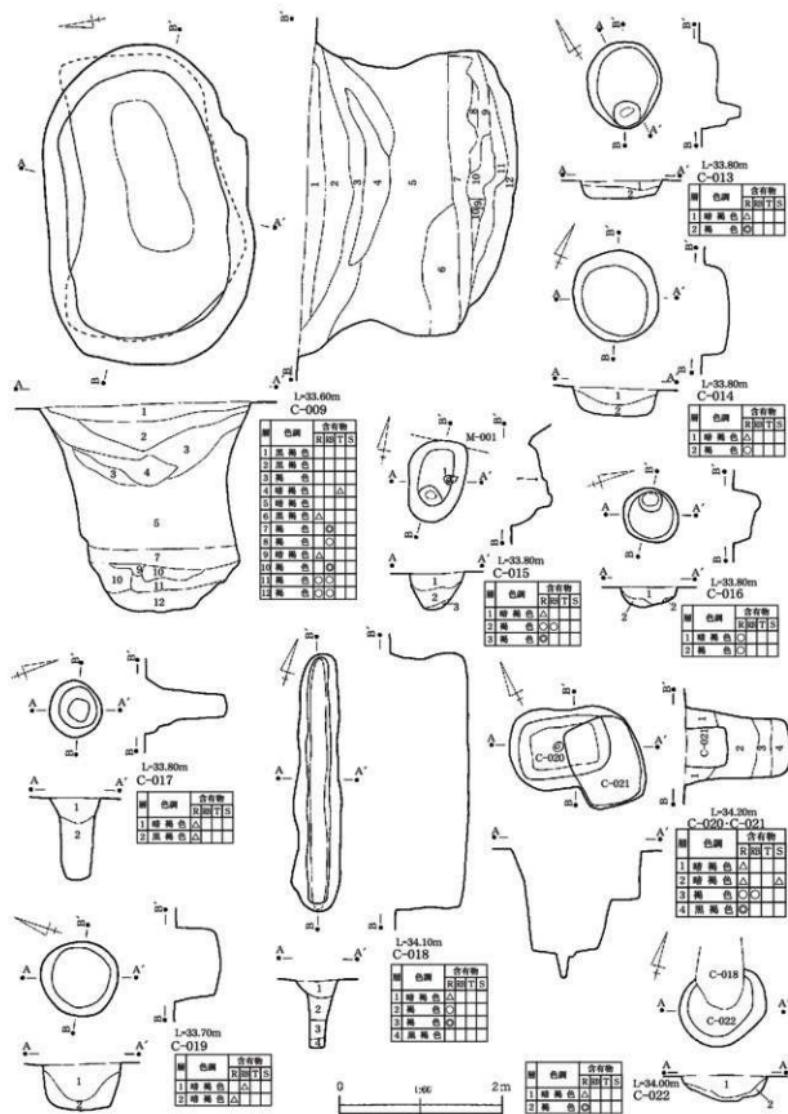
第52表 土墳計測表②

番号	形態	グリッド	面積(cm)		深さ(m)	細分	時代	出土遺物	直視通過	備考
			上(北側×東側)	下(南側×西側)						
C-196	円錐形		22×16	64			古			
C-117	円錐形	53-43-c	81×32	43×40	27					
C-120	円錐形	53-43-a	128×38	103×38	25					
C-129	円錐形	53-43-b	62×40	33×34	23		後文	加賀利長式土器		
C-130	円錐形	53-43-b	53×36	41×26	33					
C-121	円錐形	53-29-c	59×37	42×30	45					
C-122	円錐形	53-29-d	138×125	100×107	35					
C-123	円錐形	53-29-e	118×100	85×75	25					
C-124	円錐形	53-29-f	79×45	56×40	23					
C-125	円錐形	53-45-a	84×77	71×63	32					
C-136	円錐形	53-45-b	116×108	90×83	36	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-127	円錐形	53-45-a	160×93	130×89	36	1-2				
C-128	円錐形	53-45-c	115×84	91×74	35					
C-129	円錐形	53-45-d	113×83	90×73	35					
C-130	円錐形	53-45-b	168×136	132×81	36					C-130
C-131	円錐形	53-45-b	67×52	46×34	25					
C-132	円錐形	53-45-c	114×112	90×83	32	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-133	円錐形	53-45-c	114×112	90×83	32	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-134	円錐形	53-34-c	93×65	77×47	45	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-135	円錐形	53-34-c	89×77	70×64	23	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-136	円錐形	53-34-c	77×75	66×47	22					
C-137	円錐形	53-45-c	79×76	54×48	36	8-1				
C-138	円錐形	53-45-c	114×108	91×85	36	8-1				
C-139	圓錐形	53-34-c	117×95	111×81	41	8-1-2				
C-140	円錐形	53-45-a	175×136	98×43	39	1-3				
C-141	円錐形	53-75-a	142×130	71×70	250	8-2				
C-142	圓錐形	53-75-b	296×196	234×102	96	8-3	直目・平安	土師器・石核		
C-143	圓錐形	53-75-b	313×216	268×108	128	8-3				
C-144	圓錐形	53-75-b	313×216	268×108	128	8-3				
C-145	圓錐形	53-75-c	176×96	130×45	25	1-5			D-003	
C-146	圓錐形	53-75-c	193×62	151×42	29	1-3-3				
C-147	圓錐形	67-73-d	197×77	122×35	40	1-3-3				
C-148	圓錐形	67-73-d	94×27	56×44	22	4-1				
C-149	圓錐形	67-73-d	111×71	71×33	31	4-1				
C-150	圓錐形	67-73-b	140×102	71×42	96	1-4-1				
C-151	円錐形	67-72-c	112×108	44×31	96	1-3-1				
C-152	円錐形	67-72-c	112×108	44×31	96	1-3-1				
C-153	円錐形	67-80-c	158×136	60×39	300	1-3-1				
C-154	圓錐形	67-80-c	151×136	60×39	300	1-3-1				
C-155	圓錐形	67-80-c	101×107	75×40	35	2-2				
C-156	圓錐形	67-80-c	114×107	75×40	35	2-2				
C-157	圓錐形	53-34-d	123×74	87×49	36	1-2				
C-158	圓錐形	67-80-b	102×56	72×44	25					
C-159	円錐形	67-81-c	714×72	52×31	31					
C-160	圓錐形	67-81-d	152×128	90×65	182	1-2				
C-161	圓錐形	67-81-d	152×128	90×65	182	1-2				
C-162	圓錐形	53-28-c	156×92	116×49	42	1-2-2			D-003	
C-163	圓錐形	67-35-c	148×130	68×38	95	1-3-1				
C-164	圓錐形	67-14-c	117×122	70×58	113	1-4				
C-165	圓錐形	67-21-d	360×182	127×45	305	8-3				
C-166	圓錐形	67-21-d	360×182	127×45	305	8-3				
C-167	圓錐形	67-21-d	360×182	127×45	305	8-3				
C-168	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-169	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-170	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-171	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-172	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-173	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-174	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-175	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-176	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-177	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-178	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-179	圓錐形	67-21-d	372×182	131×45	30	8-3	後文	加賀利長式土器		
C-180	圓錐形	53-29-b	109×136	71×44	75	1-3				
C-181	圓錐形	67-72-a	72×45	25×22	30					
C-182	圓錐形	53-49-d	127×94	85×55	25	1-2-2				
C-183	圓錐形	53-79-c	145×139	93×91	20					
C-184	圓錐形	67-81-a	135×121	85×100	43	8-1				
C-185	圓錐形	67-81-a	135×121	85×100	43	8-1				
C-186	圓錐形	67-81-a	135×121	85×100	43	8-1				
C-187	圓錐形	53-29-a	90×65	58×39	25					
C-188	圓錐形	67-72-a	145×93	120×70	25					
C-189	圓錐形	67-72-a	145×93	120×70	25					
C-190	圓錐形	67-72-d	232×146	200×140	30					
C-191	圓錐形	67-72-d	232×146	200×140	30					
C-192	圓錐形	53-89-a	265×155	186×60	69	1-2-2				
C-193	圓錐形	53-90-d	399×54	47×35	12					
C-194	圓錐形	53-100-c	61×39	44×26	19					
C-195	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-196	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-197	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-198	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-199	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-200	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-201	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-202	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-203	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-204	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-205	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-206	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-207	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-208	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-209	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-210	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-211	圓錐形	67-81-d	117×92	70×50	300	1-2				
C-212	圓錐形	53-1-c	115×108	87×55	64	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-213	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-214	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-215	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-216	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-217	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-218	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-219	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-220	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-221	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-222	圓錐形	67-100-a	155×140	112×119	54	8-1	後文	加賀利長式土器		
C-223	圓錐形	67-21-b	80×25	60×52	30					
C-224	圓錐形	53-34-b	138×109	100×66	135	1-2	後文			
C-225	圓錐形	53-34-b	203×132	150×89	50	後文				

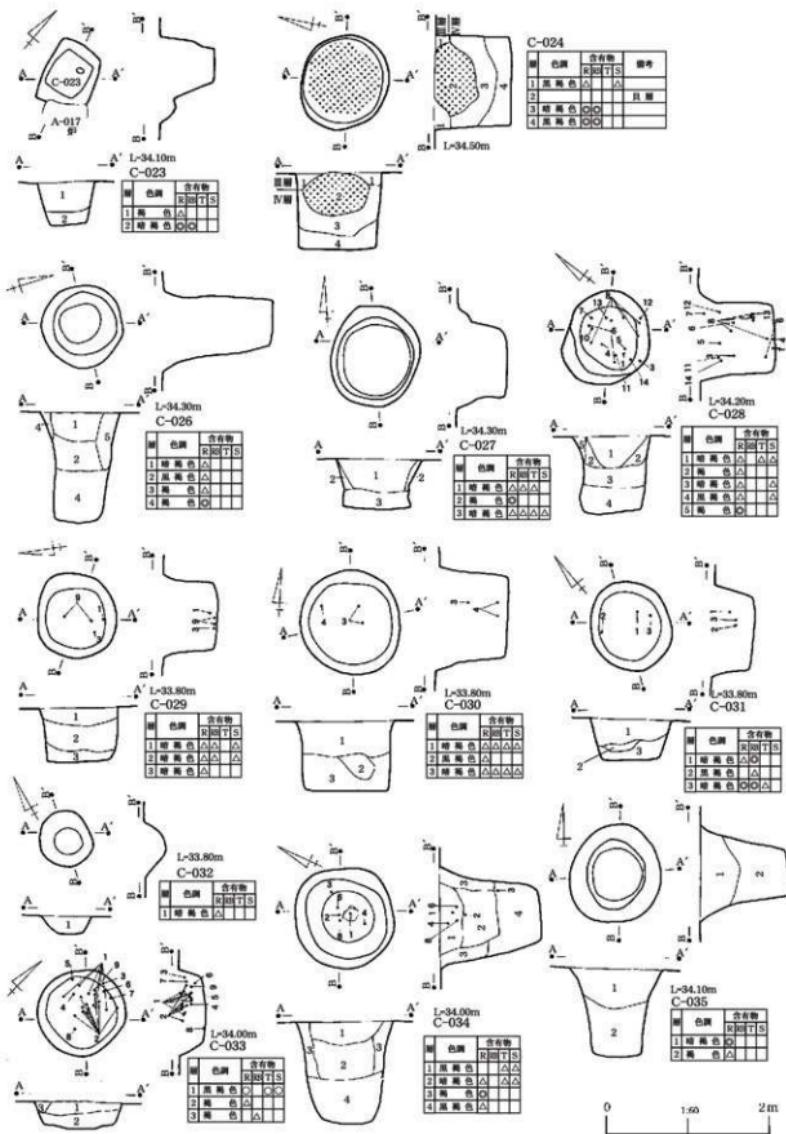
第53表 土壌計測表③



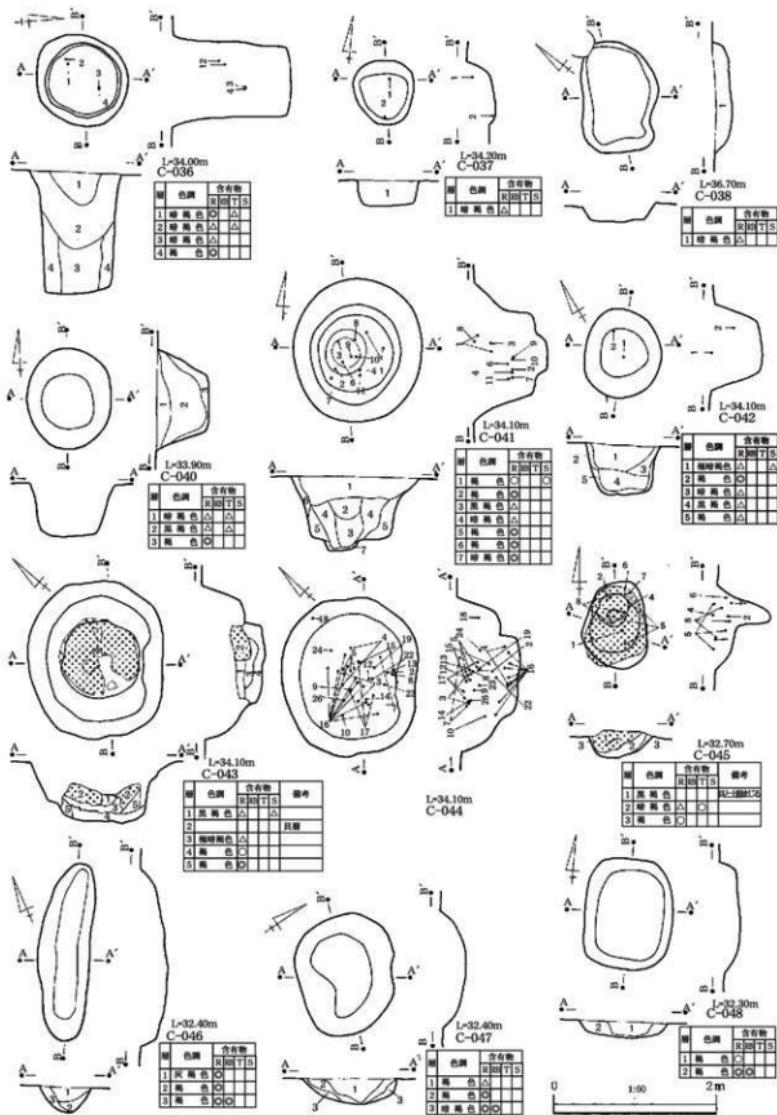
第153図 C-002~008・010~012



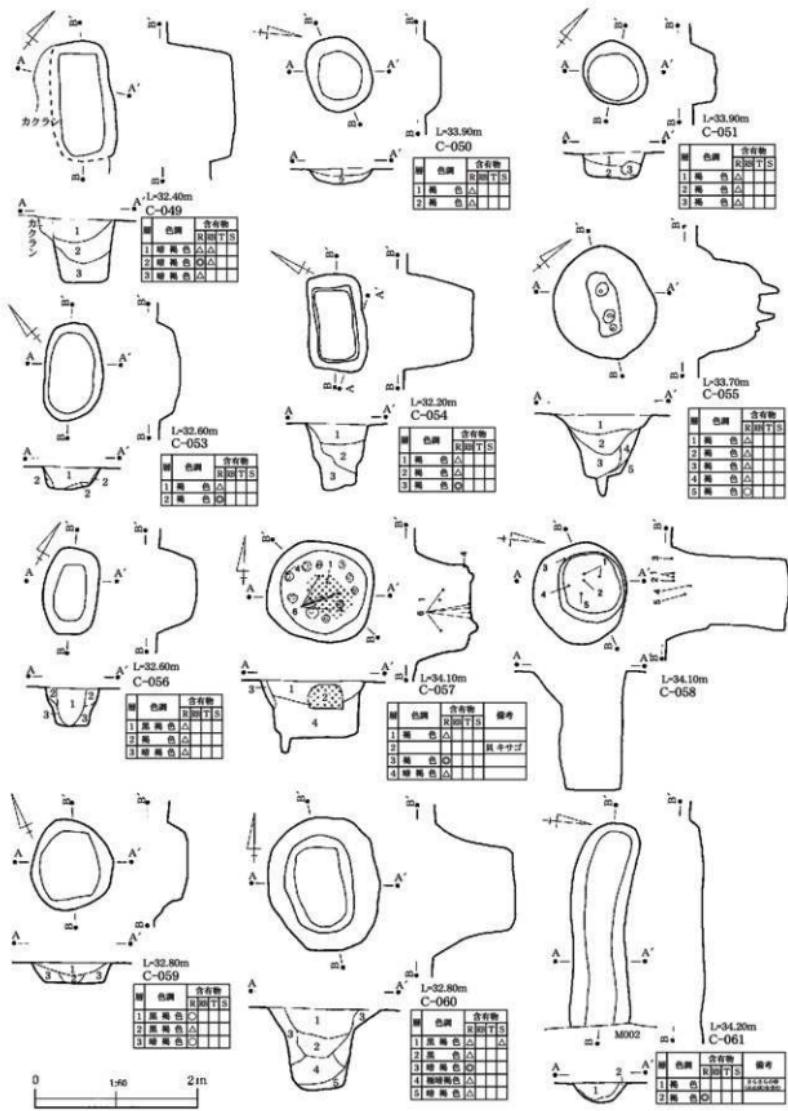
第154図 C-009~013~019~021~022



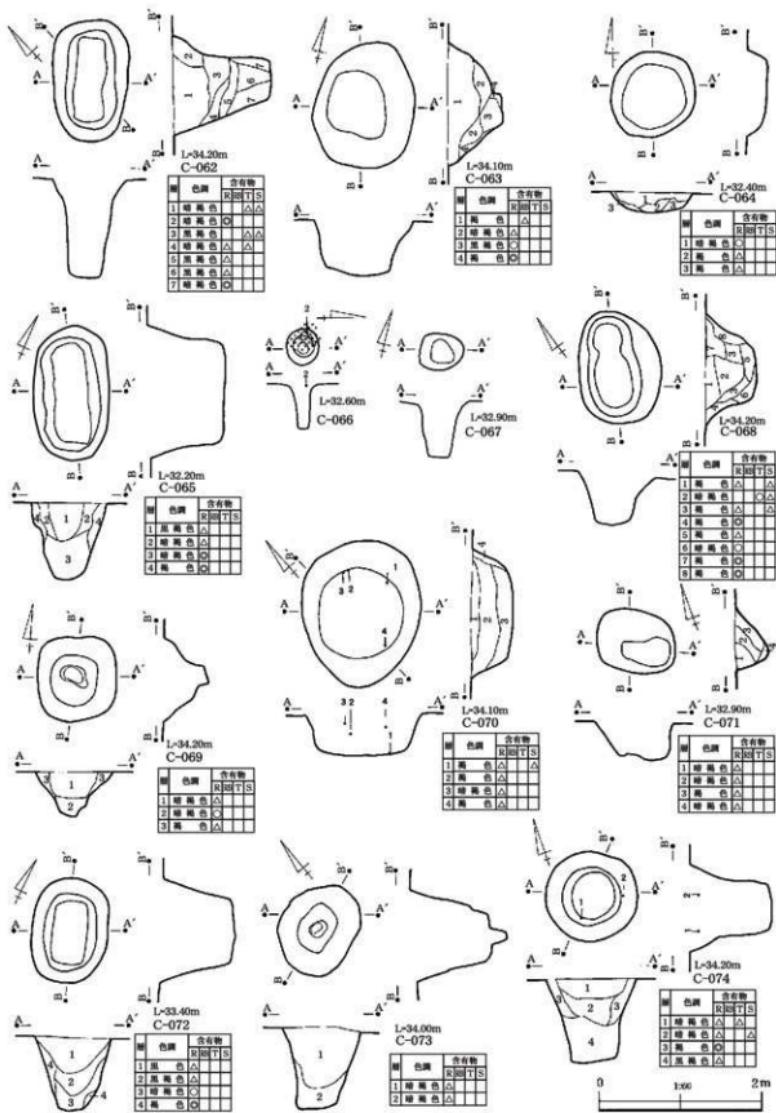
第155図 C-023・024・026~035



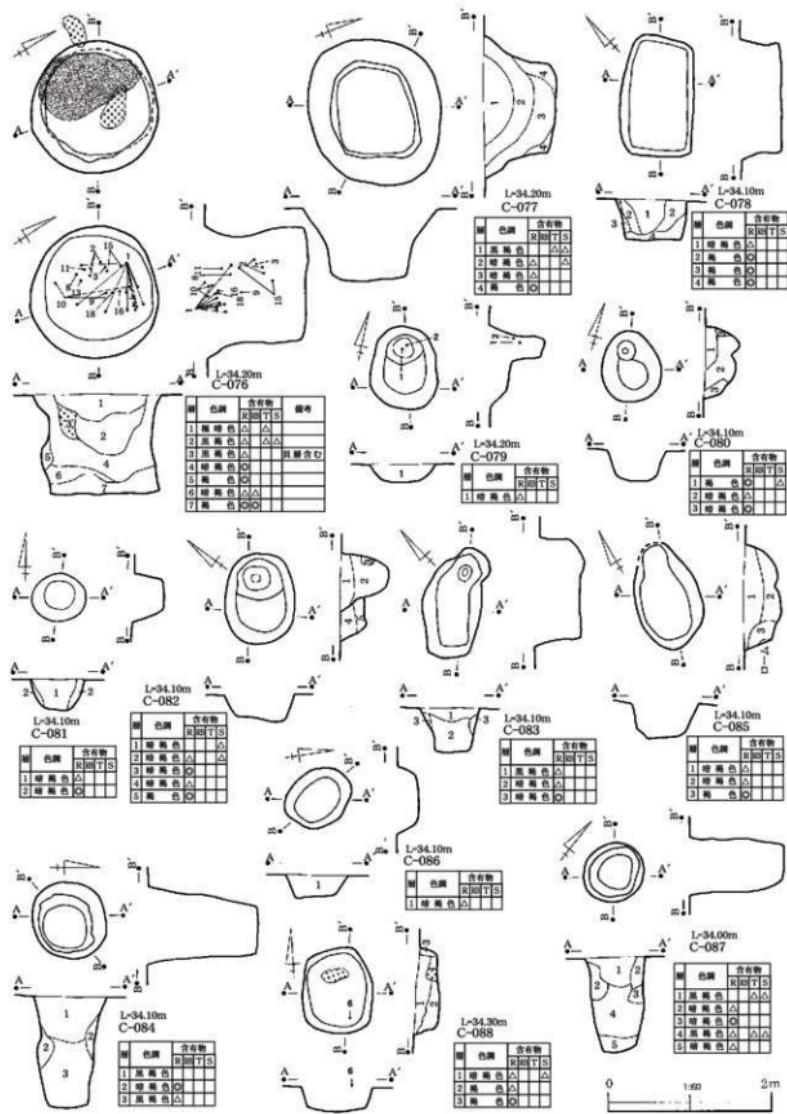
第156図 C-036~038·040~043·045~048



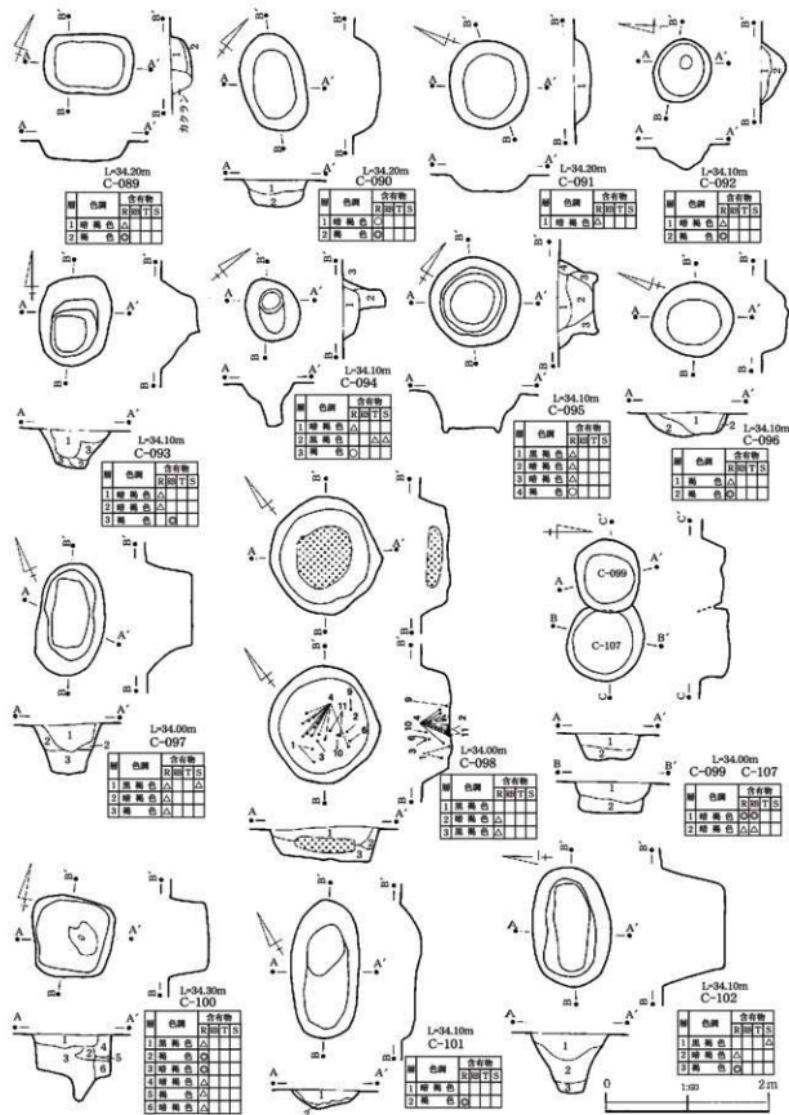
第157図 C-049~051・053~061



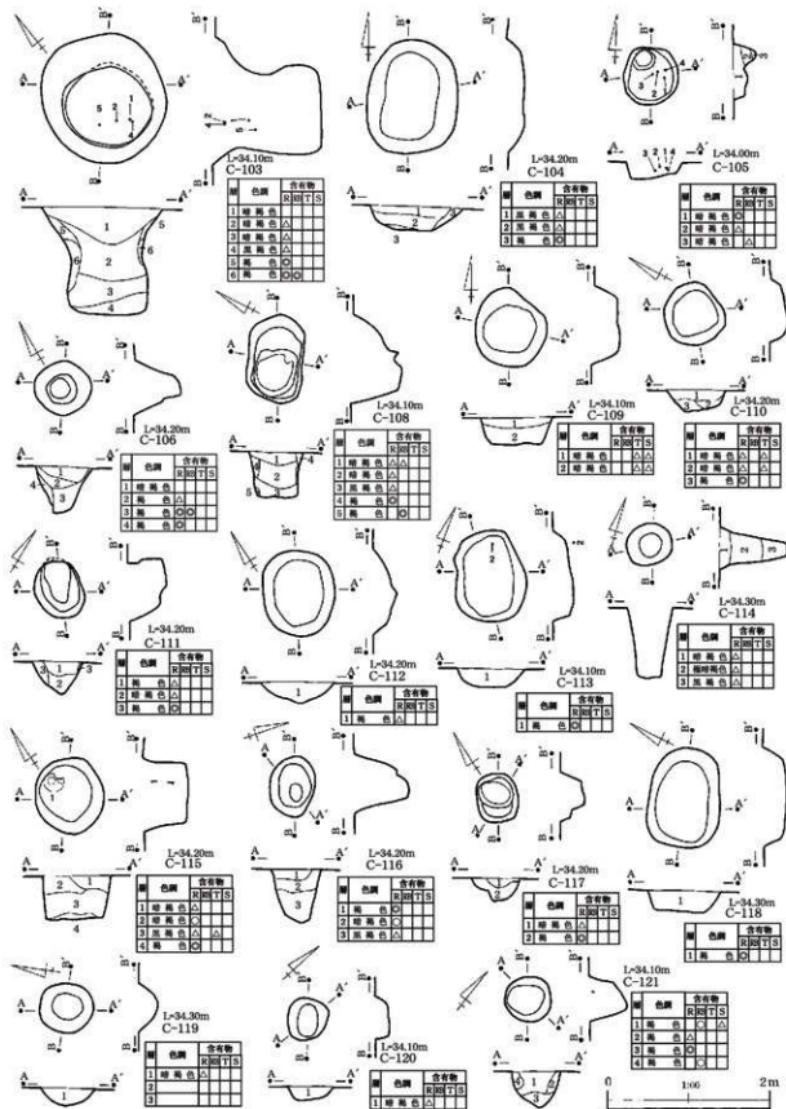
第158図 C-062~074



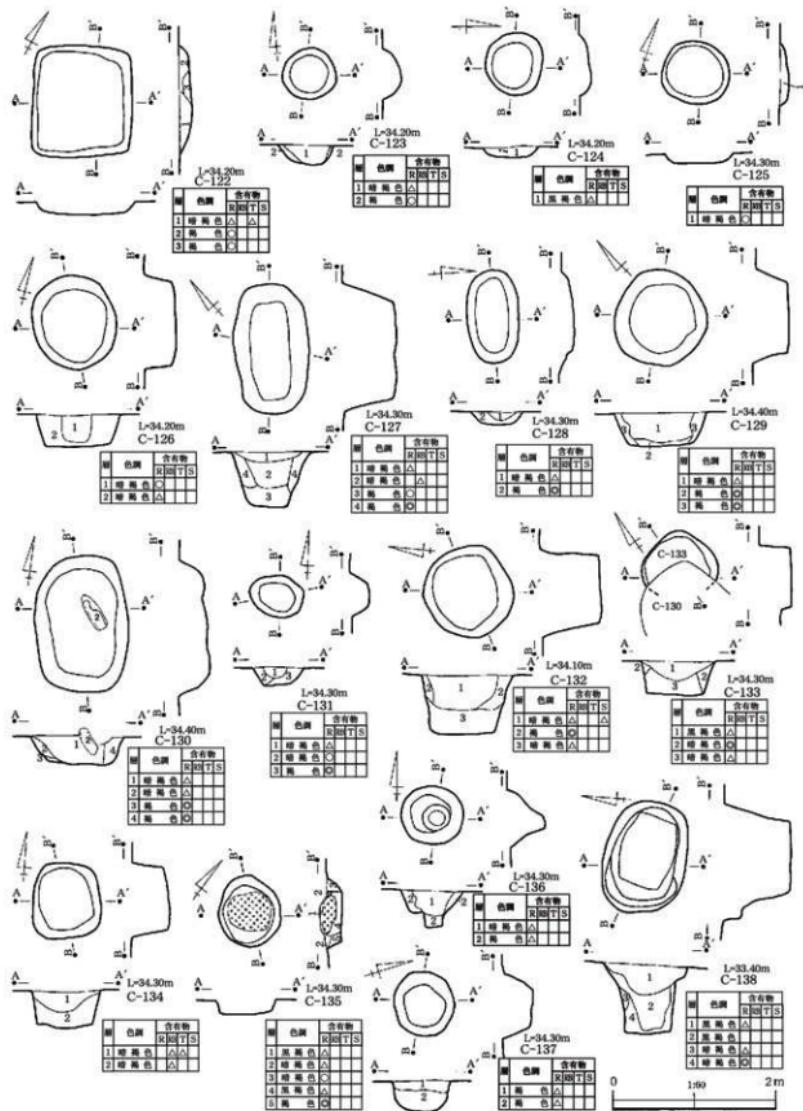
第159図 C-076~088



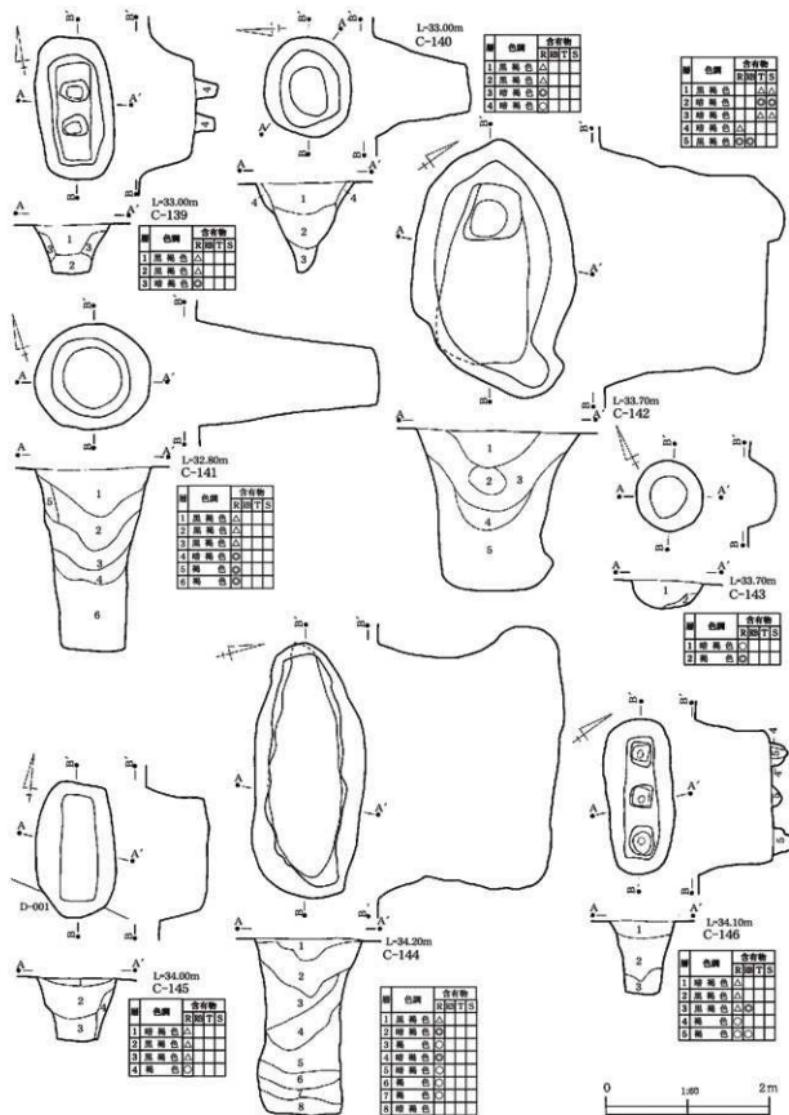
第160図 C-089~102·107



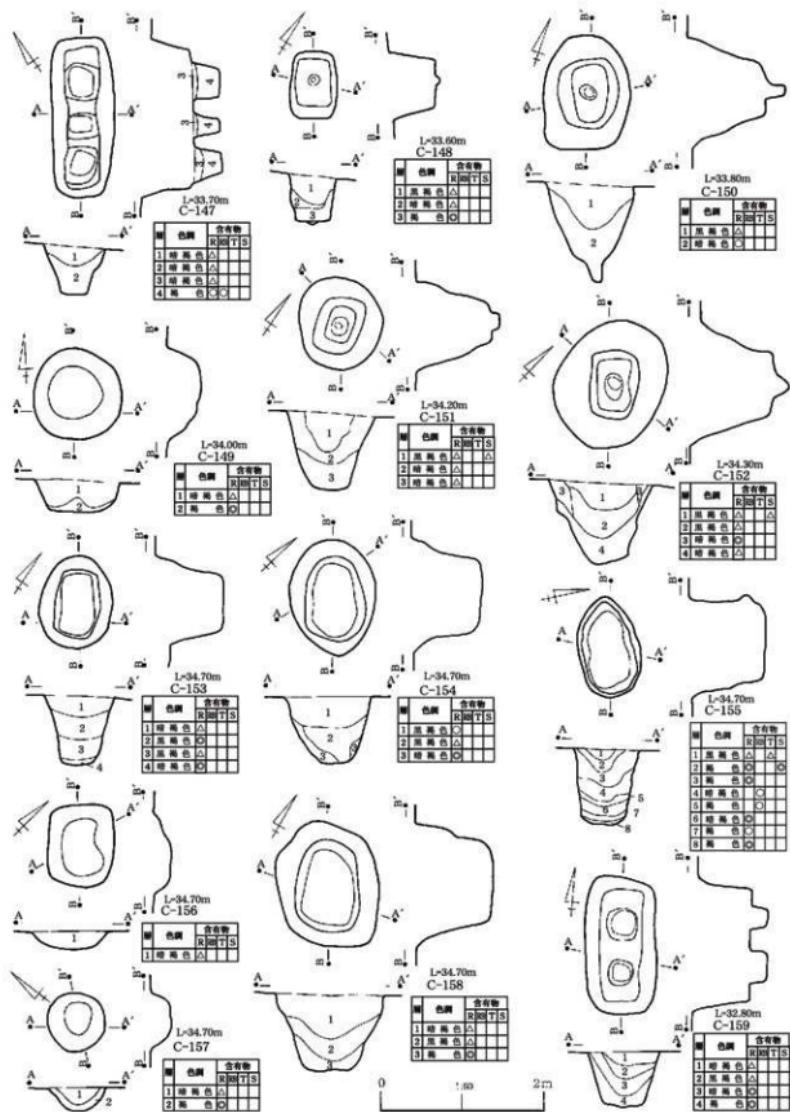
第161図 C-103~106・108~121



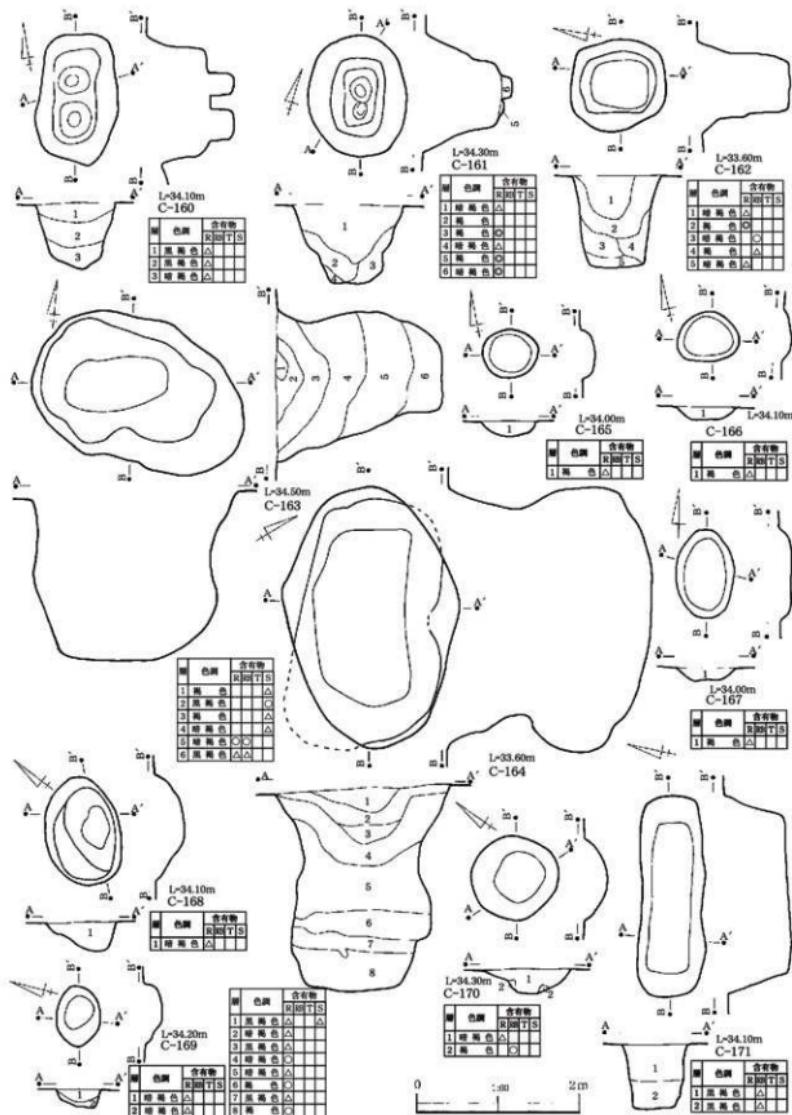
第162図 C-122~138



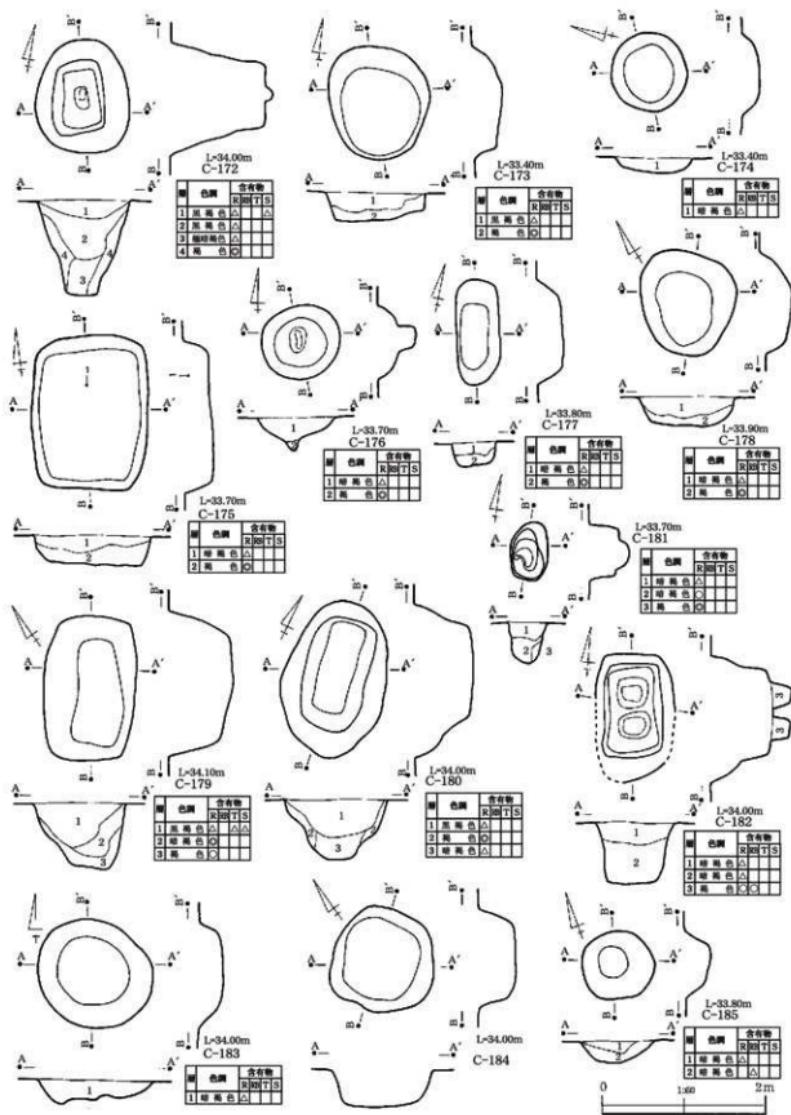
第163図 C-139~146



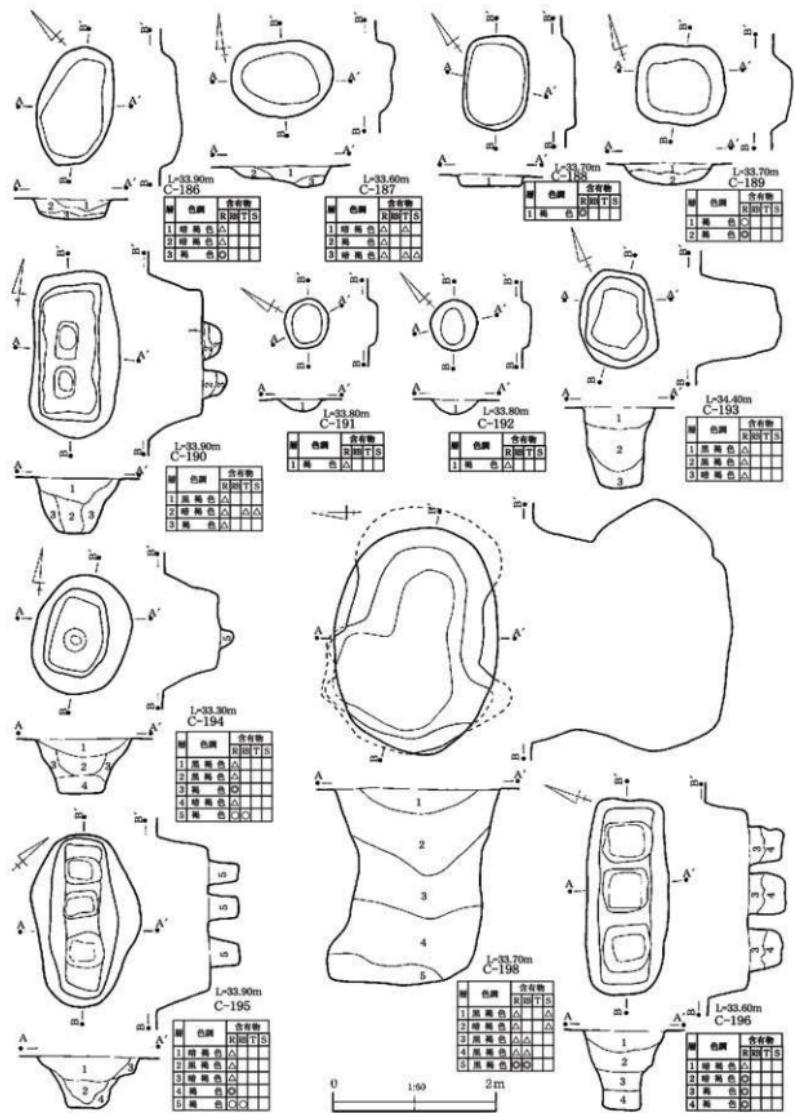
第164図 C-147~159



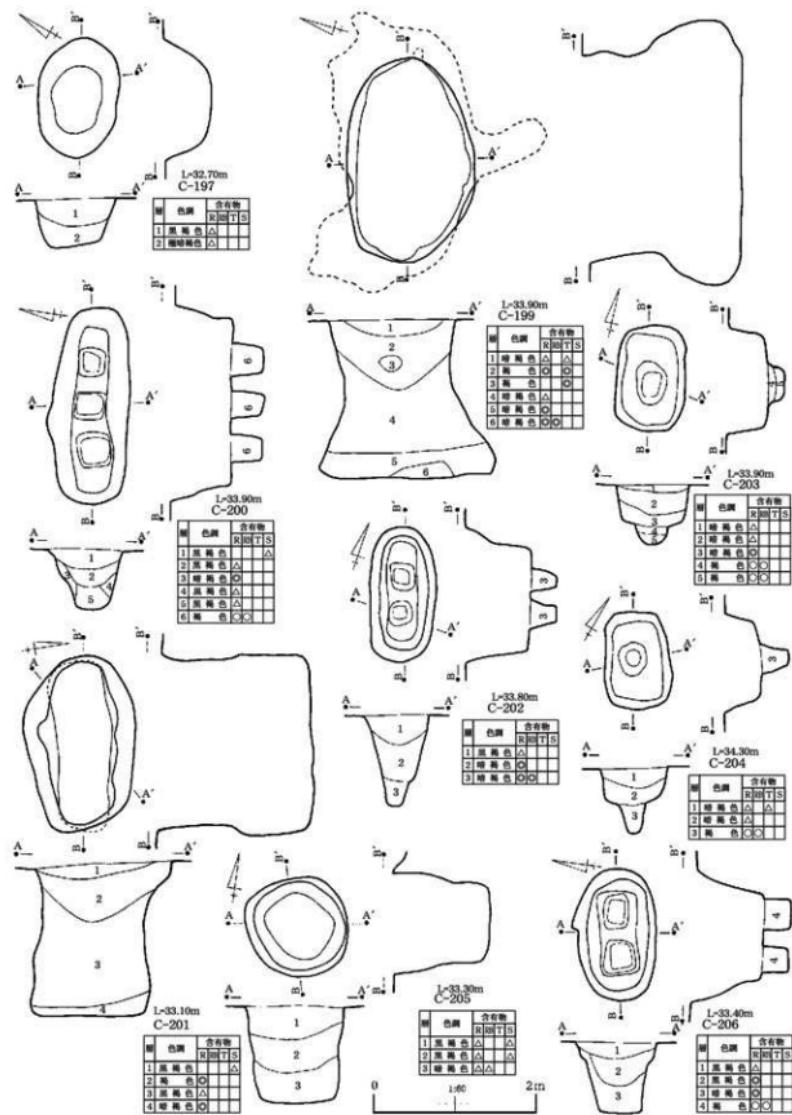
第165図 C-160~171



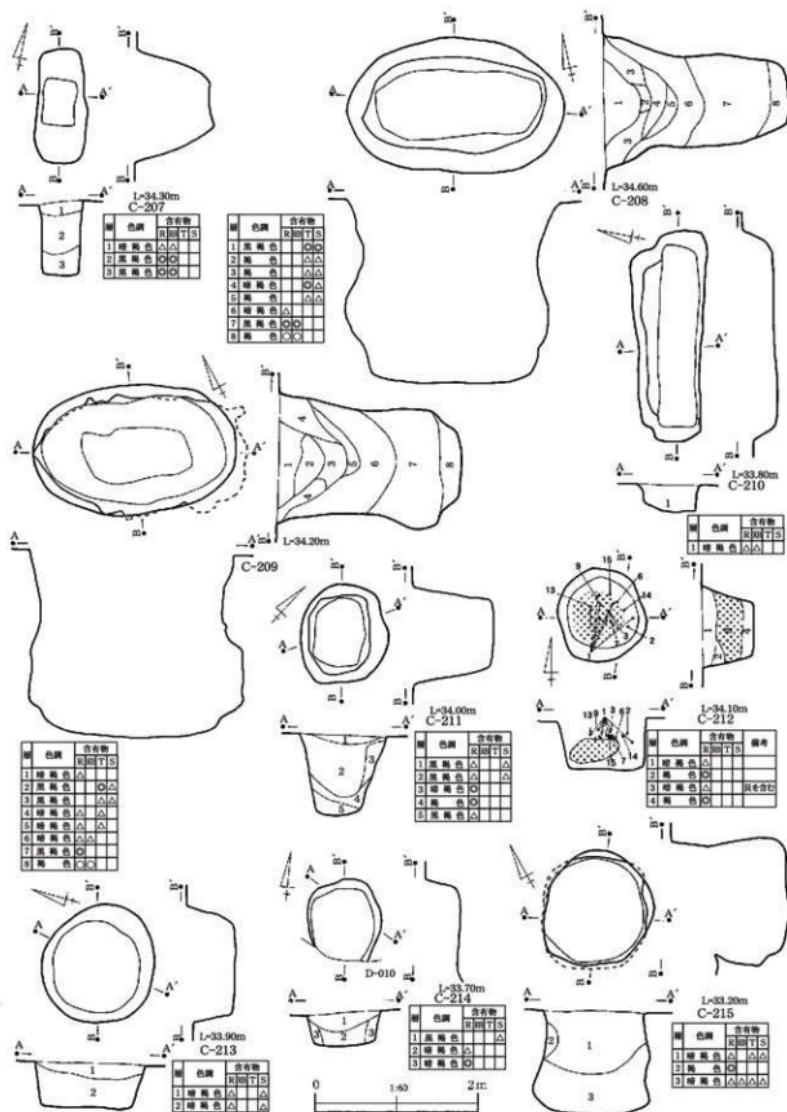
第166図 C-172~185



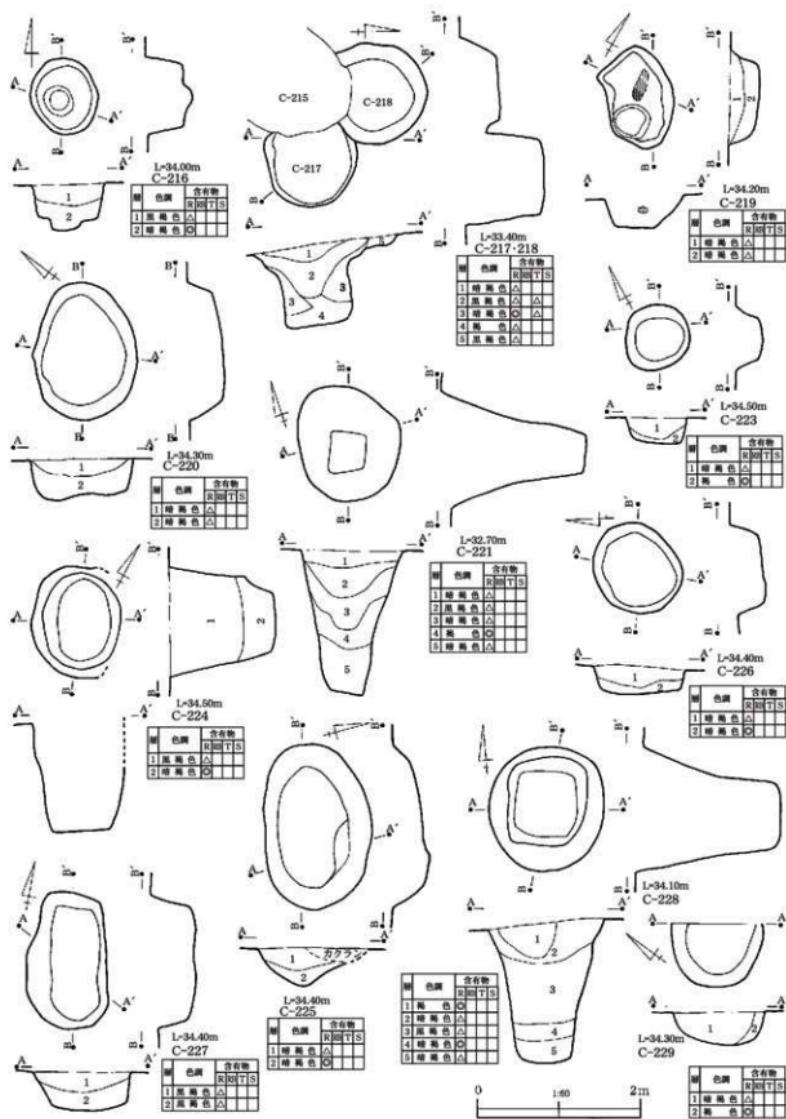
第167図 C-186~196·198



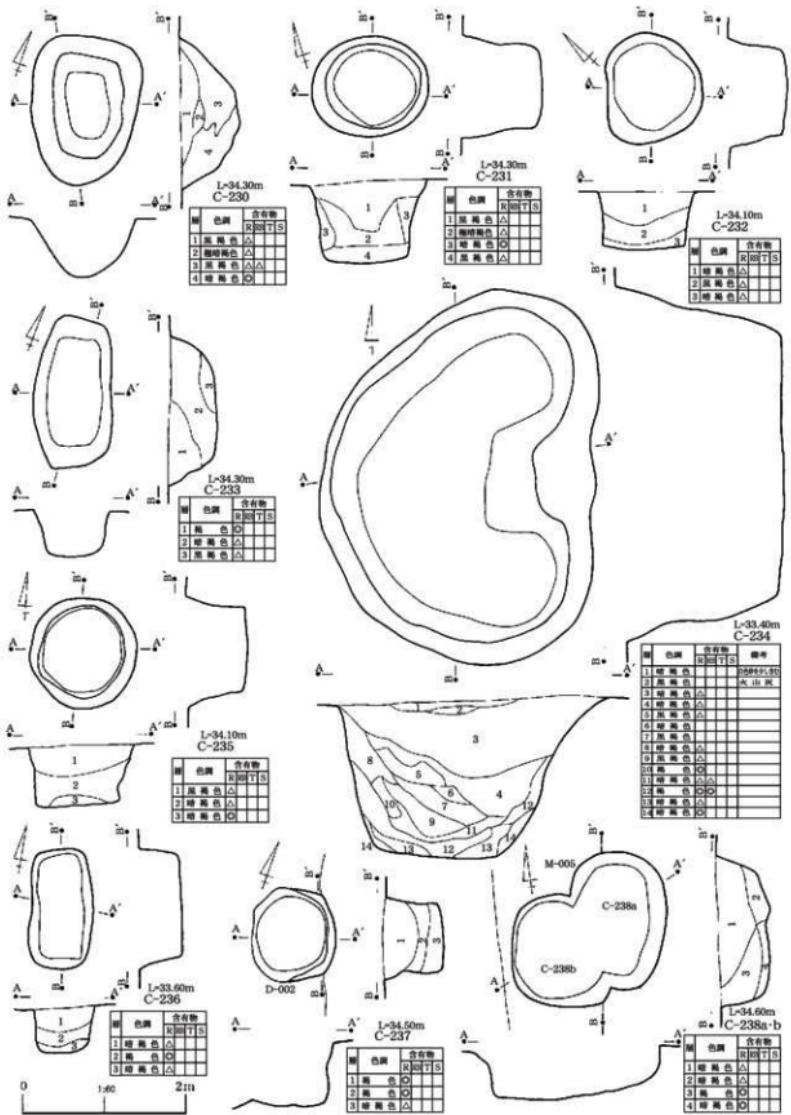
第168図 C-197・199~206



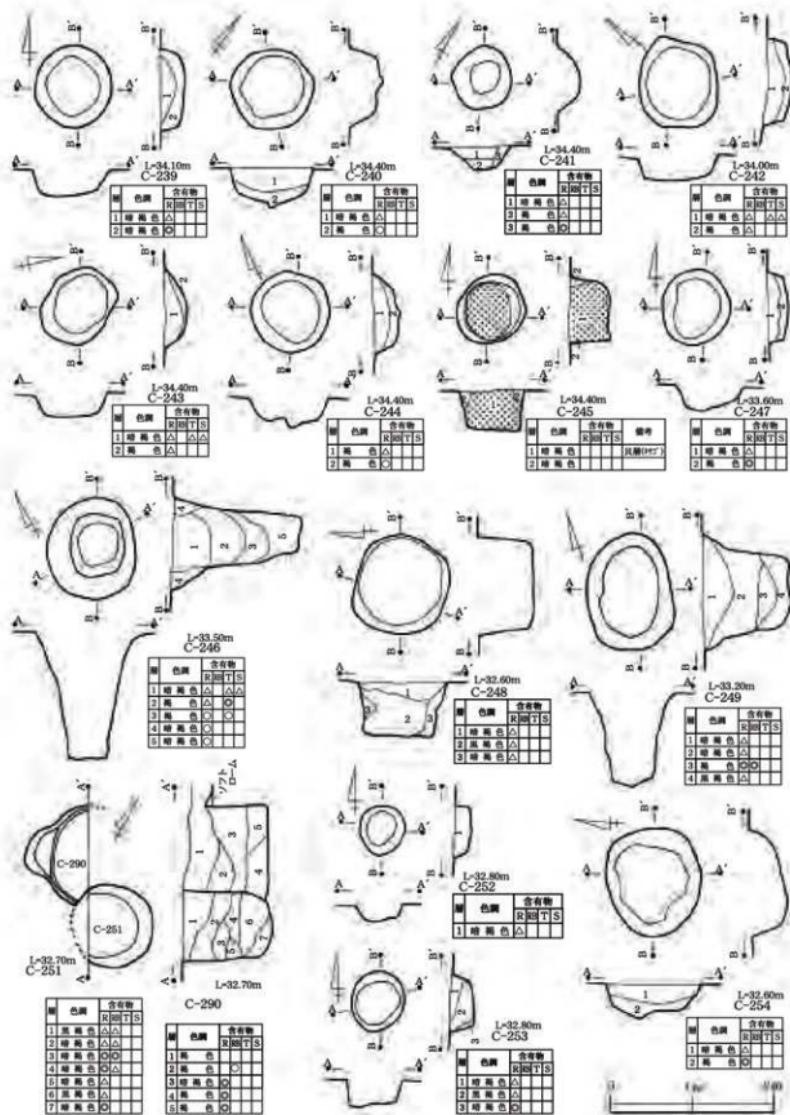
第169図 C-207~215



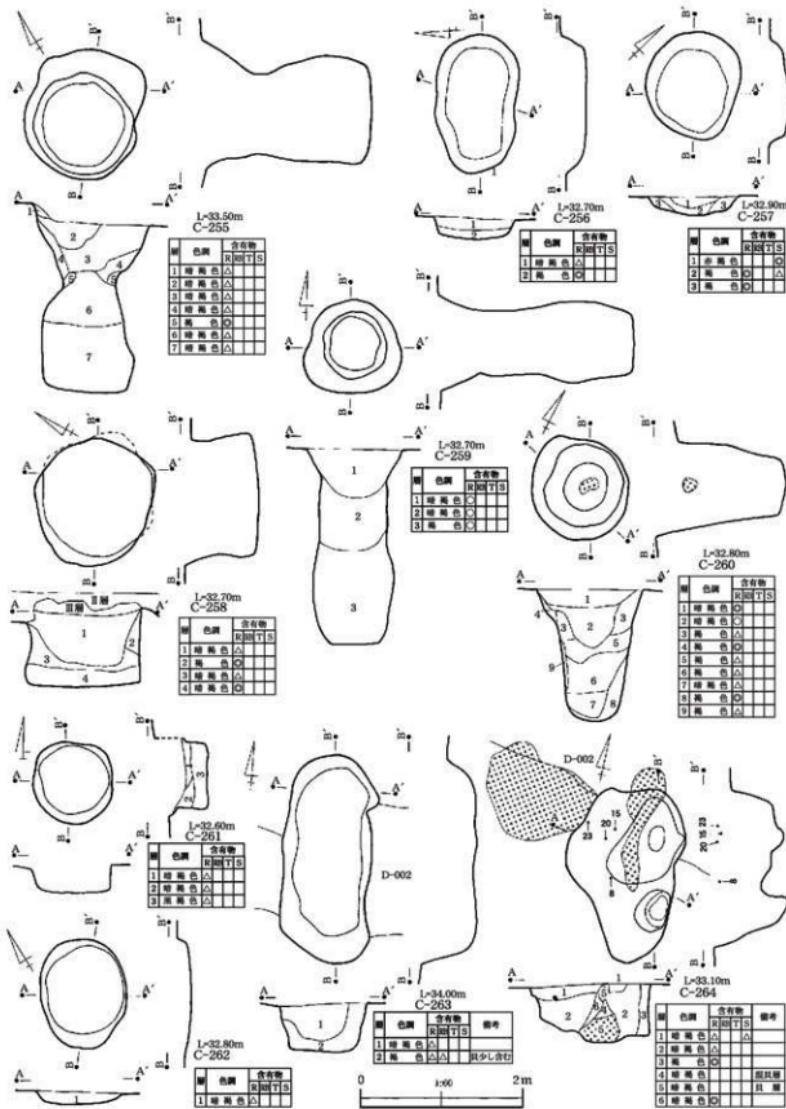
第170図 C-216~221・223~229



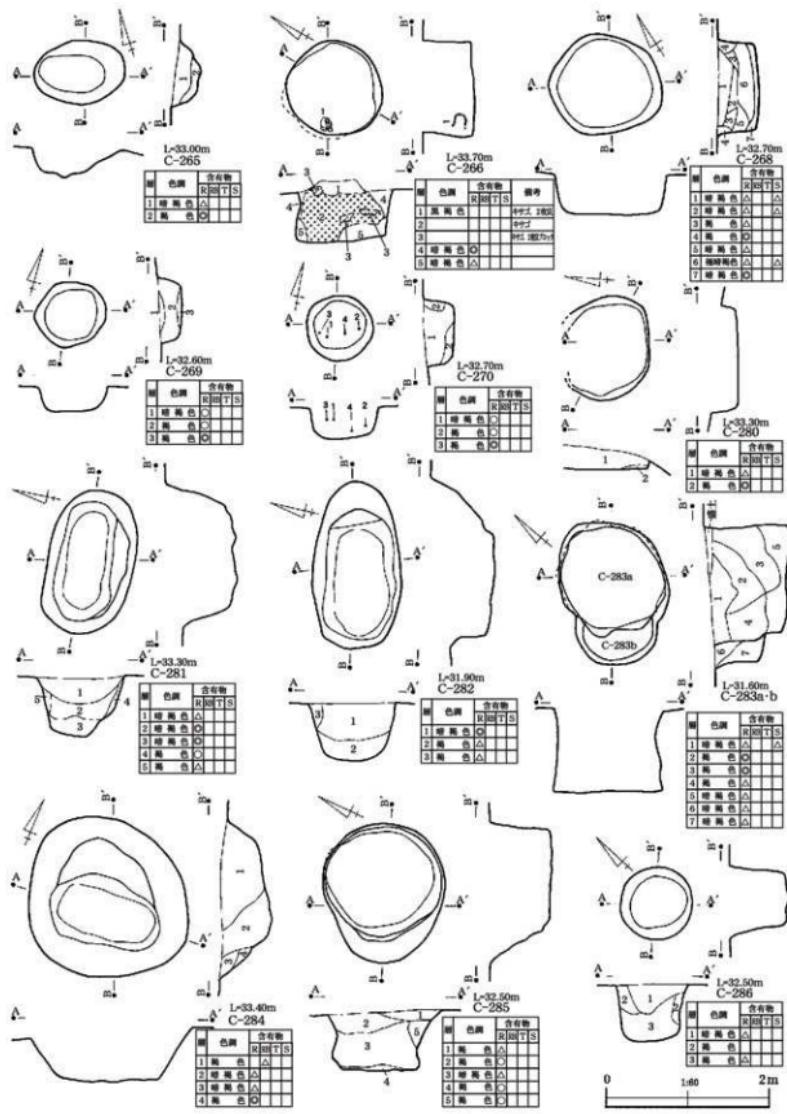
第171図 C-230~238a·b



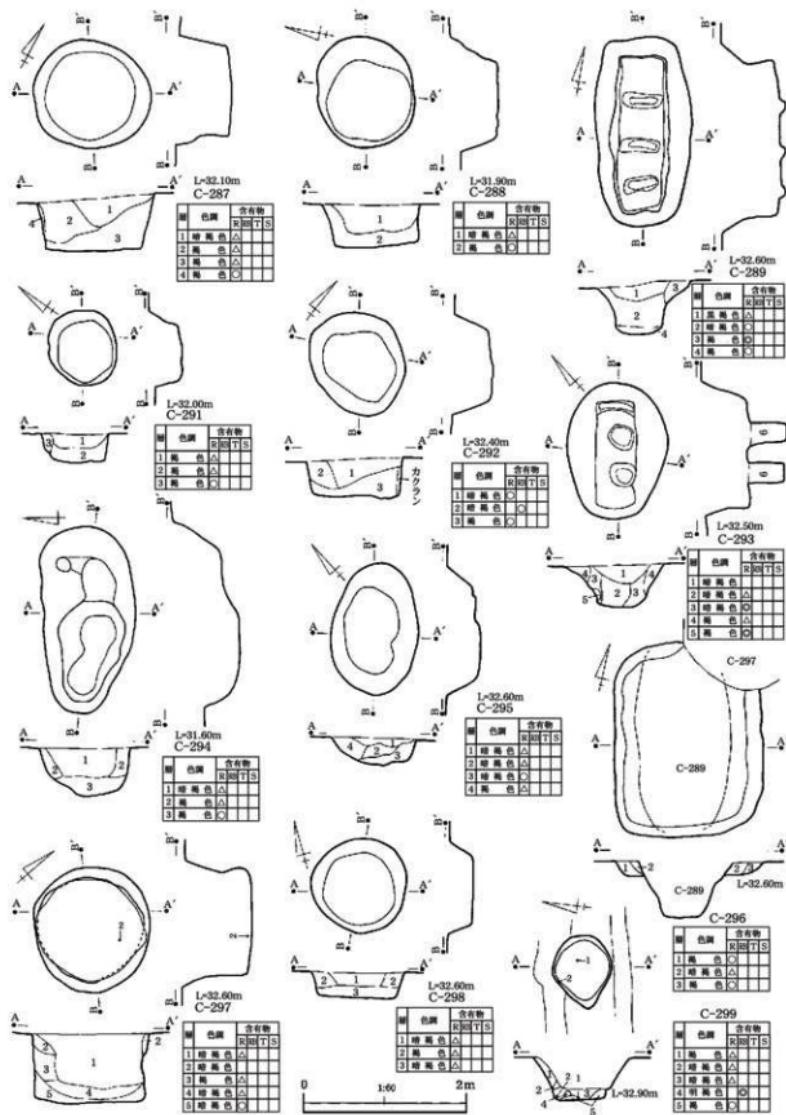
第172図 C-239~249・251~254・290



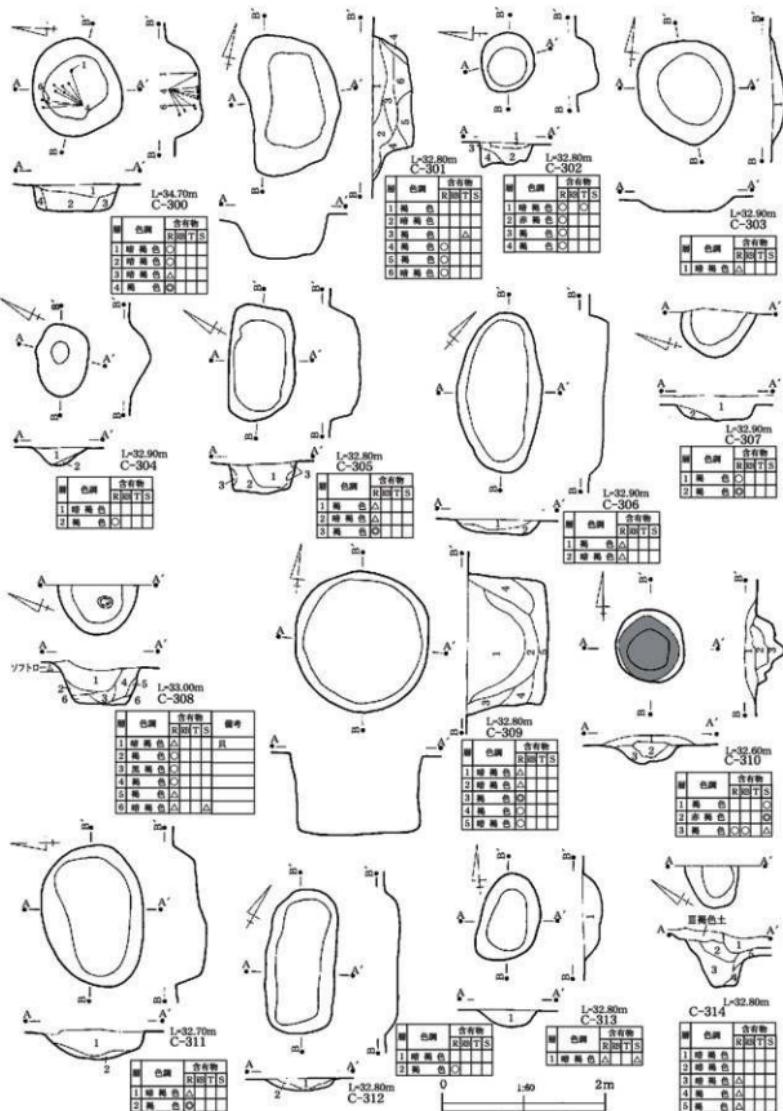
第173図 C-255~264



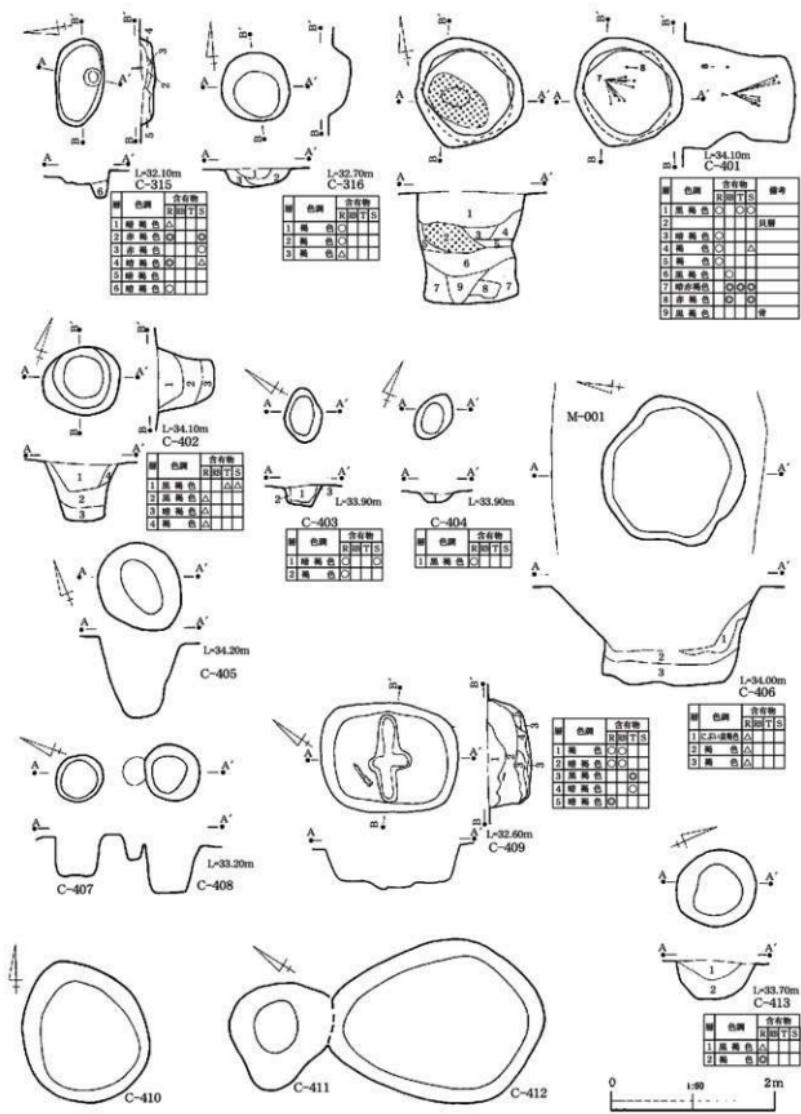
第174図 C-265・266・268~270・280~286



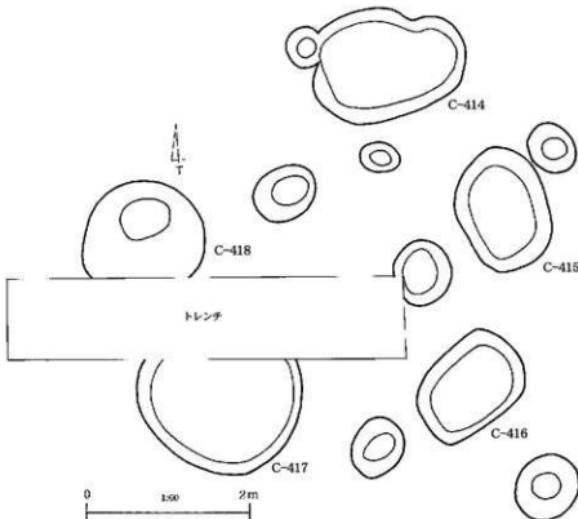
第175図 C-287~289・291~299



第176図 C-300~314



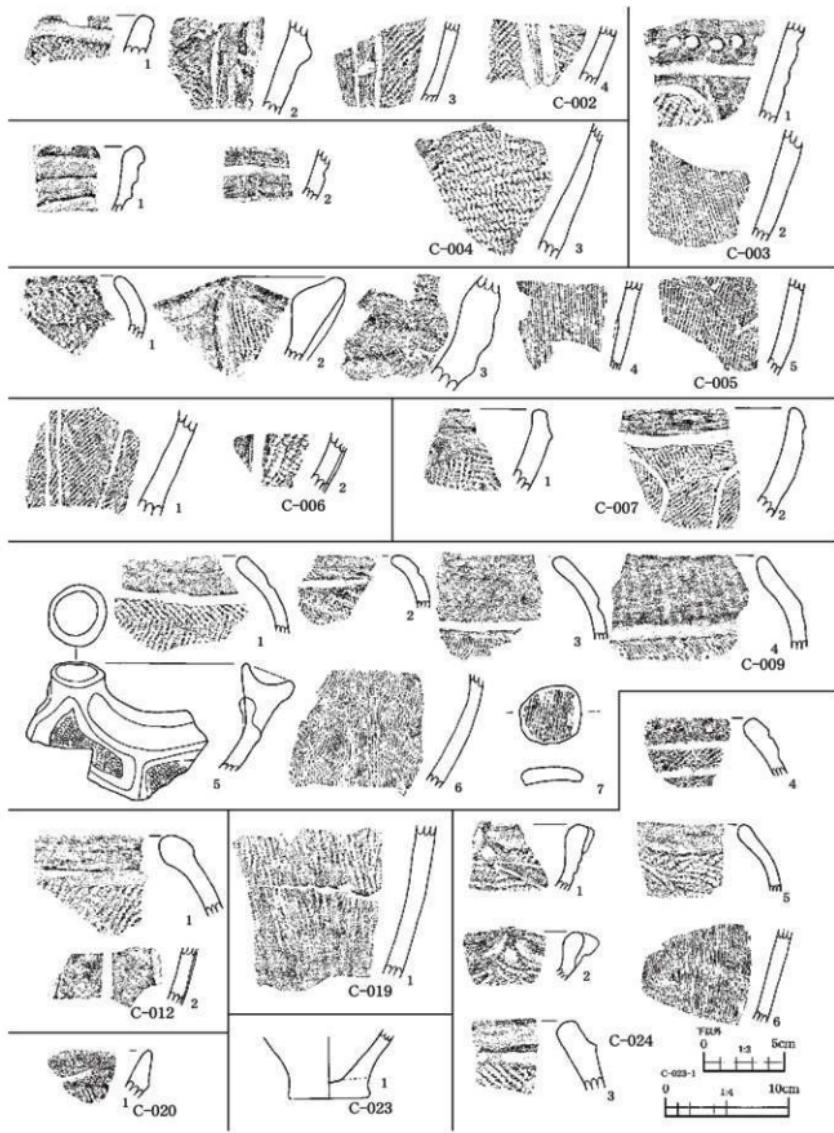
第177図 C-315・316・401~412



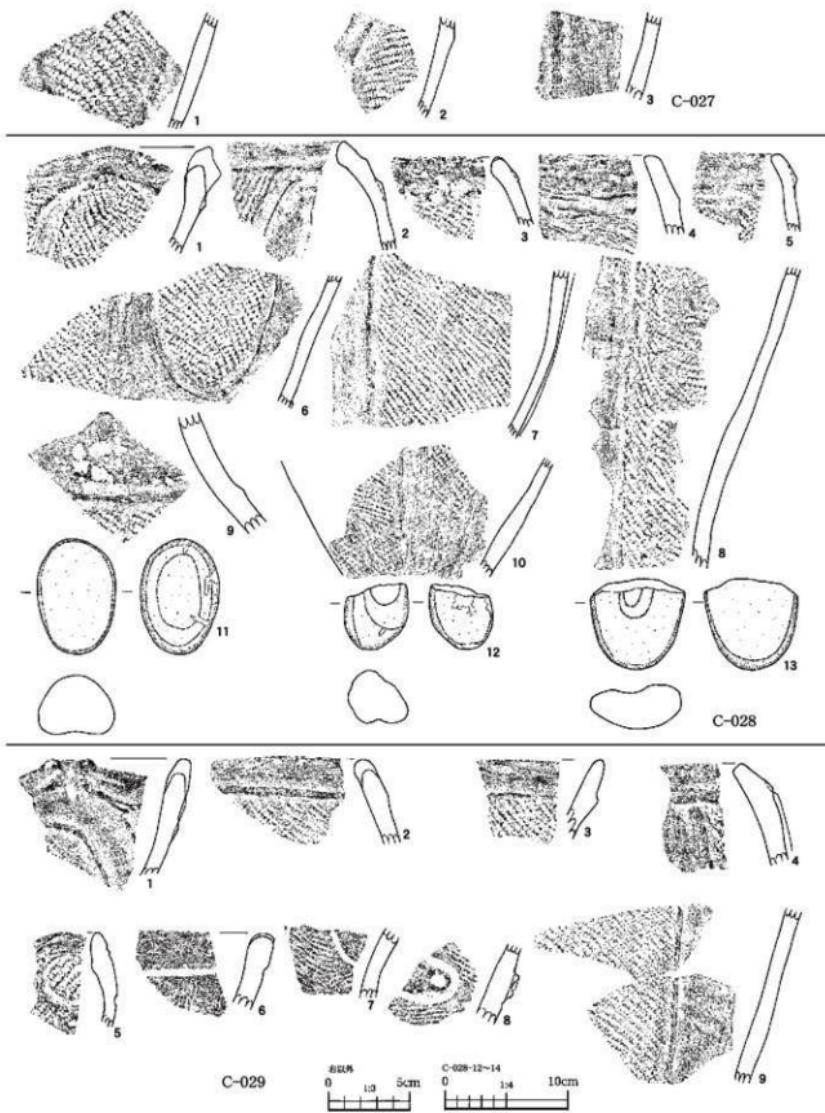
第178図 土壌群(C-414~418)

I-1	I-2	I-3	I-4	I-5	I-6	II-1
1						
2						
3						
						II-2
						II-3
						近世

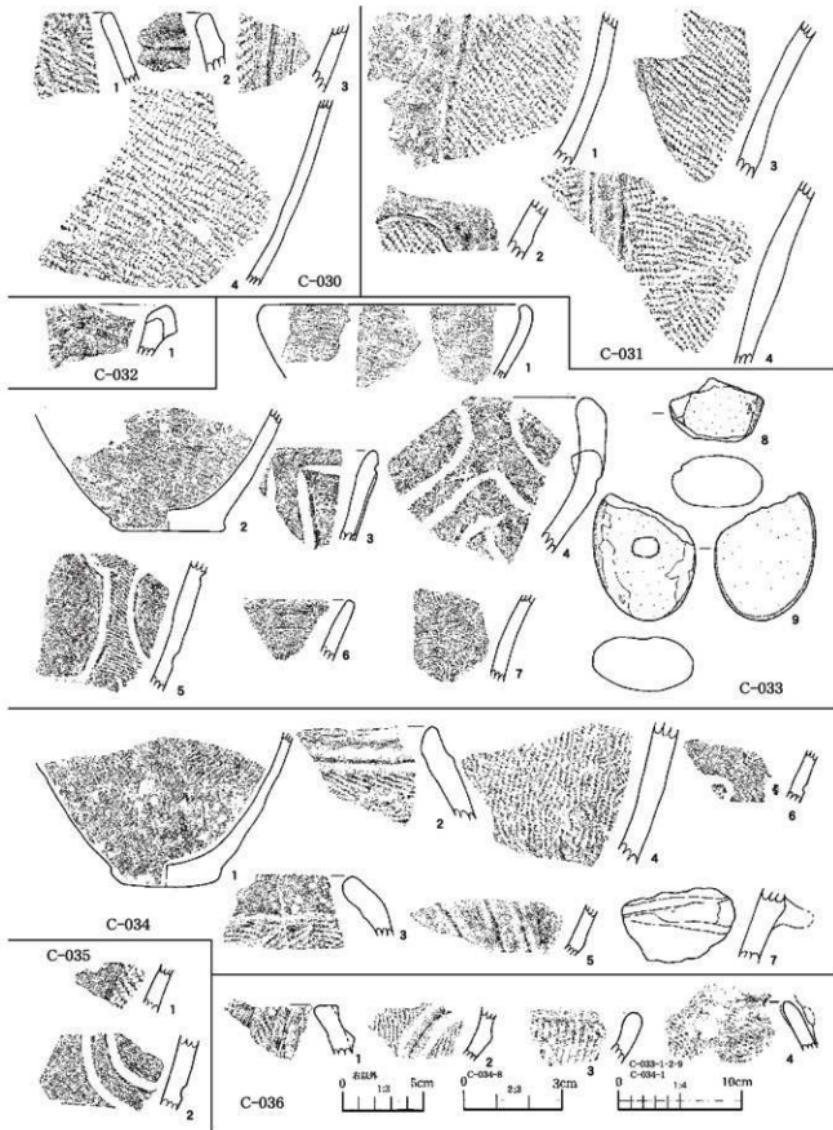
第179図 土壌類型図



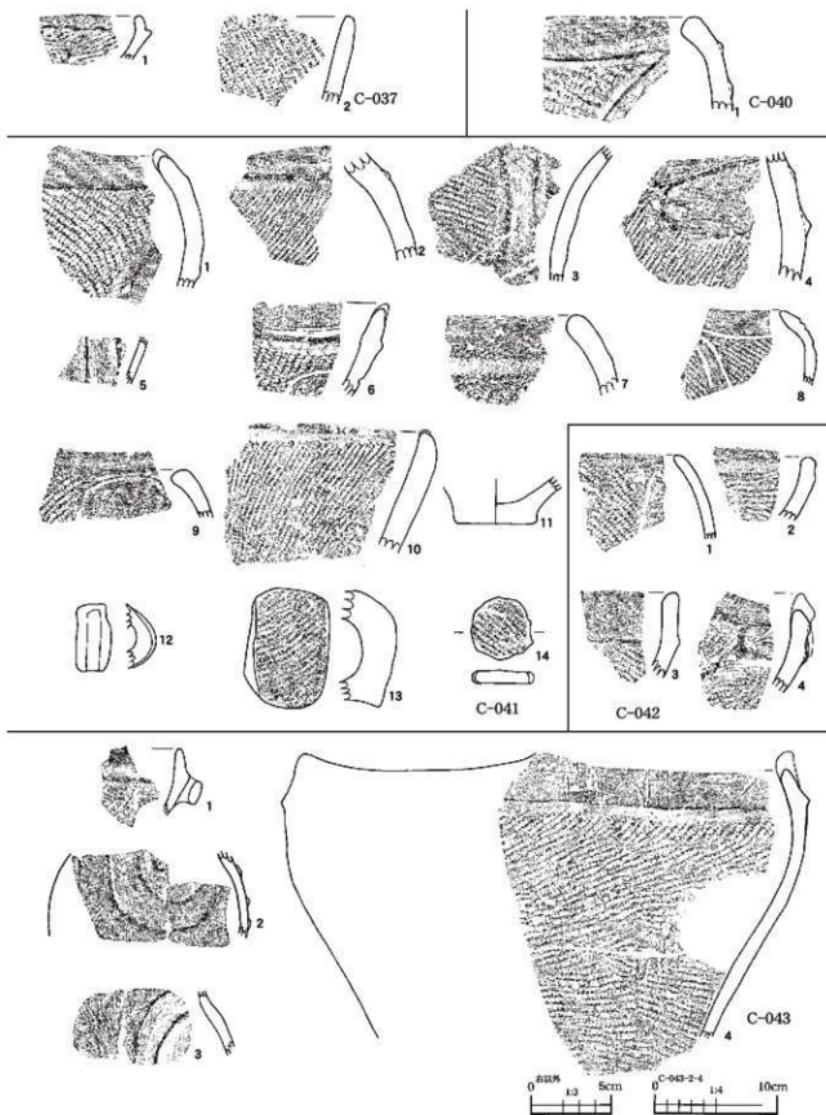
第180図 土壤出土遺物①



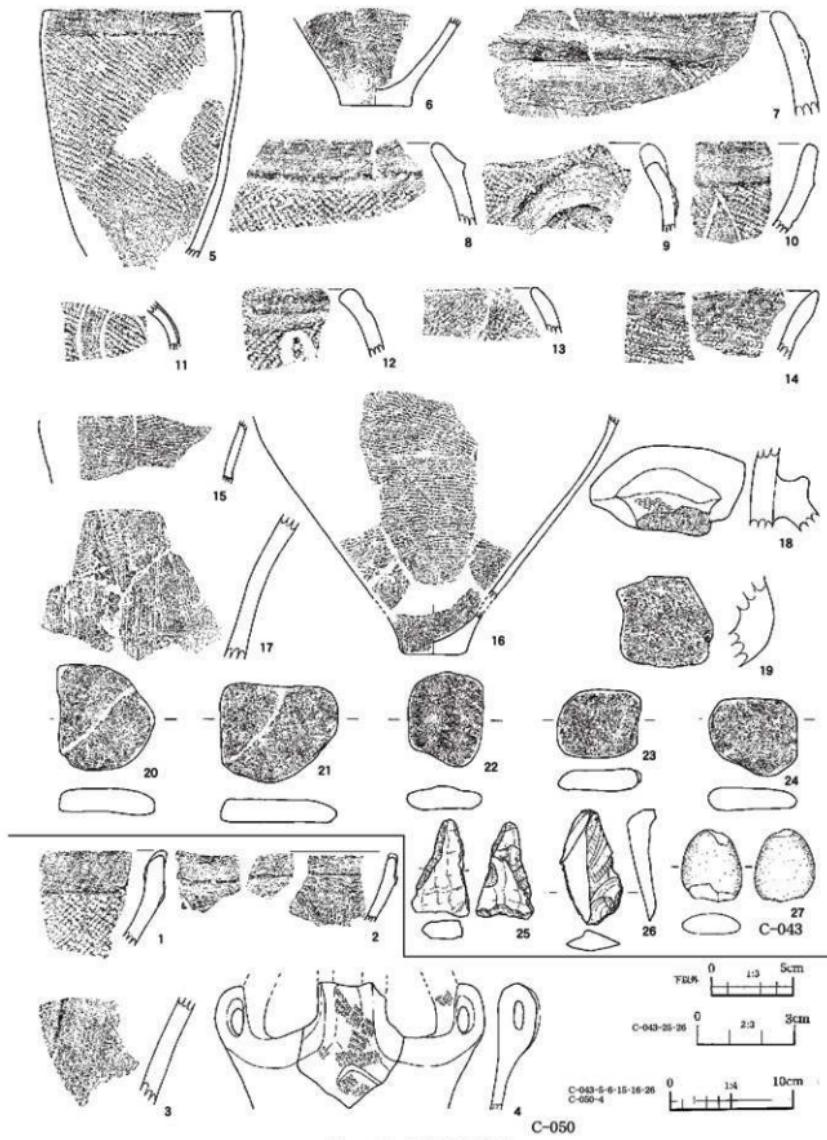
第181図 土壤出土遺物②



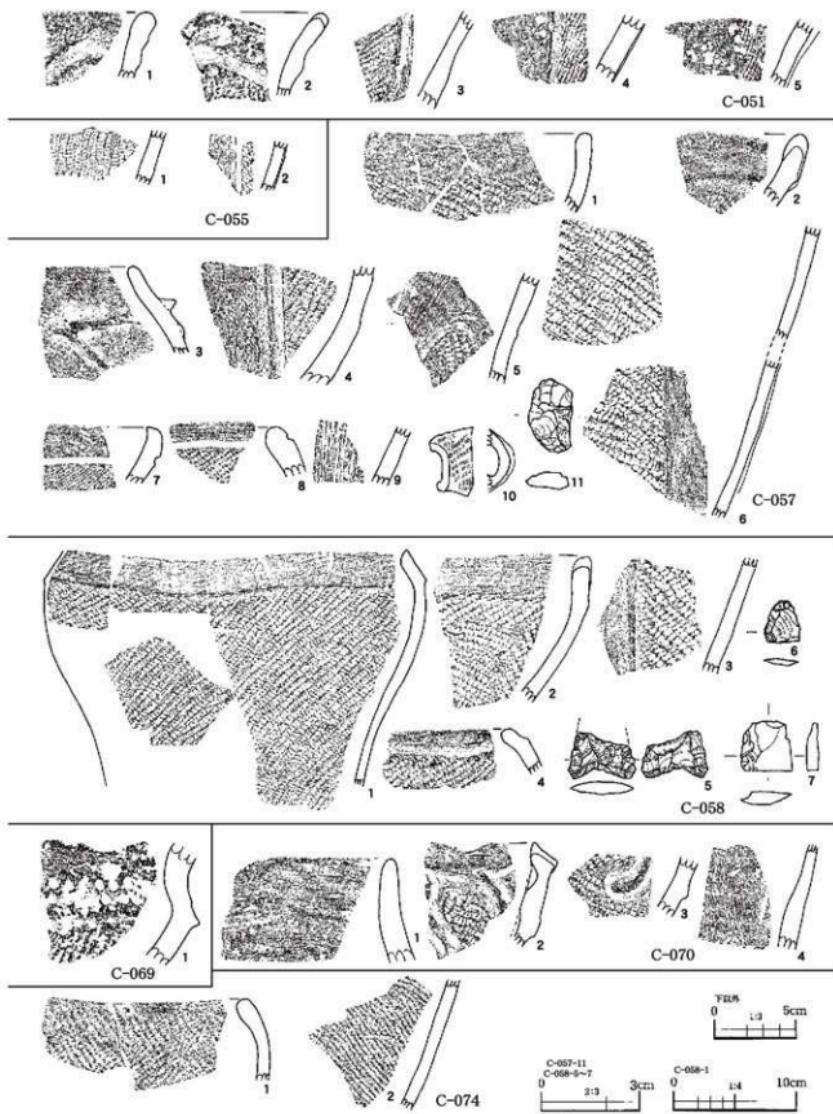
第182図 土壤出土遺物③



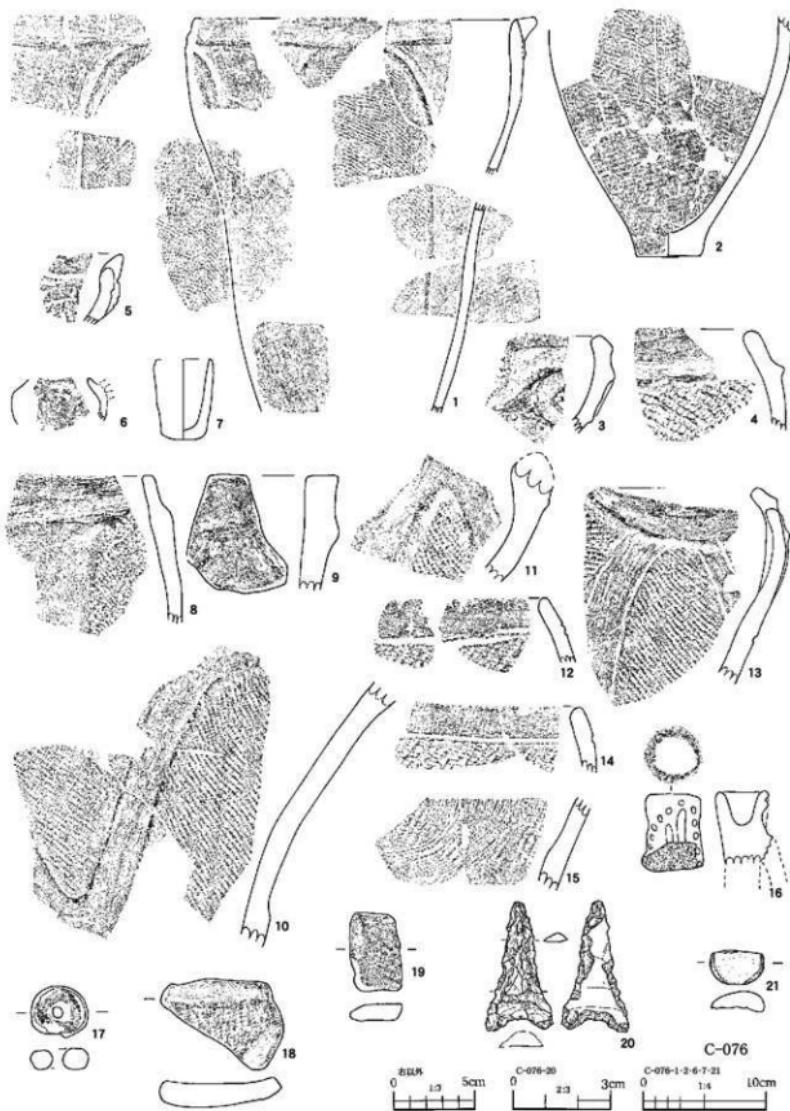
第183図 土壌出土遺物④



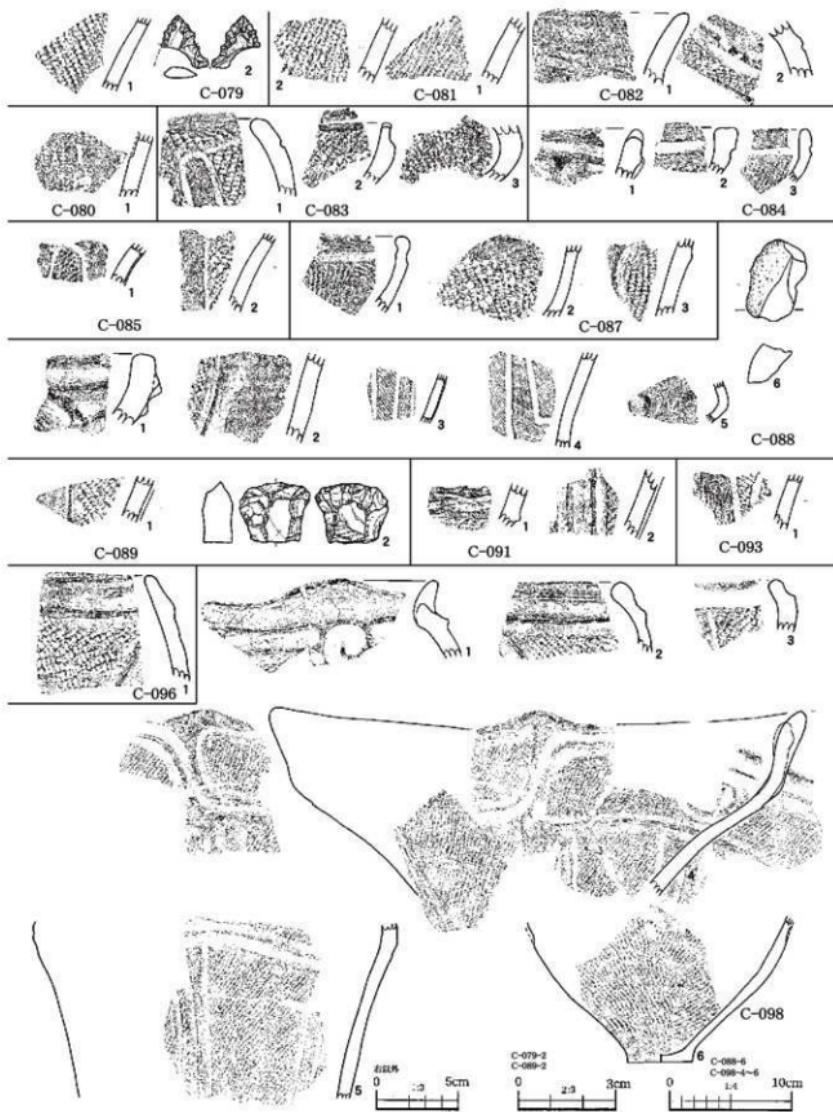
第184図 土壌出土遺物⑤



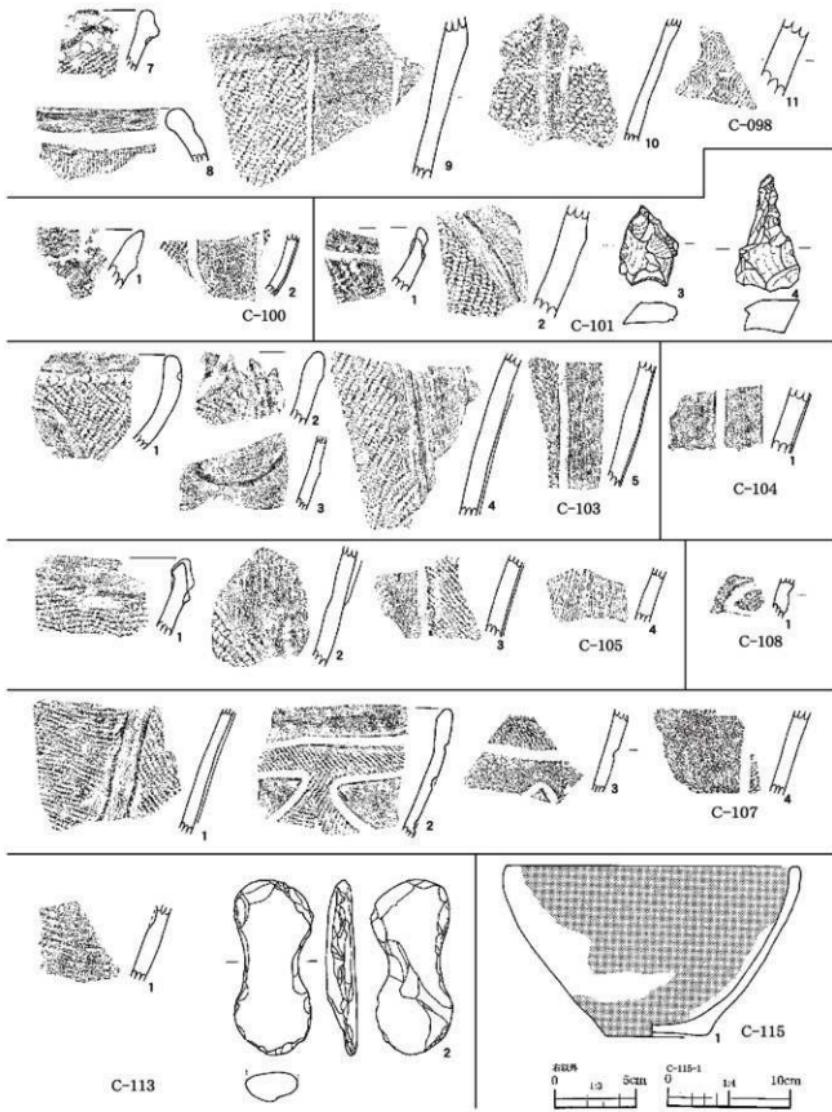
第185図 土壤出土遺物⑤



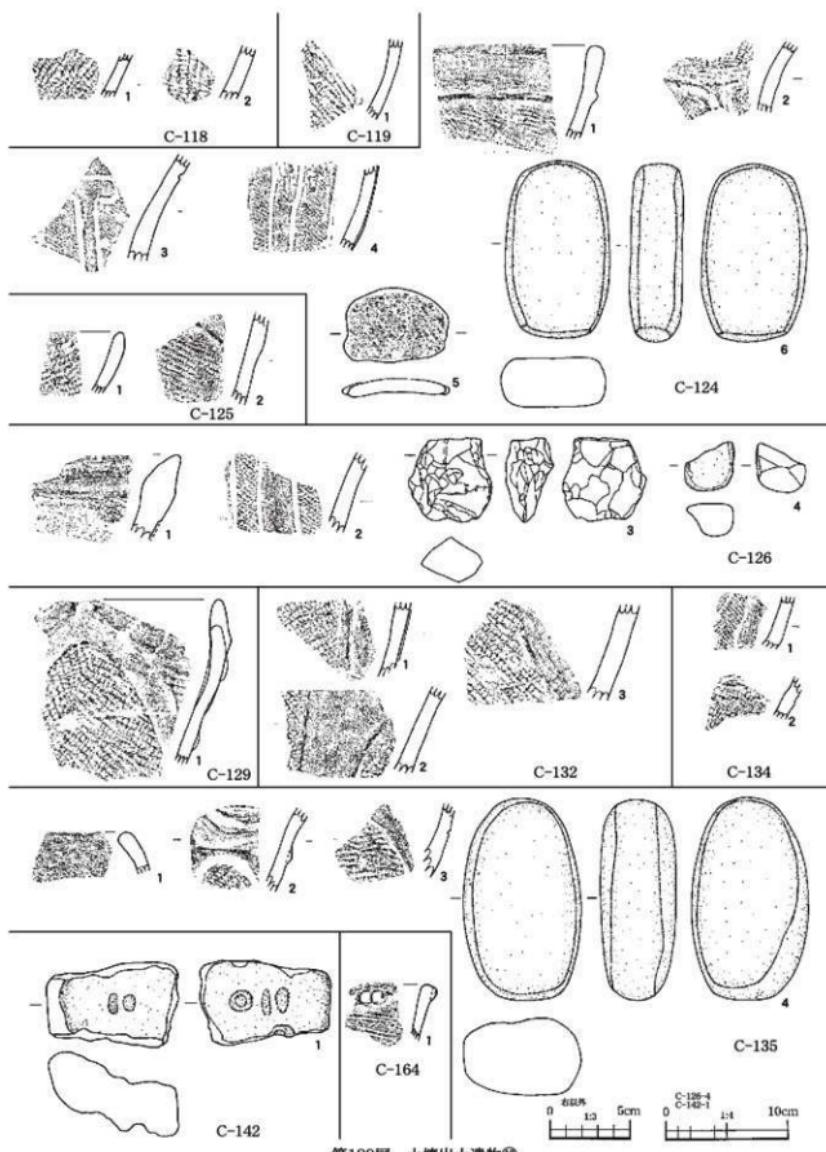
第186図 土壤出土遺物⑦



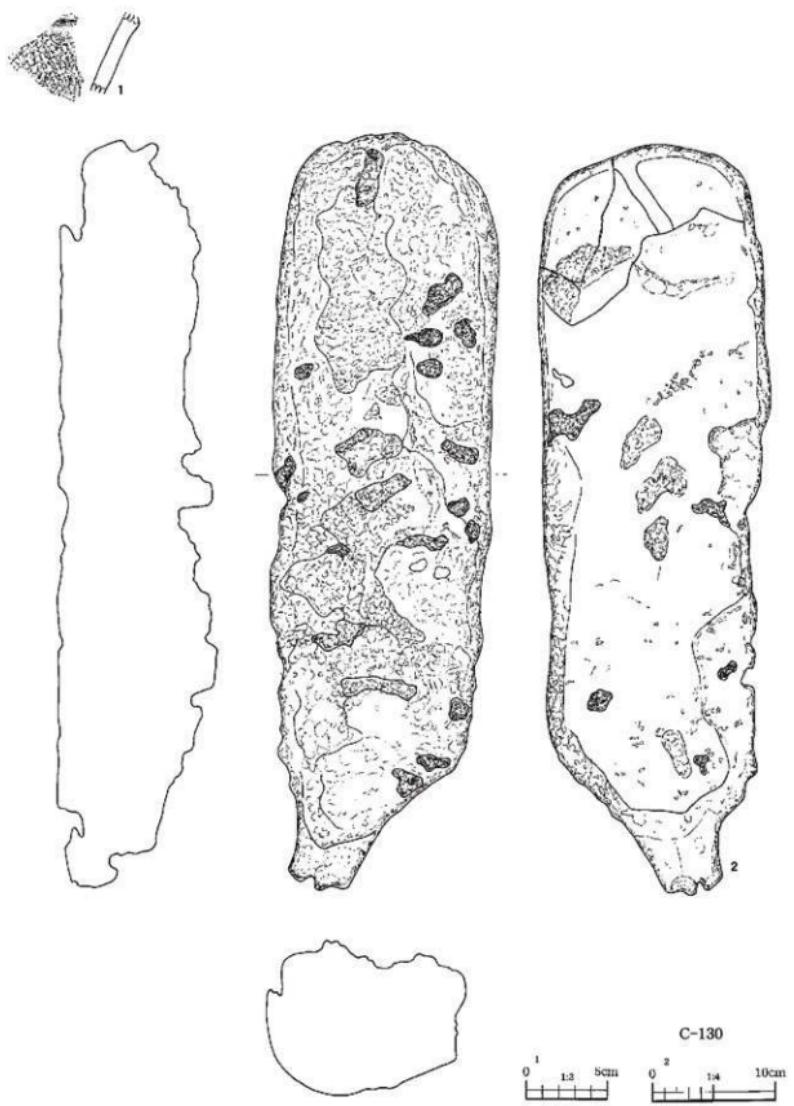
第187図 土壤出土遺物⑧



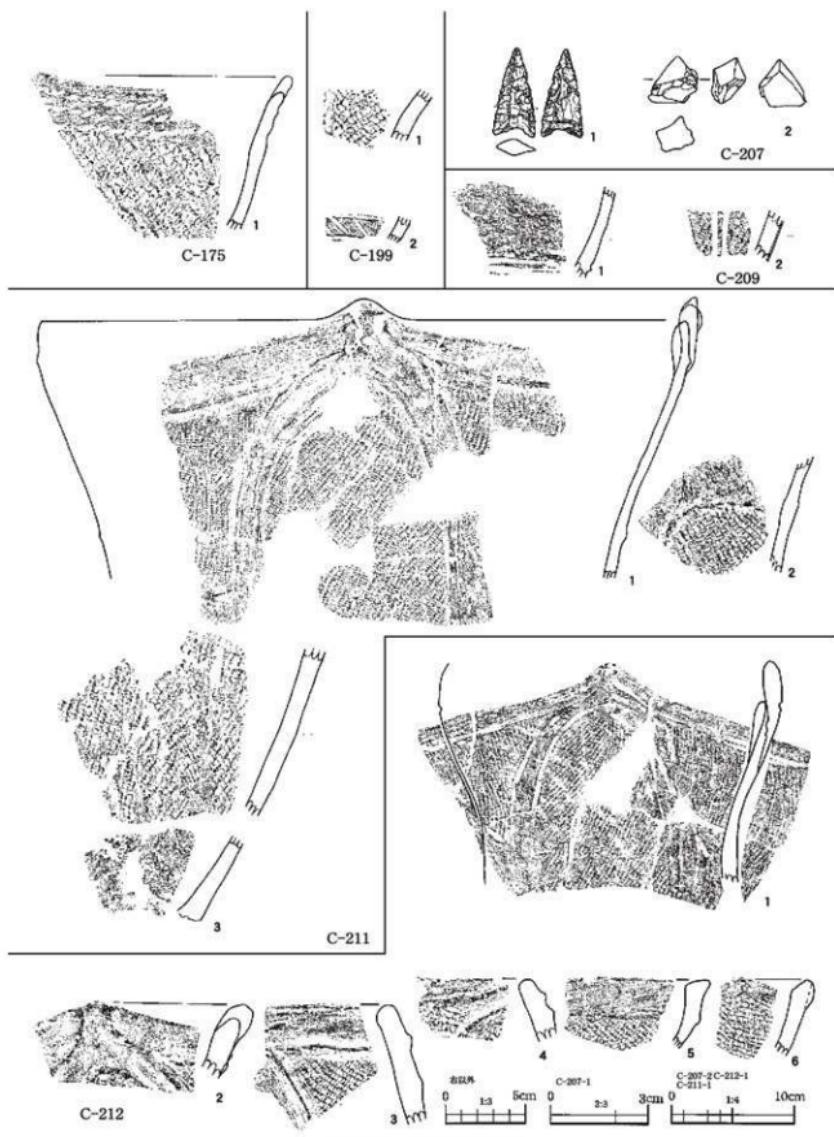
第188図 土壤出土遺物⑨



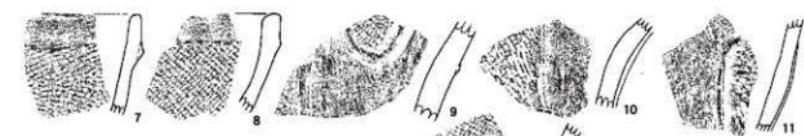
第189図 土壤出土遺物⑩



第190図 土壌出土遺物①



第191図 土壤出土遺物⑫



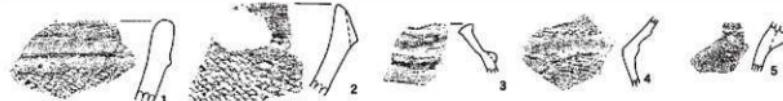
C-212



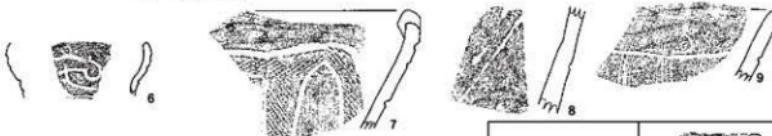
C-213



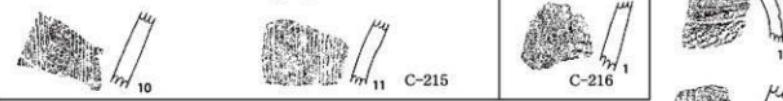
C-214



C-215



C-216



C-217



C-218



C-221

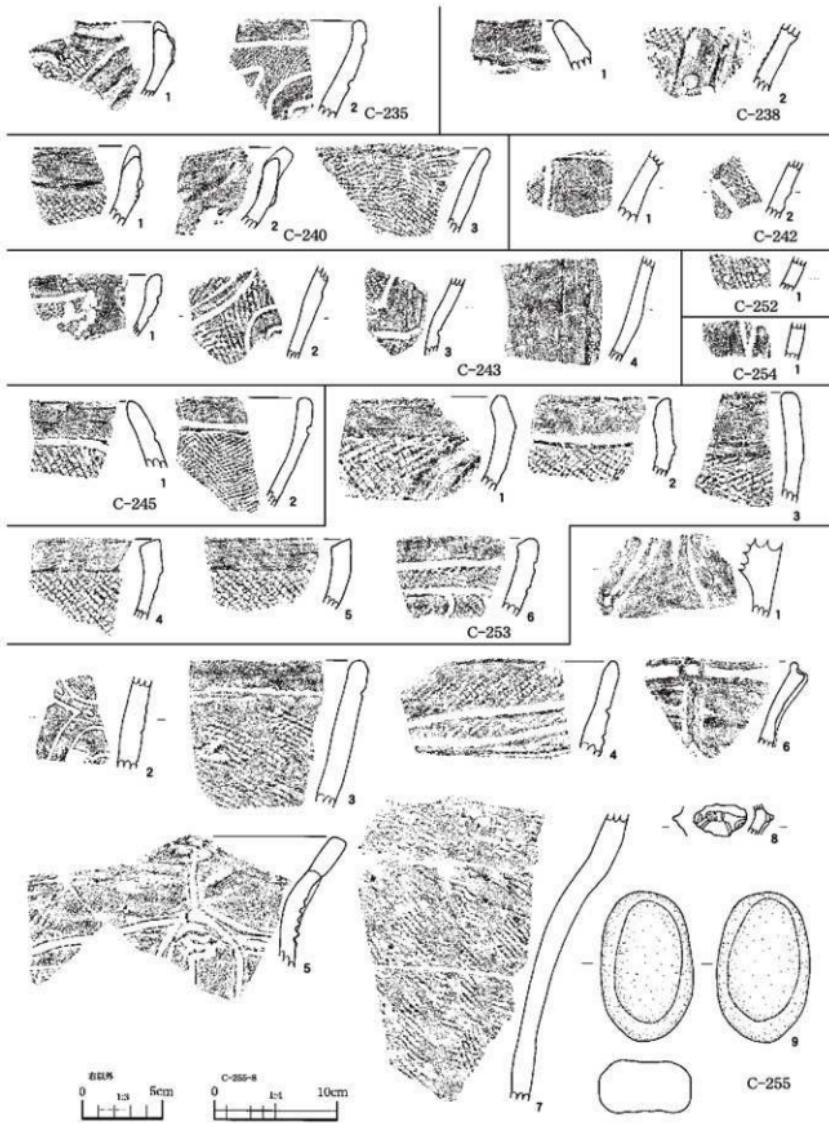


C-225

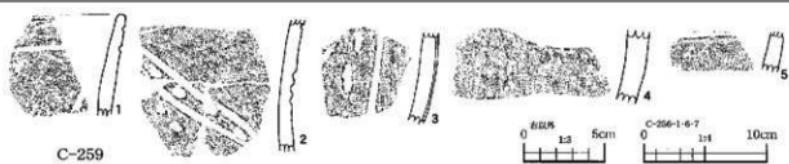
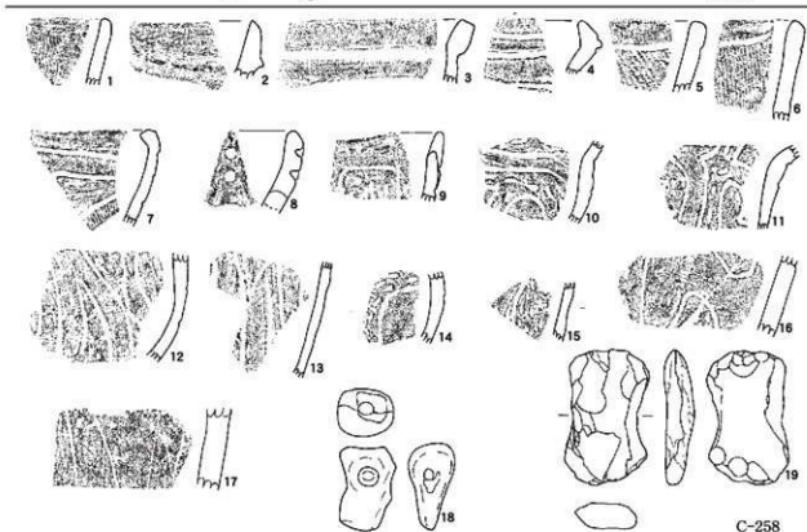
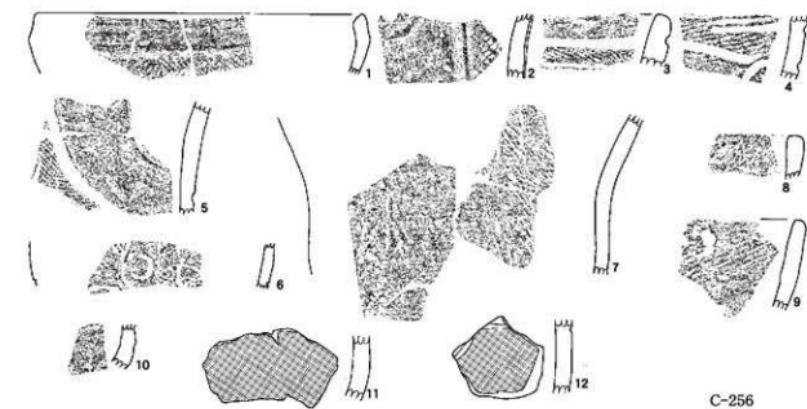


C-231

第192図 土壙出土遺物⑬

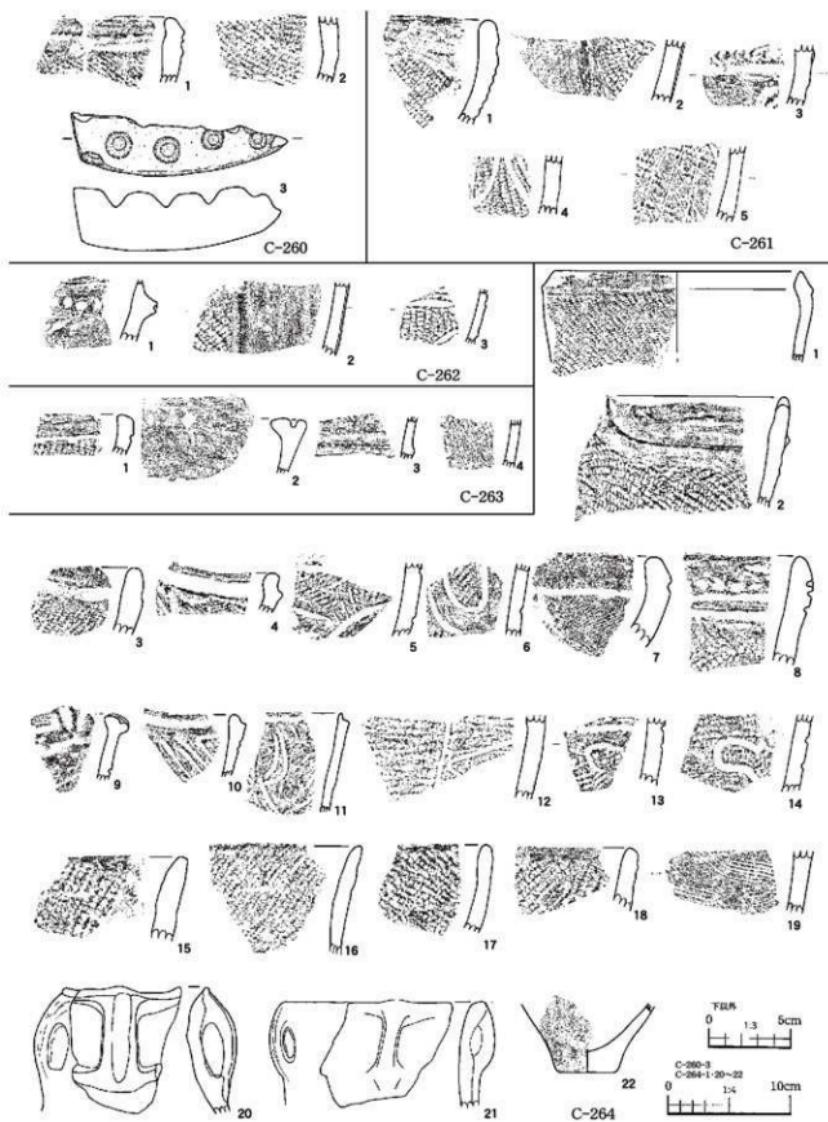


第193図 土壌出土遺物⑧

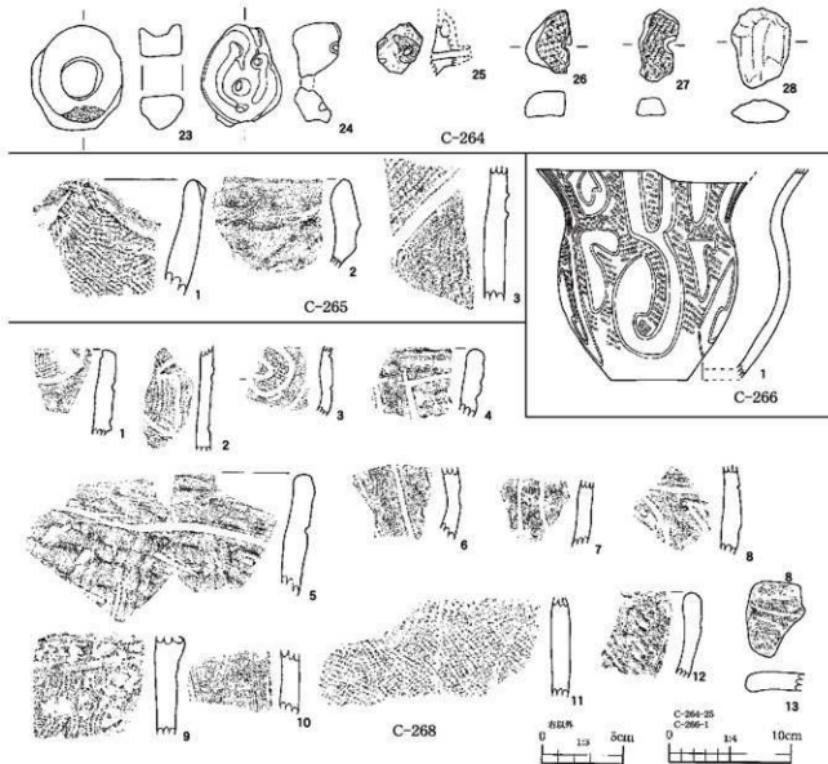


第194図 土壌出土遺物⑯

0 5cm 10cm
C-256-1-6-7 0 1:1 10cm



第195図 土壤出土遺物⑯



第196図 土壤出土遺物⑦

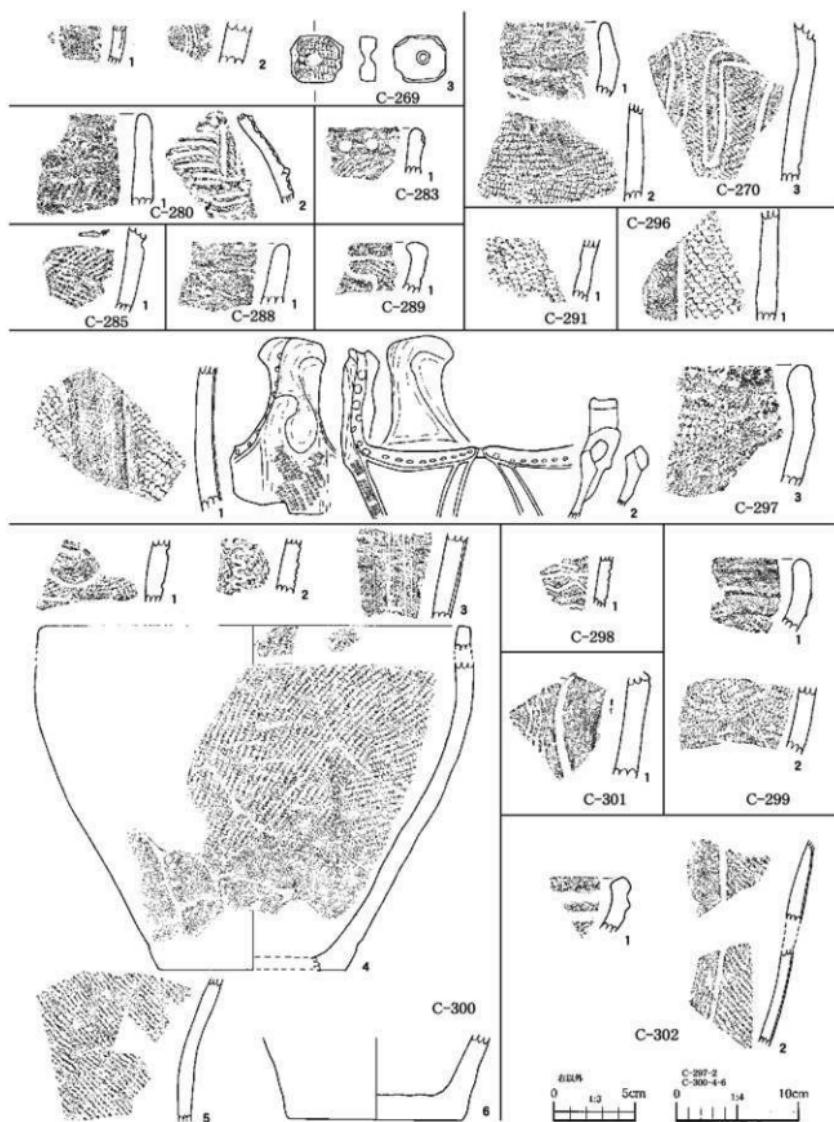
第54表 土壤出土土製品測定表

単位(g)(cm)

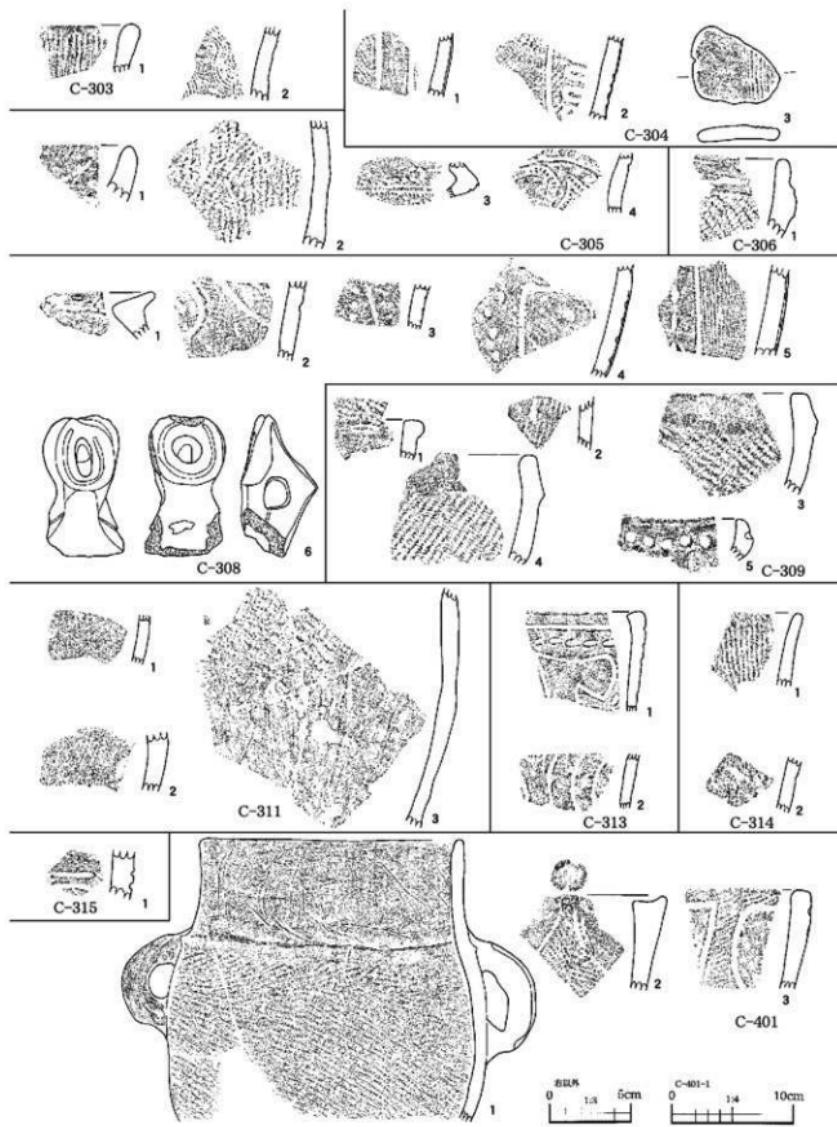
測定品No	種別	重量	長	幅	厚	高	保存	時	期	標印	遺構名	種別	重量	長	幅	厚	高	残存	測定品	標印
C-009	土製円板	14.4	3.5	3.7	0.8	-	完形	加賀利EⅣ	180-7	C-076	有孔円板	15.0	3.2	3.4	1.2	0.6	完形	鶴名寺	186-17	
C-041-41	土製円板	105.0	3.6	3.8	0.8	-	完形	鶴名寺	183-14	C-124	土縛	26.0	4.5	6.4	0.8	-	完形	鶴名寺	189-1	
C-043-72	土縛	34.0	4.1	5.0	1.3	-	完形	加賀利EⅣ	184-25	C-264-72	有孔円板	12.0	4.3	1.7	1.1	0.6	1/2	鶴名寺	196-27	
C-043	土製円板	60.0	6.1	6.0	1.4	-	完形	鶴名寺	184-20	C-264	有孔円板	13.0	3.9	2.5	1.2	0.2	1/2	鶴名寺	196-25	
C-043-108	土製円板	36.0	5.9	4.5	1.8	-	完形	加賀利EⅣ	184-22	C-267	土縛円板	26.0	5.2	3.6	1.0	-	完形	鶴名寺	196-12	
C-043-16	土製円板	39.0	4.7	5.4	1.3	-	完形	鶴名寺	184-24	C-268	土縛円板	16.6	4.5	3.4	1.0	-	完形	鶴名寺	196-13	
C-043-24	土製円板	78.0	6.0	7.1	1.3	-	完形	鶴名寺	184-21	C-269	有孔円板	6.6	2.9	3.1	1.0	2/3	鶴名寺	197-3		
C-076-16	土縛	50.0	15.5	7.3	1.4	-	1/2	加賀利EⅣ	186-18	C-304	土縛	21.0	4.5	5.2	0.8	-	2/3	鶴名寺	198-3	
C-076	土縛	16.0	4.8	3.1	1.0	-	完形	鶴名寺	186-19	C-305	土縛	20.0	3.1	3.9	1.2	-	2/3	加賀利EⅣ		

曾利E式土器の小片が共に出土しており、調査時には縄文時代のものとしている。石材は房州石と呼称される軟質泥岩で、面取りが行われている。屋外の石柱樹立例は縄文時代には配石遺構以外は類例が少なく、今後の類例を待ちたい。房州石は松戸市後田遺跡で縄文時代後期とされるものが出土している。

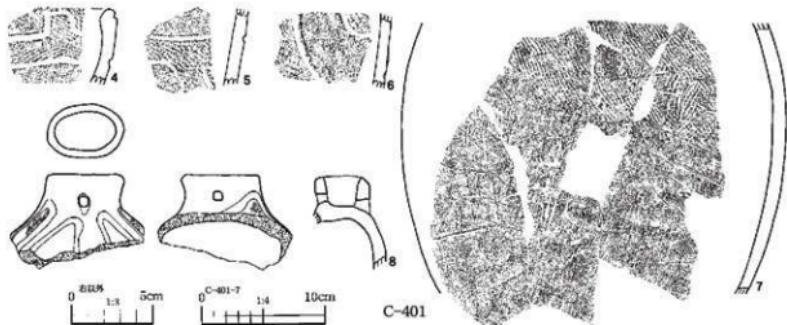
今回の調査で古代を含めて17基の土壤から貝ブロックを検出した。このうち、ラベルの破損等を免れ出土遺構が明確に確定可能な土壤10基について貝組成等の分析を行った。(第3章第6節)。



第197図 土壤出土遺物⑧



第198図 土壤出土遺物⑩



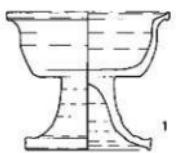
第199図 土壤出土遺物②

第55表 土壤出土石器計測表

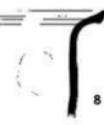
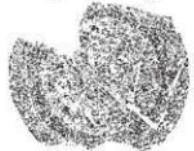
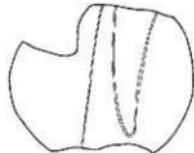
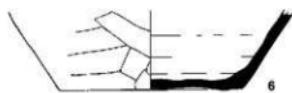
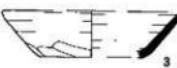
														単位 (g) (cm)
測量番号	種別	重量	長	幅	厚	石材	形状	特徴	測量番号	種類	重量	長	幅	厚
C-029-1	圓石	226.0	7.3	7.0	3.0	安山岩	1/2	181-13	C-079-3	石頭	0.4	1.6	1.0	0.3
C-029-45	圓石	432.7	9.3	6.6	4.6	安山岩	1/2	181-21	C-080-3	石棒	68.6	6.5	4.6	2.2
C-032-1	圓石	12.0	5.3	4.6	2.2	安山岩	1/2	181-22	C-080-4	石頭	2.1	2.1	1.9	0.3
C-032-26	圓石	242.1	7.0	7.1	3.0	安山岩	1/2	181-23	C-080-5	石頭	6.7	2.2	1.9	0.3
C-033-40	圓石	530.0	9.2	8.2	4.1	安山岩	2/2	182-9	C-101-1	石頭	0.5	4.2	3.4	1.3
C-034-2	石器	4.5	3.6	2.0	0.9	チャート	1/2	182-8	C-115-1	打製石器	115.3	10.6	4.7	1.8
C-043	石器	1.1	2.2	1.7	0.4	黑曜岩	1/2	184-26	C-124-1	石頭	436.6	10.5	6.4	3.0
C-043-17	両面磨	67.7	5.9	4.6	1.7	赤玉研磨	1/2	184-27	C-125-1	石頭	38.9	4.0	3.8	2.6
C-051	石器	1.0	2.0	1.5	0.4	黑曜岩	1/2	185-1	C-130-1	石頭	68.3	10.0	6.0	3.0
C-057	石器	1.6	2.9	1.3	0.4	黑曜岩	1/2	185-21	C-130-2	石頭	69.0	10.0	5.0	3.0
C-058-16	石器	0.9	1.5	2.1	0.4	黑曜岩	1/2	185-5	C-135-1	石頭	758.5	12.2	7.2	4.7
C-058	石器	0.3	1.3	1.1	0.3	黑曜岩	1/2	185-6	C-142-1	石頭	567.0	10.6	6.8	4.1
C-076	石器	2.7	4.0	2.3	0.6	チャート	先端	186-20	C-207	石柱	3.2	3.8	3.5	2.4
C-076	圓石	24.3	2.8	4.4	1.4	粘土鉱	1/3	186-21	C-207-1	石頭	1.2	2.7	1.2	0.4
									C-207-2	石頭	1.3	2.7	1.2	0.4
									C-207-3	石頭	1.3	2.7	1.2	0.4
									C-258	打製石器	95.0	8.2	5.0	1.6
									C-260	石器	445.3	17.6	4.6	5.0
									C-261	打製石器	30.6	4.9	3.5	1.3

第56表 古代・中近世土壤出土遺物計測表

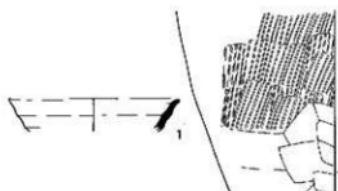
報告No	器種	材質	法量(cm)			口径/底径 比率	色調	整形・調整技法	備考	遺存度
			口径	底径	高さ					
C-015 1	香炉型 高杯	土師	13.1	10.0	11.2	1.31	10YR4/3 にぶい黄褐色	クロロ整形	内外面くすぐ焼成	C
C-045 1	壺	須恵	14.1	7.5	5.2	1.88	10YR3/1 黒褐色	クロロ整形 切り離し不規則手持ちへラ削り	底部外面部「由真利」 底部「須恵器」レ(記号)	C
C-045 2	壺	須恵	13.0	6.6	4.6	1.97	N3/0 暗灰色	クロロ整形 切り離し不規則手持ちへラ削り		A
C-045 3	壺	須恵	(14.7)	(8.0)	3.8	(1.84)	2.5Y3/1 黒褐色	クロロ整形 切り離し不規則手持ちへラ削り	歪み有り	D
C-045 4	壺	土師	—	8.6	3.7*		7.5YR5/4 にぶい褐色	クロロ整形 回転へラ削り後回転へラ削り		D
C-045 5	楕	須恵	7.6	—	6.3*		2.5Y4/1 黄灰色	クロロ整形 手持ちへラ削り		C
C-045 6	甕	須恵	—	15.0	6.5*		10YR2/1 黒色	クロロ整形	内外面くすぐ焼成 底部外面部「乙」(記号)	E
C-045 7	甕	須恵	(34.4)	—	10.0*		10YR3/1 黒褐色	クロロ整形		E
C-045 8	甕	須恵	(32.6)	—	8.6*		10YR2/1 黒色	クロロ整形 タタキ	内外面くすぐ焼成	E
C-066 1	壺	須恵	(14.0)	—	2.4*		5YR4/1 褐灰色	クロロ整形		E
C-066 2	甕	須恵	—	(16.8)	15.0*		5YR2/1 黒褐色	クロロ整形 タタキ ヘラ削り	内外面くすぐ焼成	E
C-281 1	培塿	瓦質	9.3	—	(6.4)		2.5Y4/1 黄灰色	クロロ整形	サンドイッチ状の胎土	E



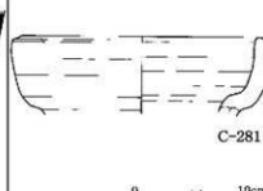
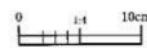
C-015



C-045



C-066



C-281

第200図 土壤出土遺物②

第6節 調査区遺物集中区と調査区出土の縄文時代の遺物

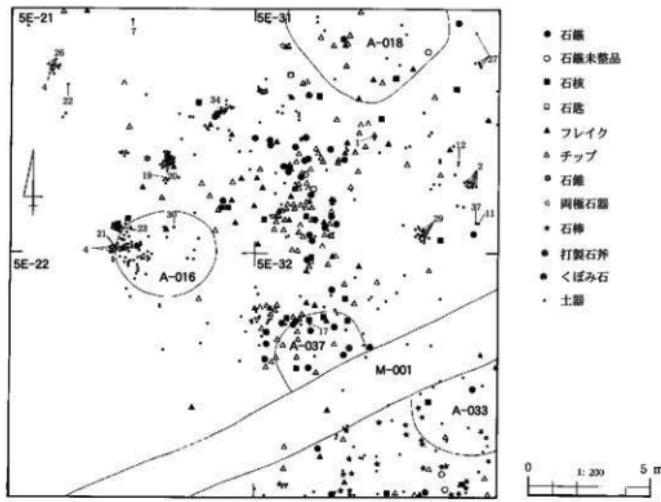
調査区遺物集中区

第1遺物集中区：5E-21・22・31・32グリッド（第201図～第205図）

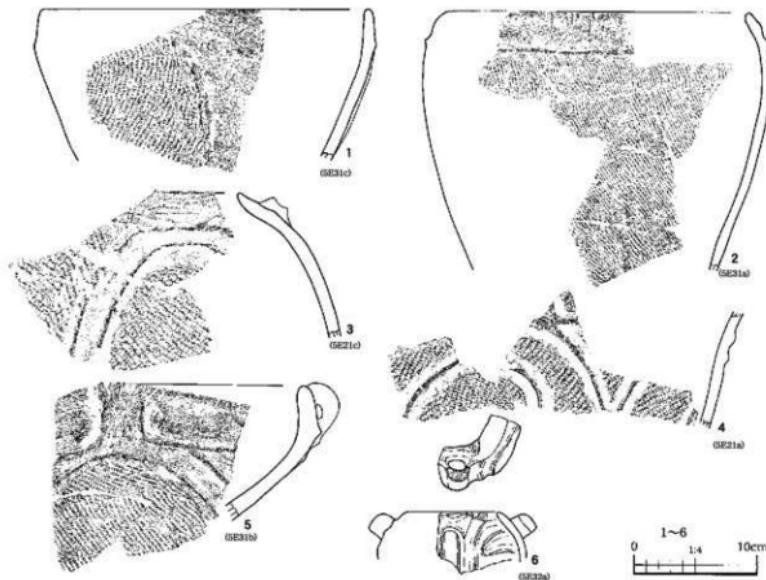
石器は石鎌66点、石錐3点、石匙1点、両極石器1点、石核24点、打製石斧1点、石皿3点、凹石1点、磨石4点、敲石1点、砥石1点、石棒の破片38点が出土している他、蓋形土製品1点、土鍤6点、土製円板6点が出土している。石鎌及び石核が多く出土しており、剥片の一部に剥離を加えただけの未製品が出土していることから石鎌の製作跡が存在した可能性がある。5E-31cグリッドと32aグリッドのA-037周辺の2ヶ所に集中地点が認められる。石鎌の石材は黒耀石43点、チャート22点、石核の石材は黒耀石19点、チャート1点である。石棒の破片は5E-32dグリッドに集中し、被熱し

第57表 第1遺物集中区石器・土製品計測表

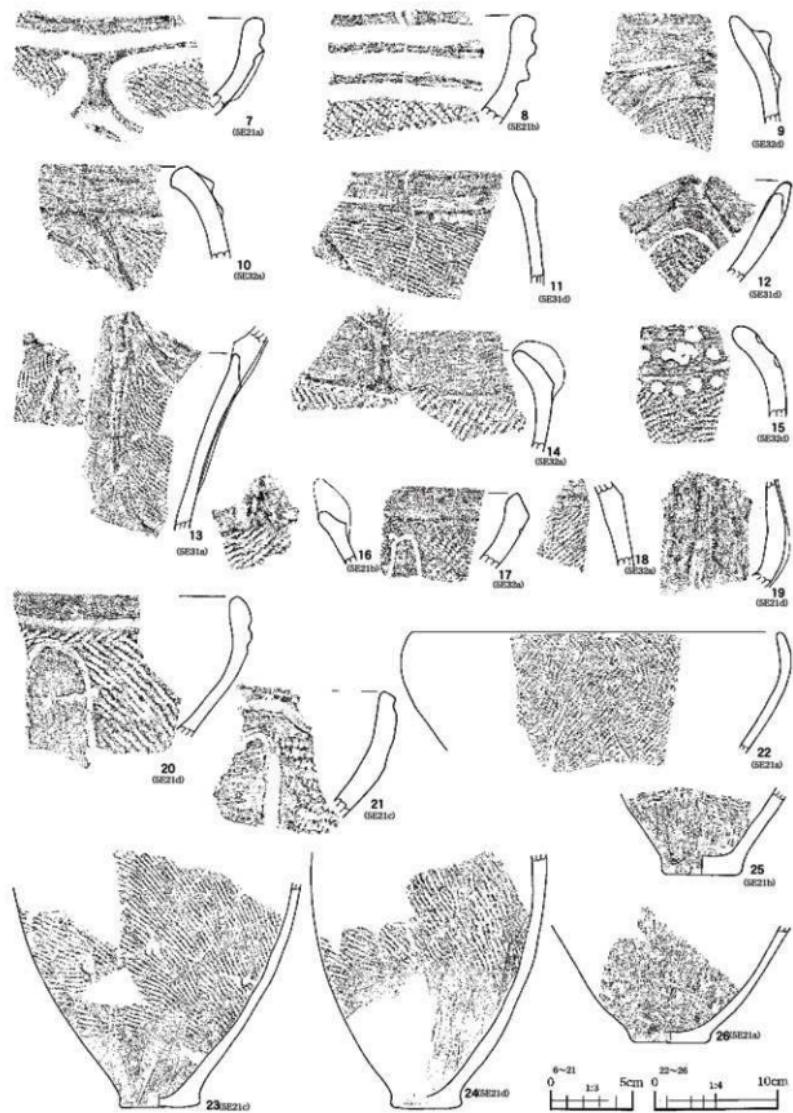
出土位置	規別	重量	長	幅	厚	石材	破面状	神回	出土位置	種別	重量	長	幅	厚	石材	破面状	神回
SE-21b-15	石鎌	1.2	2.0	1.1	0.5	黒耀石	1/2	5E-32d-22	石鎌	3.3	2.7	2.4	0.6	チャート	先端丸		
SE-21b-32	石鎌	4.0	2.8	2.5	0.8	チャート	先端丸	5E-32d-39	石鎌	3.1	2.6	1.6	0.8	チャート	先端丸		
SE-21b-33	石鎌	0.2	0.8	1.0	0.5	黒耀石	破片	5E-32d-40	石鎌	8.5	3.9	2.6	0.9	チャート	先端丸	205-51	
SE-21b-34	石鎌	0.1	0.7	1.0	0.5	黒耀石	破片	5E-32d-41	石鎌	1.4	1.4	1.4	0.5	チャート	先端丸		
SE-21b-35	石鎌	1.0	1.9	1.3	0.4	黒耀石	脚穴	5E-21d-25	石鎌	1.9	2.4	1.1	0.6	黒耀石	先端丸		
SE-21b-36	石鎌	1.3	2.2	1.2	0.4	黒耀石	2/3										
SE-21b-37	石鎌	1.1	2.3	1.3	0.5	チャート	2/3	5E-32d-31	石鎌	2.3	3.8	1.4	0.6	チャート	先端丸	205-49	
SE-21b-38	石鎌	0.1	0.7	1.0	0.2	チャート	先端丸	5E-21d-31	石鎌	1.3	1.9	1.4	0.5	黒耀石	1/4		
SE-21b-39	石鎌	6.8	3.6	2.9	0.6	チャート	先端丸	205-48	5E-31a-6	両極石	1.4	2.0	1.5	0.5	黒耀石	先端丸	
SE-21b-40	石鎌	1.0	1.8	1.8	0.3	チャート	先端丸	205-47	5E-21d-9	石鎌	10.0	4.2	2.3	1.1	黒耀石	先端丸	
SE-21b-41	石鎌	2.3	2.5	1.6	0.7	チャート	先端丸	5E-21d-10	石鎌	3.2	2.5	1.5	1.1	黒耀石	先端丸		
SE-21c-1	石鎌	4.8	3.6	1.7	0.5	赤鈍頭石	先端丸	205-50	5E-21d-11	石鎌	5.6	2.2	1.8	1.2	黒耀石	先端丸	
SE-21c-2	石鎌	0.5	0.8	0.9	0.5	黒耀石	脚穴	5E-31a-22	石鎌	2.6	2.6	1.5	0.5	黒耀石	先端丸	205-52	
SE-21c-3	石鎌	0.1	1.5	1.0	0.5	黒耀石	脚穴	5E-31a-23	石鎌	2.3	2.7	1.3	0.9	黒耀石	先端丸		
SE-22b-4	石鎌	0.1	0.9	0.6	0.2	黒耀石	先端丸	5E-31a-13	石鎌	3.7	2.4	1.9	0.9	黒耀石	先端丸		
SE-31a-8	石鎌	0.9	2.3	1.7	0.4	黒耀石	先端丸	205-46	5E-31c-7	石鎌	3.7	2.3	1.6	1.1	黒耀石	先端丸	
SE-31a-28	石鎌	0.5	1.7	1.2	0.3	黒耀石	先端丸	5E-31c-15	石鎌	5.3	2.1	1.8	1.2	黒耀石	先端丸		
SE-31a-30	石鎌	0.2	1.3	0.8	0.3	チャート	先端丸	5E-31c-84	石鎌	5.1	3.6	1.4	1.4	黒耀石	先端丸		
SE-31b-17	石鎌	0.1	0.8	0.7	0.1	黒耀石	破片	5E-31c-97	石鎌	3.9	2.5	2.2	1.0	黒耀石	先端丸		
SE-31b-21	石鎌	0.7	1.5	1.6	0.4	黒耀石	先端丸	5E-31c-98	石鎌	2.7	2.4	1.5	1.0	黒耀石	先端丸		
SE-31b-21	石鎌	3.3	2.6	0.9	0.8	黒耀石	未開口	5E-31a-30	石鎌	2.1	1.9	1.8	0.6	黒耀石	先端丸		
SE-31b-21	石鎌	0.3	1.8	1.0	0.3	チャート	先端丸	5E-32a-5	石鎌	1.4	1.7	1.3	0.7	黒耀石	先端丸		
SE-31c-1	石鎌	0.5	3.3	2.7	0.5	チャート	先端丸	5E-32a-20	石鎌	6.6	3.6	1.6	1.0	チャート	先端丸		
SE-31c-2	石鎌	0.1	1.0	1.0	0.5	黒耀石	脚穴	5E-32a-21	石鎌	1.2	1.2	1.2	0.5	黒耀石	先端丸		
SE-31c-29	石鎌	0.1	1.0	0.6	0.2	黒耀石	破片	5E-32a-66	石鎌	4.0	2.6	1.7	1.3	黒耀石	先端丸		
SE-31c-31	石鎌	0.1	1.0	0.6	0.1	黒耀石	破片	5E-32a-70	石鎌	10.9	4.5	1.9	1.5	黒耀石	先端丸		
SE-31c-32	石鎌	0.5	2.3	1.4	0.2	黒耀石	1/4	5E-32a-80	石鎌	6.9	0.9	1.0	0.3	黒耀石	先端丸		
SE-31c-42	石鎌	0.1	0.9	0.5	0.1	黒耀石	1/4	5E-32a-32	石鎌	17.9	4.7	3.1	1.2	黒耀石	先端丸		
SE-31c-43	石鎌	0.2	1.2	1.0	0.2	黒耀石	1/4	5E-32a-33	石鎌	2.4	1.7	1.4	1.0	黒耀石	先端丸		
SE-31c-45	石鎌	0.5	2.0	0.7	0.3	黒耀石	1/2	5E-32a-16	石鎌	1.7	1.8	1.0	0.7	砂岩	先端丸		
SE-31c-52	石鎌	0.1	1.0	0.9	0.3	黒耀石	1/4	5E-32a-18	石鎌	3.9	3.0	1.9	1.4	黒耀石	先端丸		
SE-31c-53	石鎌	0.1	0.8	0.6	0.2	黒耀石	破片	5E-32a-45	石鎌	8.5	3.7	2.0	1.3	黒耀石	先端丸		
SE-31c-61	石鎌	1.8	1.7	1.9	0.7	黒耀石	未開口	5E-32a-62	石鎌	14.1	4.0	2.2	1.1	砂岩	先端丸		
SE-31c-62	石鎌	0.1	0.9	0.5	0.2	黒耀石	先端丸	5E-32a-35	石鎌	43.1	4.2	3.6	1.6	砂岩	先端丸		
SE-31c-63	石鎌	0.1	1.0	0.9	0.2	チャート	先端丸	5E-32a-37	石鎌	36.7	4.3	7.8	1.5	砂岩	先端丸		
SE-31c-65	石鎌	0.3	1.0	0.8	0.3	黒耀石	破片	5E-32a-29	石鎌	26.0	4.6	4.0	1.5	安山岩	先端丸	1/2	
SE-31c-70	石鎌	0.1	1.0	0.7	0.2	黒耀石	先端丸	5E-31a-44	石鎌	1828.4	14.7	15.0	6.1	安山岩	先端丸	1/4	
SE-31c-72	石鎌	0.1	0.9	0.7	0.2	黒耀石	先端丸	5E-31a-51	石鎌	738.1	7.4	6.6	3.6	安山岩	先端丸	305-44	
SE-31c-75	石鎌	0.2	1.0	0.7	0.1	黒耀石	1/4	5E-32c-30	石鎌	585.8	12.4	8.6	5.0	安山岩	先端丸	305-45	
SE-31c-80	石鎌	0.2	1.2	0.8	0.2	黒耀石	1/4										
SE-31c-90	石鎌	0.1	0.7	0.4	0.1	黒耀石	先端丸		石鎌								
SE-31c-95	石鎌	0.5	1.3	1.3	0.3	黒耀石	1/2	5E-21a-2	石鎌	444.5	11.0	5.4	5.2	黒耀石	先端丸		
SE-31c-96	石鎌	0.4	1.7	1.4	0.3	黒耀石	1/2	5E-21a-3	石鎌	137.3	5.0	6.4	2.8				
SE-31d-40	石鎌	0.2	1.3	0.9	0.2	チャート	先端丸	5E-31a-9	石鎌	65.0	6.0	6.2	1.1	1.5			
SE-32a-17	石鎌	1.5	2.1	1.5	0.2	黒耀石	1/2	5E-32a-5	石鎌	32.3	3.5	4.0	2.4	砂岩	先端丸		
SE-32a-20	石鎌	0.5	1.0	0.7	0.2	黒耀石	1/2	5E-32a-21	石鎌	428.9	7.0	6.0	4.0	砂岩	先端丸		
SE-32a-23	石鎌	0.2	2.2	1.1	0.5	黒耀石	先端丸	5E-32a-2	石鎌	351.5	11.1	5.3	3.8	玄武岩	先端丸		
SE-32a-25	石鎌	0.1	1.0	0.8	0.2	黒耀石	先端丸	5E-32a-6	石鎌	140.9	7.5	8.8	1.3	砂岩	先端丸		
SE-32a-39	石鎌	1.2	2.4	1.6	0.4	チャート	破片		種別	重量	長	幅	厚	時間	遺物名	神回	
SE-32a-41	石鎌	0.5	1.3	1.0	0.3	チャート	先端丸	5E-32a-10	石鎌	10.8	8.7	8.7	1.5	1/5	204-42		
SE-32a-41	石鎌	0.2	1.2	0.8	0.2	チャート	先端丸	5E-31b-1	土鉢	9.3	3.2	3.3	0.6	神名寺	先端丸		
SE-32a-64	石鎌	1.1	1.5	1.5	0.5	黒耀石	先端丸	5E-31b-1	土鉢	13.2	3.7	4.1	0.7	神名寺	先端丸		
SE-32a-68	石鎌	1.1	1.7	1.3	0.5	黒耀石	先端丸	5E-32a	土鉢	32.0	4.5	5.1	1.3	砂岩	先端丸	2/3	
SE-32a-71	石鎌	1.1	1.5	1.6	0.5	チャート	1/4	5E-32b	土鉢	23.2	3.6	5.1	1.0	神名寺	先端丸	2/3	
SE-32a-75	石鎌	0.1	1.0	0.8	0.2	黒耀石	先端丸	5E-32a-p-1	土鉢	12.3	2.8	3.7	1.0	神名寺	先端丸	204-38	
SE-32a-76	石鎌	0.2	1.0	0.8	0.1	チャート	1/4	5E-32a-p-2	土鉢	12.0	3.0	3.7	1.0	神名寺	先端丸	204-39	
SE-32a-83	石鎌	0.3	1.5	1.6	0.2	黒耀石	未開口	5E-31b	土鉢	13.1	3.1	4.4	0.9	神名寺	先端丸		
SE-32a-95	石鎌	0.5	1.9	1.6	0.2	チャート	先端丸	5E-31b	土鉢	8.7	3.5	2.1	1.2	神名寺	先端丸		
SE-32a-17	石鎌	0.5	1.6	1.3	0.4	黒耀石	1/2	5E-31b	土鉢	18.2	4.8	3.9	0.9	神名寺	先端丸		
SE-32a-26	石鎌	0.4	1.7	0.9	0.2	黒耀石	先端丸	5E-32a	土鉢	9.8	3.8	2.8	0.8	神名寺	1/2		
SE-32a-27	石鎌	1.3	2.3	1.9	0.2	チャート	先端丸	5E-32a	土鉢	30.6	4.3	4.7	1.4	砂岩	先端丸	204-37	
SE-32a-4	石鎌	2.5	2.9	1.5	0.6	チャート	先端丸	5E-32b	土鉢	17.5	3.5	3.8	1.1	加藤利和	1/2		



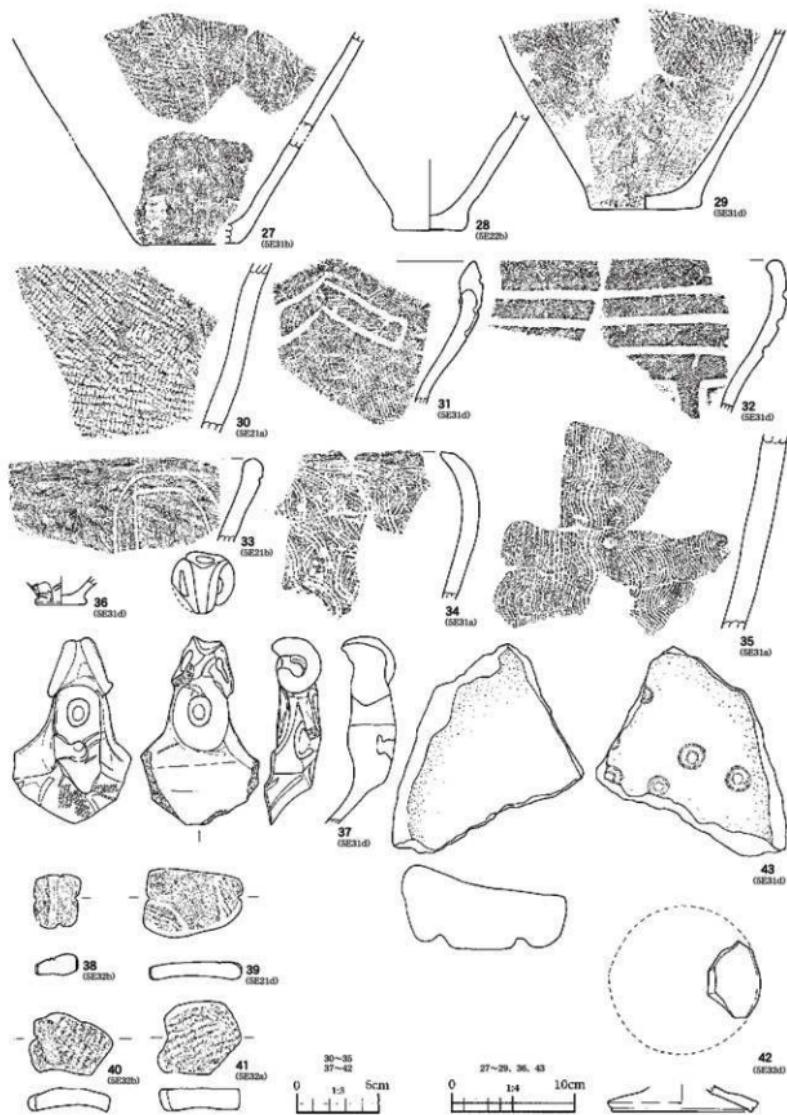
第201図 第1遺物集中区遺物分布図



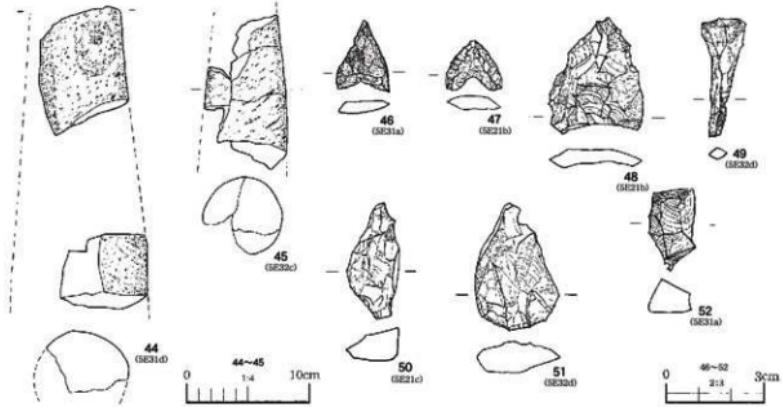
第202図 第1遺物集中区出土遺物①



第203図 第1遺物集中区出土遺物②



第204図 第1遺物集中区出土遺物③



第205図 第1遺物集中区出土遺物④

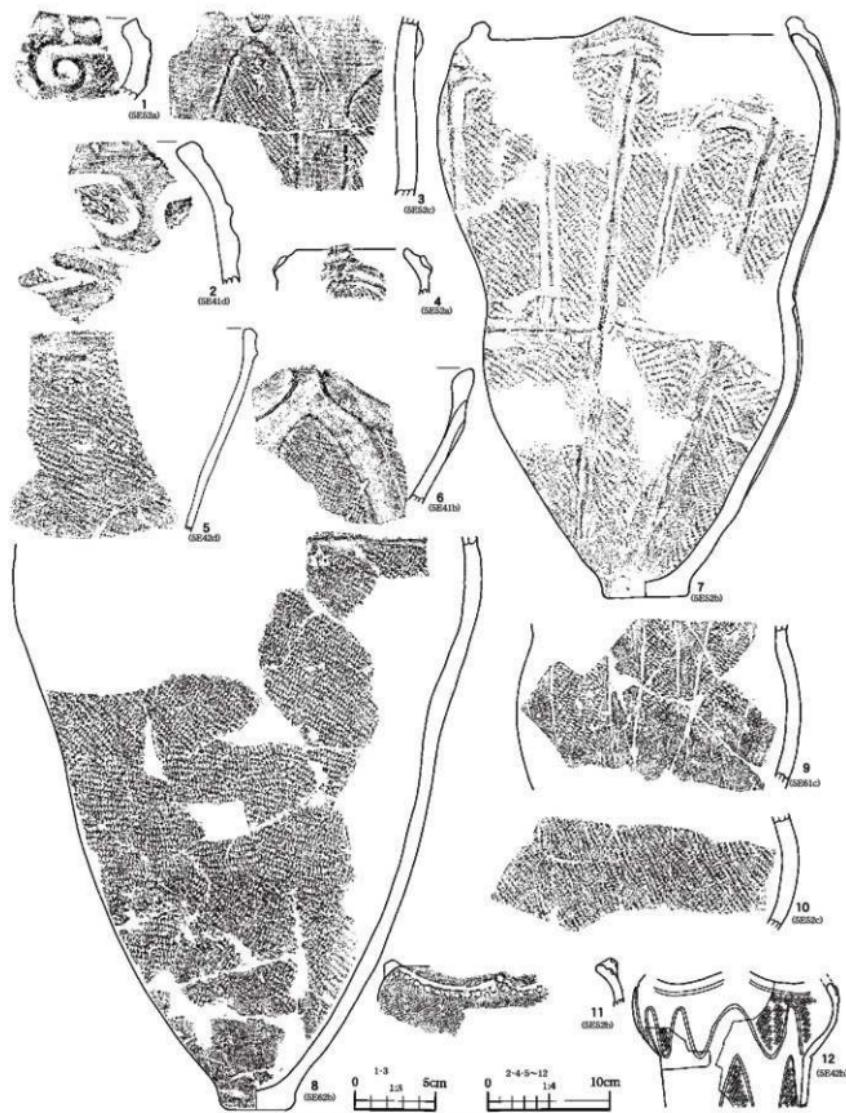
破碎しているが、接合するもの（第205図45）や同一個体のもの（第205図44）がある。石材は全て石英安山岩であり、付近からは石皿が共に出土している（第204図43）。出土地点がA-033西側周辺に集中し、1点がA-033出土の石棒と接合する（第66図14）ことから、これらの石棒はA-033と関連付けられる。土器は1～30が加曾利E III式～E IV式土器で、6は有孔鉗付土器。31～36は称名寺1式土器。37は獸面把手。38～41は土錐。42は蓋形土製品である。

第2遺物集中区：5 E-41・42・51・52・61・62グリッド（第206図～第208図）

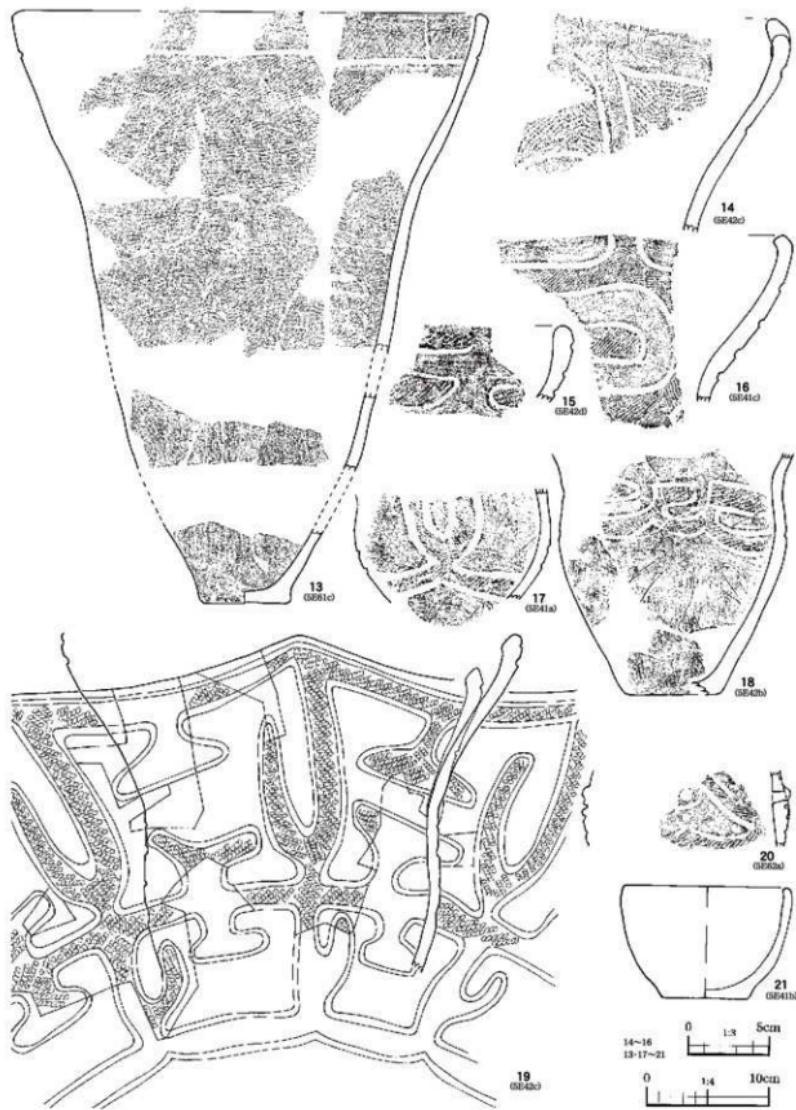
加曾利E III式～E IV式土器の復元可能土器3個体と、後期初頭の称名寺1式の復元可能土器1個体

第58表 第2遺物集中区石器・土製品計測表

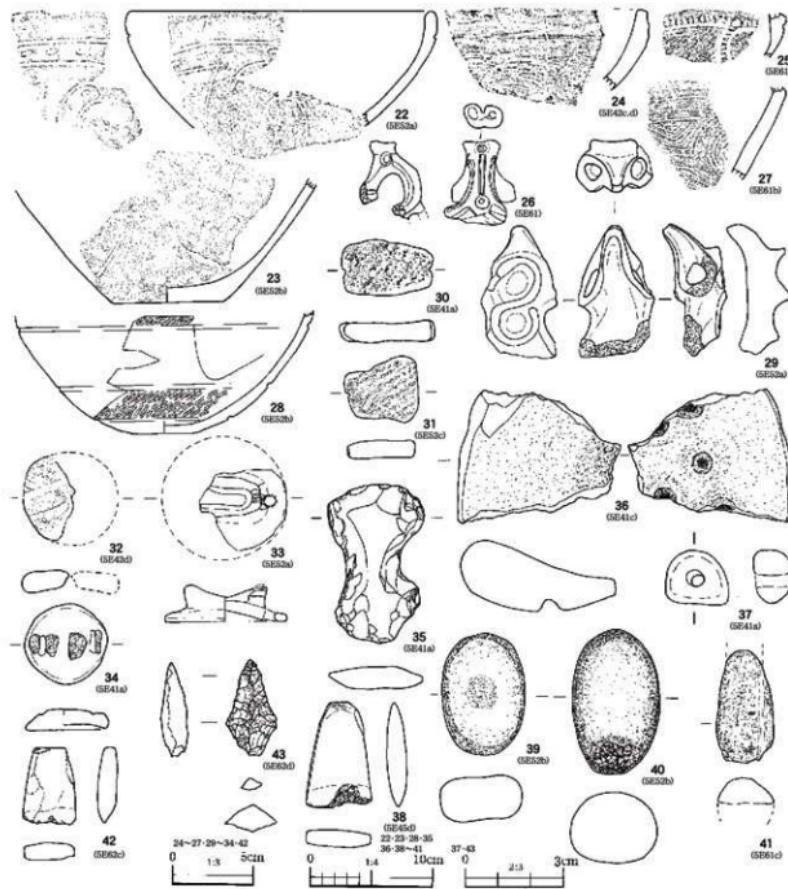
出土位置	石器名	重量	長	幅	厚	石材	埋存場	埋深	出土位置	石器名	重量	長	幅	厚	石材	埋存場	埋深	埋深
第-41b-9	石盤	0.3	1.2	0.9	0.3	黑曜石	2/3	30-41a-14	打削石斧	27.4	32.9	7.8	1.8	黑曜石	完全	209-35		
第-41b-10	石盤	0.3	1.2	0.9	0.3	黑曜石	2/3	30-41a-15	打削石斧	90.7	8.2	3.2	1.8	黑曜石	完全	209-36		
第-42c-1	石盤	0.5	2.1	0.9	0.5	チャート	2/3	30-41a-16	打削石斧	3.5	4.4	1.1	1.8	チャート	完全	209-37		
第-42c-2	石盤	0.5	1.6	0.9	0.4	黑曜石	2/3	30-41a-17	打削石斧	30.9	5.5	0	1.3	黒曜石	7/2			
第-42c-4	石盤	0.8	1.5	1.4	0.4	チャート	2/3	30-42c-19	打削石斧	74.5	7.2	4.3	1.4	チャート	完全			
第-42c-16	石盤	0.5	1.4	1.8	0.3	黒曜石	2/3	30-42c-20	打削石斧	22.8	5.0	3.8	1.1	チャート	7/4			
第-42c-17	石盤	0.4	2.0	1.6	0.3	黒曜石	2/3	30-42c-14	打削石斧	76.5	6.0	4.7	1.7	チャート	1/2			
第-42c-28	石盤	0.5	1.5	1.5	0.4	黒曜石	2/3	30-51c-2	打削石斧	85.9	7.4	4.5	2.0	チャート	1/2			
第-43d-1	石盤	1.2	1.9	1.2	0.5	チャート	2/3	30-51c-14	打削石斧	23.9	6.2	2.5	1.2	チャート	1/2			
第-43d-11	石盤	0.5	1.5	1.5	0.5	チャート	2/3	30-52c-2	打削石斧	46.3	7.5	3.1	1.3	チャート	1/2			
第-43d-19	石盤	0.7	1.5	1.5	0.5	チャート	2/3	30-52c-3	打削石斧	2.1	5.1	5.8	0.9	チャート	1/2			
第-43d-15	石盤	1.0	1.9	1.2	0.4	黒曜石	2/3	30-41a-18	磨擦石	195.1	8.0	1.2	2.7	黒曜石	完全	209-38		
第-43d-29	石盤	4.9	2.6	2.1	0.6	黒曜石	2/3	30-45c-2	磨擦石	33.1	1.6	3.1	1.1	成層粘土	完全	209-42		
第-51a-4	石盤	2.8	3.0	2.3	0.6	チャート	完剥	30-41c-15	石盤	876.3	12.9	9.6	4.9	カバ根	完全	209-36		
								30-51a-7	石盤	62.7	6.6	4.5	3.2	砂岩				
								30-52d-14	石盤	219.5	7.1	4.7	4.8	花崗岩				
								30-52b-1	石盤	53.6	5.7	3.9	1.2	砂岩				
								30-52b-5	石盤	0	0	0	0	成層粘土	7/4	209-41		
第-51c-2	石盤	0.6	1.5	1.3	0.3	チャート	完剥	30-41c-1	石盤	133.0	11.6	6.5	2.0	成層粘土	完全	209-41		
第-51c-5	石盤	0.7	1.5	1.6	0.3	チャート	完剥	30-41c-2	石盤	262.0	0.1	4.6	1.1	成層粘土	完全	209-41		
第-51c-6	石盤	1.3	2.4	1.9	0.4	チャート	完剥	30-41c-11	石盤	666.0	10.7	19.4	4.0	成層粘土	7/2			
第-52c-3	石盤	1.9	2.4	2.2	0.4	黒曜石	2/3	30-52b-3	石盤	386.6	9.9	6.7	3.5	成層粘土	完全	209-39		
第-52c-1	石盤	0.3	1.5	1.2	0.3	黒曜石	2/3	30-62b-3	石盤	752.0	9.3	9.6	4.2	砂岩	7/2			
第-52c-1	石盤	2.1	2.3	1.9	0.6	チャート	2/3	30-42b-9	石盤	263.4	5.9	5.3	5.2	安山岩	7/4			
第-52c-6	石盤	1.9	2.4	1.8	0.4	黒曜石	2/3	30-51a-6	石盤	297.2	6.8	5.8	4.5	成層粘土	7/2			
第-52c-6	石盤	0.1	0.9	0.7	0.2	黒曜石	2/3	30-51a-7	石盤	66.1	6.9	4.5	2.2	砂岩	7/2			
第-52c-16	石盤	1.8	2.3	1.6	0.5	チャート	2/3	30-52b-1	石盤	768.5	11.6	7.1	2.1	安山岩	完全	209-40		
第-53a-1	石盤	0.7	1.5	1.3	0.3	チャート	2/3	30-52b-2	石盤	167.0	5.1	5.7	1.1	成層粘土	完全	209-40		
第-53a-4	石盤	0.1	1.0	0.8	0.3	黒曜石	2/3	30-61a	石盤	156.9	6.2	3.4	4.3	安山岩	7/4			
第-53a-5	石盤	0.7	1.8	1.4	1.3	チャート	完剥	30-62b-4	石盤	467.6	10.0	6.6	3.8	成層粘土	3/4			
第-62b-2	石盤	0.7	2.0	1.3	0.3	黒曜石	2/3	30-62b-7	石盤	85.6	2.9	6.0	4.5	成層粘土	1/6			
第-62b-5	石盤	0.5	1.5	1.5	0.3	黒曜石	2/3	30-62b-11	石盤	188.2	7.7	5.0	3.2	砂岩	1/2			
第-62c-1	石盤	0.7	2.0	1.1	0.3	黒曜石	2/3	30-42c-16	浮子	19.7	6.5	4.7	1.5	砂岩	3/4			
第-62c-6	石盤	1.2	2.4	1.3	0.6	チャート	完剥	30-41c-10	石盤	4.9	1.9	1.7	0.9	成層粘土	209-37			
第-62d-7	石盤	0.4	1.5	1.2	0.3	黒曜石	2/3	30-41c-11	石盤	22.1	7.1	5.0	0.9	成層粘土	完全	209-34		
第-52c-4	石盤	2.2	2.2	1.6	0.5	チャート	2/3	30-52c-2	石盤	22.1	5.3	5.0	0.7	成層粘土	7/4	209-33		
第-52c-4	石盤	2.4	2.0	1.4	0.5	黒曜石	2/3	30-52c-3	石盤	22.1	5.3	5.0	0.7	成層粘土	完全	209-33		
第-52c-11	石盤	4.7	2.8	2.0	0.6	チャート	1/2	30-41c-14	土器	26.9	3.5	5.4	1.2	加曾利E	完全	209-30		
第-52c-13	石盤	3.5	3.1	1.1	0.3	黒曜石	1/2	30-52c-1	土器	21.1	4.0	4.6	1.0	加曾利E	完全	209-31		
第-52c-2	石盤	14.6	4.8	2.3	1.4	チャート	1/2	30-42b-1	土器	19.5	4.4	3.3	0.6	加曾利E	2/3	209-32		
第-51c-3	角物石	4.3	2.7	1.3	1.0	完剥		30-42c	土製円筒	64.9	5.7	5.5	1.4	加曾利E	1/4			



第206図 第2遺物集中区出土遺物①



第207図 第2遺物集中区出土遺物②



第208図 第2遺物集中区出土遺物③

が出土している。石器は石鎌31点、石錐1点、石匙2点、両極石器1点、石核2点、打製石斧11点、磨製石斧2点、石皿3点、凹石1点、磨石3点、敲石9点、浮子1点、石棒の破片8点、頁岩製の垂飾1点が出土している他、蓋形土製品2点、土鍤2点、有孔土製円板1点、土製円板1点が出土している。1~13加曾利E III式~E IV式土器。16~20は称名寺1式土器で、20は注口土器の可能性がある。22・23は称名寺2式で、25と26は同一個体の壺ノ内1式の注口土器。27は本遺跡では数少ない壺ノ内2式土器。28は加曾利B式土器。29は獸面把手。32と33は蓋形土製品である。加曾利E式土器は5 E-51・52・61・62グリッドに、称名寺1式土器は5 E-41・42・51・52グリッドに偏る傾向を示す。

第3遺物集中区石器・土製品計測表

区分	種類	量	目	材質	有無	特徴	出土位置	種別	重量	長	幅	厚	石材	保存状況	備註	
Ⅲ-E-1-1	石鏟	6把	0.6	1.3	1.3	0.3	黒縞6	先鉗	SE-91-1	石縞	46.6	4.0	3.4	2.4	安山岩	黒縞
Ⅲ-E-1-2	石鏟	6把	1.8	2.1	2.0	0.4	黒縞6	先鉗	SE-92a	石縞	214.5	7.6	5.8	5.1	安山岩	先鉗
Ⅲ-E-1-3	石鏟	6把	0.9	1.9	1.8	0.4	黒縞6	先鉗	SE-92b	石縞	102.3	6.3	4.2	3.9	安山岩	先鉗
Ⅲ-E-1-4	石鏟	6把	0.6	1.7	1.3	0.3	#+3	先鉗	SE-92c	石縞	96.3	5.1	3.4	4.9	安山岩	1/6
Ⅲ-E-1-5	石鏟	2.4	2.3	1.7	1.7	0.7	#+3	先鉗	SE-92d	石縞	118.1	7.1	5.1	2.4	削痕有	先鉗
Ⅲ-E-2-1	石鏟	0.9	1.5	2.0	0.3	黒縞石	1/2	SE-92e	3	石縞	246.2	6.5	5.6	4.4	安山岩	1/3
Ⅲ-E-2-2	石鏟	2.3	2.4	1.6	0.6	0.7	#+3	先鉗	SE-92f	石縞	226.9	4.1	7.6	3.2	石安山岩	1/3
Ⅲ-E-2-3	石鏟	2.3	2.3	1.7	0.6	0.7	#+3	先鉗	SE-92g	石縞	66.3	4.1	7.6	3.2	石安山岩	1/3
Ⅲ-E-2-4	石鏟	2.7	2.6	1.7	0.7	黒縞石	1/2	SE-91-2	石縞	85.7	5.0	3.8	4.6	安山岩	1/3	
Ⅲ-E-2-5	石鏟	1.6	2.7	1.5	0.5	黒縞石	1/2	SE-92h	石縞	208.2	10.1	5.0	5.6	安山岩	先鉗	
Ⅲ-E-2-6	石鏟	1.4	2.7	0.7	0.3	黒縞石	先鉗	SE-91d-14	石縞	186.6	8.8	6.4	2.4	先鉗		
Ⅲ-E-2-7	石鏟	4.8	3.0	1.7	1.1	黒縞石	先鉗	SE-91a-7	石縞	176.5	5.2	7.1	3.5		1/3	
Ⅲ-E-2-8	石鏟	0.7	2.2	1.0	0.3	黒縞石	先鉗	SE-91b-3	石縞	68.3	2.9	5.4	3.7	安山岩	黒縞	
Ⅲ-E-2-9	石鏟	8.4	4.6	2.8	0.9	黒縞石	1/2	SE-91c-6	石縞	430.0	9.1	5.2	5.2	角礫岩	3/4	
Ⅲ-E-2-10	石鏟	119.4	8.5	5.0	1.8	黒縞石	1/2	SE-92a	3	石縞	33.2	4.1	2.5	2.9	安山岩	黒縞
Ⅲ-E-2-11	石鏟	10.3	10.3	4.3	0.7	黒縞石	1/2	SE-92b	3	石縞	88.1	4.1	2.5	2.9	安山岩	1/2
Ⅲ-E-2-12	石鏟	212.6	12.3	5.7	1.7	黒縞石	先鉗	SE-92c-2	石縞	1.6	5.1	1.1	0.8	メタク	210~26	
Ⅲ-E-2-13	石鏟	65.1	8.4	4.1	2.2	打鉗鋸	1/2	SE-92d	3	石縞	3.1	5.7	0.6	0.6	凧ね	210~27
Ⅲ-E-2-14	石鏟	106.0	8.6	4.1	1.9	三武鉤	先鉗	SE-92e	3	石縞	2.2	5.2	0.9	0.8	ヒスイ	210~25
Ⅲ-E-2-15	石鏟	79.3	8.0	4.6	1.7	三武鉤	先鉗	SE-92f	3	石縞	2.2	5.2	0.9	0.8	ヒスイ	210~25
Ⅲ-E-2-16	石鏟	196.9	9.7	5.2	2.2	鉤鉗	先鉗	SE-92g	3	石縞	186.7	9.9	9.6	1.5	縫之内	先鉗
Ⅲ-E-2-17	石鏟	103.4	8.3	4.6	2.5	鉤鉗	1/2	SE-92h	3	石縞	48.4	7.5	5.5	1.0	縫之内	1/4
								SE-92i	3	土縞	28.1	5.7	2.9	1.6	称名寺	先鉗
								SE-92j	3	土縞	28.1	5.7	2.9	1.6	称名寺	1/4
								SE-92k	3	土縞	28.1	5.7	2.9	1.6	称名寺	210~24

第3遺物集中区：5E-81・82・91・92グリッド（第209図・第210図）

加曾利E III式～E IV式土器の復元可能土器5個体が出土している。石器は石鏟10点、石錐2点、石匙2点、打製石斧5点、磨製石斧3点、石皿1点、凹石1点、磨石5点、敲石9点、石棒の破片3点、垂飾3点が出土している他、蓋形土製品2点、土錐1点が出土している。1～12は加曾利E III式～E IV式土器。19～21は称名寺1式土器。24は土錐。22・23は蓋形土製品で25～27は垂飾である。

調査区出土遺物

土器：うならすず遺跡からは早期前半から晩期前半の土器が出土し、主体は中期の加曾利E式期後半から後期の堀之内1式土器である。なお、弥生式土器も少量出土している。

第I群土器（第211図1～35） 早期前半の撚糸文系土器群

第II群土器（第211図36） 早期後半の条痕系土器群で茅山下層式土器

第III群土器（第211図37～48） 前期後半の諸磯・浮島式土器群

第1類（37～39） 諸磯b式土器 漏線文を施す片口土器（37）、半裁竹管による押引文を施す土器（39）、爪形文を施し口縁部に2個1対の孔を有する鉢形土器（38）がある。

第2類（42～44） 口縁部に連続刺突文を施す興津1式土器。

第3類（45～48） 貝殻復縁文を施した浮島式・興津式土器に伴う土器。

第IV群土器（第211図49～第212図51） 前期末葉から中期前半の土器群

第1類（49・50） 前期終末の栗島台式土器 侧面圧痕を有するもの（49）と口唇部に繩文を施すもの（50）があり、前者はC-175からも出土している。

第2類（51） 五領ケ台式土器

第V群土器（第212図52～59） 中期の阿玉台式土器

第VI群土器（第212図60～第214図80） 中期後半の加曾利E式土器

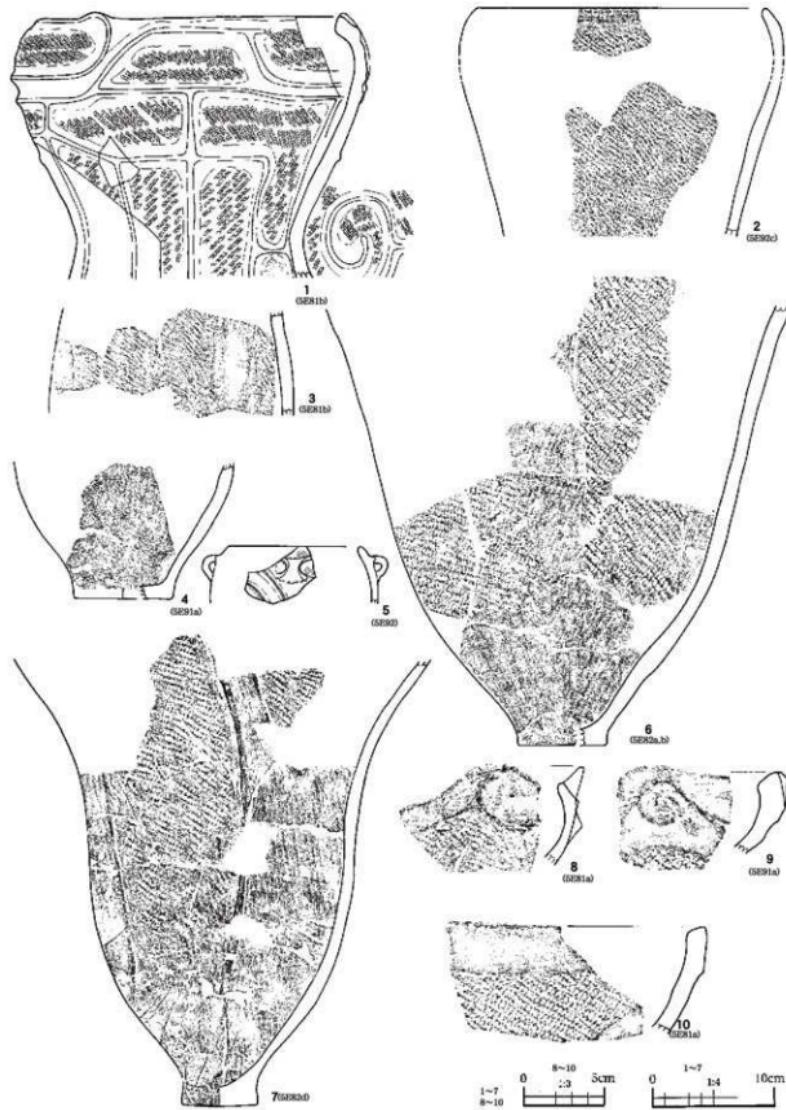
第1類（60～62） 隆帯により渦巻文を施す加曾利E III式土器

第2類（63～68） 微隆起線文により文様を施す加曾利E III・IV式土器

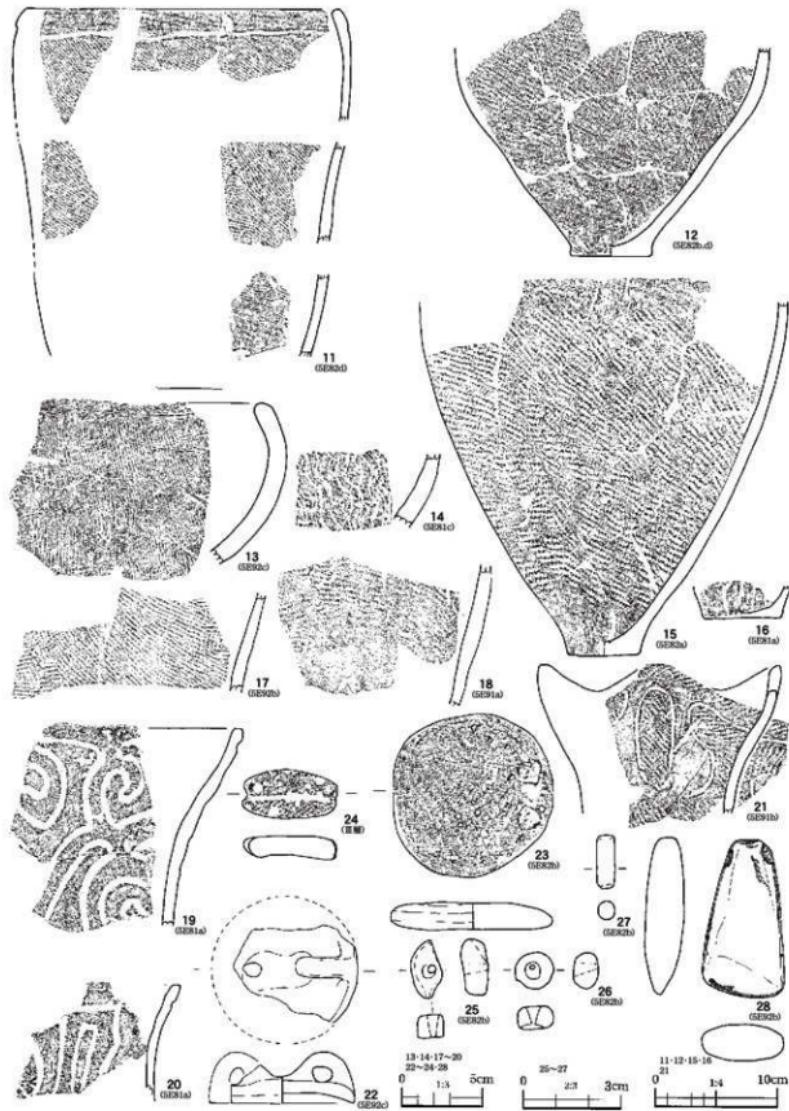
第3類（70・71） 沈線文により文様を施す加曾利E III・IV式土器

第4類（73～80） 有孔鍔付土器 隆帯に孔を持つもの（74）や注口部がある（80）。

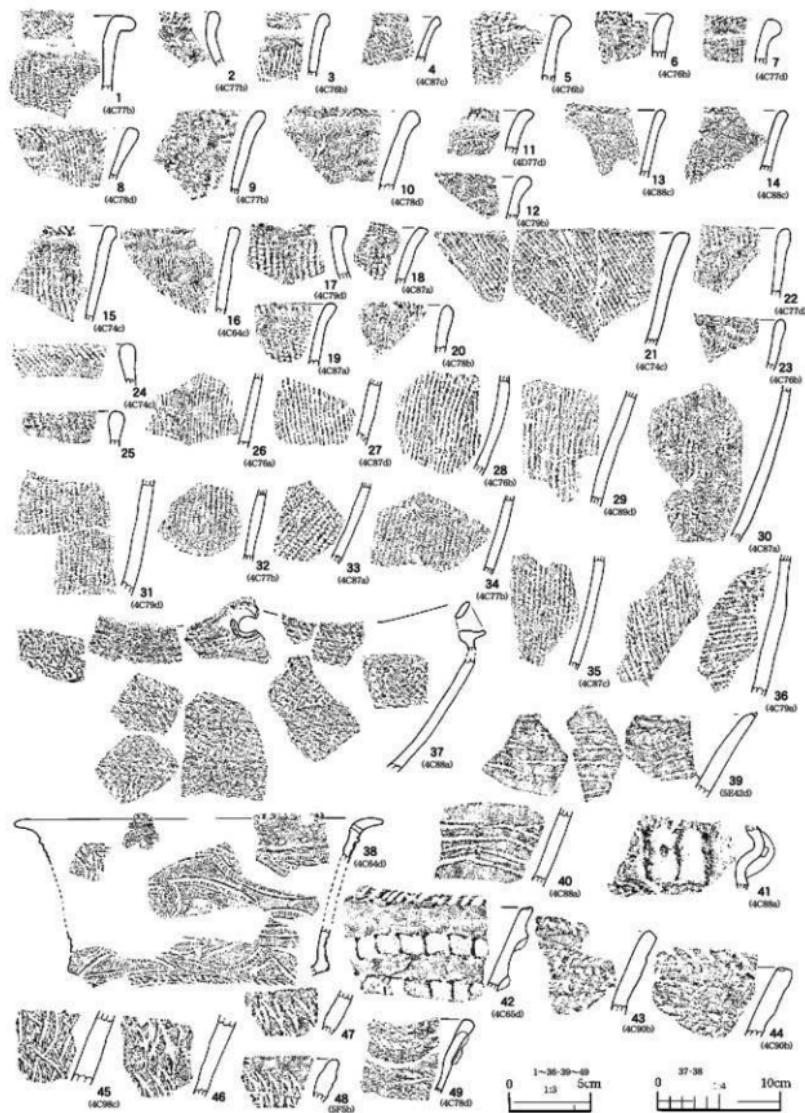
第VII群土器 後期初頭の称名寺式土器（第214図81～98・117～119）



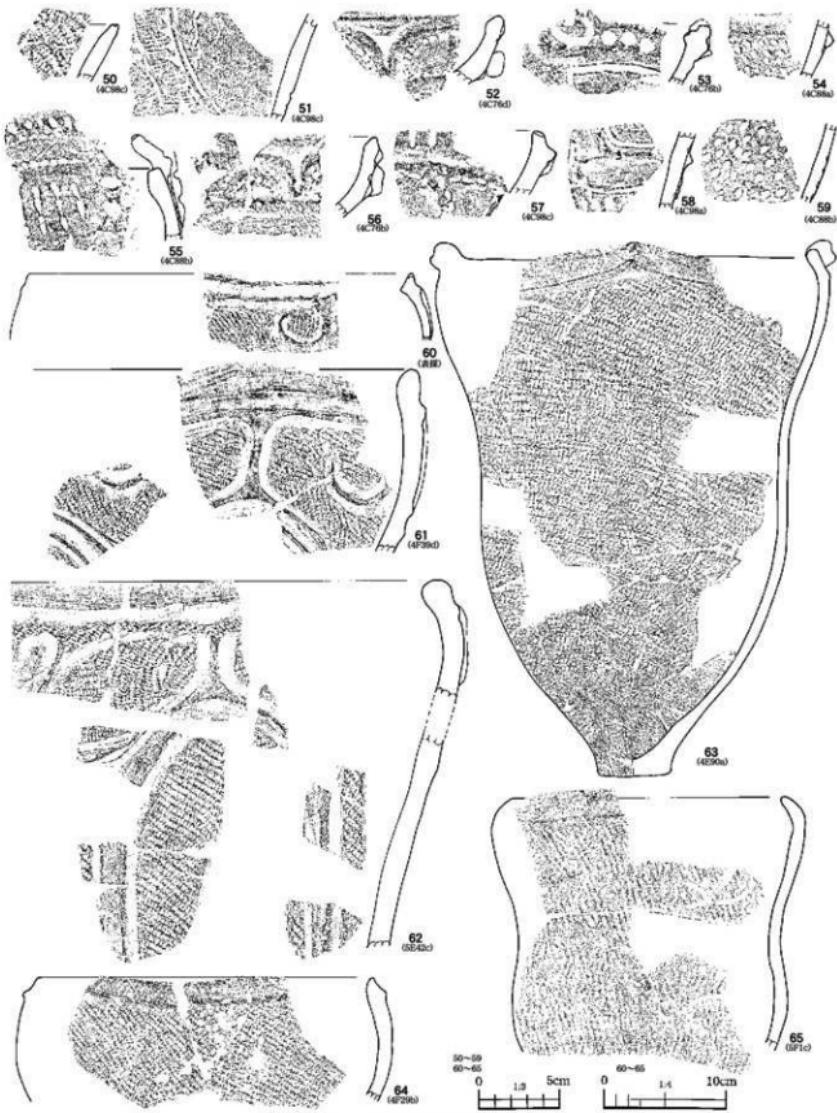
第209図 第3遺物集中区出土遺物①



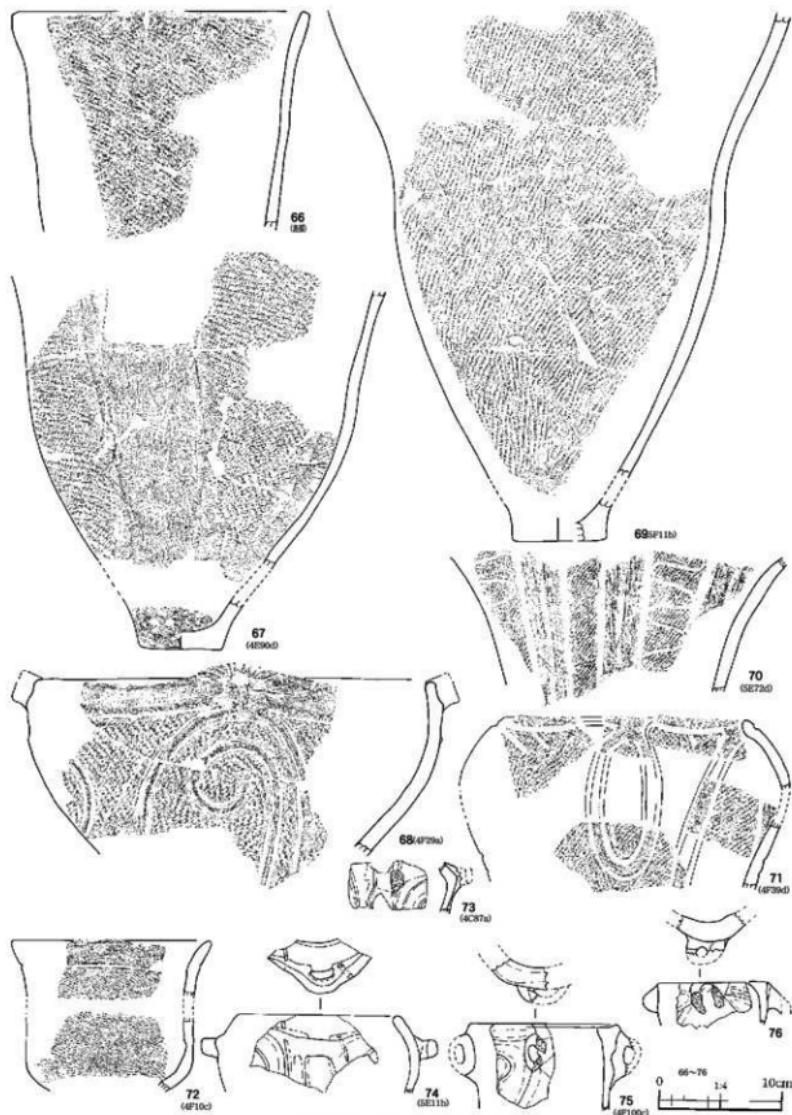
第210図 第3遺物集中区②



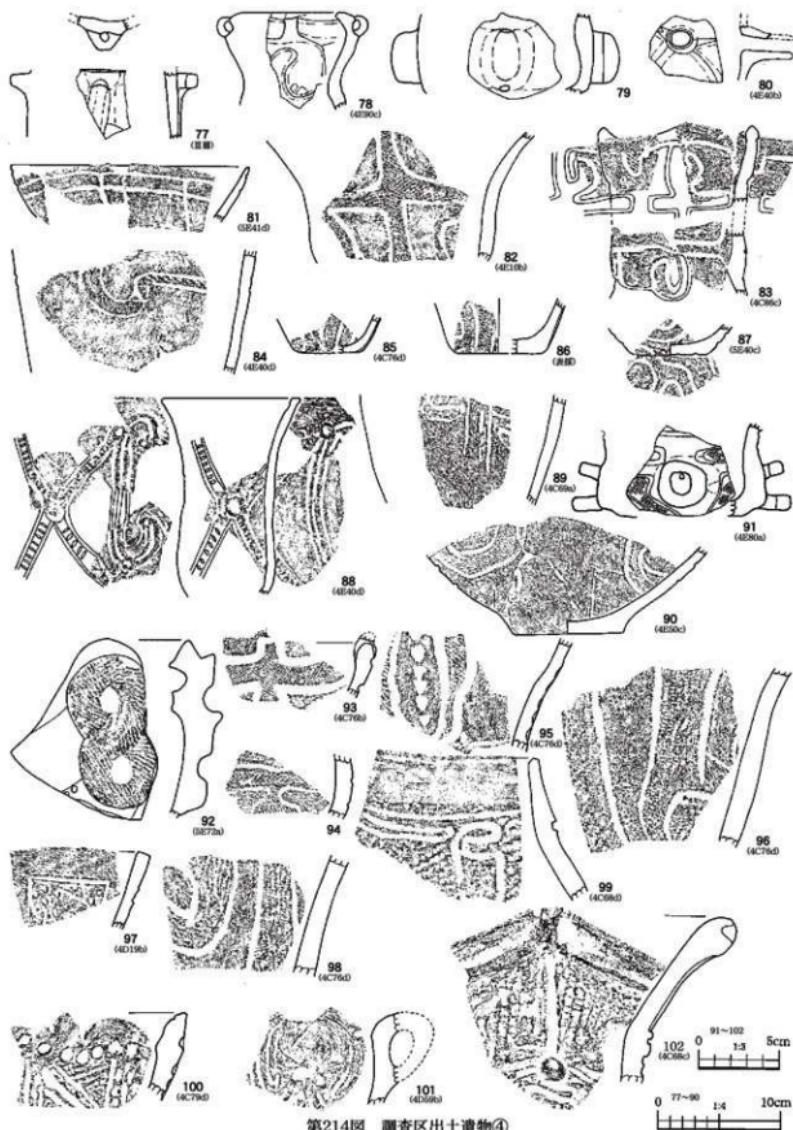
第211図 調査区出土遺物①



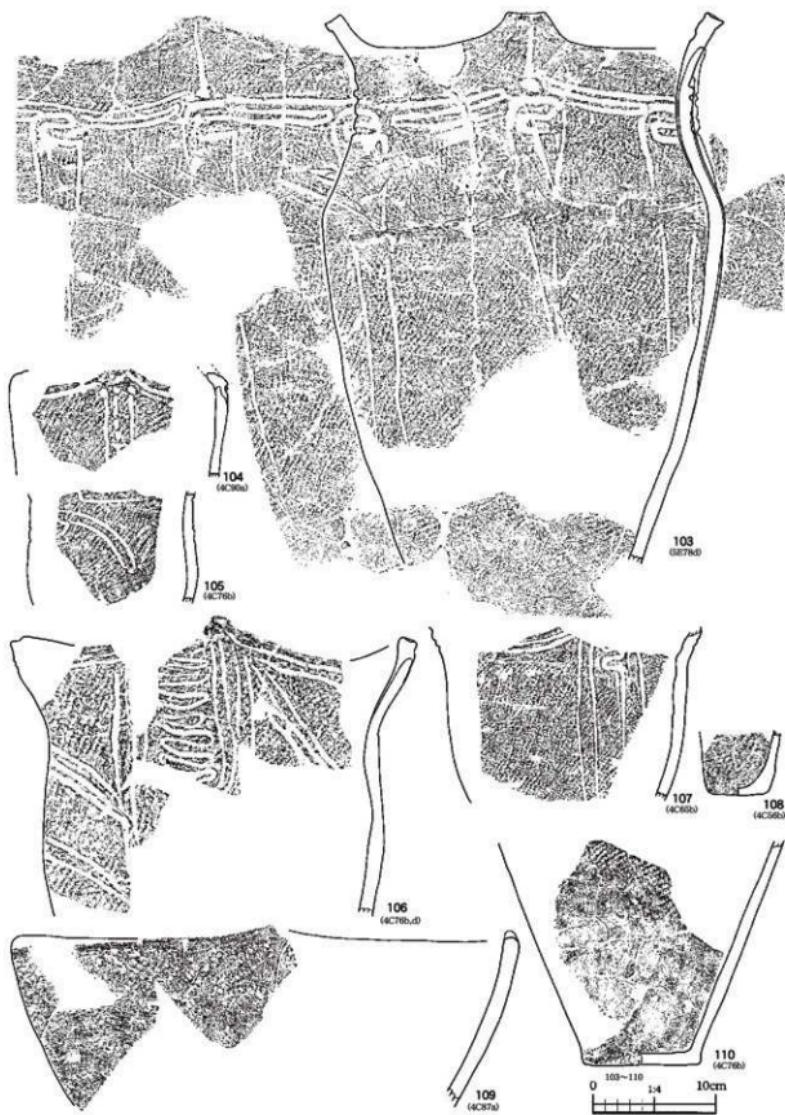
第212図 調査区出土遺物②



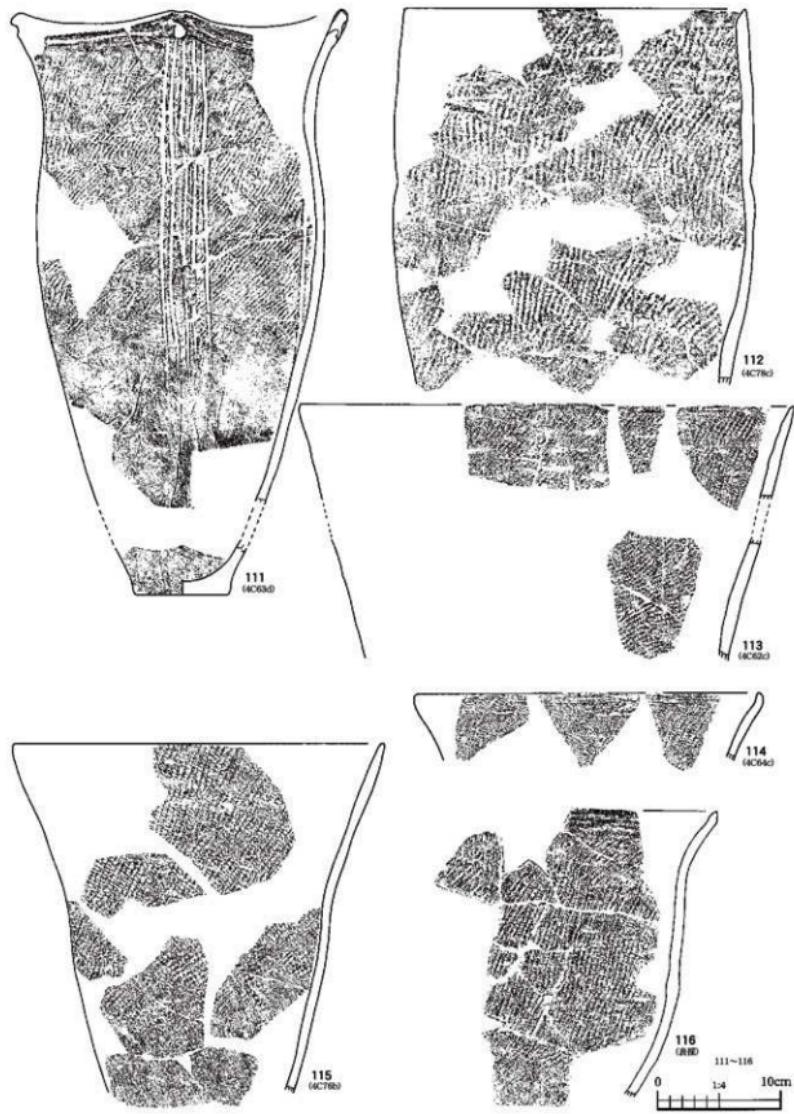
第213図 調査区出土遺物③



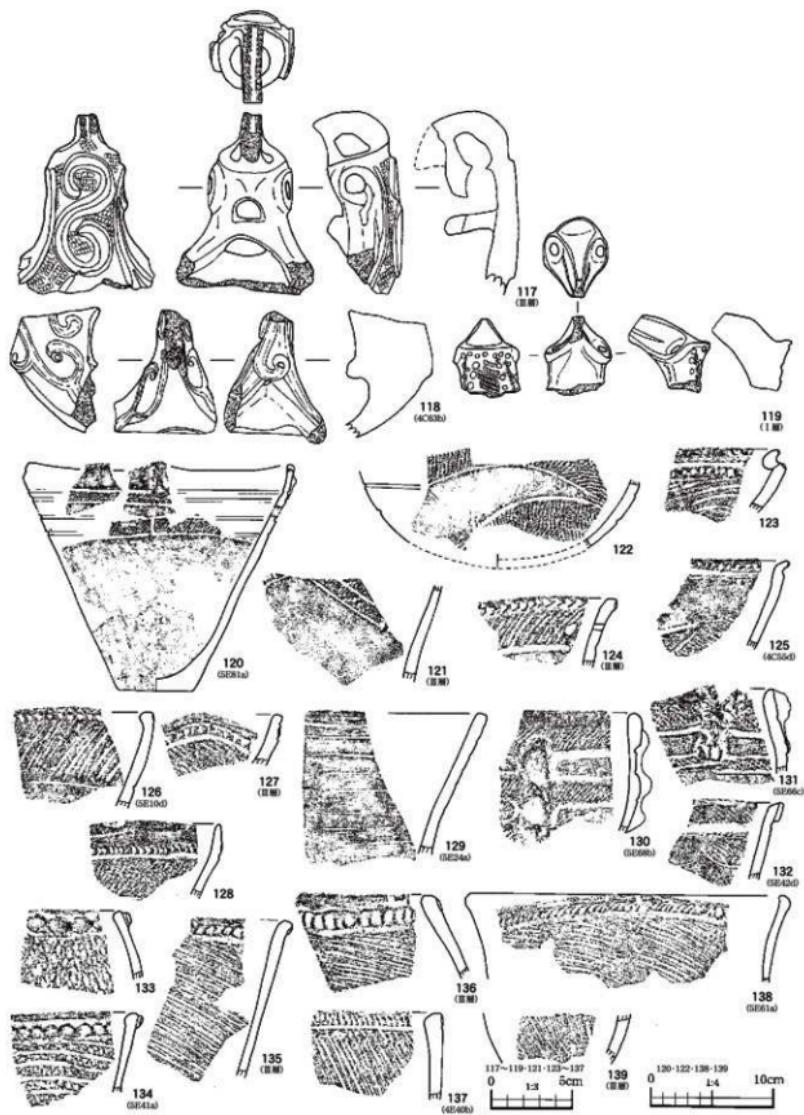
第214図 調査区出土遺物④



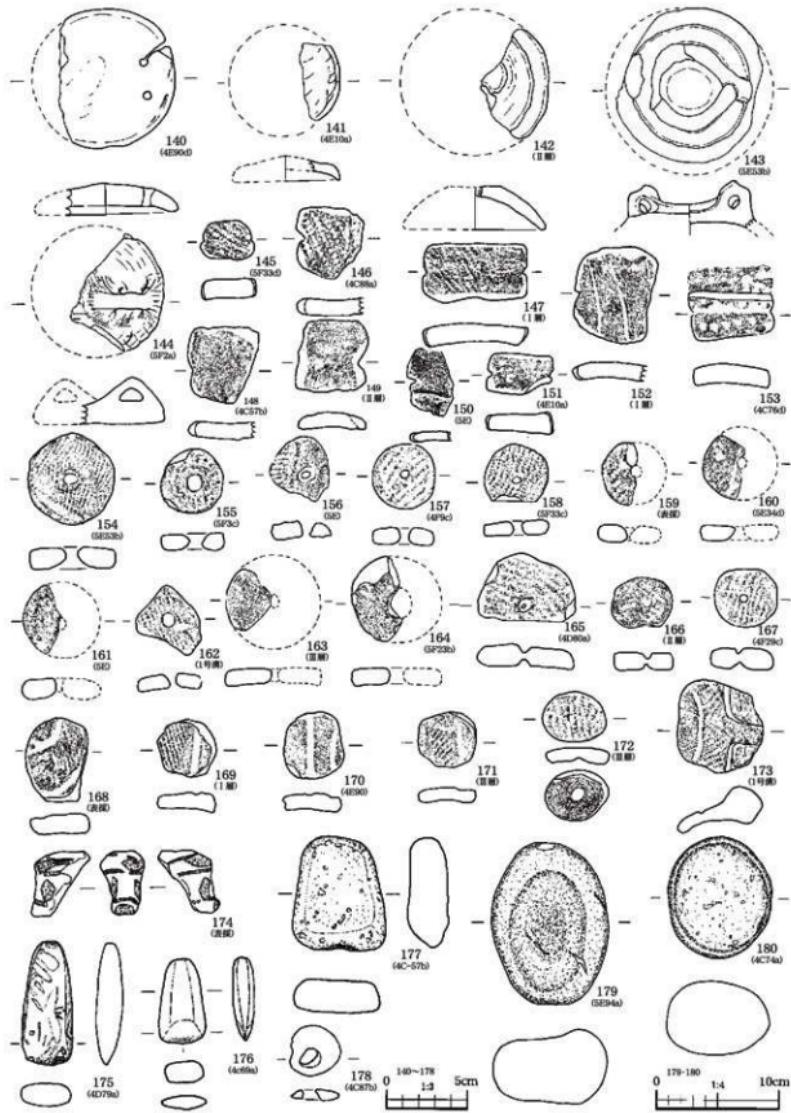
第215図 調査区出土遺物⑤



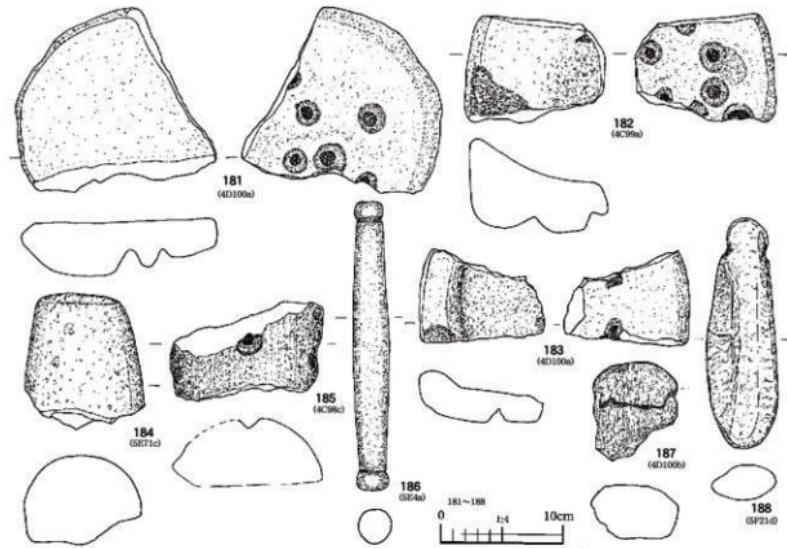
第216図 調査区出土遺物⑥



第217図 調査区出土遺物⑦



第218図 調査区出土遺物⑧



第219図 調査区出土遺物⑨

第60表 調査区出土土製品計測表

出土位置	種別	重量	共	幅	厚	孔	残存	時期	地	
西側	山形大判石	7.5	2.8	1.8	1.6	-	-	中期	4C-64a-33	
4-10a-1層	圓筒形器	8.0	2.3	4.6	0.4	1/5	圓筒形器	21B-174	4C-64a-33	
4-90a-1層	圓筒形器	20.0	7.2	8.2	1.5	2/3	圓筒形器	21B-141	4C-60	
4-90a-2層	圓筒形器	105.4	8.2	9.5	1.9	2/3	圓筒形器	21B-140	4C-75d-2層	
S-2a-1層	圓筒形器	53.3	4.9	6.9	1.2	1/4	圓筒形器	21B-151	4C-10a-2層	
S-3	土鍬	34.9	4.7	6.0	0.9	1/2	土鍬	21B-151	4C-10a-2層	
E-53b-1層	土鍬	34.9	4.7	6.0	0.9	1/2	土鍬	21B-140	4C-10a-2層	
E-76d	土鍬	23.5	3.0	5.2	1.3	-	土鍬	21B-140	4C-90	
E-98a-1層	土鍬	22.5	4.4	4.4	1.1	1/2	土鍬	21B-155	4C-29a	
E-98a-2層	土鍬	22.5	4.4	4.4	1.1	1/2	土鍬	21B-146	4C-29a	
E-99-1層	土鍬	31.4	5.1	5.8	0.8	-	土鍬	21B-157	4C-29a	
E-104-1層	土鍬	16.8	2.5	3.7	1.2	3/4	土鍬	21B-151	4C-29a-2層	
SE	土鍬	7.3	4.2	2.6	0.7	1/2	土鍬	21B-150	SE	
SP-33d-1層	土鍬	12.2	2.4	3.1	1.1	-	土鍬	21B-145	SE	
1層	土鍬	33.7	5.0	6.0	0.9	1/2	土鍬	21B-152	SE	
1層	土鍬	37.2	3.3	6.0	1.0	-	土鍬	21B-147	SE	
4C-80a-1層	石土製物	38.5	3.8	5.9	1.2	0.8	1/2	石土製物	21B-165	SE
4F-9c	石土製物	19.3	3.8	3.9	1.0	1.0	1/2	石土製物	21B-157	SE
4F-29-1層	石土製物	18.7	3.8	3.4	1.2	0.5	1/2	石土製物	21B-167	SE
4F-29-2層	石土製物	12.2	3.2	3.9	0.8	0.8	1/2	石土製物	21B-182	1層
SP-34-1層	石土製物	9.0	4.0	2.4	0.9	0.9	1/2	石土製物	21B-160	1層
SE	石土製物	42.1	5.4	5.4	1.2	1.2	1/2	石土製物	21B-154	1層
SE	石土製物	15.8	3.7	3.6	1.2	1.0	1/2	石土製物	21B-155	1層
SE	石土製物	10.5	4.2	2.1	1.1	-	2/3	石土製物	21B-161	1層
SP-3c-1層	石土製物	13.2	4.0	3.4	0.8	0.9	2/3	石土製物	21B-156	1層
SP-2b-1層	石土製物	16.8	5.2	2.3	1.0	(1.8)	1/2	石土製物	21B-164	1層
SP-33-1層	石土製物	16.9	3.9	3.9	1.0	1.4	1/2	石土製物	21B-158	1層
1層	石土製物	22.0	3.0	3.7	1.0	0.5	1/2	石土製物	21B-166	1層
1層	石土製物	12.3	3.1	3.9	0.8	0.8	1/2	石土製物	21B-172	1層
1層	石土製物	11.8	3.9	2.8	1.0	-	1/2	石土製物	21B-163	1層
1層	石土製物	8.9	3.7	2.2	1.0	(0.8)	1/2	石土製物	21B-159	1層
SE	土製円板	41.6	4.5	5.3	1.4	-	1/2	土製円板	21B-171	1層
SE	土製円板	19.9	3.7	4.0	0.9	-	1/2	土製円板	21B-172	1層

第1類 (81~96・98) 充填繩文を施す称名寺1式土器 貼付による円形文を中心に、連続刺突文

第61表 調査区出土土器計測表①

出土位置	種別	重量	底	幅	厚	石材	遺存度	神國	出土位置	種別	重量	底	幅	厚	石材	遺存度	神國
4c-96c 石器	石器	1.0	1.7	1.5	0.3	黒曜石	破片	SE-458-9	石器	0.9	2.3	1.2	0.4	黒曜石	片脚		
4c-77b-1 直縁 石器	石器	1.1	2.2	1.2	0.4	黒曜石	完形	SE-403-2	石器	0.4	1.3	0.9	0.4	黒曜石	先端		
4c-14b-1 直縁 石器	石器	1.3	1.9	1.6	0.5	黒曜石	完形	SE-103-5	石器	0.2	1.3	0.7	0.2	黒曜石	先端		
4c-20b-1 直縁 石器	石器	2.2	1.7	1.5	0.5	黒曜石	完形	SE-103-6	石器	1.0	1.7	1.2	0.5	黒曜石	先端		
4c-69c-1 直縁 石器	石器	1.1	1.7	1.5	0.3	波状岩	完形	SE-94d-1 直縁	石器	2.3	3.0	1.7	0.3	チャート	先端		
4c-10b-1 直縁 石器	石器	0.4	1.6	1.2	0.3	黒曜石	完形	SE-94b-2	石器	0.7	1.6	1.3	0.3	黒曜石	先端		
4c-10c-1 直縁 石器	石器	0.9	2.0	1.7	0.2	黒曜石	完形	SE-94c-5	石器	0.6	1.4	0.9	0.4	黒曜石	3/4		
4c-11M-1 直縁 石器	石器	2.4	2.0	1.9	0.6	チャート	完形	SE-94d-1 直縁	石器	2.3	3.6	1.7	0.3	チャート	1/2		
4c-20c-1 直縁 石器	石器	1.3	2.0	1.4	0.3	チャート	完形	SE-94e-1	石器	1.5	2.1	2.1	0.4	黒曜石	完形		
4c-20b-1 直縁 石器	石器	1.9	2.1	1.4	0.6	チャート	完形	SE	石器	3.7	2.8	2.0	0.7	チャート	完形		
4c-20d-1 直縁 石器	石器	2.5	2.9	1.6	0.6	黒曜石	完形	SE	石器	1.3	2.0	1.4	0.4	チャート	完形		
4c-20d-2 直縁 石器	石器	1.3	1.6	1.6	0.4	チャート	1/2	SE	石器	1.6	2.9	1.6	0.4	チャート	完形		
4c-29c-1 石器	石器	1.0	2.2	1.9	0.3	チャート	完形	SE	石器	0.4	1.6	1.4	0.2	黒曜石	完形		
4c-29c-11 石器	石器	0.1	1.1	0.7	0.2	黒曜石	破片	SE	石器	8.6	3.2	2.4	1.2				
4c-30a-5 石器	石器	0.7	1.9	2.0	0.3	黒曜石	完形	SE-1b	石器	0.3	1.1	0.9	0.3	黒曜石	1/2		
4c-30a-14 石器	石器	0.5	1.5	1.2	0.3	黒曜石	完形	SE-2a	石器	1.4	2.0	1.6	0.4	チャート	完形		
4c-30a-15 石器	石器	1.1	1.7	1.6	0.2	黒曜石	完形	SE-2b-1 直縁	石器	2.0	3.1	1.4	0.3	チャート	1/2		
4c-30a-20 石器	石器	0.8	2.5	0.9	0.4	黒曜石	完形	SE-1c-1 直縁	石器	1.1	1.8	2.0	0.4	黒曜石	1/2		
4c-30a-22 石器	石器	0.1	1.4	1.0	0.2	黒曜石	完形	SE-1d-1 直縁	石器	0.7	1.9	1.4	0.3		1/4		
4c-30b-1 石器	石器	4.6	2.9	1.8	0.6	チャート	完形	SE-1d-2 直縁	石器	0.9	2.0	1.3	0.7		1/2		
4c-30c-1 石器	石器	1.2	2.5	2.0	0.3	チャート	完形	SE-2c-1 直縁	石器	0.6	1.7	1.4	2.8	黒曜石	完形		
4c-30c-2 石器	石器	0.3	1.1	1.1	0.3	黒曜石	完形	SE-2c-2	石器	0.9	2.4	1.5	0.4	黒曜石			
4c-30c-3 石器	石器	2.2	1.9	2.4	0.6	黒曜石	完形	SE-2c-12	石器	1.2	1.9	1.5	0.5	黒曜石	完形		
4c-30c-4 石器	石器	1.1	1.2	1.8	0.5	黒曜石	完形	SE-2c-2 直縁	石器	3.3	2.3	1.8	0.9		1/2		
4c-30c-5 石器	石器	0.1	1.2	1.0	0.1	黒曜石	完形	SE-2c-3 直縁	石器	1.6	2.9	1.3	0.8	黒曜石	完形		
4c-30c-6 石器	石器	1.2	2.1	1.6	0.4	チャート	3/4	SE-2c-4 直縁	石器	1.1	2.0	1.6	0.4	黒曜石	1/2		
4c-40b-1 石器	石器	0.1	0.9	0.5	0.2	黒曜石	完形	SE-2c-5 直縁	石器	1.3	1.8	1.7	0.5	黒曜石	1/2		
4c-51-1 直縁 石器	石器	0.2	2.0	2.0	0.3	黒曜石	完形	SE-2c-6 直縁	石器	0.1	0.9	0.8	1.7	黒曜石	破片		
4c-51-2 直縁 石器	石器	1.2	2.8	2.4	0.6	チャート	完形	SE-2c-7 直縁	石器	0.7	1.5	0.9	0.3	黒曜石	完形		
4c-51-3 直縁 石器	石器	2.9	2.8	2.4	0.6	チャート	完形	SE-2c-8 直縁	石器	0.1	1.0	0.8	0.3	黒曜石	1/4		
4c-52c-1 石器	石器	0.6	1.0	2.1	0.7	チャート	4/4b	SE-2c-9	石器	2.0	2.3	1.5	0.4	チャート	1/2		
4c-53a-8 石器	石器	2.0	2.2	1.8	0.9	黒曜石	3/4	SE-3a	石器	1.9	2.6	1.7	0.5	黒曜石	完形		
4c-54b-6 石器	石器	3.4	2.2	1.8	1.0	黒曜石	完形	SE-4d-2	石器	3.4	3.0	1.4	1.1	黒曜石	先端		
4c-54b-10 石器	石器	3.5	2.4	1.8	0.8	黒曜石	完形	SE-11b-1	石器	0.9	2.0	1.6	0.3	黒曜石	脚矢		
4c-54d-10 石器	石器	1.1	1.3	2.0	0.5	黒曜石	完形	SE-12c-2	石器	0.7	2.2	0.9	0.4	黒曜石	4/4b		
4c-54d-11 石器	石器	2.3	2.0	2.6	0.6	チャート	1/2	SE-13a-1 直縁	石器	1.5	2.3	1.4	5.1	黒曜石	1/2		
4c-56b-10 石器	石器	2.1	3.1	1.9	0.4	チャート	2/5	SE-13a-2 直縁	石器	7.0	4.0	2.4	0.8		完形		
4c-56b-11 石器	石器	0.6	1.8	1.5	0.3	チャート	完形	SE-13d-1 直縁	石器	1.3	2.0	1.4	0.6	黒曜石	1/2		
4c-58c-10 石器	石器	0.7	1.7	1.3	0.5	黒曜石	完形	SE-14b-1 直縁	石器	0.1	1.3	0.5	1.5	黒曜石	先端		
4c-59a-11 石器	石器	0.6	1.9	2.1	0.3	チャート	完形	SE-14c-1 直縁	石器	2.3	2.0	1.6	0.8	黒曜石	完形		
4c-59b-1 石器	石器	3.3	3.8	2.1	0.9	チャート	完形	SE-15-1	石器	1.9	2.0	1.8	0.4		先端		
4c-59b-2 直縁 石器	石器	3.3	3.8	2.1	0.6	チャート	完形	SE-21-1 直縁	石器	2.9	3.1	1.4	0.4	チャート	完形		
4c-59b-3 直縁 石器	石器	1.2	1.6	1.6	0.5	黒曜石	2/5	SE-21-2 直縁	石器	2.1	3.0	2.0	0.4	黒曜石	脚矢		
4c-59c-3 直縁 石器	石器	0.9	1.7	1.4	0.4	黒曜石	完形	SE-25c	石器	1.7	1.8	1.7	0.5	黒曜石	4/4b		
4c-59d-3 直縁 石器	石器	0.5	1.4	1.0	0.3	黒曜石	完形	SE-25e	石器	0.9	2.3	1.7	0.2	黒曜石	完形		
4c-59d-4 石器	石器	0.6	1.7	1.1	0.3	黒曜石	完形	SE-32a-2 直縁	石器	0.8	2.1	1.4	0.4	黒曜石	完形		
4c-59d-5 石器	石器	0.9	1.2	1.9	0.4	黒曜石	1/2	SE-31b-1 直縁	石器	3.1	2.9	2.0	0.5	チャート	1/2		
4c-59d-6 石器	石器	0.1	0.9	0.6	0.2	黒曜石	完形	SE-32a-2 直縁	石器	2.2	3.5	2.0	0.3	チャート	完形		
4c-59d-7 石器	石器	2.4	2.4	1.8	0.8	黒曜石	完形	SE-55b-1 直縁	石器	1.5	3.1	1.3	0.4	黒曜石	完形		
4c-59d-8 石器	石器	1.0	2.0	1.6	0.3	チャート	完形	SE-55c	石器	1.6	1.8	0.9	0.4	黒曜石	1/2		
4c-59d-9 石器	石器	1.0	1.8	1.5	0.3	黒曜石	完形	II 番	石器	5.1	2.8	2.6	0.6	チャート	完形		
4c-59d-10 石器	石器	2.4	2.4	1.6	0.3	チャート	完形	II 番	石器	1.1	2.2	1.4	0.4	チャート	脚矢		
4c-59d-11 石器	石器	2.8	2.4	1.8	0.5	チャート	完形	II 番	石器	3.2	2.5	2.8	0.8	チャート	完形		
4c-60a-1 直縁 石器	石器	1.5	2.1	2.1	0.6	黒曜石	完形	II 番	石器	0.8	1.6	1.7	0.4	黒曜石	脚矢		
4c-60a-2 直縁 石器	石器	1.7	2.1	1.8	0.4	チャート	完形	II 番	石器	0.3	1.6	0.8	0.3	黒曜石	完形		
4c-60c-1 直縁 石器	石器	0.4	1.4	1.4	0.1	チャート	完形	II 番	石器	0.4	1.7	1.1	0.2	黒曜石	先端		
4c-62d-2 直縁 石器	石器	1.7	2.5	1.3	0.6	黒曜石	完形	II 番	石器	1.3	2.6	1.3	0.4	黒曜石	1/2		
4c-62d-3 直縁 石器	石器	1.0	2.4	1.5	0.3	チャート	完形	II 番	石器	1.4	3.0	2.1	0.4	チャート	完形		
4c-62d-4 直縁 石器	石器	0.4	1.5	0.8	0.3	黒曜石	1/2	II 番	石器	0.4	1.5	1.1	0.3	黒曜石	完形		
4c-64d-1 直縁 石器	石器	0.9	1.8	1.3	0.4	チャート	完形	II 番	石器	1.2	1.7	1.6	0.4	チャート	完形		
4c-64d-2 直縁 石器	石器	3.3	2.7	2.1	0.7	チャート	完形	II 番	石器	0.1	0.9	0.5	0.2	黒曜石	先端		

刺突を施した隆帶をX状に配するもの(88)、臍部中央の円形把手の上下に孔を有するもの(91)、関

沢類型のもの(92)がある。

第2類(97) 列点文を充填する称名寺2式土器

第3類(117~119) 臍面把手 加曾利E式後半の可能性もある

第V群土器(第214図99~第216図116) 後期前半の堀ノ内1式土器

第1類(99~107・111) 地紋の縄文上に沈線により文様を施す土器

第2類(108~110・112~116) 縄文施文のみの土器

第IX群土器(第217図120~137) 後期中葉から晚期前半土器

第1類(120~122) 磨消繩文を施す加曾利B式の精製土器

第2類(123~126) 刺突と条線文による加曾利B式の精製土器

第62表 調査区出土石器計測表②

出土位置	種別	直長	長	幅	厚	石材	遺在度	神國	出土位置	種別	直長	幅	厚	石材	遺在度	神國
表探	石器	0.1	1.2	0.5	0.1	無縫石	1/4	表探	石器	1.7	1.9	1.3	0.8	無縫石		
表探	石器	0.1	1.0	1.1	0.2	無縫石	先期	表探	石器	2.2	1.3	1.4	1.1	無縫石		
表探	石器	0.3	1.5	0.7	0.4	無縫石	1/4	表探	石器	1.2	1.3	1.3	0.6	無縫石		
表探	石器	1.0	1.9	1.3	0.5	無縫石	先期	表探	石器	0.9	1.3	1.2	0.6	無縫石		
表探	石器	1.6	1.9	1.3	0.5	チャート	1/2	表探	石器	1.5	1.6	0.9	0.9	無縫石		
表探	石器	0.2	1.6	0.6	0.2	チャート	先期	4C-54a	打製石斧	87.5	6.9	4.7	1.5	無縫石	1/2	
表探	石器	0.6	1.7	1.0	0.3	チャート	1/2	4C-55a-1	打製石斧	189.4	7.0	5.8	2.0	安山岩	完形	219-177
表探	石器	0.5	1.6	1.2	0.3	チャート	1/2	4C-63d	打製石斧	43.4	5.3	4.9	1.0	粘板岩	1/2	
表探	石器	1.0	2.0	1.2	0.3	粘板岩	先期	4C-86c	打製石斧	20.6	4.2	3.5	1.4	黄砂岩	破片	
表探	石器	6.7	3.2	3.2	0.7	粘板岩	先期	4C-96c	打製石斧	6.3	3.6	2.2	0.5	黄砂岩	破片	
表探	石器	2.0	2.1	2.9	0.4	無縫石	先期	4C-90a-1	打製石斧	54.1	5.0	4.9	1.6	安山岩	完形	
表探	石器	2.0	2.1	1.9	0.5	無縫石	1/4	4D-99a-1	打製石斧	121.7	8.8	5.6	2.6	粘板岩	完形	
表探	石器	0.6	1.5	1.4	0.3	無縫石	破片	4D-59-10	打製石斧	93.3	7.8	4.6	2.0			4/5
表探	石器	0.9	1.7	1.6	0.4	無縫石	完形	4D-59-10	打製石斧	52.6	6.9	3.4	1.7	砂岩	4/5	
表探	石器	0.7	1.9	1.6	0.3	無縫石	完形	4D-98e-1	打製石斧	19.9	5.2	2.9	2.3			1/3
表探	石器	0.3	1.5	0.9	0.3	無縫石	完形	4D-100-1	打製石斧	87.7	8.5	5.9	2.5	粘板岩	1/3	
表探	石器	0.3	1.5	0.9	0.3	無縫石	完形	4D-100-2	打製石斧	10.5	5.3	2.2	1.2	安山岩	1/3	
表探	石器	0.8	1.6	1.4	0.3	無縫石	先期	4E-90a-1	打製石斧	75.0	5.6	3.5	2.1	無縫石	1/2	
表探	石器	0.8	1.9	1.5	0.4	無縫石	先期	4F-104	打製石斧	144.2	9.1	5.8	2.5	安山岩	完形	
表探	石器	0.8	2.0	1.6	0.3	無縫石	先期	4F-30-1	打製石斧	52.6	7.2	4.0	1.7	無縫石	1/2	
表探	石器	2.1	2.2	2.5	0.4	牛頭形		4F-30-3	打製石斧	136.5	8.4	3.8	2.3	玄武岩	1/2	
1号屋	石器	2.2	2.4	2.1	0.6	无	完形	4F-30-2	打製石斧	104.6	6.5	5.4	2.2	安山岩	2/3	
4F-90a-1	石器	0.9	2.2	1.4	0.3	無縫石	完形	4F-40-3	打製石斧	70.0	9.5	3.8	1.8	玄武岩	完形	
SE-33a-6	石器	0.6	2.1	0.6	0.3	チャート	1/2	SE-12-1	打製石斧	66.6	6.8	4.3	2.1	粘板岩	1/2	
SE-53d-2	石器	3.3	5.5	1.2	1.0	チャート	完形	SE-13-1	打製石斧	100.6	9.6	5.2	1.2	粘板岩	完形	
SE-73a-1	石器	4.7	4.1	1.5	0.9	チャート	完形	SE-19-1	打製石斧	59.6	7.2	4.5	1.5			
SE-75c-2	石器	0.9	1.7	0.7	0.7	无		SE-23	打製石斧	90.5	5.1	6.0	2.1	石縫片岩	1/2	
SE-31-1	石器	0.3	1.4	0.6	0.2	無縫石	完形	SE-31-2	打製石斧	38.5	4.9	4.3	1.6	安山岩	1/2	
SE-31-1	石器	0.3	1.4	0.6	0.2	無縫石	完形	SE-45-1	打製石斧	59.1	6.5	3.1	1.7	砂岩	1/2	
SE-21-1	石器	1.2	2.0	0.7	0.3	無縫石	完形	SE-45-2	打製石斧	59.1	6.5	3.1	1.7	砂岩	1/2	
SE-21-2	石器	1.2	2.0	0.7	0.3	無縫石	1/2	SE-46-2	打製石斧	66.3	6.5	3.1	1.6	安山岩	1/2	
SE-22-1	石器	0.8	2.2	0.7	0.3	無縫石	1/2	SE-71-3	打製石斧	16.9	6.3	3.2	1.1	安山岩	1/4	219-184
SE-22-2	石器	0.6	2.5	0.6	0.3	チャート	1/2	SE	打製石斧	37.5	7.2	6.6	0.9	粘板岩	1/2	
表探	石器	3.2	2.8	1.5	0.6	チャート		SE	打製石斧	83.8	5.5	7.0	1.4	安山岩	1/2	
SE-53d-3	石器	1.1	1.8	1.5	0.4	無縫石	1/2	SE-1a-1	打製石斧	12.1	2.7	2.9	0.9	縫隙片岩	破片	
SE-53d-9	石器	0.7	1.5	1.5	0.4	無縫石	1/2	SE-22-1	打製石斧	28.4	6.6	4.1	0.8	粘板岩	1/3	
SE-2-29	石器	2.4	2.9	1.9	0.6	無縫石	先期	SE-25a-1	打製石斧	95.9	5.5	6.5	1.8	安山岩	1/2	
SE-2-31	石器	4.7	3.0	1.6	0.9	無縫石	1/2	SE-31a-1	打製石斧	48.4	5.4	4.3	1.3	粘板岩	1/2	
SE-3-39	石器	1.4	2.1	1.6	0.4	無縫石	1/2	B 箱	打製石斧	99.8	6.9	4.3	2.2	安山岩	1/2	
SE-83d-3	石器	1.0	2.2	1.4	0.3	無縫石		II 箱	打製石斧	219.5	8.2	6.7	3.0			1/2
表探	石器	2.0	1.9	1.8	0.5	チャート	1/2	表探	打製石斧	144.0	6.5	6.5	2.1	無縫石	1/2	
表探	石器	2.8	3.5	2.2	0.6	无	1/2	表探	打製石斧	5.8	4.5	4.5	1.3	砂岩	1/2	
表探	石器	2.0	3.1	1.8	0.5	チャート	完形	表探	打製石斧	10.4	6.1	6.1	1.1	安山岩	1/2	
表探	石器	2.0	2.9	1.8	0.5	無縫石	完形	表探	打製石斧	62.7	5.6	5.0	2.2	玄武岩	1/2	
SE-59a-2	石器	3.4	2.7	1.4	0.8	無縫石	1/2	SE-59b	打製石斧	106.7	6.9	5.5	2.2	粘板岩	1/2	
SE-71b-14	石器	2.5	2.2	1.4	0.6	無縫石	完形	4C-63a-1	打製石斧	192.4	9.5	5.1	2.3	石縫片岩	1/2	
SE-3b	石器	9.1	3.5	1.9	1.3	無縫石	先期	4C-69a-1	打製石斧	34.3	5.1	2.8	1.3	砂岩	完形	219-176
SE-4b-1	石器	46.9	7.1	5.4	0.9	无	1/2	4C-75a-1	打製石斧	66.5	6.3	3.5	1.9	破碎灰岩	1/2	
SE-4c-1	石器	4.9	2.4	1.7	0.8	无		4C-77-1	打製石斧	62.4	11.9	7.5	4.3			5/6
SE-10c-1	石器	1.0	3.9	2.2	1.5	無縫石	完形	4C-80-1	打製石斧	44.8	3.5	3.4	1.8	破碎灰岩	1/4	
SE-20a-2	石器	10.6	3.0	1.6	1.7	1/2	4C-95-2	打製石斧	48.0	4.1	3.6	2.1	圓錐凹面	1/2		
SE-30c-2	石器	4.1	2.6	1.4	1.1	无		4D-79a-1	打製石斧	47.7	7.4	3.0	1.4	砂岩	完形	219-175
SE-25a	石器	2.9	2.2	1.8	0.7	無縫石		4E-10a-1	打製石斧	62.0	6.1	4.6	1.8	圓錐凹面	1/2	
SE-55d-1	石器	5.2	3.5	2.6	1.2	無縫石		SE-20a-3	打製石斧	120.3	6.2	4.6	1.8	圓錐凹面	1/2	
SE-25a	石器	2.1	1.7	1.2	0.5	無縫石		SE-20-3	打製石斧	160.0	6.3	4.1	1.7	砂岩	1/2	
SE-26	石器	57.5	5.4	3.3	2.2	无		SE-12-1	打製石斧	45.3	2.1	2.6	2.6	圓錐凹面	1/5	
SE-34c-1	石器	26.5	2.1	3.7	2.7	破片		SE-44-3	打製石斧	133.8	7.7	4.3	2.2	破碎灰岩	完形	
表探	石器	32.8	4.8	4.2	2.0	チャート		SE-45d-2	打製石斧	49.0	5.4	4.1	1.2	粘板岩	完形	
表探	石器	6.2	3.7	1.5	1.1	チャート		SE-45d-4	打製石斧	108.5	7.8	4.3	2.0	圓錐凹面	完形	
表探	石器	6.6	3.7	1.5	1.0	チャート		SE-70-1	打製石斧	341.4	10.5	5.6	3.4	圓錐凹面	完形	
表探	石器	4.2	2.9	1.2	1.0	無縫石		SE-72-2	打製石斧	113.0	8.2	4.1	2.1	圓錐凹面	2/3	
表探	石器	3.5	2.6	1.4	1.1	無縫石		SE-61-1	打製石斧	191.4	4.5	5.1	3.0	破片	1/3	

第3類 (127・128) 繩文と連続刺突による加曾利B式の精製土器

第4類 (130・131) 帯縄文と貼瘤の安行1式・2式の精製土器

第5類 (132) 磨消縄文による連続弧線文を施す安行3a式の精製土器

第6類 (133~139) 紋線文を施す粗製土器 加曾利B式に伴う縄文のみのもの (133)、縄文に条線を施するもの (134)、条線のみのもの (135・139)、安行2式の縄線に指頭圧痕文を施すもの (136)、紐線が沈線内の連続刺突文に置換されたもの (137)、がある。

土製品：(第218図140~174・第60表) 蓋形土製品5点、土錐9点、有孔土製円板15点、土製円板34点のほかに小型の山形土偶の手が1点出土している。

石器：(第218図175~第219図188・第61表~第64表) 石鍬11点、石錐11点、石匙10点、削器1点、両極石器2点、円形石器1点、石核20点、打製石斧39点、磨製石斧20点、石皿29点、磨石63点、圓石8点、

第63表 調査区出土石器類別表③

出土位置	種別	重量	長	幅	厚	石材	遺存層	地図	出土位置	種別	重量	長	幅	厚	石材	遺存層	地図
直標	石棒	54.6	6.6	5.5	1.4	御前山	1/2	46~86c	石棒	35.5	4.9	3.7	1.6	1/4			
直標	石棒	6.6	7.7	4.2	3.9	1.7	御前山	1/2	46~96b	石棒	77.1	10.9	8.4	5.9	法式岩	完形	
直標	石棒	49.6	4.2	3.9	1.9	御前山	破片	46~96c	石棒	143.9	6.0	5.6	4.7	1/4			
直標	石棒	60.3	4.0	3.1	2.5	2.5	法式岩	破片	直標	56.6	6.3	4.1	2.3	1/4			
直標	石棒	244.5	6.0	4.6	4.5	2.5	法式岩	破片	46~96c	石棒	24.1	3.7	2.5	2.1	1/4		
直標	石棒	32.1	6.4	3.3	1.9	安山岩	破片	46~9~10	石棒	484.4	9.9	7.6	4.0	3/4			
直標	石棒	665.0	11.3	8.4	6.8	前田	1/5	46~29	石棒	33.2	3.2	2.4	3.6	1/4			
直標	石棒	299.7	7.3	6.9	3.8	安山岩	1/5	47~70~1	石棒	306.8	8.6	6.3	3.5	完形			
直標	石棒	71.9	5.2	4.7	2.9			47~100~1	石棒	463.6	7.9	6.6	3.7	1/2			
直標	石棒	72.0	5.1	4.6	3.5			47~100~2	石棒	132.9	3.7	5.6	4.2	1/2			
直標	石棒	1228.2	15.4	8.6	6.6	安山岩	1/5	47~100~3	石棒	48.5	5.3	4.1	2.5	47~100~1	1/5		
直標	石棒	304.8	10.2	7.6	2.6	安山岩	1/5	47~30~10	石棒	134.6	6.8	4.1	4.6	1/4			
直標	石棒	152.0	6.0	5.0	1.8			47~30~3	石棒	29.3	5.0	1.8	3.6	1/3			
直標	石棒	569.3	9.8	8.5	4.5	4.5	御前山	1/4	47~30~4	石棒	640.0	11.8	7.9	4.3	47~30~1	完形	
直標	石棒	105.9	18.2	5.0	1.6	御前山	1/4	47~30~5	石棒	33.5	4.3	3.1	2.1	47~30~1	完形		
直標	石棒	1097	18.9	12.5	4.8			47~30~6	石棒	27.2	2.9	2.3	2.1	47~30~1	破片		
直標	石棒	642.6	9.7	7.3	6.4	安山岩	1/8	47~30~5	石棒	25.2	3.1	4.2	1.1	47~30~1	石棒	1/2	
直標	石棒	15.5	4.2	2.5	1.8			50~12~1	石棒	454.1	10.7	7.7	4.1	冰紋岩	1/2		
直標	石棒	344.9	10.5	6.0	3.8	安山岩	1/8	50~12~2	石棒	148.8	6.6	5.7	2.8	47~30~1	完形		
直標	石棒	870.3	12.9	9.6	4.9			50~23~1	石棒	244.1	8.0	6.5	3.4	47~30~1	4/5		
直標	石棒	636.3	6.6	6.0	6.1	安山岩	1/8	50~23~2	石棒	99.0	4.3	5.7	3.5	47~30~1	4/5		
直標	石棒	391.1	9.2	6.6	4.2	安山岩	1/8	50~23~3	石棒	62.3	7.1	4.5	1.3	47~30~1	4/5		
直標	石棒	115.5	6.0	5.0	1.8	安山岩	1/8	50~23~4	石棒	181.8	8.1	5.4	1.5	47~30~1	4/5		
直標	石棒	20.6	4.3	4.1	1.9			50~24~1	石棒	538.5	11.7	8.0	3.6	47~30~1	完形		
直標	石棒	23.5	2.0	4.4	1.9			50~24~2	石棒	244.1	9.7	7.6	4.0	47~30~1	完形		
直標	石棒	206.0	8.6	6.6	4.0	安山岩	破片	50~43~9	石棒	147.3	6.3	5.4	2.7	神鷹	5/6		
直標	石棒	105.3	6.9	5.1	3.1	安山岩	破片	50~53~11	石棒	57.1	2.6	6.5	2.8	47~30~1	1/6		
直標	石棒	57.7	8.6	4.1	2.3	安山岩	破片	50~53~9	石棒	122.3	5.0	5.3	3.5	47~30~1	1/6		
直標	石棒	644.0	10.8	7.6	4.2	安山岩	1/4	50~53~10	石棒	59.7	4.1	3.3	3.0	47~30~1	1/6		
直標	石棒	745.3	11.9	10.8	5.1			50~54~1	石棒	402.7	11.6	6.5	3.2	47~30~1	完形		
直標	石棒	634.4	9.0	11.2	5.5			50~66~1	石棒	216.5	7.8	5.4	3.2	47~30~1	完形		
直標	石棒	1157.3	18.6	8.7	4.5	御前山	1/8	50~71~2	石棒	256.3	5.2	6.2	5.5	47~30~1	1/2		
直標	石棒	32.5	4.2	3.5	1.9	綠泥片岩	1/5	50~73~1	石棒	306.6	9.2	6.8	4.5	3/4			
直標	石棒	580.0	7.3	22.0	5.0	右近山	1/2	50~1~1	石棒	31.7	2.7	3.9	2.4	破片			
直標	石棒	363.7	8.1	6.5	4.5	御前山	1/2	50~1~2	石棒	33.3	3.5	2.5	2.0	破片			
直標	石棒	53.6	4.4	5.3	2.5			50~1~3	石棒	208.0	6.0	5.5	5.0	47~30~1	1/4		
直標	石棒	341.5	23.7	2.7	2.9			50~15~4	石棒	22.0	5.5	1.2	2.9	破片			
直標	石棒	26.3	5.8	5.8	0.8			50~18~1	石棒	47.7	4.4	2.5	3.7	破片			
直標	石棒	229.3	11.5	6.4	2.6	右近山	破片	50~22~1	石棒	56.8	5.7	4.1	4.1	破片			
直標	石棒	157.5	16.6	9.7	4.5	御前山	完形	50~99~1	石棒	182.9	6.3	6.1	3.5	1/3			
直標	石棒	38.9	7.4	3.8	1.1			46~77~4	石棒	300.9	9.2	7.5	2.9	1/2			
直標	石棒	84.3	7.4	4.3	2.3			46~30~2	石棒	432.7	8.9	6.4	4.2	完形			
直標	石棒	54.5	6.3	3.4	2.3			50~33~3	石棒	163.8	5.4	5.9	3.2	完形	1/2		
直標	石棒	73.6	7.9	4.2	1.9			50~43~1	石棒	171.7	6.6	5.1	2.9	神鷹	1/4		
直標	石棒	236.4	7.3	5.9	4.0			50~43~2	石棒	497.0	9.4	6.0	4.1	神鷹	1/2		
直標	石棒	79.7	7.3	4.5	1.6			50~94~1	石棒	1167.4	13.2	9.3	6.0	47~30~1	完形	219~179	
直標	石棒	75.8	2.6	2.0	0.9			50~22~1	石棒	222.0	6.3	7.0	3.6	47~30~1	1/2		
直標	石棒	129.8	8.8	5.0	3.0			50~22~2	石棒	341.1	9.3	7.4	3.5	47~30~1	1/2		
直標	石棒	77.7	9.9	8.5	6.0	砂羽	完形	50~14~2	石棒	85.7	4.3	3.8	3.7	安山岩	1/4		
直標	石棒	164.8	6.1	4.7	3.7	御前山	1/4	46~63~1	石棒	298.8	4.0	3.1	2.9	破片	1/4		
直標	石棒	264.3	6.6	5.6	4.8	御前山	完形	46~63~2	石棒	140.6	8.0	8.7	2.3	神鷹	完形		
直標	石棒	254.9	8.4	5.2	4.4			46~64~2	石棒	84.3	7.4	4.3	2.5	1/3			
直標	石棒	183.1	7.0	5.1	3.3	砂羽	完形	46~65~9	石棒	141.1	3.9	6.1	3.8	1/3			
直標	石棒	83.2	6.1	5.1	3.1	安山岩	破片	46~66~6	石棒	293.3	8.9	6.1	4.0	安山岩	1/2		
直標	石棒	94.2	5.2	5.4	3.1			46~76~4	石棒	58.0	7.2	2.4	3.5	破片			
直標	石棒	35.8	4.9	2.3	2.1			46~87~4	石棒	129.6	7.2	4.6	2.4	完形			
直標	石棒	44.0	5.2	3.7	1.8	安山岩	1/4	46~87~5	石棒	168.4	7.1	4.7	3.5	完形			
直標	石棒	407.7	10.6	7.1	3.5	安山岩	破片	46~87~6	石棒	364.8	9.2	6.0	3.7	安山岩	3/4		
直標	石棒	131.1	6.9	5.3	2.4	砂羽	完形	46~87~7	石棒	336.7	8.2	7.0	4.1	47~30~1	完形		
直標	石棒	67.0	6.0	5.0	2.0			46~87~8	石棒	334.1	9.1	7.1	2.1	47~30~1	完形		
直標	石棒	65.9	8.6	5.5	1.7	安山岩	1/2	46~90~4	石棒	115.4	8.7	8.8	1.6	47~30~1	完形		
直標	石棒	46.2	5.1	4.4	1.5			46~19~2	石棒	273.7	6.0	6.6	4.2	砂羽	1/2		

第64表 調査区出土石器類別表④

出土位置	種別	重量	長	幅	厚	石棒	放存層	地図	出土位置	種別	重量	長	幅	厚	石棒	放存層	地図
直標	石棒	75.4	4.4	2.6	5.1	安山岩	1/2	50~21~1	石棒	420.0	19.0	5.2	2.9	御前山		220~188	
直標	石棒	235.3	10.1	4.1	3.6			50~21~2	石棒	132.7	4.1	4.6	6.6	御前山			
直標	石棒	11.1	1.8	1.5	1.5			50~28~1	石棒	205.3	5.2	4.4	4.4	完形			
直標	石棒	169.2	6.4	5.3	2.6	安山岩	1/2	50~74~1	石棒	306.8	4.5	10.6	5.8	1/4			
直標	石棒	437.4	8.4	8.8	4.5	安山岩	2/5	50~74~2	石棒	218.4	8.8	4.1	3.7	1/2			
直標	石棒	60.8	3.4	5.4	5.4	4.5	安山岩	破片	46~79~1	石棒	90.4	6.6	3.2	2.6	完形		
直標	石棒	272.1	6.2	7.0	4.7	安山岩	1/2	50~23~1	石棒	633.1	13.2	7.0	4.4	完形			
直標	石棒	300.3	6.8	9.3	4.2			50~37~1	石棒	82.0	6.5	4.6	1.6	完形			
直標	石棒	266.5	8.1	6.9	3.4	砂羽	1/2	50~37~2	石棒	321.9	9.0	2.2	2.0	1/3			
直標	石棒	244.2	6.9	6.5	2.2			50~37~3	石棒	103.3	5.8	4.9	1.6	完形			
直標	石棒	31.9	5.7	2.3	2.3	砂羽	破片	50~37~4	石棒	60.4	5.3	5.0	1.9	1/4			
直標	石棒	315.0	11.9	4.1	5.4			50~39~1	石棒	192.9	9.8	8.1	5.9	砂羽	1/2		
直標	石棒	21.0	2.4	3.8	2.5	安山岩	破片	46~90~4	石棒	6.9	3.5	3.4	2.6	砂羽	完形		
直標	石棒	32.2	2.1	4.6	2.4	砂羽	破片	50~73~2	石棒	45.5	8.8	5.5	3.4	砂羽	完形		
直標	石棒	265.6	4.2	7.4	5.3	安山岩	1/2	50~14~1	石棒	6.6	2.2	1.8	1.6	砂羽	完形		
直標	石棒	11.6	3.1	2.5	1.7			50~21~1	石棒	2.6	3.1	3.5	1.6	砂羽	完形		
直標	石棒	49.8	5.7	5.1	4.1			50~21~2	石棒	255.8	4.5	4.3	3.4	砂羽	完形		
直標	石棒	216.6	5.3	6.6	4.2	破片	1/2	46~93~1	石棒	180.0	3.0	3.0	0.6	完形	229~178		

敲石39点、砥石6点、浮子6点、石棒32点、垂飾1点が出土している。186の石棒は小型の両頭石棒で、緑泥片岩製の完形であるが被熱痕はない。堀ノ内1式期のものと思われる。184と185は大型の安山岩製石棒で比熱し窪みが認められる。

第7節 平和公園遺跡群の過去の調査成果

平和公園周辺の発掘調査は、昭和47年の公園造成時に内野古墳5号墳が削平を受け発掘調査を行ったことにはじまる。以後公園拡充計画に沿って発掘調査が行なわれてきた。

内野5号墳（内野古墳群） ①所在地 千葉市若葉区多部田町平和公園内 ②調査期間 昭和47年2月5日～3月5日 ③調査主体 加曾利貝塚博物館 ④検出遺構 円墳1（組合箱形石棺1） ⑤出土遺物 直刀2・刀子・鉄鏃 ⑥報告 『千葉市史 資料編 原始・古代・中世』 ⑦備考 直径約30m、墳頂高1.5mで石棺は黒雲母片岩製。

A・B地点（多部田A・B遺跡） ①所在地 千葉市若葉区多部田町平和公園内 ②調査期間 昭和47年1月20日～3月31日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④検出遺構 住居跡1（鬼高期）

C地点（平和公園C地点）（第221図） ①所在地 千葉市若葉区多部田町平和公園内 ②調査期間 昭和47年6月14日～9月25日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 薬師寺崇 ⑤検出遺構 土壙2（縄文時代後期1・平安時代1） ⑥出土遺物 加曾利BII式土器・短頸壺1・甕3・台付鉢1・蓋1 ⑦報告 『千葉市文化財調査報告第1集』 ⑧備考 1号土壙から短頸壺（1）が出土し、火葬骨と思われるものが出土している。図示した他に須恵器の甕が2個体出土している。

D地点（平和公園D地点）（第222図） ①所在地 千葉市若葉区多部田町平和公園内 ②調査期間 昭和48年5月10日～昭和49年3月31日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 青沼道久 ⑤検出遺構 寺沢薰 ⑥出土遺物 加曾利E式（1～3）・加曾利B式（4）土器・須恵器蓋1（9）・台付鉢1（10）・打製石斧（5）は表探 ⑦報告 『千葉市文化財調査報告第1集』

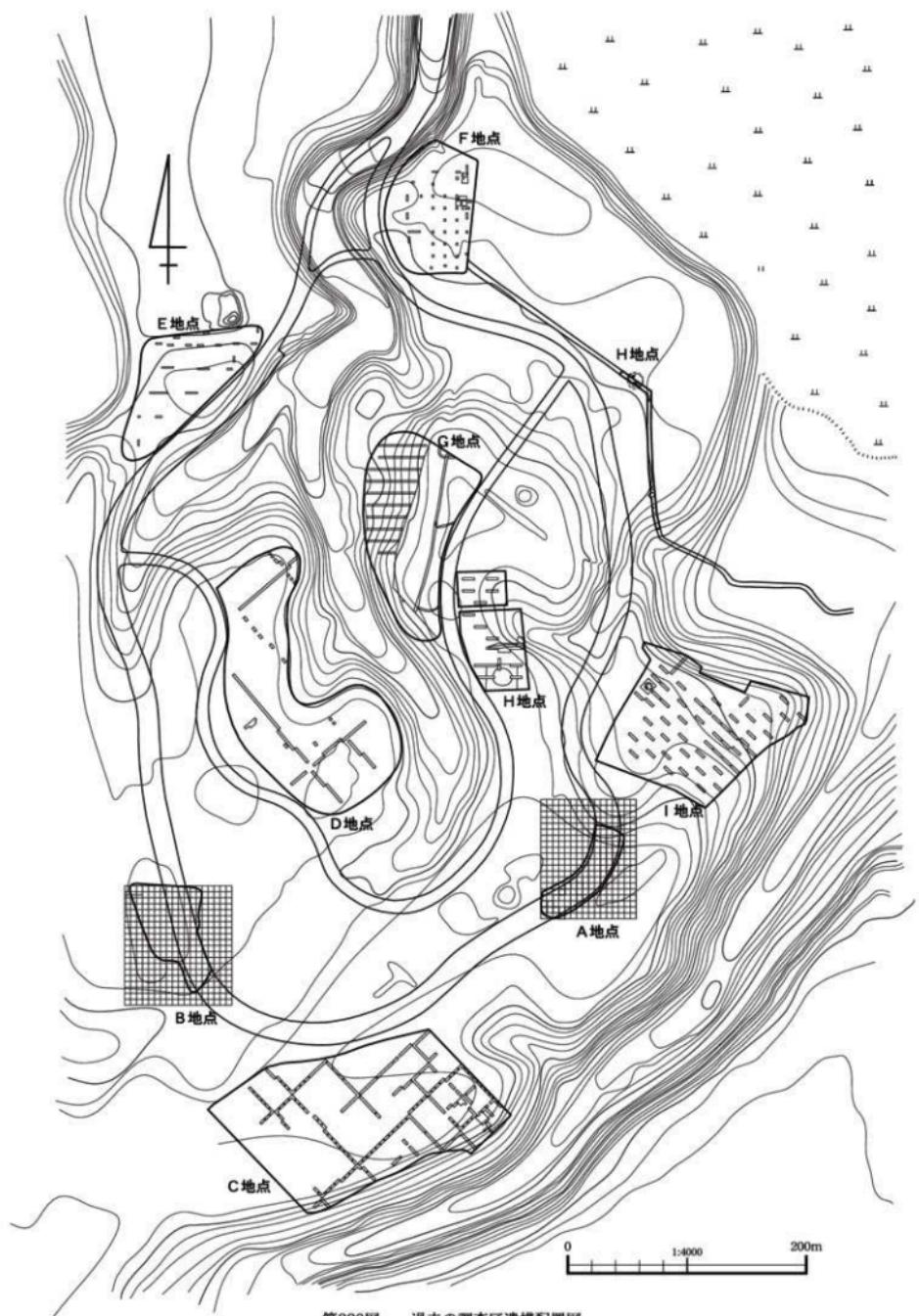
内野古墳群 ①所在地 千葉市若葉区多部田町平和公園内 ②調査期間 昭和50年 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 薬師寺 崇 寺沢 薰 ⑤調査内容 1号墳～8号墳の測量調査 ⑥報告 『千葉市文化財調査報告第1集』

E地点（平和公園E地点）（第222図） ①所在地 千葉市若葉区多部田町字柿木作1,398 ②調査期間 昭和50年6月16日～7月8日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 山本 勇 ⑤検出遺構 なし ⑥出土遺物 縄文土器・土師器。

F地点（平和公園F地点）（第223図） ①所在地 千葉市若葉区多部田町字柿木作1,402 ②調査期間 昭和50年6月16日～7月8日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 山本 勇 ⑤検出遺構 なし ⑥出土遺物 加曾利E式（1・2）・加曾利B式（3～9）・安行2式（10）土器・須恵器坏（13・14）。

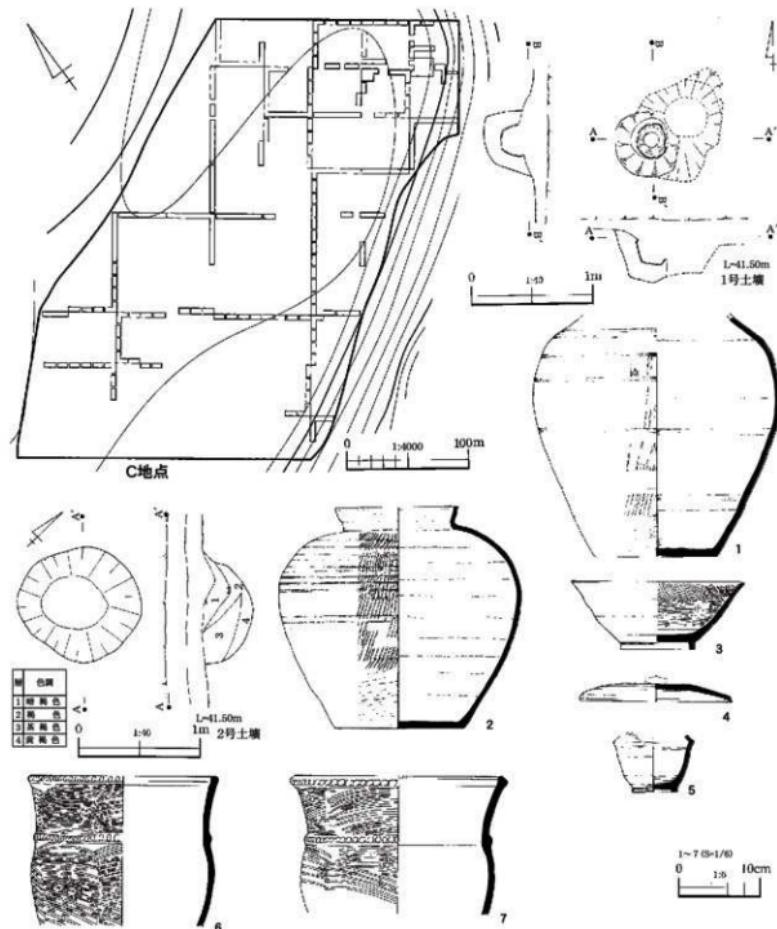
G地点（内野遺跡）（第224図） ①所在地 千葉市若葉区多部田1,492 ②調査期間 昭和57年11月15日～12月22日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 山本 勇 ⑤調査面積 5,000m² ⑥検出遺構 円形周溝状遺構1（主体部不明）・溝状遺構3・土壙1 ⑦出土遺物 加曾利E式（1）・加曾利B式（2～8）・安行1式（9）土器・常滑破片1（10）・戦国期五輪塔火輪部2（11・12） ⑧備考 3条検出された溝は、台地縁に沿って直線に走る溝とそれに連結する2条の溝とからなり、いずれも覆土中に宝永の火山灰を含んでいる。

H・I地点（内野遺跡）（第224図～第226図） ①所在地 千葉市若葉区多部田1,518 ②調査期間

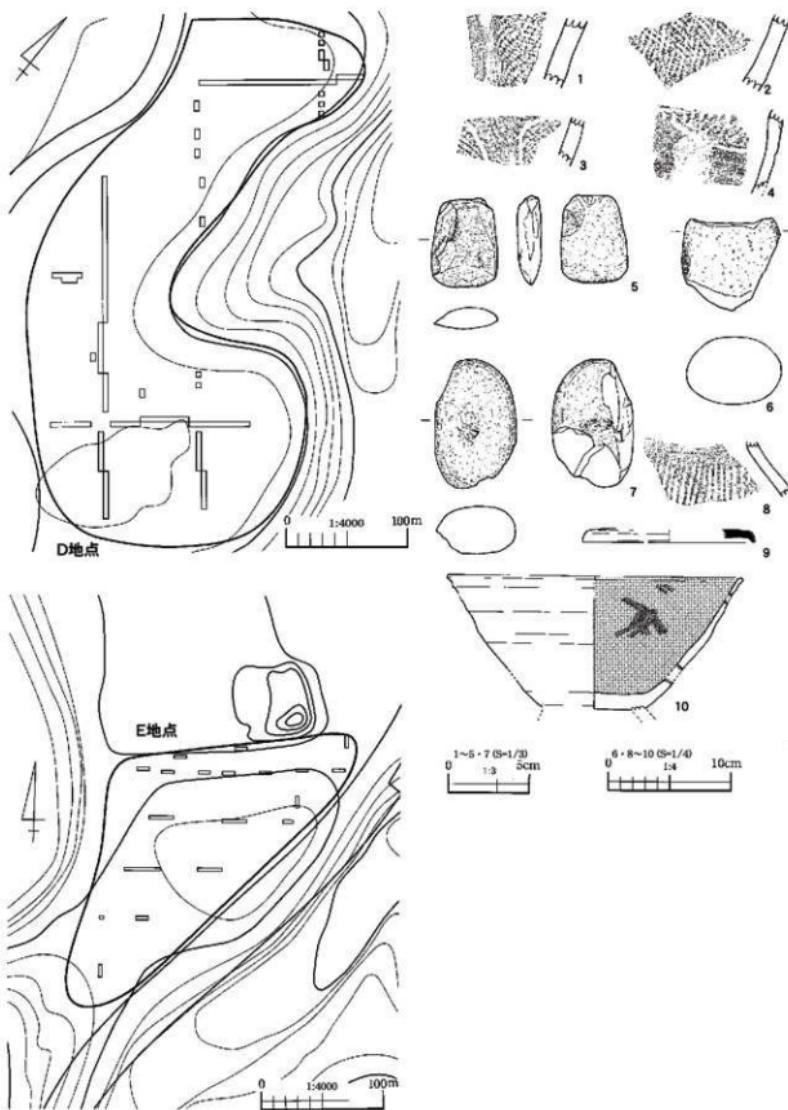


第220図　過去の調査区構成配置図

昭和59年2月1日～3月16日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 田中英世 ⑤調査面積 1.633m²/16,000m² ⑥検出遺構 H地点-溝状遺構1(時期不明) I地点-住居跡1(加曾利E) ⑦出土遺物 H地点-加曾利E式(1・2)・加曾利B式(3)・安行1式(4)・安行2式(5)土器 I地点-加曾利E式(1～5)・加曾利B式(6～8)・安行2式(9・10)土器。I地点1～3が住居跡から出土。1は連弧文土器で、住居跡の時期は加曾利E II式期のものと思われるが、床面は軟弱で壁も明確ではない。

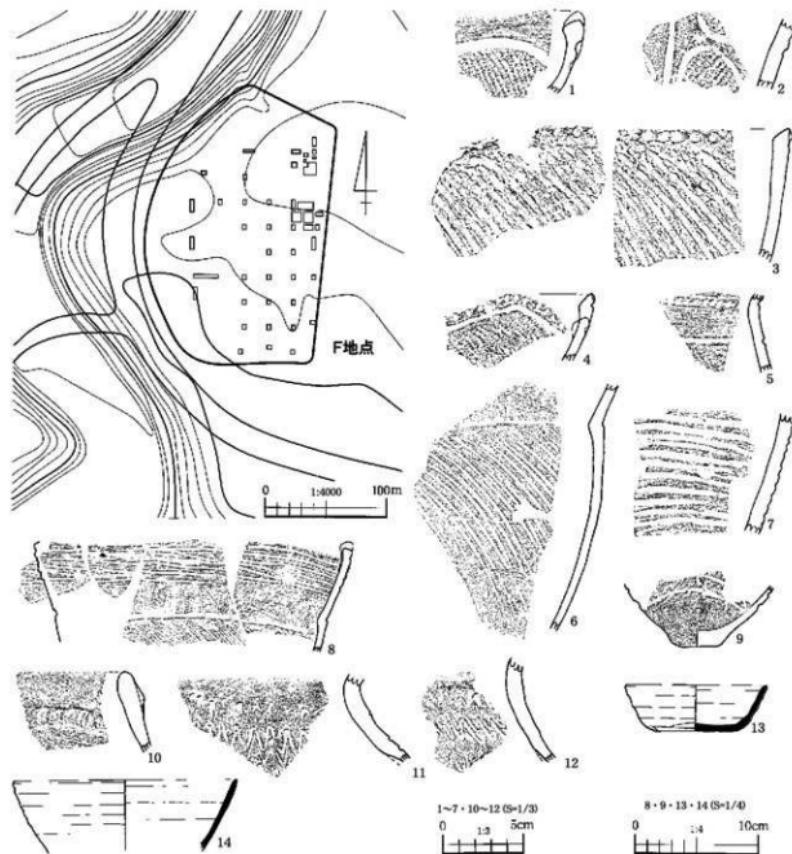


第221図 C地点調査区及び出土遺物

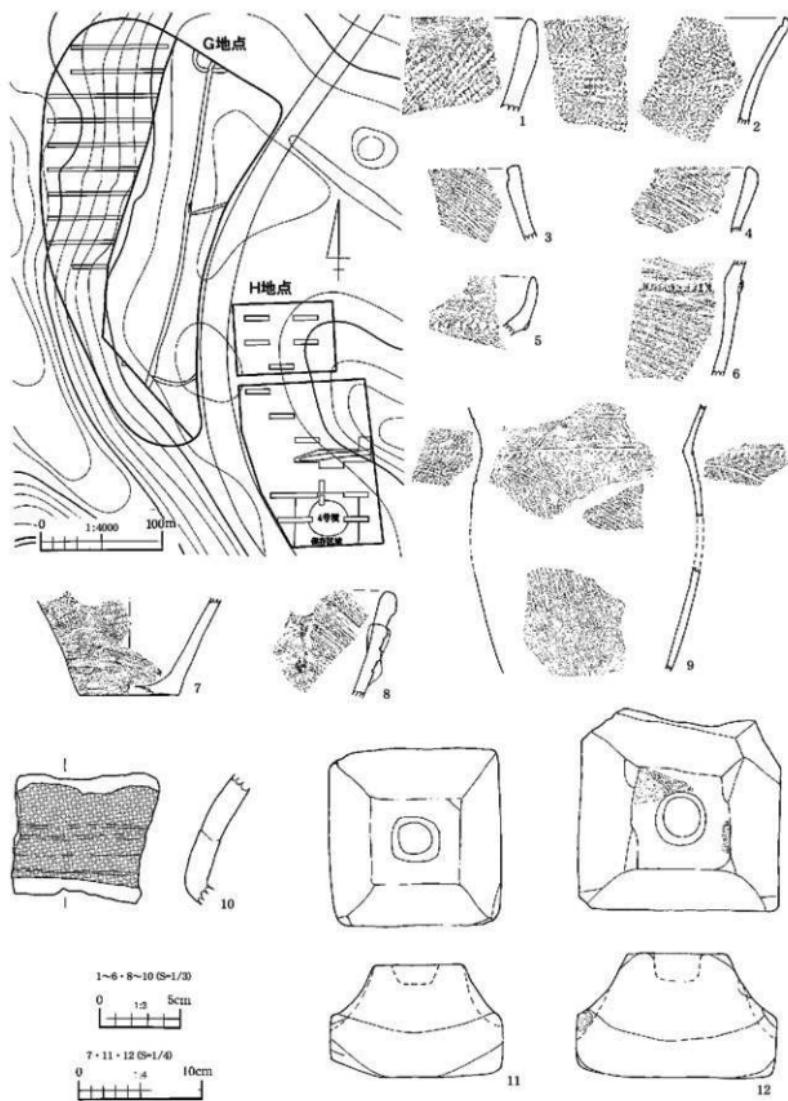


第222図 D・E地点調査区及び出土遺物

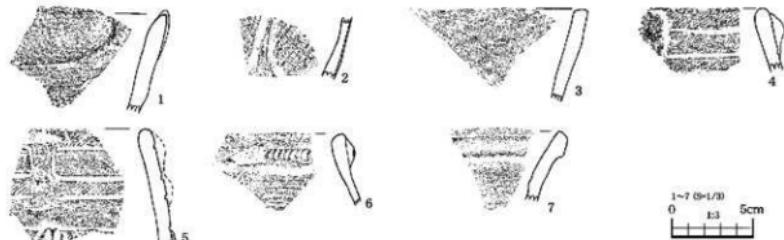
J地点(内野遺跡)(第227図～第233図) ①所在地 千葉市若葉区多部田1,491-8他 ②調査期間 昭和59年11月1日～12月7日 ③調査主体 千葉市教育委員会 ④調査担当者 田中英世 ⑤調査面積 557m² ⑥検出遺構 円墳1(木棺2)・住居跡3(奈良～平安)・土壙4(縄文中・後期) ⑦出土遺物 縄文土器・石鏃1・石斧1・鐵鏃8・土師器・須恵器・灰釉陶器 ⑧備考 円墳は外径13.6mを呈する小形のもので、2ヶ所の主体部がある。古墳上の盛土は道路建設時の廃土である。1号主体部からは鉄鏃4・刀子4、2号主体部からは鉄鏃4・刀子1が出土している。住居跡は道路建設時に破壊された残存部である。A-001は1の高台付盤から奈良時代に比定される。A-003出土の1は高台付碗で内外面に釉の付着がみられ、内面に重焼した高台の跡がみられる。A-002・A-003は平安時



第223図 F地点調査区及び出土遺物



第224図 G・H地点調査区及びG地点出土遺物

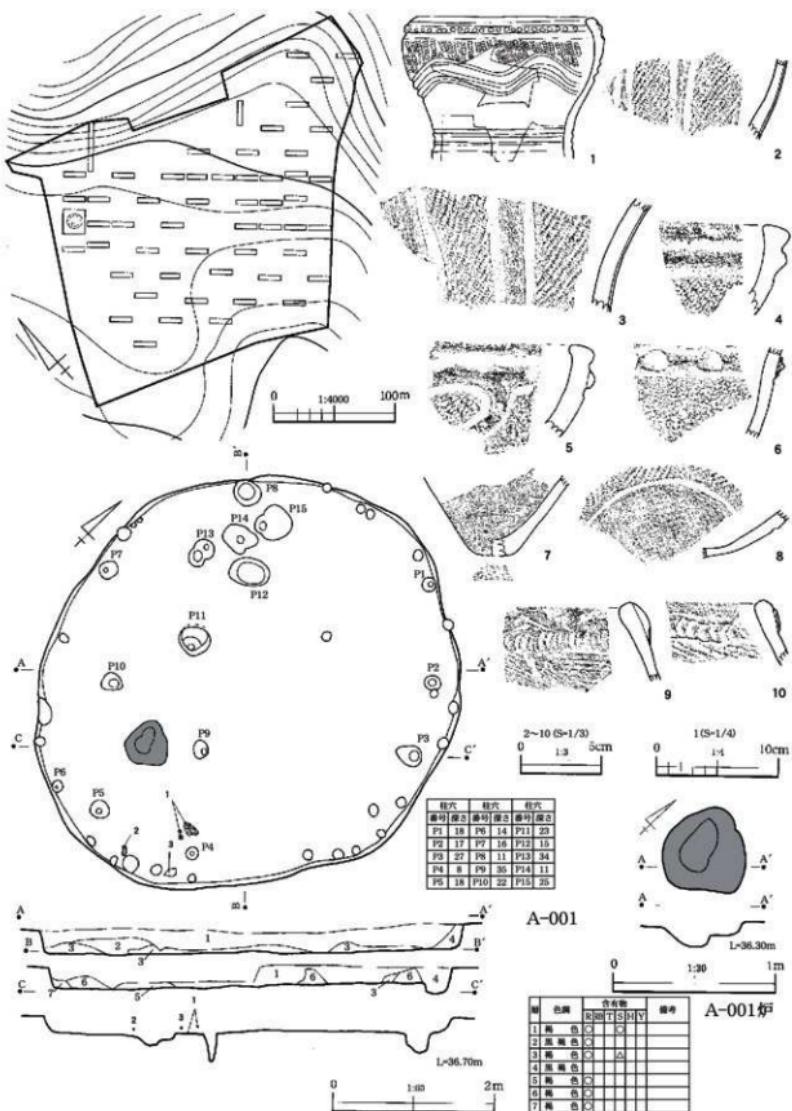


第225図 H地点出土遺物

第65表 過去の調査区出土遺物計測表

報告番号	地点	遺構	種別	材質	法量(cm)			色調	整形・調整技法	備考	遺存度
					長	幅	厚				
22105-1	C地点	C-001	無縫壺	須恵	15.5	16.0	27.5	赤褐色	ロクロ整形 タタキ		B
22106-2	C地点	C-001	壺	須恵	~	15.0	(30.0)	赤褐色	ロクロ整形 タタキ		
22106-3	C地点	C-001	台付鉢	須恵	21.0	21.0	9.0	赤褐色	ロクロ整形 内面ミガキ		
22106-4	C地点	C-001	壺	須恵	19.0	~	2.2	赤褐色	ロクロ整形		
22106-5	C地点	C-001	壺	須恵	~	5.5	(7.0)	暗灰色	ロクロ整形 切削面削除後再調整	自然釉	
22106-9	D地点	C-001	壺	須恵	(13.8)	~	1.1+	SIV2/1黒色	ロクロ整形		E
22106-10	D地点	C-001	高台付鉢	土器	(25.5)	~	10.7+	SIV2/1黒色	ロクロ整形 内面ミガキ		E
22106-13	F地点	坪	須恵	(11.4)	(6.5)	~	3.6	SN/赤色	ロクロ整形		D
22106-14	F地点	坪	須恵	(17.9)	~	5.7+	SIV4/6赤褐色	ロクロ整形		E	
23106-1	J地点	A-001	高台付鉢	須恵	(17.0)	(9.5)	4.1	7/N灰白色	ロクロ整形 削面へ切り後削輪へラ削り		C
23106-2	J地点	A-002	坪	須恵	(11.8)	(7.0)	3.5	2.5V4/2暗灰黄色	ロクロ整形 削面へ切り後手持ちへラ削り		C
23106-2	J地点	A-002	坪	須恵	(12.8)	8.2	4.2	10V6/2灰黃褐色	ロクロ整形		B
23106-3	J地点	A-002	坪	須恵	13.6	7.0	3.9	7. SIV6/4褐色	ロクロ整形		B
23106-4	J地点	A-002	坪	須恵	11.8	7.6	4.5	10V8/2灰白色	ロクロ整形 削面へ切り後削輪へラ削り	邊部外表面削	B
23106-5	J地点	A-002	高台付鉢	須恵	(16.8)	~	4.1+	SIV2/1黒色	ロクロ整形 切削面へ切り後手持ちへラ削り		B
23106-6	J地点	A-002	壺	土器	(18.4)	~	7.6+	10V2/1黒褐色	ロクロ整形		B
23106-7	J地点	A-002	壺	須恵	(23.7)	~	10.7+	10V2/2黒褐色	ロクロ整形		B
23106-8	J地点	A-002	壺	須恵	~	14.2	6.7+	10V6/4明黄色	ロクロ整形 タタキ ヘラ削り	内面輪滑底	B
23106-10	J地点	A-002	壺	須恵	~	~	16.3+	10V2/1黒色	ロクロ整形 タタキ		C
23206-1	J地点	A-003	高台付鉢	須恵	15.3	7.4	5.2	10V8/1灰白色	ロクロ整形 内面外表面削	内面重ね焼き底	B
23206-2	J地点	A-003	坪	須恵	(15.0)	~	4.5+	SIV4/8赤褐色	ロクロ整形	保存有	D
23206-3	J地点	A-003	坪	土器	~	6.8	1.7+	2. SIV2/8赤褐色	ロクロ整形		C
23206-4	J地点	A-003	高台付鉢	土器	~	8.0	2.8+	2. SIV5/8赤褐色	ロクロ整形 削面へ切り後受け付け高台	ミガキ	B
23206-5	J地点	A-003	高台付鉢	土器	~	7.0	1.7+	SIV4/8明赤褐色	ロクロ整形 削面へ切り後削輪へラ削り	内黑 外表面削	C
23206-6	J地点	A-003	壺	土器	11.0	~	5.2+	SIV2/2暗褐色	ロクロ整形		E
23206-7	J地点	A-003	壺	土器	(12.8)	~	4.2+	SIV2/2黒褐色	ロクロ整形 手持ちへラ削り		E
23206-8	J地点	A-003	壺	須恵	~	8.7	2.0+	SIV4/6赤褐色	ヘラ削り		E
23206-10	J地点	A-003	壺	須恵	~	15.0	1.7+	2. SIV3/1黒褐色	ヘラ削り		E
23206-11	J地点	A-003	壺	須恵	(23.5)	~	11.0+	2. SIV4/6赤褐色	ロクロ整形		E
23206-12	J地点	A-003	壺	須恵	~	15.5	6.3+	SIV3/29赤褐色	ロクロ整形		E
23206-15	J地点	A-003	支撑	土器	~	~	~	SIV4/6赤褐色			I/A

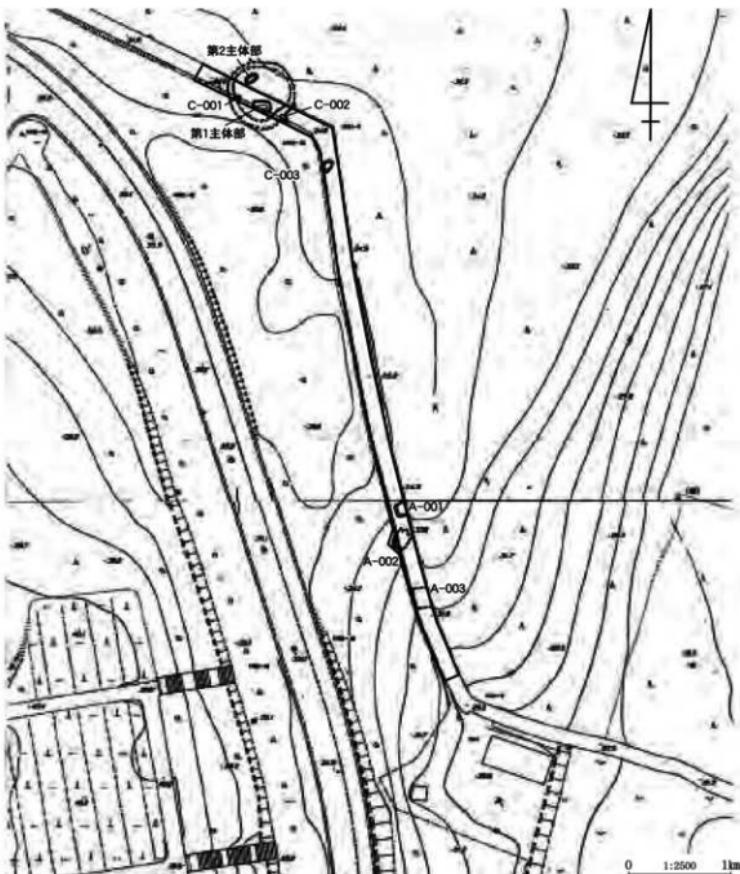
報告番号	地点	遺構	種別	材質	法量(cm)			重量 (g)	報告番号	地点	遺構	種別	材質	法量(cm)			重量 (g)	
					長	幅	厚							長	幅	厚		
23106-1	J地点	1号土器	鉢	須恵	8.3	4.1	0.3	16.0	23106-1	J地点	2号土器	鉢	須恵	鉢	13.2	0.5	0.2	7.0
23106-2	J地点	1号土器	鉢	須恵	11.8	4.0	0.3	22.0	23106-2	J地点	2号土器	鉢	須恵	鉢	11.3	0.6	0.2	6.0
23106-3	J地点	1号土器	鉢	須恵	8.3	2.3	0.5	8.0	23106-3	J地点	2号土器	鉢	須恵	鉢	14.3	0.6	0.3	8.0
23106-4	J地点	1号土器	鉢	須恵	7.4	2.0	0.4	7.0	23106-4	J地点	2号土器	鉢	須恵	鉢	13.9	0.6	0.2	8.0
23106-5	J地点	1号土器	刀子	須恵	9.4	1.5	0.4	13.0	23106-5	J地点	2号土器	刀子	須恵	刀子	4.3	0.5	0.3	2.0
23106-6	J地点	1号土器	刀子	須恵	4.7	0.7	0.3	2.0										
23106-7	J地点	1号土器	刀子	須恵	4.5	0.9	0.5	3.0										
23106-8	J地点	1号土器	刀子	須恵	4.9	0.4	0.4	1.0										



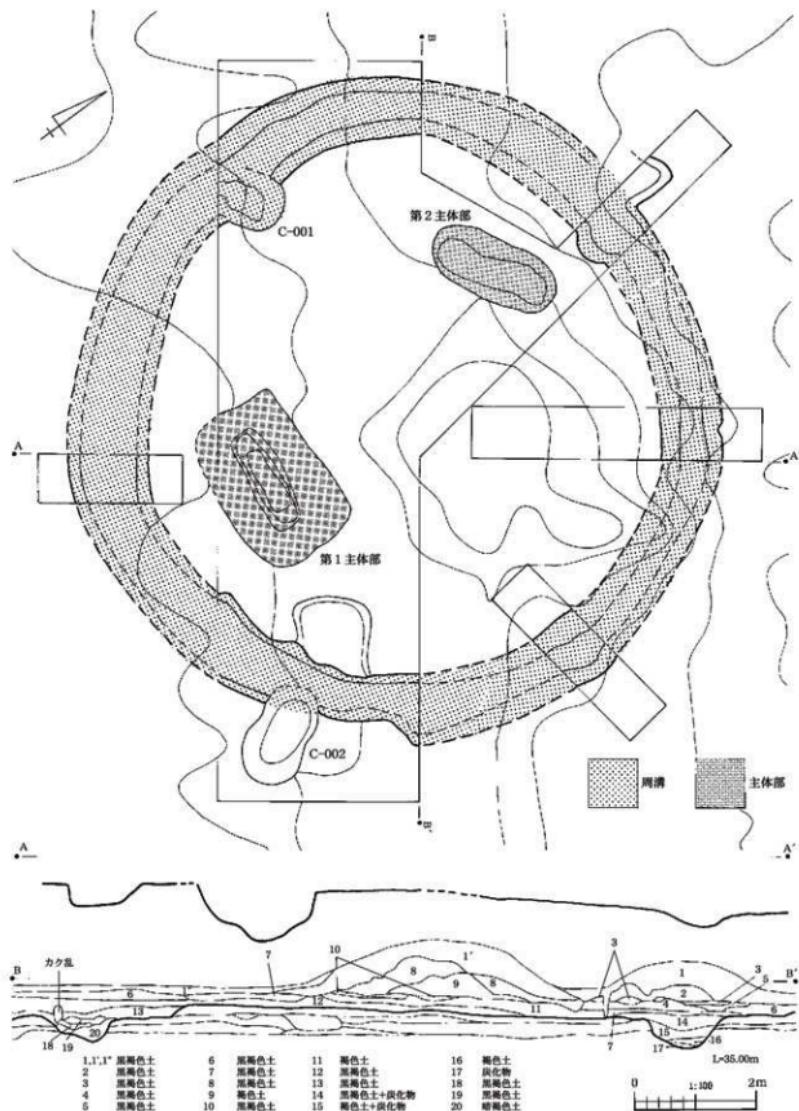
第226図 I 地点調査区及び出土遺物

代に比定される。なお昭和50年の測量調査時に、当古墳を除いた前方後円墳1基・円墳5基・溝塹2基が確認されており、内1基から金銅製耳輪が出土したと伝聞されている。本調査区を含めた地点は木戸作遺跡として、平成7年度から確認調査が行われ、一部本調査も実施されている。

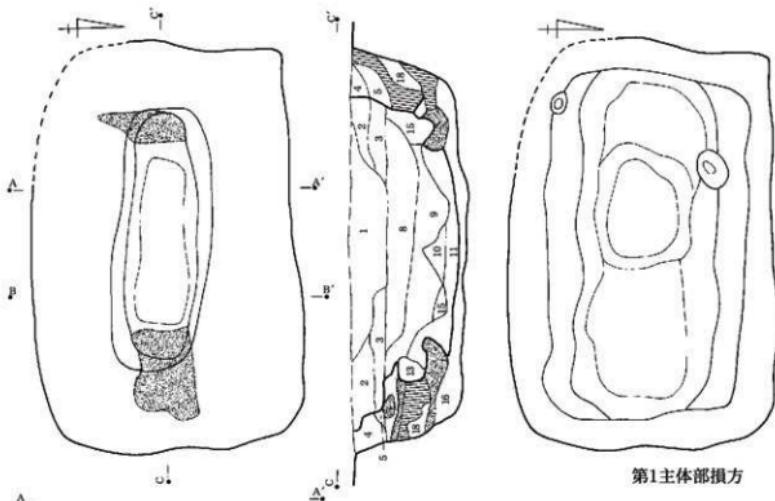
これらの調査の他に、加曾利貝塚博物館に本遺跡出土とされる石器（第234図1・4～9）が収蔵されている。1は全長1.08mを有する大型の有頭石棒で石英安山岩製である。4～7は凹石、8は磨石、9は石皿である。2と3は平和公園Dゾーンとされ、試掘時に多部田貝塚の中央窪地部分から出土したものである。2は頁岩製の石棒で加曾利貝塚J-20の大型住居跡から出土した石棒と形態が類似しており、加曾利B式期のものと思われる。3は石劍で頭部を欠損している。



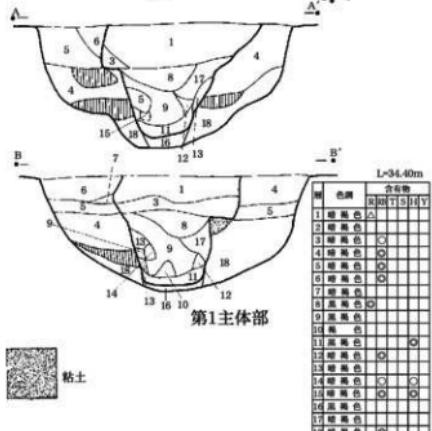
第227図 J地点調査区



第228図 内野9号墳埴丘

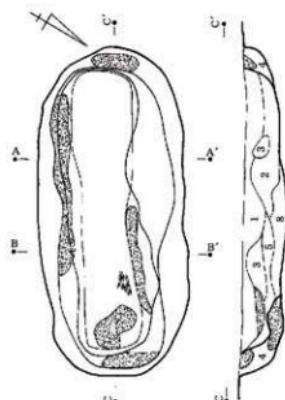


第1主体部損方

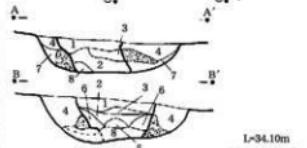


口一ム充填

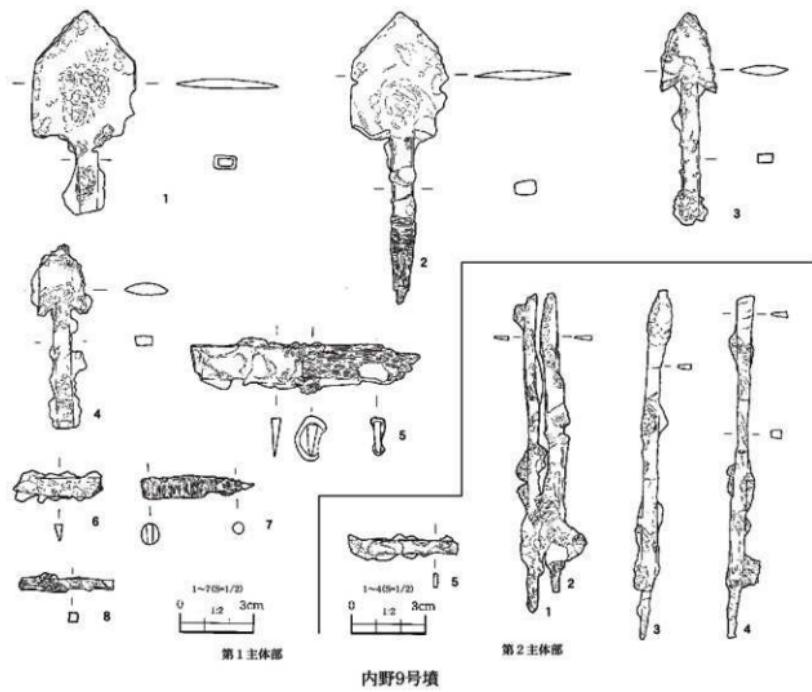
0 1:40 1m



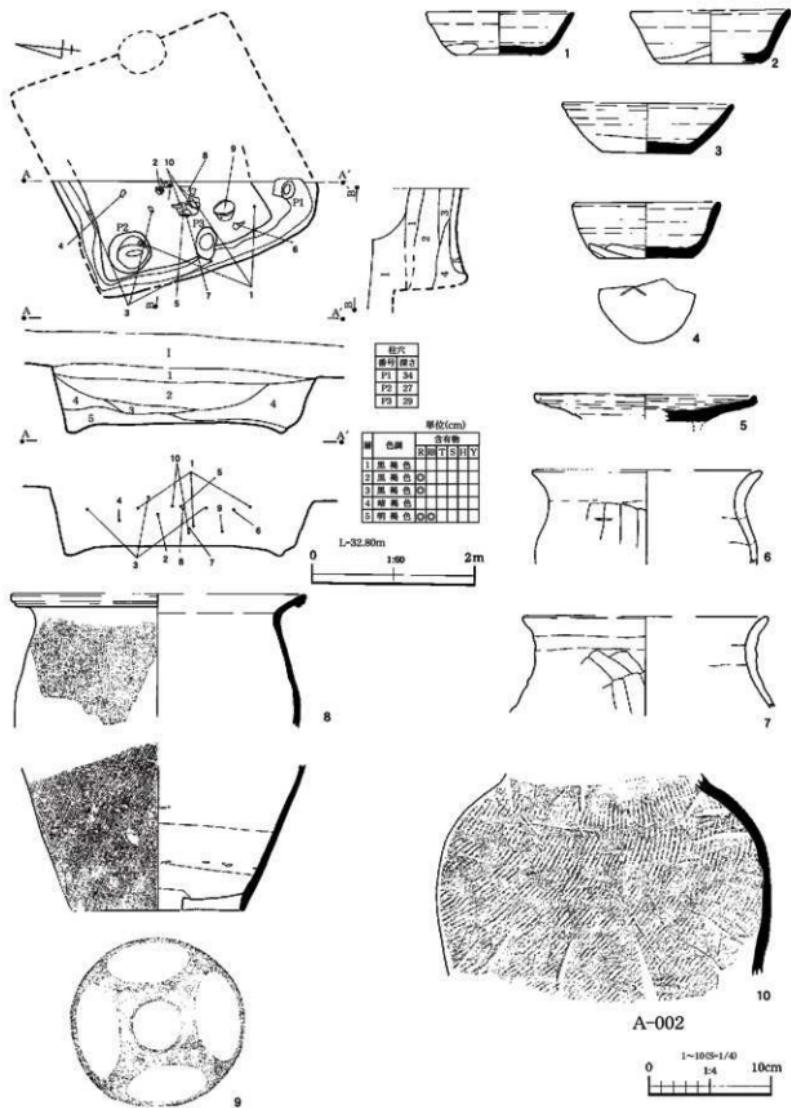
第2主体部



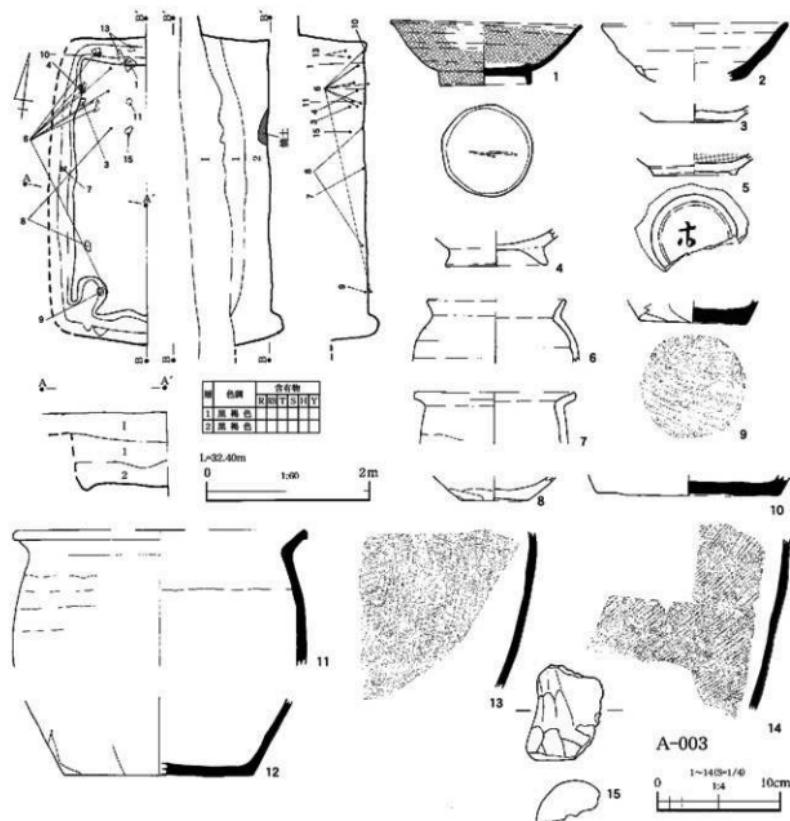
第229図 内野9号填主体部



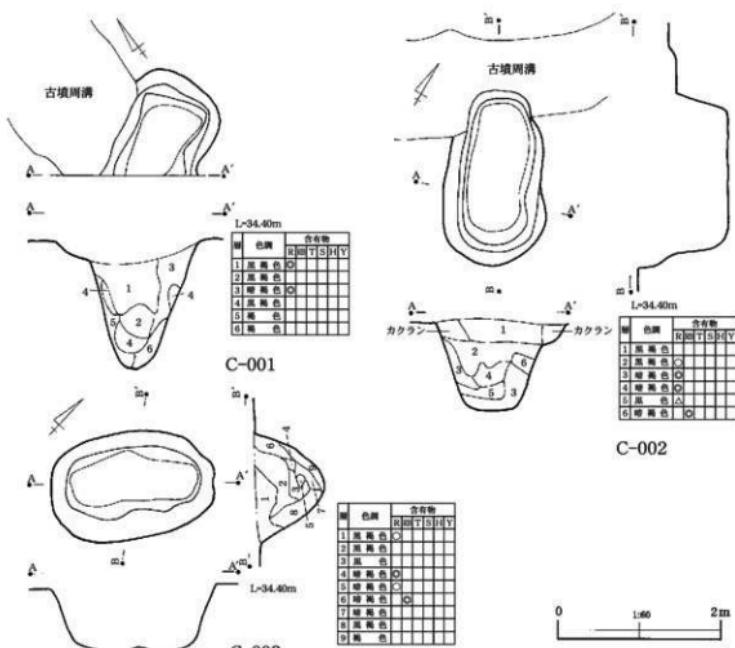
第230図 内野9号墳主体部出土遺物及びA-001出土遺物



第231図 A-002出土遺物



第232図 A-003出土遺物



第233図 C-001・002・003

第66表 過去の調査区検出遺構計測表
<住居>

遺構番号	地点	調査年	形態	時期	規模(m)		柱穴	備考
					上(長軸×短軸)	深さ		
83-A-001	I地点	昭和59年	円形	加曾利E	5.60 × 5.00	0.31~0.22	15	
84-A-001	J地点	昭和59年	方形	奈良	2.64 × (1.60)	0.14~0.05		
84-A-002	J地点	昭和59年	方形	平安	2.92 × (1.25)	0.72~0.64		
84-A-003	J地点	昭和59年	方形	平安	3.65 × (1.18)	0.75~0.50		

<土壌>

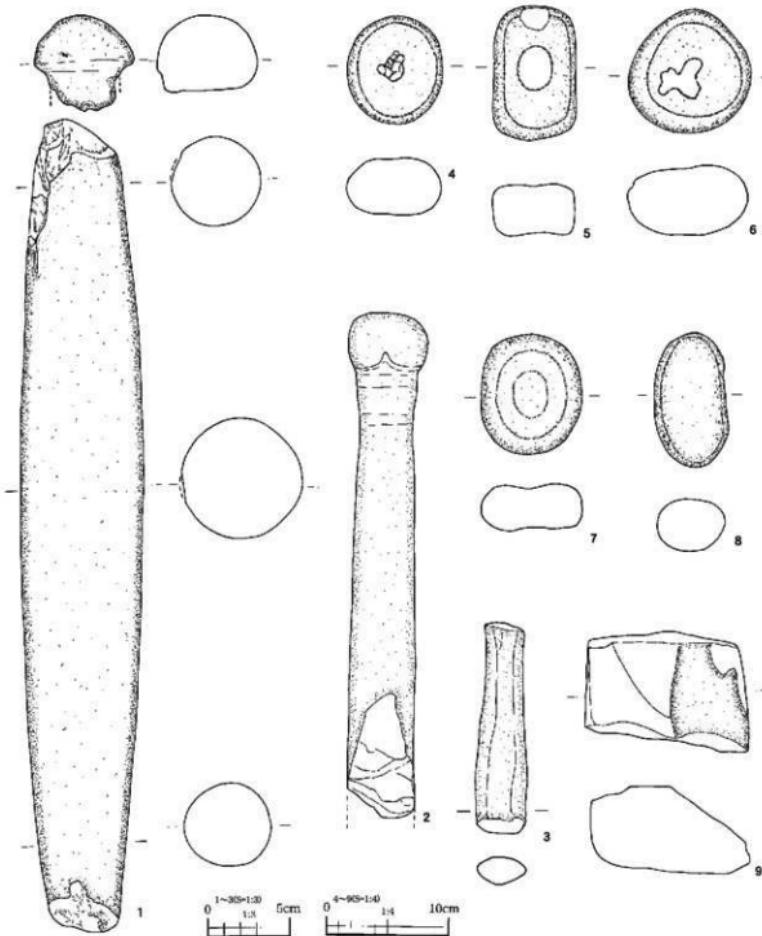
遺構番号	地点	調査年	形態	時期	規模(m)		深さ(m)	備考
					上(長軸×短軸)	下(長軸×短軸)		
72-C-001	C地点	昭和47年	円形	鍵倉～室町	0.54 × 0.47	0.33 × 0.31	0.42	
72-C-002	C地点	昭和47年	円形	鍵文後期	1.03 × 0.96	0.55 × 0.45	0.41	
84-C-001	J地点	昭和59年	椭円形	調文	(1.30) × 1.20	(0.88) × 0.50	1.54	
84-C-002	J地点	昭和59年	椭円形	調文	(2.14) × 1.26	1.55 × 0.65	1.10	
84-C-003	J地点	昭和59年	椭円形	調文	2.00 × 1.29	1.55 × 0.60	0.84	

<古墳>

遺構番号	地点	調査年	形態	時期	規模(m)		周溝深さ(m)	主体部
					外径(長軸×短軸)	内径(長軸×短軸)		
5号古墳	昭和47年	円墳	古墳		36.00 × -	30.00 × -		組合式箱形石棺
9号古墳	J地点	昭和59年	円墳	古墳	13.60 × 13.40	11.00 × 10.50	0.65~0.45	木棺2箇所

<主体部>

遺構番号	地点	調査年	形態	時期	規模(m)		埋方深さ(m)	出土遺物
					横(長軸×短軸)	縦(長軸×短軸)		
5号-1	昭和47年	長方形	古墳		(4.64) × (2.80)	2.24 × 0.64	0.64	直刀2・鉄鏃・刀子
9号-1	J地点	昭和59年	長方形	古墳	2.68 × 1.18	3.33 × 2.15	1.00	鉄鏃4・刀子4
9号-2	J地点	昭和59年	椭円形	古墳	3.33 × 2.15	2.70 × 1.22	0.30	鉄鏃4・刀子1



第234図 表探遺物実測図(加曾利貝塚博物館蔵)

第67表 石器計測表(加曾利貝塚博物館収蔵資料・その他)

番号	出土地点	種別	重量	長	幅	厚	石材	残存	番号	出土地点	種別	重量	長	幅	厚	石材	残存
1	うならすず	石棒	108.9	14.9	14.8		石英安山岩	4/5	6	うならすず	圓石	638.7	5.2	5.0	2.8	安山岩	完形
2	多部田D-8	石棒	688.1	30.8	3.7	3.4	頁岩	3/4	7	うならすず	圓石	566.9	5.0	4.3	1.9	安山岩	完形
3	多部田D-9	石劍	116.6	12.8	2.9	1.7	硬砂岩	2/3	8	うならすず	圓石	423.9	5.7	3.0	2.2	玄武岩	完形
4	うならすず	圓石	453.3	4.4	3.8	2.4	安山岩	完形	9	うならすず	石墨	1383.2	4.7	6.5	3.3	滑接觸灰岩	1/4
5	うならすず	圓石	661.4	5.6	3.4	2.0	圓狀安山岩	完形									

第8節 まとめ

旧石器時代：今回の調査では3基の礫群がソフトローム層からハードローム層上面にかけ検出された。

縄文時代：今回の調査で、中期後半の加曾利E III式期～後期前半の堀之内2式期の住居跡65軒が検出された。内訳は加曾利E III式期12軒、加曾利E IV式期22軒、称名寺1式期13軒、称名寺2式期1軒、堀之内1式期6軒、称名寺1～堀之内1式期1軒、堀之内1～2式期2軒、加曾利E III～堀之内1式期2軒、称名寺2～堀之内1式期1軒である。平成12年度に調査が行われた北側のいすみ塗園部分では、本調査部分で、加曾利E IV式期17軒、加曾利E IV～称名寺1式期7軒、称名寺2式期1軒、堀之内式期7軒、時期不明6軒の計38軒の住居跡が検出されている他、確認調査部分でも10軒の住居跡が確認されている。遺構の展開は、北東から入り込む標高31.5～32.0mの窪地を取り囲み、馬蹄形に展開する可能性がある。加曾利E III～E IV式期の住居跡は全面に展開しているが、称名寺式～堀之内式期では遺跡の西側から北側に展開する。今調査区の南側は土壤が散在するのみで、昭和50年のF地点の調査成果と合わせても、多部田貝塚とは西側から入り込む谷に隔てられて別遺跡と捉えられる。今後は北側の一段低い段丘上に位置する地点貝塚を伴うとされている台ノ坊遺跡との関係が問題となる。前回報告した多部田貝塚の調査では、住居跡の展開は貝層の外縁部にほぼ限定される。今回併せて報告したA～D地点の調査でも後期の加曾利B式土器は出土しているが、遺構は検出されていない。加曾利E式期の住居が検出された昭和58年の調査地点は、多部田貝塚とは別の遺跡として捉えられる。うならず遺跡でも後期前半に堀之内式期の住居は斜面部に寄ることが確認された。同様のことは野呂宮ノ台遺跡でも認められる。多部田貝塚の堀之内式期の居住区は貝層西側の谷に面する斜面部に想定される。他の時期の居住区が貝層周辺に限定される状況は、貝層の外にも居住区が展開する園生貝塚・加曾利南貝塚・六通貝塚そして都川最上流部に位置する菅田高田貝塚と対照的な在り方を示す。

今回の調査で9軒・19点の石棒が出土している。これらは大半が被熱破損しており、うち埋甕と共に伴するもの1例、石皿と共に伴するもの7例である。時期的には加曾利E III～E IV式期のものが13例と圧倒的に多く、称名寺式期のものは6例である。石材は安山岩17点、緑泥片岩2点で圧倒的に安山岩製が多く、有頭石棒は無い。安山岩製のものは石材が固定されており、群馬県の大山山麓の石材で石棒製作地である恩賀遺跡で製作された可能性があるとの指摘がある。六通貝塚や三直貝塚からも出土しており、今後流通経路の解明が急務である。千葉県内の石棒については遺構に伴う例は少なく、現在までに34遺跡を確認しているが、中期後半の遺跡でもこのように石棒が多出している例は少ない。県内における中期から後期前半の例は加曾利E III～称名寺式期のものが圧倒的に多く(第74表)、加曾利E式前半の集落として全掘に近い草刈場貝塚においては検出されていない(加曾利E II式段階の例は有吉北貝塚S K210・中野久木谷頭C地点S I 64の2例)。本遺跡のA-023では、被熱破損した石棒と凹石及び埋甕がセットで出土している。凹石は中部地方で丸石と呼称されるものと思われ、成田市雉ヶ原遺跡第100号住居跡でも両者が共伴している。住居から出土した19例の石棒のうち破損していないものは、A-007・A-031出土の緑泥片岩2点とA-039・A-049出土の安山岩2点であり、残り15点については全て被熱破損しており、石材の同一性から特定製作地からの搬入という影響が考えられる。このように被熱して破碎状態のものは、市原市武石遺跡023号遺構でも流紋岩製の同一個体と思われる石棒が被熱破碎状態で出土している。山本輝久氏によれば、このような例は神奈川県下鶴間長堀遺跡

第2地点1号住、東京都木曾森野遺跡3号敷石住、松戸市金楠台遺跡2号住等が挙げられ、石棒を意識的に破碎して住居内に放置した石棒祭祀儀礼として捉えられる。C-130の石柱は極めて特異なものである。屋外における石棒樹立の例は千葉市内野第1遺跡、市原市武石遺跡第1号・2号立石等の例はあるが類例は少なく、前記の遺跡においては土壤を伴っていない。土壤内出土例としては成田市岡護台遺跡339号土壤、市川市曾谷貝塚17地点p-15・p-26等があるが、いずれも石棒を埋納する状態の出土であり、樹立して土壤を伴う例は本例のみである。検出位置も集落の中心ではなく、外縁部である等、今後の類例による検討が必要である。石材の房州石は穿孔貝の生痕を特徴としており、市原市山倉古墳群1号墳の石郭等、古墳時代から中世において利用されている。住居内の石棒樹立の例は、前回報告した多部田貝塚A-001がある。有頭・無頭各1点と胸部破片の3点の石棒が出土しており、有頭石棒は頭部をピット内に突き刺した状態で出土している。類例としては、加曽利EⅣ式期の市原市潤井戸鎌之助遺跡33号住居があるが少ない。県外では東京都船田遺跡B-15・B-3の石囲炉の脇に樹立する例や、神奈川県尾崎遺跡S I-3の敷石住居内での樹立例が認められる。県内では流山市中野久木谷頭遺跡C地点S I-64や成田市雄ヶ原遺跡100号住居・245号住居の石棒が樹立の可能性が指摘されている。うならず遺跡と多部田貝塚の例を比較すると、加曽利EⅣ式期前後に石棒の祭祀形態及び石材产地や搬入経路の変化が推定される。

植月学氏(東京芸術大学)による動物遺体の分析では、うならず遺跡と多部田貝塚を比較することにより、中期後半から後期前半の遺跡の間に明確な差があることが指摘されている。うならず遺跡のように貝類以外の動物遺存体が貧弱なタイプ(Aタイプ)と多部田貝塚のように比較的多く検出されるタイプ(Bタイプ)があり、前者は短期的集落遺跡で、後期初頭もしくは前葉に形成を終えるのに対して、後者は中期末頃から形成を開始し後期後葉や晚期まで継続する。骨の多寡は遺跡の性格に関わる生業の差に起因し、動物遺体出土傾向の2類型は前段階の加曽利E II式以前の集落では明確ではないとしている。このような変化はBタイプの居住地の変化や土壤形態の変化等にも認められる。

第1遺物集中区では、石鐵と石鐵未製品と思われる集中地点2地点を石鐵製作跡として捉えた。このような例は、中期前半の佐倉市向原遺跡や中期後半の佐倉市吉見台B地点・佐原市多田遺跡等近年増加している。本遺跡においては、第1遺物集中区に隣接しているA-033をはじめとして、住居内からの当該遺物の出土が少なく、屋外で検出された点に今後の問題が残る。

古代：古墳時代前期の住居跡2軒、中期の住居跡1軒、後期の住居跡3軒、奈良・平安時代の住居跡14軒、掘立柱建物跡6棟、溝1条の他、古墳時代後期～平安時代の方形周溝2基が検出されている。平成12年度のいづみ靈園の調査では、古墳時代前期の住居跡2軒、土壤2基が検出されており、当該期の遺構が遺跡の北側に展開することが確認された。奈良・平安時代の遺構は調査区北側に展開し、ロクロピットがある住居の存在は、西側のムグリ遺跡との関連を想定させる。内野古墳群が存在する東側の木戸作遺跡とは、調整池を水源とする谷により隔離され別遺跡として捉えられ、いづみ靈園の確認調査で確認された古墳や、C地点の平安時代の土壤墓との関係が今後の検討を要する。

都川中流域で広範囲に調査された遺跡は、平和公園遺跡群が初例となる。今後は鹿島川中流域の芳賀輪遺跡や、有吉北貝塚を中心とした東南部ニュータウン遺跡群との比較検討が急務となる。

第68表 千葉県内における大型石棒出土遺跡(調文中期～後期前半)

遺跡名	所在地	遺構	形状	材質	時期	規模(cm・g)	出土状態	伴出遺物	備考
多部田貝塚	千葉市	A-001	有頭	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	50.8×11.6-8000	床直・ピット	回有	
			無頭	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	29.0×9.5-4300	ピット上	ピット上	
			—	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	15.4×6.0-550	床直	回石転用	
		2号住居	—	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	28.0×9.6	床直	石皿	回有
		SR222	有頭	緑泥片岩	—	115.8×24.7-85.0			
		SK621	有頭	結晶片岩	—	86.3×50.1-212.8			
		南斜004	—	安山岩	—	60.5×50.8-190.3			
		SK210	—	砂岩	加曾利Ⅱ	103.0×44.8-238	覆土		
		9号住居	—	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	15.2×10.1-1940	覆土	回石	
		3号住居	無頭	安山岩	—	25.7×10.7	床直・埋藏		
愛生遺跡		36号住居	—	安山岩	称名寺	14.5×12.7-1508	覆土	石皿 回石	被熱・埋甕
海老遺跡		14号住居	無頭	安山岩	加曾利Ⅲ	16.7×10.0	床直		
芳賀輪遺跡		6号住居	無頭	緑泥片岩	加曾利Ⅲ	10.5×4.4	覆土上層		
中藤遺跡		5号住居	—	安山岩	加曾利Ⅲ	27.0×13.0-11400	床直		被熱・埋甕
坊屋敷遺跡		7号住居	有頭	緑泥片岩	称名寺?	86.0×14.0	覆土	赤彩土器・蓋	
上谷津第2遺跡		他に野々島遺跡から出土							
林台遺跡	柏市	2号住居	無頭	緑泥片岩	加曾利Ⅲ	11.3×3.0-130	覆土		
		16号住居	有頭	緑泥片岩	加曾利Ⅲ	12.7×3.5-268	覆土		
		50号住居	無頭	砂岩	加曾利Ⅳ	17.7×4.6-405	覆土		
小山台遺跡		62号住居				40×13			
他に63号住居・038土壤から出土									
千野久木谷須原山地点	流山市	S1-6	有頭	石英斑岩	加曾利Ⅳ	19.5×14.3	炉横倒	石皿	
		後平井山遺跡147号(住居・土器・湖之内式)から3点出土							
金輔台遺跡	松戸市	23号住居	—	安山岩	称名寺	10.0×12.0	床直		
			小松石	称名寺	10.8×12.6	床直			
一の谷西貝塚		1号住居	—	流紋岩	称名寺	22.3×9.2	炉石材		
			緑泥片岩	称名寺	21.2×11.2	炉石材			
			緑泥片岩	称名寺	18.0×10.1	炉石材			
桜谷津遺跡	成田市	3号住居	—	緑泥片岩	称名寺	47.5×16	張出部		埋甕
雉ヶ原遺跡		1号住居	—	小松石	塙之内I	27.5×11.7	覆土		
		100号住居	—	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	12.4×7.6	樹立?	丸石	
		245号住居	無頭	安山岩	称名寺	28.0×9.9-4230	樹立?	石皿	
141号土壇		—	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	13.5×3.8-260				
西連台遺跡	鎌ヶ谷市	339号土壇	有頭	安山岩	加曾利Ⅲ	52.4×7.2			
一本松遺跡		1号住居	有頭	花崗岩	塙之内I	7.6×3.7-21	埋甕内		
曾谷17地点		11号住居	—	角閃片岩	加曾利Ⅳ	17.5×14.6-3905	横倒		
			緑泥片岩	加曾利Ⅳ	71.5×15.0-2000	横倒	回石		
塙之内貝塚	市川市	P-15	—	角閃片岩	加曾利Ⅳ	29.6×9.4-2905	底面床直		
		P-26	—	角閃安山岩	加曾利Ⅳ	25.0×19.0-3065	底面床直		
櫻原現遺跡		5号住居	—	緑泥片岩	称名寺	17.0×5.9-700	壁際床直		
		P-45	—	石巖片岩	(称名寺)	17.9×4.3-24.0		石劍	
他に下貝塚1土壇・トレンチから出土		3号住居	—	加曾利Ⅳ	12.4×5.9-180	覆土			
					13.0×11.8-780	p-5		埋甕	
太田向原遺跡	佐倉市	第2号住居	有頭	緑泥片岩	加曾利～称1	8.0×3.8	覆土内		
墨木戸遺跡		J-8号住居	有頭	緑泥片岩	加曾利Ⅲ	15.3×10.3			
他に駒ヶ沢東遺跡から緑泥片岩製の石棒出土									
千代田遺跡	四街道市	3号住居	—	—	称名寺	21.6×11.4	覆土		
		4号住居	—	—	称名寺	17.1×12.0	覆土		
中台貝塚	山武町	90号土壇	—	緑泥片岩	塙之内	9.4×3.1-168	覆土内		
小池木戸脇遺跡		H-018	無頭	緑泥片岩	加曾利Ⅳ	36.2×16.2	床面樹立	石皿	
東長山遺跡	横芝町	41号住居	—	花崗岩	加曾利Ⅱ	20.2×17.9-8550	床直	回石	
鶴井戸縁之助遺跡		033号住居	—	緑泥片岩	称名寺	54.0×11.0-10300	床面樹立	石皿	埋甕
武士遺跡	市原市	J-6号住居	—	小松石	加曾利～塙之内	28.0×14.0			
		33号住居	有頭	緑泥片岩	塙之内I	58.7×8.0		完形	
		350号住居	—	緑泥片岩	塙之内I	20.5×11.0			
		397号住居	有頭	緑泥片岩	塙之内I	11.2×5.7			
		423号住居	有頭	緑泥片岩	塙之内I	8.8×3.4			
		430号住居	—	片麻岩	塙之内I	11.5×1.8			
		321号土壇	—	—	—	38.5×8.8			
		23号遺構	—	—	—	21.6×6.4			
		1号立石	—	—	—	30.5×16.6			
		2号立石	—	—	—	—		完形	
他に15号住居・225号住居・271号住居・316号住居・373号住居・404号住居・02号遺構から出土									
喜登遺跡	袖ヶ浦市	S1-096	有頭	点絞緑泥片岩	加曾利Ⅳ	19.9×4.8-462	床直		
三直貝塚	君津市	—	—	—	加曾利	80×			
他に中期末の住居跡から7点の石棒出土									
深名瀬畠遺跡	富浦町	41号住居	有頭	安山岩	加曾利	42.2×12.0			
羽井遺跡	富浦市	C区-96	有頭	安山岩	加曾利	97.8×12.8	燒土	22800 g	

第3章 自然科学分析

第1節 土器胎土の材料分析

藤根 久・今 村 美智子 (パレオ・ラボ)

1.はじめに

土器の胎土分析は、一般的には製作地の推定を目的として行われる場合が多い。しかしながら、例えば胎土中に含まれる岩石片の特徴から、これら砂粒物の示す地域がいずれであるかを推定することは容易でない。

土器胎土は、基本材料として粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、粘土材料は比較的良質とも思える粘土層から採取されたことが、粘土探査坑の調査から推察される。

一方、混和材としての砂粒物は、これら粘土採取の際に粘土層の上下層に分布する砂層などを採取したことが予想される。東海地域には、弥生時代後期の赤彩を施したパレススタイル土器が知られているが、これら3分の1程度の土器では、砂粒物として火山ガラスが多量に含まれる (藤根, 1996; 車崎はか, 1996)。これら火山ガラスは、粘土採取の際に上下層に分布したと思われるテフラ層と予想される。このように、胎土中の混和材は、砂層の特徴である可能性が高く、現河川砂とは大きく異なることから、現在の河川砂との比較では問題が大きい。こうしたことから、以前に堆積した段丘堆積物の砂層などとの比較検討が必要と思われる。

土器胎土については、第一に土器に使用した粘土や混和材がどのような特徴を持つかを十分理解することが重要であり、こうした特徴を持つと思われる粘土層や砂層などと比較検討すべきと考える。

ここでは、うならす遺跡から出土した縄文土器について、これら胎土の粘土あるいは砂粒物の特徴について調べた。

2.試料と方法

試料は、うならす遺跡から出土した縄文土器1試料と多部田貝塚から出土した縄文土器4試料である (第69表)。

これらの土器は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片を作成した。

(1) 試料は、初めに岩石カッタなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドグラスに接着し平面を作成した後、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2) さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドグラスに接着した。

(3) その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

試料は、薄片全面について微化石類 (珪藻化石、骨針化石、胞子化石) や大型粒子などの特徴について観察・記載を行った。なお、ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。

〔骨針化石〕

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質・石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

〔珪藻化石〕

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10~数百 μm 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1988)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石(淡水種)と分類し、同定できないものは珪藻化石(?)とした。なお、各胎土中の珪藻化石は、その詳細を記載した。

〔植物珪酸体化石〕

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10~50 μm 前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や亜鉛型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

〔胞子化石〕

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10~30 μm 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壤中にも含まれる。

〔石英・長石類〕

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的に特徴をもたないものは、石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類(雲母)は、黄色などの細粒雲母類が含まれる石英または長石類である。

〔長石類〕

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(バーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。バーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などのSiO₂%の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晚期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

〔雲母類〕

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開(規則正しい割れ目)にそって板状には剥がれ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO₂%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質・砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

〔輝石類〕

主として斜方輝石と單斜輝石がある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にピールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。 $\text{SiO}_2\%$ が少ない深成岩、 $\text{SiO}_2\%$ が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなどのような高温で生じた変成岩に産する。單斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主として $\text{SiO}_2\%$ が中間から少ない火山岩によく見られ、 $\text{SiO}_2\%$ の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

〔角閃石類〕

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃綠岩のような $\text{SiO}_2\%$ が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

〔ガラス質〕

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物を考える。なお、渦ガラスは、非品質でやや渦りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

〔斑晶質・完晶質〕

斑晶質は斑晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分が明瞭に確認できるもの、完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。これらの斑晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、ディサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

〔凝灰岩質〕

凝灰岩質は、ガラスや鉱物、火山岩片などの火山碎屑物などから構成され、非品質でモザイックな文様構造を示す。起源となる火山により鉱物組成は変わる。

〔複合鉱物類〕

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

〔複合石英類〕

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01~0.05mmのものを小型、0.05~0.1mmのものを中型、0.1mm以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

〔砂岩質・泥岩質〕

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらの間に基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

〔不透明・不明〕

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

3. 結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した（第70表）。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

No.1 : 60~600 μm が多い（最大粒径1.5mm）。石英・長石類複合石英類（微細）斜長石（双晶）角閃石類、[複合石英類]、單斜輝石やや多い、ジルコン、複合石英類（輝石類）-斑晶質、[凝灰岩質]、骨針化石、植物珪酸体化石少ない。

No.2 : 70~600 μm が多い（最大粒径1.1mm）。石英・長石類複合石英類（微細）斜長石（双晶）、[複合石英類、凝灰岩質]、角閃石類、ガラス質、複合石英類（輝石類）-斑晶質、骨針化石、植物珪酸体化石少ない。

No.3 : 70~750 μm が多い（最大粒径1.6mm）。石英・長石類複合石英類（微細）斜長石（双晶）、角閃石類、ガラス質（軽石型含む）、雲母類、複合石英類、珪藻化石（沼澤湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *undulata*、淡水種*Pinnularia*属、*Dipioneis*属、*Eunotia*属、不明種）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石少ない。

No.4 : 60~700 μm が多い（最大粒径900 μm ）。石英・長石類複合石英類（微細）砂岩質斜長石（双晶）、カリ長石（バーサイト）、斑晶質、單斜輝石やや多い、斜方輝石、斜長石（黒帯）、角閃石類、ジルコン、凝灰岩質、珪藻化石（*Rhopaliodia*属）、骨針化石、植物珪酸体化石

No.5 : 70~600 μm が多い（最大粒径1.6mm）。石英・長石類複合石英類（微細）斜長石（双晶）カリ長石（バーサイト）、雲母類、複合石英類、角閃石類、單斜輝石、凝灰岩類、骨針化石、植物珪酸体化石少ない。

4. 考察

1) 微化石類による材料粘土の分類

検討した胎土中には、その薄片全面の観察から、珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10~数100 μm （実際観察される珪藻化石は大きいもので150 μm 程度）、骨針化石が10~100 μm 前後である（植物珪酸体化石が10~50 μm 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 μm 以下、シルトが約3.9~62.5 μm 、砂が62.5 μm ~2 mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。

なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれているものの、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

検討した胎土は、微化石類により、a) 淡水成粘土を用いた胎土、b) 水成粘土を用いた胎土、に分類された。以下では、分類された粘土の特徴について述べる。なお、水成を指標する珪藻化石が少ない場合には（淡水成）とした。

a) 淡水成粘土を用いた胎土（1胎土）

この胎土中には、沼澤湿地付着生指標種群*Eunotia pectinalis* var. *undulata* や*Pinnularia* 属などの珪藻化石が含まれていた。なお、骨針化石も少ないとながら含まれていた。

b) 水成粘土を用いた胎土（4胎土）

これらの胎土中には、骨針化石や不明種珪藻化石が含まれていた。

ii) 胎土中の砂粒組成による分類

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った（第71表）。岩石の推定は、泥岩質や砂岩質あるいは複合石英類（微細）が堆積岩類、複合石英類（大型）や複合鉱物類（含輝石類・含角閃石類・含雲母類）が深成岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、片理複合石英類が片岩類、斑晶質が火山岩類、ガラス質がテフラ（火山噴出物）である。なお、褐色の岩石片が一部見られたが、これらは変質岩類とした。

さらに、推定した起源岩石は、第72表の組み合わせに従って分類した。

岩石群は、ほぼ堆積岩類を主体としたC群が2胎土、堆積岩類を主体として深成岩類などを伴うC b群が2胎土、堆積岩類を主体として火山岩類などを伴うC d群が1胎土であった。

全体としては、堆積岩類を主体とした組成である。

iii) 胎土材料の分類

粘土材料は、その種類が淡水成、水成の2種類に分類された。また、砂粒は、C群、C b群、C d群の3群に分類された。

これらを総合的に分類すると、砂粒組成の分類に基づいて大きくI～III群に分類され、材料粘土が海成粘土の場合には細分a（ここでは検出されていない）、淡水成粘土の場合には細分b、水成粘土の場合には細分c、その他粘土が細分d（ここでは検出されていない）である。

その結果、I c群が2胎土、II b群が2胎土、III c群が1胎土であった。

iv) 胎土材料

遺跡が成立する地域は、下総台地縁辺部に近い場所に所在する。土器の材料に注目すると、この台地を構成する堆積物は、立川および武藏野ローム層であり、これより下位層には常総粘土層、成田層

などの下総層群が分布する（日本の地質『関東地方』編集委員会、1988）。

在地において土器作りが行われた場合、比較的軟質で採取可能な粘土を用いたことが予想されるが、ローム層はその材料になり得ないため、下位層の常総粘土層などがその対象となる。常総粘土層には、多量の骨針化石が含まれ、また少ないものの海水種珪藻化石や淡水種珪藻化石が含まれている（藤根・今村、2002）。なお、ここで検討した土器は、骨針化石は多くではなく、珪藻化石も少ないとから、常総粘土の粘土とは異なる。

一方、この常総粘土層の上下層準の砂粒物は、下位層起源の堆積岩類やテフラあるいは火山岩類の砂粒が予想され、テフラ起源の輝石類や角閃石類も伴うことが予想される。ただし、地域によりこれら砂粒物の組成は異なることから、ここで検討した砂粒物の組成であるかどうかは不明である。

なお、土器作りは、先にも述べたように、粘土材料は地層粘土を採取する一方、砂粒物も粘土層の上下層に隣接する砂層などを同時に採取したものと予想される。これは、ガラスなどのテフラを多量に含む土器が多々見られるが、これは砂粒物としてテフラ層を混入したことを示す良い事例である。

ここで検討した土器胎土は、砂粒物においては多少組成が異なるものの、概ね堆積岩類を主体とした組成であることから、同一地域の材料の組成と考えても問題ない。なお、うならす遺跡の縄文中期末の土器胎土と多部田貝塚の縄文土器とは堆積岩類の出現頻度に違いが見られた。

5. おわりに

ここでは、縄文土器について、土器胎土の材料とした粘土および混和材の特徴について調べた。その結果、砂粒組成の特徴から、I～III群に分類され、さらに粘土の特徴からbおよびcに細分された。

土器作りは、一般的に微化石類を良好に含むことから、相当良質の粘土層を利用したことが考えられる。ここで胎土中では、微化石類は少ないが、段丘堆積物の粘土層中では一般的な事例である。

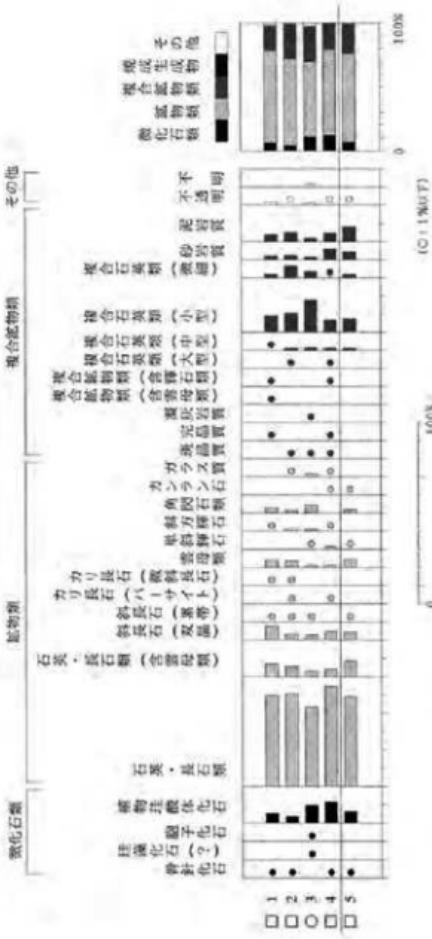
今後、土器材料として下総台地を対象とした良質の粘土層の調査が不可欠と考え、こうした粘土や砂粒の特徴と比較検討する事により、土器作りあるいは製作地などについての詳細が明らかになるものと考える。

引用文献

- 安藤一男（1990）底水層珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用。東北地理, 42, 2, 73-88。
地学団体研究会・地学事典編集委員会編（1981）『増補改訂 地学事典』、平凡社、1612p.
菱田 量・車崎正彦・松本 実・藤根 久（1993）岩石学的方法に基づく胎土分析について-弥生時代後期の土器を例にして-。日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集、34-35。
藤根 久（1998）東海地域（伊勢-三河湾周辺）の弥生および古墳土器の材料。第6回東海考古学フォーラム岐阜大会、土器・墓が語る、108-117。
藤根 久・今村美智子（2002）3. 塗・蓋・鉢の胎土材料。「釜神遺跡」、市原市・財团法人市原市文化財センター、441-461。
小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用。第四紀研究, 27, 1-20。
車崎正彦・松本 実・藤根 久・菱田 量・古橋美智子（1996）(39) 土器胎土の材料-粘土の起源を中心に-。日本考古学協会第62回大会研究発表要旨、153-156。
日本の地質『関東地方』編集委員会（1988）日本の地質3関東地方、共立出版、335。

第63表 出土土器の頭部とその特徴

No.	時代	型式	遺跡名	埋土器位等	色相明度/彩度	色	中乳層 の有無	白色粒子	透明粒子	鐵石・角 質石類	表面類	黑色粒子	黑色粒子	その他
1	縄文中期末	?		A-010	10R2/1	黒	なし	◎	○	○	○	△	△	赤色顔料付着
2	縄文後期前葉	大柄BC式	多那田貝塚	11D-81c, 163	7.5W5/4	(2.5W5/4)	なし	○	○	○	○	△	△	骨針化石含む
3	縄文後期中葉	大柄BC式		A-002 3K下, 128	10R7/4	にふい斑模	黒色	○	○	○	○	△	△	
4	縄文後期中葉	在地		11H-96 Ⅲ層下	10R1/4	地	淡灰色	○	○	○	○			
5	縄文中葉末	?	うなづ	A-902	5Y2/1	黒地	なし	○	○	○	○	△白色		



第235図 粒子組成図 (全分類類を基数とした百分率で表示)

(粘土の区分 (試料番号左))

○: 清水成粘土 (清水成粘土)

□: 混合粘土 (混合粘土)

第70表 土器胎土中の粒子組成一覧

分類群	1	2	3	4	5
微化石類					
骨針化石	2	1	-	1	1
珪藻化石(?)	-	-	1	-	-
胞子化石	-	-	2	-	-
植物珪酸体化石	14	9	25	44	16
鉱物類					
石英・長石類	130	129	112	207	126
石英・長石類(含雲母類)	18	14	8	15	22
斜長石(双晶)	20	8	7	18	11
鈍長石(黑帶)	1	1	2	-	1
カリ長石(バーサイト)	-	1	-	2	-
カリ長石(微斜長石)	1	1	-	-	-
雲母類	11	9	3	5	11
單斜輝石	-	-	1	6	1
斜方輝石	1	4	3	1	-
角閃石類	8	4	12	-	5
カントラン石	-	-	1	1	-
ガラス質	-	2	5	1	-
複合鉱物類					
原晶質	-	2	2	1	-
完晶質	2	-	-	1	-
複合灰岩質	-	-	1	-	-
複合鉱物類(含雲母類)	1	-	-	-	-
複合鉱物類(含輝石類)	1	-	-	1	-
複合石英類(大型)	-	1	-	1	-
複合石英類(中型)	2	3	4	5	3
複合石英類(小型)	24	27	46	25	16
複合石英類(微細)	5	17	9	1	5
砂岩質	6	5	4	22	11
泥岩質	10	13	5	18	21
その他					
不透明	5	2	3	2	2
不明	-	-	4	-	-
総ポイント数	282	254	259	379	256

第71表 出土土器の胎土および砂粒の特徴

No	時代	型式	胎土の特徴				砂粒の特徴					植物珪酸体化石	組合分類		
			分類	種類	成形直	成形直	海水種	分類	種度類	(△は強)	ジルコン	角閃石類	輝石類		
1	織文中期末	?	□	未成			△	C	堆積岩類(成形直強)	+	+	++	△		1-
2	織文中期後半	大柄印式	□	未成			△	C	堆積岩類(成形直強)	+	+	△			1+
3	織文中期中期	大柄印式	○	1次未成	△		△	D	堆積岩類(深成岩類、テフラ)	++	+	△	ヨシ萬古砂	2+	
4	織文中期中期	在地	□	未成			△	D	堆積岩類(成形直強)	+	+	++	△		3+
5	織文中期末	?	□	未成			△	E	堆積岩類(深成岩類、テフラ)	+	+	△			3+

第72表 岩石とその組み合わせ

		第1出現群						
		A	B	C	D	E	F	
第2出現群	片岩類	Ea	Ca	Ba	Ea	Fa		
	深成岩類	Ab		Cb	Eb	Fb		
	堆積岩類	Ac	Bc		Ec	Fc		
	火山岩類	Ad	Bd	Cd	Ed	Fd		
	凝灰岩類	Ae	B e	C e	D e	F e		
	テフラ	Af	Bf	Cf	Df	Ef		

第2節 炭化種実

新山雅広(パレオ・ラボ)

1.はじめに

うならず遺跡は、千葉市若葉区多部田町に所在し、都川中流域の南岸に位置する標高34mの台地上に立地する。本遺跡では、これまでの発掘調査により、旧石器時代～近世にかけての遺構・遺物が検出されている。ここでは、縄文時代中期、古墳時代前期、平安時代の住居跡から出土した炭化種実を検討し、当時の栽培・利用状況の推定を試みた。

2. 試料と方法

炭化種実の検討は、プラスチックケースないし袋に保存された取り上げ済みの試料が34試料と堆積物試料(A-025)が3試料の合計38試料について行った。取り上げ済みの試料は、炭化物を主体としており、実体顕微鏡下で炭化種実の同定を行った。堆積物試料は、水洗を行い、浮遊物と0.25mm目の篩に残った残渣を回収し、実体顕微鏡下で観察した。

3. 出土した炭化種実

出土した炭化種実の一覧を第73表に示した。なお、炭化種実として同定し得るもの全く含んでいなかった試料については、出土個数の欄は空欄になっている。また、遺構N6のAは住居跡の略記号である。以下に、主な遺構の出土炭化種実を記載する。

- A-004 (平安時代)：イネ炭化胚乳、オオムギ炭化胚乳、シロザ近似種炭化種子が出土した。
A-010 (縄文時代中期)：炉2層からオニグルミ炭化核破片が1点のみ出土した。
A-014 (縄文時代中期)：オニグルミ炭化核破片が2点のみ出土した。
A-018 (古墳時代前期)：イネ炭化胚乳の破片が1点のみ出土した。
A-019 (縄文時代中期)：焼土3区からオニグルミ炭化核破片が3点のみ出土した。
A-020 (縄文時代中期)：いずれの試料からもオニグルミ炭化核破片が出土し、炉・焼土・1層・②、炉・焼土下・④・2層では多産した。完形に換算したおよその推定個数は、炉・焼土・1層・②は1個分、炉・焼土下・④・2層は1個分以下である。
A-021 (縄文時代中期)：オニグルミ炭化核破片が合計5点出土した。
A-029 (縄文時代中期)：炉・1層・一括を除いてオニグルミ炭化核破片が出土し、炉・2層・一括、炉・一括では多産した。完形に換算したおよその推定個数は、炉・2層・一括は1～2個分、炉・一括は2～3個分である。また、炉・一括では、クリ炭化果実(果皮)の破片が1点出土した。
A-034 (縄文時代中期)：タデ属炭化果実とエノキグサ炭化種子が出土した。
A-037 (縄文時代中期)：2区・炉でオニグルミ炭化核破片が3点とイネ炭化胚乳が1点出土した。
A-042 (平安時代)：イネ炭化胚乳の完形1点、破片1点とオオムギ炭化胚乳の完形1点が出土した。なお、一覧表中では省いたが、腐った樹木の表面などに付く菌核が多く含まれていた。
A-046 (縄文時代中期)：オニグルミ炭化核破片が合計14点とミズキ炭化核の完形が1点出土した。

4. 考察

縄文時代中期の試料をみると、多くの遺構でオニグルミ炭化核の破片が出土した。オニグルミは、当時の主要な食料源の一つであり、出土した炭化核の破片は、利用後の残滓と言えよう。他では、A-029（炉・一括）で出土したクリも利用されていたと言えよう。また、A-046（4区・炉）で出土したミズキは、果実が生食可能な漿果であるが、核が炭化して出土しており、利用法と何らかの関連があるのかもしれない。A-034で出土したタデ属、エノキグサは、付近の路傍など、乾き気味の場所に雑草として生育していたのではないかと思われる。なお、A-037（2区・炉）ではイネが出土したが、保存状態が非常に悪かった。遺構の時期は、縄文時代中期と考えられており、他の時期のものが混入したのであろうか。

古代の試料では、古墳時代前期のA-018ではイネが、平安時代のA-004ではイネ、オオムギ、シロザ近似種が、平安時代のA-042ではイネとオオムギが出土した。イネ、オオムギは栽培植物であり、食用とされていたと言える。シロザ近似種は、路傍ないし畠地のような乾き気味の場所に雑草として生育していたと思われる。

5. 主な炭化種実の形態記載

オニグルミ *Juglans ailanthifoia* Carr. 炭化核

核は完形であれば、側面観は卵形ないし円形、先端は鋭頭、上面観は円形。表面には、縦に不規則な筋（隆起）があり、明瞭な1本の縫合線が縦に走る。出土したものは、破片であるが、破片の表面は筋が入り、裏面は比較的著しい起伏がある。核壁は緻密で硬く、割れ口の断面は、空隙がみられることがあり、炭化すると割れ口には、光沢がみられることがしばしばある。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化果実

完形であれば、三角状卵形ないし扁円形で表面には縦に細かな筋が多数入る。尻の部分には、縦に長いしわがある。出土したものは、果皮の破片である。

ミズキ *Cornus controversa* Hemsley 炭化核

核は扁円形で基部に大きな臍があり、表面には浅い縦溝がある。出土したものは、状態がやや悪く、溝の部分が判り難い。

オオムギ *Hordeum vulgare* Linn. 炭化胚乳

コムギに比べて細長く、やや扁平で縦長の楕円形。下端は尖り気味。

タデ属 *Polygonum* 果実

先端がやや突出した卵形で二面のものと角が丸まった三稜形のものとが含まれていたが、一括した。

第73表 出土炭化種実一覧表 数字は個数、()内は破片の数を示す

遺跡No.	出土場所・層位	時代	ナツリシ 炭化種	カリ 炭化種	ミズナ 炭化種	イネ 炭化種	オキムギ 炭化種	リザ藻 炭化種	ヒツジソ 炭化種	スノウリ
A-014	6号・310 中2層	平安	炭化種 穀粒(中)	(1)			1	2	1	
A-016	6号・310 中上部									
A-017	6号・下層	縄文(中)	(2)							
A-018	6号・中層	古墳前				(1)				
	6号・上層									
	6号・110									
	6号・120									
A-019	20号・上・下層									
	6号・310									
	6号・上層									
	6号・下層									
	6号・110									
	6号・120									
A-020										
	6号・110									
	6号・120									
	6号・130									
	6号・140									
	6号・150									
	6号・160									
	6号・170									
	6号・180									
	6号・190									
	6号・200									
	6号・210									
	6号・220									
	6号・230									
	6号・240									
	6号・250									
	6号・260									
	6号・270									
	6号・280									
	6号・290									
	6号・300									
	6号・310									
	6号・320									
	6号・330									
	6号・340									
	6号・350									
	6号・360									
	6号・370									
	6号・380									
	6号・390									
	6号・400									
	6号・410									
	6号・420									
	6号・430									
	6号・440									
	6号・450									
	6号・460									
	6号・470									
	6号・480									
	6号・490									
	6号・500									
	6号・510									
	6号・520									
	6号・530									
	6号・540									
	6号・550									
	6号・560									
	6号・570									
	6号・580									
	6号・590									
	6号・600									
	6号・610									
	6号・620									
	6号・630									
	6号・640									
	6号・650									
	6号・660									
	6号・670									
	6号・680									
	6号・690									
	6号・700									
	6号・710									
	6号・720									
	6号・730									
	6号・740									
	6号・750									
	6号・760									
	6号・770									
	6号・780									
	6号・790									
	6号・800									
	6号・810									
	6号・820									
	6号・830									
	6号・840									
	6号・850									
	6号・860									
	6号・870									
	6号・880									
	6号・890									
	6号・900									
	6号・910									
	6号・920									
	6号・930									
	6号・940									
	6号・950									
	6号・960									
	6号・970									
	6号・980									
	6号・990									
	6号・1000									
	6号・1010									
	6号・1020									
	6号・1030									
	6号・1040									
	6号・1050									
	6号・1060									
	6号・1070									
	6号・1080									
	6号・1090									
	6号・1100									
	6号・1110									
	6号・1120									
	6号・1130									
	6号・1140									
	6号・1150									
	6号・1160									
	6号・1170									
	6号・1180									
	6号・1190									
	6号・1200									
	6号・1210									
	6号・1220									
	6号・1230									
	6号・1240									
	6号・1250									
	6号・1260									
	6号・1270									
	6号・1280									
	6号・1290									
	6号・1300									
	6号・1310									
	6号・1320									
	6号・1330									
	6号・1340									
	6号・1350									
	6号・1360									
	6号・1370									
	6号・1380									
	6号・1390									
	6号・1400									
	6号・1410									
	6号・1420									
	6号・1430									
	6号・1440									
	6号・1450									
	6号・1460									
	6号・1470									
	6号・1480									
	6号・1490									
	6号・1500									
	6号・1510									
	6号・1520									
	6号・1530									
	6号・1540									
	6号・1550									
	6号・1560									
	6号・1570									
	6号・1580									
	6号・1590									
	6号・1600									
	6号・1610									
	6号・1620									
	6号・1630									
	6号・1640									
	6号・1650									
	6号・1660									
	6号・1670									
	6号・1680									
	6号・1690									
	6号・1700									
	6号・1710									
	6号・1720									
	6号・1730									
	6号・1740									
	6号・1750									
	6号・1760									
	6号・1770									
	6号・1780									
	6号・1790									
	6号・1800									
	6号・1810									
	6号・1820									
	6号・1830									
	6号・1840									
	6号・1850									
	6号・1860									
	6号・1870									
	6号・1880									
	6号・1890									
	6号・1900									
	6号・1910									
	6号・1920									
	6号・1930									
	6号・1940									
	6号・1950									
	6号・1960									
	6号・1970									
	6号・1980									
	6号・1990									
	6号・2000									
	6号・2010									
	6号・2020									
	6号・2030									
	6号・2040									
	6号・2050									
	6号・2060									
	6号・2070									
	6号・2080									
</										

第74表 放射性同位素年代測定および曆年代校正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	$\delta^{13}\text{C}_{\text{VP}}$ (‰)	${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代 (yrBP $\pm 1 \sigma$)	' ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代を曆年代に較正した年代	
				曆年代較正值	1σ 曆年代範囲
MLD-1548 (GPC)	炭化種子 29号住居跡 3層一括	-25.2	1180 \pm 50	cal BC 2870 cal BC 2805 cal BC 2780 cal BC 2770 cal BC 2765 cal BC 2715 cal BC 2710	cal BC 2880–2835 (21.0%) cal BC 2820–2665 (70.9%)

なお、曆年代較正の詳細は、以下の通りである。

曆年代較正

曆年代較正とは、大気中の ${}^{\text{14}}\text{C}$ 濃度が一定で半減期が5,568年として算出された ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ${}^{\text{14}}\text{C}$ 濃度の変動、および半減期の違い (${}^{\text{14}}\text{C}$ の半減期 5,730 \pm 40年) を較正し、より正確な年代を求めるために、 ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代を曆年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代と曆年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代を曆年代に較正した年代を算出する。

${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代を曆年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版)を使用した。なお、曆年代較正值は ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代値に対応する較正曲線上の曆年代値であり、 1σ 曆年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代誤差に相当する曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその 1σ 曆年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。 1σ 曆年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に影付け部分で示した。

4. 考察

試料は、同位体分別効果の補正および曆年代較正を行なった。曆年代較正した 1σ 曆年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、29号住居跡の3層一括から出土した炭化物より採取した炭化種子の年代はcal BC 2820–2665年が、より確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

- 中村俊夫 (2000) 放射性同位素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ${}^{\text{14}}\text{C}$ 年代, p. 3–20.
- Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ${}^{\text{14}}\text{C}$ Database and Revised CALIB3.0 ${}^{\text{14}}\text{C}$ Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p. 215–230.
- Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000–0 cal BP, Radiocarbon, 40, p. 1041–1083.

第4節 A-061号住居跡出土炭化材の樹種同定

植田 弥生 (パレオ・ラボ)

1.はじめに

ここでは、古墳時代後期の住居跡 (A-061) から出土した炭化材 4 点の樹種同定結果を報告する。本遺跡は千葉市若葉区に所在し、標高約34mの台地縁辺部に立地する。周辺には旧石器時代の遺物集中区や、縄文時代の住居跡、縄文時代の多部田貝塚や古墳時代の貝殻塚遺跡など平和公園遺跡群が分布し、本遺跡もその一部であり古来より人間活動の場であった地域である。このような地域において、古墳時代の住居建築材にはどのような樹種が利用されていたのかを知るために、樹種調査が実施された。

2.試料と方法

試料は、住居跡 A-061 から出土した 4 試料 (A・B・C・D) の炭化材である。いずれも出土状況から建築材と考えられるものである。4 点は離れた地点から出土し材の軸方向も異なることから、同一の材が分散した可能性は低く、それぞれ異なる位置で使用されていたものである。

材の 3 方向 (横断面・接線断面・放射断面) の断面を作成し、走査電子顕微鏡で材組織を拡大しその特徴をもとに同定した。走査電子顕微鏡用の試料は、3 断面を 5 mm 角以下の大ささに整え、直径 1 cm の真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡 (日本電子㈱製 JSM-T100型) で観察と写真撮影を行った。

3.結果

同定の結果、A はカヤ、B はムクロジ、C はシキミ、D はアサダであった。なお、C の多くはシキミの破片であったが、ムクロジの破片 1 点も検出された。取上げ痕状図を見るとやや離れた位置から取上げられたものも含まれているので、ムクロジはこの位置の炭化材であろうか。C のムクロジは住居縁から検出されたが、B のムクロジは住居の中心付近部から検出されているので、ムクロジの材は異なる 2 地点で使用されていたと考えられる。

各試料は丸木状の破片はみられず、放射方向の径が 2 ~ 4 cm の破片が多かった。恐らく直径 5 ~ 10 cm 前後の材を伐採して丸木あるいは分割して利用していたと推測される。

第25表 A-061号住居跡出土炭化材の樹種

住居跡	試料	樹種	時期
A-061	A	カヤ	古墳時代
A-061	B	ムクロジ	古墳時代
A-061	C-1	シキミ	古墳時代
A-061	C-2	ムクロジ	
A-061	D	アサダ	古墳時代

材樹種記載

カヤ *Torreya nucifera* Sieb. et Zucc. イチイ科 写真図版91 1a-1c (A)

仮道管・放射柔細胞からなり樹脂細胞はない。早材から晩材への移行はゆるやかで、仮道管に2本が対になるらせん肥厚がある。分野壁孔は小さなヒノキ型が2~4個ある。

カヤは宮城県以南・四国・九州の暖帯から温帯下部の山地に生育する常緑高木の針葉樹である。材は水温に強い。

アサダ *Ostrya japonica* Sarg. カバノキ科 写真図版91 2a-2c (D)

小型の管孔が放射方向に2~数個が複合して分布し、年輪界で径を減じる散孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は單穿孔、内腔にらせん肥厚がある。放射組織は異性、1~4細胞幅、上下端に方形細胞があり結晶も含む。

アサダは温帯の山地に生育する落葉高木で、材質は堅く丈夫である。

シキミ *Illicium anisatum* L. シキミ科 写真図版91 3a-3c (C-1)

非常に小型の管孔がおもに単独で多く分布し、年輪の始めの管孔は放射方向にやや大きくて接線状に密接して1層並ぶ散孔材。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は横棒数が多数の階段穿孔、内腔には水平に走行するらせん肥厚がかすかに見られる。放射組織は異性、1~2細胞幅、接線断面で直立細胞は非常に背が高いレンズ状である。

シキミは宮城県・石川県以西の暖帯の山地の生育する常緑小高木である。材はやや重硬で粘り気がある。

ムクロジ *Sapindus mukorossi* Gaertn. ムクロジ科 写真図版92 4a-4c (B)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部は非常に小型の管孔が放射方向または塊状に複合して分布する環孔材。道管の壁孔は交互状、穿孔は單穿孔、小道管の内腔にはらせん肥厚がある。放射組織は同性、1~3細胞幅である。木部柔組織は周間状・帶状で層階性をなす。

ムクロジは本州中部以西の暖帯から亜熱帯に生育する落葉高木で、材はやや重硬である。

4.まとめ

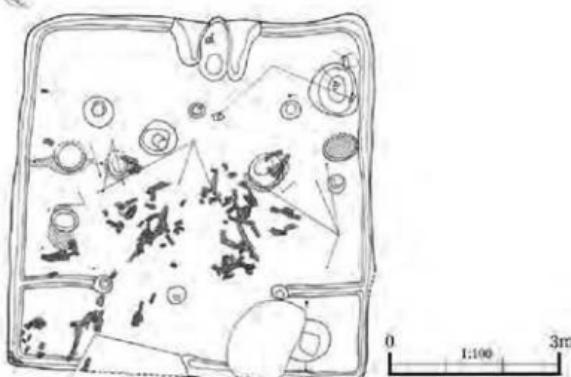
古墳時代後期の住居跡A-061から出土した建築材と見なされる炭化材4試料からは、針葉樹のカヤ、落葉広葉樹のムクロジとアサダ、常緑広葉樹のシキミが検出された。

千野(1991)は、各時期の住居建築材の樹種調査を集積しその構成樹種から、人間活動の進展に伴う二次林の拡大を理解する試みを行っている。それによると主に南関東の遺跡では、縄文時代はクリが多く、弥生時代と古墳時代では二次林要素のコナラ亜属(クヌギ節とコナラ節を含む)が多くなりそのほかに針葉樹材(モミ属・カヤなど)と複数の広葉樹材が検出される住居跡が増える。そして、奈良時代や平安時代は事例が少ないので、はっきりとした傾向はつかめていないが、前時期と同様にコナラ亜属と再びクリが多い傾向が見られ、そのほかに照葉樹林構成種(シキミ・タブノキ・シイノキ属など)が検出される遺跡もあり、照葉樹林構成種を利用した住居跡は関東南部の海岸よりの遺跡に多い。当遺跡の調査においても照葉樹のシキミが検出され、建築材として利用されていた。カヤは千葉市では、大宮町の城の腰遺跡で弥生時代中期と古墳時代前期および後期の住居跡から比較的多く検出

されている（千野、1979）。今回、古墳時代後期の当住居跡からもカヤが検出されたことから、当地域一帯では弥生時代から古墳時代を通じよく利用され、入手も容易であったと思われる。ムクロジも千葉市の村田服部遺跡（鈴木・能城、1985）や浜野川遺跡群（能城・鈴木、1988、1989）や神門遺跡（能城・鈴木、1991）など広く関東地方の遺跡からも、木製品や自然木から検出されている。ムクロジは現在では分布数も少なく、建築材としての利用はあまり知られていないが、過去には様々に利用されていたようである。今回の調査数は4試料と少ないが、建築材に多用され二次林要素でもあるコナラ節・クヌギ節・クリが含まれていなかったことから、当住居跡の建築材は自然植生の照葉樹林を利用していた可能性が高い。

引用文献

- 千野裕道、1991、縄文時代に二次林はあったか—遺跡出土の植物性遺物からの検討、214-249、『研究論集 X』、東京都埋蔵文化財センター。
千野裕道、1979、炭化材の樹種同定、440-450、『千葉市越の腰遺跡-千葉東金道路建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告3(千葉市大宮地区)』、千葉県文化財センター。
鈴木三男・能城修一、1985、村田服部遺跡（古墳時代前期）出土木材の樹種、11-69、金沢大学教養部論集22。
能城修一・鈴木三男、1988、浜野川遺跡群出土木材の樹種、101-121、図版23-35、『千葉市浜野川遺跡群（低湿地における遺跡確認調査）』、千葉県埋蔵文化財センター。
能城修一・鈴木三男、1989、浜野川遺跡群出土木材の樹種・統報、128-141、図版45-51、『千葉市浜野川神門遺跡』、千葉県埋蔵文化財センター。
能城修一・鈴木三男、1991、木材化石の樹種、178-190、『縄文時代早・前期を主とした低湿地遺跡の調査』、千葉市教育委員会。



第236図 同定資料出土状況

第5節 埋葬・土壤内土壤のP・Ca分析

小村 美代子 (バレオ・ラボ)

1. はじめに

うならすず跡において、埋葬施設ではないかと考えられる埋葬や土坑がいくつか検出された。今回、これら埋葬や土壤内の土壤の蛍光X線分析を行い、骨に多く含まれるP(リン)とCa(カルシウム)に注目して、埋葬施設の可能性について検討した。

2. 試料と方法

試料は、7号住居埋葬内土壤(A-007)と27号住居埋葬内土壤(A-027)、98号土壤内土壤(C-098)、115号土壤内土壤(C-115)の計4点である。全て時代は縄文時代中期である。

試料は、それぞれ約3g採取して恒温乾燥機で乾燥させた後、土壤の化学組成に影響のないように、試料内に含まれる小さな植物の根や小石や貝片などは極力取り除いて、セラミック乳鉢で粉末化した。これら粉末を、直径3cmの塩化ビニール製のリングに無水亜ホウ酸リチウム($\text{Li}_2\text{B}_4\text{O}_7$)を詰めて10tの圧力をかけたものの上に薄く展開して、更に20tの圧力をかけてブリケットを作成した。なおC-098は土壤内に貝片(完形で約1cm)が大量に含まれていた。

測定は、(株)バナリティカル社製波長分散型蛍光X線分析装置MagiX(PW2424型)を用いてFP法による定量分析を行った。測定元素は主成分元素10元素(Na_2O 、 MgO 、 Al_2O_3 、 SiO_2 、 P_2O_5 、 K_2O 、 CaO 、 TiO_2 、 MnO 、 Fe_2O_3)である。

3. 分析結果

分析結果を第76表に示す。 P_2O_5 と CaO に注目すると、C-098の土壤の P_2O_5 は0.786%、 CaO は35.765%で他の試料より飛びぬけて分析値が高いことが確認された。

第76表 理想・土坑内土壤の化学組成(単位:%)

番号	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3
A-007	0.402	1.409	33.358	42.773	0.349	0.890	1.210	2.001	0.296	17.312
A-027	0.416	1.445	33.092	42.907	0.348	1.009	1.273	1.986	0.285	17.238
C-098	0.334	1.530	19.573	28.765	0.786	0.499	35.765	1.327	0.367	11.053
C-115	0.391	1.314	33.579	43.265	0.311	0.898	1.110	1.961	0.295	16.875

4. 考察

C-098については土壤内に貝片が大量に含まれていたため、除去しきれなかった貝の成分が P_2O_5 や CaO の分析値に現れた可能性が高い。この貝を調べたところ、海に生息するキサゴと確認された。A-007やA-027、C-115については、 P_2O_5 約0.3%、 CaO 約1.1~1.2%であった。これくらいの分析値は、土器胎土や一般土壤よりとりわけ高いとは考えにくく埋葬施設かどうかの判断が難しい。各埋葬、土壤周辺の土壤を分析して埋葬や土坑内土壤の分析値と比較して判断する必要がある。

第6節 貝層サンプルの分析

植月 学（東京芸術大学）

1. 資料と分析方法

うならず遺跡では、貝層を伴う住居跡14軒（縄文13、平安1）と土壌15基（縄文13、平安2）が検出されている。本稿ではこれらの遺構より得られた貝層サンプルの分析結果を報告する。

分析対象としたのは、上記のうちサンプルの確認できた住居跡11軒、土壌10基である。貝層サンプルは遺構ごとに全量採取された。遺構によっては、貝層ブロックごとに分割して採取されたようだが、採取位置は明らかでない。なお、住居跡は「A」、土壌は「C」の後に遺構番号が付されている。

サンプル全量を処理することは量的に不可能であったため、各遺構、グリッドより土の袋1袋を任意に選び出した。同一遺構でもグリッドが異なるサンプルを区別して数えたサンプル総数は32であった。

サンプルは乾燥後、体積・重量を測り、水洗篩別した。水洗には、4・2・1mmの試験フレイを用いた。資料の分類・同定は、4mmについてはすべてのサンプルを対象としたが、量の多いサンプルについては、5リットルを目安に一部を抽出しておこなった（集計表には全体量から推定した4mmの内容物の復元値も掲載した）。

2mm・1mmについてはすべての遺構を分析することは時間的に不可能であったため、12サンプルのみ選び出した（以下Aサンプルとする）。残りのサンプルは4mmのみ分類した（以下Bサンプルとする）。Aサンプルの選定は、各細別時期より均等におこなったが、整理作業の進行とともに所属時期の見直しがあり、若干の偏りが生じた。

貝類の抽出は、巻貝類については殻口および殻頂、二枚貝類については殻頂によりおこなった。二枚貝の左右はAサンプルでのみ区別し、Bサンプルでは一括した。フジツボ類は破片数を数えた。同定は基本的に現生標本との比較により、必要に応じて図鑑も参照した。

集計は最小個体数により行い、巻貝類は各サンプルの殻口、殻頂のうち数の多い方を採用した。また、左右を分けていないBサンプルの二枚貝は半数を用いた。4mmと2・1mmを合計して組成を示す場合の4mmの数量は復元推定値を用いた。重量は4mmについてのみ調べた。破片も同定し、種ごとの重量を求めた。計測はハマグリのみ、左右両殻の殻長と殻高をmm単位で計測した。

陸産の微小貝類も抽出したが、今回は同定していない。また、貝類・フジツボ類以外の動物遺体はA-064の4mmで歯骨小片が1点検出されたのみであった。

2. 分析結果

a. 貝類組成（第77表～80表、第237図）

腹足綱13種、堀足綱1種、斧足綱11種が確認された（第77表）。第237図に個体数による組成グラフを示した。Aサンプルで4～1mmの合計と4mmのみの組成に大差がなかったため、A・Bサンプルの4mmの組成のみを示した。配列は細別時期順である（同一土器型式内での順序は遺構番号順）。

縄文ではイボキサゴが9割近くで主体となり、ハマグリがこれに次ぐ。時期的変化について見る

第77表 うならす遺跡出土貝類一覧表

ヒメコサザ (ツボミガイ属)	<i>Pattelloidea pygmaea form conulus</i>	ヤカドワノガイ	<i>Dentalium (Paridentalium) octangulatum</i>
イボキサゴ	<i>Unioanum moniliferum</i>	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>
ダンベイキサゴ	<i>Umbonium giganteum</i>	ウメノハナガイ	<i>Pilipecten posticatum</i>
カワニナ	<i>Semicassis granosa libertina</i>	シオフキ	<i>Macraea crenularis</i>
ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>	ムラサキガイ	<i>Solestella diphos</i>
ホソウミニナ	<i>Batillaria cumingii</i>	マテガイ	<i>Solenidae</i>
イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>	ヤマトシジミ	<i>Cobicula japonica</i>
ベナトリ	<i>Cerithideopsis (Cerithideopsis) cingulata</i>	ヒメカノコアサリ	<i>Venerupis nicensis</i>
ツメタサギ	<i>Glossularia dilatata</i>	カガミガイ	<i>Phoxostra japonicum</i>
イボニシ	<i>Thais (Reishia) clavigera</i>	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>
アカニシ	<i>Rapana venosa</i>	ハマグリ	<i>Meretrix lissoria</i>
アラムシロ	<i>Reticularia festiva</i>	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i>
ムラクモキジビキガイ	<i>Japanacteon nipponeus</i>		

学名・配列は奥谷編 (2000) による

と、各時期ともイボキサゴが主体となる点は共通する。ハマグリが多く出現する造構がいくつかあるが、時期的な偏りはない。

その他の種では、アラムシロとウミニナ類が少量ながら各造構で安定して出現しており、イボキサゴ採集に際して混縁されたと推定される。

イボキサゴと上記2種を除いた組成を第237図の右に示した。ハマグリとその他の二枚貝類の比率を見ると、EIV式期以前ではシオフキとアサリの比率が高く、称名寺式期に至って減少するよう見える。また、マガキは各時期に見られるが、比率が高い造構はEII式期にやや多く見られる。

ムラクモキジビキガイ、ウメノハナガイ、ヒメカノコアサリなどの海産微小貝類も少量ながら検出された。これらは意図的な採集は考えにくく、イボキサゴ採集の際の混縁と推定される。松戸市の木戸前II遺跡のイボキサゴ主体土壌内貝層でもこれらの種が検出されており、イボキサゴの混縁である可能性が指摘されている（加納1996）。

平安はハマグリが主体で、シオフキ、アサリ、イボキサゴがこれに次ぐ。イボキサゴが少ない点、マテガイ、カガミガイが少量ながら見られる点で縄文と異なる。

b. ハマグリ殻長・殻高 (第238・239図、第81表)

図には殻長グラフのみ示した。表には殻高も含む計測結果を示した。

縄文では殻長10~60mm程度の個体が見られ、25~30mmがもっとも多い。平均は約31mmである。細別型式ごとに見ると、各時期とも造構ごとのばらつきが大きく、平均が30mm前後の小形主体の造構と、40mm前後の大形主体の造構が混在する。いくつかのサンプルでは10~20mmに別のピークが見られる。これら幼貝は他の小形貝類同様イボキサゴ採取時に混縁されたものと推定される。

平安は2造構とも30mm以下の個体は見られず、大形の個体が多い点で縄文期と異なる。ただ、A-042は60~70mmの大形主体、C-045は40mm前後主体で、両造構でもかなりの差がある。また、両造構とも幼貝が含まれないが、これはイボキサゴが少ない点と調和的である。

3. 考察

a. 貝類採集活動の様相

本遺跡の貝類組成は、内湾の砂泥質干潟に生息するイボキサゴ、ハマグリ、シオフキ、アサリなどが主体で、湾奥の泥質干潟に生息するマガキ、オキシジミや汽水域に生息するヤマトシジミなどは少

ない。この点は縄文、平安とも共通している。ただ、細かく見れば、平安ではイボキサゴが少なく、逆にカガミガイ、マテガイが目立つ。ハマグリが大形であるなど明らかな差も見られた。

縄文の組成は、イボキサゴ主体でハマグリ、シオフキ、アサリなどの二枚貝が時折多く混ざる比較的単調な組成で、これまでの周辺遺跡における分析結果と符合する。イボキサゴと二枚貝の比率は遺構によって異なるが、特定の時期的傾向はなく、加曾利Ⅲ式期から堀之内式期の間に貝類採集活動の大きな変化はなかったと推定される。

ハマグリ殻長の平均は27~44mm（殻高で22~37mm）と幅があるが、多くのサンプルでは35mm（殻高30mm）未満で、非常に小形である。樋泉（1999）によれば、同じ都川流域に属する加曾利北貝塚（加曾利E I ~ II式期）のハマグリは、殻高22~38mm程度が主体である（平均28mmと31mm）。貝殻成長線分析にもとづけばこれらの大半は2歳未満の未成長に相当するといい、生殖年齢に達する前後で採り尽くされる乱獲に近い状況が想定されている。本遺跡の平均値は加曾利北に近く、時期的にはやや下るもの、同じような生息条件であったとすれば、かなりの捕獲圧がかかっていた可能性がある。一方で、同一時期（細別型式）でも、殻長平均40mm前後の大型個体主体の遺構も存在し、遺構間で平均値に10mm前後の差が見られた。

次に貝層形成の頻度を検討する。住居跡総数と、貝層が形成された住居跡の比率は加曾利E III式期12:3(25%)、加曾利E IV式期22:5(23%)、称名寺式期14:2(14%)、堀之内式期6:1(17%)となる。貝層が形成されたのは全体のごく一部だが、草刈貝塚の4軒に1軒の割合（高田1986）という数字と比較すれば、本遺跡の比率は特に低いとはいえない。ただし、貝層の規模は小さく、加曾利E III・IV式、称名寺、堀之内の各時期ともサンプルの総量は150~250kg程度である（水洗前のサンプル重量の合計。ほとんどの貝層が全量サンプリングされた）。これは住居跡の数からすればかなり少ないと見えるよう。

この程度の規模の採集で、果たして貝類の資源状況が悪化するのかは疑問も残り、採集圧とともに、自然的要因による貝類の生息条件の悪化も起きていた可能性がある。また、遺構間でのサイズのばらつきが生じる要因としては、細別型式では捉えきれないより短期的な捕獲圧の推移や、漁場の微妙な差による可能性などが考えられるが、現時点では判断材料に乏しい。いずれにしても、再生産を阻害するような小形個体の採集や、貝層規模の小ささから、貝類採集活動は不安定なものであったと推測される。採集活動が貝類資源に与えた影響を考える際には、流域の他集団の活動の影響や、集落外の貝塚の存在なども考慮する必要があり、こうした周辺遺跡のデータの収集が今後の課題である。

b. 魚骨・鳥獣骨の希少性

今回の分析では、全サンプルで4mmの資料拾い出しをおこない（約130ℓ）、うち12サンプルでは2mm・1mmの資料拾い出しをおこなったにもかかわらず、骨類は獸骨小片が1点検出されたのみであった。本遺跡に近接する多部田貝塚の称名寺式期に属する貝層からはほぼ同量（127ℓ）のサンプルから113点の魚骨と25gの獸骨（現場採集71点）が検出されており、本遺跡とは対照的である（樋泉2001）。このような差異はどのように解釈すべきであろうか。

データの収集が不十分だが、下総台地の東京湾沿岸の中期末～後期初頭の貝塚には、本遺跡同様貝類以外の動物遺体が貧弱なタイプ（以下Aタイプとする）と、多部田貝塚のように比較的多く検出さ

れるタイプ（以下Bタイプ）の2者が存在する。Aタイプとして、たとえば習志野市藤崎3丁目南遺跡、船橋市中野木台遺跡群、松戸市一の谷西遺跡などがある。いずれも貝層を伴う遺構が複数検出され、水洗選別されたにもかかわらず、骨類が希少、あるいはまったく検出されていない。一方、Bタイプとしては市原市祇園原貝塚、能満上小貝塚、松戸市貝の花貝塚などがあげられる。また、動物遺体の時期ごとの出土傾向は明らかではないが、習志野市藤崎堀込貝塚、船橋市古作貝塚、市川市曾谷貝塚なども上記同じタイプに分類できる可能性が高い。

以上のような2種類の遺跡が存在することから、骨類の希少性は単なる自然環境の変化や、それともなう生業の変化としては説明できない。また、Aタイプでも本遺跡や中野木台遺跡群では多数の住居跡が検出されており、集団規模の差によるとも考えにくい。

AタイプとBタイプとを比較すると、Bタイプが長期継続する集落遺跡、Aタイプが短期的な集落遺跡とほぼ一致することが指摘できる。Bタイプの多くは中期末頃から形成を開始し、後期後葉や晚期まで継続するのに対し、Aタイプはいずれも後期初頭もしくは前葉には形成を終えると考えられる遺跡である。したがって、骨の多寡は遺跡の性格に関する生業の差に起因する可能性が高い。

中期末～後期初頭の集落における動物遺体出土傾向の2類型は、前段階の加曾利EII式期以前の集落では明確ではない。たとえば千葉市吉北貝塚、市原市草刈貝塚、市川市向台貝塚、松戸市紙敷貝塚、流山市中野久木谷頭遺跡などこの時期の多くの環状集落では、多様な動物遺体が出土している。そこには、西野雅人が「あらゆる物資を運び込んだ拠点的な集落」（西野1999）と表現したような物資集中型の多角的生業と居住のシステムが想定される。ごく小規模な集落遺跡を除けば、生業の集落間格差は中期末～後期初頭ほど明確ではなく、そこに何らかの変化が想定される。

加曾利EIII式期以降にこれらの環状集落の多くが終焉を迎える、地点を変えて新たに居住が開始されることよく知られるところである。加納実はこの現象を「同一地点での反復居住・集合的居住=環状集落」から、「当該期以前の非居住域」での「分散型居住」へという言葉で説明している（加納2000）。その背景には環境の変化と、それともなう人口の減少が想定されている。

動物遺体の出土傾向における画期が、この現象と同時期であることは偶然とは考えにくい。ここではこの一致にもとづいて、集落の分散化が生業・居住システムの変化とともにあっており、結果として遺跡の性格が多様化したという仮説を提示したい。多様化の内容としては、以下の可能性が考えられる。

第一に、一部の集落から漁労・狩猟など生業のある部分が抜け落ち、大規模貝塚を伴うような中核的集落（ここでBタイプとしたもの）でのみ、多角的な生業が継続された可能性である。両者の関係については、異なる集団であった場合と、母村・分村のような関係にあり、協業や交換を通じて資源が共有されていた場合の2通りをさらに想定し得る。

第二に、季節的な移住や集住・離散などセトルメント・システムの中で異なる役割を持つ遺跡であった可能性である。後続する後期前葉～中葉の集落については、樋泉岳二が郡川・村田川流域遺跡群の動物遺体の比較をもとに、「集団ネットワークに所属するメンバーの一一部が季節季節の生業状況に応じて集落間を移動する柔軟な生業・居住システム」を想定しており（樋泉2003）、これに近い生業・居住システムが中期末～後期初頭にも芽生えていた可能性がある。本遺跡の場合も多部田貝塚と

ごく近接していながら、動物遺体の内容や貝層形成、継続時期などに大差があり、その関係がどの上うなものだったのか今後解明していく必要がある。

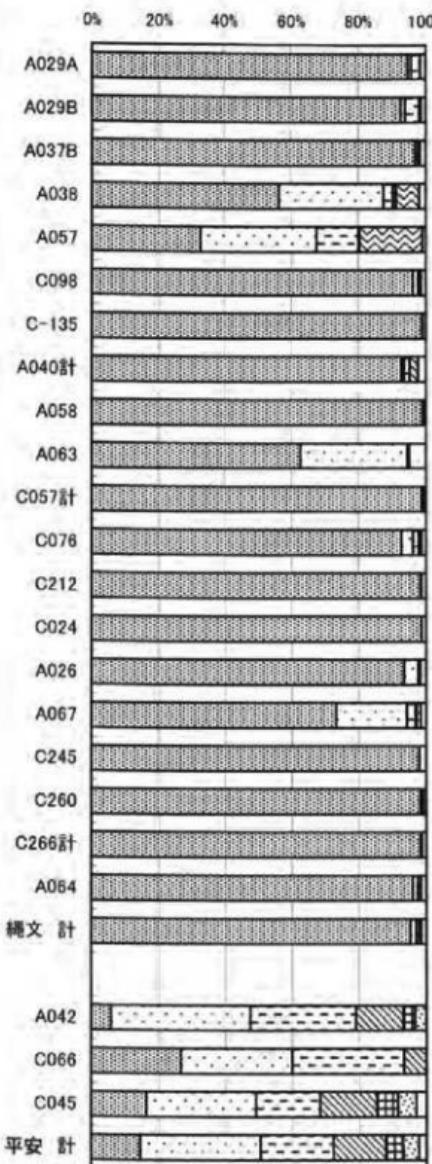
最後に問題点として、特に加曾利式後半期の動物遺体の報告例が少ない点があげられる。遺跡間の差が、AタイプからBタイプへという生業の漸次的变化（多様化）ではなく、上記仮説のように同時期における差異を示すと判断するためには、より細かい時期区分での動物遺体のデータの蓄積が必要であり、今後の課題としたい。

謝辞 千葉市教育振興財団 埋蔵文化財調査センターの青沼道文氏には貴重な資料を分析する機会を与えていただき、田中英世氏、古谷 涉氏には分析に際し多くの便宜を図っていただいた。同定、集計に際しては高橋明子氏にご協力いただいた。末筆ながら記して感謝申し上げる次第である。

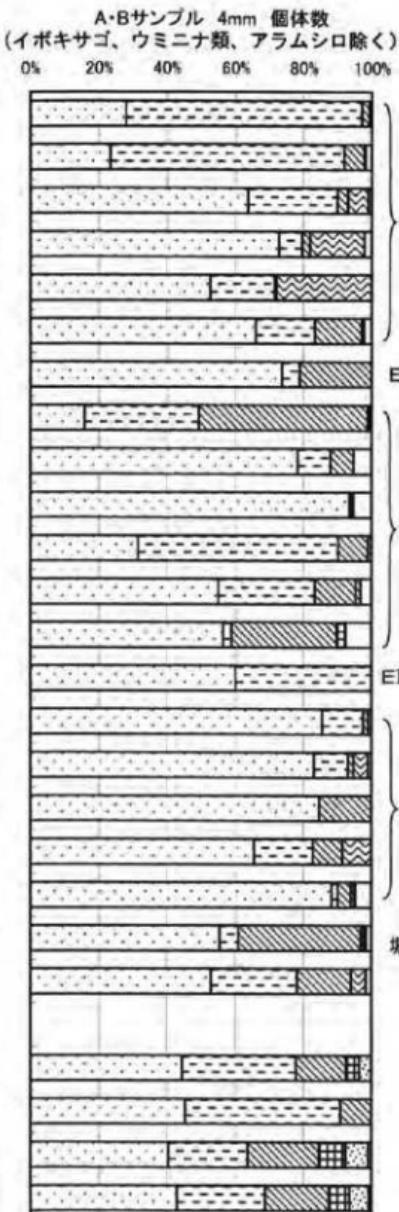
文献

- 石坂雅樹 1996 「中野木台遺跡群（4）」 船橋市文化・スポーツ公社 埋蔵文化財センター
植月 学 2003 「松戸市紙敷遺跡出土の骨角製品と脊椎動物遺体」『千葉県松戸市紙敷遺跡』松戸市教育委員会
遠藤啓子 1995 「住居跡および土坑出土の自然遺物」『藤崎3丁目南遺跡』習志野市教育委員会
奥谷善司編 2000 『日本近海産貝類図鑑』東海大学出版会
小野慶一・山崎京美・伊藤弘美 1986 「草刈貝塚の脊椎動物遺骸について」『千原台ニュータウンⅢ 草刈遺跡B区』千葉県文化財センター
金子浩昌他 1963 「脊椎動物」「貝の花貝塚」松戸市教育委員会
金子浩昌 1977 「動物遺体」『習志野市藤崎堀込貝塚』習志野市教育委員会
金子浩昌 1982 「貝塚出土の動物遺存体」千葉市加曾利貝塚博物館友の会
金子浩昌 1995 「市原市能溝上小貝塚出土の動物遺体」『市原市能溝上小貝塚』市原市文化財センター
金子浩昌 1999a 「紙園原貝塚出土の動物遺体の特徴」『紙園原貝塚』市原市教育委員会
金子浩昌 1999b 「脊椎動物遺体」『向台貝塚資料図譜』市立市川考古博物館
加納哲哉 1996 「微小貝類遺存体」『木戸前II遺跡』松戸市遺跡調査会
加納 実 2000 「集合的居住の崩壊と再編成・縄文中・後期集落への接近方法」『先史考古学論集』第九集
小宮 孟 1986 「コラムサンブル出土の動物遺存体」『千原台ニュータウンⅢ 草刈遺跡B区』千葉県文化財センター
小宮 孟 1998 「有吉北貝塚の魚類遺存体」『千葉市有吉北貝塚』千葉県文化財センター
高田 博 1986 「貝塚の構造について」『千原台ニュータウンⅢ 草刈遺跡B区』千葉県文化財センター
高橋博文 2001 「貝類標本の分析結果」『船橋市新山東遺跡』千葉県文化財センター
樋泉岳二 1999 「貝層の研究Ⅰ」 千葉市立加曾利貝塚博物館
樋泉岳二 2001 「動物遺体群の分析」『千葉市多部田貝塚』 千葉市文化財調査協会
樋泉岳二 2003 「貝塚からみた生業活動と縄文社会」動物資源利用から縄文後期下総台地の地域社会を探る 『縄文社会を探る』学生社
長崎 敏 1977 「各ピットにおける動物遺体の概要」『中野木新山遺跡』中野木新山遺跡調査団
西野雅人 1999 「縄文中期の大型貝塚と生業活動」千葉市有吉北貝塚の分析結果 『研究紀要19』千葉県文化財センター
前田 潤・川名広文編 1984 『松戸市一の谷西貝塚発掘調査報告書』一の谷遺跡調査会

A・Bサンプル 4mm 個体数

A・Bサンプル 4mm 個体数
(イボキサゴ、ウミニナ類、アラムシロ除く)

□イボキサゴ □ロハマグリ □ロシオフキ
□アサリ □マガキ □田カガミガイ
□マテガイ □その他



□ロハマグリ □ロシオフキ □アサリ
□マガキ □田カガミガイ □マテガイ
□その他

E III

E III ~ IV

E IV

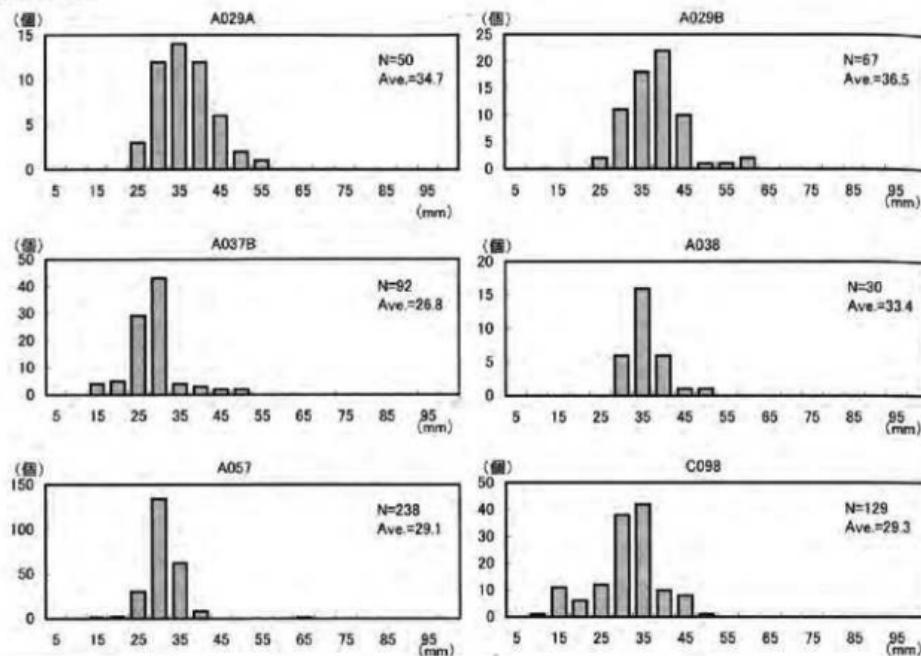
E IV ~ 称1

称名寺

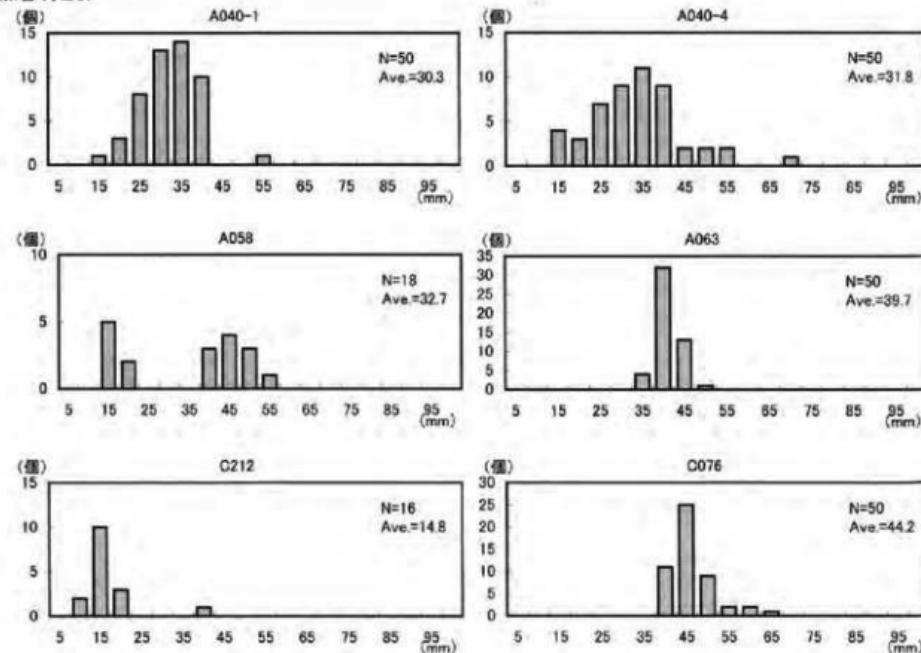
堀之内

第237図貝類組成

加曾利E III

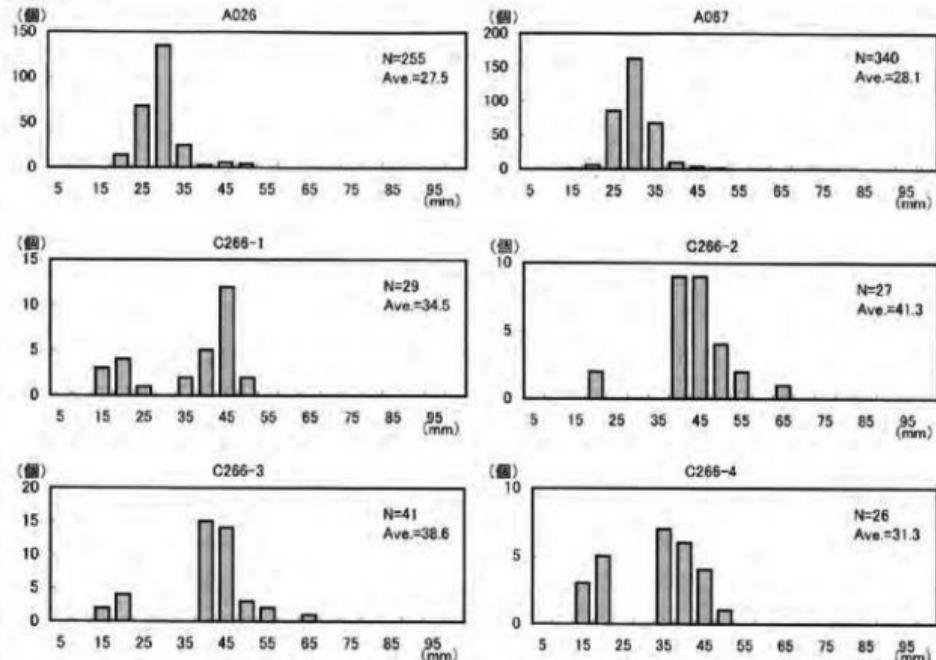


加曾利E IV

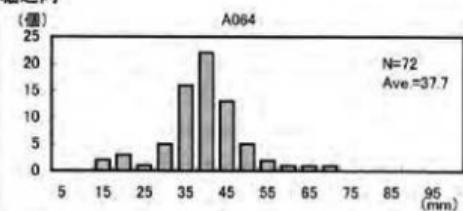


第238図 ハマグリ殻長分布①

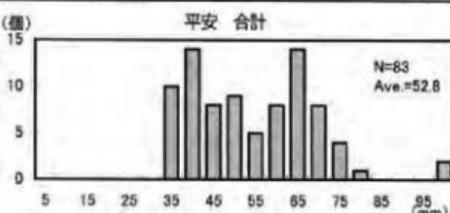
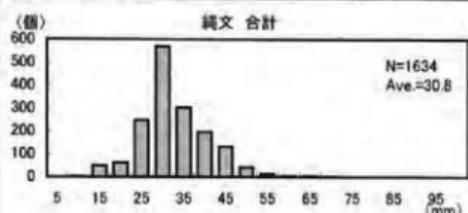
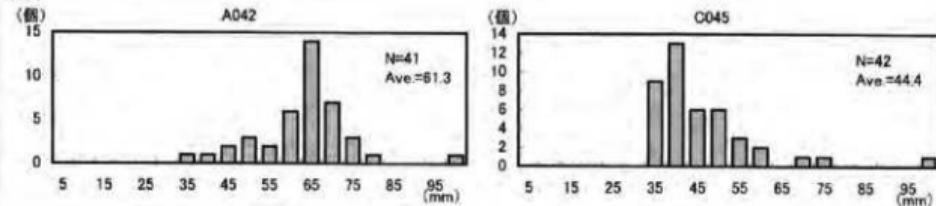
称名寺



堀之内



平安



第239図 ハマグリ殻長分布(2)

第78表 Aサンプルの貝類遺体(4・2・1 mm)

第79表 A・Bサンプルの貝類遺体(4 mm)

区分	遺構	時期	種名	ウミサゴ ナメ	ツブカ ガイ	アラム シロ	マキ ハナガイ	シオフキ ウツメ	マダガ シジ	カカミガ アリ	ハマグリ ルミ	オキシジ ツボ	その他	
A	A026	終名寺1	3859	18	0	0	50	0	0	21	25	0	0	0
B	A029A	EIII	5635	37	1	0	52	1	1	0	152	0	0	0
A	A029B	EIII	4062	18	4	0	37	1	1	0	169	184	0	0
A	A037B	EIII	6446	38	0	0	72	6	0	0	26	0	1	0
A	A038	EIII	58	0	0	0	0	7	6	0	0	2	3	0
B	A040-?	EIV	3288	28	0	1	54	1	1	0	87	87	0	0
B	A040-1	EIV	6020	42	0	0	119	2	2	0	92	0	0	0
B	A040-4	EIV	6786	41	1	0	119	2	0	0	108	108	0	0
A	A042	平安	5	0	0	0	0	0	0	0	22	27	3	0
B	A043	E	3257	33	0	0	32	11	11	0	0	132	0	0
A	A057	EIII	192	4	0	0	2	94	109	0	0	74	60	0
B	A058	EIV	6547	10	2	0	23	0	0	0	4	0	0	0
B	A063	EIV	538	6	13	3	5	1	1	0	0	2	0	0
A	A064	堀之内	4779	40	1	1	33	0	1	0	7	0	0	0
A	A067	終名寺1	1649	17	1	0	7	16	25	0	0	57	54	0
B	A097	?	894	14	0	0	15	18	18	0	0	39	39	0
B	C024	EIV~終1	6166	14	0	0	65	0	0	0	2	0	0	0
A	C045	平安	44	1	0	2	0	0	0	0	51	47	11	15
B	C057-1	EIV	6300	30	0	0	17	1	1	0	24	0	0	0
B	C057-3	EIV	3503	24	0	0	7	0	0	0	4	0	0	0
B	C066	平安	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
B	C076	EIV	2557	19	3	1	4	3	3	0	0	49	49	0
A	C083	EIII	5107	23	1	1	49	1	1	0	23	19	0	0
B	C135	EIII~IV	4604	8	0	0	36	0	0	0	1	1	0	0
A	C212	EIV	5785	39	0	0	27	0	0	3	1	0	0	0
A	C245	終名寺1	5010	42	0	0	55	0	0	0	0	0	0	0
B	C260	終名寺1	2503	4	0	0	17	3	3	0	5	0	0	0
B	C264	EIV~堀1	4083	19	2	0	31	18	18	0	0	48	48	0
B	C266-1	終名寺1	3531	12	1	1	24	0	0	0	1	1	0	0
B	C266-2	終名寺1	3551	12	0	1	28	0	0	0	0	0	0	0
B	C266-3	終名寺1	3208	6	1	1	34	0	0	0	2	0	0	0
B	C266-4	終名寺1	3591	13	0	0	28	1	1	0	0	0	0	0
総計														
平安計														
終計														

※Bサンプルの二枚貝の左右は合計値を半数にしたもの

第80表 A・Bサンプルの重量組成(4 mm)

区分	遺構	時間	水洗前		4mm		4mm		4mm		分析量		2mm		2mm		1mm			
			総量 (kg)	容量 (L)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)	(kg)		
A	A026	特 I	7.50	13.0	5.00	6.30	2.57	0.15	0.20	1.604	0	5	0	0	0	14	0	120	0	
B	A029A	EIII	10.71	16.0	5.00	7.00	2.51	1.20	0.89	1.469	0	8	1	0	1	14	5	535	0	
A	A029B	EIII	25.29	34.0	5.00	19.17	2.54	1.95	1.05	1.095	0	4	10	0	0	12	2	653	0	
A	A037B	EIII	11.70	13.5	5.00	11.70	5.00	5.45	2.83	0.22	0.17	2.366	0	9	0	0	19	29	136	0
A	A038	EIII	0.22	0.4	0.40	0.19	0.19	0.01	0.00	0.11	0	0	0	0	0	0	30	6	0	
B	A040?区	EIV	2.11	3.3	3.30	1.85	1.85	0.05	0.05	0.827	0	9	0	0	4	16	3	325	0	
B	A040 1区	EIV	5.00	8.6	5.00	4.60	2.56	0.11	0.05	1.477	0	13	0	0	0	38	3	313	0	
B	A040 4区	EIV	4.98	9.0	5.00	4.50	2.85	0.24	0.10	1.793	0	14	2	0	0	38	15	370	0	
A	A042	平安	1.26	2.7	2.70	1.20	1.20	0.02	0.01	3	0	0	0	0	0	0	0	220	6	
B	A043	E	2.93	5.8	5.80	2.85	2.85	0.05	0.01	1.221	0	17	0	0	0	12	36	864	0	
A	A057	EIII	1.85	3.0	3.00	1.34	1.34	0.12	0.08	0.49	0	1	0	0	0	1	192	217	0	
B	A058	EIV	16.32	22.8	5.00	14.94	2.99	0.30	0.51	2.540	0	3	13	0	0	6	0	27	0	
B	A063	EIV	8.74	12.2	5.00	6.66	2.34	0.62	0.44	1.88	0	1	51	0	9	1	22	16	0	
A	A064	堀-2	149.40	189.6	5.00	117.54	3.22	11.85	14.67	1.496	3	13	1	0	0	11	5	97	0	
A	A067	特 I	4.22	5.5	5.50	3.60	3.60	0.30	0.09	3.75	1	7	2	0	0	1	25	290	0	
B	A097	?	3.19	3.8	3.80	2.59	2.59	0.22	0.11	1.74	4	2	0	0	0	3	22	221	1	
B	C024	EIV-特 I	10.38	19.0	5.00	10.32	2.61	0.02	0.01	2.487	0	5	0	0	0	18	0	20	0	
A	C045	平安	2.14	3.0	3.00	2.10	2.10	0.03	0.00	0.64	0	1	0	0	0	287	1	0	458	
B	C057 1区	EIV	3.23	5.8	5.80	3.15	3.15	0.02	0.01	2.753	0	11	0	0	0	5	1	222	0	
B	C057 3区	EIV	1.58	3.0	3.00	1.50	1.50	0.04	0.01	1.396	0	5	0	0	0	2	0	32	0	
B	C065	平安	0.04	0.1	0.10	0.04	0.04	0.00	0.00	2	0	0	0	0	0	0	0	10	0	
B	C076	EIV	3.42	5.5	5.50	2.75	2.75	0.21	0.05	1.072	0	3	17	0	3	1	311	1	0	
A	C098	EIII	44.88	72.5	5.00	42.26	2.74	0.86	0.75	2.163	0	9	7	0	1	12	2	60	0	
B	C135	EIII-IV	16.73	23.2	5.00	15.10	2.90	0.30	0.37	2.609	0	2	0	0	0	10	1	1	0	
A	C212	EIV	29.71	39.5	5.00	24.79	2.92	0.67	1.16	2.344	0	13	0	0	0	7	0	4	0	
A	C245	特 I	59.35	88.4	5.00	54.14	3.03	1.16	1.05	2.837	0	26	0	0	0	21	0	5	0	
B	C260	特	1.66	2.3	2.30	1.15	1.15	0.03	0.06	0.973	0	1	0	0	0	5	1	19	0	
B	C264	EIV-特 I	77.01	110.2	5.00	59.67	2.90	0.61	2.25	0.929	0	10	2	17	37	8	61	497	0	
B	C266 1区	特 I	13.00	18.0	5.00	11.56	2.97	0.28	0.22	0.269	0	4	1	0	1	10	0	3	0	
B	C266 2区	特 I	67.29	103.0	5.00	64.22	3.00	0.72	0.44	0.345	0	6	0	0	0	27	9	0	2	
B	C266 3区	特 I	25.19	38.0	5.00	24.38	2.94	0.29	0.17	0.253	0	2	5	0	0	9	13	0	8	
B	C266 4区	特 I	76.84	118.0	5.00	74.61	3.05	0.56	0.44	0.272	0	7	0	0	0	10	1	0	0	
総合			681.32	983.1	129.80	565.59	71.85	28.84	25.35	47.930	4	208	112	17	314	435	5215	1	77	
平安合計			3.43	5.8	5.80	3.34	3.34	0.05	0.01	69	0	1	0	0	287	1	0	688	26	
総計			684.76	988.9	135.40	568.93	75.19	26.99	25.36	47.999	4	209	112	17	319	435	5903	27	2745 11928	

※異種別重量は4mmのみの値で、端片も含む。1cm溝は計算していない。

第81表 ハマグリ船長・最高計測結果

漁期	ハマグリ船長(㎜)															
	A026	A029A	A029B	A037B	A038	A040-1	A040-4	A042	A057	A058	A063	A064	A067	C045	C076	C098
持続	持1	EⅢ	EⅢ	EⅢ	EⅢ	EⅣ	EⅣ	平安	EⅢ	EⅣ	EⅣ	EⅣ	持1	平安	EⅣ	EⅢ
持期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~15	0	0	0	4	0	1	4	0	1	5	0	2	1	0	0	11
~20	14	0	0	5	0	3	3	0	2	2	0	3	6	0	0	6
~25	68	3	2	29	0	8	7	0	30	0	0	1	65	0	0	12
~30	135	12	11	43	6	13	9	0	134	0	0	5	163	0	0	38
~35	25	14	15	4	16	14	11	1	62	0	4	16	68	9	0	42
~40	3	12	22	3	6	10	9	1	8	3	32	22	10	13	11	10
~45	6	6	10	2	1	0	2	2	0	4	13	13	4	8	25	8
~50	4	2	1	2	1	0	2	3	0	3	1	5	2	6	9	1
~55	0	1	1	0	0	1	2	2	0	1	0	2	0	3	2	0
~60	0	0	2	0	0	0	0	6	0	0	0	1	0	2	2	0
~65	0	0	0	0	0	0	0	0	14	1	0	0	1	0	1	0
~70	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	1	0	0
~75	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0
~80	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
~85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~100	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
標本数	255	50	67	92	30	50	50	41	238	18	50	72	340	42	50	129
平均	27.5	34.7	36.5	26.8	33.4	30.3	31.8	61.3	29.1	32.7	38.7	37.7	28.1	44.4	44.2	29.3
標準偏差	5.0	6.6	6.6	6.0	4.1	7.2	11.2	41	15.1	2.6	9.5	4.6	12.6	5.6	7.8	
最大	45	53	59	47	46	55	67	96	65	55	46	68	47	96	61	47
最小	17	22	24	12	26	13	13	35	15	12	33	13	12	31	36	10
漁期	ハマグリ最高(㎜)															
	C212	C245	C266-1	C266-2	C266-3	C266-4	騰文計	平安計	A026	A029A	A029B	A037B	A038	A040-1	A040-4	A042
持続	EⅢ	持1	持1	持1	持1	持1	平安	#1	EⅢ	EⅢ	EⅢ	EⅢ	EⅢ	EⅣ	EⅣ	平安
持期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~10	10	3	3	0	2	3	50	0	5	0	0	4	0	4	6	0
~20	3	0	4	2	4	5	62	0	80	2	3	26	0	8	5	0
~25	0	1	1	0	0	0	248	0	158	12	7	52	6	9	11	0
~30	0	0	0	0	0	0	569	0	20	16	25	4	18	20	12	1
~35	0	0	2	0	0	7	303	10	7	16	30	4	5	8	10	2
~40	1	0	5	9	15	6	197	14	9	3	6	2	1	0	3	4
~45	0	0	12	9	14	4	133	8	1	1	3	0	0	1	2	2
~50	0	0	2	4	3	1	43	9	0	0	2	0	0	0	0	7
~55	0	0	0	2	2	0	14	5	0	0	1	0	0	0	1	16
~60	0	0	0	0	0	0	5	8	0	0	0	0	0	0	0	7
~65	0	0	0	1	1	0	5	14	0	0	0	0	0	0	0	1
~70	0	0	0	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0
~75	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1
~80	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
~85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~100	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
標本数	16	4	29	27	41	26	1634	83	260	50	77	92	31	50	50	41
平均	14.8	16.0	34.5	41.3	38.6	31.3	30.8	52.8	22.8	28.9	30.9	21.9	28.2	25.1	26.7	49.9
標準偏差	7.0	3.4	11.3	8.9	10.0	11.1	8.1	14.5	4.7	5.2	6.1	4.8	3.4	6.3	8.8	8.2
最大	39	21	46	62	63	50	68	98	44	44	51	38	40	44	55	72
最小	7	14	14	17	14	14	7	31	14	15	18	11	21	12	12	39
漁期	ハマグリ最高(㎜)															
	A057	A058	A063	A064	A067	C045	C076	C098	C212	C245	C266-1	C266-2	C266-3	C266-4	騰文計	平安計
持続	EⅢ	EⅣ	EⅣ	EⅣ	持1	平安	EⅢ	EⅢ	EⅣ	持1	持1	持1	持1	持1	持1	平安
持期	0	0	0	0	1	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	3
~5	0	0	0	0	0	0	0	0	12	9	2	5	2	2	2	64
~10	1	0	0	3	0	0	0	0	7	0	1	3	0	4	2	162
~20	5	1	0	2	33	0	0	0	7	0	1	3	0	4	2	571
~25	130	0	0	2	146	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0
~30	86	2	4	16	91	5	3	48	0	0	2	0	0	1	1	379
~35	5	6	40	32	20	19	18	15	1	0	15	13	23	4	273	21
~40	0	7	6	12	3	11	23	6	0	0	5	10	11	5	112	15
~45	0	3	0	2	1	8	4	0	0	0	1	2	2	6	29	8
~50	0	0	2	0	0	6	2	0	0	0	0	1	1	0	8	13
~55	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5	17
~60	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
~65	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
~70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
~75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
~80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~85	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~95	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
~100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
標本数	238	25	50	73	295	50	50	129	16	4	32	28	44	22	1616	91
平均	25.1	29.1	33.0	32.4	24.8	38.0	36.1	25.1	12.3	11.5	29.4	34.6	32.9	37.9	26.5	43.4
標準偏差	3.3	11.1	20.2	7.6	4.2	8.7	4.2	6.4	6.1	6.6	9.0	6.9	8.4	18.3	7.2	10.3
最大	55	43	37	57	41	75	49	40	33	17	41	49	52	97	97	75
最小	13	11	28	12	2	27	29	9	5	2	12	14	12	13	2	27

第7節 人骨について

松 村 博 文 (札幌医科大学)

中近世の火葬墓（C-409）から人骨が出土したので、ここに人類学的所見を記す。

（保存状態）

出土したのは右の上腕骨、左右の大腿骨である（写真図版93）。右上腕骨は近位端が失われている。右大腿骨は骨頭および遠位端が欠損し、左は骨体のみが保存されている。

（所 見）

上腕骨は三角筋粗面が良く発達している。骨体中央横径は21mm、矢状系は18mm、下端幅は50mmである。縄文人の下端幅の平均が男性57mm、女性が51mmであることから、この個体は女性とみてほぼまちがいない。大腿骨は、殿筋粗面および粗線が比較的良好に発達している。右の骨体中央横径は25mm、矢状径は27mmであった。

（結 語）

性別は女性と推定された。年齢は成人であること以外は不明である。